別記様式第２号（その１の１）

基　本　計　画　書

基本計画		
事項	記入欄	備考
計画の区分	学部の設置	※同一法人2大学（大阪医科大学、大阪薬科大学）の統合を目的とした学部設置認可申請 ※設置認可後に大学名称変更（大阪医科薬科大学）予定
フリガナ 設置者	ガッコウホウジン　オオサカイカヤッカダイガク 学校法人　大阪医科薬科大学	
フリガナ 大学の名称	オオサカイカダイガク 大阪医科大学（Osaka Medical College）	
大学本部の位置	大阪府高槻市大学町2番7号	
大学の目的	大学の理念に基づき、豊かな人間性と国際的視野を備えた次の人材を育成することを目的とする。 （1）人類共通の課題である健康の維持増進並びに疾病の予防と克服及び苦痛の軽減に努める人材 （2）変化する社会に対応し最新の知識と最良の技術を生涯学び続ける人材 （3）地域医療から世界に通じる研究開発にわたる領域で探究心を持って活躍する人材	
新設学部等の目的	(1) 生命の尊厳と人権の尊重を基本に、人々の生き方や価値観を尊重できる豊かな人間性を育成する。 (2) 多様な人材と共同し、薬学や医療の分野で国際的に通用する新しい知識や技術を創造できる能力を育成する。 (3) 科学的知識と倫理的判断に基づき、薬学に関する専門知識、情報や技術を効果的に活用した医療が実践できる能力を育成する。 (4) 薬剤師として地域社会の特性を学び、多職種と連携し協働してさまざまな健康課題に取り組むことができる能力を育成する。 (5) 薬剤師として専門能力と教育能力を自律的に探求し、継続的に発展させる基本的姿勢を育成する。	

新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
		年	人	年次 人	人		年　月 第　年次		
	薬学部 [Faculty of Pharmacy]								※大阪薬科大学の在学生を転学させる。
	薬学科 [Division of Pharmacy]	6	294	－	1764	学士（薬学） [Bachelor of Pharmacy]	令和3年4月 第1・2・3・4・5・6年次	大阪府高槻市奈佐原4-20-1	※大阪薬科大学の収容定員の変更により、収容定員は令和3年度：1,723人、令和4年度：1,740人となる。
	薬科学科 [Division of Pharmaceutical Sciences] **（募集停止中）**	4	(－)＊	－	(2)＊	学士（薬科学） [Bachelor of Pharmaceutical Sciences]	(薬科学科：令和3年4月 第4年次)		※薬科学科：大阪薬科大学において平成30年度より学生募集停止（設置後も学生募集停止を継続） ＊大阪薬科大学から転学する平成29年度以前の入学生のうち、4年次の学科配属において薬科学科を選択した者に対する収容定員として4年次：2名を設定する。 （設置後の入学生及び大阪薬科大学から転学する平成30年度以降の入学生は、全員が薬学科に所属）
	計		294	－	1766				

基　本　計　画

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	令和3年4月名称変更予定 大阪医科大学→大阪医科薬科大学 大阪薬科大学（廃止） 薬学部 薬学科（△294） 薬科学科（△　0）※平成30年4月学生募集停止中 ※令和3年4月学生募集停止（全学生転学により令和3年4月大学廃止の認可申請） 大阪薬科大学大学院（廃止） 薬学研究科 薬学専攻　博士課程　4年制課程（△　3） 薬科学専攻　博士前期課程　2年制課程（△　5） 薬科学専攻　博士後期課程　3年制課程（△　2） ※令和3年4月学生募集停止（全学生転学により令和3年4月大学院廃止の認可申請） 大阪医科大学大学院 薬学研究科（令和2年3月認可申請） 薬学専攻　博士課程　4年制課程（　3） 薬科学専攻　博士前期課程　2年制課程（　5） 薬科学専攻　博士後期課程　3年制課程（　2）	※同一法人2大学（大阪医科大学、大阪薬科大学）の統合を目的として、大阪医科大学へ薬学部／大学院薬学研究科を設置し、設置認可後、大学名称の変更手続きを行う。 ※大阪薬科大学の組織並びに校地並びに施設及び設備の同一性を保持する他、教育課程、教員組織、学生支援体制等の一切を承継する。 ※設置後、大阪薬科大学／大学院の廃止認可申請を行う。

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	
		講義	演習	実験・実習	計		
	薬学部　薬学科	112科目	9科目	18科目	139科目	187単位	
	薬学部　薬科学科（募集停止中）	100科目	5科目	17科目	122科目	136.5単位	

教員組織の概要		学部等の名称	専任教員等						兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
			人	人	人	人	人	人	人	
	新設分	薬学部　薬学科	26 (26)	21 (21)	8 (8)	21 (21)	76 (76)	2 (2)	47 (47)	※「新設分」は大阪薬科大学の教員組織を承継する。
		薬学部　薬科学科（募集停止中）	4 (4)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	106 (106)	
		計	30 (30)	22 (22)	10 (10)	21 (21)	83 (83)	2 (2)	153 (153)	
	既設分	医学部　医学科	40 (45)	39 (47)	66 (69)	245 (245)	390 (406)	0 (0)	256 (256)	
		看護学部　看護学科	13 (13)	10 (10)	6 (6)	9 (9)	38 (38)	0 (0)	66 (66)	
		計	53 (58)	49 (57)	72 (75)	254 (254)	428 (444)	0 (0)	322 (322)	
		合　計	83 (88)	71 (79)	82 (85)	275 (275)	511 (527)	2 (2)	475 (475)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	
		人	人	人	
	事務職員	292 (292)	38 (38)	330 (330)	大学全体
	技術職員	1285 (1285)	0 (0)	1285 (1285)	※大阪医科大学と大阪薬科大学の合計
	図書館専門職員	5 (5)	2 (2)	7 (7)	
	その他の職員	39 (39)	2 (2)	41 (41)	
	計	1,621 (1,621)	42 (42)	1,663 (1,663)	

基　本　計　画

	区　分	専　用	共　用	共用する他の学校等の専用	計	
校地等	校　舎　敷　地	114,348.65㎡	0㎡	0㎡	114,348.65㎡	大学全体
	運　動　場　用　地	37,981.91㎡	0㎡	0㎡	37,981.91㎡	※大阪医科大学と大阪薬科大学の合計
	小　　計	152,330.56㎡	0㎡	0㎡	152,330.56㎡	
	そ　の　他	8,641.61㎡	0㎡	0㎡	8,641.61㎡	
	合　　計	160,972.17㎡	0㎡	0㎡	160,972.17㎡	

校　舎	専　用	共　用	共用する他の学校等の専用	計	
	75,795.15㎡	0㎡	0㎡	75,795.15㎡	大学全体
	(75,795.15㎡)	(　　0㎡)	(　　0㎡)	(75,795.15㎡)	※大阪医科大学と大阪薬科大学の合計

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	42室	77室	47室	5室 (補助職員　0人)	1室 (補助職員　0人)	大学全体 ※大阪医科大学と大阪薬科大学の合計

専任教員研究室	新設学部等の名称	室　数	
	薬学部	82　室	複数人使用の共同研究室含む

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	薬学部	97,477[39,414] (92,477[38,914])	588[369] (618[393])	3,077[3,071] (3,655[2,225])	2,099 (1,924)	2,763 (2,763)	8,700 (8,700)	学部単位での特定不能なため、薬学部と薬学研究科の全体の数
	計	97,477[39,414] (92,477[38,914])	588[369] (618[393])	3,077[3,071] (3,655[2,225])	2,099 (1,924)	2,763 (2,763)	8,700 (8,700)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	4,553.97㎡	551	345,722	大学全体

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		
	5,175.4 ㎡	テニスコート8面	弓道場2面	※大阪医科大学と大阪薬科大学の合計

経費の見積り及び維持方法の概要	区　分	開設前年度(R2)	第１年次(R3)	第２年次(R4)	第３年次(R5)	第４年次(R6)	第５年次(R7)	第６年次(R8)	
経費の見積り	教員１人当り研究費等		1,660千円	1,660千円	1,660千円	1,660千円	1,660千円	1,660千円	薬学部/薬学研究科の計
	共同研究費等		40,000千円	40,000千円	40,000千円	40,000千円	40,000千円	40,000千円	
	図書購入費	87,650千円	87,650千円	87,650千円	87,650千円	87,650千円	87,650千円	87,650千円	図書購入費には電子ジャーナル・データベース整備費（運用コストを含む。）を含む。
	設備購入費	107,500千円	100,000千円	90,000千円	64,000千円	86,300千円	80,000千円	50,000千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
	2,200千円	1,800千円	1,800千円	1,800千円	1,800千円	1,800千円	上段：薬学科 下段：薬科学科（募集停止中）
	(2,200千円)	(1,800千円)	(1,800千円)	1,500千円	－千円	－千円	

学生納付金以外の維持方法の概要	手数料、補助金、資産運用収入等	

基　本　計　画

既設大学等の状況

大学の名称	大阪医科大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	人	人		倍			
医学部医学科	6	112	－	672	学士(医学)	0.99	昭和28年度	大阪府高槻市大学町2番7号	
医学研究科医科学専攻修士課程	2	4	－	4	修士(医科学)	－	令和2年度	同上	※令和2年度設置（入学定員4人）（医科学専攻修士課程）
医学研究科医学専攻博士課程	4	50	－	212	博士(医科学)	0.77	昭和34年度	同上	※令和2年度入学定員減（△4人）（医学専攻博士課程）
看護学部看護学科	4	85	－	340	学士(看護学)	1.03	平成22年度	大阪府高槻市八丁西町7番6号	
看護学研究科看護学専攻博士前期課程	2	8	－	16	修士(看護学)	0.68	平成26年度	同上	
看護学研究科看護学専攻博士後期課程	3	3	－	9	博士(看護学)	2.00	平成26年度	同上	
大学の名称	大阪薬科大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人		人		倍			
薬学部薬学科	6	294	－	1732	学士(薬学)	1.03	平成18年度	大阪府高槻市奈佐原4-20-1	
薬学部薬科学科	4	－	－	－	学士(薬科学)	－	平成18年度	同上	※平成30年度より学生募集停止（薬学部薬科学科）
薬学研究科薬学専攻博士課程	4	3	－	12	博士(薬学)	0.58	平成24年度	同上	
薬学研究科薬科学専攻博士前期課程	2	5	－	10	修士(薬科学)	0.05	平成22年度	同上	
薬学研究科薬科学専攻博士後期課程	3	2	－	9	博士(薬科学)	0.33	平成24年度	同上	※平成31年度入学定員減（△3人）（薬科学専攻博士後期課程）

附属施設の概要	名　　称：大阪医科大学附属病院 目　　的：社会の二-ズに応える安全で質の高い医療を提供するとともに良識ある人間性豊かな医療人を育成する。 所 在 地：大阪府高槻市大学町2番7号 設置年月：昭和5年5月15日 規 模 等：敷地 58,798.34㎡、建物 88,546.44㎡ 名　　称：薬用植物園 目　　的：薬用植物の教育研究及び市民の見学、研究者の交流 所 在 地：大阪府高槻市奈佐原4丁目20-1 設置年月：平成8年4月 規 模 等：土地4,995㎡	

（注）
1　共同学科等の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
2　「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとすること。
3　私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
4　大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
5　「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
6　空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教育科目	文学の世界	１・２前		1		○								兼1	
	歴史と社会	１・２前		1		○								兼1	
	地球環境論	１・２前		1		○								兼1	
	政治と社会	１・２前		1		○								兼1	
	基礎心理学	１・２前		1		○								兼1	
	法と社会	１・２前		1		○								兼1	
	経済の世界	１・２前		1		○								兼1	
	数理論理学	１・２前		1		○				1					
	社会分析の基礎	１・２後		1		○								兼1	
	人間と宗教	１・２後		1		○								兼1	
	文化人類学	１・２後		1		○								兼1	
	倫理と社会	１・２後		1		○			1						
	コーチング論	１・２後		1		○				1					
	スポーツ・運動２	１・２後		1				○		1					
	情報科学	１・２後		1		○								兼4	
	情報科学演習	１前	1				○		1						
	アカデミックスキル	１前	1				○		2	3	1	1		兼1	
	身体運動科学	１前	1			○				1					
	スポーツ・運動１	１前	1					○		1				兼3	共同
	物理学１	１前	1			○				1					
	物理学２	１後	1			○				1					
	化学	１前	2			○			1	3	3			兼1	※演習
	生物学	１前	1			○			1						
	数学１	１前	2			○				2					※演習
	数学２	１後	1			○				2					※演習
	数理統計学	２後	2			○				1					※演習
	英語リスニング１	１前	1			○			1		1			兼2	
	英語リスニング２	１後	1			○			1		1			兼2	
	英語リーディング１	１前	1			○								兼4	
	英語リーディング２	１後	1			○								兼4	
	英語スピーキング１	２前	1			○			1					兼3	
	英語スピーキング２	２後	1			○			1					兼3	
	英語ライティング１	２前	1			○					1			兼3	
	英語ライティング２	２後	1			○					1			兼3	
	ドイツ語１	１前		1		○			1						
	ドイツ語２	１後		1		○			1						
	中国語１	１前		1		○								兼1	
	中国語２	１後		1		○								兼1	
	ハングル１	１前		1		○								兼1	
	ハングル２	１後		1		○								兼1	
	異文化言語演習１	３前	1				○			1	1			兼7	
	異文化言語演習２	３後	1				○			1	1			兼7	
	医療心理学	２後	1			○								兼1	
	コミュニケーション	４前	1			○			1						※演習
	キャリアデザイン概論	４前	1			○			1					兼1	共同 ※演習
	小計（45科目）	－	27	21		－			8	9	5	1		兼38	

教　育　課　程　等　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎薬学科目	薬学入門	1前	1			○			5	1					オムニバス
	医工薬連環科学	2前		1		○			1					兼2	オムニバス メディア（一部）
	物理化学１	1後	1			○								兼1	
	物理化学２	2前	1			○								兼1	
	物理化学３	2後	1			○				1				兼1	オムニバス
	放射化学	3前	1			○					1				
	分析化学１	1後	1			○			1						
	分析化学２	2前	2			○				1					
	生物無機化学	2前	1			○			1						
	基礎有機化学	1前	1			○			2	2		5		兼1	共同(一部) ※演習
	有機化学１	1後	2			○			2	2		5		兼1	共同(一部) ※演習
	有機化学２	2前	2			○			2	2		5		兼1	共同(一部) ※演習
	有機化学３	2後	1			○			2	2		5		兼1	共同(一部) ※演習
	有機化学４	3前	2			○			2	2		5		兼1	共同(一部) ※演習
	有機スペクトル学演習	2後	1			○			2	2		5		兼1	共同(一部) ※演習
	基礎細胞生物学	1後	2			○				1					
	生化学１	1後	2			○								兼1	
	生化学２	2前	2			○								兼1	
	分子生物学	2後	2			○								兼1	
	微生物学	2前	2			○			1	1					オムニバス
	免疫学	3前	2			○					1				
	機能形態学１	1後	2			○			2						オムニバス
	機能形態学２	2前	2			○			1						
	小計（23科目）	－	34	1		－			9	7	2	5		兼8	
応用薬学科目	薬学英語	4前	1				○		1					兼4	
	応用分析学	3前	1			○				1					※演習
	応用放射化学	3後		1		○			1						
	生物物理化学	4前		1		○								兼1	
	薬用植物学	1前	1			○			1						
	薬用天然物化学	1後	2			○			1						
	生薬学	2前	1			○				1					
	医薬品化学１	3後	2			○			1						
	医薬品化学２	4前	1			○			1						
	精密有機合成化学	3後		1		○								兼1	
	衛生薬学１	2後	2			○			1	2					オムニバス
	衛生薬学２	3前	2			○				2					オムニバス
	衛生薬学３	3後	2			○			1						
	分子細胞生物学	3前	2			○								兼1	
	病原微生物学	3後	1			○			1						
	先端分子医科学	4前		1		○			2	1	1			兼1	オムニバス
	基礎漢方薬学	2後	2			○				1					
	物理薬剤学	3前	2			○			1	1					オムニバス
	医療統計学	4後	1			○				1					※演習
	小計（19科目）	－	23	4		－			8	7	1			兼7	

教　育　課　程　等　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
医療薬学科目	医療人マインド	1前	1			○			1	1					共同メディア
	専門職連携医療論	2後		1		○			1	1					共同
	生命医療倫理	3前	1			○			1						
	医療と法	3後	1			○				1					
	医療政策論	4後		1		○				1					
	多職種融合（連携）ゼミ	6前		1			○		1	1		1			共同
	早期体験学習	1通	1			○			2	4	1	2		兼1	共同 ※現場体験・演習
	医療薬学導入学習	1後	1					○	4	4	1	1			共同 ※講義
	薬理学１	2前	2			○			1						
	薬理学２	2後	2			○			1						
	薬理学３	3前	2			○			1						
	薬理学４	3後	2			○			1						
	アドバンスト薬理学	6前		1		○			2			2			オムニバス 共同(一部)
	生物薬剤学１	2後	1			○			1						
	生物薬剤学２	3前	1			○				1					
	薬物速度論	3後	2			○			1						
	製剤設計学	3後	2			○			1	1					オムニバス
	薬物治療学１	2前	2			○			1	1	1				オムニバス
	薬物治療学２	2後	2			○			1	2					オムニバス 共同(一部)
	薬物治療学３	3前	2			○			2	1					オムニバス
	薬物治療学４	3後	2			○				2	1				オムニバス
	薬物治療学５	4前	2			○				2					オムニバス
	アドバンスト薬物治療学	4後		1		○			3	3	1				オムニバス
	臨床化学	3後		1		○					1				
	臨床感染症学	4前	2			○			1					兼1	オムニバス
	医薬品安全性学	4前		1		○					1				
	漢方医学概論	6前		1		○				1					
	臨床薬学概論	3前	1			○			1						
	医薬品情報学	3後	1			○			1	1					共同 ※演習
	個別化医療	4前	1			○				3					オムニバス
	コミュニティファーマシー	4後	1			○			1						※演習
	臨床薬物動態学	4前	1			○			1						
	臨床導入学習１	4前	3					○	9	2	1	2	1		共同
	臨床導入学習２	4後	1					○	9	2	1	2	1		共同
	薬事関連法・制度	4前	2			○			1						※演習
	社会保障論	4前	1			○				1					
	薬学基礎演習	4後	1				○		5	4					オムニバス
	統合薬学演習	6前	2				○		11					兼1	共同
	薬学総合演習	6通	3				○		7	1				兼2	オムニバス
	小計（39科目）	－	49	8		－			23	13	4	5	1	兼5	

教　育　課　程　等　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
実習科目	分析化学実習	2前	1					○	2	2		1			共同
	物理化学実習	2後	1					○		1		1		兼3	共同
	基礎有機化学実習	1後	1					○	1	1		2		兼1	共同
	漢方・生薬学実習	2後	1					○	1	1		1			共同
	有機化学実習	3前	1					○	1	1		2		兼1	共同
	生物学実習	2前	1					○	1	1	1	2			共同
	生物科学実習	3前	1					○	1	1		2		兼3	共同
	衛生薬学・放射化学実習	3後	1					○		2	2	2			共同
	薬理学実習	3後	1					○	2		1	2	1		共同
	薬剤学実習	3後	1					○	3	2		2			共同
	病院実務実習	5通	10					○	8	2		1			共同
	薬局実務実習	5通	10					○	8	2		1			共同
	特別演習・実習	4～6前	14					○	19	16	4	21	2	兼7	
	小計（13科目）	－	44			－			24	17	6	21	2	兼7	
合計（139科目）		－	177	34		－			26	21	8	21	2	兼47	

学位又は称号	学士（薬学）	学位又は学科の分野	薬学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
本学部に6年以上在学し、必修科目177単位、選択必修科目2単位（第二外国語科目）、選択科目8単位以上（基礎教育科目：4単位以上、基礎薬学科目・応用薬学科目・医療薬学科目：2年次～4年次配当科目からは3単位以上、6年次配当科目からは1単位）の計187単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：55単位／年間）	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業時間	９０分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教育科目	文学の世界（教養）	1・2前		1		○								兼1	
	歴史と社会（教養）	1・2前		1		○								兼1	
	地球環境論（教養）	1・2前		1		○								兼1	
	政治と社会（教養）	1・2前		1		○								兼1	
	基礎心理学（教養）	1・2前		1		○								兼1	
	法と社会（教養）	1・2前		1		○								兼1	
	経済の世界（教養）	1・2前		1		○								兼1	
	社会分析の基礎（教養）	1・2前		1		○								兼1	
	人間と宗教（教養）	1・2後		1		○								兼1	
	文化人類学（教養）	1・2後		1		○								兼1	
	倫理と社会（教養）	1・2後		1		○								兼1	
	コーチング論（教養）	1・2後		1		○								兼1	
	スポーツ・運動実習２（教養）	1・2後		1				○						兼1	
	数理論理学（教養）	1・2後		1		○								兼1	
	数学１	1前	1			○								兼2	※演習
	数学２	1後	1			○								兼2	※演習
	数理統計学	2前	1.5			○								兼1	※演習
	物理学１	1前	1			○								兼1	
	物理学２	1後	1			○								兼1	
	英語リスニング１	1前	1			○								兼4	
	英語リスニング２	1後	1			○								兼4	
	英語リーディング１	1前	1			○								兼4	
	英語リーディング２	1後	1			○								兼4	
	英語スピーキング１	2前	1			○								兼4	
	英語スピーキング２	2後	1			○								兼4	
	英語ライティング１	2前	1			○								兼4	
	英語ライティング２	2後	1			○								兼4	
	ドイツ語１	1前		1		○								兼1	
	ドイツ語２	1後		1		○								兼1	
	フランス語１	1前		1		○								兼1	
	フランス語２	1後		1		○								兼1	
	中国語１	1前		1		○								兼1	
	中国語２	1後		1		○								兼1	
	ハングル１	1前		1		○								兼1	
	ハングル２	1後		1		○								兼1	
	異文化言語演習１	3前	1				○							兼9	
	異文化言語演習２	3後	1				○							兼9	
	心理社会	2後	1.5			○								兼1	
	コミュニケーション	3前	1.5			○								兼1	※演習
	医療と法	3後	1			○								兼1	
	身体運動科学	1前	1			○								兼1	
	スポーツ・運動実習１	1前	1					○						兼4	共同
	情報科学	1後		1		○								兼4	
	情報科学演習	1前	1				○							兼1	
	化学	1前	1			○					1			兼7	
	化学演習	1前	1				○				1			兼7	
	生物学	1前	1			○								兼1	
	医工薬連環科学	2前		1.5		○								兼3	オムニバス メディア（一部）
	基礎有機化学	1前	1			○			1					兼9	共同（一部） ※演習
	小計（49科目）	－	26.5	24.5		－			1		1			兼63	－

教　育　課　程　等　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎薬学科目	薬学入門	1前	1			○								兼6	オムニバス
	基礎細胞生物学	1後	1.5			○								兼1	
	有機化学１	1後	1.5			○			1					兼9	共同（一部）※演習
	有機化学２	2前	1.5			○			1					兼9	共同（一部）※演習
	有機化学３	2後	1.5			○			1					兼9	共同（一部）※演習
	有機化学４	3前	1.5			○			1					兼9	共同（一部）※演習
	有機スペクトル解析学	2後	1.5			○			1					兼9	共同（一部）※演習
	物理化学１	1後	1.5			○			1						
	物理化学２	2前	1.5			○			1						
	物理化学３	2後	1.5			○				1				兼1	オムニバス
	分析化学１	1後	1.5			○								兼1	
	分析化学２	2前	1.5			○								兼1	
	放射化学	3前	1.5			○								兼1	
	生化学１	1後	1.5			○					1				
	生化学２	2前	1.5			○			1						
	生化学３	2後	1.5			○			1						
	微生物学	2前	1.5			○								兼2	オムニバス
	機能形態学１	1後	1.5			○								兼2	オムニバス
	機能形態学２	2前	1.5			○								兼1	
	生物無機化学	2前	1.5			○								兼1	
	免疫学	3後	1.5			○								兼1	
	小計（21科目）	－	31			－			4	1	1			兼23	－
応用薬学科目	医療統計学	3後	1			○								兼1	※演習
	生薬学	1後	1.5			○								兼1	
	基礎漢方薬学	2前	1.5			○								兼1	
	薬用天然物化学１	2後	1.5			○								兼1	
	薬用天然物化学２	3前	1.5			○								兼1	
	衛生薬学１	2後	1.5			○								兼2	オムニバス
	衛生薬学２	3前	1.5			○								兼2	オムニバス
	衛生薬学３	3前	1.5			○								兼1	
	衛生薬学４	3後	1.5			○								兼1	
	病原微生物学	2後	1.5			○								兼1	
	分子細胞生物学	3前	1.5			○			1						
	ゲノム医科学	3前	1.5			○								兼1	
	バイオインフォマティクス	4前	1.5				○		1						
	応用分析学	3前	1.5			○								兼1	※演習
	応用放射化学	3後		1		○								兼1	
	生物物理化学	4前		1.5		○				1					
	分子設計学	4前	1.5			○				1					
	物理薬剤学	3前	1.5			○								兼2	オムニバス
	合成化学	3後	1.5			○			1						
	薬品合成化学	4前		1.5		○			1						
	医薬品化学	4前		1.5		○								兼1	
	小計（21科目）	－	25	5.5		－			3	1				兼13	－

教　育　課　程　等　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
医療薬学科目	早期体験学習１	1通	1					○			1			兼9	共同 ※現場体験・演習
	早期体験学習２	1後	0.5					○						兼10	共同 ※講義
	人体の構造と病態１	1前	1.5			○								兼3	オムニバス
	人体の構造と病態２	1後	1.5			○								兼3	オムニバス
	病態生化学	3後	1.5			○								兼1	
	薬理学１	2後	1.5			○								兼1	
	薬理学２	3前	1.5			○								兼1	
	薬理学３	3後	1.5			○								兼1	
	薬理学４	4前		1.5		○								兼1	
	製剤学	3後	1.5			○								兼2	オムニバス
	生物薬剤学１	2後	1.5			○								兼1	
	生物薬剤学２	3前	1.5			○								兼1	
	薬物動態解析学	3後	1.5			○								兼1	
	薬物治療学１	2前	1.5			○								兼3	オムニバス
	薬物治療学２	2後	1.5			○								兼3	オムニバス 共同(一部)
	薬物治療学３	3前	1.5			○								兼3	オムニバス
	薬物治療学４	3後	1.5			○								兼3	オムニバス
	医薬品情報学	3後	0.5			○								兼2	共同 ※演習
	小計（18科目）	－	23	1.5		－					1			兼22	－
実習	基礎薬学実習	1前	0.5					○	1		1			兼2	共同
	基礎有機化学実習	1後	1					○	1					兼4	共同
	有機化学実習	3前	1					○	1					兼4	共同
	漢方・生薬学実習	2後	0.5					○						兼3	共同
	分析化学実習	2前	1					○						兼5	共同
	物理・放射化学実習	2後	1					○		1				兼3	共同
	生物学実習	2前	1					○						兼5	共同
	生物科学実習	3前	1					○	2		1			兼4	共同
	衛生薬学実習	3後	1					○						兼5	共同
	薬理学実習	3後	1					○						兼6	共同
	薬剤学実習	3後	1					○						兼7	共同
	特別演習・実習（前期）	4前	5					○	4	1	2			兼51	
	特別演習・実習（後期）	4後	6					○	4	1	2			兼51	
	小計（13科目）	－	21			－			4	1	2			兼54	－
合計（122科目）		－	126.5	31.5		－			4	1	2			兼106	－

学位又は称号	学士（薬科学）	学位又は学科の分野	薬学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
本学に４年以上在学し、必修科目126.5単位、選択必修科目2単位（第二外国語後科目）、選択科目8単位以上（基礎教育科目：5単位以上、基礎教育科目以外：3単位以上）の計136.5単位を修得すること。	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	文学の世界	外国の文学・言語に興味を持ち、それらを学ぶことで異文化理解を深め、異文化との自国の文化を比較することで自国の文化を客観的に眺める視点を獲得することを目的とする。講義では、イギリス国民の歴史と社会の発展に密接な関係があるイギリス文学への理解を深め、イギリス文学の代表的文学作品を読み、イギリス文学の歴史的流れをつかむ。また、作品の背景にある思想・文化に目を向け、小説・劇・詩など作品別に形態やその特徴についても学び、イギリス文学全体を概観することをもってイギリスを取り巻く社会と文化の変化を学習する。	
	歴史と社会	日本近代について基本的な知識を養うとともに、疾病や薬品、薬学など高校までの学習とは異なる切り口から歴史をみることを目的とする。講義では、日本近代史の流れ、近世と近代、公娼制度と梅毒、植民地樺太と化学工業、近代日本と外交、第一次大戦と製薬業、大阪における製薬業の展開について学習する。	
	地球環境論	環境問題についての一般的な原因と影響を把握するとともに、人間と地球環境について、19世紀以降大きな影響を与えてきた「都市」の視点から二者の関係から考察する視点を養い、解決する方策について考えるための基礎的な知識と分析力を身に付けることを目的とする。講義では、地球温暖化、生物多様化、森林と緑地・水系と環境、都市と環境問題、エネルギー問題、市民と環境・持続可能な発展について学習する。	
	政治と社会	政治においての政策がどのように設定され、政府や国会において立案・決定されたのか、最近の動向や事例を紹介する。そして、政治過程論や政治行動論などの政治学の手法を用いて理論的・実証的に分析する。実際の事例やトピックスを題材に政治学の理論を用いた分析方法を学ぶことにより、受講生が政治学の視点から日本政治の政策過程、形成過程が理解できるようにする。	
	基礎心理学	心理学の知識をふまえて、自分自身の身の回りの出来事や日常生活について振り返り、社会の中で生きる人について考えることを目的とする。心理学の各分野（知覚・臨床・行動・認知・発達・教育・社会）の基礎的な理論について、事例とともに説明し、心理学の基礎を理解させ自らの日常生活や人間について捉え直すことができるようにする。	
	法と社会	近代法の基本的な考え方を理解し、現在の私たちの社会の法制度についての基礎的知識を習得することを目的とする。具体的には、近代法の基本構造と成り立ちなどついて概観したうえで、私たちの生活と密接な関係のある三つの法―憲法・刑法・民法―について、身近なニュースや問題を題材として紹介しながら、学習する。	
	経済の世界	市場と政府の関係を中心に、実際の経済政策に影響を与える様々な要因を検討する。特に、経済学の考え方と政治学の考え方とを比較することで、経済の世界をより立体的に理解することを授業の目的とする。講義では、経済学の基礎的な知識を身に付けるだけではなく、ディスカッションを通じて、社会に出たときに、薬剤師として必要な能力を身に付けるということを意識させる。	
	数理論理学	人文科学と自然科学の交差領域である論理学を通じて物事を多角的にみる能力を養い、医療・研究の現場や現代社会生活に必要不可欠な論理性を修得させることを目的とする。講義では、論理学の代表的な分野である数理論理学の初歩の学習を通して、論理的思考に関する知識と技能について学習する。	
	社会分析の基礎	意識せずに生活している現代社会の様々な社会現象を捉え直し、単なる常識としてではなく、社会学という学問の視点から理解・整理できるようにし、社会現象だけでなく自らを反省的に捉え直し論理的に分析する能力を身に付けさせる。講義では、目の前の社会現象の背後に控えている社会構造やその機能を明らかにするため、身近なテーマをとりあげ、日常的な常識から離れた視点を手に入れ、社会を見直すことについて学習する。	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	人間と宗教	非科学的とされる宗教の「物語」が、生老病死に関しては依然として説得力を持つものとして、その機能が失われてはおらず、医療に携わる者にとって宗教的思考や心性を理解することは、一つの「素養」である。不合理なものと片づけるのではなく、人々が宗教に意味を見出し、生きる糧を得ているという現実に対する理解を深めることを目的とする。また、講義を通じ、日本人の宗教意識がどのように形成され現在に至っているのかを理解すると同時に、さまざまな宗教の考え方を知ることで、自らの宗教観を問い直すことを目標とする。	
	文化人類学	様々な文化・社会における多様なものの見方・考え方・価値観、これらを形成する環境・文化・社会の力、多文化共生社会における文化・社会的状況について理解し、それら状況の対処や取り組みへの姿勢を養うことを目的とする。講義では、文化人類学の方法と理論、成果を学び、様々な文化でのものの見方や考え方を学ぶことを通して、私たちのものの考え方や見方について相対化する。その上で、異文化をルーツに持つ人々との交流・交渉・共存のあり方についての視点や方法、考え方を養う。	
	倫理と社会	倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身に付けて、医療の担い手としての感性を養う。また、生涯にわたって自ら学ぶことの必要性・重要性を理解し、人の行動や考え方、社会の仕組みを理解し、人・社会と薬剤師の関わりを認識させることを目的とする。講義では、この社会で最も弱い立場にいる「子ども」に注目して、子どもたち一人ひとりの“well-being”（健康で、幸せであること）について話しあう 。取りあげるテーマは、児童遺棄・虐待、生殖補助医療である。「良い社会」とはどんな社会なのか、そうした社会の実現のためには、医療人としてどう行動すべなのかを考えて、自らの新たな役割と可能性を発見させる。	
	コーチング論	人間関係を充実させていくためのパーソナリティーやコミュニケーション能力などの向上を図ることを目的とする。講義では、選手の目標達成や競技パフォーマンス向上に貢献するため実際の指導者による手法等を用い、優れたパーソナリティーやコミュニケーション能力など幅広い分野における見識について学習する。	
	スポーツ・運動２	基礎体力向上、行われる種目の技能向上及びコミュニケーション能力向上を目的する。授業では、スポーツ・運動実習１で経験していない種目（ジョギング、卓球、バドミントン、ハンドボール、カヌー、スキー等）を経験しながら、身体を定期的に動かすことの大切さ、身体の不活動がいかに健康度を低下させているかについて学習する。	
	情報科学	近年の情報処理技術の進歩は目覚ましく、薬学分野においてもコンピュータリテラシーの修得が不可欠なものとなっていることを踏まえ、単にコンピュータの利用方法を覚えるだけでなく、取り扱うことのできる情報についてネットワークやデータベース技術などの知識を背景に、情報を取得／整理／分析／発信して問題解決のセンスを養うこと目的とする。講義では、情報科学において薬学系の学生が関係する分野からテーマを選びその技術内容の解説と事例紹介を行い、受講者が情報科学の全体像を把握させるとともに個別の技術の概要について興味をもって学べるよう具体例を示しながら進める。	
	情報科学演習	急速に進展する情報社会の中でコンピュータを利用した学習を進めていく上で不可欠な情報社会・情報科学に関する知識と技能を修得させることを目的とする。演習では、一人に一台の統一した環境下でWindowsパソコンと関連機器を利用した個別演習とグループワークを行い、情報社会への参画と情報倫理と情報セキュリティ、人工知能(AI)とデータ科学、クラウドコンピューティングと情報検索、アカデミックライティングを実現する構造的文書作成、化学構造式描画方法、学術活動に必要なデータ処理と分析、説明技術としてのプレゼンテーション、学術活動のための情報活用について学習する。	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	アカデミックスキル	決められたカリキュラム内の知識を身に付け、それ以外の知識まで調べる姿勢、その知識を活かして問題を発見・解決する手法、他者との協調的態度など、より積極的・主体的で多様な学びに対応するための基礎的姿勢やスキルを概観・修得させることを目的とする。この授業は個人ワーク・グループワーク・クラスシェアなど、アクティブラーニング型授業を中心に進めため、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。ディスカッション、ロジカルライティング、社会で求められる力・態度、クリティカルシングループワーク・調査、課題に対するプレゼンテーションについて学習する。	
	身体運動科学	身体活動が著しく不足することが様々な生活習慣病の発症を助長していることを受け、運動・スポーツの生理学的基礎理論について修得させることを目的とする。講義では、運動・スポーツと健康の保持増進、生活習慣病の予防効果との関係、その具体的な運動方法、子供の発育発達とスポーツ・運動の影響、生活習慣病予防のための運動、介護予防に及ぼす運動・スポーツの有効性について学習する。	
	スポーツ・運動１	基礎体力向上、行われる種目の技能向上及びコミュニケーション能力向上を目的する。授業では様々な種目（テニス、バスケットボール、エアロビクス、ソフトボール、ウォーキング等）を経験しながら、身体を定期的に動かすことの大切さ、身体の不活動がいかに健康度を低下させているかについて学習する。	共同
	物理学１	薬学を学ぶ上で必要な物理学の諸概念を理解し、物質及び物体間の相互作用などに関する基本的知識を修得を目的とする。講義では、力学分野での身の回りの自然現象を取り上げ、巨視的な視点での物理法則を学習し、電磁気学の導入を行う。また、物理学２での微視的視点（原子や分子）で自然を理解するための素地を作る。	
	物理学２	薬学を学ぶ上で必要な物理学の諸概念を理解し、物質及び物体間の相互作用などに関する基本的知識を修得を目的とする。講義では、波動と前期量子論の分野を学習し、原子や分子の世界を理解するための素地を作る。	
	化学	化学の基礎知識をしっかり身に付け、さらに、大学における化学系専門科目を学ぶうえで必要不可欠なより高度な知識の修得に向けた高校の化学と大学における化学系専門科目との橋渡しを目的とする。講義では、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。化学結合、分子軌道、分子の極性・分子間力、単位・有効数字、物質量と化学量論、溶液と濃度、酸と塩基、化学平衡、電離平衡、溶液のpH、溶解度積・溶解平衡、酸化と還元について学習する。	講義26時間 演習4時間
	生物学	薬学を学ぶ上で必要な生物学の基礎力を身に付けるために、細胞、組織、器官、個体レベルでの生命現象に関する基本的知識の修得を目的とする。講義では、薬学準備科目ということを踏まえ、高校で生物を履修していない学生にも理解できるように基本的な内容を分かりやすく解説するものとし、多細胞生物の成り立ち、細胞・細胞小器官の構造と機能、生命体を構成する物質、遺伝子の構造と機能、生体とエネルギーについて学習する。	
	数学１	薬学を学ぶ上で基礎となる数学に関する基本的知識を習得し、それらを薬学領域で応用するための基本的技能を身に付けることを目的とする。講義では、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。初等関数、逆関数、関数の極限・連続関数・中間値の定理、微分の諸定義と基本的な性質、合成関数・逆関数・媒体変数表示の微分法、高階微分の定義・ライプニッツの公式、関数の増減と極地・極性の凹凸と変曲点、平均値の定理、ロピタルの定理、テーラー展開・関数の多項式近似、多変数関数の定義・極限・連続性、偏微分の諸定義と計算、全微分、合成関数・陰関数の偏微分、多変数関数の応用について学習する。	講義20時間 演習10時間
	数学２	薬学を学ぶ上で基礎となる数学に関する基本的知識を習得し、それらを薬学領域で応用するための基本的技能を身に付けることを目的とする。講義では、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。不定積分の基本的性質、様々な関するの不定積分、定積分の定義と基本定理、広義の積分、定積分の応用、微分方程式の諸定義、1階微分方程式、医療分野への微分方程式の応用について学習する。	講義10時間 演習6時間

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	数理統計学	薬学を学ぶ上で基礎となる統計学に関する基本的知識を習得し、それらを薬学領域で応用するための基本的技能を身に付けることを目的とする。講義では、ベイズの定理・確率変数、離散的な確率変数の期待値・二項分布、連続的な確率変数の期待値、正規分布、二変量の確率分布、標本調査・標本分布、様々な確率分布、推定量、区間推定・母平均の区間推定、仮説検定、t検定・母比率の仮説検定、二標本問題の仮定検定、公式を利用した統計的処理について学習する。	講義20時間 演習10時間
	英語リスニング１	英語音声の基礎を学び、正確に聞き取りができ、また発音もできるようになることを目的とする。講義では、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。様々なジャンルの英語を聞くことを通してリスニング力を高めるとともに、医療・薬学系の専門英語語彙を学び、発音が難しい単語を正しく読むことについて学習する。	
	英語リスニング２	英語音声の基礎を学び、シャドウイングやディクテーションなどを通してリスニング力を高めることを目的とする。講義では、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。様々なジャンルの英語を聞くことを通してリスニング力を高めるとともに、医療・薬学系の専門英語語彙を学び、発音が難しい単語を正しく読むことについて学習する。	
	英語リーディング１	英語読解力の向上と物事を多角的に見る能力を養うことを目的とする。講義では、教育効果を高めるため、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。世界に誇る西日本の「ものづくり」企業12社の知られざる成功の軌跡と、多様な商品開発のプロセスについて平均600語で書かれた英文を読むことにより学習する。	
	英語リーディング２	英語読解力の向上と物事を多角的に見る能力を養うことを目的とする。講義では、教育効果を高めるため、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。英語リーディング1に続き、AI、シェアリングエコノミー、LGBT、気候変動等、最先端の開発や現象と身の回りの事象との意外な繋がりについて平均500語以下の読み応えのある英文を読むことにより学習する。	
	英語スピーキング１	国際化に対応するため、英語による基本的なコミュニケーションができるようになることを目的とする。講義では、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。会話を中心に学習を進め英語のスピーキング力を高める訓練を行い、英会話に必要なあいづちやコメントの仕方、さらに関連質問を考える練習など、英会話を充実させる方策について学習するとともに、医療・薬学系の専門英語語彙用語を学び、文脈に沿った意味を理解でき、発音が難しい単語でも正しく読むことについて学習する。	
	英語スピーキング２	国際化に対応するため、英語による基本的なコミュニケーションができるようになることを目的とする。講義では、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。会話を中心に学習を進め英語のスピーキング力を高める訓練を行い、日本語から直訳する習慣をなくし、英語らしい構造や表現を用いて発信できる方策を学習するとともに、医療・薬学系の専門英語語彙用語を学び、文脈に沿った意味を理解でき、発音が難しい単語でも正しく読むことについて学習する。	
	英語ライティング１	日常生活やビジネスにおいて必要となる自然な英語表現を使って英作文が書けるようになることを目的とする。講義では、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。高校までに学習した英文法の基礎を確認するともに、英作文に応用できるようになるため、テキストの各ユニットでポイントとなる文法事項を復習し、基本編から応用編まで練習問題を解きながら自然な英語表現を書くことついて学習する。	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	英語ライティング２	科学・医療に関連する英語の代表的な用語、英語表現、さらに文章を英語で書けるようになることを目的とする。講義では、教育効果を高めるため、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。クラスメートをインタヴューすることで取材したことをまとめる短い英文を書くことから始め、その後、科学、医療に関連するものを題材に資料を読んで興味をもった点を述べる、記事を読んで要約し、感想を述べるなどのライティング活動を行う。最終的には、グループごとに記事をまとめて雑誌として発表を行わせる。	
	ドイツ語１	国際化・多様化する社会への対応にあたり、第二外国語としての基礎的なドイツ語の修得を目的とする。講義では、基礎文法の学習にあたり、ペアワークとグループワークによる発話練習を用いるものとし、読む、聞く、話すための総合的な基礎ドイツ語運用能力について学習する。	
	ドイツ語２	国際化・多様化する社会への対応にあたり、第二外国語としてのドイツ語能力の発展を目的とする。講義では、応用文法の講義と、ペアワークとグループワークによる発話練習を並行して授業を進め、読む、聞く、話すための総合的な応用ドイツ語運用能力について学習する。	
	中国語１	国際化・多様化する社会への対応にあたり、第二外国語としての基礎的な中国語の修得を目的とする。講義では、自己紹介、簡単な動作や身の回りの人・物について話せるようになることを目標とし、教材に沿って単語・文法項目を学習した後、グループに分かれ学んだことを使って実際に会話の練習を行う。	
	中国語２	国際化・多様化する社会への対応にあたり、第二外国語としての中国語能力の発展を目的とする。講義では、形容詞述語文、存在・所在を表す文法項目を新たに学習することで表現の幅をさらに広げる。またこれまでに学んだ基本的な名詞及び動詞述語文に、助動詞・接続詞・副詞などを付け加え、パターンに沿った発話だけでなく、自分の言いたいこと表現できるようになり、旅行時のみならず日本でも中国人旅行客とコミュニケーションをとる際に知っておくと役に立つ中国語の表現を実践的に習得する。	
	ハングル１	国際化・多様化する社会への対応にあたり、第二外国語としての基礎的な韓国語の修得を目的とする。講義では、母音・子音・バッチム等の基礎的要素を学び、これを用いた韓国語の読み書き、自己紹介、メール作成についてグループワークやICTを活用したアクティブラーニングの形で学習する。また、文化学習やスマートフォンのアプリ活用により自律学習に繋げる。	
	ハングル２	国際化・多様化する社会への対応にあたり、第二外国語としての韓国語能力の発展を目的とする。講義では、挨拶作法、趣味、食事、買い物など、日常生活に必要な会話力について学習する。また、文化体験やスマートフォンのアプリ活用により自律学習に繋げる。	
	異文化言語演習１	言語力を一層確実なものとし、実用に耐える読書力を涵養するとともに、異文化を正しく理解することを目的とする。授業はゼミ形式とし、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。ゼミにより異なるテーマ（価値観の多様性が文化・習慣の違いから生まれることの実例説明、言語・歴史・宗教などから外国と日本の文化の比較、人の行動や心理がいかなる要因によりどのように決定されるか、宇宙・自然現象と人とのかかわり、地球環境を守る重要性を自らの言葉で表現する）ことについて、英語の文献を精読し、担当者を決めてそれぞれ発表させ、受講者で検討修正の後、最終決定した日本語訳を解説させる。	
	異文化言語演習２	言語力を一層確実なものとし、実用に耐える読書力を涵養するとともに、異文化を正しく理解することを目的とする。授業はゼミ形式とし、教育効果を高めるため、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。ゼミにより異なるテーマ（価値観の多様性が文化・習慣の違いから生まれることの実例説明、言語・歴史・宗教などから外国と日本の文化の比較、人の行動や心理がいかなる要因によりどのように決定されるか、宇宙・自然現象と人とのかかわり、地球環境を守る重要性を自らの言葉で表現する）について、英語の文献を精読し、担当者を決めてそれぞれ発表させ、受講者で検討修正の後、最終決定した日本語訳を解説させる。	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	医療心理学	健康の保持・増進・回復を目的として行う保健行動に関わる心理社会的要因や文化的要因、生物・心理・社会モデルの観点から病いが患者に及ぼす心理的な影響を理解し、患者やその家族との基本的なコミュニケーションスキルを修得することを目的とする。講義では、「健康とは何か」その定義と現代医療の問題点、医療における行動科学の役割、健康行動の諸理論、人間理解の心理学、対人関係の心理学、症状と問題行動の形成、医療コミュニケーション、行動変容の心理支援、多職種連携とチーム医療についてについて学習する。	
	コミュニケーション	薬剤師に求められるファーマシューティカルコミュニケーションや、患者を理解し上でのコミュニケーションについて実践的な技術を習得することを目的とする。講義では、医療におけるコミュニケーションの重要性、言語・非言語コミュニケーション、コミュニケーションの基礎的スキル、多様性の受容と自他尊重のコミュニケーション、ファーマシューティカルコミュニケーション、患者理解、他職種とのコミュニケーションについて学習する。なお、グループ討議やロールプレイを取り入れるとともに、双方向学習ツールを用いる。	講義16時間 演習8時間
	キャリアデザイン概論	自己理解と職業理解を通して自分自身のキャリアデザインを考え、自立・自律した社会人としての意識・態度を身に付けることを目的とする。講義では、キャリアデザインの意義と薬学部卒業生の多くが進む業種と職種に関する概説の後、現在及び将来の薬剤師に求められる役割とその実践について討議を行わせる。この後、自己理解と職業理解に基づくキャリアデザインの具体例を学び、社会人として必要な能力の理解とその実践に向けた体験学習型演習を実施する。	共同 講義9時間 演習7時間
基礎薬学科目	薬学入門	（概要） 医療人・薬の専門家としての必要な基本的姿勢を身に付けるため、医療と社会における薬学・医学の役割や薬剤師の使命を理解することを目的とする。（オムニバス方式／計8回） （10　中村敏明／2回） 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について学習する。また、医療従事者が守るべき倫理規範、患者の基本的権利と自己決定権、医療事故、医療チーム内での薬剤師の役割、病気が患者に及ぼす心理的影響、患者や家族への配慮の大切さ等について学習する。 （18　永井純也／1回） 6年間で何を学ぶか、本学の教育方針、学習スケジュールについて理解させ、薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連付けを図る。 （41　角山香織／1回） 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケア、医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性、病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について学習する。 （17　阪本恭子／1回） 生命・医療倫理の諸原則を学び、薬を扱う医療人としてどのような心構えで人間・生命に向き合うべきかを考え、人間の尊厳と生命の尊厳の意味について学習する。 （16　藤森功／1回） 薬剤師として薬の作用メカニズムや副作用を理解するために、生物系薬学や生命科学などの基礎知識の習得が必須であること、生命科学における基礎研究の成果がいかに医薬品開発に重要であるかについて学習する。 （26　天満敬／2回） 医薬品の創製に関わる基礎研究の重要性を放射性医薬品創薬を例に学習する。	オムニバス

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎薬学科目	医工薬連環科学	（概要） 医療を医学・工学・薬学・看護学のそれぞれの立場から理解するために、これらの学問分野の融合によって発展しうる新しい学際領域に関する基本的知識の修得を目的とする。講義は関西大学（システム理工学部、化学生命工学部）、本学（医学部、薬学部、看護学部）の教員が分担で担当し、本学医学部・看護学部・関西大学が担当する講義は遠隔講義システムを用いて行う。本学の配信回から6コマ、関西大学の配信回から2コマは必ず受講した上で、残り4コマは自由に選択し、計12回を受講させる。 （オムニバス方式／計15回） （18　永井純也／5回） 薬のシードの発見から医薬品という製品ができるまでのプロセスを、生理活性分子の創製、薬理学、薬剤学・製剤学の順を追って学習する。 （82　寺崎文生／4回） 人の誕生から旅立ち（死）に至るまでに、医学や看護学が病気の治療、健康やQOL（Quality Of Life）の維持・向上にどのように関与しているかについて学習する。 （90　倉田純一／6回） 医療を支える福祉・介護技術、再生医療、医療機器や食品技術に関して順を追って学習する。	オムニバス メディア（一部）
	物理化学１	気体の分子運動に関連した性質、熱とエネルギーの関係について巨視的・微視的観点から知識を修得することを目的とする。講義では、SI単位系、実在気体、気体の分子運動論、熱容量、等温可逆過程・等温不可逆過程、熱力学第一法則、熱効率、熱力学第二法則、状態変化とエントロピーについて学習する。	
	物理化学２	自由エネルギー、状態変化、平衡、相変化、固体の物性についての知識を修得することを目的とする。講義では、ヘムホルツとギブスエネルギー、化学ポテンシャルと平衡、1成分系の状態変化、相率と水の状態図、相平衡、2成分型状態図、結晶の規則性とＸ線回折、結晶多形・相転移・水和物結晶について学習する。	
	物理化学３	（概要） 医薬品の体内での動きを理解するために、固体や溶液の性質や物質の反応速度などについての知識を修得することを目的とする。（オムニバス方式／計12回） （83　友尾幸司／8回） 化学結合、物質の溶解と拡散、溶解速度に影響を与える因子、様々な複合反応、反応速度に影響を与える因子、代表的な触媒反応、界面における平衡と吸着平衡、流動現象及び粘度、生体膜と生体内への物質輸送について学習する。 （28　尹康子／4回） 希薄溶液の性質、溶解度と溶解度に影響を与える因子、反応次数と速度定数について学習する。	オムニバス
	放射化学	医療分野において必要なラジオアイソトープ及び放射線に関する基礎知識の修得と適正な取扱いための知識の修得を目的とする。講義では、ラジオアイソトープ・放射線の歴史、放射壊変・放射平衡、放射線と物質の相互作用、励起作用を利用した放射線測定、その他の放射線の測定法と測定値の取り扱いと統計処理、放射線の生体への影響、放射線障害発生のメカニズム、放射線の遺伝的影響、放射線管理と安全取扱いについて学習する。	
	分析化学１	化学物質をその性質に基づいて分析できるようになるために、物質の定性、定量などに必要な基本的知識、特に水溶液中での物質の性質を理解するための各種の化学平衡に関する基礎的知識の修得を目的とする。講義では、分析化学の用語・国際単位・濃度の表記、有効数字・誤差・分析法のバリデーション、容量分析、酸・塩基の強さ、強酸・強塩基・弱酸・弱塩基の水溶液のｐH、塩の水溶液のｐH・緩衝液・酸塩基滴定、非水滴定、錯生成に影響する要因、キレート滴定、沈殿生成平衡と溶解度積、沈殿滴定、標準電極電位・電池の起電力、電極反応のネルンスト式、ネルンスト式を用いた電極電位・酸化還元滴定、分配平衡について学習する。	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎薬学科目	分析化学２	化学物質の性質に応じて、その定性、定量法を設定できるようになるために、機器を用いた物質の分析に必要な基礎的知識の修得を目的とする。講義では、機器分析法の種類や特徴、電磁波分析法（電磁波の性質及び物質との相互作用、吸光・発光・散乱等の現象、光と原子の外殻電子、分子の電子遷移・振動・回転の関係、原子吸光光度法・原子発光分析の原理・応用、紫外可視吸光度測定法の原理、蛍光光度法及び発光分析法の原理・応用）、分離分析法（クロマトグラフィーの分類・全般的な原理、液体クロマトグラフィーの原理・応用、クロマトグラフィーで用いられる各種パラメータ、ガスクロマトグラフィーの原理・応用、電気泳動法の原理・応用、キャピラリー電気泳動法の原理・応用）について学習する。	
	生物無機化学	基本的な無機及び有機化合物の構造、物性、反応性ならびに生命と金属の関わりを理解するために、電子配置、電子密度、化学結合の性質などに関する基本的知識の修得を目的とする。講義では、原子と分子の基本的性質、活性酸素と窒素酸化物の名称・構造・性質、代表的な典型元素と遷移元素、代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称・構造・性質、代表的な無機イオンの定性反応、生体必須元素の働きと欠乏症、代表的な錯体の名称・立体構造・基本的性質、金属を含有する生体機能分子、医薬品として用いられる代表的な無機化合物及び錯体について学習する。	
	基礎有機化学	（概要） 大学で必要不可欠な有機化学の基礎知識をしっかり身に付け、新入学生の実力から大学専門科目に進むために必要不可欠な知識の修得を目的とする。（共同（一部）／計12回） （35　和田俊一／10回） 高校の確認（炭化水素、酸素を含む有機化合物、芳香族化合物）を行ったの後、化学結合の成り立ち、基本的な化合物のルイス構造式、共役や共鳴の概念、分子軌道の基本概念及び軌道の混成、双極子間相互作用、IUPACの規則に従ったハロアルカン及びアルコール、シクロアルカン、アルケンとシクロアルケン、アルキンの命名、分子間力、酸と塩基の種類、酸・塩基反応における電子の動き、酸性度・塩基性度の強さについて学習する。 （35　和田俊一・80　宇佐美吉英・37　山田剛司・71　平田佳之・74　林淳祐／1回） 分子軌道と混成軌道に関する演習を行う。 （35　和田俊一・8　浦田秀仁・24　平野智也・62　米山弘樹・63　菊地崇・68　葉山登／1回） 酸と塩基の演習に関する演習を行う。	共同（一部） 講義20時間 演習4時間
	有機化学１	（概要） 有機化合物の立体配座・立体化学の概念を学び、求核置換、脱離反応を中心に基本的な有機化学反応について修得することを目的とする。（共同（一部）／計15回） （35　和田俊一／12回） アルカンの立体配座と配座解析、シクロアルカンの立体配座と相対的安定性、立体化学、キラル分子、ハロゲン化アルキルの求核置換反応・脱離反応、アルコールの脱水によるアルケンの合成、ジハロゲン化物の脱離反応によるアルキンの合成について学習する。 （35　和田俊一・80　宇佐美吉英・71　平田佳之・74　林淳祐／1回） 立体化学に関する演習を行う。 （35　和田俊一・24　平野智也・62　米山弘樹・63　菊地崇／1回） 求核置換反応に関する演習を行う。 （35　和田俊一・8　浦田秀仁・37　山田剛司・68　葉山登／1回） 脱離反応に関する演習を行う。	共同（一部） 講義24時間 演習6時間

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎薬学科目	有機化学２	（概要） 有機化合物の基本骨格となる脂肪族及び芳香族化合物の構造・性質・反応性などに関する基本的事項の修得、官能基を有する有機化合物の性質・反応性に関する基本的事項の修得を目的とする。（共同（一部）／計15回） （80　宇佐美吉英／12回） アルケンへの代表的な付加反応、アルケンの代表的な酸化・還元反応、アルキンの代表的な反応、炭素原子を含む反応中間体の構造と性質、代表的な官能基、、アルコール・フェノール類・エーテル類の基本的な性質と反応、アルデヒド類及びケトン類の基本的な性質と反応について学習する。 （80　宇佐美吉英・24　平野智也・37　山田剛司・63　菊地崇／1回） アルケンとアルキンの付加反応に関する演習を行う。 （80　宇佐美吉英・35　和田俊一・62　米山弘樹・71　平田佳之／1回） ラジカル反応、アルコール及びエーテルに関する演習を行う。 （80　宇佐美吉英・8　浦田秀仁・74　林淳祐・68　葉山登／1回） カルボン化合物からアルコールの合成に関する演習を行う。	共同（一部） 講義24時間 演習6時間
	有機化学３	（概要） 有機化合物、特に芳香族化合物とカルボニル化合物の性質を理解するために、その基本構造・化学的性質・反応性に関する基本的知識を修得することを目的とする。（共同（一部）／計12回） （8　浦田秀仁／9回） 共役と共鳴理論、有機化合物の性質と共鳴の関係、共役ジエンへのハロゲン化水素の付加反応の特徴、速度支配と熱力学支配、官能基が及ぼす電子効果、代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性、芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応機構、芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性・配向性などの置換基の効果、芳香族化合物の側鎖の反応性、アルデヒド及びケトンの性質と代表的な求核付加反応について学習する。 （8　浦田秀仁・37　山田剛司・74　林淳祐・68　葉山登／1回） 共役と共鳴理論、共役不飽和系に関する演習を行う。 （8　浦田秀仁・24　平野智也・35　和田俊一・62　米山弘樹／1回） 芳香族化合物に関する演習を行う。 （8　浦田秀仁・80　宇佐美吉英・63　菊地崇・71　平田佳之／1回） アルデヒド及びケトンに関する演習を行う。	共同（一部） 講義18時間 演習6時間
	有機化学４	（概要） 有機化合物、特にカルボニル化合物、アミン類及びフェノール類の性質を理解するために、その基本構造・化学的性質・反応性に関する基本的知識を修得することを目的とする。（共同（一部）／計15回） （8　浦田秀仁／12回） カルボン酸・カルボン酸誘導体の基本的性質と反応、ケトーエノール互変異性体とエノラートイオン、エノール及びエノラートイオンを経由する反応、代表的な炭素-炭素結合生成反応、アルドール反応・交差アルドール反応、クライゼン縮合と交差クライゼン縮合、α,β-不飽和カルボニル化合物への共役付加反応、含窒素化合物の塩基性度、アミンの代表的な合成法、アミンの基本的性質と反応、フェノール類の基本的な性質と酸性度、芳香族化合物の代表的な求核置換反応について学習する。 （8　浦田秀仁・80　宇佐美吉英・63　菊地崇・71　平田佳之／1回） カルボン酸とその誘導体に関する演習を行う。 （8　浦田秀仁・24　平野智也・74　林淳祐・68　葉山登／1回） エノラートイオンの化学に関する演習を行う。 （8　浦田秀仁・35　和田俊一・37　山田剛司・62　米山弘樹／1回） アミンとフェノールに関する演習を行う。	共同（一部） 講義24時間 演習6時間

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎薬学科目	有機スペクトル学演習	（概要） 代表的な機器分析法の原理とその応用に関する基本的事項、核磁気共鳴(NMR)・赤外吸収(IR)・質量分析スペクトルによる構造決定法の基本的事項を修得することを目的とする。（共同（一部）／計12回） （37　山田剛司／8回） 化学物質の決定に用いられる機器分析法の特徴、紫外可視吸光度測定法の原理及び応用例、赤外吸収（IR）スペクトル測定法の原理及び応用例、IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収、核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法の原理及び応用例、1H NMRスペクトルより得られる情報、有機化合物中の代表的プロトンの化学シフト値、1H NMRの積分値、1H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂する基本的な分裂様式、13C NMRスペクトルより得られる情報、質量分析法の原理及び応用例、ピークの種類、旋光度測定法の原理及び応用例について学習する。 （37　山田剛司・8　浦田秀仁・62　米山弘樹・63　菊地崇／1回） スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収、代表的な化合物の部分構造を1H NMRから決定する演習を行う。 （37　山田剛司・35　和田俊一・71　平田佳之・74　林淳祐／1回） スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収、代表的な化合物の部分構造を1H NMRから決定する演習を行う。 （37　山田剛司・80　宇佐美吉英・62　米山弘樹・68　葉山登／1回） 測定化合物に適したイオン化法の選択、代表的な化合物のマススペクトルの解析に関する演習を行う。 （37　山田剛司・24　平野智也・68　葉山登・74　林淳祐／1回） 代表的な機器分析法を用いた代表的な化合物の構造決定に関する演習を行う。	共同（一部） 講義16時間 演習8時間
	基礎細胞生物学	遺伝子、遺伝子の複製、遺伝子の発現とその調節に関する基本的知識の修得、また、細胞の増殖・分化・死の制御、生殖と発生、組織構築に関する基本的知識の修得を目的とする。講義では、染色体の構造・セントラルドグマ・ＲＮＡの種類と働き、ＤＮＡの複製の過程、ＤＮＡからＲＮＡへの転写、ＲＮＡのプロセシング、ＲＮＡからタンパク質への翻訳に関わる分子及び構造体の機能、ＲＮＡからタンパク質への翻訳過程、細胞の増殖、細胞死、正常細胞とがん細胞の違い、減数分裂、精子・卵の形成、受精の過程、発生・胚形成、細胞の分化機構、細胞集合による組織構築、個体と器官が形成される発生過程、形成体と誘導・誘導の連鎖、多細胞生物における細胞の多様性と幹細胞の性質、再生医療の原理・方法と手順・現状及び倫理的問題点、生体防御機構について学習する。	
	生化学１	細胞の成り立ちを分子レベルで理解するための構成分子の構造・性状・機能に関する基本的知識の修得、また、タンパク質・酵素について理解するための構造・性状についての基本的知識の修得を目的とする。講義では、水の構造・性質・非共有結合性相互作用、水のイオン化・pH・酸塩基・pKaの関係、アミノ酸の構造に基づいた性質・ペプチド結合、タンパク質の分離・精製・分子量測定・アミノ酸配列決定法、タンパク質の構造の特徴・高次構造の決定法の特徴、タンパク質のドメイン構造・変性・再生・フォールディング、代表的なタンパク質の構造・機能、酵素反応の特性・様式、酵素反応速度論、酵素の阻害様式・酵素活性の調節機構、ビタミンの補酵素としての役割、単糖と二糖の種類・構造・性質・役割、代表的な多糖（複合多糖）の構造と役割、脂質の分類・構造の特徴・性質・役割、生体膜の構造の特徴・性質・役割、膜輸送を担うタンパク質の構造の特徴・性質・役割について学習する。	
	生化学２	生命活動が生体エネルギーにより支えられていることを理解するための食物成分からのエネルギーの産生、糖質・脂質・タンパク質の代謝に関する基本的知識の修得を目的とする。講義では、エネルギー代謝の概要、ギブズエネルギー、熱力学関数を用いた自発的な変化の方向と程度、ギブズエネルギーと平衡定数の関係、共役反応の原理、ATP以外の高エネルギー化合物、起電力とギブズエネルギーの関係、電極電位、解糖系及び乳酸の生成、アルコール発酵・乳酸発酵の生理的役割、糖新生、ペントースリン酸回路の生理的役割、グリコーゲンの代謝、血糖の調節機構、クエン酸回路、エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割、電子伝達系とATP合成酵素、ATP産生阻害物質の阻害機構、脂肪酸の生合成とβ酸化、脂肪酸の生合成とβ酸化、リン脂質の生合成、コレステロールの生合成と代謝、血漿リポタンパク質の種類・構造・機能、余剰のエネルギーを蓄える仕組み、飢餓状態のエネルギー代謝、アミノ酸分子中の炭素及び窒素の代謝、ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸の種類やエネルギー変換経路、ヌクレオチドと核酸の種類・構造・性質、ヌクレオチドの生合成と分解について学習する。	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎薬学科目	分子生物学	生命情報を担う遺伝子の複製・発現とそれらの制御に関する基本的事項の修得を目的とする。講義では、遺伝情報・DNA・ゲノム・染色体の構造と遺伝子の構造、DNAの複製、RNAの種類と機能・DNAからRNAへの転写の過程、RNAのプロセシング、RNAからタンパク質への翻訳の過程、転写因子による転写制御、エピジェネティックな遺伝子発現制御とRNA干渉、遺伝子の変異とDNA損傷、DNAの修復・DNAの組換え、遺伝子進化・遺伝子ファミリー、遺伝のしくみと遺伝子多型、遺伝疾患、遺伝子工学技術、遺伝子組換えと遺伝子編集技術・遺伝子改変動物・遺伝子治療、遺伝子検査と個別化医療の原理について学習する。	
	微生物学	（概要） 微生物の分類・構造・生活環などに関する基本的事項の修得を目的とする。（オムニバス方式／計15回） （19　駒野淳／11回） 原核生物・真核生物・ウイルスの特徴、細菌の分類や性質、薬剤耐性菌及び薬剤耐性化機構、ウイルスの構造・分類・増殖機構・代表的なウイルス、真菌の性状・代表的な真菌、原虫及び蠕虫の性状・代表的な原虫及び蠕虫、滅菌・消毒・殺菌・静菌の概念、主な滅菌法及び消毒法、感染の成立と共生、日和見感染と院内感染、感染症法における感染症とその分類、代表的な感染症の治療法・予防対策について学習する。 （32　宮本勝城／4回） 講義では、細菌の構造と増殖機構、細菌の異化作用及び同化作用、細菌の遺伝子伝達、代表的な細菌及び細菌毒素について学習する。	オムニバス
	免疫学	免疫反応を組織・細胞・分子レベルで理解し生体の恒常性を理解するための免疫反応・免疫関連疾患についての基礎的知識の修得を目的とする。講義では、免疫現象の発見の歴史ならびに自然免疫と獲得免疫の特徴、免疫系を構成する細胞・組織・器官の種類と機能、自然免疫に関与するバリアーや細胞の働き・補体の役割、抗体分子の構造と機能、B細胞の発生と分化過程ならびに遺伝子再構成の分子機構、クラススイッチの分子機構、主要組織適合抗原の構造と抗原提示、T細胞の発生と分化過程及びその機能、病原微生物に対する反応とワクチン、アレルギーの分類と担当細胞及びその反応ならびに炎症反応機構、自己免疫疾患の病因と病態、免疫不全症の病因と病態、移植に伴う拒絶反応に対する免疫反応、免疫学的疾患に用いられる抗炎症・抗アレルギー・免疫抑制剤・抗体医薬について学習する。	
	機能形態学１	（概要） 生命体の成り立ちを個体・器官・細胞レベルで理解するための生命体の構造と機能調節などに関する基本的知識の修得を目的とする。（オムニバス方式／計15回） （7　大野行弘／6回） ヒトの身体を構成する器官・組織の種類・位置・機能、神経系・感覚器を介するホメオスタシスの調節機構、神経系の興奮と伝導の調節機構、シナプス伝達の調節機構、代表的な神経伝達物質、生理活性及び調節機構、末梢神経系について学習する。 （16　藤森功／9回） 胃・小腸・大腸・肝臓・膵臓・胆嚢について構成と機能、消化・吸収における神経系・ホルモンの役割、泌尿器・生殖器系の構成と機能、体液調節・尿精製機構、内分泌系（主要なホルモンの産生器官・生理活性・作用機構）、ホルモンによる生体機能の調節、血液・造血器系、リンパ管系と免疫について学習する。	オムニバス
	機能形態学２	生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するための生命体の構造と機能調節などに関する基本的知識の修得を目的とする。講義では、中枢神経、体性神経系の構成と機能、皮膚の構成と機能、感覚器系の構成と機能、肺、気管支などの呼吸器について構成と機能、心臓の構成と機能・血圧の調節機構、血管・リンパ系の構成と機能・血圧の調節機構、骨、筋肉系の構成と機能について学習する。	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
応用薬学科目	薬学英語	薬剤師として適切な情報を集め、情報発信を行える英語能力を養い、専門英語としてのコミュニケーション能力を高めることを目的とする。授業では、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。第一に、適切な英文ソースから必要な情報を入手し、内容をまとめる活動を行い、まとめた情報を適切に患者や医療従事者に提供できるトレーニングを行う。第二に、専門用語の意味を類推できるようにaffix（接頭辞・接尾辞）を学習する。なお、グループもしくはペアワークで授業を進め、協働学習することでより深い学びと学習項目の定着を目指す。また、卒業研究における外国文献講読に繋げるものとする。	
	応用分析学	医薬品分析や臨床分析の具体的な方法を設定できるようになるための電気化学分析及び生物学的分析法の基礎的事項を修得し、日本薬局方の具体的な試験法を理解することを目的とする。講義では、電気化学分析（電極電位及び電気化学的測定法、電気伝導率測定法、電気滴定の原理・応用）、生物学的分析法（臨床分析法、酵素的分析法の原理・応用、イムノアッセイの原理・応用、センサー、ドライケミストリーの原理・応用）について学習する。また、「日本薬局方」に採用されている定量法（容量分析法及び酸塩基滴定の原理・応用、沈殿滴定及びキレート滴定の原理・応用、酸化還元滴定の原理・応用）を中心に学習する。	講義16時間 演習8時間
	応用放射化学	放射線の現代医療における重要性とリスク、画像診断法並びに放射線療法の基礎の修得を目的とする。講義では、放射線のリスクと医療における放射線の必要性、ＭＲＩ、超音波検査、内視鏡検査、核医学（ＰＥＴ、ＳＰＥＣＴ)画像診断法、一般造影剤・画像診断、放射性医薬品とＰＥＴ診断・ＳＰＥＣＴ診断、癌の放射線療法について学習する。	
	生物物理化学	生体分子の機能及び医薬品の働きを立体的・動的にとらえるために、タンパク質、核酸及び脂質などの立体構造やそれらの相互作用に関する知識の修得を目的とする。講義では、アミノ酸の性質と構造、核酸・脂質・糖の性質と構造、生体膜の構造と膜透過機構、タンパク質の立体構造と生体分子間の相互作用力、タンパク質の分離・分析法、酵素の働き、分光学的手法（紫外可視吸光度法、蛍光法赤外吸収）の原理・応用、分光学的手法（旋光度、X線結晶解析、核磁気共鳴法）の原理・応用について学習する。	
	薬用植物学	薬として用いられる植物由来の生薬の基本的性質を理解するための基原、性状、含有成分などについての基礎知識の修得を目的とする。講義では、薬用植物の歴史・人との関わり、植物の主な内部形態、植物の外部形態、植物の分類・命名法、健胃・整腸・鎮咳・去痰・鎮吐・催吐・強心・利尿・解熱・鎮痛・消炎・鎮静・けいれんを鎮める胆汁分泌の促進・滋養強壮・血流の改善・外用及びその他を目的に使われる薬用植物の学名・薬用部位・生薬名・成分・薬効、法律によって取扱いが規制されている植物の特徴について学習する。なお、本学薬用植物園を利用し、薬用植物の形態観察を行う。	
	薬用天然物化学	医薬品資源としての天然生物活性物質を構造によって分類・整理するとともに、天然生物活性物質の利用に関する基本的事項の習得を目的とする。講義では、薬用天然物化学の歴史、植物成分の化学構造に基づく分類と生合成経路、代表的な糖類の種類・構造・性質・役割、脂質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質とその作用、芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質とその作用、法律によって取扱いが規制されている植物の特徴、テルペノイド・ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質とその作用、アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質とその作用、微生物由来の生物活性物質の化学構造に基づく分類、微生物由来の代表的な生物活性物質とその作用について学習する。なお、本学薬用植物園を利用し、薬用植物の形態観察を行う。	
	生薬学	生薬の基原、性状、含有成分、品質評価、生産と流通、歴史的背景についての基本的知識、さらに臨床で使用される漢方薬について理解するための漢方生薬の薬能や副作用についての知識の修得を目的とする。講義では、世界の伝統医学と生薬の歴史、植物の学名及び生薬の学名、日本薬局方収載の代表的な生薬の基原・薬用部位・薬効・成分・用途、副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬、生薬の薬能、生薬の同定と品質評価法、生薬の生産と流通、生薬生産に取り巻く環境問題について学習する。なお本学薬用植物園、武田薬品・京都薬用植物園を利用し、薬用植物の形態観察を行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
応用薬学科目	医薬品化学１	医薬品の生体内での作用を有機化学の視点で理解するとともに、医薬品及びその標的となる生体分子の構造と性質、生体内での反応に関する基本的事項の修得を目的とする。講義では、医薬品の創製の歴史及び開発のプロセス、医薬品化学の概要、医薬品と生体分子との相互作用、医薬品の構造とその物理化学的性質、構造に含まれる代表的な複素環の性質、医薬品の標的となる生体分子及びそれを構成する小分子の構造に基づく化学的性質、イオン・活性酸素種・リン又は硫黄を含む補酵素などの生体分子の構造と機能、医薬品及び異物の代謝反応、コレステロールなどの生体分子の生合成、脂肪酸分解などの生体内反応、ファーマコフォア・リピンスキー則・バイオアイソスターなどの医薬品に関する基本的な事項、プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の構造、受容体・酵素に作用する医薬品、不可逆的酵素阻害剤・基質アナログ・遷移状態アナログなどの医薬品に関する概念・開発戦略、カテコールアミン骨格を有する又はアドレナリン受容体を標的とする代表的な医薬品、アセチルコリンアナログ骨格を有する又はアセチルコリン受容体を標的とする代表的な医薬品、イオンチャネルに作用する医薬品、局所麻酔薬・筋弛緩薬となる代表的な医薬品、抗不安薬・抗てんかん薬の代表的な医薬品、統合失調症治療薬・抗うつ薬・パーキンソン病治療薬の代表的な医薬品、アルツハイマー型認知症治療薬・中枢神経興奮薬・オピオイドアナログの代表的な医薬品、ヒスタミン・セロトニン・プロスタグランジンの生合成、消化性潰瘍治療薬の代表的な医薬品、これらの医薬品それぞれの化学構造に基づく性質と作用について学習する。	
	医薬品化学２	医薬品の生体内での作用を有機化学の視点で理解するとともに、医薬品及びその標的となる生体分子の構造と性質、生体内での反応に関する基本的事項の修得を目的とする。講義では、非ステロイド系抗炎症薬の代表的な医薬品、抗アレルギー薬の代表的な医薬品、利尿薬・高血圧症治療薬・心不全治療薬の代表的な医薬品、抗不整脈薬・虚血性心疾患治療薬・抗血栓薬の代表的な医薬品、ペプチド又はペプチドアナログ構造を持つ代表的な医薬品、ステロイド又はステロイドアナログ構造を持つ代表的な医薬品、抗糖尿病薬・抗高脂血症薬などの代謝系疾患治療薬の代表的な医薬品、β-ラクタム系抗生物質などの抗菌剤の代表的の医薬品、抗ウイルス薬・抗真菌薬の代表的な医薬品、DNAと結合する医薬品、インターカレーター・DNAを切断する抗生物質などの抗悪性腫瘍薬の代表的な医薬品、リン酸化酵素阻害剤・免疫チェックポイント阻害剤などの抗悪性腫瘍薬の代表的な医薬品、これらの医薬品それぞれの化学構造に基づく性質と作用について学習する。	
	精密有機合成化学	医薬品を含む目的化合物を合成するために代表的な炭素骨格の構築法などに関する知識の修得を目的とする。講義では、代表的な炭素-炭素結合生成反応（アルドール反応、Wittig 反応、Michael 付加など）、Diels-Alder 反応、転位反応（Wagner-Meerwein転位、pinacol転位、Baeyer-Villiger酸化、シグマトロピー）を用いた代表的な炭素骨格の構築法、代表的な位置選択的反応とその機構・応用、代表的な立体選択的反応とその機構・応用について学習する。	
	衛生薬学１	（概要） 化学物質などの生体への有害作用を回避し、適正に使用できるようになるための化学物質の毒性などに関する基本的事項の修得、食生活が健康に与える影響を科学的に理解するための食品衛生に関する基本的事項の修得を目的とする。（オムニバス方式／計15回） （31　佐久間覚／7回） 代表的な有害化学物質の吸収・分布・代謝・排泄の基本的なプロセス、第Ⅰ相反応・第Ⅱ相反応・第Ⅲ相反応が関わる代謝・代謝的活性化、肝臓・腎臓・神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質、重金属・PCB・ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性・慢性毒性の特徴、電離放射線の生体への影響と防御法、発がん性物質などの代謝的活性化の機構とその反応機構、遺伝毒性試験（Ames試験など）の原理、発がんに至る過程（イニシエーション、プロモーションなど）、重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について学習する。 （47　長谷井友尋／2回） 代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）の中毒症状や作用器官とこれらの解毒処理法・試験法について学習する。 （25　奥平桂一郎／6回） 食中毒の原因となる代表的な自然毒とその原因物質・作用機構・症状の特徴、カビや化学物質による食品汚染とヒトの健康に及ぼす影響、炭水化物・タンパク質が変質する機構、油脂が変敗する機構、食品の変質を防ぐ方法（保存法）、食品成分由来の発がん性物質とその生成機構、代表的な食品添加物・その用途・それらの働き、食品衛生に関する法的規制について学習する。	オムニバス

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
応用薬学科目	衛生薬学２	（概要） 地球生態系や生活環境を保全・維持できるようになるための環境汚染物質などの成因・測定法・生体への影響・汚染防止・汚染除去などに関する基本的事項の修得、また、化学物質などの生体への有害作用を回避し、適正に使用できるようになるための化学物質の安全性評価と適正使用に関する基本的事項の修得を目的とする。（オムニバス方式／計15回） （31　佐久間覚／13回） 生態系の構成員とその特徴・相互関係、化学物質の環境内動態と人の健康への影響、四大公害・典型七公害、環境基本法の理念、室内環境を評価するための代表的な指標、室内環境と健康との関係、空気の成分、主な大気汚染物質とその測定原理・健康影響、主な大気汚染物質の発生源とその年次推移、大気汚染に影響する気象要因（逆転層など）、大気汚染を防止するための法規制、原水の種類・特徴、水の浄化法、水の塩素処理、水道水の水質基準とその測定原理、下水処理・排水処理の主な方法、富栄養化の原因・問題点とその対策、水質汚濁を防止するための法規制、水質汚濁の主な指標とその測定原理、非電離放射線・紫外線・赤外線の種類・特徴と生体に及ぼす影響、地球規模の環境問題の成因と人に与える影響、地球環境の保全に関する国際的な取組み、廃棄物の種類、廃棄物処理の問題点とその対策、マニフェスト制度、化管法について学習する。 （47　長谷井友尋／2回） 化学物質の毒性を評価するための主な試験法、毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係・閾値・無毒性量（NOAELなど）、化学物質の安全摂取量（1日許容摂取量など）、有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制（化審法）について学習する。	オムニバス
	衛生薬学３	人々の健康と疾病の現状及びその影響要因を把握するための保健統計と疫学に関する基本的事項の修得、また、健康を理解し疾病の予防に貢献できるようになるための生活習慣病・職業病などについての現状とその予防に関する基本的事項の修得、さらに、食生活が健康に与える影響を科学的に理解するための栄養と食品機能に関する基本的事項の修得を目的とする。講義では、健康と疾病の概念と疾病構造の変遷、疾病の予防、健康増進政策（健康日本21など）、人口統計の意義、人口動態と人口静態、疾病予防における疫学の役割、疫学の成因、疫学研究の種類と方法、要因対照研究・症例対照研究の方法の概要と相対危険度・寄与危険度・オッズ比、疫学データを解釈する上での注意点、栄養化学的な糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルの生理機能と生体における重要性、五大栄養素以外の食品成分の生理機能と生体における重要性、エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、食事摂取基準と日本における栄養摂取の現状、栄養素の過不足による主な疾病と疾病治療、特別用途食品と保健機能食品、特定保健用食品の主な用途と機能性成分、アレルギー物質を含む食品・遺伝子組換え食品、生活習慣病の種類とその動向、生活習慣病の代表的なリスク要因とその予防法、母子保健と新生児マススクリーニング、学校保健、代表的な労働災害・職業性疾病、労働衛生管理について学習する。	
	分子細胞生物学	細胞間コミュニケーション及び細胞内情報伝達の方法と役割、及び細胞周期と細胞分裂・細胞死に関する基本的事項の修得、さらに、生体の維持に関わる情報ネットワークを担う代表的な情報伝達物質の種類、作用発現機構に関する基本的事項の修得を目的とする。講義では、ホルモンやオータコイド・細胞増殖因子・サイトカインなどの生理活性分子の生成機構や分解機構、細胞表面受容体や細胞内受容体を介した細胞内シグナル伝達機構、Ｇタンパク質やプロテインキナーゼが関与する細胞内シグナル伝達経路、細胞内シグナル伝達におけるがん遺伝子とがん抑制遺伝子の働きについて学習する。	
	病原微生物学	病原微生物の性質、感染症の病態、診断、検査、予防、治療、疫学などに関する基本的知識の修得を目的とする。講義では、感染の成立・共生・日和見感染・院内感染、代表的な病原細菌・病原ウイルス・病原真菌・原虫・蠕虫、母子感染する代表的な疾患、代表的な感染症とその感染症法における位置付け・治療法・予防対策について学習する。	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
応用薬学科目	先端分子医科学	（概要） がんの分子標的治療薬、がんのゲノム解析・診断と個別化医療、免疫疾患・炎症性疾患の発症メカニズム、細菌・真菌やウイルス感染症の分子疫学、発症メカニズム、診断法、治療・予防法などに関する最先端の分子医科学的知見を理解して説明できるようになることを目的とする。（オムニバス方式／計8回） （79　福永理己郎／2回） プロテインキナーゼの構造・機能・活性化機構と分子標的治療薬の作用機序、がん原遺伝子・がん抑制遺伝子の変異とがん化との関、がんのゲノム解析・診断と個別化医療について学習する。 （30　坂口実／1回） 乳がんの遺伝学的性質（遺伝性乳がん、乳がん感受性遺伝子）、乳がんの薬物療法（内分泌療法、分子標的薬療法など）について学習する。 （16　藤森功／1回） 生体機能の制御における腸管免疫の果たす役割と、その異常により発症する疾患について学習する。 （54　土屋孝弘／1回） T細胞の制御を目的とした治療法の概要について学習する。 （19　駒野淳／3回） HIV感染症の病態や薬物療法に関する総合的な理解、まだ効果的なワクチンが作られていないHIV/AIDSをモデルとして安全で効果のあるワクチンを製造するための科学的基盤、遺伝子細胞治療とこれを支えるウイルス工学技術に関する総合的な理解について学習する。	オムニバス
	基礎漢方薬学	漢方薬の適用症や副作用などを覚えるだけではなく、漢方薬を構成している生薬の作用や役割を理解することによる「考え、応用できる漢方」の基礎知識の修得を目的とする。講義では、漢方の歴史、漢方と中医学の特徴、陰陽・虚実・寒熱・表裏・気血水・証など漢方の基本用語、漢方薬と西洋薬・民間薬・サプリメント・保健機能食品などとの相違、漢方医学における診断法・体質や病態の捉え方・治療法、現代医療における漢方薬の役割、漢方薬の剤形と特徴、日本薬局方収載の代表的な生薬の基原・薬用部位・薬効・成分・用途、副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬、漢方薬の薬効を構成生薬の薬能、配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類、漢方医学における診断法・体質や病態の捉え方・治療法、日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証・症状や疾患、現代医療における漢方薬の役割、漢方薬の副作用と使用上の注意点、日本薬局方に収載されていない頻用漢方処方の適応となる証・症状や疾患について学習する。	
	物理薬剤学	（概要） 薬物と製剤材料の性質を理解し、応用するためにそれらの物性に関する基本的知識の修得を目的とする。（オムニバス方式／計15回） （46　門田和紀／10回） 薬剤学・製剤学・物理薬剤学の概要と関連性、粉体の性質、エンタルピー・エントロピー・ギブスエネルギーと化学ポテンシャルの関係、熱重量測定法の原理、示差熱分析法・示差走査熱量測定法、界面の性質や代表的な界面活性剤の種類・性質、代表的な分散系とその性質、分散した粒子の安定性と分離現象、分散安定性を高める代表的な製剤的手法、注射により投与される製剤の特徴、流動と変形、高分子の構造と高分子溶液の性質、製剤分野で汎用される高分子の構造・物性、医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子、生物学的同等性、薬物の安定性や安定性に影響を及ぼす因子、反応速度と温度との関係、反応次数と速度定数、微分型速度式の積分型速度式への変換、代表的な反応次数の決定法、薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法について学習する。 （21　戸塚裕一／5回） 静電相互作、結晶や非晶質、無水物や水和物の性質、結晶構造と回折現象、Ｘ線結晶解析の原理・応用、粉末Ｘ線回折測定法の原理・利用法、希薄溶液の束一的性質、固形材料の溶解現象・溶解した物質の拡散・溶解速度、固形材料の溶解に影響を及ぼす因子、希薄溶液の束一的性質、固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法について学習する。	オムニバス

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
応用薬学科目	医療統計学	統計手法の正しい適用及び統計学による医療への展開に係る知識の修得を目的とする。講義では、臨床研究における基本的な統計量の意味と違い、代表的な分布、帰無仮説の概念及び検定と推定の違い、主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定とそれらの使い分け、2群間の差の検定・複数の群間の差の検定、統計解析時の注意点、臨床研究の代表的な手法と特徴・長所・短所・エビデンスレベル、EBMの基本概念と実践のプロセス、観察研究での主な疫学研究デザイン、ケースコントロール研究で用いられるオッズ比の算出、コホート研究で用いられる相対リスクの算出、主な回帰分析と相関係数の検定、介入研究の計画上の技法、介入研究の効果指標の違い、臨床研究におけるバイアス・交絡、優越性試験と非劣性試験の違い、メタアナリシスの概念、基本的な生存時間解析法について学習する。	講義10時間 演習6時間
医療薬学科目	医療人マインド	病院の機能と役割、医療に関わる専門職種の役割・機能を理解し、医療人としてふさわしい態度を身に付け、また、医療人としての自覚を持たせることを目的とする。講義は、本学医学部・看護学部と合同で実施し、看護師のやりがいと醍醐味、地域に根ざす大学病院の看護の働き、これからの医師と看護師・多職種の協働、日本の保健医療行政、医師のやりがいと醍醐味、病院組織での医療職の協働と医療人マインド、特定機能病院の役割と患者にやさしい病院、薬剤師のやりがいと醍醐味、薬剤師の役割と機能、多職種の協働、MSW（メディカルソーシャルワーカー）のやりがいと醍醐味、地域連携の意味と連携機関と職種、附属病院でのMSWとしての活動、高槻市の健康課題と取り組み、大学病院への期待、医師・看護師・薬剤師の役割・機能の討論、放射線技師・臨床検査技師のやりがいと醍醐味、放射線技師・臨床検査技師の仕事、リハビリテーション部の機能と役割、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のやりがいと醍醐味、栄養士のやりがいと醍醐味、栄養士としての患者・家族への栄養指導、医療事務職のやりがいと醍醐味について学習する。	共同 メディア
	専門職連携医療論	医療の発展及びチーム医療の歴史的背景について学び、チーム医療を担う一員として他の専門職種と協働できる基礎的能力を身に付け、さまざまな状況にある患者の立場を理解することを目的とする。講義は、本学医学部・看護学部と合同で実施し、チーム医療の歴史的変遷、チーム医療の精神、互いの専門職種を尊重した態度・コミュニケーション、患者の安全を守る仕組みと医師・看護師の意識と姿勢、インフォームドコンセント（IC）の意味、患者と家族へのＩＣをするときの重要な姿勢、患者と家族の理解、家族看護の基礎知識、ICに関連する家族への看護の視点、患者の病気の体験と医療者への期待、患者の薬害の体験と医療者への期待、安全な医療に取り組むための薬剤管理と医師・看護師との連携、薬剤師の新たな役割、薬理・薬剤への理解、薬害被害への国の取り組み、治験のあり方、仮想事例に基づく医療安全とチーム医療について学習する。	共同
	生命医療倫理	生命・医療に係る倫理観を体得し、医療の担い手としての感性を養うことを目的とする。また、患者・生活者・他の職種との対話を通じて相手の心理・立場・環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を開発し、発揮することを目的とする。講義は、グループディスカッションと並行して進め、生命医療倫理の原則とインフォームドコンセント、死の諸問題（脳死、臓器移植、安楽死、尊厳死）、誕生の諸問題（生殖補助医療、出生前診断）のについてドキュメンタリーなどの映像資料を用いで学習する。また、薬害の問題と予防策については、薬害被害者を招いて、講演いただく。その他、グループディスカッションやプレゼンテーションに主体的に参加させ、薬とひとをつなぐ医療人にふさわしい人間力を体得させる。	
	医療と法	薬事衛生・薬剤師業務に関する法令についてその概要と具体的内容を把握し、業務遂行にあたっての法令の重要性を認識することをもって、薬剤師としての任務を適正に遂行するとともに予見しうる法的問題の発生を防止するための知識を身に付けることを目的とする。講義では、薬剤師に関わる法令とその構成、薬剤師免許に関する薬剤師法の規定、医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義、医療提供体制に関する医療法の規定とその意義、薬剤師の刑事責任・民事責任、治験の意義と仕組み、個人情報の取扱いについて学習する。	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
医療薬学科目	医療政策論	医療人として働く環境決定に政策が大きな役割を果たしていることについて、具体的な概念・政策・論点を含めて理解することを目的とする。講義では、医療における市場の限界とリスク選択、逆選択など保険に関わる政治経済学的概念、医療における政府の役割と実際の政策、医療政策の形成・決定に関して（政府機構、医師会や薬剤師会その他関係団体、他国の事例）、医療支出の増大の状況とその背景、医療支出の増大に対する政策対応（財源調達と支出管理の二側面、他国の事例）について学習する。	
	多職種融合（連携）ゼミ	全人的・包括的医療を提供するために、医療安全や倫理的判断等に関して討議し、協働する各々の専門職としての役割と責任に関して理解を深め、医療安全や医療倫理に関する専門職と考え方や判断を明確にすることを目的とする。また、他の専門職者の役割を考え医療チームとしてそれぞの立場を尊重でき、チームメンバの様々な考えや意見を共有し、調整する。さらに、患者・家族によりよい医療を提供するために、チームの方針を提案できる能力の養成を目的とする。授業では、具体的な事例を元に、医・薬・看の混成メンバーがグループディスカッションにより課題解決を図る。	共同
	早期体験学習	薬学生として学習に対するモチベーションを高めるために早期体験学習を中心に薬剤師及び薬学卒業生の活躍する現場を体験し、さらに、患者・生活者本位の視点に立つ医療人として果たすべき役割を理解し、その重要性や課題を討議することを目的とする。この体験学習では、コンプライアンス研修、医療現場における薬剤師のマナー（倫理）や薬局薬剤師・病院薬剤師の業務と果たすべき役割についての導入講義を経て、小グループ単位で地域の総合病院、薬局、ドラッグストア―、製薬企業、介護施設等の見学を実施する。なお、見学前には施設体験の動機付けと目標設定についてグループディスカッションを行う。また、見学後には各薬剤師の役割や位置付け、現状での問題点などについてグループディスカッションを行った後、全体発表会を実施することで、それぞれの学びを共有する。	共同 講義12時間 現場体験4時間 演習8時間
	医療薬学導入学習	薬物治療に必要な情報を収集するための基本的技能や手技について学習し、さらに体験を通して身に付けることを目的とする。また、生命に係わる専門職となることを自覚し、それにふさわしい行動・態度をとることができるようになるために、人との共感的態度を身に付け、信頼関係を醸成し、さらに生涯にわたってそれらを向上させる習慣を身に付けることを目的とする。授業は、グループに分かれてローテーション形式で医療現場におけるさまざまな技術・手技等について順番に学ぶ。薬剤師としてのフィジカルアセスメント、神経診察、 血圧測定、持参薬の選別・確認、病院施設内におけるTDMの流れ、スパイロメータとパルスオキシメータ、救急蘇生、薬学的管理、患者自身が実施できる薬物療法のモニタリング、 循環器系の検査、泌尿器系の検査について学習する。	共同 講義10時間 実習20時間
	薬理学１	薬物作用に関する基本的知識を修得した上で、末梢神経系に作用する薬物及び消化器系に作用する薬物の作用機序・薬理作用・臨床応用・副作用に関する知識を修得することを目的とする。講義では、薬の用量と作用の関、薬物の主作用と副作用・毒性との関連、アゴニストとアンタゴニスト、薬物の体内動態と薬効発現の関わり、薬物の選択・用法・用量の変更が必要な要因、薬物依存性・耐性、受容体・酵素・イオンチャネル及びトランスポーター、代表的な受容体の刺激・遮断された場合の生理反応、薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系の活性化あるいは抑制された場合の生理反応、交感神経系に作用する支配器官の機能を修飾する代表的な薬物・自律神経節に作用する代表的な薬物・運動神経系及び骨格筋に作用する代表的な薬物・覚神経に作用する代表的な薬物の薬理作用・作用機序・臨床用途・主な副作用、消化器疾患の薬理について学習する。	
	薬理学２	オータコイドとその関連薬、循環器系、腎臓、血液・造血器系に作用する薬物ならびに代謝性疾患治療薬に関する基本的知識の修得を目的とする。講義では、オータコイド、ヒスタミン・セロトニン及び主要な生理活性ペプチドの生理学的及び病態学的役割と関連薬物、主要な生理活性ペプチド・一酸化窒素・エイコサノイドの生理学的及び病態学的役割と関連薬物、心血管系の生理・機能・主な病態、心不全治療薬・不整脈治療薬・虚血性心疾患治療薬・高血圧治療薬・利尿薬・止血薬・抗血栓薬・造血薬の薬理作用・作用機序・臨床用途・主な副作用、代表的な糖尿病治療薬・脂質異常症治療薬・高尿酸血症・痛風治療薬・カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬の作用機序・主な副作用について学習する。	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
医療薬学科目	薬理学３	中枢神経系、呼吸系、免疫・炎症・アレルギーに作用する薬物に関する基本的、専門的知識の修得を目的とする。講義では、代表的な神経伝達物質のシナプス伝達機構や精神神経疾患との関連及び神経興奮薬の薬理、統合失調症の治療薬の薬理と病態、うつ病・躁うつ病の治療薬・不安神経症・心身症・不眠症の治療薬の薬理と病態、全身麻酔薬・催眠薬の薬理と臨床適用、パーキンソン病の治療薬・認知症・脳血管疾患の治療薬・てんかんの治療薬の薬理と病態、麻薬性鎮痛薬・非麻薬性鎮痛薬・片頭痛治療薬の薬理と病態、抗炎症薬・解熱性鎮痛薬の薬理と臨床適用、免疫調整薬・リウマチ治療薬・アレルギー治療薬の薬理と臨床適用、呼吸器疾患（呼吸抑制、咳・痰、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎など）の治療薬の薬理について学習する。	
	薬理学４	感染症・悪性腫瘍に用いられる化学療法薬及び内分泌疾患治療薬に関する基本的知識の修得を目的とする。講義では、代表的な抗菌薬・抗真菌薬・抗結核薬・抗ウィルス薬・抗悪性腫瘍薬・分子標的治療薬の作用機序・主な副作用、視床下部及び脳下垂体ホルモン・甲状腺及び膵臓ホルモンの生理・薬理作用、代表的な甲状腺機能異常症治療薬・インスリン製剤の作用機序・主な副作用、副腎皮質及び髄質ホルモン・性ホルモンの生理・薬理作用と臨床適用・主な副作用について学習する。	
	アドバンスト薬理学	（概要） 代表的8疾患（がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症）における新規医薬品の薬理作用、臨床適応、副作用等を評価する能力の修得を目的とする。 （オムニバス方式／計8回） （20　大喜多守／4回） 新規医薬品（抗菌薬及び抗ウィルス薬、抗悪性腫瘍薬、循環器疾患治療薬）の薬理作用・臨床適応・副作用等と評価について学習する。 （7　大野行弘・69　清水佐紀・76　國澤直史／4回） 新規医薬品（代謝系疾患治療薬、精神神経疾患治療薬、免疫・アレルギー疾患治療薬）の薬理作用・臨床適応・副作用等と評価について学習する。	オムニバス 共同（一部）
	生物薬剤学１	薬物の生体内運命を表す諸過程（吸収、分布、代謝、排泄）における「吸収」と「分布」、ならびに体内動態諸過程を考察する上で基礎となる「生体膜透過」に関する基本的知識の修得するを目的とする。講義では、薬物の体内動態と薬効発現の関わり、薬物の生体膜透過における単純拡散・促進拡散・能動輸送の特徴、薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの特徴と薬物動態における役割、経口投与された薬物の吸収、初回通過効果、薬物の吸収に影響する因子、非経口的に投与される薬物の吸収、薬物の吸収過程における相互作用、薬物が結合する代表的な血漿タンパク質とタンパク結合の強い薬物、薬物の組織移行性と血漿タンパク結合・組織結合との関係、薬物のタンパク結合・結合阻害の測定・解析方法、薬物のタンパク結合・代謝・生体膜輸送の測定・解析結果に基づく薬物動態学的特徴、血液－組織関門の構造・機能と薬物の脳や胎児等への移行、薬物のリンパ及び乳汁中への移行について学習する。	
	生物薬剤学２	薬物の生体内運命を表す諸過程（吸収、分布、代謝、排泄）における「代謝」と「排泄」、ならびに薬物の処理能力の指標となるクリアランスに関する基本的知識をの修得を目的とする。講義では、薬物動態における代謝及び排泄の位置づけ、代表的な薬物代謝酵素の代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官・反応様式、薬物代謝酵素の反応機構、薬物代謝の第Ⅰ相反応・第Ⅱ相反応、代表的な薬物代謝酵素により代謝される薬物、プロドラッグと活性代謝物、体内動態・薬物代謝を考慮したドラッグデザイン、薬物代謝酵素の阻害及び誘導のメカニズムとそれらに関連して起こる相互作用、薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因、高齢者における薬物動態と薬物治療で注意すべき点、薬物のタンパク結合・代謝・生体膜輸送の測定・解析結果に基づく薬物動態学的特徴、薬物の尿中排泄機構、腎クリアランス・糸球体ろ過・分泌・再吸収の関係、代表的な腎排泄型薬物、薬物の排泄過程における相互作用、腎疾患・腎機能低下時における薬物動態、薬物治療・投与設計において注意すべき点、薬物の胆汁中排泄と腸肝循環、妊娠・授乳期における薬物動態、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点について学習する。	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
医療薬学科目	薬物速度論	薬物動態の理論的解析ならびに投与設計に関する基本的事項の修得を目的とする。講義では、速度論解析法の概略、コンパートメントの概念、静脈内bolus投与後の血漿中未変化体薬物濃度の分布容積・消失速度定数・血漿中薬物濃度下面積と解析、静脈内bolus投与後の尿中未変化体薬物濃度のログ・レートプロット法とシグマ・マイナスプロット法を用いた解析、静脈内定速注入後・経口投与後・静脈内bolus投与後の血漿中未変化体薬物濃度の挙動の薬物動態パラメータを用いた解析、静脈内bolus投与後の血漿中未変化体薬物濃度の線形2-コンパートメントモデルに基づく薬物動態パラメータを用いた解析、繰り返し静脈内bolus投与後・経口投与後の血漿中未変化体薬物濃度の挙動の薬物動態パラメータを用いた解析、量的バイオバイラビリティと速度的バイオアベイラビリティ、体内動態の線形性と非線形性の違い、代表的な非線形体内動態を示す薬物、非線形モデルに基づいた静脈内Bolus投与後の血漿中未変化体薬物濃度、生理学的モデルに基づく肝クリアランス及び腎クリアランス、モーメント解析法に関連するパラメータの算出、薬物動態学と薬力学を関連付けた薬効推移、薬力学的パラメータの特徴と薬効の強さとの関連、投与量と薬効の強さの関係、抗菌薬に関するPK-PD関係の特徴とPK-PDパラメータを用いた投与計画、耐性菌対策を考慮した抗菌薬の投与計画、生体リズムやその機構、生体リズムとPK-PDとの関係、生体リズムを考慮した薬物治療について学習する。	
	製剤設計学	（概要） 製剤化の方法と意義を理解するための薬物と医薬品添加剤の物性、医薬品の代表的な剤形の製造方法、及び薬物送達システムに関する基本的知識と技能、また、医薬品の用途に応じた適切な剤形を理解するための製剤の種類・有効性・安全性・品質などに関する基本的知識の修得を目的とする。（オムニバス方式／計15回） （21　戸塚裕一／10回） 製剤化の概要と意義及び代表的な剤形の種類と特徴、経口投与する製剤の種類とその特性、医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション、三薬局方及び薬局方国際調和会議、代表的な医薬品・その他の化学物質の定性・定量法を含む各種の分離分析のための基本的知識、固体製剤の基礎物性、代表的な剤形・製剤添加物の種類と性質、固体製剤の基礎物性、医薬品添加物の種類・用途・性質の理解、添加剤としての高分子の利用、製剤化のための単位操作と汎用される製剤機械、製剤に関連する試験法、製剤各論(注射剤などの無菌製剤とそれらに関連する製剤試験法、滅菌法、無菌操作法、生物学的試験法／生化学的試験法／微生物学的試験法)、DDS の概念と有用性、代表的な DDS 技術、プロドラッグ、コントロールドリリース技術、ターゲティング技術、吸収改善技術について学習する。 （46　門田和紀／5回） 代表的な固形製剤・半固形製剤・液状製剤の種類と性質、界面やレオロジーと関連する皮膚に適用する製剤の種類とその特性、代表的な無菌製剤の種類と性質、日本薬局方の製剤に関連する試験法、注射剤製造に必要とされる容器・包装の特徴、粘膜に適用する製剤など医療用に用いられる種々の製剤について学習する。	オムニバス
	薬物治療学１	（概要） 消化器、血液・造血器、皮膚の代表的な疾患の疾患概念、症候、病態生理、臨床検査値、適切な治療薬の選択と使用方法に関する基本的知識の修得を目的とする。（オムニバス方式／計15回） （44　加藤隆児／8回） 上部消化管疾患（消化性潰瘍、消化性潰瘍、逆流性食道炎（GERD）、胃炎・腸炎）・下部消化管疾患（ディスペプシア、過敏性腸症候群、潰瘍性大腸炎、クローン病）・肝疾患（肝炎、肝硬変、脂肪肝）・胆膵疾患（胆石症、胆管炎、膵炎）・消化器系の悪性腫瘍（胃がん、食道がん、肝がん、大腸がん、膵がん）・皮膚疾患（アトピー性皮膚炎、皮膚真菌症、蕁麻疹、乾癬、褥瘡）の病態生理・臨床検査値・適切な薬物治療について学習する。 （1　松村人志／4回） 貧血（再生不良性、鉄欠乏性、巨赤芽球性、腎性、溶血性貧血など）・白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫・白血球減少症の病態生理・臨床検査値・適切な薬物治療について学習する。 （49　山口敬子／3回） 紫斑病・播種性血管内凝固症候群（DIC）・血友病・血栓塞栓症の病態生理・臨床検査値・適切な薬物治療について学習する。	オムニバス

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
医療薬学科目	薬物治療学２	（概要） 心血管・呼吸器・腎・泌尿器・代謝領域の代表的な疾患の疾患概念、症候、病態生理、臨床検査値、適切な治療薬の選択と使用方法に関する基本的知識の修得を目的とする。（オムニバス方式／計15回） （23　福森亮雄／8回） 不整脈及び関連疾患・急性及び慢性心不全・虚血性心疾患・本態性高血圧症・二次性高血圧症・閉塞性動脈硬化症・心原性ショック・弁膜症・先天性心疾患・脂質異常症・高尿酸血症・痛風の病態生理・臨床検査値・適切な薬物治療、止血薬の薬理・臨床適用、抗血栓薬・抗凝固薬・血栓溶解薬の薬理・臨床適用について学習する。 （43　幸田祐佳・27　井尻好雄／2回） 糖尿病とその合併症の病態生理・臨床検査値・適切な薬物治療について学習する。 （44　加藤隆児／4回） 腎臓及び尿路における代表的な疾患・腎不全・ネフローゼ症候群・過活動膀胱及び低活動膀胱・糸球体腎炎・糖尿病性腎症・薬剤性腎症・かぜ症候群・インフルエンザ・肺炎・結核・閉塞性肺疾患・拘束性肺疾患の病態生理・臨床検査値・適切な薬物治療について学習する。 （27　井尻好雄・43　幸田祐佳・44　加藤隆児／1回） 循環器、代謝、呼吸器、腎疾患の複合処方例に関する患者の病態・処方意図・注意点について学習する。	オムニバス 共同（一部）
	薬物治療学３	（概要） 神経・筋疾患、精神疾患、頭痛の疾患概念、症候、病態生理、臨床検査値、適切な治療薬の選択と使用方法に関する基本的知識の修得を目的とする。（オムニバス方式／計15回） （1　松村人志／8回） 脳血管疾患（脳出血及びくも膜下出血、脳梗塞、一過性脳虚血発作）・パーキンソン病・統合失調症・気分障害・神経症性障害・睡眠覚醒障害・心身症・依存症・ADHD・その他の精神疾患の病態生理・臨床検査値・適切な薬物治療について学習する。 （23　福森亮雄／5回） 脳炎・髄膜炎・脳膿瘍・てんかん・熱性けいれん・認知症・多発性硬化症・筋萎縮性側索硬化症などんついて学習する。 （43　幸田祐佳／2回） 片頭痛・緊張型頭痛・群発頭痛糖尿病の病態生理・臨床検査値・適切な薬物治療、全身麻酔薬の特徴及び臨床適用について学習する。	オムニバス
	薬物治療学４	（概要） 眼疾患、耳鼻咽喉の疾患、がん、緩和医療の疾患概念、症候、病態生理、臨床検査値、適切な治療薬の選択と使用方法に関する基本的知識の修得を目的とする。（オムニバス方式／計15回） （43　幸田祐佳／4回） 眼疾患・耳鼻咽喉の疾患の病態生理・臨床検査値・適切な薬物治療について学習する。 （27　井尻好雄／9回） 悪性腫瘍の定義・がんの発生と転移・腫瘍の分類・TNM分類・病期分類・腫瘍マーカー、悪性腫瘍の疫学、Precision Medicine、がん遺伝子医療、がん遺伝子パネル検査、コンパニオン診断、Onco-Cardiology、正常細胞とがん細胞の違い、がん遺伝子とがん抑制遺伝子、悪性腫瘍の薬物治療の位置づけ、代表的ながん化学療法のレジメン、急性（慢性）骨髄性白血病・急性（慢性）リンパ性白血病・成人T細胞白血病・悪性リンパ腫及び多発性骨髄腫・胃癌・食道癌・肝細胞癌・大腸癌・胆嚢胆管癌・膵臓癌・小細胞肺癌・非小細胞肺癌・乳癌・脳腫瘍・網膜芽細胞腫・喉頭・咽頭・鼻腔副鼻腔・口腔の悪性腫瘍・前立腺癌・子宮体癌・子宮頸癌・卵巣癌・腎癌・膀胱癌の病態生理・臨床検査値・適切な薬物治療について学習する。 （55　内田まやこ／2回） がん治療のチーム医療における薬剤師の役割、がん性疼痛の病態（病態生理、症状等）と薬物治療（医薬品の選択等）、緩和ケアや外来化学療法における適切な薬学的管理について学習する。	オムニバス

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
医療薬学科目	薬物治療学５	（概要） 内分泌性疾患、生殖器系疾患、アレルギー・免疫疾患、骨・関節・カルシウム代謝疾患の疾患概念、症候、病態生理、臨床検査値、適切な治療薬の選択と使用方法に関する基本的知識の修得を目的とする。 （オムニバス方式／計15回） （27　井尻好雄／13回） ホルモン生合成・作用・分泌調節、代謝系・内分布系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効の関連、下垂体疾患・下垂体後葉疾患・甲状腺疾患・副甲状腺疾患・副腎疾患・生殖器系疾患の病態生理・臨床検査値・適切な薬物治療、炎症の概念・メカニズム・病態生理・症状等、免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効の関連、アレルギー反応の分類、アナフィラキシー及びアナフィラキシーショック、全身性エリテマトーデス・強皮症・関節リウマチ・SJS・TEN・間質性肺炎・臓器移植・骨髄移植の適切な薬物治療について学習する。 （43　幸田祐佳／2回） 骨粗しょう症・関節リウマチ・変形性関節症・カルシウム代謝異常疾患について、症状と病態生理、適切な薬学的管理について学習する。	オムニバス
	アドバンスト薬物治療学	（概要） 適切な医薬品情報を基に個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力の修得を目的とする。なお、薬物治療学1～5を基礎として、さらに薬剤師にとって重要であるが理解が難しい医療上の項目について重点的に学習する。（オムニバス方式／計8回） （1　松村人志／1回） 精神疾患治療薬の重篤副作用について学習する。 （19　駒野淳／2回） HIV感染症及び主な性感染症の症状・治療、がんと感染症について学習する。 （27　井尻好雄／1回） 造影剤・放射線医薬品の治療戦略について学習する。 （23　福森亮雄／1回） 認知症に対するこれからの治療戦略について学習する。 （43　幸田祐佳／1回） 糖尿病とその合併症について学習する。 （44　加藤隆児／1回） 炎症性腸疾患の処方解析について学習する。 （49　山口敬子／1回） 薬物治療と臨床検査について学習する。	オムニバス
	臨床化学	薬物治療の適正化の判断などに各種臨床検査データに関連した考察が必要になることを踏まえ、その際に必要な臨床検査項目の分析法とその測定値を理解することを目的とする。講義では、臨床化学の手順、検査材料臨床検査分析法の基礎、臨床化学検査の種類、試料の取り扱い方、検査値の解釈、臨床検査分析法の原理と方法、生体成分と臨床化学（糖質、脂質、タンパク質、生体内色素、無機質、酵素）、治療薬物モニタリング（TDM）の測定法、薬物と臨床検査、臨床検査値への薬物干渉について学習する。	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
医療薬学科目	臨床感染症学	（概要） 微生物学、薬理学、生化学等の基礎知識と内科学、外科学等の臨床医学、さらに公衆衛生学や医療法の知識をもとに、実際の感染症の診断、治療、予防についての基本的知識の修得を目的とする。特に抗菌薬の選択、投与設計については、今後ますます臨床の現場では薬剤師に十分な知識と経験が求められるので、感染症と薬理学の融合を目指す。（オムニバス方式／計15回） （19　駒野淳／13回） 感染症の発症原理と感染の3要素、日和見感染症・各種病原微生物、病原微生物が関わる疾患に用いられる代表的な臨床検査、病原微生物が関わる疾患に用いられる薬物の基本構造と薬効、ウイルス感染症・呼吸器感染症・消化管感染症・・皮膚・感覚器細菌感染症・・尿路感染症・性感染症・母子感染・全身感染症・敗血症・真菌・原虫・蠕虫感染症・細菌性・ウイルス性食中毒・の病態と診断・治療、予防接種・殺菌・消毒の意義と方法、感染症法について学習する。 （81　浮村聡／2回） 薬剤耐性菌による院内感染の感染経路・予防方法と病態・診断・治療、多様な医療チームの目的と構成・構成員の役割、チーム医療における薬剤師の役割と重要性について学習する。	オムニバス
	医薬品安全性学	医薬品の安全性評価方法を理解し、医薬品による人体への影響及び副作用発現機序を理解できる基本的知識の修得を目的とする。講義では、代表的な薬害、有害化学物質の毒性評価の主な試験法及びその評価方法、代表的な中毒原因薬物(乱用薬物を含む)の試験法、代表的な中毒原因薬物の解毒処置法、薬物の主作用と毒性との関連、副作用と有害事象との違い、薬物アレルギーや発がん性・催奇形成の発症機序、薬物依存及び薬物耐性、薬物の副作用発現に影響する薬物相互作用、薬物の副作用発現に影響を及ぼす遺伝的・年齢的・生理学的要因、薬物による皮膚障害や感覚器障害・肝障害や消化器障害・精神障害や神経障害・筋・骨格障害・循環器障害や血液障害・腎・泌尿器障害や呼吸器障害の発現機序と代表的な薬物や副作用の症状について学習する。	
	漢方医学概論	医師が実際に処方した漢方薬について、薬学の立場から考察し、漢方薬の適用症や副作用などを覚えるだけではなく、「考え、応用できる漢方」の知識修得を目的とする。講義では、漢方医学における診断法・体質や病態の捉え方・治療法、現代医療における漢方薬の役割、漢方薬の剤形と特徴、漢方薬と西洋薬・民間薬・サプリメント・保健機能食品などとの相違、副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬、漢方薬の薬効を構成生薬の薬能（古典的薬効）、配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類、日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証・症状や疾患、漢方薬の副作用と使用上の注意点、日本薬局方に収載されていない頻用漢方処方の適応となる証・症状や疾患について学習する。	
	臨床薬学概論	4年次で行われる「臨床導入実習」の序論を成すもので、さらに5年次で行われる「病院・薬局実務実習」のための準備学習となることを目的とする。講義では、病院・薬局における薬剤師業務全体の流れ、医薬品管理の意義や流れ、医薬品管理の意義と必要性、医薬品管理の流れ、劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬及び覚醒剤原料等の管理と取扱い、特定生物由来製品の管理と取扱い、代表的な放射性医薬品の種類と用途・保管管理方法、法的な調剤業務に関わる事項（処方せん、調剤録、疑義照会等）の意義や取扱い、代表的な疾患に使用される医薬品の効能・効果・用法・用量・警告・禁忌・副作用・相互作用、処方オーダリングシステム及び電子カルテ、処方せんの様式と必要記載事項・記載方法、処方せんの監査の意義とその必要性・注意点、処方せんの監査、不適切な処方せん、主な医薬品の成分・商品名・剤形・規格等、代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せ、感染予防の基本的考え方とその方法、代表的な消毒薬の用途・使用濃度・調製時の注意点、院内製剤の意義・調製上の手続き・品質管理、薬局製剤について学習する。	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
医療薬学科目	医薬品情報学	医薬品情報・患者情報の収集・評価・加工・提供・管理に関する基本的事項の修得を目的とする。講義では、医薬品を使用したり取り扱う上での必須の医薬品情報、医薬品情報に関わる職種と役割、医薬品添付文書の法的位置付け、医薬品添付文書の記載項目、医薬品インタビューフォームの位置付けと医薬品添付文書との違い、厚生労働省等の発行する資料、目的に合った適切な情報源の選択と必要な情報を検索・収集、医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報、副作用の因果関係を評価するための方法、医薬品の開発過程で行われる試験と得られる医薬品情報、医薬品情報に関係する代表的な法律・制度とレギュラトリーサイエンス、薬物治療に必要な患者基本情報、患者情報源の種類・違い、問題志向型システム、SOAP形式などの患者情報の記録方法、医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報、患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性、医薬品情報源の一次資料・二次資料・三次資料の分類、医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料の特徴、MEDLINE などの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード・シソーラスの重要性、医薬品情報の信頼性・科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目、臨床試験などの原著論文および三次資料における医薬品情報の質の評価、医薬品情報をニーズに合わせた加工・提供と管理する際の方法と注意点、病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目、医薬品情報に基づく代表的な同種同効薬の有効性や安全性の比較・評価、医薬品情報に基づく先発医薬品と後発医薬品の品質・安全性・経済性の比較・ 評価について学習する。	共同 講義14時間 演習10時間
	個別化医療	（概要） 「予測・予防の医療」における「一次予防」「二次予防」「三次予防」の概念及び「重篤副作用」「初期症状」についての基本的知識の修得を目的とする。また、個別化医療に必須となる情報について把握し、医薬品適正使用を行うことができるための基本的知識の修得を目的する。（オムニバス方式／計8回） （27　井尻好雄／4回） 「薬禍・薬害」と「Precision Medicine」の関連性、予測・予防の医療と重篤副作用概説・リスクマネジメントプラン、妊娠・授乳期における薬物動態と生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点、低出生体重児・新生児・乳児・幼児・小児における薬物動態と薬物治療で注意すべき点、高齢者及び心疾患・心機能低下時における薬物動態と薬物治療で注意すべき点について学習する。 （44　加藤隆児／2回） 吸収・分布・排泄過程における薬物相互作用と薬物中毒時の個別対応、治療的薬物マネジメント（TDM）への応用・症例解析、コンパニオン診断とがんゲノムパネル検査について学習する。 （42　細畑圭子／2回） 代謝・排泄過程における遺伝子多型と個別化薬物治療、移植医療の原理・方法と手順・現状及びゲノム情報の取扱いに関する倫理的問題点、薬物の主作用及び副作用に影響する代表的な遺伝的素因について学習する。	オムニバス
	コミュニティファーマシー	社会保障制度、医療政策、医療経済、医療・福祉・行政関連機関や職種に関する基礎的知識の修得、また、医薬分業の意義や地域における薬局・薬剤師の役割について考え行動できるための素地の涵養を目的とする。講義では、国民医療費、療養担当規則、医薬分業、地域における薬局の役割 （かかりつけ薬局・薬剤師、医療安全の確保、パブリックヘルスの向上、地域包括ケアと多職種連携、介護保険制度、在宅医療）、調剤報酬・診療報酬及び介護報酬の仕組み、薬価基準制度、医薬品の市場の特徴と流通の仕組み、後発医薬品とその役割、薬物療法の経済評価手法、プライマリ・ケアとセルフメディケーションについて学習する。	講義16時間 演習8時間

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
医療薬学科目	臨床薬物動態学	科学的根拠に基づいた薬物治療の個別化や最適な薬物投与計画の立案に必要な基礎理論の修得を目的とする。講義では、薬物体内動態の観点から、代表的な疾患に対する疾患の重症度等に応じた科学的根拠に基づく処方設計、病態（肝・腎障害など）や生理的特性（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮した薬剤の選択や用法・用量設定の立案、治療薬物モニタリング（TDM）の意義、TDM が有効な薬物、TDMを行う際の採血ポイント・試料の取扱い・測定法、代表的なTDM対象薬の薬物動態パラメータの算出と患者ごとの薬物投与設計、ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用、抗菌薬のTDMの科学的根拠に基づく処方の立案、免疫抑制薬のTDMの科学的根拠に基づく処方の立案、抗菌薬と免疫抑制薬以外のTDM対象薬の科学的根拠に基づく処方の立案、代表的なTDM対象薬の薬物血中濃度の推移による薬物療法の効果及び副作用の予測、薬物血中濃度に基づく医師に対する薬剤の種類・投与量・投与方法・投与期間等を変更提案について学習する。	
	臨床導入学習１	「病院・薬局実務実習」において、実臨床現場にて積極的・効果的かつ安全に実習に取り組めるように薬物療法・チーム医療・地域保健医療の基本的な知識・技能・態度の修得を目的とする。この授業では、調剤を始めるにあたって、病院での調剤業務、処方せんと薬袋、計数調剤：内用剤・外用剤、計量調剤：散剤・水剤・軟膏剤、錠剤鑑別、新薬・ジェネリック医薬品、処方鑑査、調剤過誤・医療安全、特別な薬剤の調剤（毒薬、麻薬・向精神薬）、フィジカルアセスメント、医薬品の適正使用、チーム医療（病院）、臨床栄養、注射剤処方鑑査、注射薬調剤、一般院内製剤・薬局製剤、配合変化（一般製剤・注射剤）、簡易懸濁法、無菌操作、高カロリー輸液の調製、抗悪性腫瘍剤の調製、病院薬剤師業務（初回面談、持参薬管理、疑義照会、服薬指導）、薬局薬剤師業務（医の倫理と患者の基本的権利、在宅医療への関わり、初回面談、疑義照会、服薬指導、薬歴管理、在宅医療への関わり、セルフメディケーション）について学習する。	共同
	臨床導入学習２	「病院・薬局実務実習」において、実臨床現場にて積極的・効果的かつ安全に実習に取り組めるように薬物療法・チーム医療・地域保健医療の基本的な知識・技能・態度の修得を目的とする。この授業では、法令・規則等の理解と遵守、処方箋と疑義照会、処方箋に基づく医薬品の調製、患者・来局者応対、服薬指導、患者教育、安全管理、患者情報の把握、チーム医療への参画、在宅（訪問）医療・介護への参画、プライマリケア、セルフメディケーションの実践について学習する。	共同
	薬事関連法・制度	患者・家族の安全や利益を最優先し、責任を持って医療・薬事行政・公衆衛生関連活動に従事するための医事及び薬事関係法規、制度の精神とその施行に関する基本的知識の修得を目的とする。講義では、薬剤師が遵守すべき倫理規範、患者の基本的権利の内容、患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義、薬剤師に関わる法令とその構成、薬剤師の刑事責任・民事責任、個人情報の取扱い、薬剤師免許に関する薬剤師法の規定、薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義、薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定、医薬品医療機器等法の目的及び医薬品等の定義、薬局・医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範、医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範、医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範、治験の意義と仕組み、製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策、医薬品の取扱いに関する医薬品医療機器等法の規定、日本薬局方の意義と構成、生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範、監督・雑則・刑罰等に関する規定、麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定、覚醒剤・大麻・あへん・指定薬物等の乱用防止規制、毒物劇物の取扱いに係る規定、健康被害救済制度、医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義、医療提供体制に関する医療法の規定とその意義、日本の社会保障制度の枠組みと特徴、公費負担医療制度、薬剤師の関わる社会保障制度の概略、医療保険制度について学習する。	講義16時間 演習8時間
	社会保障論	公平で質の高い医療を受ける患者の権利を保障するしくみを理解するための社会保障制度と薬剤経済の基本的知識の修得を目的とする。講義では、日本の社会保障制度の枠組みと特徴、社会保障制度の起源、社会保障制度の成立と発展、社会保障制度の再編、医療保険制度・介護保険制度・高齢者医療保険制度の仕組み、薬価基準制度、調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて学習する。	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
医療薬学科目	薬学基礎演習	（概要） 1から4年次に履修した全ての薬学関連科目の知識を短期間に、集中的に再確認することで、それらを総合的に理解し、専門知識を駆使して問題解決にあたる能力を育成するための必要な基盤の確立を目的とする。（オムニバス方式／計8回） （2　大桃善朗／8回） 授業全体のコーディネートを行う。 （20　大喜多守／1回） 薬理学について演習を行う。 （44　加藤隆児／1回） 薬物治療学について演習を行う。 （33　佐藤卓司／1回） 物理系薬学について演習を行う。 （16　藤森功／1回） 生物系薬学について演習を行う。 （47　長谷井友尋／1回） 衛生薬学について演習を行う。 （35　和田俊一／1回） 化学系薬学について演習を行う。 （12　恩田光子／1回） 社会薬学について演習を行う。 （15　宮崎誠／1回） 薬剤学について演習を行う。	オムニバス
	統合薬学演習	独立した科目として学習した内容を科目横断的に関連付け、また、医療現場で発生する課題に対し、薬学部で学んだことを統合して解決する能力を養成することを目的とする。演習では、がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症の8疾患を取り上げる。なお、学生を小グループで編成し、1疾患領域毎に統合講義を実施し、その後にグループワーク、発表とディスカッションを行わせ、知識・技能・態度の統合を図る。	共同
	薬学総合演習	（概要） 本学における薬学教育の集大成として設置された科目であり、薬学部卒業時に備えているべき知識及びそれに基づく総合的な判断力を身に付けることを目的とする。（オムニバス方式／計45回） （14　岩永一範／45回） 授業全体のコーディネートを行う。 （83　友尾幸司／5回） 物理系統の「物質の物理的性質」「化学物質の分析」について講義・演習を行う。 （80　宇佐美吉英／5回） 化学系統の「化学物質の性質と反応」「生体分子・医薬品の化学」「自然が生み出す薬物（天然物由来薬物）」について講義・演習を行う。 （16　藤森功／5回） 生物系統の「生命現象の基礎」「人体の成り立ちと生体機能の調節」「生体防御と微生物」について講義・演習を行う。 （31　佐久間覚／5回） 衛生系統の「健康」「環境」について講義・演習を行う。 （20　大喜多守／5回） 薬理系統の「薬の作用と体の変化」「薬の効き方（薬理）」について講義・演習を行う。 （15　宮崎誠／5回） 薬剤系統の「薬の生体内運命」「製剤化のサイエンス」について講義・演習を行う。 （1　松村人志／5回） 病態・薬物治療系統の「薬の作用と体の変化」「病態・薬物治療」「薬物治療に役立つ情報」について講義・演習を行う。 （10　中村敏明／5回） 法規・制度・倫理系統の「プロフェッショナリズム（薬剤師の使命や薬剤師に求められる倫理観など）」「薬学と社会」について講義・演習を行う。 （22　中村任／5回） 実務系統の「薬学臨床基本事項」「薬学臨床実践」について講義・演習を行う。	オムニバス

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実習科目	分析化学実習	化学物質をその性質に基づいて分析できるようになるための、物質の定性、定量などに必要な知識・技能・態度の修得を目的とする。実習では、学生を小グループで編成し、実習内容の概説の後、器具点検と試液調製、中和滴定による医薬品の分析、酸化還元滴定による医薬品の分析、紫外可視吸光度測定法による医薬品の定量、蛍光光度法による測定、物質に応じた液体クロマトグラフィーの適正な分析条件の設定・定性、液体クロマトグラフィーを用いて定量について学習する。	共同
	物理化学実習	医薬品の物性や生体における作用機序を理解するための、安定性や溶解度など医薬品の代表的な性質や変化を定量的に取り扱う知識・技能・態度の修得を目的とする。実習では、学生を小グループで編成し、実習内容の概説の後、緩衝液の調製と緩衝の原理、反応速度の温度依存性・擬一次反応・アレニウスプロット、反応速度のpH依存性・pHプロファイル、弱電解質の溶解度・弱酸性薬品の溶解度のpH依存性、二相分配とpHの関係・二相分配とpKaの決定、希薄溶液の性質・凝固点降下度測定による分子量の決定、二成分溶液の相互溶解度・水とフェノールの相互溶解、界面活性剤の物性・臨界ミセル濃度の決定、粘度・粘度測定と分子量の決定について学習する。	共同
	基礎有機化学実習	脂肪族及び芳香族炭化水素の性質を理解するための、それぞれの基本構造、物理的性質、反応性に関する基本的な知識・技能・態度の修得を目的とする。実習では、学生を小グループで編成し、実習内容の概説の後、ピペット・融点測定用キャピラリー・TLC用キャピラリー・ジーデグラスの作製、茶葉からの抽出によるカフェインの単離・融点測定、アスピリンの合成と再結晶による精製、鎮痛薬からの薬効成分の分離精製（アスピリン、カフェイン、アセトアミノフェン）とTLCによる同定、Cannizzaro 反応とカラムクロマトグラフィーによる分離・精製、バナナオイルの合成と蒸留による精製について学習する。	共同
	漢方・生薬学実習	生薬の同定と品質評価ができるようになるため、生薬の確認試験及び純度試験に関する基本的事項と生薬を鑑別できる知識・技能・態度の修得を目的とする。実習では、学生を小グループで編成し、実習内容の概説の後、生薬の同定と品質評価（アルカロイド生薬の確認試験、フェノール生薬、サポニン生薬の確認試験、純度試験）、生薬関連製剤の品質評価（苦味チンキ、漢方エキス製剤）、漢方製剤の作成（紫雲膏、葛根湯、小青竜湯、補中益気湯、桂枝茯苓丸、小柴胡湯、半夏厚朴湯）、生薬の鑑別生薬の鑑定試験について学習する。	共同
	有機化学実習	有機化合物の性質及び官能基の反応性を理解するための、合成反応及び反応物の単離・精製と構造確認に関する基本的な知識・技能・態度の修得を目的とする。実習では、学生を小グループで編成し、実習内容の概説の後、NaBH4による還元反応、Wittig-Horner反応、Diels-Alder反応、Fischerのエステル化、Grignard反応、交差Aldol反応、スペクトル解析演習について学習する。	共同
	生物学実習	生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するための、生命体の構造と機能調節などに関する基本的な知識・技能・態度の修得を目的とする。実習では、学生を小グループで編成し、実習内容、動物実験における倫理、実験動物の種類や遺伝学的及び微生物学的統御の概説の後、滅菌・消毒及び殺菌・静菌の概念、主な滅菌法及び消毒法、無菌操作による代表的な細菌の分離培養・純培養の実施、グラム染色の実施、細菌の構造と増殖機構、代表的な器官の組織や細胞の観察、細胞機能の観察、抗原抗体反応を利用した検査方法の実施、抗原抗体反応を利用した細胞の同定について学習する。	共同

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実習科目	生物科学実習	生命体の成り立ちを分子レベルで理解するための、細胞の生命活動を担う分子(糖、脂質、タンパク質、核酸など)の構造と機能に関する知識と、それらを取り扱う基本的技能・態度の修得と目的とする。実習では、学生を小グループで編成し、実習内容の概説の後、模擬血清中のタンパク質・グルコース及びコレステロール含量の定量、卵白タンパク質のイオン交換クロマトグラフィーのよる分離、分離した試料・血清・唾液のSDS電気泳動の実施、酸性ホスファターゼの酵素反応速度の測定、ミカエリス定数と最大速度の測定、大腸菌の培養（コロニーの観察と植菌）、大腸菌からのプラスミドの調製、制限酵素による切断、アガロースゲル電気泳動、自分のDNAの抽出、ヒト癌細胞からのDNAの抽出・PCRによる増幅、アガロースゲル電気泳動による遺伝子変異検出と遺伝子情報解析について学習する。	共同
	衛生薬学・放射化学実習	食品衛生、保健衛生及び環境衛生上の基本的な知識・技能・態度の修得を目的とする。また、ラジオアイソトープ及び放射線に関する基本的な知識・技能・態度の修得を目的とする。実習では、学生を小グループで編成し、飲食物試験法（食品成分試験法、食品添加物試験法）、環境試験法（水質試験法、空気試験法）、放射線の性質と測定、放射性医薬品の調製と確認試験について学習する。	共同
	薬理学実習	自律神経系、循環器系、中枢神経系などに作用する薬物の効果を測定し、評価するための知識・技能・態度の修得を目的とする。実習では、学生を小グループで編成し、向精神薬の作用及びカタレプシー惹起作用のオープンフィールド法及びカタレプシー測定による評価、鎮痛薬の作用のホットプレート法による評価、摘出血管の収縮・弛緩に影響を及ぼす薬物・血圧へ影響を及ぼす薬物の作用測定、摘出子宮平滑筋の収縮・弛緩に影響を及ぼす薬物の作用測定、各種臓器のコリンエステラーゼ活性及びコリンエステラーゼ阻害薬の作用のチオコリン法による評価、無麻酔動物を用いた採尿実験による利尿薬作用の評価について学習する。	共同
	薬剤学実習	薬物自体の生体内動態を解析し、最適な投与計画を設定すると同時に、最適な製剤設計、効率的な製剤製造法の開発、保存時における有効性及び安全性の確認(品質管理)に必要となる基本的な知識・技能・態度の修得を目的とする。実習では、学生を小グループで編成し、薬物のタンパク結合測定、薬物の血漿中濃度とその解析、TDMシミュレーション、製剤調製と日本薬局方「一般試験法、崩壊試験、溶出試験」、日本薬局方「溶出試験」と半固形製剤の調製とレオロジー評価、日本薬局方「製剤均一性試験」と粉末X線回折について学習する。	共同
	病院実務実習	６年制薬学教育にあたって義務付けられている病院における参加型実務教育科目であり、臨床に係る実践的能力を持つ薬剤師を養成することを目的とする。実習では、11週に渡る病院での実習の中で、薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づき実施し、薬学臨床の基礎（早期臨床体験、臨床における心構え、臨床実習の基礎）、処方せんに基づく調剤（法令・規則等の理解と遵守、処方せんと疑義照会、処方せんに基づく医薬品の調製、者・来局者応対、服薬指導、患者教育、医薬品の供給と管理、安全管理）、薬物療法の実践（患者情報の把握、医薬品情報の収集と活用、処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）、処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）について学習する。	共同

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実習科目	薬局実務実習	６年制薬学教育にあたって義務付けられている薬局における参加型実務教育科目であり、臨床に係る実践的能力を持つ薬剤師を養成することを目的とする。実習では、薬学臨床の基礎（早期臨床体験、臨床における心構え、臨床実習の基礎）、処方せんに基づく調剤（法令・規則等の理解と遵守、処方せんと疑義照会、処方せんに基づく医薬品の調製、者・来局者応対、服薬指導、患者教育、医薬品の供給と管理、安全管理）、薬物療法の実践（患者情報の把握、医薬品情報の収集と活用、処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）、処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）について学習する。	共同
	特別演習・実習	卒業研究に該当する科目であり、研究課題の達成までのプロセスを体験し、研究遂行に必要な知識・技能を・態度を修得するとともに、研究成果について議論・発表・まとめる能力を養成することを目的とする。学生の配属研究室において文献調査を通して薬学関連研究テーマの目的と学術的意義を理解した上で、研究テーマを進めながら課題発見及び解決能力を涵養しつつ、新たな「発見・創造」に触れ研究の面白さを知ることで創造的精神を養う。	

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	文学の世界（教養）	外国の文学・言語に興味を持ち、それらを学ぶことで異文化理解を深め、異文化との自国の文化を比較することで自国の文化を客観的に眺める視点を獲得することを目的とする。講義では、イギリス国民の歴史と社会の発展に密接な関係があるイギリス文学への理解を深め、イギリス文学の代表的文学作品を読み、イギリス文学の歴史的流れをつかむ。また、作品の背景にある思想・文化に目を向け、小説・劇・詩など作品別に形態やその特徴についても学び、イギリス文学全体を概観することをもってイギリスを取り巻く社会と文化の変化を学習する。	
	歴史と社会（教養）	日本近代について基本的な知識を養うとともに、疾病や薬品、薬学など高校までの学習とは異なる切り口から歴史をみることを目的とする。講義では、日本近代史の流れ、近世と近代、公娼制度と梅毒、植民地樺太と化学工業、近代日本と外交、第一次大戦と製薬業、大阪における製薬業の展開について学習する。	
	地球環境論（教養）	環境問題についての一般的な原因と影響を把握するとともに、人間と地球環境について、19世紀以降大きな影響を与えてきた「都市」の視点から二者の関係から考察する視点を養い、解決する方策について考えるための基礎的な知識と分析力を身に付けることを目的とする。講義では、地球温暖化、生物多様化、森林と緑地・水系と環境、都市と環境問題、エネルギー問題、市民と環境・持続可能な発展について学習する。	
	政治と社会（教養）	政治においての政策がどのように設定され、政府や国会において立案・決定されたのか、最近の動向や事例を紹介する。そして、政治過程論や政治行動論などの政治学の手法を用いて理論的・実証的に分析する。実際の事例やトピックスを題材に政治学の理論を用いた分析方法を学ぶことにより、受講生が政治学の視点から日本政治の政策過程、形成過程が理解できるようにする。	
	基礎心理学（教養）	心理学の知識をふまえて、自分自身の身の回りの出来事や日常生活について振り返り、社会の中で生きる人について考えることを目的とする。心理学の各分野（知覚・臨床・行動・認知・発達・教育・社会）の基礎的な理論について、事例とともに説明し、心理学の基礎を理解させ自らの日常生活や人間について捉え直すことができるようにする。	
	法と社会（教養）	近代法の基本的な考え方を理解し、現在の私たちの社会の法制度についての基礎的知識を習得することを目的とする。具体的には、近代法の基本構造と成り立ちなどについて概観したうえで、私たちの生活と密接な関係のある三つの法―憲法・刑法・民法―について、身近なニュースや問題を題材として紹介しながら、学習する。	
	経済の世界（教養）	市場と政府の関係を中心に、実際の経済政策に影響を与える様々な要因を検討する。特に、経済学の考え方と政治学の考え方とを比較することで、経済の世界をより立体的に理解することを授業の目的とする。講義では、経済学の基礎的な知識を身に付けるだけではなく、ディスカッションを通じて、社会に出たときに、薬剤師として必要な能力を身に付けるということを意識させる。	
	社会分析の基礎（教養）	意識せずに生活している現代社会の様々な社会現象を捉え直し、単なる常識としてではなく、社会学という学問の視点から理解・整理できるようにし、社会現象だけでなく自らを反省的に捉え直し論理的に分析する能力を身に付けさせる。講義では、目の前の社会現象の背後に控えている社会構造やその機能を明らかにするため、身近なテーマをとりあげ、日常的な常識から離れた視点を手に入れ、社会を見直すことについて学習する。	
	人間と宗教（教養）	非科学的とされる宗教の「物語」が、生老病死に関しては依然として説得力を持つものとして、その機能が失われてはおらず、医療に携わる者にとって宗教的思考や心性を理解することは、一つの「素養」である。不合理なものと片づけるのではなく、人々が宗教に意味を見出し、生きる糧を得ているという現実に対する理解を深めることを目的とする。また、講義を通じ、日本人の宗教意識がどのように形成され現在に至っているのかを理解すると同時に、さまざまな宗教の考え方を知ることで、自らの宗教観を問い直すことを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	文化人類学（教養）	様々な文化・社会における多様なものの見方・考え方・価値観、これらを形成する環境・文化・社会の力、多文化共生社会における文化・社会的状況について理解し、それら状況の対処や取り組みへの姿勢を養うことを目的とする。講義では、文化人類学の方法と理論、成果を学び、様々な文化でのものの見方や考え方を学ぶことを通して、私たちのものの考え方や見方について相対化する。その上で、異文化をルーツに持つ人々との交流・交渉・共存のあり方についての視点や方法、考え方を養う。	
基礎教育科目	倫理と社会（教養）	倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身に付けて、医療の担い手としての感性を養う。また、生涯にわたって自ら学ぶことの必要性・重要性を理解し、人の行動や考え方、社会の仕組みを理解し、人・社会と薬剤師の関わりを認識させることを目的とする。講義では、この社会で最も弱い立場にいる「子ども」に注目して、子どもたち一人ひとりの“well-being”（健康で、幸せであること）について話しあう 。取りあげるテーマは、児童遺棄・虐待、生殖補助医療である。「良い社会」とはどんな社会なのか、そうした社会の実現のためには、医療人としてどう行動すべなのかを考えて、自らの新たな役割と可能性を発見させる。	
	コーチング論（教養）	人間関係を充実させていくためのパーソナリティーやコミュニケーション能力などの向上を図ることを目的とする。講義では、選手の目標達成や競技パフォーマンス向上に貢献するため実際の指導者による手法等を用い、優れたパーソナリティーやコミュニケーション能力など幅広い分野における見識について学習する。	
	スポーツ・運動実習２（教養）	基礎体力向上、行われる種目の技能向上及びコミュニケーション能力向上を目的する。授業では、スポーツ・運動実習１で経験していない種目（ジョギング、卓球、バドミントン、ハンドボール、カヌー、スキー等）を経験しながら、身体を定期的に動かすことの大切さ、身体の不活動がいかに健康度を低下させているかについて学習する。	
	数理論理学（教養）	人文科学と自然科学の交差領域である論理学を通じて物事を多角的にみる能力を養い、医療・研究の現場や現代社会生活に必要不可欠な論理性を修得させることを目的とする。講義では、論理学の代表的な分野である数理論理学の初歩の学習を通して、論理的思考に関する知識と技能について学習する。	
	数学１	薬学を学ぶ上で基礎となる数学に関する基本的知識を習得し、それらを薬学領域で応用するための基本的技能を身に付けることを目的とする。講義では、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。初等関数、逆関数、関数の極限・連続関数・中間値の定理、微分の諸定義と基本的な性質、合成関数・逆関数・媒体変数表示の微分法、高階微分の定義・ライプニッツの公式、関数の増減と極地・極性の凹凸と変曲点、平均値の定理、ロピタルの定理、テーラー展開・関数の多項式近似、多変数関数の定義・極限・連続性、偏微分の諸定義と計算、全微分、合成関数・陰関数の偏微分、多変数関数の応用について学習する。	講義20時間 演習10時間
	数学２	薬学を学ぶ上で基礎となる数学に関する基本的知識を習得し、それらを薬学領域で応用するための基本的技能を身に付けることを目的とする。講義では、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。不定積分の基本的性質、様々な関するの不定積分、定積分の定義と基本定理、広義の積分、定積分の応用、微分方程式の諸定義、1階微分方程式、医療分野への微分方程式の応用について学習する。	講義10時間 演習6時間
	数理統計学	薬学を学ぶ上で基礎となる統計学に関する基本的知識を習得し、それらを薬学領域で応用するための基本的技能を身に付けることを目的とする。講義では、ベイズの定理・確率変数、離散的な確率変数の期待値・二項分布、連続的な確率変数の期待値、正規分布、二変量の確率分布、標本調査・標本分布、様々な確率分布、推定量、区間推定・母平均の区間推定、仮説検定、t検定・母比率の仮説検定、二標本問題の仮定検定、公式を利用した統計的処理について学習する。	講義20時間 演習10時間
	物理学１	薬学を学ぶ上で必要な物理学の諸概念を理解し、物質及び物体間の相互作用などに関する基本的知識を修得を目的とする。講義では、力学分野での身の回りの自然現象を取り上げ、巨視的な視点での物理法則を学習し、電磁気学の導入を行う。また、物理学２での微視的視点（原子や分子）で自然を理解するための素地を作る。	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	物理学２	薬学を学ぶ上で必要な物理学の諸概念を理解し、物質及び物体間の相互作用などに関する基本的知識を修得を目的とする。講義では、波動と前期量子論の分野を学習し、原子や分子の世界を理解するための素地を作る。	
	英語リスニング１	英語音声の基礎を学び、正確に聞き取りができ、また発音もできるようになることを目的とする。講義では、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。様々なジャンルの英語を聞くことを通してリスニング力を高めるとともに、医療・薬学系の専門英語語彙を学び、発音が難しい単語を正しく読むことについて学習する。	
	英語リスニング２	英語音声の基礎を学び、シャドウイングやディクテーションなどを通してリスニング力を高めることを目的とする。講義では、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。様々なジャンルの英語を聞くことを通してリスニング力を高めるとともに、医療・薬学系の専門英語語彙を学び、発音が難しい単語を正しく読むことについて学習する。	
	英語リーディング１	英語読解力の向上と物事を多角的に見る能力を養うことを目的とする。講義では、教育効果を高めるため、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。世界に誇る西日本の「ものづくり」企業12社の知られざる成功の軌跡と、多様な商品開発のプロセスについて平均600語で書かれた英文を読むことにより学習する。	
	英語リーディング２	英語読解力の向上と物事を多角的に見る能力を養うことを目的とする。講義では、教育効果を高めるため、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。英語リーディング1に続き、AI、シェアリングエコノミー、LGBT、気候変動等、最先端の開発や現象と身の回りの事象との意外な繋がりについて平均500語以下の読み応えのある英文を読むことにより学習する。	
	英語スピーキング１	国際化に対応するため、英語による基本的なコミュニケーションができるようになることを目的とする。講義では、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。会話を中心に学習を進め英語のスピーキング力を高める訓練を行い、英会話に必要なあいづちやコメントの仕方、さらに関連質問を考える練習など、英会話を充実させる方策について学習するとともに、医療・薬学系の専門英語語彙用語を学び、文脈に沿った意味を理解でき、発音が難しい単語でも正しく読むことについて学習する。	
	英語スピーキング２	国際化に対応するため、英語による基本的なコミュニケーションができるようになることを目的とする。講義では、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。会話を中心に学習を進め英語のスピーキング力を高める訓練を行い、日本語から直訳する習慣をなくし、英語らしい構造や表現を用いて発信できる方策を学習するとともに、医療・薬学系の専門英語語彙用語を学び、文脈に沿った意味を理解でき、発音が難しい単語でも正しく読むことについて学習する。	
	英語ライティング１	日常生活やビジネスにおいて必要となる自然な英語表現を使って英作文が書けるようになることを目的とする。講義では、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。高校までに学習した英文法の基礎を確認するとともに、英作文に応用できるようになるため、テキストの各ユニットでポイントとなる文法事項を復習し、基本編から応用編まで練習問題を解きながら自然な英語表現を書くことついて学習する。	
	英語ライティング２	科学・医療に関連する英語の代表的な用語、英語表現、さらに文章を英語で書けるようになることを目的とする。講義では、教育効果を高めるため、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。クラスメートをインタヴューすることで取材したことをまとめる短い英文を書くことから始め、その後、科学、医療に関連するものを題材に資料を読んで興味をもった点を述べる、記事を読んで要約し、感想を述べるなどのライティング活動を行う。最終的には、グループごとに記事をまとめて雑誌として発表を行わせる。	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	ドイツ語１	国際化・多様化する社会への対応にあたり、第二外国語としての基礎的なドイツ語の修得を目的とする。講義では、基礎文法の学習にあたり、ペアワークとグループワークによる発話練習を用いるものとし、読む、聞く、話すための総合的な基礎ドイツ語運用能力について学習する。	
	ドイツ語２	国際化・多様化する社会への対応にあたり、第二外国語としてのドイツ語能力の発展を目的とする。講義では、応用文法の講義と、ペアワークとグループワークによる発話練習を並行して授業を進め、読む、聞く、話すための総合的な応用ドイツ語運用能力について学習する。	
	フランス語１	国際化・多様化する社会への対応にあたり、第二外国語としての基礎的なフランス語の修得を目的とする。講義では、基本単語と例文の発音、簡単な文法解説を行った後、各人が自分で自分のことを述べたり、相手のことをたずねる文を作る作業について学習する。また、声に出して反復練習さえ、さらにグループでお互いに、自分のことを表現し、相手が言っていることを理解させる。	
	フランス語２	国際化・多様化する社会への対応にあたり、第二外国語としてのフランス語能力の発展を目的とする。講義では、日常表現に必要な基礎的なフランス語の語彙、過去時制や未来時制、比較の表現等について学習する。さらに、受け答えに代名詞を用いた文、時間や天候等のテーマに沿った文について学習する。	
	中国語１	国際化・多様化する社会への対応にあたり、第二外国語としての基礎的な中国語の修得を目的とする。講義では、自己紹介、簡単な動作や身の回りの人・物について話せるようになることを目標とし、教材に沿って単語・文法項目を学習した後、グループに分かれ学んだことを使って実際に会話の練習を行う。	
	中国語２	国際化・多様化する社会への対応にあたり、第二外国語としての中国語能力の発展を目的とする。講義では、形容詞述語文、存在・所在を表す文法項目を新たに学習することで表現の幅をさらに広げる。またこれまでに学んだ基本的な名詞及び動詞述語文に、助動詞・接続詞・副詞などを付け加え、パターンに沿った発話だけでなく、自分の言いたいこと表現できるようになり、旅行時のみならず日本でも中国人旅行客とコミュニケーションをとる際に知っておくと役に立つ中国語の表現を実践的に習得する。	
	ハングル１	国際化・多様化する社会への対応にあたり、第二外国語としての基礎的な韓国語の修得を目的とする。講義では、母音・子音・バッチム等の基礎的要素を学び、これを用いた韓国語の読み書き、自己紹介、メール作成についてグループワークやICTを活用したアクティブラーニングの形で学習する。また、文化学習やスマートフォンのアプリ活用により自律学習に繋げる。	
	ハングル２	国際化・多様化する社会への対応にあたり、第二外国語としての韓国語能力の発展を目的とする。講義では、挨拶作法、趣味、食事、買い物など、日常生活に必要な会話力について学習する。また、文化体験やスマートフォンのアプリ活用により自律学習に繋げる。	
	異文化言語演習１	言語力を一層確実なものとし、実用に耐える読書力を涵養するとともに、異文化を正しく理解することを目的とする。授業はゼミ形式とし、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。ゼミにより異なるテーマ（価値観の多様性が文化・習慣の違いから生まれることの実例説明、言語・歴史・宗教などから外国と日本の文化の比較、人の行動や心理がいかなる要因によりどのように決定されるか、宇宙・自然現象と人とのかかわり、地球環境を守る重要性を自らの言葉で表現する）ことについて、英語の文献を精読し、担当者を決めてそれぞれ発表させ、受講者で検討修正の後、最終決定した日本語訳を解説させる。	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	異文化言語演習２	言語力を一層確実なものとし、実用に耐える読書力を涵養するとともに、異文化を正しく理解することを目的とする。授業はゼミ形式とし、教育効果を高めるため、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。ゼミにより異なるテーマ（価値観の多様性が文化・習慣の違いから生まれることの実例説明、言語・歴史・宗教などから外国と日本の文化の比較、人の行動や心理がいかなる要因によりどのように決定されるか、宇宙・自然現象と人とのかかわり、地球環境を守る重要性を自らの言葉で表現する）について、英語の文献を精読し、担当者を決めてそれぞれ発表させ、受講者で検討修正の後、最終決定した日本語訳を解説させる。	
	心理社会	心理社会的な観点から、病いが患者に及ぼす心理的な影響を理解し、患者やその家族との基本的なコミュニケーションスキルを修得することを目的とする。講義では、医療における心理学と社会学の役割、心理状態と行動を形成する諸要因、「健康とは何か」その定義と現代医療の問題点、人間理解の心理学、対人関係の心理学、症状と問題行動の形成、医療コミュニケーション、行動変容の心理支援、多職種連携とチーム医療、ストレスマネジメントについて学習する。	
	コミュニケーション	薬剤師に求められるファーマシューティカルコミュニケーションや、患者を理解し上でのコミュニケーションについて実践的な技術を習得することを目的とする。講義では、医療におけるコミュニケーションの重要性、言語・非言語コミュニケーション、コミュニケーションの基礎的スキル、多様性の受容と自他尊重のコミュニケーション、ファーマシューティカルコミュニケーション、患者理解、他職種とのコミュニケーションについて学習する。なお、グループ討議やロールプレイを取り入れるとともに、双方向学習ツールを用いる。	講義16時間 演習8時間
	医療と法	薬事衛生・薬剤師業務に関する法令についてその概要と具体的内容を把握し、業務遂行にあたっての法令の重要性を認識することをもって、薬剤師としての任務を適正に遂行するとともに予見しうる法的問題の発生を防止するための知識を身に付けることを目的とする。講義では、薬剤師に関わる法令とその構成、薬剤師免許に関する薬剤師法の規定、医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義、医療提供体制に関する医療法の規定とその意義、薬剤師の刑事責任・民事責任、治験の意義と仕組み、個人情報の取扱いについて学習する。	
	身体運動科学	身体活動が著しく不足することが様々な生活習慣病の発症を助長していることを受け、運動・スポーツの生理学的基礎理論について修得させることを目的とする。講義では、運動・スポーツと健康の保持増進、生活習慣病の予防効果との関係、その具体的な運動方法、子供の発育発達とスポーツ・運動の影響、生活習慣病予防のための運動、介護予防に及ぼす運動・スポーツの有効性について学習する。	
	スポーツ・運動実習１	基礎体力向上、行われる種目の技能向上及びコミュニケーション能力向上を目的する。授業では様々な種目（テニス、バスケットボール、エアロビクス、ソフトボール、ウォーキング等）を経験しながら、身体を定期的に動かすことの大切さ、身体の不活動がいかに健康度を低下させているかについて学習する。	共同
	情報科学	近年の情報処理技術の進歩は目覚ましく、薬学分野においてもコンピュータリテラシーの修得が不可欠なものとなっていることを踏まえ、単にコンピュータの利用方法を覚えるだけでなく、取り扱うことのできる情報についてネットワークやデータベース技術などの知識を背景に、情報を取得／整理／分析／発信して問題解決のセンスを養うこと目的とする。講義では、情報科学において薬学系の学生が関係する分野からテーマを選びその技術内容の解説と事例紹介を行い、受講者が情報科学の全体像を把握させるとともに個別の技術の概要について興味をもって学べるよう具体例を示しながら進める。	
	情報科学演習	急速に進展する情報社会の中でコンピュータを利用した学習を進めていく上で不可欠な情報社会・情報科学に関する知識と技能を修得させることを目的とする。演習では、一人に一台の統一した環境下でWindowsパソコンと関連機器を利用した個別演習とグループワークを行い、情報社会への参画と情報倫理と情報セキュリティ、人工知能(AI)とデータ科学、クラウドコンピューティングと情報検索、アカデミックライティングを実現する構造的文書作成、化学構造式描画方法、学術活動に必要なデータ処理と分析、説明技術としてのプレゼンテーション、学術活動のための情報活用について学習する。	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	化学	化学の基礎知識をしっかり身に付け、さらに、大学における化学系専門科目を学ぶうえで必要不可欠なより高度な知識の修得に向けた高校の化学と大学における化学系専門科目との橋渡しを目的とする。講義では、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。化学結合、分子軌道、分子の極性・分子間力、単位・有効数字、物質量と化学量論、溶液と濃度、酸と塩基、化学平衡、電離平衡、溶液のpH、溶解度積・溶解平衡、酸化と還元について学習する。	
	化学演習	物質の構造、性質や、その相互作用などに関する総合的体系的学問である化学の基本事項を確認しながら、「化学」で学んだ知識を、演習を通して確実に習得することを目的とする。演習では、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。化学結合、分子軌道、分子の極性・分子間力、単位・有効数字、物質量と化学量論、溶液と濃度、酸と塩基、化学平衡、電離平衡、溶液のpH、溶解度積・溶解平衡、酸化と還元について学習する。	
	生物学	薬学を学ぶ上で必要な生物学の基礎力を身に付けるために、細胞、組織、器官、個体レベルでの生命現象に関する基本的知識の修得を目的とする。講義では、薬学準備科目ということを踏まえ、高校で生物を履修していない学生にも理解できるように基本的な内容を分かりやすく解説するものとし、多細胞生物の成り立ち、細胞・細胞小器官の構造と機能、生命体を構成する物質、遺伝子の構造と機能、生体とエネルギーについて学習する。	
	医工薬連環科学	（概要） 医療を医学・工学・薬学・看護学のそれぞれの立場から理解するために、これらの学問分野の融合によって発展しうる新しい学際領域に関する基本的知識の修得を目的とする。講義は関西大学（システム理工学部、化学生命工学部）、本学（医学部、薬学部、看護学部）の教員が分担で担当し、本学医学部・看護学部・関西大学が担当する講義は遠隔講義システムを用いて行う。 （オムニバス方式／計15回） （20　永井純也／5回） 薬のシードの発見から医薬品という製品ができるまでのプロセスを、生理活性分子の創製、薬理学、薬剤学・製剤学の順を追って学習する。 （76　寺崎文生／4回） 人の誕生から旅立ち（死）に至るまでに、医学や看護学が病気の治療、健康やQOL（Quality Of Life）の維持・向上にどのように関与しているかについて学習する。 （81　倉田純一／6回） 医療を支える福祉・介護技術、再生医療、医療機器や食品技術に関して順を追って学習する。	オムニバス メディア（一部）
	基礎有機化学	（概要） 大学で必要不可欠な有機化学の基礎知識をしっかり身に付け、新入学生の実力から大学専門科目に進むために必要不可欠な知識の修得を目的とする。（共同（一部）／計12回） （36　和田俊一／10回） 高校の確認（炭化水素、酸素を含む有機化合物、芳香族化合物）を行ったの後、化学結合の成り立ち、基本的な化合物のルイス構造式、共役や共鳴の概念、分子軌道の基本概念及び軌道の混成、双極子間相互作用、IUPACの規則に従ったハロアルカン及びアルコール、シクロアルカン、アルケンとシクロアルケン、アルキンの命名、分子間力、酸と塩基の種類、酸・塩基反応における電子の動き、酸性度・塩基性度の強さについて学習する。 （36　和田俊一・4　宇佐美吉英・38　山田剛司・70　平田佳之・73　林淳祐／1回） 分子軌道と混成軌道に関する演習を行う。 （36　和田俊一・12　浦田秀仁・25　平野智也・62　米山弘樹・63　菊地崇・68　葉山登／1回） 酸と塩基の演習に関する演習を行う。	共同（一部） 講義20時間 演習4時間

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎薬学科目	薬学入門	（概要） 医療人・薬の専門家としての必要な基本的姿勢を身に付けるため、医療と社会における薬学・医学の役割や薬剤師の使命を理解することを目的とする。（オムニバス方式／計8回） （13　中村敏明／2回） 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について学習する。また、医療従事者が守るべき倫理規範、患者の基本的権利と自己決定権、医療事故、医療チーム内での薬剤師の役割、病気が患者に及ぼす心理的影響、患者や家族への配慮の大切さ等について学習する。 （20　永井純也／1回） 6年間で何を学ぶか、本学の教育方針、学習スケジュールについて理解させ、薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連付けを図る。 （42　角山香織／1回） 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケア、医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性、病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について学習する。 （19　阪本恭子／1回） 生命・医療倫理の諸原則を学び、薬を扱う医療人としてどのような心構えで人間・生命に向き合うべきかを考え、人間の尊厳と生命の尊厳の意味について学習する。 （18　藤森功／1回） 薬剤師として薬の作用メカニズムや副作用を理解するために、生物系薬学や生命科学などの基礎知識の習得が必須であること、生命科学における基礎研究の成果がいかに医薬品開発に重要であるかについて学習する。 （27　天満敬／2回） 医薬品の創製に関わる基礎研究の重要性を放射性医薬品創薬を例に学習する。	オムニバス
	基礎細胞生物学	遺伝子、遺伝子の複製、遺伝子の発現とその調節に関する基本的知識の修得、また、細胞の増殖・分化・死の制御、生殖と発生、組織構築に関する基本的知識の修得を目的とする。講義では、染色体の構造・セントラルドグマ・ＲＮＡの種類と働き、ＤＮＡの複製の過程、ＤＮＡからＲＮＡへの転写、ＲＮＡのプロセシング、ＲＮＡからタンパク質への翻訳に関わる分子及び構造体の機能、ＲＮＡからタンパク質への翻訳過程、細胞の増殖、細胞死、正常細胞とがん細胞の違い、減数分裂、精子・卵の形成、受精の過程、発生・胚形成、細胞の分化機構、細胞集合による組織構築、個体と器官が形成される発生過程、形成体と誘導・誘導の連鎖、多細胞生物における細胞の多様性と幹細胞の性質、再生医療の原理・方法と手順・現状及び倫理的問題点、生体防御機構について学習する。	
	有機化学１	（概要） 有機化合物の立体配座・立体化学の概念を学び、求核置換、脱離反応を中心に基本的な有機化学反応について修得することを目的とする。（共同（一部）／計15回） （36　和田俊一／12回） アルカンの立体配座と配座解析、シクロアルカンの立体配座と相対的安定性、立体化学、キラル分子、ハロゲン化アルキルの求核置換反応・脱離反応、アルコールの脱水によるアルケンの合成、ジハロゲン化物の脱離反応によるアルキンの合成について学習する。 （36　和田俊一・4　宇佐美吉英・70　平田佳之・73　林淳祐／1回） 立体化学に関する演習を行う。 （36　和田俊一・25　平野智也・62　米山弘樹・63　菊地崇／1回） 求核置換反応に関する演習を行う。 （36　和田俊一・12　浦田秀仁・38　山田剛司・68　葉山登／1回） 脱離反応に関する演習を行う。	共同（一部） 講義24時間 演習6時間

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎薬学科目	有機化学２	（概要） 有機化合物の基本骨格となる脂肪族及び芳香族化合物の構造・性質・反応性などに関する基本的事項の修得、官能基を有する有機化合物の性質・反応性に関する基本的事項の修得を目的とする。（共同（一部）／計15回） （4　宇佐美吉英／12回） アルケンへの代表的な付加反応、アルケンの代表的な酸化・還元反応、アルキンの代表的な反応、炭素原子を含む反応中間体の構造と性質、代表的な官能基、、アルコール・フェノール類・エーテル類の基本的な性質と反応、アルデヒド類及びケトン類の基本的な性質と反応について学習する。 （4　宇佐美吉英・25　平野智也・38　山田剛司・63　菊地崇／1回） アルケンとアルキンの付加反応に関する演習を行う。 （4　宇佐美吉英・36　和田俊一・62　米山弘樹・70　平田佳之／1回） ラジカル反応、アルコール及びエーテルに関する演習を行う。 （4　宇佐美吉英・12　浦田秀仁・73　林淳祐・68　葉山登／1回） カルボン化合物からアルコールの合成に関する演習を行う。	共同（一部） 講義24時間 演習6時間
	有機化学３	（概要） 有機化合物、特に芳香族化合物とカルボニル化合物の性質を理解するために、その基本構造・化学的性質・反応性に関する基本的知識を修得することを目的とする。（共同（一部）／計13回） （12　浦田秀仁／10回） 共役と共鳴理論、有機化合物の性質と共鳴の関係、共役ジエンへのハロゲン化水素の付加反応の特徴、速度支配と熱力学支配、官能基が及ぼす電子効果、代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性、芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応機構、芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性・配向性などの置換基の効果、芳香族化合物の側鎖の反応性、アルデヒド及びケトンの性質と代表的な求核付加反応について学習する。 （12　浦田秀仁・38　山田剛司・73　林淳祐・68　葉山登／1回） 共役と共鳴理論、共役不飽和系に関する演習を行う。 （12　浦田秀仁・25　平野智也・36　和田俊一・62　米山弘樹／1回） 芳香族化合物に関する演習を行う。 （12　浦田秀仁・4　宇佐美吉英・63　菊地崇・70　平田佳之／1回） アルデヒド及びケトンに関する演習を行う。	共同（一部） 講義20時間 演習6時間
	有機化学４	（概要） 有機化合物、特にカルボニル化合物、アミン類及びフェノール類の性質を理解するために、その基本構造・化学的性質・反応性に関する基本的知識を修得することを目的とする。（共同（一部）／計15回） （12　浦田秀仁／12回） カルボン酸・カルボン酸誘導体の基本的性質と反応、ケトーエノール互変異性体とエノラートイオン、エノール及びエノラートイオンを経由する反応、代表的な炭素-炭素結合生成反応、アルドール反応・交差アルドール反応、クライゼン縮合と交差クライゼン縮合、αβ-不飽和カルボニル化合物への共役付加反応、含窒素化合物の塩基性度、アミンの代表的な合成法、アミンの基本的性質と反応、フェノール類の基本的な性質と酸性度、芳香族化合物の代表的な求核置換反応について学習する。 （12　浦田秀仁・4　宇佐美吉英・63　菊地崇・70　平田佳之／1回） カルボン酸とその誘導体に関する演習を行う。 （12　浦田秀仁・25　平野智也・73　林淳祐・68　葉山登／1回） エノラートイオンの化学に関する演習を行う。 （12　浦田秀仁・36　和田俊一・38　山田剛司・62　米山弘樹／1回） アミンとフェノールに関する演習を行う。	共同（一部） 講義24時間 演習6時間

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎薬学科目	有機スペクトル解析学	（概要） 代表的な機器分析法の原理とその応用に関する基本的事項、核磁気共鳴(NMR)・赤外吸収(IR)・質量分析スペクトルによる構造決定法の基本的事項を修得することを目的とする。（共同（一部）／計13回） （38　山田剛司／9回） 化学物質の決定に用いられる機器分析法の特徴、紫外可視吸光度測定法の原理及び応用例、赤外吸収（IR）スペクトル測定法の原理及び応用例、IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収、核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法の原理及び応用例、1H NMRスペクトルより得られる情報、有機化合物中の代表的プロトンの化学シフト値、1H NMRの積分値、1H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂する基本的な分裂様式、13C NMRスペクトルより得られる情報、質量分析法の原理及び応用例、ピークの種類、旋光度測定法の原理及び応用例について学習する。 （38　山田剛司・12　浦田秀仁・4　宇佐美吉英・25　平野智也・36　和田俊一・62　米山弘樹・63　菊地崇・70　平田佳之・73　林淳祐・68　葉山登／4回） スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収、代表的な化合物の部分構造を1H NMRから決定、測定化合物に適したイオン化法の選択、代表的な化合物のマススペクトルの解析、機器分析法を用いた代表的な化合物の構造決定に関する演習を行う。	共同（一部） 講義18時間 演習8時間
	物理化学１	気体の分子運動に関連した性質、熱とエネルギーの関係について巨視的・微視的観点から知識を修得することを目的とする。講義では、SI単位系、実在気体、気体の分子運動論、熱容量、等温可逆過程・等温不可逆過程、熱力学第一法則、熱効率、熱力学第二法則、状態変化とエントロピーについて学習する。	
	物理化学２	自由エネルギー、状態変化、平衡、相変化、固体の物性についての知識を修得することを目的とする。講義では、ヘムホルツとギブスエネルギー、化学ポテンシャルと平衡、1成分系の状態変化、相率と水の状態図、相平衡、2成分型状態図、結晶の規則性とＸ線回折、結晶多形・相転移・水和物結晶について学習する。	
	物理化学３	（概要） 医薬品の体内での動きを理解するために、固体や溶液の性質や物質の反応速度などについての知識を修得することを目的とする。（オムニバス方式／計13回） （5　友尾幸司／9回） 化学結合、物質の溶解と拡散、溶解速度に影響を与える因子、様々な複合反応、反応速度に影響を与える因子、代表的な触媒反応、界面における平衡と吸着平衡、流動現象及び粘度、生体膜と生体内への物質輸送について学習する。 （29　尹康子／4回） 希薄溶液の性質、溶解度と溶解度に影響を与える因子、反応次数と速度定数について学習する。	オムニバス
	分析化学１	化学物質をその性質に基づいて分析できるようになるために、物質の定性、定量などに必要な基本的知識、特に水溶液中での物質の性質を理解するための各種の化学平衡に関する基礎的知識の修得を目的とする。講義では、分析化学の用語・国際単位・濃度の表記、有効数字・誤差・分析法のバリデーション、容量分析、酸・塩基の強さ、強酸・強塩基・弱酸・弱塩基の水溶液のｐH、塩の水溶液のｐH・緩衝液・酸塩基滴定、非水滴定、錯生成に影響する要因、キレート滴定、沈殿生成平衡と溶解度積、沈殿滴定、標準電極電位・電池の起電力、電極反応のネルンスト式、ネルンスト式を用いた電極電位・酸化還元滴定、分配平衡について学習する。	
	分析化学２	化学物質の性質に応じて、その定性、定量法を設定できるようになるために、機器を用いた物質の分析に必要な基礎的知識の修得を目的とする。講義では、機器分析法の種類や特徴、電磁波分析法（電磁波の性質及び物質との相互作用、吸光・発光・散乱等の現象、光と原子の外殻電子、分子の電子遷移・振動・回転の関係、原子吸光光度法・原子発光分析の原理・応用、紫外可視吸光度測定法の原理、蛍光光度法及び発光分析法の原理・応用）、分離分析法（クロマトグラフィーの分類・全般的な原理、液体クロマトグラフィーの原理・応用、クロマトグラフィーで用いられる各種パラメータ、ガスクロマトグラフィーの原理・応用、電気泳動法の原理・応用、キャピラリー電気泳動法の原理・応用）について学習する。	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎薬学科目	放射化学	医療分野において必要なラジオアイソトープ及び放射線に関する基礎知識の修得と適正な取扱いための知識の修得を目的とする。講義では、ラジオアイソトープ・放射線の歴史、放射壊変・放射平衡、放射線と物質の相互作用、励起作用を利用した放射線測定、その他の放射線の測定法と測定値の取り扱いと統計処理、放射線の生体への影響、放射線障害発生のメカニズム、放射線の遺伝的影響、放射線管理と安全取扱いについて学習する。	
基礎薬学科目	生化学１	細胞の成り立ちを分子レベルで理解するための構成分子の構造・性状・機能に関する基本的知識の修得、また、タンパク質・酵素について理解するための構造・性状についての基本的知識の修得を目的とする。講義では、水の構造・性質・非共有結合性相互作用、水のイオン化・pH・酸塩基・pKaの関係、アミノ酸の構造に基づいた性質・ペプチド結合、タンパク質の分離・精製・分子量測定・アミノ酸配列決定法、タンパク質の構造の特徴・高次構造の決定法の特徴、タンパク質のドメイン構造・変性・再生・フォールディング、代表的なタンパク質の構造・機能、酵素反応の特性・様式、酵素反応速度論、酵素の阻害様式・酵素活性の調節機構、ビタミンの補酵素としての役割、単糖と二糖の種類・構造・性質・役割、代表的な多糖（複合多糖）の構造と役割、脂質の分類・構造の特徴・性質・役割、生体膜の構造の特徴・性質・役割、膜輸送を担うタンパク質の構造の特徴・性質・役割について学習する。	
基礎薬学科目	生化学２	生命活動が生体エネルギーにより支えられていることを理解するための食物成分からのエネルギーの産生、糖質・脂質・タンパク質の代謝に関する基本的知識の修得を目的とする。講義では、エネルギー代謝の概要、ギブズエネルギー、熱力学関数を用いた自発的な変化の方向と程度、ギブズエネルギーと平衡定数の関係、共役反応の原理、ATP以外の高エネルギー化合物、起電力とギブズエネルギーの関係、電極電位、解糖系及び乳酸の生成、アルコール発酵・乳酸発酵の生理的役割、糖新生、ペントースリン酸回路の生理的役割、グリコーゲンの代謝、血糖の調節機構、クエン酸回路、エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割、電子伝達系とATP合成酵素、ATP産生阻害物質の阻害機構、脂肪酸の生合成とβ酸化、脂肪酸の生合成とβ酸化、リン脂質の生合成、コレステロールの生合成と代謝、血漿リポタンパク質の種類・構造・機能、余剰のエネルギーを蓄える仕組み、飢餓状態のエネルギー代謝、アミノ酸分子中の炭素及び窒素の代謝、ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸の種類やエネルギー変換経路、ヌクレオチドと核酸の種類・構造・性質、ヌクレオチドの生合成と分解について学習する。	
基礎薬学科目	生化学３	生命情報を担う遺伝子の複製・発現とそれらの制御に関する基本的事項の修得を目的とする。講義では、遺伝情報・DNA・ゲノム・染色体の構造と遺伝子の構造、DNAの複製、RNAの種類と機能・DNAからRNAへの転写の過程、RNAのプロセシング、RNAからタンパク質への翻訳の過程、転写因子による転写制御、エピジェネティックな遺伝子発現制御とRNA干渉、遺伝子の変異とDNA損傷、DNAの修復・DNAの組換え、遺伝子進化・遺伝子ファミリー、遺伝のしくみと遺伝子多型、遺伝疾患、遺伝子工学技術、遺伝子組換えと遺伝子編集技術・遺伝子改変動物・遺伝子治療、遺伝子検査と個別化医療の原理について学習する。	
基礎薬学科目	微生物学	（概要） 微生物の分類・構造・生活環などに関する基本的事項の修得を目的とする。（オムニバス方式／計15回） （21　駒野淳／11回） 原核生物・真核生物・ウイルスの特徴、細菌の分類や性質、薬剤耐性菌及び薬剤耐性化機構、ウイルスの構造・分類・増殖機構・代表的なウイルス、真菌の性状・代表的な真菌、原虫及び蠕虫の性状・代表的な原虫及び蠕虫、滅菌・消毒・殺菌・静菌の概念、主な滅菌法及び消毒法、感染の成立と共生、日和見感染と院内感染、感染症法における感染症とその分類、代表的な感染症の治療法・予防対策について学習する。 （33　宮本勝城／4回） 講義では、細菌の構造と増殖機構、細菌の異化作用及び同化作用、細菌の遺伝子伝達、代表的な細菌及び細菌毒素について学習する。	オムニバス

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎薬学科目	機能形態学１	（概要） 生命体の成り立ちを個体・器官・細胞レベルで理解するための生命体の構造と機能調節などに関する基本的知識の修得を目的とする。（オムニバス方式／計15回） （11　大野行弘／6回） ヒトの身体を構成する器官・組織の種類・位置・機能、神経系・感覚器を介するホメオスタシスの調節機構、神経系の興奮と伝導の調節機構、シナプス伝達の調節機構、代表的な神経伝達物質、生理活性及び調節機構、末梢神経系について学習する。 （18　藤森功／9回） 胃・小腸・大腸・肝臓・膵臓・胆嚢について構成と機能、消化・吸収における神経系・ホルモンの役割、泌尿器・生殖器系の構成と機能、体液調節・尿精製機構、内分泌系（主要なホルモンの産生器官・生理活性・作用機構）、ホルモンによる生体機能の調節、血液・造血器系、リンパ管系と免疫について学習する。	オムニバス
	機能形態学２	生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するための生命体の構造と機能調節などに関する基本的知識の修得を目的とする。講義では、中枢神経、体性神経系の構成と機能、皮膚の構成と機能、感覚器系の構成と機能、肺、気管支などの呼吸器について構成と機能、心臓の構成と機能・血圧の調節機構、血管・リンパ系の構成と機能・血圧の調節機構、骨、筋肉系の構成と機能について学習する。	
	生物無機化学	基本的な無機及び有機化合物の構造、物性、反応性ならびに生命と金属の関わりを理解するために、電子配置、電子密度、化学結合の性質などに関する基本的知識の修得を目的とする。講義では、いくつかの金属が生体にとって必須になった理由、代表的な典型元素と遷移元素、代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称・構造・性質、代表的な無機イオンの定性反応、生体必須元素の働きと欠乏症、代表的な錯体の名称・立体構造・基本的性質、錯生成平衡と錯体の安定度定数、錯生成に影響する要因、キレート滴定、医薬品として用いられる代表的な無機化合物及び錯体、金属を含有する生体機能分子、生体内での酸化還元反応、生体内の複雑な酸化還元系について学習する。	
	免疫学	免疫反応を組織・細胞・分子レベルで理解し生体の恒常性を理解するための免疫反応・免疫関連疾患についての基礎的知識の修得を目的とする。講義では、免疫現象の発見の歴史ならびに自然免疫と獲得免疫の特徴、免疫系を構成する細胞・組織・器官の種類と機能、自然免疫に関与するバリアーや細胞の働き・補体の役割、抗体分子の構造と機能、B細胞の発生と分化過程ならびに遺伝子再構成の分子機構、クラススイッチの分子機構、主要組織適合抗原の構造と抗原提示、T細胞の発生と分化過程及びその機能、病原微生物に対する反応とワクチン、アレルギーの分類と担当細胞及びその反応ならびに炎症反応機構、自己免疫疾患の病因と病態、免疫不全症の病因と病態、移植に伴う拒絶反応に対する免疫反応、免疫学的疾患に用いられる抗炎症・抗アレルギー・免疫抑制剤・抗体医薬について学習する。	
応用薬学科目	医療統計学	統計手法の正しい適用及び統計学による医療への展開に係る知識の修得を目的とする。講義では、臨床研究における基本的な統計量の意味と違い、代表的な分布、帰無仮説の概念及び検定と推定の違い、主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定とそれらの使い分け、2群間の差の検定・複数の群間の差の検定、統計解析時の注意点、臨床研究の代表的な手法と特徴・長所・短所・エビデンスレベル、EBMの基本概念と実践のプロセス、観察研究での主な疫学研究デザイン、ケースコントロール研究で用いられるオッズ比の算出、コホート研究で用いられる相対リスクの算出、主な回帰分析と相関係数の検定、介入研究の計画上の技法、介入研究の効果指標の違い、臨床研究におけるバイアス・交絡、優越性試験と非劣性試験の違い、メタアナリシスの概念、基本的な生存時間解析法について学習する。	講義10時間 演習6時間
	生薬学	生薬の基原、性状、含有成分、品質評価、生産と流通、歴史的背景についての基本的知識、さらに臨床で使用される漢方薬について理解するための漢方生薬の薬能や副作用についての知識の修得を目的とする。講義では、世界の伝統医学と生薬の歴史、植物の学名及び生薬の学名、日本薬局方収載の代表的な生薬の基原・薬用部位・薬効・成分・用途、副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬、生薬の薬能、生薬の同定と品質評価法、生薬の生産と流通、生薬生産に取り巻く環境問題について学習する。なお本学薬用植物園、武田薬品・京都薬用植物園を利用し、薬用植物の形態観察を行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
応用薬学科目	基礎漢方薬学	漢方薬の適用症や副作用などを覚えるだけではなく、漢方薬を構成している生薬の作用や役割を理解することによる「考え、応用できる漢方」の基礎知識の修得を目的とする。講義では、漢方の歴史、漢方と中医学の特徴、陰陽・虚実・寒熱・表裏・気血水・証など漢方の基本用語、漢方薬と西洋薬・民間薬・サプリメント・保健機能食品などとの相違、漢方医学における診断法・体質や病態の捉え方・治療法、現代医療における漢方薬の役割、漢方薬の剤形と特徴、日本薬局方収載の代表的な生薬の基原・薬用部位・薬効・成分・用途、副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬、漢方薬の薬効を構成生薬の薬能、配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類、漢方医学における診断法・体質や病態の捉え方・治療法、日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証・症状や疾患、現代医療における漢方薬の役割、漢方薬の副作用と使用上の注意点、日本薬局方に収載されていない頻用漢方処方の適応となる証・症状や疾患について学習する。	
	薬用天然物化学１	医薬品資源としての天然生物活性物質を構造によって分類・整理するとともに、天然生物活性物質の利用に関する基本的事項の修得を目的とする。講義では、薬用天然物化学の歴史、植物の主な外部形態・内部形態、酢酸-マロン酸経路及びシキミ酸経絡由来の代表的な生物活性物質、イソプレノイド経路、アミノ酸経路及び複合経路由来の代表的な生物活性物質、代表的な糖類の種類・構造・性質・役割、代表的な薬用植物の外部形態、脂質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質、芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質、法律によって取り扱いが規制されている植物（アサ）の特徴について学習する。	
	薬用天然物化学２	医薬品資源としての天然生物活性物質を構造によって分類・整理するとともに、天然生物活性物質の利用に関する基本的事項の修得を目的とする。講義では、テルペノイド・ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質、代表的な薬用植物を外部形態、アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質、法律によって取り扱いが規制されている植物（ケシ）の特徴、微生物由来の生物活性物質の化学構造、生薬由来の代表的な生物活性物質とその作用等について学習する。	
	衛生薬学１	（概要） 化学物質などの生体への有害作用を回避し、適正に使用できるようになるための化学物質の毒性などに関する基本的事項の修得、食生活が健康に与える影響を科学的に理解するための食品衛生に関する基本的事項の修得を目的とする。（オムニバス方式／計15回） （32　佐久間覚／7回） 代表的な有害化学物質の吸収・分布・代謝・排泄の基本的なプロセス、第Ⅰ相反応・第Ⅱ相反応・第Ⅲ相反応が関わる代謝・代謝的活性化、肝臓・腎臓・神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質、重金属・PCB・ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性・慢性毒性の特徴、電離放射線の生体への影響と防御法、発がん性物質などの代謝的活性化の機構とその反応機構、遺伝毒性試験（Ames試験など）の原理、発がんに至る過程（イニシエーション、プロモーションなど）、重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について学習する。 （48　長谷井友尋／2回） 代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）の中毒症状や作用器官とこれらの解毒処理法・試験法について学習する。 （26　奥平桂一郎／6回） 食中毒の原因となる代表的な自然毒とその原因物質・作用機構・症状の特徴、カビや化学物質による食品汚染とヒトの健康に及ぼす影響、炭水化物・タンパク質が変質する機構、油脂が変敗する機構、食品の変質を防ぐ方法（保存法）、食品成分由来の発がん性物質とその生成機構、代表的な食品添加物・その用途・それらの働き、食品衛生に関する法的規制について学習する。	オムニバス

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
応用薬学科目	衛生薬学２	（概要） 地球生態系や生活環境を保全・維持できるようになるための環境汚染物質などの成因・測定法・生体への影響・汚染防止・汚染除去などに関する基本的事項の修得、また、化学物質などの生体への有害作用を回避し、適正に使用できるようになるための化学物質の安全性評価と適正使用に関する基本的事項の修得を目的とする。（オムニバス方式／計15回） （32　佐久間覚／13回） 生態系の構成員とその特徴・相互関係、化学物質の環境内動態と人の健康への影響、四大公害・典型七公害、環境基本法の理念、室内環境を評価するための代表的な指標、室内環境と健康との関係、空気の成分、主な大気汚染物質とその測定原理・健康影響、主な大気汚染物質の発生源とその年次推移、大気汚染に影響する気象要因（逆転層など）、大気汚染を防止するための法規制、原水の種類・特徴、水の浄化法、水の塩素処理、水道水の水質基準とその測定原理、下水処理・排水処理の主な方法、富栄養化の原因・問題点とその対策、水質汚濁を防止するための法規制、水質汚濁の主な指標とその測定原理、非電離放射線・紫外線・赤外線の種類・特徴と生体に及ぼす影響、地球規模の環境問題の成因と人に与える影響、地球環境の保全に関する国際的な取組み、廃棄物の種類、廃棄物処理の問題点とその対策、マニフェスト制度、化管法について学習する。 （48　長谷井友尋／2回） 化学物質の毒性を評価するための主な試験法、毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係・閾値・無毒性量（NOAELなど）、化学物質の安全摂取量（1日許容摂取量など）、有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制（化審法）について学習する。	オムニバス
	衛生薬学３	食生活が健康に与える影響を科学的に理解するために、栄養と食品機能、食品衛生に関する基本的事項の修得を目的とする。講義では、栄養化学的な観点から糖質・脂質・タンパク質の生理機能、栄養化学的な観点からビタミン、ミネラルの生理機能、五大栄養素以外の食品成分の生理機能、エネルギー代謝に関わる基礎代謝量などの数値の意味、食事摂取基準と日本における栄養摂取の現状、栄養素の過不足による主な疾病と疾病治療、特別用途食品と保健機能食品、特定保健用食品の主な用途と機能性成分、アレルギー物質を含む食品及び遺伝子組換え食品に関する知識と法的規制、食中毒の原因となる代表的な自然毒、カビや化学物質による食品汚染の具体例、炭水化物・タンパク質が変質する機構、油脂が変敗する機構、食品の変質を防ぐ方法（保存法）、食品成分由来の発がん性物質と生成機構、食品添加物の分類と法的規制、代表的な食品添加物の働きについて学習する。	
	衛生薬学４	人々（集団）の健康と疾病の現状及びその影響要因を把握するために、保健統計と疫学に関する基本的事項の修得を目的とする。また、健康を理解し疾病の予防に貢献できるようになるために、感染症、生活習慣病、職業病などについての現状とその予防に関する基本的事項の修得を目的する。講義では、健康と疾病の概念と疾病構造の変遷、疾病の予防、一次から三次予防、 健康増進政策（健康日本21など）、生活習慣病の種類とその動向、生活習慣病の代表的なリスク要因と予防法、母子保健と新生児マススクリーニングの意義、学校保健、代表的な労働災害、職業性疾病、労働衛生管理、人口統計の意義、人口動態と人口静態、疾病予防における疫学の役割、疫学の成因・疫学研究の種類と方法、要因対照研究・症例対照研究の方法の概要と相対危険度、寄与危険度あるいはオッズ比、疫学データを解釈する上での注意点、日和見感染症・院内感染症、代表的な新興感染症・再興感染症、一から三類感染症、代表的な四・五類感染症、新型インフルエンザ等感染症・指定感染症・新感染症、代表的な細菌性とウイルス性食中毒、母子感染する代表的な疾患と予防対策、代表的な性感染症、予防接種におけるワクチンの分類、予防接種法における対象疾病・接種時期について学習する。	
	病原微生物学	ヒトと微生物の関わりおよび病原微生物に関する基本的事項の修得を目的とする。講義では、微生物の性質、微生物と宿主との関係、常在微生物、微生物と感染症、感染症と薬学、感染の成立（感染源、感染経路、侵入門戸など）と共生（腸内細菌など）、日和見感染と院内感染、DNAウイルス・RNAウイルス、グラム陽性球菌・グラム陽性桿菌・グラム陰性桿菌、グラム陰性らせん菌およびスピロヘーター、抗酸菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、真菌、原虫、蠕虫について学習する。	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
応用薬学科目	分子細胞生物学	細胞間コミュニケーション及び細胞内情報伝達の方法と役割、及び細胞周期と細胞分裂・細胞死に関する基本的事項の修得、さらに、生体の維持に関わる情報ネットワークを担う代表的な情報伝達物質の種類、作用発現機構に関する基本的事項の修得を目的とする。講義では、ホルモンやオータコイド・細胞増殖因子・サイトカインなどの生理活性分子の生成機構や分解機構、細胞表面受容体や細胞内受容体を介した細胞内シグナル伝達機構、Ｇタンパク質やプロテインキナーゼが関与する細胞内シグナル伝達経路、細胞内シグナル伝達におけるがん遺伝子とがん抑制遺伝子の働きについて学習する。	
	ゲノム医科学	ゲノム情報を理解するために必要とされる分子生物学的知識を修得することを目的とする。講義では、DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何か、組換えDNA技術の概要、DNA塩基配列の決定法、PCR法による遺伝子増幅の原理、組換えタンパク質の発現方法、特定の塩基配列の検出方法、遺伝子多型、遺伝子と遺伝のしくみ、代表的な遺伝疾患、RNAの大規模解析、エピジェネティックな転写制御、薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因、遺伝子診断、遺伝子治療、ゲノム創薬について学習する。	
	バイオインフォマティクス	医薬品の開発や研究に必要な生体分子の構造や機能に関して、それらの情報や解析などに関する基本的知識の修得を目的とする。演習では、バイオインフォマティクス概要、MEDLINE などの医学・薬学文献データベース検索、コンピューターを用いた特徴的な塩基配列の検索、BLAST による配列の比較、BLASTのプログラムの違い、BLASTを用いたPCRプライマーの設計、真核生物のゲノムに含まれる遺伝子の検索・閲覧、次世代シーケンシング（NGS)を用いたデータ処理、タンパク質のアミノ酸配列から分子系統樹の作製、タンパク質のアミノ酸配列からファミリー・ドメイン・モチーフの検索、タンパク質のアミノ酸配列から局在部位・膜貫通部位・二次構造の予測、Protein Data Bankを用いたタンパク質の立体構造の表示、タンパク質の高次構造データベースから種々のタンパク質の立体構造データの取得と表示、さまざまな生物の代謝経路の違い、トランスクリプトームに、任意の遺伝子組織や培養細胞での発現プロファイル、種々の発現データベースを利用した目的遺伝子の発現プロファイル解析、ゲノム情報や論文情報におけるAIの利用など最新情報やトレンドについて学習する。	
	応用分析学	医薬品分析や臨床分析の具体的な方法を設定できるようになるための電気化学分析及び生物学的分析法の基礎的事項を修得し、日本薬局方の具体的な試験法を理解することを目的とする。講義では、電気化学分析（電極電位及び電気化学的測定法、電気伝導率測定法、電気滴定の原理・応用）、生物学的分析法（臨床分析法、酵素的分析法の原理・応用、イムノアッセイの原理・応用、センサー、ドライケミストリーの原理・応用）について学習する。	講義14時間 演習12時間
	応用放射化学	放射線の現代医療における重要性とリスク、画像診断法並びに放射線療法の基礎の修得を目的とする。講義では、放射線のリスクと医療における放射線の必要性、ＭＲＩ、超音波検査、内視鏡検査、核医学(ＰＥＴ、ＳＰＥＣＴ)画像診断法、一般造影剤・画像診断、放射性医薬品とＰＥＴ診断・ＳＰＥＣＴ診断、癌の放射線療法について学習する。	
	生物物理化学	生体分子の機能及び医薬品の働きを立体的・動的にとらえるために、タンパク質、核酸及び脂質などの立体構造やそれらの相互作用に関する知識の修得を目的とする。講義では、アミノ酸の性質と構造、核酸・脂質・糖の性質と構造、生体膜の構造と膜透過機構、タンパク質の立体構造と生体分子間の相互作用力、タンパク質の分離・分析法、酵素の働き、酵素反応とその機構、分光学的手法（紫外可視吸光度法、蛍光法赤外吸収）の原理・応用、分光学的手法（赤外吸収、旋光度、Ｘ線結晶解析、核磁気共鳴法）の原理・応用について学習する。	
	分子設計学	分子設計の科学的な考え方を理解するために、標的生体分子との相互作用生及び基盤となるサイエンスと技術に関する基本的知識と技能の修得を目的する。講義では、タンパク質の立体構造を規定する因子、タンパク質の折りたたみ過程、酵素や抗体などの構造と機能、RNA からタンパク質への翻訳の過程、 酵素触媒反応の原理、酵素触媒反応と立体構造の関係、酵素の基質特異性の改変、タンパク質のデノボデザイン、インシリコ創薬、ペプチドを用いた分子設計、核酸分子を用いた分子設計、抗体を用いた分子設計、機能解析のための立体構造データベースの利用法について学習する。	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
応用薬学科目	物理薬剤学	（概要） 薬物と製剤材料の性質を理解し、応用するためにそれらの物性に関する基本的知識の修得を目的とする。（オムニバス方式／計15回） （47　門田和紀／10回） 薬剤学・製剤学・物理薬剤学の概要と関連性、粉体の性質、エンタルピー・エントロピー・ギブスエネルギーと化学ポテンシャルの関係、熱重量測定法の原理、示差熱分析法・示差走査熱量測定法、界面の性質や代表的な界面活性剤の種類・性質、代表的な分散系とその性質、分散した粒子の安定性と分離現象、分散安定性を高める代表的な製剤的手法、注射により投与される製剤の特徴、流動と変形、高分子の構造と高分子溶液の性質、製剤分野で汎用される高分子の構造・物性、医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子、生物学的同等性、薬物の安定性や安定性に影響を及ぼす因子、反応速度と温度との関係、反応次数と速度定数、微分型速度式の積分型速度式への変換、代表的な反応次数の決定法、薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法について学習する。 （23　戸塚裕一／5回） 静電相互作、結晶や非晶質、無水物や水和物の性質、結晶構造と回折現象、Ｘ線結晶解析の原理・応用、粉末Ｘ線回折測定法の原理・利用法、希薄溶液の束一的性質、固形材料の溶解現象・溶解した物質の拡散・溶解速度、固形材料の溶解に影響を及ぼす因子、希薄溶液の束一的性質、固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法について学習する。	オムニバス
	合成化学	これまでに学んだ有機化学との関連性を明確にすることで、自然界に豊富で安価な出発原料から、いかに付加価値の高い有機医薬品合成へと展開するかについて修得することを目的とする。講義では、アルカン・アルケン・アルキンの合成とそれらを含む医薬品合成、アルケン・アルキンの合成とそれらを含む医薬品合成、ハロゲン化合物の合成と医薬品へ応用、アルコール・フェノール・エーテルの合成と医薬品への応用、アルデヒド・ケトンの合成と医薬品への応用、カルボン酸と誘導体の合成と医薬品合成、アミンの合成と医薬品への展開、芳香族複素環化合物の反応について学習する。	
	薬品合成化学	医薬品を含む目的化合物を合成するために、代表的な炭素骨格の構築法などに関する知識の修得を中心に、ターゲット化合物を合成するために、どのような努力や配慮がなされているかということに関しても学ぶことを目的とする。講義では、アルドール縮合及び関連反応と医薬品合成、選択的アルドール反応、Wittig反応とHorner-Wadsworth-Emmons反応、Michael付加とRobinson環化、Diels-Alder反応 1、Wagner-Meerwein転位、pinacol転位、Baeyer-Villiger酸化、シグマトロピー、逆合成、保護基、光学活性化合物を得る方法、 金属触媒を用いるカップリング反応、プロセス化学について学習する。	
	医薬品化学	医薬品の生体内での作用を有機化学の視点で理解するために、医薬品及びその標的となる生体分子の構造と性質、生体内での反応に関する基本的事項を修得することを目的とする。 講義では、医薬品の創製の歴史及び開発のプロセス、医薬品の生体分子との相互作用、ファーマコフォア、バイオアイソスター、プロドラッグなど薬物動態を考慮した医薬品の化学構造、医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質、生体分子に作用する医薬品の構造と性質、自律神経系に作用する医薬品、体性神経系に作用する医薬品、中枢神経系に作用する医薬品、ステロイド系ホルモンの化学構造に基づく性質について学習する。	
医療薬学科目	早期体験学習 1	薬学生として学習に対するモチベーションを高めるために早期体験学習を中心に薬剤師及び薬学卒業生の活躍する現場を体験し、さらに、患者・生活者本位の視点に立つ医療人として果たすべき役割を理解し、その重要性や課題を討議することを目的とする。この体験学習では、コンプライアンス研修、医療現場における薬剤師のマナー（倫理）や薬局薬剤師・病院薬剤師の業務と果たすべき役割についての導入講義を経て、小グループ単位で地域の総合病院、薬局、ドラッグストアー、製薬企業、介護施設等の見学を実施する。なお、見学前には施設体験の動機付けと目標設定についてグループディスカッションを行う。また、見学後には各薬剤師の役割や位置付け、現状での問題点などについてグループディスカッションを行った後、全体発表会を実施することで、それぞれの学びを共有する。	共同 講義12時間 現場体験4時間 演習8時間

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
医療薬学科目	早期体験学習２	薬物治療に必要な情報を収集するための基本的技能や手技について学習し、さらに体験を通して身に付けることを目的とする。また、生命に係わる専門職となることを自覚し、それにふさわしい行動・態度をとることができるようになるために、人との共感的態度を身に付け、信頼関係を醸成し、さらに生涯にわたってそれらを向上させる習慣を身に付けることを目的とする。授業は、グループに分かれてローテーション形式で医療現場におけるさまざまな技術・手技等について順番に学ぶ。薬剤師としてのフィジカルアセスメント、神経診察、 血圧測定、持参薬の選別・確認、病院施設内におけるTDMの流れ、スパイロメータとパルスオキシメータ、救急蘇生、薬学的管理、患者自身が実施できる薬物療法のモニタリング、 循環器系の検査、泌尿器系の検査について学習する。	共同 講義10時間 実習20時間
	人体の構造と病態１	（概要） 薬物治療を含めた医療に携わるために、人体の構造と各臓器の機能、疾患の病態生理に関する基本的知識の修得を目的とする。（オムニバス方式／計13回） （8　松村人志／10回） 解剖学・生理学・病態生理学の概略と目的、骨・関節と皮膚の構造・機能とその異常、上部消化管の構造・機能とその異常、下部消化管の構造・機能とその異常、肝臓・胆道・膵臓の構造・機能とその異常、造血器の構造・機能と赤血球系疾患、造血器の構造・機能と白血球系疾患、中枢神経系の構造・機能とその異常、大脳・大脳基底核・小脳・視床・視床下部の構造・機能とその異常、脊髄・末梢神経・神経筋伝達系の構造・機能とその異常について学習する。 （50　山口敬子／1回） 造血器の構造・機能と止血・凝固・線溶系について学習する。 （44　幸田祐佳／2回） 視覚器の構造・機能と眼の光学装置の疾患、聴覚・痛覚・嗅覚・味覚器の構造・機能とその異常について学習する。	オムニバス
	人体の構造と病態２	（概要） 人体の基本構造と各臓器の役割の理解を基に、各器官系に生じる疾患を知り、それぞれの疾患の病態生理の概略を理解することを目的とする。（オムニバス方式／計13回） （21　駒野淳／4回） 心臓・血管系の解剖・生理、心不全の病態、心臓刺激伝導系の構造、不整脈の発生機序と病態、動脈硬化と急性冠症候群について概念と病態、高血圧症ならびに代表的な弁膜疾患・心筋疾患の病態生理について学習する。 （45　加藤隆児／4回） 肺の構造と機能、閉塞性・拘束性肺疾患・間質性肺炎の病態生理、呼吸器感染症・肺がんの病態生理、腎ネフロンの構造と機能、慢性腎臓病・腎不全・ネフローゼ症候群の病態生理、尿管・膀胱・前立腺の構造と機能、関連疾患の病態生理について学習する。 （28　井尻好雄／5回） ホルモンの概説、下垂体疾患・副・甲状腺・副腎疾患、糖尿病・低血糖の病態生理、脂質異常症・高尿酸血症・痛風の病態生理、妊娠高血圧症候群・子宮内膜症・不妊症・更年期障害・女性器がん、アレルギーの種類・機序、免疫性疾患・HIV 感染症について学習する。	オムニバス

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	病態生化学	疾患の発症と進展機構を細胞及び分子レベルで理解することを目的とする。また、代謝反応や情報伝達経路の異常について理解するために、主たる疾病の発症、進展の分子メカニズム及び薬剤の作用点に関する基礎的及びさらに深い知識の修得を目的とする。講義では、細胞小器官の機能、細胞小器官の異常と疾患の発症・進展機構及び病態、糖質の代謝異常と疾患の発症・進展機構及び病態、タンパク質及びアミノ酸の代謝異常と疾患の発症・進展機構及び病態、脂質の種類と機能、脂質の代謝異常と疾患の発症・進展機構及び病態、ビタミンの種類と機能、ビタミンに関わる疾患の発症・進展機構及び病態、骨及び関節の成り立ち（構造）と機能、骨・関節疾患の病態と疾患の発症機構、造血及び造血の調節機構、血液・造血系の異常と疾患の発症・進展機構及び病態、免疫機構、免疫系の異常と疾患の発症機構及び病態、消化器系の各臓器（器官）の構造と機能、消化器系の異常と疾患の発症・進展機構及び病態、泌尿器系（腎臓、尿管、膀胱）の構造と機能、泌尿器系異常と疾患の発症・進展機構及び病態、肝臓・胆のう・膵臓の構造と機能、肝胆膵疾患の病態と疾患の発症・進展機構及び病態、ホルモンの分泌器官（細胞）及びその調節機構、ホルモンの分泌異常と疾患の発症・進展機構及び病態、生活習慣病の種類、生活習慣病の病態と疾患の発症・進展機構、染色体・遺伝子及び遺伝形式、先天性代謝異常症や染色体異常の病態と疾患の発症・進展機構について学習する。	
医療薬学科目	薬理学１	薬物作用に関する基本的知識を修得した上で、末梢神経系に作用する薬物及び消化器系に作用する薬物の作用機序・薬理作用・臨床応用・副作用に関する知識を修得することを目的とする。講義では、薬の用量と作用の関、薬物の主作用と副作用・毒性との関連、アゴニストとアンタゴニスト、薬物の体内動態と薬効発現の関わり、薬物の選択・用法・用量の変更が必要な要因、薬物依存性・耐性、受容体・酵素・イオンチャネル及びトランスポーター、代表的な受容体の刺激・遮断された場合の生理反応、薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系の活性化あるいは抑制された場合の生理反応、交感神経系に作用する支配器官の機能を修飾する代表的な薬物・自律神経節に作用する代表的な薬物・運動神経系及び骨格筋に作用する代表的な薬物・覚神経に作用する代表的な薬物の薬理作用・作用機序・臨床用途・主な副作用、消化器疾患の薬理について学習する。	
	薬理学２	オータコイドとその関連薬、循環器系、腎臓、血液・造血器系に作用する薬物ならびに代謝性疾患治療薬に関する基本的知識の修得を目的とする。講義では、オータコイド、ヒスタミン・セロトニン及び主要な生理活性ペプチドの生理学的及び病態学的役割と関連薬物、主要な生理活性ペプチド・一酸化窒素・エイコサノイドの生理学的及び病態学的役割と関連薬物、心血管系の生理・機能・主な病態、心不全治療薬・不整脈治療薬・虚血性心疾患治療薬・高血圧治療薬・利尿薬・止血薬・抗血栓薬・造血薬の薬理作用・作用機序・臨床用途・主な副作用、代表的な糖尿病治療薬・脂質異常症治療薬・高尿酸血症・痛風治療薬・カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬の作用機序・主な副作用について学習する。	
	薬理学３	中枢神経系、呼吸系、免疫・炎症・アレルギーに作用する薬物に関する基本的、専門的知識の修得を目的とする。講義では、代表的な神経伝達物質のシナプス伝達機構や精神神経疾患との関連及び神経興奮薬の薬理、統合失調症の治療薬の薬理と病態、うつ病・躁うつ病の治療薬・不安神経症・心身症・不眠症の治療薬の薬理と病態、全身麻酔薬・催眠薬の薬理と臨床適用、パーキンソン病の治療薬・認知症・脳血管疾患の治療薬・てんかんの治療薬の薬理と病態、麻薬性鎮痛薬・非麻薬性鎮痛薬・片頭痛治療薬の薬理と病態、抗炎症薬・解熱性鎮痛薬の薬理と臨床適用、免疫調整薬・リウマチ治療薬・アレルギー治療薬の薬理と臨床適用、呼吸器疾患（呼吸抑制、咳・痰、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎など）の治療薬の薬理について学習する。	
	薬理学４	感染症・悪性腫瘍に用いられる化学療法薬及び内分泌疾患治療薬に関する基本的知識の修得を目的とする。講義では、代表的な抗菌薬・抗真菌薬・抗結核薬・抗ウィルス薬・抗悪性腫瘍薬・分子標的治療薬の作用機序・主な副作用、視床下部及び脳下垂体ホルモン・甲状腺及び膵臓ホルモンの生理・薬理作用、代表的な甲状腺機能異常症治療薬・インスリン製剤の作用機序・主な副作用、副腎皮質及び髄質ホルモン・性ホルモンの生理・薬理作用と臨床適用・主な副作用について学習する。	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
医療薬学科目	製剤学	（概要） 製剤化の方法と意義を理解するための薬物と医薬品添加剤の物性、医薬品の代表的な剤形の製造方法、及び薬物送達システムに関する基本的知識と技能、また、医薬品の用途に応じた適切な剤形を理解するための製剤の種類・有効性・安全性・品質などに関する基本的知識の修得を目的とする。 （オムニバス方式／計15回） （23　戸塚裕一／10回） 製剤化の概要と意義及び代表的な剤形の種類と特徴、経口投与する製剤の種類とその特性、医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション、三薬局方及び薬局方国際調和会議、代表的な医薬品・その他の化学物質の定性・定量法を含む各種の分離分析のための基本的知識、固体製剤の基礎物性、代表的な剤形・製剤添加物の種類と性質、固体製剤の基礎物性、医薬品添加物の種類・用途・性質の理解、添加剤としての高分子の利用、製剤化のための単位操作と汎用される製剤機械、製剤に関連する試験法、製剤各論(注射剤などの無菌製剤とそれらに関連する製剤試験法、滅菌法、無菌操作法、生物学的試験法／生化学的試験法／微生物学的試験法)、DDSの概念と有用性、代表的な DDS 技術、プロドラッグ、コントロールドリリース技術、ターゲティング技術、吸収改善技術について学習する。 （47　門田和紀／5回） 代表的な固形製剤・半固形製剤・液状製剤の種類と性質、界面やレオロジーと関連する皮膚に適用する製剤の種類とその特性、代表的な無菌製剤の種類と性質、日本薬局方の製剤に関連する試験法、注射剤製造に必要とされる容器・包装の特徴、粘膜に適用する製剤など医療用に用いられる種々の製剤について学習する。	オムニバス
	生物薬剤学１	薬物の生体内運命を表す諸過程（吸収、分布、代謝、排泄）における「吸収」と「分布」、ならびに体内動態諸過程を考察する上で基礎となる「生体膜透過」に関する基本的知識の修得するを目的とする。講義では、薬物の体内動態と薬効発現の関わり、薬物の生体膜透過における単純拡散・促進拡散・能動輸送の特徴、薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの特徴と薬物動態における役割、経口投与された薬物の吸収、薬物の吸収に影響する因子、初回通過効果、薬物の吸収に影響する因子、薬物の吸収過程における相互作用、非経口的に投与される薬物の吸収、呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効、感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効、薬物が結合する代表的な血漿タンパク質とタンパク結合の強い薬物、薬物の組織移行性と血漿タンパク結合・組織結合との関係、薬物のタンパク結合・結合阻害の測定・解析方法、薬物のタンパク結合・代謝・生体膜輸送の測定・解析結果に基づく薬物動態学的特徴、薬物の分布過程における相互作用、血液－組織関門の構造・機能と薬物の脳や胎児等への移行、薬物のリンパ及び乳汁中への移行、神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連について学習する。	
	生物薬剤学２	薬物の生体内運命を表す諸過程（吸収、分布、代謝、排泄）における「代謝」と「排泄」、ならびに薬物の処理能力の指標となるクリアランスに関する基本的知識をの修得を目的とする。講義では、薬物動態における代謝及び排泄の位置づけ、代表的な薬物代謝酵素の代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官・反応様式、薬物代謝酵素の反応機構、薬物代謝の第Ⅰ相反応・第Ⅱ相反応、代表的な薬物代謝酵素により代謝される薬物、プロドラッグと活性代謝物、体内動態・薬物代謝を考慮したドラッグデザイン、薬物代謝酵素の阻害及び誘導のメカニズムとそれらに関連して起こる相互作用、薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因、低出生体重児・新生児・乳児・幼児・小児における薬物動態と薬物治療で注意すべき点、高齢者における薬物動態と薬物治療で注意すべき点、薬物のタンパク結合・代謝・生体膜輸送の測定・解析結果に基づく薬物動態学的特徴、薬物の尿中排泄機構、腎クリアランス・糸球体ろ過・分泌・再吸収の関係、代表的な腎排泄型薬物、循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効の関連、薬物の排泄過程における相互作用、腎疾患・腎機能低下時における薬物動態、薬物治療・投与設計において注意すべき点、薬物の胆汁中排泄と腸肝循環、妊娠・授乳期における薬物動態、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点について学習する。	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	薬物動態解析学	薬物動態の理論的解析ならびに投与設計に関する基本的事項の修得を目的とする。講義では、薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現の関わり、線形コンパートメントモデルの概念、静脈内単回投与時の速度論、静脈内定速注入の速度論、経口投与時の速度論、繰り返し投与時の速度論、体内動態が非線形性を示す薬物例、非線形モデルに基づいた解析、生理学的モデル、モーメント解析について学習する。	
医療薬学科目	薬物治療学１	（概要） 消化器、血液・造血器、皮膚の代表的な疾患の疾患概念、症候、病態生理、臨床検査値、適切な治療薬の選択と使用方法に関する基本的知識の修得を目的とする。（オムニバス方式／計15回） （45　加藤隆児／8回） 上部消化管疾患（消化性潰瘍、消化性潰瘍、逆流性食道炎（GERD）、胃炎・腸炎）・下部消化管疾患（ディスペプシア、過敏性腸症候群、潰瘍性大腸炎、クローン病）・肝疾患（肝炎、肝硬変、脂肪肝）・胆膵疾患（胆石症、胆管炎、膵炎）・消化器系の悪性腫瘍（胃がん、食道がん、肝がん、大腸がん、膵がん）・皮膚疾患（アトピー性皮膚炎、皮膚真菌症、蕁麻疹、乾癬、褥瘡）の病態生理・臨床検査値・適切な薬物治療について学習する。 （8　松村人志／4回） 貧血（再生不良性、鉄欠乏性、巨赤芽球性、腎性、溶血性貧血など）・白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫・白血球減少症の病態生理・臨床検査値・適切な薬物治療について学習する。 （50　山口敬子／3回） 紫斑病・播種性血管内凝固症候群（DIC）・血友病・血栓塞栓症の病態生理・臨床検査値・適切な薬物治療について学習する。	オムニバス
	薬物治療学２	（概要） 心血管・呼吸器・腎・泌尿器・代謝領域の代表的な疾患の疾患概念、症候、病態生理、臨床検査値、適切な治療薬の選択と使用方法に関する基本的知識の修得を目的とする。（オムニバス方式／計15回） （24　福森亮雄／8回） 不整脈及び関連疾患・急性及び慢性心不全・虚血性心疾患・本態性高血圧症・二次性高血圧症・閉塞性動脈硬化症・心原性ショック・弁膜症・先天性心疾患・脂質異常症・高尿酸血症・痛風の病態生理・臨床検査値・適切な薬物治療、止血薬の薬理・臨床適用、抗血栓薬・抗凝固薬・血栓溶解薬の薬理・臨床適用について学習する。 （44　幸田祐佳・28　井尻好雄／2回） 糖尿病とその合併症の病態生理・臨床検査値・適切な薬物治療について学習する。 （45　加藤隆児／4回） 腎臓及び尿路における代表的な疾患・腎不全・ネフローゼ症候群・過活動膀胱及び低活動膀胱・糸球体腎炎・糖尿病性腎症・薬剤性腎症・かぜ症候群・インフルエンザ・肺炎・結核・閉塞性肺疾患・拘束性肺疾患の病態生理・臨床検査値・適切な薬物治療について学習する。 （28　井尻好雄・44　幸田祐佳・45　加藤隆児／1回） 循環器、代謝、呼吸器、腎疾患の複合処方例に関する患者の病態・処方意図・注意点について学習する。	オムニバス 共同（一部）
	薬物治療学３	（概要） 神経・筋疾患、精神疾患、頭痛の疾患概念、症候、病態生理、臨床検査値、適切な治療薬の選択と使用方法に関する基本的知識の修得を目的とする。（オムニバス方式／計15回） （1　松村人志／8回） 脳血管疾患（脳出血及びくも膜下出血、脳梗塞、一過性脳虚血発作）・パーキンソン病・統合失調症・気分障害・神経症性障害・睡眠覚醒障害・心身症・依存症・ADHD・その他の精神疾患の病態生理・臨床検査値・適切な薬物治療について学習する。 （24　福森亮雄／5回） 脳炎・髄膜炎・脳膿瘍・てんかん・熱性けいれん・認知症・多発性硬化症・筋萎縮性側索硬化症などんついて学習する。 （44　幸田祐佳／2回） 片頭痛・緊張型頭痛・群発頭痛糖尿病の病態生理・臨床検査値・適切な薬物治療、全身麻酔薬の特徴及び臨床適用について学習する。	オムニバス

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
医療薬学科目	薬物治療学４	（概要） 眼疾患、耳鼻咽喉の疾患、がん、緩和医療の疾患概念、症候、病態生理、臨床検査値、適切な治療薬の選択と使用方法に関する基本的知識の修得を目的とする。（オムニバス方式／計15回） （44　幸田祐佳／4回） 眼疾患・耳鼻咽喉の疾患の病態生理・臨床検査値・適切な薬物治療について学習する。 （28　井尻好雄／9回） 悪性腫瘍の定義・がんの発生と転移・腫瘍の分類・TNM分類・病期分類・腫瘍マーカー、悪性腫瘍の疫学、Precision Medicine、がん遺伝子医療、がん遺伝子パネル検査、コンパニオン診断、Onco-Cardiology、正常細胞とがん細胞の違い、がん遺伝子とがん抑制遺伝子、悪性腫瘍の薬物治療の位置づけ、代表的ながん化学療法のレジメン、急性（慢性）骨髄性白血病・急性（慢性）リンパ性白血病・成人T細胞白血病・悪性リンパ腫及び多発性骨髄腫・胃癌・食道癌・肝細胞癌・大腸癌・胆嚢胆管癌・膵臓癌・小細胞肺癌・非小細胞肺癌・乳癌・脳腫瘍・網膜芽細胞腫・喉頭・咽頭・鼻腔副鼻腔・口腔の悪性腫瘍・前立腺癌・子宮体癌・子宮頸癌・卵巣癌・腎癌・膀胱癌の病態生理・臨床検査値・適切な薬物治療について学習する。 （56　内田まやこ／2回） がん治療のチーム医療における薬剤師の役割、がん性疼痛の病態（病態生理、症状等）と薬物治療（医薬品の選択等）、緩和ケアや外来化学療法における適切な薬学的管理について学習する。	オムニバス
	医薬品情報学	医薬品情報・患者情報の収集・評価・加工・提供・管理に関する基本的事項の修得を目的とする。講義では、医薬品を使用したり取り扱う上での必須の医薬品情報、医薬品情報に関わる職種と役割、医薬品添付文書の法的位置付け、医薬品添付文書の記載項目、医薬品インタビューフォームの位置付けと医薬品添付文書との違い、厚生労働省等の発行する資料、目的に合った適切な情報源の選択と必要な情報を検索・収集、医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報、副作用の因果関係を評価するための方法、医薬品の開発過程で行われる試験と得られる医薬品情報、医薬品情報に関係する代表的な法律・制度とレギュラトリーサイエンス、薬物治療に必要な患者基本情報、患者情報源の種類・違い、問題志向型システム、SOAP形式などの患者情報の記録方法、医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報、患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性、医薬品情報源の一次資料・二次資料・三次資料の分類、医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料の特徴、MEDLINE などの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード・シソーラスの重要性、医薬品情報の信頼性・科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目、臨床試験などの原著論文および三次資料における医薬品情報の質の評価、医薬品情報をニーズに合わせた加工・提供と管理する際の方法と注意点、病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目、医薬品情報に基づく代表的な同種同効薬の有効性や安全性の比較・評価、医薬品情報に基づく先発医薬品と後発医薬品の品質・安全性・経済性の比較・ 評価について学習する。	共同 講義14時間 演習10時間
実習科目	基礎薬学実習	実習の心構え、身だしなみ、実験器具の用い方、基本操作、基礎的計算、実験結果の取り扱い方、実験レポートの記載等、今後履修する実習の基礎となる知識と技能を修得することを目的とする。実習では、学生を小グループで編成し、実習内容の概説の後、実験を安全に行うために必要な心構え、身だしなみ、基本的な測容器を用いた試液を正確な濃度に調製、代表的な金属イオンの錯生成反応等を用いた確認、標準液の標定とそれを用いた滴定、溶液のｐＨの測定、緩衝作用について学習する。	共同
	基礎有機化学実習	脂肪族及び芳香族炭化水素の性質を理解するための、それぞれの基本構造、物理的性質、反応性に関する基本的な知識・技能・態度の修得を目的とする。実習では、学生を小グループで編成し、実習内容の概説の後、ピペット・融点測定用キャピラリー・TLC用キャピラリー・ジーデグラスの作製、茶葉からの抽出によるカフェインの単離・融点測定、アスピリンの合成と再結晶による精製、鎮痛薬からの薬効成分の分離精製（アスピリン、カフェイン、アセトアミノフェン）とTLC による同定、Cannizzaro 反応とカラムクロマトグラフィーによる分離・精製、バナナオイルの合成と蒸留による精製について学習する。	共同

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実習科目	有機化学実習	有機化合物の性質及び官能基の反応性を理解するための、合成反応及び反応物の単離・精製と構造確認に関する基本的な知識・技能・態度の修得を目的とする。実習では、学生を小グループで編成し、実習内容の概説の後、NaBH4による還元反応、Wittig-Horner反応、Diels-Alder反応、Fischerのエステル化、Grignard反応、交差Aldol反応、スペクトル解析演習について学習する。	共同
	漢方・生薬学実習	生薬の同定と品質評価ができるようになるため、生薬の確認試験及び純度試験に関する基本的事項と生薬を鑑別できる知識・技能・態度の修得を目的とする。実習では、学生を小グループで編成し、実習内容の概説の後、生薬の同定と品質評価（アルカロイド生薬の確認試験、フェノール生薬、サポニン生薬の確認試験、純度試験）、生薬関連製剤の品質評価（苦味チンキ、漢方エキス製剤）、漢方製剤の作成（紫雲膏、葛根湯、小青竜湯、補中益気湯、桂枝茯苓丸、小柴胡湯、半夏厚朴湯）、生薬の鑑別生薬の鑑定試験について学習する。	共同
	分析化学実習	化学物質をその性質に基づいて分析できるようになるための、物質の定性、定量などに必要な知識・技能・態度の修得を目的とする。実習では、学生を小グループで編成し、実習内容の概説の後、器具点検と試液調製、中和滴定による医薬品の分析、酸化還元滴定による医薬品の分析、紫外可視吸光度測定法による医薬品の定量、蛍光光度法による測定、物質に応じた液体クロマトグラフィーの適正な分析条件の設定・定性、液体クロマトグラフィーを用いて定量について学習する。	共同
	物理・放射化学実習	薬学における物理化学と放射化学の基本的な重要事項についての知識と技能の修得を目的とする。実習では、学生を小グループで編成し、実習内容の概説の後、緩衝液の調製と緩衝の原理、反応速度の温度依存性（擬一次反応、　アレニウスプロット）、弱電解質の溶解度（弱酸性薬品の溶解度のpH依存性）、二相分配とpHの関係（二相分配とpKaの決定）、希薄溶液の性質（凝固点降下度測定による分子量の決定）、界面活性剤の物性（臨界ミセル濃度の決定）、粘度（粘度測定と分子量の決定）、放射線の性質と測定、放射性医薬品の調製と確認試験について学習する。	共同
	生物学実習	生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するための、生命体の構造と機能調節などに関する基本的な知識・技能・態度の修得を目的とする。実習では、学生を小グループで編成し、実習内容、動物実験における倫理、実験動物の種類や遺伝学的及び微生物学的統御の概説の後、滅菌・消毒及び殺菌・静菌の概念、主な滅菌法及び消毒法、無菌操作による代表的な細菌の分離培養・純培養の実施、グラム染色の実施、細菌の構造と増殖機構、代表的な器官の組織や細胞の観察、細胞機能の観察、抗原抗体反応を利用した検査方法の実施、抗原抗体反応を利用した細胞の同定について学習する。	共同
	生物科学実習	生命体の成り立ちを分子レベルで理解するための、細胞の生命活動を担う分子(糖、脂質、タンパク質、核酸など)の構造と機能に関する知識と、それらを取り扱う基本的技能・態度の修得と目的とする。実習では、学生を小グループで編成し、実習内容の概説の後、模擬血清中のタンパク質・グルコース及びコレステロール含量の定量、卵白タンパク質のイオン交換クロマトグラフィーのよる分離、分離した試料・血清・唾液のSDS電気泳動の実施、酸性ホスファターゼの酵素反応速度の測定、ミカエリス定数と最大速度の測定、大腸菌の培養（コロニーの観察と植菌）、大腸菌からのプラスミドの調製、制限酵素による切断、アガロースゲル電気泳動、自分のDNAの抽出、ヒト癌細胞からのDNAの抽出・PCRによる増幅、アガロースゲル電気泳動による遺伝子変異検出と遺伝子情報解析について学習する。	共同
	衛生薬学実習	食品衛生、保健衛生及び環境衛生上の基本的な知識・技能・態度の修得を目的とする。実習では、学生を小グループで編成し、食品試験法（油脂の変質試験、代表的な食品添加物に関する試験、遺伝子組換え食品に関する試験、 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わり、リスク要因の評価：オッズ比・相対危険度・寄与危険度及び信頼区間の計算）、環境試験法（水道水の水質基準の測定、公共用水域の水質汚濁に関する主な検査項目の測定、環境問題の討議、室内環境ならびに大気汚染に関する主な検査項目の測定、薬物の乱用による健康への影響の討議、個々の化学物質の適正使用とリスクコミュニケーションの討議）について学習する。	共同

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実習科目	薬理学実習	自律神経系、循環器系、中枢神経系などに作用する薬物の効果を測定し、評価するための知識・技能・態度の修得を目的とする。実習では、学生を小グループで編成し、向精神薬の作用及びカタレプシー惹起作用のオープンフィールド法及びカタレプシー測定による評価、鎮痛薬の作用のホットプレート法による評価、摘出血管の収縮・弛緩に影響を及ぼす薬物・血圧へ影響を及ぼす薬物の作用測定、摘出子宮平滑筋の収縮・弛緩に影響を及ぼす薬物の作用測定、各種臓器のコリンエステラーゼ活性及びコリンエステラーゼ阻害薬の作用のチオコリン法による評価、無麻酔動物を用いた採尿実験による利尿薬作用の評価について学習する。	共同
	薬剤学実習	薬物自体の生体内動態を解析し、最適な投与計画を設定すると同時に、最適な製剤設計、効率的な製剤製造法の開発、保存時における有効性及び安全性の確認(品質管理)に必要となる基本的な知識・技能・態度の修得を目的とする。実習では、学生を小グループで編成し、薬物のタンパク結合測定、薬物の血漿中濃度とその解析、TDMシミュレーション、製剤調製と日本薬局方「一般試験法、崩壊試験、溶出試験」、日本薬局方「溶出試験」と半固形製剤の調製とレオロジー評価、日本薬局方「製剤均一性試験」と粉末X線回折について学習する。	共同
	特別演習・実習（前期）	卒業研究に該当する科目であり、研究活動に参画できるようになるための、必要な基本的知識、技能、態度の修得を目的とする。4年次前期・後期の1年間、配属研究室の教員からマンツーマンの直接指導を受けることにより、研究活動に必要な知識、技能、態度ならびに探求心、論理的思考力、語学力、プレゼンテーション力などを身に付けさせる。	
	特別演習・実習（後期）	卒業研究に該当する科目であり、研究活動に参画できるようになるための、必要な基本的知識、技能、態度の修得を目的とする。4年次前期・後期の1年間、配属研究室の教員からマンツーマンの直接指導を受けることにより、研究活動に必要な知識、技能、態度ならびに探求心、論理的思考力、語学力、プレゼンテーション力などを身に付けさせる。	

（注）

1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。

2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

学校法人大阪医科薬科大学　設置認可等に関わる組織の移行表

今回の設置認可申請は、本法人が設置する2大学（大阪医科大学・大阪薬科大学）の統合を目的としたものです。手続き上、大阪医科大学に薬学部/大学院薬学研究科を設置（複数年次開設）し、大阪薬科大学の在学生全員を統合時（令和3年4月1日）に転学させ、大阪薬科大学を廃止することとなります。なお、下表のとおり、統合前後で薬学部/大学院薬学研究科の教育研究組織や学生数に変更はなく、教員組織、校地、校舎、施設、設備、学生支援体制等も同一性を保持します。

※別途、統合時（令和3年4月1日）に大学名称を「大阪医科薬科大学」へ変更する予定です。

令和2年度

大学・学部等の名称	入学定員	編入学定員	収容定員
大阪医科大学			
医学部			
医学科	112	－	672
看護学部			
看護学科	85	－	340
計	197		1012
大阪医科大学大学院			
医学研究科			
医学専攻(4年制D)	50	－	200
医科学専攻(M)	4	－	8
看護学研究科			
看護学専攻(M)	8	－	16
看護学専攻(D)	3	－	9
計	69		249
大阪薬科大学			
薬学部			
薬学科(6年制)	294	－	1764
薬科学科(募集停止中)	－	－	－
計	294	－	1764
大阪薬科大学大学院			
薬学研究科			
薬学専攻(4年制D)	3	－	12
薬科学専攻(M)	5	－	10
薬科学専攻(D)	2	－	6
計	10	－	28

令和3年度

大学・学部等の名称	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
大阪医科大学				
医学部				
医学科	112	－	672	
看護学部				
看護学科	85	－	340	
薬学部				令和3年4月 学部の設置（認可申請）
薬学科(6年制)	294	－	1764	第1・2・3・4・5・6年次開設 （複数年次）
***薬科学科(募集停止)**	(-)*	－	(2)*	*大阪薬科大学から転学する平成29年度以前の入学生のうち、4年次の学科配属において薬科学科を選択した者に対する収容定員として4年次：2名を設定する。 *開設時期(令和3年4月)からの入学生及び大阪薬科大学から転学する平成30年度以降の入学生は、薬科学科に配属しない。
計	491		2776	
大阪医科大学大学院				
医学研究科				
医学専攻(4年制D)	50	－	200	
医科学専攻(M)	4	－	8	
看護学研究科				
看護学専攻(M)	8	－	16	
看護学専攻(D)	3	－	9	
薬学研究科				令和3年4月 研究科の設置（認可申請）
薬学専攻(4年制D)	3	－	12	4年制D:第1・2・3・4年次開設 M:第1・2年次開設 D:第1・2・3年次開設 （複数年次）
薬科学専攻(M)	5	－	10	
薬科学専攻(D)	2	－	6	
計	79		277	
大阪薬科大学	0	－	0	令和3年4月学生募集停止 令和3年4月廃止
計	0	－	0	
大阪薬科大学大学院	0	－	0	令和3年4月学生募集停止 令和3年4月廃止
計	0	－	0	

・　校地校舎等の図面について

（１）都道府県内における位置関係の図面

地図引用元：　Googleマップ　https://maps.google.co.jp/

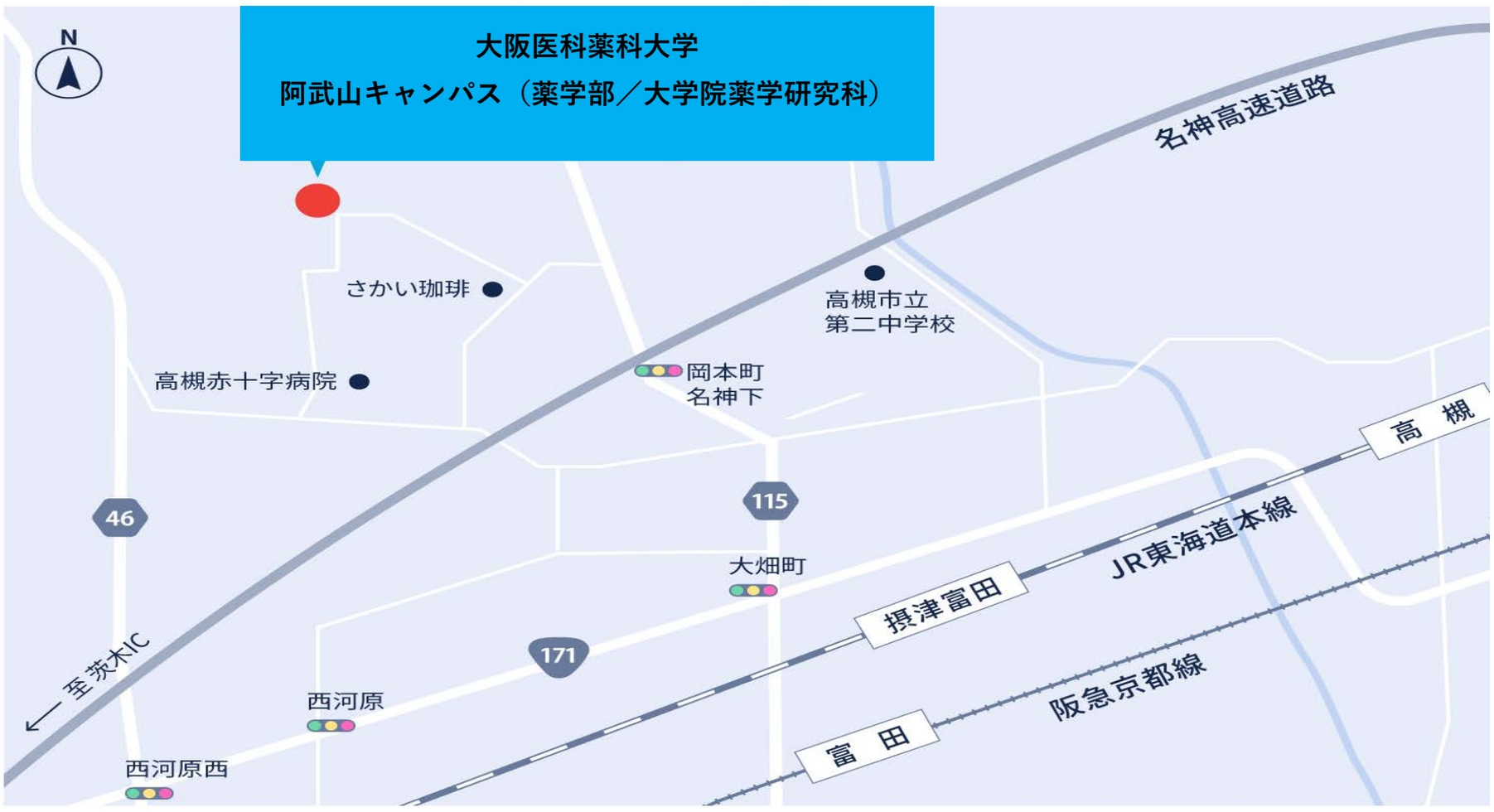
（２）最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面

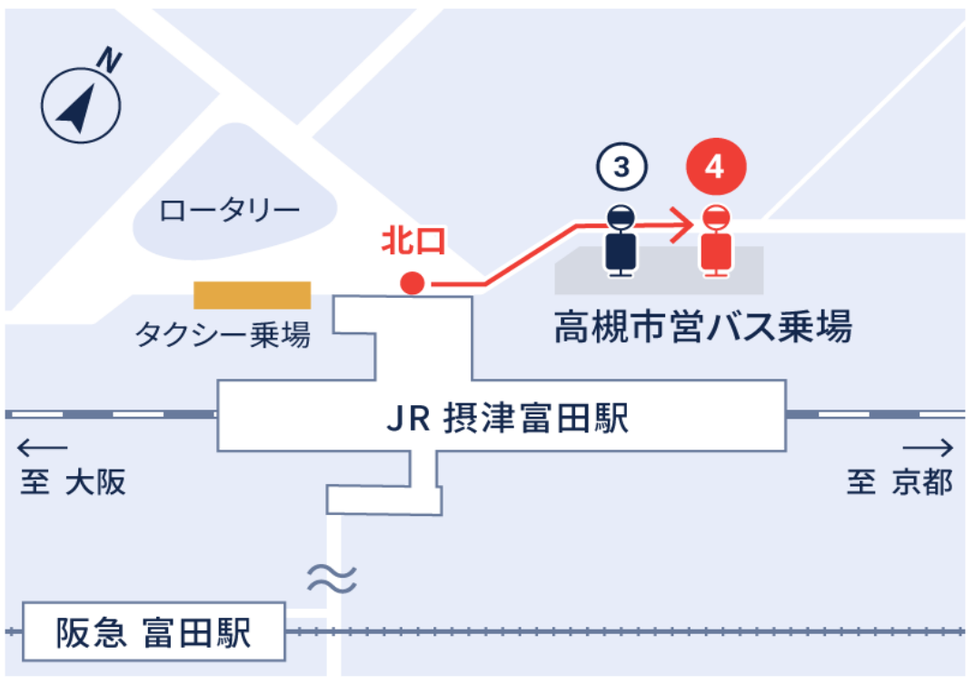
（３）校舎，運動場等の配置図（完成年度のもの）

（1）　都道府県内における位置関係

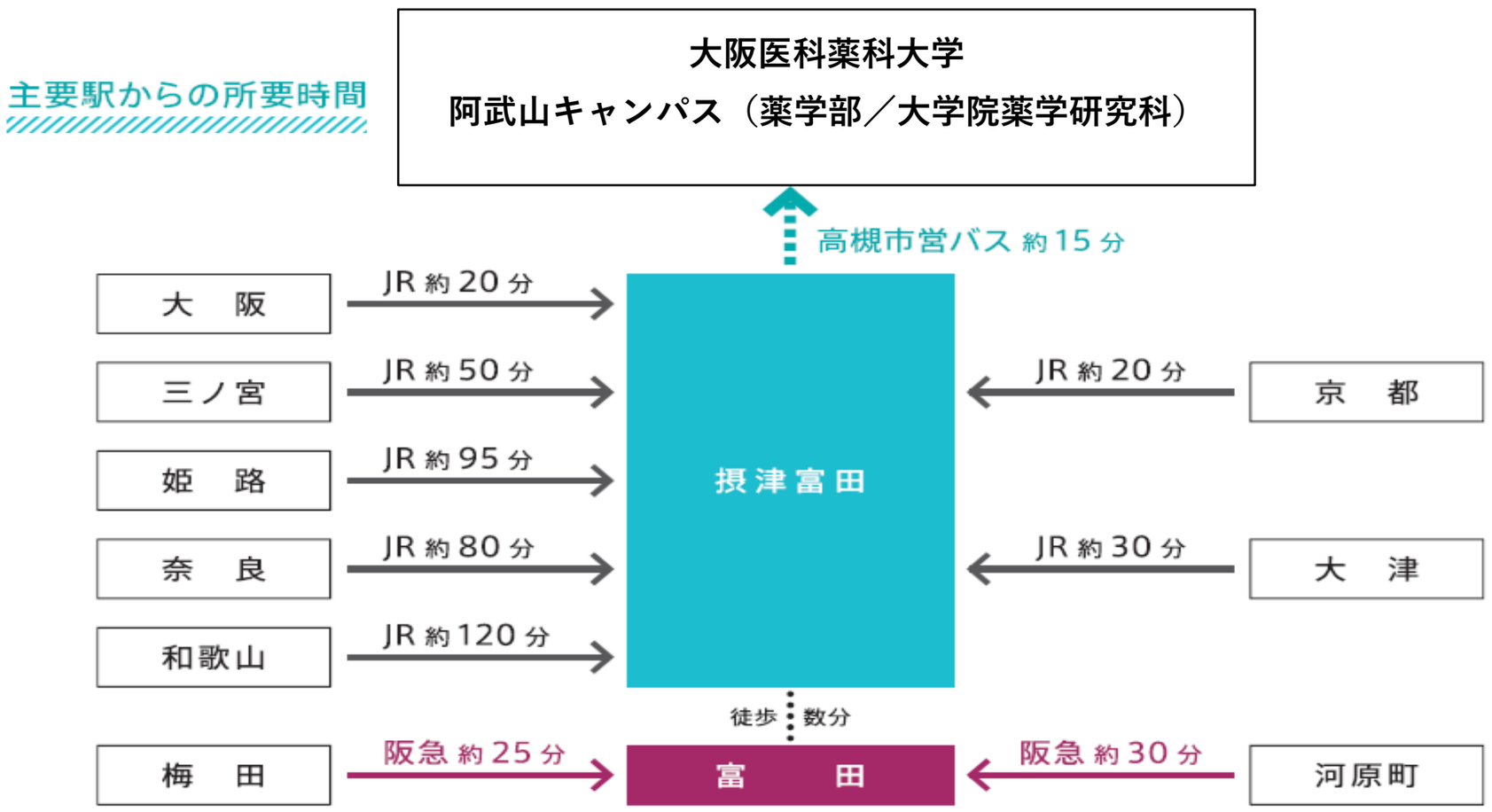
引用：Googleマップ

(2)　最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面

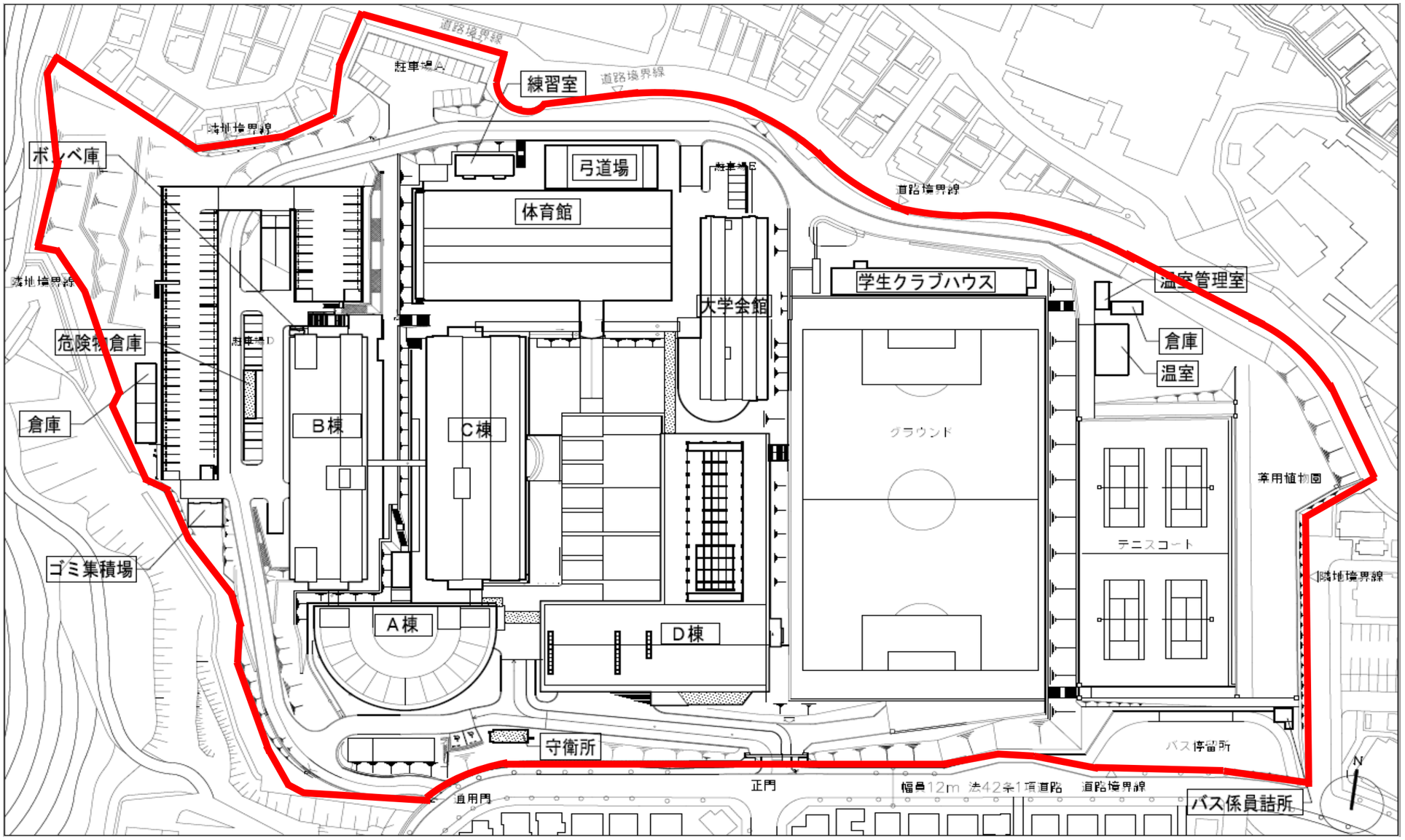




高槻市営バス
JR富田から阿武山キャンパス
所要時間　約15分



（3）校舎，運動場等の配置図（完成年度のもの）



延床総面積合計：35,734.8㎡　　土地総面積合計：59,259.53㎡

大阪医科薬科大学　学則

（昭和２７年２月２０日施行）

第１章　総　則

（理　念）

第１条　大阪医科薬科大学（以下、「本学」という。）は、建学の精神及び学是（至誠仁術）に基づき、国際的視野に立った教育、研究或いは良質な医療の実践をとおして、人間性豊かで創造性に富み人類の福祉と文化の発展に貢献する医療人を育成する。

（目　的）

第２条　本学は、前条の理念に基づき、豊かな人間性と国際的視野を備えた次の人材を育成することを目的とする。

(1)　人類共通の課題である健康の維持増進並びに疾病の予防と克服及び苦痛の軽減に努める人材

(2)　変化する社会に対応し最新の知識と最良の技術を生涯学び続ける人材

(3)　地域医療から世界に通じる研究開発にわたる領域で探究心を持って活躍する人材

（自己点検及び評価）

第３条　本学は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

２　前項の点検及び評価の方法等については、別に定める。

（学部及び大学院）

第４条　本学に、医学部医学科、薬学部薬学科及び看護学部看護学科を置く。

２　医学部医学科の入学定員は１１０名、収容定員は６６０名とする。

３　薬学部薬学科の入学定員は２９４名、収容定員は１，７６４名とする。

４　看護学部看護学科の入学定員は８５名、収容定員は３４０名とする。

第４条の２　この学則に定めるもののほか、各学部の必要な事項は、本学医学部規程、薬学部規程及び看護学部規程（以下、「学部規程」という。）に定める。

第５条　本学に、大学院を置く。

２　大学院に関し必要な事項は、大阪医科薬科大学大学院学則の定めるところによる。

（修業年限）

第６条　医学部医学科の修業年限は、６年とする。

２　薬学部薬学科の修業年限は、６年とする。

３　看護学部看護学科の修業年限は、４年とする。

（在学年限）

第７条　医学部医学科の在学年限は、第１・２学年次、第３・４学年次、第５・６学年次に区分し、各区分において４年を超えることはできず、通算して１２年以内とする。

２　薬学部薬学科の在学年限は、第１学年次から第４学年次までは、同一年次に２年を超えて在学することはできず、通算して１２年以内とする。ただし、同一年次の在学年数が年度の途中で２年を超えることとなる者については、その年度が終了するまで当該学年に在学することができる。

３　看護学部看護学科の在学年限は、通算８年以内とする。ただし、同一年次に２年を超えて在学することはできない。

（学　年）

第８条　学年は、４月１日に始まり翌年３月３１日に終る。

（学　期）

第９条　学年を、次の２学期に分ける。

前期　　４月１日から９月３０日まで

後期　１０月１日から翌年３月３１日まで

（休業日）

第１０条　定期休業日は、次のとおりとする。

(1)　土曜日及び日曜日

(2)　国民の祝日に関する法律（昭和２３年法律第１７８号）に規定する休日

(3)　本学創立記念日

(4)　春季休業

(5)　夏季休業

(6)　冬季休業

２　学長は、前項に定めるもののほか臨時の休業日を定めることができる。また、教育上必要と認めた場合は、定期休業日であっても授業及び試験を行うことができる。

第２章　入学、再入学及び転入学

（入学等の時期）

第１１条　入学、再入学及び転入学の時期は、学年の始めとする。

（入学資格）

第１２条　本学に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1)　高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）を卒業した者

(2)　通常の課程による１２年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者

(3)　外国において学校教育における１２年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文

科学大臣の指定した者

(4)　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5)　専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣の指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(6)　文部科学大臣の指定した者

(7)　大学入学資格検定規程（昭和２６年文部省令第１３号）により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者又は高等学校卒業程度認定試験に合格した者

(8)　本学の個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められ、１８歳に達した者

（入学志願手続）

第１３条　入学志願者は、所定の入学願書及び学部規程に定める入学検定料を添えて学長に願い出なければならない。

（合格者の選考）

第１４条　入学志願者に対しては試験を行い、その成績により合格者を選考する。

（入学手続及び入学許可）

第１５条　前条に定める選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに必要書類を学長に提出するとともに、別表に定める入学金及び学費の一部を納入しなければならない。

２　保証人は、両親又はこれに代る成年に達した親族とする。

３　保証人は、学生の在学中に係る一切の事項について、責任を負うものとする。

第１６条　学長は、前条に定める入学手続を完了した者に、入学を許可する。

（再入学）

第１７条　本学を退学した者又は第３０条第４号により除籍された者で、再入学を志願する者については、選考の上、相当の学年次に入学を許可することがある。

２　再入学に関し必要な事項は、学部規程に定める。

（転入学）

第１７条の２　他の大学の学生で、当該大学長又は学部長の承認を得て転入学を志願する者については、学長が入学を許可することができる。

（転学部）

第１７条の３　転学部を願い出る者があるときは、選考の上、許可することがある。

２　転学部の取扱いについては、別に定める。

第３章　教育課程及び履修等

（教育課程及び履修方法）

第１８条　学生が履修すべき授業科目、単位数及び年次配当は、学部規程に定める。

２　総合的な学力等を判定する試験（統合的な試験）を所定の課程に加えることができる。

３　本学則に定めるもののほか、履修方法の細目については、学部規程に定める。

（単位の計算方法）

第１９条　各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を４５時間の学修を必要とする内容をもって構成するものとし、次の基準により計算するものとする。

⑴　講義、チュートリアル及び演習については、１５時間から３０時間までの範囲で学部規程に定める時間の授業をもって１単位とする。

⑵　実験、実習及び実技については、３０時間から４５時間までの範囲で学部規程に定める時間の授業をもって１単位とする。

（１年間の授業期間）

第２０条　１年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、３５週にわたることを原則とする。

（成績の評価）

第２１条　授業科目の成績は、試験その他の評価により行う。

２　評価は原則として１００点法によって行い、６０点以上を合格、５９点以下を不合格とし、９０点以上を秀（S）、８０点以上８９点以下を優（A）、７０点以上７９点以下を良（B）、６０点以上６９点以下を可（C）、５９点以下を不可（D）と表示する。

３　不合格となった授業科目については、再試験を行うことがある。

４　試験及び成績の評価の実施に関し必要な事項は、学部規程に定める。

第２１条の２　前条の評価に対してグレード・ポイント（以下、「ＧＰ」という。）を設定し、ＧＰの平均値であるグレード・ポイント・アベレージ（以下、「ＧＰＡ」という。）を算出する。

２　ＧＰ及びＧＰＡの取扱いについては、学部規程に定める。

（追試験）

第２２条　病気その他やむを得ない理由により、試験を受けられなかった者については、追試験を行うことがある。

２　追試験の実施に関し必要な事項は、学部規程に定める。

（単位の認定）

第２３条　授業科目の成績の評価を行い、合格とされた学生に対し、所定の単位を与える。

２　前項の単位認定は、学部長が当該教授会の議を経て学長に報告し、学長が決定する。

（既修得単位の認定）

第２４条　他の大学を卒業し、又は中途退学し、新たに本学の第１学年次に入学した学生の既修得単位については、教育上有益と認めるときは、その学力を確認した上で本学において修得したものとして認定することができる。

２　前項の定めにより認定することができる単位は、合計３０単位を限度とする。

３　前２項の取扱いについては、学部長が当該教授会の議を経て学長に報告し、学長が決定する。

（他学部及び他大学等における授業科目等の履修）

第２５条　本学が、教育上有益と認めるときは、本学の他学部及び他の大学等（外国の大学等を含む。）との協議に基づき、学生に当該学部及び当該大学等の授業科目等を履修させることができる。

２　前項の取扱いについては、学部長が当該教授会の議を経て学長に報告し、学長が決定する。

第４章　休学、復学、転学、退学及び除籍

（休　学）

第２６条　病気その他やむを得ない理由により、休学しようとする者は、医師の診断書又は詳細な理由書を添えて、保証人連署のうえ学長に願い出て、学期単位を原則として休学することができる。

２　病気その他の理由により修学することが不適当と認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

３　休学に関する取扱いは、学部規程に定める。

（復　学）

第２７条　休学期間中に、その理由がなくなったときは、学長の許可を得て復学することができる。

２　復学は、原則として学年又は学期の始めでなければならない。

３　第１項の規定により復学が許可された場合には、休学前の既修得単位及び成績はそのまま認める。

（転　学）

第２８条　他の大学へ、入学又は転入学を志願しようとする者は、保証人連署の上、学長に所定の退学願を提出しなければならない。

（退　学）

第２９条　病気その他やむを得ない理由により、退学しようとする者は、保証人連署の上、学長に所定の退学願を提出しなければならない。なお、必要に応じその他書類の提出を求める場合がある。

２　学業成績の不振が一定期間続く学生に対しては、退学を命ずることがある。

（除　籍）

第３０条　次の各号のいずれかに該当する者は、当該教授会の意見を踏まえ、学長が決定し、除籍する。

(1)　第７条に定める在学年限を超えた者
(2)　在学年限内に所定の単位を修得できないことが明らかな者
(3)　学部規程に定める休学年限を超えてなお復学できない者
(4)　第３５条に定める学費について、納入期限経過後督促してもなお未納の者
(5)　長期間にわたり行方不明の者
(6)　死亡した者

第５章　進級及び卒業

（進　級）

第３１条　当該学年次又は当該学期の所定の課程を修了した者については、当該教授会の議を経て、学部長が単位及び進級を認定し、学長が決定する。

（卒　業）

第３２条　第６条に定める修業年限以上在学し、医学部医学科においては学部規程に定める所定の単位を修得し、かつ、総合試験に合格した者には、医学部教授会の議を経て、医学部長が卒業を認定し、学長が決定のうえ卒業証書及び学士（医学）の学位を授与する。

２　前項の総合試験に関しては、医学部教授会の議を経て、医学部長が別に定め、学長が決定する。

３　第６条に定める修業年限以上在学し、薬学部薬学科においては学部規程に定める所定の単位を修得した者には、薬学部教授会の議を経て、薬学部長が卒業を認定し、学長が決定のうえ卒業証書及び学士（薬学）の学位を授与する。

４　第６条に定める修業年限以上在学し、看護学部看護学科においては学部規程に定める所定の単位を修得した者には、看護学部教授会の議を経て、看護学部長が卒業を認定し、学長が決定のうえ卒業証書及び学士（看護学）の学位を授与する。

第６章　賞　罰

（褒　章）

第３３条　成績優秀操行善良で他の模範であると学長が認めるときは、教授会の議を経て、学生を褒賞することができる。

（懲　戒）

第３４条　教育上必要があると学長が認めるときは、当該教授会の意見を踏まえ、学生に懲戒を加えることができる。なお、懲戒に関し必要な事項は、大阪医科薬科大学学生等懲戒

規程に定める。

第７章　入学金及び学費

（入学金及び学費）

第３５条　入学金及び学費の額は、別表に定める。

２　入学金及び学費は、原則として返還しない。

３　入学金及び学費は、経済事情の変化によりその金額を変更することがある。

４　第１項にかかわらず、入学時特待生制度等適用者の入学金及び学費については、別に定める。

５　学費の納入に関する取扱いについては、学部規程に定める。

（休学の場合における学費）

第３６条　休学する者は、指定した期限までに学費のうち在籍料を納入しなければならない。ただし、学期途中に復学した者は、当該学費を納入しなければならない。

２　在籍料の額は、学部規程に定める。

第８章　研究生

（研究生）

第３７条　本学開設の授業科目のうち特定分野に関し、研究を行おうとする者があるときは、選考の上研究生として許可することができる。

２　研究生に関し必要な事項は、学部規程に定める。

第９章　委託生、聴講生等

（委託生及び聴講生）

第３８条　本学に委託生を託された場合は、その学歴を選考して許可することがある。

２　本学開設の授業科目の中から聴講することを希望する者があるときは、聴講生として許可することがある。

３　委託生及び聴講生に関し必要な事項は、学部規程に定める。

（単位互換履修生及び科目等履修生）

第３９条　他の大学又は短期大学との協議に基づき、当該他の大学等に在学中の者を単位互換履修生として、本学における授業科目を履修させることができる。

２　特定の授業科目のうち１科目又は数科目を選んで履修し、単位を修得しようとする者があるときは、科目等履修生として許可することがある。

３　単位互換履修生及び科目等履修生に関し必要な事項は、学部規程に定める。

（外国人留学生）

第４０条　第１２条に定める入学資格を有する外国人が本学に入学を志願するときは、選考のうえ外国人留学生として入学を許可することがある。
２　外国人留学生については別に定める。

第１０章　公開講座

（公開講座）
第４１条　本学に公開講座を設けることがある。

第１１章　学生の福利・厚生

（学生の福利・厚生）
第４２条　本学に福利・厚生施設を置く。その規則は、別に定める。

第１２章　職員組織

（職員組織）
第４３条　本学に学長、学部長、附属病院長、図書館長その他の職員を置く。その規則は、別に定める。
２　前項に定めるもののほか、本学に副学長、学長補佐を置くことができる。
３　学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。
４　副学長及び学長補佐は、学長の統督の下で教育及び研究に関する校務をつかさどる。
５　学部長は、学長の統督の下で学部に関する校務をつかさどる。

第４４条　本学に教育及び研究のための教授、准教授、講師、助教、助手、技術職員等を置く。これらの定員及び資格については、別に定める。

第４５条　本学の事務を処理するため、一定数の事務職員を置く。

第４６条　本学の教職員を専任兼任に区別し、その勤務規則は、別に定める。

第１３章　教授会

（教授会）
第４７条　教育研究に関する事項の審議機関として、各学部に教授会を置く。
２　教授会に関し、必要な事項は、別に定める。

第１４章　附属施設

（附属施設）

第４８条　本学に大学図書館、その他の附属施設を設ける。その規則は、別に定める。

第４９条　本学に大学病院を設ける。その規則は、別に定める。

第１５章　その他の組織

（その他の組織）

第５０条　本学に教育研究に必要なその他の組織を設ける。

２　個々の組織の使命・構成等は、別に定める。

第１６章　その他

（改　廃）

第５１条　この学則の改廃は、各学部の教授会及び法人運営会議の議を経て、理事会が行う。

附　則

（中　略）

附　則

この改正は、令和２年４月１日から施行する。

ただし、第３条第２項の規定にかかわらず、令和２年度から令和３年度までの医学部医学科の定員は、地域枠の臨時定員２名を加え、入学定員１１２名、収容定員６７２名とする。

附　則

１　この改正は、令和３年４月１日から施行する。

２　改正後の第４条第３項の規定にかかわらず、薬学部薬学科の収容定員は令和３年度１，７２１名、令和４年度１，７４０名とする。

３　改正後の第４条第１項及び第３項、第６条第２項、第７条第２項、第３２条第３項の規定にかかわらず、令和３年４月１日に大阪薬科大学から薬学部に転入学した学生のうち、平成２９年度以前の入学生が第４学年次進級時に選択可能な学科として、薬学部に薬科学科（４年制）を置く。なお、同学科は大阪薬科大学において学生募集を停止していたことを受け、新規の学生募集は行わず、令和３年度における第４学年次の収容定員を２名、令和４年度以降の収容定員を０名とし、在籍学生がいなくなった時点で廃止するものとし、同学科の取扱いは薬学部規程及び薬科学科規程に定める。

４　令和３年４月１日に大阪薬科大学から薬学部に転入学した学生の大阪薬科大学における修業年数及び在学年数については、改正後の第６条第２項及び第７条第２項に規定する修業年限及び在学年限に継承する。

５　令和３年４月１日に大阪薬科大学から薬学部に転入学した学生のうち、平成２６年度以前の入学生については、改正後の第７条第２項中の「２年」を「３年」に読み替える。

６　薬学部規程に定めることとする取扱いのうち、改正後の第３章及び第５章に関する事項

の令和３年４月１日に大阪薬科大学から薬学部に転入学した学生への適用については、薬学部規程細則に大阪薬科大学の入学年度に応じた個別の取扱いを定める。

（別表）

（１）医学部医学科

項　目		金　額（年額）	備　考
入学金		１００万円	入学手続時
学費	授業料	１８８万円	
	実習料	３４万５千円	
	施設拡充費	１２６万円	
	教育充実費	２００万円	入学年次
		１５０万円	２年次以降

（２）薬学部薬学科

項　目		金　額（年額）	備　考
入学金		４０万円	入学手続時
学費	授業料	１２０万円	
	施設・設備費	６０万円	

（３）看護学部看護学科

項　目		金　額（年額）	備　考
入学金		３０万円	入学手続時
学費	授業料	１１０万円	
	実習料	２０万円	公衆衛生看護学実習Ⅱ受講者及び助産学実習受講者を除く
		３０万円	公衆衛生看護学実習Ⅱ受講者対象
		５０万円	助産学実習受講者対象
	施設拡充費	３０万円	

大阪医科薬科大学　薬学部規程

（令和３年４月１日施行）

（趣　旨）

第１条　この規程は、大阪医科薬科大学（以下、「本学」という。）に設置する薬学部薬学科について、本学学則（以下、「学則」という。）に基づく必要な事項を定める。

２　この規程に定めのない事項については、薬学部教授会（以下、「教授会」という。）の議を経て、学長が決定する。

３　本学に設置する薬学部薬科学科について必要な事項は、本学薬学部薬科学科規程に定める。

（目　的）

第２条　薬学部薬学科の目的は、次の各号に定める。

(1)　生命の尊厳と人権の尊重を基本に、人々の生き方や価値観を尊重できる豊かな人間性を育成する。

(2)　多様な人材と共同し、薬学や医療の分野で国際的に通用する新しい知識や技術を創造できる能力を育成する。

(3)　科学的知識と倫理的判断に基づき、薬学に関する専門知識、情報や技術を効果的に活用した医療が実践できる能力を育成する。

(4)　薬剤師として地域社会の特性を学び、多職種と連携し協働してさまざまな健康課題に取り組むことができる能力を育成する。

(5)　薬剤師として専門能力と教育能力を自律的に探求し、継続的に発展させる基本的姿勢を育成する。

（授業科目、履修及び授業日程の公示）

第３条　授業科目、単位数及び配当年次は別表１のとおりとする。

２　授業科目は原則として、配当されている学年次において履修しなければならない。

３　各学年次において履修する授業科目の内容、授業時間表及び担当教員はシラバスにより公示する。

４　各学年次において学生が１年間に履修できる授業科目の単位数の合計は、原則として５５単位を上限とする。なお、各学年次での履修単位数を算定する際、複数の学年次にわたり配当されている授業科目は、その授業科目の単位数を各学年次に按分し算定する。

５　学業成績が優秀な学生は、前項に定める単位数の上限を適用しないことを認める場合がある。

（必修科目・選択必修科目・選択科目）

第４条　授業科目は必修科目、選択必修科目及び選択科目に分けて開講する。

２　選択必修科目及び選択科目の履修届は、所定の期日までに提出しなければならない。ただし、受講希望者が少ない場合には開講しないことがある。また、各選択科目で履修でき

る人数に制限を設けることがある。
3　履修届提出後の履修取消又は変更は、原則として認めない。ただし、授業科目によっては所定の期間に履修取消又は変更を認めることがある。

（授業時間・単位算定の基準）
第５条　学則第１９条に定める授業時間は、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修を考慮して、次のとおりとする。
(1)　講義及び演習による授業は、原則として１５時間の授業をもって１単位とする。
(2)　実習及び実技による授業は、原則として４５時間の授業をもって１単位とする。
(3)　前２号の規定にかかわらず、教育上必要があると認めたときは、講義及び演習については１５時間から３０時間までの範囲、実習及び実技については３０時間から４５時間までの範囲の授業をもって１単位とすることができる。
(4)　授業は、原則として９０分を１回とする。
2　前項の規定にかかわらず、特別演習・実習の授業科目については、それに必要な学修等を考慮して単位数を定める。

（授業期間）
第６条　学期における授業期間は、定期試験等の期間を除き、原則として１５週とする。ただし、教育上特別の必要がある場合、この期間より短い特定の期間において授業を行うことがある。

（成績の評価）
第７条　授業科目の成績の評価は、授業科目毎に担当教員が授業内容に対する学生の学習到達度によって行い、到達目標及び成績評価方法はシラバスに示す。
2　前項の評価は、学則第２１条の規定に基づき、秀（S）100～90 点、優（A）89～80 点、良（B）79～70 点、可（C）69～60 点、不可（D）59 点以下とする。なお、不可（D）のうち 29 点以下のものを特にEとする。
3　前項の規定にかかわらず、一部の授業科目は、論文、報告書等の審査により合・否を判定する。

（単位の認定）
第８条　前条の成績の評価により、合格とする者に所定の単位を認定する。
2　実習及び実技の単位の認定には、原則として授業回数のすべてに出席することを必要とする。
3　前項の出席回数が不足し、所定の期日までに欠席届及び理由書を添えて願い出たときは、補充の授業を許可することがある。

（ＧＰＡ）
第９条　ＧＰＡは、各学期の履修科目によるＧＰＡ（以下、「学期ＧＰＡ」という。）、各年度の履修科目によるＧＰＡ（以下、「年度ＧＰＡ」という。）及び入学時からのすべて

の学期の履修科目によるＧＰＡ（以下、「累積ＧＰＡ」という。）の三種類を算出する。
２　学期ＧＰＡは、当該学期に履修したすべての授業科目の、当該学期の最終の成績評定により算出する。年度ＧＰＡは、当該年度に履修したすべての授業科目の、当該年度の最終の成績評定により算出する。また、累積ＧＰＡは、ＧＰＡ算出時点までに履修したすべての授業科目の、算出時点での最終の成績評定により算出する。
３　前項にかかわらず、次の各号に該当する授業科目はＧＰＡの算出対象外とする。
⑴　合否で判定し、成績の評点を表示しない授業科目
⑵　学則第２４条により本学における履修とみなし単位を与え、成績の評点を表示しない授業科目
４　ＧＰＡの算出のためのＧＰは、授業科目履修の成績の評定ごとにＳが４点、Ａが３点、Ｂが２点、Ｃが１点、Ｄ及びＥが０点とする。なお、試験を欠席した場合のＧＰは０点とする。
５　ＧＰＡは、次の計算式により算出する。なお、得られた数値に小数が生じた場合は、小数点以下第３位を四捨五入し、通知する。
ＧＰＡ＝「対象授業科目のＧＰ×当該授業科目の単位数」の合計／「対象授業科目の単位数」の合計
６　各学期の成績が確定した段階で、学期ＧＰＡ、年度ＧＰＡ、累積ＧＰＡ、あるいはこれらの組み合わせが一定の基準を下回った場合は、成業の見込みを立てるため、当該学生に対し面談等による修学指導を行う。
７　累積ＧＰＡが１未満の学期が３期続いた場合は、学則第２９条第２項により退学を勧告する。
８　前項の期間には、休学した学期は含まない。
９　年度ＧＰＡは、指定する奨学金の選考に用いる。その他各種ＧＰＡは、学修成果の分析等に用いるものとする。

（試験の種類）
第１０条　試験は定期試験、追試験、再試験及び特別再試験に分ける。

（定期試験）
第１１条　定期試験を学期末に各１回行い、それぞれ前期定期試験及び後期定期試験とする。
２　前項のほか、定期試験について必要な事項は別に定める。

（追試験）
第１２条　定期試験を欠席した者に対し、学期末に行う定期試験終了後に追試験を実施することがある。
２　前項のほか、追試験について必要な事項は別に定める。

（再試験）
第１３条　再試験は原則として学期末に行う定期試験終了後に行う。
２　前項のほか、再試験について必要な事項は別に定める。

（特別再試験）

第１４条　第４学年次の再試験終了後、別に定める進級に必要な履修授業科目のうち、単位未修得科目について第４学年次特別再試験を行う。

２　第６学年次の再試験終了後、別に定める卒業に必要な履修授業科目のうち、単位未修得科目について第６学年次特別再試験を行う。

３　前２項のほか、特別再試験について必要な事項は別に定める。

（受験料）

第１５条　再試験及び特別再試験を受験する者は、受験料を納めなければならない。

２　受験料の額は、１科目あたり１千円とする。

（試験受験の心得）

第１６条　試験に関して不正な行為があったと認められた者については、大阪医科薬科大学学生等懲戒規程に基づき処分する。

２　試験受験に際しては、別に定める注意事項を遵守しなければならない。

（進　級）

第１７条　進級査定は、年度末に行う。

２　進級要件は、別に定める。

（卒　業）

第１８条　本学に６年以上在学し、別表２に定める履修すべき授業科目のすべての単位を修得したとき卒業が認められる。

２　卒業の認定は、毎年度末に行う。ただし、やむを得ない理由により、この認定を受けることができなかった者については、次年度においてこれを行うことができる。

（留　年）

第１９条　進級要件又は卒業要件に抵触し、進級又は卒業できない場合は、原級に留め置く。その場合、既修得単位は認める。

２　原級に留め置かれた場合の必要な事項は、別に定める。

（再履修）

第２０条　進級要件に基づき進級した場合、原則として進級前年次までの単位未修得のすべての授業科目を再履修するものとする。

２　原級に留め置かれた場合、原則として当該年次までの単位未修得のすべての授業科目を再履修するものとする。

（休　学）

第２１条　病気その他やむを得ない理由により、３か月以上修学することができない者は、

学則第２６条により休学を申請することができる。
２　休学を申請する者は、その理由を記した保証人連署の休学願を提出し、許可を得なければならない。
３　前項の休学願には、医師の診断書又は詳細な理由書を添えなければならない。
４　休学中の在籍料については、月額２万円を納付しなければならない。

（休学期間）
第２２条　休学期間は１年以内の学期単位を原則とし、年度をまたぐことはできない。引き続き休学しようとする者は、あらためて願い出て許可を得なければならない。
２　休学期間は通算して３年を超えることができない。
３　休学期間は学則第７条に定める在学年限に算入しない。

（再入学）
第２３条　本学を退学した者又は学則第３０条第４号により除籍された者が、退学又は除籍の日から２年以内に再入学を願い出たときは、学力等について審議のうえ許可することがある。
２　再入学を願い出る者は、所定の書類に入学検定料を添えて願い出なければならない。
３　再入学を許可された者は、学則第１５条の規定により入学手続きをしなければならない。ただし、学則第３０条第４号により除籍された者の再入学は、滞納した納付金を納付することを条件とする。また、既に提出した書類について変更がない場合は、これを省略することができる。
４　再入学を許可された者が退学前又は除籍前に修得した単位は認め、退学又は除籍までの在学年数は学則第７条の在学年限に算入する。

（入学検定料）
第２４条　入学検定料は、３万５千円、ただし大学共通テスト利用入学試験は２万円とする。

（学費の納入に関する取扱い）
第２５条　薬学部の学費の納入期日、その他納入に関する取扱いは別に定める。

（研究生）
第２６条　研究生を志願することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。
(1)　大学又は短期大学を卒業した者
(2)　外国において学校教育における１４年の課程を修了した者
(3)　その他本学において短期大学卒業以上の学力があると認めた者
２　研究生の指導教員は審議のうえ定める。
３　研究生は指導教員及び希望する科目の担当教員の許可を受けて講義を聴くことができる。
４　研究生の研究期間は原則として１年とする。ただし、引き続き研究を必要とする場合にはさらに願い出て、その許可を得なければならない。
５　研究生は、研究期間の終わりに当該研究成果について指導教員を経て、学長に提出しな

ければならない。
６　研究生で相当の成果をおさめた者には、審議のうえ、研究証明書を交付することがある。ただし、正規の課程による在学年数又は履修単位としては認定されない。

（委託生）
第２７条　委託生を志望する者は、委託機関長からによる所定の願、その他必要書類を添えて願い出なければならない。
２　委託生には、前条を準用する。
３　委託機関より特定事項について研究させるために受け入れる委託生を、委託研究生と称する。

（聴講生）
第２８条　聴講生を志望する者は、所定の願、その他必要書類を添えて願い出なければならない。
２　開講する授業科目のうち１科目又は数科目を選んで聴講することができる。
３　聴講生に対しては、試験及び単位の授与を行わない。
４　他の大学又は短期大学との協議に基づき受け入れる聴講生を、特別聴講生と称する。

（単位互換履修生及び科目等履修生）
第２９条　単位互換履修生及び科目等履修生は、履修した授業科目について試験を受けることができる。
２　前項の試験に合格した単位互換履修生及び科目等履修生には、所定の単位を与える。
３　単位を修得した科目等履修生には、願い出により単位修得証明書を交付する。

（入学又は受入れ時期）
第３０条　研究生、委託生、聴講生、単位互換履修生及び科目等履修生の入学又は受入れ時期は学期の始めとする。ただし、特別の事情のあるときにはこの限りではない。

（納付金）
第３１条　研究生、委託生、聴講生及び科目等履修生の納付金は、別表３のとおりとする。ただし、研究生又は委託生の研究に要する特別の費用は、それぞれ研究生又は委託機関の負担とする。

（学則の準用）
第３２条　研究生、委託研究生、特別聴講学生、単位互換履修生、聴講生、科目等履修生及び外国人留学生にはこの規程に定めるもののほか、学則を準用する。

（改　廃）
第３３条　この規程の改廃は、教授会及び法人運営会議の議を経て、理事長が行う。

附　則

1　この規程は、令和３年４月１日から施行する。

2　第３条、第７条、第９条から第１４条、第１７条、第１８条及び第２０条に定める事項は、令和３年４月１日に大阪薬科大学から薬学部に転入学した学生には適用しない。なお、これら事項については、大阪薬科大学の入学年度に応じた薬学部規程細則に個別の取扱いを定める。

3　令和３年４月１日に大阪薬科大学から薬学部に転入学した学生の大阪薬科大学において修得した単位等については、薬学部に継承する。

4　令和３年４月１日に大阪薬科大学から薬学部に転入学した学生の第２２条第２項に規定する休学期間の上限の適用は、大阪薬科大学における休学期間と通算して取り扱う。また、同転入学した学生の第２３条第１項に規定する再入学の願出期限の適用は、大阪薬科大学における退学又は除籍の日から起算して取り扱う。

（別表１）授業科目及び単位年次配当表

＜薬学部薬学科：令和３年度以降入学者適用＞

区分	授業科目	必選	１年次		２年次		３年次		４年次		５年次		６年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎教育科目	文学の世界	○	1		1									
	歴史と社会	○	1		1									
	地球環境論	○	1		1									
	政治と社会	○	1		1									
	基礎心理学	○	1		1									
	法と社会	○	1		1									
	経済の世界	○	1		1									
	数理論理学	○	1		1									
	社会分析の基礎	○		1		1								
	人間と宗教	○		1		1								
	文化人類学	○		1		1								
	倫理と社会	○		1		1								
	コーチング論	○		1		1								
	スポーツ・運動２	○		1		1								
	情報科学	○		1		1								
	情報科学演習	●	1											
	アカデミックスキル	●	1											
	身体運動科学	●	1											
	スポーツ・運動１	●	1											
	物理学１	●	1											
	物理学２	●		1										
	化学	●	2											
	生物学	●	1											
	数学１	●	2											
	数学２	●		1										
	数理統計学	●				2								
	英語リスニング１	●	1											
	英語リスニング２	●		1										
	英語リーディング１	●	1											
	英語リーディング２	●		1										
	英語スピーキング１	●			1									
	英語スピーキング２	●				1								
	英語ライティング１	●			1									
	英語ライティング２	●				1								
	ドイツ語１ ※１	▲	1											
	ドイツ語２ ※１	▲		1										
	中国語１ ※１	▲	1											
	中国語２ ※１	▲		1										
	ハングル１ ※１	▲	1											
	ハングル２ ※１	▲		1										
	異文化言語演習１	●					1							
	異文化言語演習２	●						1						
	医療心理学	●				1								
	コミュニケーション	●							1					
	キャリアデザイン概論	●							1					

区分	授業科目	必選	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎薬学科目	薬学入門	●	1											
	医工薬連環科学	○			1									
	物理化学１	●		1										
	物理化学２	●			1									
	物理化学３	●				1								
	放射化学	●					1							
	分析化学１	●		1										
	分析化学２	●			2									
	生物無機化学	●			1									
	基礎有機化学	●	1											
	有機化学１	●		2										
	有機化学２	●			2									
	有機化学３	●				1								
	有機化学４	●					2							
	有機スペクトル学演習	●				1								
	基礎細胞生物学	●		2										
	生化学１	●		2										
	生化学２	●			2									
	分子生物学	●				2								
	微生物学	●			2									
	免疫学	●					2							
	機能形態学１	●		2										
	機能形態学２	●			2									
応用薬学科目	薬学英語	●							1					
	応用分析学	●					1							
	応用放射化学	○						1						
	生物物理化学	○							1					
	薬用植物学	●	1											
	薬用天然物化学	●		2										
	生薬学	●			1									
	医薬品化学１	●						2						
	医薬品化学２	●							1					
	精密有機合成化学	○						1						
	衛生薬学１	●				2								
	衛生薬学２	●					2							
	衛生薬学３	●						2						
	分子細胞生物学	●					2							
	病原微生物学	●						1						
	先端分子医科学	○							1					
	基礎漢方薬学	●				2								
	物理薬剤学	●					2							
	医療統計学	●								1				

区分	授業科目	必選	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医療薬学科目	医療人マインド	●	1											
	専門職連携医療論	○				1								
	生命医療倫理	●					1							
	医療と法	●						1						
	医療政策論	○								1				
	多職種融合（連携）ゼミ	○											1	
	早期体験学習	●	← 1 →											
	医療薬学導入学習	●		1										
	薬理学１	●			2									
	薬理学２	●				2								
	薬理学３	●					2							
	薬理学４	●						2						
	アドバンスト薬理学	○											1	
	生物薬剤学１	●				1								
	生物薬剤学２	●					1							
	薬物速度論	●						2						
	製剤設計学	●						2						
	薬物治療学１	●			2									
	薬物治療学２	●				2								
	薬物治療学３	●					2							
	薬物治療学４	●						2						
	薬物治療学５	●							2					
	アドバンスト薬物治療学	○								1				
	臨床化学	○						1						
	臨床感染症学	●							2					
	医薬品安全性学	○							1					
	漢方医学概論	○											1	
	臨床薬学概論	●					1							
	医薬品情報学	●						1						
	個別化医療	●							1					
	コミュニティファーマシー	●								1				
	臨床薬物動態学	●							1					
	臨床導入学習１	●							3					
	臨床導入学習２	●								1				
	薬事関連法・制度	●							2					
	社会保障論	●							1					
	薬学基礎演習	●								1				
	統合薬学演習	●											2	
	薬学総合演習	●											← 3 →	

区分	授業科目	必選	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
実習科目	分析化学実習	●			1									
	物理化学実習	●				1								
	基礎有機化学実習	●		1										
	漢方・生薬学実習	●				1								
	有機化学実習	●					1							
	生物学実習	●			1									
	生物科学実習	●					1							
	衛生薬学・放射化学実習	●						1						
	薬理学実習	●						1						
	薬剤学実習	●						1						
	病院実務実習	●									← 10 →			
	薬局実務実習	●									← 10 →			
	特別演習・実習 ※2	●							←	14		→		

●：必修科目　▲：選択必修科目　○：選択科目

選択科目は、同時間に複数科目開講することがある

※1　ドイツ語、中国語、ハングルより1カ国語を選択必修

※2　特別演習・実習は4年次前期から6年次前期の期間で行う

（別表２）卒業に必要な単位数

＜薬学部薬学科：令和３年度以降入学者適用＞

種　別	区分等	単位数	備　考
必修科目	基礎教育科目 基礎薬学科目 応用薬学科目 医療薬学科目 実　習	２７単位 ３４単位 ２３単位 ４９単位 ４４単位	
選択必修科目	基礎教育科目 「ドイツ語１，２」「中国語１，２」 「ハングル１，２」から１ヵ国語２科目	２単位	
選択科目	①基礎教育科目 １・２年次配当 「文学の世界」「歴史と社会」 「地球環境論」「政治と社会」 「基礎心理学」「法と社会」 「経済の世界」「数理論理学」 「社会分析の基礎」「人間と宗教」 「文化人類学」「倫理と社会」 「コーチング論」「スポーツ・運動２」 「情報科学」　　各科目１単位 ＜その他＞ 「本学の他学部、他大学等との単位互換の制度を利用して履修した科目」	４単位以上	・＜その他＞に区分する科目を除き、１年次では各学期に１科目、２年次では各学期に２科目まで選択して履修できる。
	②基礎薬学科目、応用薬学科目、医療薬学科目 ２年次配当 「医工薬連環科学」「専門職連携医療論」 ３年次配当 「応用放射化学」「精密有機合成化学」 「臨床化学」 ４年次配当 「生物物理化学」「先端分子医科学１」 「医薬品安全性学」「医療政策論」 「アドバンスト薬物治療学」 ６年次配当 「多職種融合（連携）ゼミ」 「漢方医学概論」 「アドバンスト薬理学」 各科目１単位	４単位以上 （２～４年次配当科目からは３単位以上、６年次配当科目からは１単位）	・３年次配当科目は、２科目まで選択して履修できる。 ・６年次配当科目は、１科目選択して履修する。
合　計		１８７単位以上	

・各科目の配当年次学期及び単位数については本規程別表１を参照すること。

・単位互換の取扱いについては「薬学部単位互換実施に関する規程」に定める。

（別表３）　研究生等納付金

＜薬学部薬学科＞

費　目		金　額	摘　要
研究生	指導料（月額）	10,000 円	
	研究料（月額）	20,000 円 10,000 円	本学卒業生
委託生	指導料（月額）	20,000 円	
	研究料（月額）	60,000 円以上	金額は研究内容その他を考慮して定める。
聴講生	聴講料（１科目）	10,000 円	
科目等履修生	授業料（１科目）	20,000 円	講義・演習科目 ただし、本学大学院薬学研究科在籍学生が、薬剤師国家試験を受験するために必要な学部講義・演習科目を履修する場合は、10,000 円とする。
	授業料（１科目）	60,000 円	実習科目 ただし、本学大学院薬学研究科在籍学生が、薬剤師国家試験を受験するために必要な学部実習科目を履修する場合は、10,000 円とする。

・本学卒業生には大阪薬科大学卒業生を含む。

大阪医科薬科大学　薬学部薬科学科規程

（令和３年４月１日施行）

（趣　旨）

第１条　この規程は、大阪医科薬科大学（以下、「本学」という。）に設置する薬学部薬科学科（学生募集停止中）について、本学学則（以下、「学則」という。）及び本学薬学部規程第１条第３項に基づく必要な事項を定める。

２　この規程に定めのない事項については、薬学部教授会（以下、「教授会」という。）の議を経て、学長が決定する。

（目　的）

第２条　薬学部薬科学科の目的は、健康、生命に関する有機的・総合的な知識を持つとともに、応用力、研究力を身に付けた薬学を基盤とする多様な分野で活躍できる人材の養成を目的とする。

（学科選択及び収容定員）

第３条　薬学部薬科学科は、令和３年４月１日に大阪薬科大学から薬学部に転入学した学生のうち、平成２９年度以前の大阪薬科大学薬学部入学生が第４学年次進級時に配属を選択できる。

２　薬学部薬科学科の収容定員は、第４学年次において２名とする。

（修業年限）

第４条　薬学部薬科学科の修業年限は、４年とする。

（在学年限）

第５条　薬学部薬科学科の在学年限は、８年を超えることができない。

２　前項の規定にかかわらず、１年次から４年次までは同一学年に２年を超えて在学することができない。ただし、同一学年の在学年数が年度の途中で２年を超えることとなる者については、その年度が終了するまで当該学年に在学することができる。

（授業科目、履修及び授業日程の公示）

第６条　授業科目、単位数及び配当年次は別表１のとおりとする。

２　授業科目は原則として、配当されている学年次において履修しなければならない。

３　各学年次において履修する授業科目の内容、授業時間表及び担当教員はシラバスにより公示する。

（必修科目・選択必修科目・選択科目）

第７条　授業科目は必修科目、選択必修科目及び選択科目に分けて開講する。

２　選択必修科目及び選択科目の履修届は、所定の期日までに提出しなければならない。た

だし、受講希望者が少ない場合には開講しないことがある。また、各選択科目で履修できる人数に制限を設けることがある。

３　履修届提出後の履修取消又は変更は、原則として認めない。ただし、授業科目によっては所定の期間に履修取消又は変更を認めることがある。

（授業時間・単位算定の基準）

第８条　学則第１９条に定める授業時間は、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修を考慮して、次のとおりとする。

(1) 講義及び演習による授業は、原則として１５時間の授業をもって１単位とする。

(2) 実習及び実技による授業は、原則として４５時間の授業をもって１単位とする。

(3) 前２号の規定にかかわらず、教育上必要があると認めたときは、講義及び演習については１５時間から３０時間までの範囲、実習及び実技については３０時間から４５時間までの範囲の授業をもって１単位とすることができる。

(4) 授業は、原則として９０分を１回とする。

２　前項の規定にかかわらず、特別演習・実習の授業科目については、それに必要な学修等を考慮して単位数を定める。

（授業期間）

第９条　学期における授業期間は、定期試験等の期間を除き、原則として１５週とする。ただし、教育上特別の必要がある場合、この期間より短い特定の期間において授業を行うことがある。

（成績の評価）

第１０条　授業科目の成績の評価は、授業科目毎に担当教員が授業内容に対する学生の学習到達度によって行い、到達目標及び成績評価方法はシラバスに示す。

２　前項の評価は、学則第２１条第２項の規定にかかわらず、原則として 100 点法によって行い、60 点以上を合格、59 点以下を不合格とし、（A）100～80 点、（B）79～70 点、（C）69～60 点、（D）59 点以下とする。

３　前項の規定にかかわらず、一部の授業科目は、論文、報告書等の審査により合・否を判定する。

（単位の認定）

第１１条　前条の成績の評価により、合格とする者に所定の単位を認定する。

２　実習及び実技の単位の認定には、原則として授業のすべてに出席することを必要とする。

３　前項の出席回数が不足し、所定の期日までに欠席届及び理由書を添えて願い出たときは、補充の授業を許可することがある。

（ＧＰＡ）

第１２条　学則第２１条の２に規定するＧＰ及びＧＰＡは適用しない。

（試験の種類）

第１３条　試験は定期試験、再試験及び特別再試験に分ける。なお、学則第２２条に定める追試験は適用しない。

（定期試験）

第１４条　定期試験を学期末に各１回行い、それぞれ前期定期試験及び後期定期試験とする。

２　出席回数が授業回数の３分の２に満たない者は、定期試験を受験することができないことがある。

３　定期試験における成績の評点は、試験の評点により、又は試験の評点に平常の成績を含め、100 点を満点とした整数によって表示する。

（再試験）

第１５条　再試験は原則として学期末に行う定期試験終了後に行う。

２　定期試験を受験し、成績が合格と判定されなかった場合、再試験を受験しなければならない。

３　平成２７年度から平成２９年度大阪薬科大学入学生については、２年次から４年次において、下位年次配当科目を受験する場合（再履修の場合を除く。）は、別表１に規定する当該科目の配当年次に実施する定期試験を再試験として受験し、成績が合格と判定されなかった場合、再度、再試験を受験しなければならない。

４　平成２６年度以前大阪薬科大学入学生については、２年次から４年次において、下位年次の単位未修得科目の再試験に限り、次項各号の理由により欠席した場合、試験欠席届及び理由書を提出することにより、別日程による再試験受験を認められることがある。

５　定期試験を欠席した場合、再試験を受験しなければならない。なお、次の理由により欠席した場合、試験欠席届及び理由書を提出することができる。

(1) 忌引（一親等又は二親等死亡の場合）又は就職試験、大学院入試受験の場合

(2) 傷病（診断書を提出）

(3) その他やむを得ない理由

６　再試験における成績の評点は、試験の評点により、又は試験の評点に平常の成績などを含め、次のとおりとする。

(1) 平成２７年度から平成２９年度大阪薬科大学入学生については、60 点を上限として表示する。ただし、前項第１号の場合は定期試験と同様に 100 点、第２号の場合は 80 点、第３号の場合は原則として 70 点をそれぞれ限度とする。

(2) 平成２６年度以前大阪薬科大学入学生については、定期試験を受験した場合は 70 点を上限、定期試験を欠席した場合は 60 点を上限として表示する。ただし、前項第１号の場合は定期試験と同様に 100 点、第２号の場合は 80 点、第３号の場合は原則として 70 点をそれぞれ限度とする。

７　選択科目の再試験は、履修した年度のみ受験することができる。

（特別再試験）

第１６条　第４学年次の再試験終了後、別表１及び別表２に規定する必要な履修授業科目の

うち、単位未修得科目について４年次特別再試験を行う。
２　特別再試験の受験要件は、次のとおりとする。
⑴ 平成２７年度から平成２９年度大阪薬科大学入学生については、単位未修得科目のうち、必修科目及び選択必修科目が５科目を超える場合は、特別再試験を受験することができない。
⑵ 平成２６年度以前大阪薬科大学入学生については、単位未修得科目のうち、必修科目が７科目を超える場合は、特別再試験を受験することができない。
⑶ 選択科目の受験は、３年次又は４年次に履修届を提出した科目に限る。
３　特別再試験における成績の評点は、試験の評点により、又は試験の評点に平常の成績などを含め、60 点を限度として表示する。
４　定期試験を実施せずに、他の適切な方法で学修の成果を評価し単位を与える科目（実習、実技、演習等）については、特別再試験を実施しない。

（受験料）
第１７条　再試験及び特別再試験を受験する者は、受験料を納めなければならない。
２　受験料の額は、１科目あたり１千円とする。
３　第１５条第５項各号のいずれかに該当する再試験受験者は、受験料を免除する。

（試験受験の心得）
第１８条　試験に関して不正な行為があったと認められた者については、大阪医科薬科大学学生等懲戒規程に基づき処分する。
２　試験受験に際しては、別に定める注意事項を遵守しなければならない。

（進　級）
第１９条　進級査定は、年度末に行う。
２　進級要件は、別表３に定める。

（卒　業）
第２０条　第４条に定める修業年限以上在学し、別表２に定める履修すべき授業科目のすべての単位を修得した者には、薬学部教授会の議を経て、薬学部長が卒業を認定し、学長が決定のうえ卒業証書及び学士（薬科学）の学位を授与する。
２　卒業の認定は、毎年度末に行う。ただし、やむを得ない理由により、この認定を受けることができなかった者については、次年度においてこれを行うことができる。

（留　年）
第２１条　進級要件又は卒業要件に抵触し、進級又は卒業できない場合は、原級に留め置く。その場合、既修得単位は認める。
２　原級に留め置かれた場合、原則として当該年次までの単位未修得のすべての授業科目を再履修するものとする。
３　原級に留め置かれた場合、当該年度に限り第６条第２項の規定にかかわらず、一つ上位

の学年次に配当されている授業科目の履修（先取り履修）を認めることがある。

（休　学）

第２２条　病気その他やむを得ない理由により、３カ月以上修学することができない者は、学則第２６条により休学を申請することができる。

２　休学を申請する者は、その理由を記した保証人連署の休学願を提出し、許可を得なければならない。

３　前項の休学願には、医師の診断書又は詳細な理由書を添えなければならない。

４　休学中の在籍料については、月額２万円を納付しなければならない。

（休学期間）

第２３条　休学期間は１年以内の学期単位を原則とし、年度をまたぐことはできない。引き続き休学しようとする者は、あらためて願い出て許可を得なければならない。

２　休学期間は通算して３年を超えることができない。

３　休学期間は第５条に定める在学年限に算入しない。

（再入学）

第２４条　本学を退学した者又は学則第３０条第４号により除籍された者が、退学又は除籍の日から２年以内に再入学を願い出たときは、学力等について審議のうえ許可することがある。

２　再入学を願い出る者は、所定の書類に入学検定料を添えて願い出なければならない。

３　再入学を許可された者は、学則第１５条の規定により入学手続きをしなければならない。ただし、学則第３０条第４号により除籍された者の再入学は、滞納した納付金を納付することを条件とする。また、既に提出した書類について変更がない場合は、これを省略することができる。

４　再入学を許可された者が退学前又は除籍前に修得した単位は認め、退学又は除籍までの在学年数は第５条の在学年限に算入する。

（学費の納入に関する取扱い）

第２５条　薬学部の学費の納入期日、その他納入に関する取扱いは別に定める。

（改　廃）

第２６条　この規程の改廃は、教授会及び法人運営会議の議を経て、理事長が行う。

附　則

１　この規程は、令和３年４月１日から施行する。

２　第３条第２項の規定にかかわらず、令和４年度以降の収容定員は０名とし、薬学部薬科学科は在籍学生がいなくなった時点で廃止する。

３　令和３年４月１日に大阪薬科大学から薬学部に転入学した学生の大阪薬科大学における修業年数及び在学年数については、第４条及び第５条に規定する修業年限及び在学年

限に継承する。

4　令和３年４月１日に大阪薬科大学から薬学部に転入学した学生の大阪薬科大学において修得した単位等については、薬学部に継承する。

5　令和３年４月１日に大阪薬科大学から薬学部に転入学した学生の第２３条第２項に規定する休学期間の上限の適用は、大阪薬科大学における休学期間と通算して取り扱う。また、同転入学した学生の第２４条第１項に規定する再入学の願出期限の適用は、大阪薬科大学における退学又は除籍の日から起算して取り扱う。

6　平成２６年度以前の大阪薬科大学入学生については、第５条第２項中の「２年」を「３年」に読み替える。

（別表１－１）授業科目及び単位年次配当表

＜薬学部薬科学科：平成 27 年度～平成 29 年度大阪薬科大学入学生適用＞

区分	授業科目		必選	１年次		２年次		３年次		４年次	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎教育科目	文学の世界(教養)		○	1		1					
	歴史と社会(教養)		○	1		1					
	地球環境論(教養)		○	1		1					
	政治と社会(教養)		○	1		1					
	基礎心理学(教養)		○	1		1					
	法と社会(教養)		○	1		1					
	経済の世界(教養)		○	1		1					
	社会分析の基礎(教養)		○	1		1					
	人間と宗教(教養)		○		1		1				
	文化人類学(教養)		○		1		1				
	倫理と社会(教養)		○		1		1				
	コーチング論(教養)		○		1		1				
	スポーツ・運動実習２(教養)		○		1		1				
	数理論理学(教養)		○		1		1				
	数学１		●	1							
	数学２		●		1						
	数理統計学		●			1.5					
	物理学１		●	1							
	物理学２		●		1						
	英語リスニング１		●	1							
	英語リスニング２		●		1						
	英語リーディング１		●	1							
	英語リーディング２		●		1						
	英語スピーキング１		●			1					
	英語スピーキング２		●				1				
	英語ライティング１		●			1					
	英語ライティング２		●				1				
	ドイツ語１	※１	▲	1							
	ドイツ語２	※１	▲		1						
	フランス語１	※１	▲	1							
	フランス語２	※１	▲		1						
	中国語１	※１	▲	1							
	中国語２	※１	▲		1						
	ハングル１	※１	▲	1							
	ハングル２	※１	▲		1						
	異文化言語演習１		●					1			
	異文化言語演習２		●						1		
	心理社会		●				1.5				
	コミュニケーション		●					1.5			
	医療と法		●						1		
	身体運動科学		●	1							
	スポーツ・運動実習１		●	1							
	情報科学		○		1						
	情報科学演習		●	1							
	化学		●	1							
	化学演習		●	1							
	生物学		●	1							
	医工薬連環科学		○			1.5					
	基礎有機化学		●	1							

区分	授業科目	必選	1年次		2年次		3年次		4年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎薬学科目	薬学入門	●	1						1	
	基礎細胞生物学	●		1.5						1.5
	有機化学１	●		1.5						1.5
	有機化学２	●			1.5					
	有機化学３	●				1.5				
	有機化学４	●					1.5			
	有機スペクトル解析学	●				1.5				
	物理化学１	●		1.5						1.5
	物理化学２	●			1.5					
	物理化学３	●				1.5				
	分析化学１	●		1.5						1.5
	分析化学２	●			1.5					
	放射化学	●					1.5			
	生化学１	●		1.5						1.5
	生化学２	●			1.5					
	生化学３	●				1.5				
	微生物学	●			1.5					
	機能形態学１	●		1.5						1.5
	機能形態学２	●			1.5					
	生物無機化学	●			1.5					
	免疫学	●						1.5		
応用薬学科目	医療統計学	●						1		
	生薬学	●		1.5						
	基礎漢方薬学	●			1.5					
	薬用天然物化学 １	●				1.5				
	薬用天然物化学 ２	●					1.5			
	衛生薬学１	●				1.5				
	衛生薬学２	●					1.5			
	衛生薬学３	●					1.5			
	衛生薬学４	●						1.5		
	病原微生物学	●				1.5				
	分子細胞生物学	●					1.5			
	ゲノム医科学	●					1.5			
	バイオインフォマティクス	●							1.5	
	応用分析学	●					1.5			
	応用放射化学	○						1		
	生物物理化学	○							1.5	
	分子設計学	●							1.5	
	物理薬剤学	●					1.5			
	合成化学	●						1.5		
	薬品合成化学	○							1.5	
	医薬品化学	○							1.5	

区分	授業科目	必選	1年次		2年次		3年次		4年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医療薬学科目	早期体験学習１	●	← 1 →							
	早期体験学習２	●		0.5						
	人体の構造と病態１	●	1.5							
	人体の構造と病態２	●		1.5						
	病態生化学	●						1.5		
	薬理学１	●				1.5				
	薬理学２	●					1.5			
	薬理学３	●						1.5		
	薬理学４	○							1.5	
	製剤学	●						1.5		
	生物薬剤学１	●				1.5				
	生物薬剤学２	●					1.5			
	薬物動態解析学	●						1.5		
	薬物治療学１	●			1.5					
	薬物治療学２	●				1.5				
	薬物治療学３	●					1.5			
	薬物治療学４	●						1.5		
	医薬品情報学	●						0.5		
実習科目	基礎薬学実習	●	0.5							
	基礎有機化学実習	●		1						
	有機化学実習	●					1			
	漢方・生薬学実習	●				0.5				
	分析化学実習	●			1					
	物理・放射化学実習	●				1				
	生物学実習	●			1					
	生物科学実習	●					1			
	衛生薬学実習	●						1		
	薬理学実習	●						1		
	薬剤学実習	●						1		
	特別演習・実習（前期） ※2	●							5	
	特別演習・実習（後期） ※2	●								6

●：必修科目　▲：選択必修科目　○：選択科目

選択科目は、同時間に複数科目開講することがある

※1　ドイツ語、中国語、ハングルより１カ国語を選択必修

※2　特別演習・実習は４年次前期、４年次後期の期間で行う

（別表１－２）授業科目及び単位年次配当表

＜薬学部薬科学科：平成 26 年度以前大阪薬科大学入学生適用＞

区分	授業科目		必選	１年次		２年次		３年次		４年次	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎教育科目	人間と文化１ （人間と文学・芸術）	※１	○	1							
	人間と文化２ （人間と歴史）	※１	○	1							
	人間と文化３ （人間と宗教）	※１	○		1						
	人間と文化４ （文化人類学）	※１	○		1						
	人間と文化５ （人間と生命）	※１	○			1					
	人間と文化６ （人間と地球環境）	※１	○			1					
	人間と文化７ （人間と言語）	※１	○				1				
	人間と文化８ （人間と政治）	※１	○				1				
	数学１		●	1							
	数学２		●		1						
	数理統計学		●			1.5					
	物理学入門１		●	1							
	物理学入門２		●		1						
	英語１		●	1							
	英語２		●		1						
	英語３		●			1					
	英語４		●				1				
	ドイツ語１	※２	▲	1							
	ドイツ語２	※２	▲		1						
	フランス語１	※２	▲	1							
	フランス語２	※２	▲		1						
	異文化言語演習１		●					1			
	異文化言語演習２		●						1		
	医療総合人間学２ 医療と健康		●	1.5							
	医療総合人間学３ 総合人間学/コミュニケーション学		●		1.5						
	医療総合人間学４ 生命倫理と法/人権とジェンダー		●			1.5					
	医療総合人間学５ 臨床心理学/医療社会学		●				1.5				
	健康科学演習１		●	1							
	健康科学演習２	※３	○		0.5						
	情報科学		○		1.5						
	情報科学演習		●	1							
	化学		●	1							
	化学演習		●	1							
	生物学		●	1							
	医工薬連環科学		○			1.5					
	基礎有機化学		●	1							
	実践ビジネス英語	※３	○								0.5

区分	授業科目	必選	1年次		2年次		3年次		4年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎薬学科目	医療総合人間学１　薬学・生命倫理の基礎	●	0.5							
	基礎細胞生物学	●		1.5						
	有機化学１	●		1.5						
	有機化学２	●			1.5					
	有機化学３	●				1.5				
	有機化学４	●					1.5			
	有機スペクトル解析学	●				1.5				
	物理化学１	●		1.5						
	物理化学２	●			1.5					
	物理化学３	●				1.5				
	分析化学	●		1.5						
	機器分析学	●			1.5					
	放射化学	●				1.5				
	生化学１	●		1.5						
	生化学２	●			1.5					
	生化学３	●				1.5				
	微生物学	●			1.5					
	機能形態学１	●		1.5						
	機能形態学２	●			1.5					
	生物無機化学	●			1.5					
	免疫学	●					1.5			
応用薬学科目	薬学英語１	●							1	
	薬学英語２	●								1
	生物統計学演習	●						1		
	生薬学１	●		1.5						
	生薬学２	●			1.5					
	薬用天然物化学　1	●				1.5				
	薬用天然物化学　2	●					1.5			
	衛生薬学１	●			1.5					
	衛生薬学２	●				1.5				
	衛生薬学３	●					1.5			
	衛生薬学４	●						1.5		
	病原微生物学	●				1.5				
	分子細胞生物学	●						1.5		
	応用分子生物学	●					1.5			
	応用分析学	●					1.5			
	応用放射化学	○					1.5			
	生体分子機能学	●								1.5
	生物物理化学	●							1.5	
	分子設計学	●								1.5
	生体分析学	●								1.5
	基礎薬剤学	●					1.5			
	薬品合成化学１	●						1.5		
	薬品合成化学２	●							1.5	
	医薬品化学１	●							1.5	
	医薬品化学２	●								1.5
	薬局方総論	●							1	
	薬事関連法・制度	●							1.5	
	薬科学卒業演習	●								0.5

区分	授業科目	必選	1年次		2年次		3年次		4年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医療薬学科目	早期体験学習１	●	← 1 →							
	早期体験学習２	●		0.5						
	人体の構造と機能	●	1.5							
	病態生理学１	●		1.5						
	病態生理学２	●			1.5					
	病態生化学	●					1.5			
	薬理学１	●				1.5				
	薬理学２	●					1.5			
	薬理学３	●						1.5		
	薬理学４	●							1.5	
	剤形設計学	●						1.5		
	薬物動態学１	●					1.5			
	薬物動態学２	●						1.5		
	薬物動態学３	●							1.5	
	薬物治療学１	●					1.5			
	薬物治療学２	●						1.5		
	薬物治療学３	●							1.5	
	薬物治療学４	●								1.5
	医療薬剤学１	●						1.5		
	医療薬剤学２	●							1.5	
	医薬品安全性学	●								1.5
	医療総合人間学６　医療倫理学	●							1.5	
	医療総合人間学７ 医療経済学・医療制度論	●								1.5
	臨床化学	●						1.5		
	臨床生理学	●							1.5	
	医用工学概論	●							1.5	
実習科目	基礎薬学実習	●	0.5							
	基礎有機化学実習	●		1						
	有機化学実習	●					1			
	生薬学実習	●				0.5				
	分析化学実習	●			1					
	物理・放射化学実習	●				1				
	生物学実習	●		1						
	生物科学実習	●					1			
	衛生薬学実習	●						1		
	薬理学実習	●						1		
	薬剤学実習	●							1	
	特別研究（前期）	●							5	
	特別研究（後期）	●								6

●：必修科目　▲：選択必修科目　○：選択科目

選択科目は、同時間に複数科目開講することがある

※1　人間と文化１と２、３と４、５と６、７と８は同時開講

※2　ドイツ語又はフランス語のいずれか一方を選択必修

※3　「健康科学演習２」、「実践ビジネス英語」は自由選択科目で卒業要件には含まない

（別表２－１）卒業に必要な単位数

＜薬学部薬科学科：平成 27 年度～平成 29 年度大阪薬科大学入学生適用＞

種　別	区分等	単位数
必修科目	基礎教育科目 基礎薬学科目 応用薬学科目 医療薬学科目 実　習	２６．５単位 ３１単位 ２５単位 ２３単位 ２１単位
選択必修科目	基礎教育科目 「ドイツ語１，２」「フランス語１，２」 「中国語１，２」「ハングル１，２」から１ヵ国語２科目	２単位
選択科目	①基礎教育科目 「教養科目（各１単位）」 「情報科学（１単位）」「医工薬連環科学（1.5 単位）」 「３大学連携、５大学連携、コンソーシアム大阪の各プログラム」の中から ※但し、「教養科目」からは３単位以上修得すること	５単位以上
	②基礎教育科目以外 応用薬学科目 「応用放射化学（1 単位）」「生物物理化学（1.5 単位）」 「薬品合成化学（1.5 単位）」「医薬品化学（1.5 単位）」 医療薬学科目 「薬理学４（1.5 単位）」 計７単位の中から	３単位以上
合　計		１３６．５単位以上

１．選択科目は、各項目ごとに示された単位数以上の単位を修得すること。

２．３大学連携、５大学連携、コンソーシアム大阪の単位互換の取扱いについては別に定める。

（別表２－２）卒業に必要な単位数

＜薬学部薬科学科：平成 26 年度以前大阪薬科大学入学生適用＞

種　別	区分等	単位数
必修科目	基礎教育科目 基礎薬学科目 応用薬学科目 医療薬学科目 実　習	２３．５単位 ３０．５単位 ３７．５単位 ２２．５単位 ２１単位
選択必修科目	基礎教育科目 「ドイツ語１，２」「フランス語１，２」から１ヵ国語２科目	２単位
選択科目	①基礎教育科目 「「人間と文化１，２，３，４，５，６，７，８（各１単位）」 「情報科学（1.5 単位）」「医工薬連環科学（1.5 単位）」 「３大学連携、５大学連携、コンソーシアム大阪の各プログラム」の中から	４単位以上
	②基礎教育科目以外 応用薬学科目 「応用放射化学（1.5 単位）」 医療薬学科目 「薬理学４（1.5 単位）」「薬物動態学３（1.5 単位）」 「医療薬剤学２（1.5 単位）」「医薬品安全性学（1.5 単位）」 「臨床化学（1.5 単位）」「医用工学概論（1.5 単位）」 「臨床生理学（1.5 単位）」「薬物治療学３（1.5 単位）」 「薬物治療学４（1.5 単位）」「医療総合人間学７（1.5 単位）」 計 16.5 単位の中から	４．５単位以上
合　計		１３６．５単位以上

１．選択科目は、各項目ごとに示された単位数以上の単位を修得すること。

２．３大学連携、５大学連携、コンソーシアム大阪の単位互換の取扱いについては別に定める。

（別表３）　進級要件

＜薬学部薬科学科＞

平成 27 年度～平成 29 年度大阪薬科大学入学生適用	平成 26 年度以前大阪薬科大学入学生適用
１　１年次から２年次への進級は、１年次に課せられた必修科目及び選択必修科目のうち、単位未修得科目が５科目以下のとき認められる。 ２　２年次から３年次への進級は、次の各号すべてを満たしたときに認められる。 (1) ２年次までに課せられた必修科目及び選択必修科目の単位未修得科目が５科目以下であること (2) 基礎教育科目の選択科目を５単位以上修得していること（ただし、教養科目は３単位以上修得していること） ３　３年次から４年次への進級は、次を満たしたときに認められる。 (1) ３年次までに課せられた必修科目及び選択必修科目の単位未修得科目が５科目以下であること	１　１年次から２年次への進級は、１年次に課せられた必修科目及び選択必修科目のうち、単位未修得科目が５科目以下のとき認められる。 ２　２年次から３年次への進級は、次の各号すべてを満たしたときに認められる。 (1) １年次に課せられた必修科目及び選択必修科目をすべて修得していること (2) ２年次に課せられた必修科目及び選択必修科目の単位未修得科目が７科目以下であること (3) 基礎教育科目の選択科目を４単位以上修得していること ３　３年次から４年次への進級は、次の各号すべてを満たしたときに認められる。 (1) ２年次に課せられた必修科目及び選択必修科目をすべて修得していること (2) ３年次に課せられた必修科目の単位未修得科目が７科目以下であること

大阪医科薬科大学　薬学部教授会規則

（令和３年４月１日施行）

（趣　旨）

第１条　この規則は、大阪医科薬科大学学則（以下、「学則」という。）第４７条の規定に基づき、大阪医科薬科大学薬学部教授会（以下、「教授会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

（組　織）

第２条　教授会は、薬学部長（以下、「学部長」という）及び薬学部教授をもって組織する。

２　教授会が必要と認める場合、准教授、講師、助教を加え、薬学部拡大教授会とすることができる。

３　学長は、重要と判断する議事において教授会に出席することができる。

（審議事項）

第３条　教授会は、次に掲げる事項について学長が決定するに当たり、審議のうえ意見を述べるものとする。

⑴　学生の入学、卒業及び課程の修了

⑵　学位の授与

⑶　第１号及び第２号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

２　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項について、学長及び学部長の求めに応じ、意見を述べることができる。

３　第１項第３号に掲げる事項については、学長が別に定める。

（招集及び議長等）

第４条　教授会は、学部長がこれを招集し、その議長となる。

２　議長に差支えあるときは、あらかじめ学部長が指名した教授がその職務を代行する。

３　教授会は、原則として毎月１回招集する。ただし、学部長が必要と認めたときは、臨時にこれを招集することができる。

４　やむを得ず教授会を欠席する場合には、原則として欠席届を提出しなければならない。

（審議事項等の通知）

第５条　教授会の審議事項等は、あらかじめ通知するものとする。ただし、緊急を要する場合はこの限りでない。

（議　事）

第６条　教授会は、構成員総数の３分の２以上の出席で成立する。

２　校務により出席できない旨記載した欠席届を事前に提出した者は、前項の定足数におい

て出席者とみなす。

３　教授会の議事は、現に出席している者の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。ただし、教員人事に関する議決事項は、別に定める。

（事　務）

第７条　教授会の事務は、薬学学務部が担当する。

（雑　則）

第８条　この規則に定めるもののほか、教授会の運営に関し必要な事項は、教授会が別に定める。

（改　廃）

第９条　この規則の改廃は、教授会及び法人運営会議の議を経て、理事会が行う。

附　則

この規則は、令和３年４月１日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類（薬学部）

目　　次

１．設置の趣旨及び必要性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．　２

２．学部・学科等の特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．１３

３．学部・学科等の名称及び学位の名称・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．１４

４．教育課程の編成の考え方及び特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．１４

５．教員組織の編成の考え方及び特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．２４

６．教育方法、履修指導方法及び卒業要件・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．２８

７．施設、設備等の整備計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．３７

８．入学者選抜の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．４１

９．取得可能な資格・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．４５

１０．実習の具体的計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．４５

１１．管理運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．５１

１２．自己点検・評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．５２

１３．情報の公表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．５４

１４．教育内容等の改善を図るための組織的な研修・・・・・・・・・・・・・Ｐ．５６

１５．社会的・職業的自立に関する指導等及び体制・・・・・・・・・・・・・Ｐ．５７

１６．学科間の差異・特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．６０

１７．実務の経験を有する教員の配置に関する考え方・計画・・・・・・・・・Ｐ．６０

１８．長期実務実習の具体的計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．６１

１９．教育課程と指定規則等との対比表・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．６６

２０．転入学する学生への措置について・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．６７

１．設置の趣旨及び必要性

（１）設置の趣旨

今般の薬学部及び大学院薬学研究科の設置は、既存の大学に新たに学部及び研究科を新設するのではなく、学校法人大阪医科薬科大学が設置している大阪医科大学と大阪薬科大学を統合することが目的である。そのための手続きとして、大阪医科大学に薬学部及び大学院薬学研究科を設置するものである。

大学統合の目的は、両大学を医学・薬学・看護学が連携・融和した先進的・専門的な教育・研究を推進し、それに基づく高度な医療体制を構築・提供する我が国有数の医療系総合大学へと発展させることである。

本法人は、平成 28 年に大学統合に先んじて法人合併を成し遂げたが、その検討段階よりこの 2 大学の統合を合併の目的としていた。

法人合併を検討していた数年前までは、設置者変更による大学統合・学部譲渡の制度が整備されていなかったこともあり、先ずは学校法人の合併を先行させることとし、両大学間の教育・研究面での連携を深めるとともに、両大学の学生、教職員及び各々の同窓会や学生保護者、関係諸団体等のステークホルダーとの間で統合に向けた機運の醸成に努めてきたものである。

なお、設置する薬学部及び大学院薬学研究科は、令和元年 5 月 10 日文部科学省告示第 1 号「学校法人の寄附行為及び寄附行為の変更の認可に関する審査基準の一部を改正する告示」及び令和元年 5 月 13 日元文科高第 28 号「私立学校法施行規則等の一部改正について（通知）」に基づき、現在の組織並びに校地並びに施設及び設備の同一性を保持する他、教育課程や教員組織、学生支援体制等の全てを大阪薬科大学より承継することとしている。

また、薬学部及び大学院薬学研究科の設置と合わせ、大学名称を現在の法人名称と同様に「大阪医科薬科大学」へと変更することとしており、令和元年 10 月に名称変更に係る事前相談を実施し、大学設置・学校法人審議会大学設置分科会運営委員会より、届出による手続きで可能との結果を受けている。

※薬学部及び大学院薬学研究科の設置に係る具体的なスケジュールは以下の通り

1. 大阪医科大学に薬学部及び大学院薬学研究科の設置認可申請（令和 2 年 3 月）
2. 設置認可予定（令和 2 年 8 月）
3. 大学名称変更の届出（令和 2 年 9 月）
4. 大阪医科大学に薬学部及び大学院薬学研究科を新設（令和 3 年 4 月 1 日付）

5. 大阪薬科大学薬学部及び大学院薬学研究科の全学生を大阪医科大学へ転学
（令和 3 年 4 月 1 日付）
6. 大学名称を「大阪医科大学」から「大阪医科薬科大学」へ変更（令和 3 年 4 月 1 日付）
7. 大阪薬科大学を廃止（令和 3 年 4 月 1 日付）

（２）設置に至る経緯

①学校法人の目的及び設置大学の沿革

平成 28 年 4 月、学校法人大阪医科大学（設置校：大阪医科大学、高槻中学校・高等学校）と、学校法人大阪薬科大学（設置校：大阪薬科大学）が法人合併し、学校法人大阪医科薬科大学（設置校：大阪医科大学、大阪薬科大学、高槻中学校・高等学校）となった。

学校法人大阪医科薬科大学の目的は、「学校教育法並びに私立学校法に従い、学校等を設置し、国際的視野に立った教育、研究或いは良質な医療の実践を通して、創造性と人間性豊かで人類の福祉と文化の発展に貢献する人材を育成すること」としている。

大阪医科大学は、昭和 2 年に設立された日本で最初の 5 年制医学専門学校である「大阪高等医学専門学校」を前身とする。昭和 21 年に旧制「大阪醫科大學」となり、その後昭和 27 年には医学部を有する新制「大阪医科大学」に移行し、昭和 34 年には大学院医学研究科医学専攻博士課程を設置、平成 22 年には看護学部を設置、平成 26 年には大学院看護学研究科看護学専攻博士前期課程及び同後期課程を設置した。また、令和 2 年度より大学院医学研究科に医科学専攻修士課程を設置（令和元年 8 月認可）する。

建学の精神を「医育機関の使命は医学教育と医学研究であり、またその研究は実地の医療に活かすことで完成する。」と定め、「豊かな人間性を備え、人類共通の課題である健康の維持増進並びに疾病の予防と克服及び苦痛の軽減に努める人材、変化する社会に対応し最新の知識と最良の技術を生涯学び続ける人材、及び地域医療から世界に通じる研究開発にわたる領域で探究心を持って活躍する人材を育成するための教育を実践する」ことを目的として、これまでに、約 9,000 名の医師と約 4,500 名の看護師を輩出してきた。

大阪薬科大学は、明治 37 年に設立された「大阪道修薬学校」を前身とする。その後、日本で最初の女子薬学専門学校である「帝国女子薬学専門学校」を経て、昭和 25 年には薬学部を有する新制「大阪薬科大学」となり、昭和 50 年には大学院薬学研究科を設置した。平成 18 年度からの薬学 6 年制への移行に伴い、現在の薬学部薬学科（6 年制）及び薬科学科（4 年制）を設置し、その完成年度に合わせ平成 22 年度には薬科学科（4 年制）を基礎とする薬科学専攻修士課程を、平成 24 年度には同修士課程（博士前期課程へ変更）に接続す

る博士後期課程と、薬学科（6 年制）を基礎とする薬学専攻博士課程（4 年制）を設置し、平成 30 年度からは薬科学科（4 年制）の学生募集を停止し、今日に至っている。

建学の精神を「自助自立した精神を涵養し、深く薬学の知識を授けることにより、豊かな人間性を備えた薬剤師・薬学人を養成し、もって人類の福祉と文化の向上に寄与する」と定め、「教育基本法及び学校教育法の規定に基づき広く知識を授けると共に深く薬学に関する教育研究を行い、有為な人材を育成し、人類の福祉と文化の向上に寄与する」ことを目的として、これまでに、約 21,000 名の薬剤師等の薬学関連領域で活躍する人材を輩出してきた。

②設置に至る経緯及び趣旨

平成 28 年 4 月の法人合併の目的は、「我が国の人口構造と社会情勢の変化を見据えて次世代を担う良質の医療人の養成、並びに医学・薬学・看護学が連携・融和する先進的医療体制の構築・提供を目指し、特色ある学際的教育・研究と新たなチーム医療教育を推進すると共に、魅力ある学校作りを行い、もって新法人大阪医科薬科大学の運営と経営の基盤を強化すること」であり、その効果をより高めるためには将来、両大学の統合が必須であるとの認識のもとに先ずは法人合併を実現させたもので、合併当初はもとより、その検討段階から、法人合併より数年後の大学統合を視野に入れていた。

両大学は、それぞれが歴史と伝統のある大学であり、これまで優秀な人材の育成と研究成果の還元を通じて社会に貢献してきた。しかしながら、18 歳人口は平成 4 年の約 205 万人をピークに平成 21 年には約 121 万人まで減少し､その後は横ばいで推移していたところ、平成 30 年以降再び減少し、令和 6 年には約 106 万人まで減少すると予測されている。こうした人口構造の変化は国公私立を問わず、大学の置かれている環境をより厳しくするものであり、いずれ大学淘汰の時代の到来が予想される中、両大学の強みや特色を活かし、時代を先取りした我が国有数の医療系総合大学に発展させる必要があるとして、両大学を統合することを決定した。

大学統合に先行し、平成 30 年度からは、大阪医科大学の医学部・看護学部と大阪薬科大学の薬学部による専門職連携教育（IPE：Interprofessional Education）をスタートさせているが、両大学の統合により、人的資源と物的資源を効果的に活用し、前述した法人合併の目的である「次世代を担う良質の医療人の養成、並びに医薬看が連携・融和する先進的医療体制の構築・提供を目指し、特色ある学際的教育・研究と新たなチーム医療教育を推進する」ことを一層具現化させていく。

統合にあたっては、現時点で同一法人内の 2 大学を直接的に統合する制度は存在しないことから、大阪医科大学に薬学部を第 1・2・3・4・5・6 年次、大学院薬学研究科を薬学専攻博士課程は第 1・2・3・4 年次、薬科学専攻博士前期課程は第 1・2 年次、同博士後期課

程は第1・2・3年次の同時開設として設置し、新入学生を受け入れるとともに、統合期日に在籍する大阪薬科大学の薬学部及び大学院薬学研究科の全学生を転学させた後、大阪薬科大学を廃止する計画としている。また、薬学部及び大学院薬学研究科の設置に合わせ、大学名称を大阪医科薬科大学に変更する。

なお、現在の大阪薬科大学の組織並びに校地並びに施設及び設備は、設置・統合の前後でその同一性を保持する他、教育課程や教員組織、学生支援体制等の全てを大阪薬科大学より承継することとし、転学する大阪薬科大学の在学生が統合により不利益を被ることがないよう万全を期すこととしている。

③募集停止中の学科の取扱い

大阪薬科大学薬学部では、平成18年度からの薬学6年制への移行時より、薬剤師の養成を主目的とする6年制の薬学科と薬学研究者や技術者の養成を主目的とする4年制の薬科学科を設置してきた。

大阪薬科大学薬学部の特徴として、学生募集・入学試験は、薬学部として一括で行い、1年次から3年次までは学部共通のカリキュラムで学び、4年次進級時に学生の学科選択によりそれぞれの学科に配属する制度を採用してきた。しかし、薬科学科を希望する学生が少なく、収容定員を充足できない状況が続いていたため、平成30年度より薬科学科の学生募集を停止している。以下に大阪薬科大学薬学部薬科学科の収容定員と現員の変遷を記す。

薬科学科 (4年制)	平成29年度	平成30年度 ***募集停止**	平成31年度	令和2年度	令和3年度 ***設置**
収容定員	120名	90名	60名	30名	0名 **→設置後2名**
現　　員	3名	1名	2名	(見込み)1名	

設置時の令和3年度以降の入学生及び転学する平成30年度以降の入学生は、入学時より全員が6年制の薬学科の配属となり募集停止中の薬科学科の選択権はないが、平成29年度以前の入学生は、4年次進級時に学科選択の権利を有することとなる。

薬科学科は、平成30年度からの募集停止後の年次進行により、標準修業年限内に対象となる学科選択権を有する平成29年度以前の入学生全員が卒業するか、又は6年制薬学科を選択すれば、令和2年度末をもって在籍学生がいなくなるため、廃止手続きを行うことができる。しかしながら、本申請の時点で標準修業年限内に卒業できない留年者が複数在籍しているため、これらの学生が不利益を被ることがないよう、入学時に約束した教育課程の提供（募集停止中の薬科学科の選択権）を保証しなければならない。

そのため、薬学部には、6 年制の薬学科（入学定員 294 名、収容定員 1,764 名）を設置するとともに、平成 29 年度以前の入学生への措置として 4 年制の薬科学科（募集停止：入学定員 0 名、学科配属年次となる 4 年次の収容定員 2 名）を学生募集停止を継続したまま設置することとし、転学する学生の教育条件の維持に万全を期す必要がある。4 年次の定員 2 名を定めた根拠は、上表に示す同学科の過去からの学科配属現員（1 名～2 名で推移）と、この先の同学科のニーズ及び学科選択の動向を勘案したものであり、可能な限り実人員に則して設定した。

当然ながら、募集停止中の薬科学科の教育課程、履修要件等は、対象となる学生が入学した際の大阪薬科大学薬学部薬科学科のものを踏襲するものとし、その取扱いは「20　転入学する学生への措置について」において後述する。

なお、設置認可申請は、設置時の入学生に対する完成年度に至るまでの諸計画であることから、原則として募集停止中の学科はその対象とならないところ、前述の通り、大阪医科大学薬学部に転学させる学生の教育条件の維持を目的として、例外的に薬科学科を含めた薬学部として設置認可申請を行うこととしている。

この薬科学科の学生募集停止に関係し､薬学科の入学定員を平成 30 年度に 270 名から 294 名に変更し、合わせて編入学定員（2 年次：5 名）を廃止しているため、薬学科の収容定員は、令和 3 年度 1,721 名、令和 4 年度 1,740 名となり、令和 5 年度から 1,764 名となる。

（３）薬学部設置の必要性と大学統合後の展望

「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」（平成 30 年 11 月 26 日中央教育審議会）において、「一法人一大学となっている国立大学の在り方の見直し、私立大学における学部単位等での事業譲渡の円滑化、国公私立の枠組みを越えて大学等の連携や機能分担を促進する制度の創設など、（中略）大学等の連携・統合を円滑に進めることができる仕組みや、これらの取組を促進するための情報の分析・提供などの支援体制の構築など実効性を高める方策について検討することが必要である。」と提言されているとおり、複数の大学等の人的・物的資源を効果的に共有すると同時に教育研究機能の強化を図るためにも、学部譲渡や大学統合は強く求められているものである。前述の私立学校法施行規則、学校法人の寄附行為及び寄附行為の変更の認可に関する審査基準等の一部改正は、この要請を受けてのものと考えられる。今般の大学統合は、本法人が法人合併の当初よりこれらの必要性を認識してきたものを具現化するものと言える。

また、同グランドデザインでは、「社会全体の急速な変化や 18 歳人口の減少を踏まえるとともに、将来の更なる変化を見据え、大学が選択する機能と、その比重の置き方につい

て改めて見直すことにより、自らの強みや特色を意識した上で、将来の発展の方向性を考えていくことが重要である。」、「現時点の「強み」の維持・強化にとどまることなく、不断の大学改革により、新たな「強み」を持続的に生み出していくとともに、次代の社会を牽引するような新たな価値を創造することが期待されている。」、「大学として「強み」や「特色」を明確にした上で、それらを伸ばしていくために、（中略）大学間の連携・統合を進めていくことも一つの方策である。」と提言されている。これは、「我が国の人口構造と社会情勢の変化を見据えて次世代を担う良質の医療人の養成、並びに医学・薬学・看護学が連携・融和する先進的医療体制の構築・提供を目指し、特色ある学際的教育・研究と新たなチーム医療教育を推進すると共に、魅力ある学校作りを行う」という法人合併の目的に合致するものであり、両大学が有する医療系大学としての特色の強化にとどまらず、医療系3学部が連携・融和することによる新たな「強み」と「価値」を創造することで、「時代を先取りした我が国有数の医療系総合大学に発展させる」という大学統合の趣旨・目的と適合するものである。

18歳人口を含む我が国全体の人口の減少が見込まれる一方で、薬系大学・薬学部は増加しており、将来的な薬剤師の供給過剰が予測されている中、薬系大学間の競争は今後、さらに激化していくものと考えられる。

また、これまで薬剤師が担ってきた「調剤業務」も「調剤業務のあり方について」（平成31年4月2日厚生労働省医薬・生活衛生局総務課長通知）において、一定の条件下、調剤業務を薬剤師以外の者が実施することは差し支えない旨の通知がなされ、調剤機器や情報技術の発達により、AIやロボットを活用した対物業務の効率化・省人化が進むなど、薬剤師が置かれている状況は変革の時を迎えている。すなわち、薬剤師に求められる職能が、これまでの調剤等の“対物”を中心とした業務から、医師や看護師等の医療従事者、患者との議論・対話をベースとした“対人”業務へとシフトしていくこととなる。これは同時に、6年制薬学教育に対し、臨床現場でのチーム医療の一員として、また、厚生労働省が提唱する地域包括ケアシステムの構築における地域医療の担い手として、薬に対する高度な知識と技術、高い生命倫理観を持ち合わせた上で、患者の状態・病態を把握し医師と議論を重ねることのできる薬剤師の養成が社会から求められているということである。つまり、薬学教育には、患者の身体の健康状態を評価し薬物の適正使用及び副作用出現の有無を確認するためのフィジカルアセスメント等の技能、医療人としての倫理観の醸成はもとより、臨床現場でのチーム医療において、医師や看護師等の医療従事者との実践的なコミュニケーション能力までをカバーすることが求められている。

今般の大学統合に伴う薬学部の設置により、医学、薬学、看護学の3学部を擁する大学となることで、これまでの薬学教育で不足していた実践的な教育、特に3学部及び附属病

院を含む専門職連携教育（IPE）をさらに推進し、医療系総合大学としての強みを最大限に活かし、社会からそして臨床現場から真に求められる質の高い薬剤師を輩出することを目指す。

加えて、将来的な薬剤師の供給過剰予測に対し、現状においては薬剤師不足が続いており、特に地方の薬剤師不足は深刻な状況にある。大阪薬科大学薬学部では、薬剤師が不足している鳥取県などの地方自治体と就職支援協定を締結し、様々な活動を通じて地方の薬剤師不足に貢献する活動を行ってきた。今般、設置する薬学部においても、この活動を継続するだけでなく、さらに発展させて西日本の薬剤師不足の地域にまで広げていく計画であり、地方の地域医療に積極的に参画できる薬剤師を養成し、都市部や関西圏のみならず地方への社会貢献を果たしていく。

今般、設置する薬学部に関し、近隣の関連する職能団体からの意見を聴取した結果、大阪府薬剤師会、大阪府病院薬剤師会、京都府薬剤師会（京都府病院薬剤師会は、京都府薬剤師会の下に病院診療所薬剤師部会として設置)、兵庫県薬剤師会、兵庫県病院薬剤師会より薬剤師養成に関する要望書が提出された。

要望書では、薬剤師業務が対物から患者や地域社会との関わりの大きい対人業務に大きく転換していく中で、こうした社会のニーズに則した魅力ある薬学部薬学科の設置により、医学部・看護学部との専門職連携教育（IPE）の実践等を通した実際の医療・臨床現場における質の高い薬剤師の養成を強く求められており、今般の大学統合に対する期待の高さが伺える。

両大学は、平成 28 年 4 月の法人合併当初より、数年後の大学統合を視野に入れていた。平成 30 年度からは、大阪医科大学の医学部・看護学部と大阪薬科大学の薬学部による専門職連携教育（IPE）がスタートしているが、大学統合と、近い将来の医学部・看護学部の近隣地域へのキャンパス移転により、医療系 3 学部による連携教育のさらなる発展や共同研究の推進を加速させていく。

大学統合により、人的資源と物的資源を効果的に活用し、法人合併の目的として定めた「次世代を担う良質の医療人の養成、並びに医薬看が連携・融和する先進的医療体制の構築・提供を目指し、特色ある学際的教育・研究と新たなチーム医療教育を推進する」ことを、より具現化することができる。

なお、募集停止中の薬科学科は、これまで大阪薬科大学において実施してきた薬学教育を踏襲し、同時に設置する大阪医科大学大学院薬学研究科薬科学専攻博士前期課程での教育・研究への連繋も踏まえたものとする。

こうした教育課程を経た者の進路は、製薬企業における研究開発、医薬情報、治験、製薬・製剤、流通等の担当者、創薬・創剤研究者・技術者、教育関係者等、極めて多岐にわたることとなり、「時代を先取りした我が国有数の医療系総合大学に発展させる」という大学統合の趣旨・目的に更なる多様性を持たせるとともに、多様な薬学関連領域における薬学出身者の活躍を促してきたこれまでの実績に基づく、大阪薬科大学から続く薬学教育の特色と言えるものである。

（４）統合後の大学の建学の精神、教育上の理念、目的、養成する人材像等

建学の精神及び学是、並びに大学の理念及び目的は、大阪医科大学及び大阪薬科大学それぞれの精神を受け継ぎ、融合・発展させた次の内容である。

①建学の精神及び学是

建学の精神と学是は以下の通りである。

建学の精神
『医療人育成機関の使命は、教育と研究であり、またこれらは医療の実践に活かすことで達成される』 大阪医科大学の前身となる大阪高等医学専門学校は、旧財団法人大阪高等医学専門学校を設立した吉津度（よしづわたる）の唱える「医育機関の使命は医学教育と医学研究であり、またその研究は実地の医療に活かすことで完成する。」との理念の下、卒業生が医人として「救世仁術」の域に達することを念じて、昭和 2 年に開設され、昭和 27 年には大阪医科大学となり、現在に至っています。大阪医科大学では、吉津度の唱えた『医育機関の使命は医学教育と医学研究であり、またその研究は実地の医療に活かすことで完成する。』を建学の精神としています。 大阪薬科大学の前身となる大阪道修薬学校は、薬業界の創始期にあった明治 37 年に、薬種商、売薬業者、製薬業者の社員に広く薬学学修の機会を与えるという使命を担って建学されました。その後我が国最初の女子薬専となる帝国女子薬学専門学校へと引き継がれ、昭和 25 年には男女共学の大阪薬科大学となり現在に至っています。こうした歴史と伝統を受け継ぎ大阪薬科大学は、『自助自立した精神を涵養し、深く薬学の知識を授けることにより、豊かな人間性を備えた薬剤師・薬学人を養成し、もって人類の福祉と文

化の向上に寄与する』ことを建学の精神としています。 大阪医科薬科大学の設立に当たっては、この双方の建学の精神を受け継ぎながら、『医療人育成機関の使命は、教育と研究であり、またこれらは医療の実践に活かすことで達成される』を建学の精神と定め、医薬看を持つ医療系総合大学として、広く医療人の育成を使命とすることとし、教育と研究双方の実践、臨床現場における実務教育の充実、多職種連携教育の強化を目指すこととしています。

学是
『至誠仁術』 至誠とは孟子の「至誠にして動かざる者は、未だ之れ有らざるなり」に由来しています。 「至誠仁術」には「誠実」、「医学・薬学・看護学教育」、「医学・薬学・看護学研究」、「実地医療」、「国際化」といった５つのキーワードが込められています。 吉津度の唱える「救世仁術」における「救世」は、豊かな人間性に基づくもので、人格として最高の表現とされる「integrity（誠実性)」に共通すると考えられます。この「integrity」の持つ崇高な人間性は、孟子の「是の故に誠は、天の道なり。誠を思うは、人の道なり。至誠にして動かざる者、未だ之れ有らず。誠あらざれば、未だ能く動かす者有らず。」における「至誠」に相当、或いは共通すると考えられます。

②理念

大学の理念は以下の通りであり、学則に明示する。

大学の理念
建学の精神及び学是（至誠仁術）に基づき、国際的視野に立った教育、研究或いは良質な医療の実践をとおして、人間性豊かで創造性に富み人類の福祉と文化の発展に貢献する医療人を育成する。

③大学の目的

大学の目的は以下の通りであり、学則に明示する。

大学の目的
大学の理念に基づき、豊かな人間性と国際的視野を備えた次の人材を育成することを目的とする。 (1) 人類共通の課題である健康の維持増進並びに疾病の予防と克服及び苦痛の軽減に努

める人材 (2) 変化する社会に対応し最新の知識と最良の技術を生涯学び続ける人材 (3) 地域医療から世界に通じる研究開発にわたる領域で探究心を持って活躍する人材

④薬学部薬学科・薬科学科の目的及び養成する人材像

大学の理念及び目的を実現するため、設置する薬学部の教育上の目的を以下の通り定め、養成する人材像を明確にする。薬学科の目的は薬学部規程に、薬科学科の目的は薬科学科規程に明示する。

薬学部薬学科の目的
(1) 生命の尊厳と人権の尊重を基本に、人々の生き方や価値観を尊重できる豊かな人間性を育成する。 (2) 多様な人材と共同し、薬学や医療の分野で国際的に通用する新しい知識や技術を創造できる能力を育成する。 (3) 科学的知識と倫理的判断に基づき、薬学に関する専門知識、情報や技術を効果的に活用した医療が実践できる能力を育成する。 (4) 薬剤師として地域社会の特性を学び、多職種と連携し協働してさまざまな健康課題に取り組むことができる能力を育成する。 (5) 薬剤師として専門能力と教育能力を自律的に探求し、継続的に発展させる基本的姿勢を育成する。

薬学部薬科学科の目的
健康、生命に関する有機的・総合的な知識を持つとともに、応用力、研究力を身に付けた薬学を基盤とする多様な分野で活躍できる人材の養成を目的とする。

なお、薬学科の目的は、大阪薬科大学薬学部薬学科の目的を踏襲するとともに、統合後の大学の目的との関連や他学部の目的の表現等を踏まえ整理したものである。薬学科については、薬剤師の養成が主目的であり、6 年制薬学教育が準拠すべき「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成 25 年 12 月 25 日)」において明示された「薬剤師として求められる基本的な資質」を全て踏まえた内容として、社会が薬剤師に求める臨床に係る実践的な能力と医療人としての自負並びに倫理感を併せ持つ人材の養成について示している。

一方、薬科学科については、前述の「募集停止中の学科の取扱い」に記載するとおり、学生募集停止を継続したまま設置する学科であるため、大阪薬科大学薬学部薬科学科の目的から一切の変更はない。大学院進学を踏まえた薬学研究者・技術者等の養成が主目的であり、基礎薬学分野における多様な人材の養成について示している。

⑤学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

薬学部薬学科・薬科学科の目的に基づく学修成果の目標として、以下のとおり学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定める。これらのディプロマ・ポリシーについても、大阪薬科大学薬学部における内容を踏襲するものであり、また、人材養成の目的との関連性や薬学科においては「薬剤師として求められる基本的な資質」を踏まえた内容として、卒業時までに学生が身に付けておくべき能力の目標を明示する。このディプロマ・ポリシーを起点として大学に求められる教育の質の保証にこれまで同様に対応していく。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
【薬学科】 薬学科において、必要な所定の単位を修得し、以下の資質と能力を有した学生に対して卒業を認定し、「学士（薬学）」を授与します。 1. 医療人として相応しい倫理観と社会性を有していること。 2. 国際化に対応できる基礎的な語学力を有していること。 3. 薬の専門家として必要な幅広い科学的知識・技能・態度を有していること。 4. 薬剤師として医療に関わるための基本的知識・技能・態度を有していること。 5. チーム医療や薬物療法に必要な専門的知識・技能・態度を有していること。 6. 薬の専門家に必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有していること。 7. 地域における必要な情報を適切に発信し、人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有していること。 8. 薬学・医療の進歩に対応するために自己研鑽し、次なる人材を育成する意欲と態度を有していること。 9. 薬学・医療の進歩と改善に役立てる研究を遂行する意欲と科学的根拠・研究に基づく問題発見・解決能力を有していること。 【薬科学科】 薬科学科において、必要な所定の単位を修得し、以下の資質と能力を有した学生に対して卒業を認定し、「学士（薬科学）」を授与します。 1. 医療に関わるために必要な倫理性と社会性を身に付けていること。 2. 国際化に対応できる基礎的な語学力を有していること。

3.創薬研究などに必要な基礎的知識と技能・態度を有していること。
4.科学的な課題を探求し、解決する能力を有していること。
5.研究者に必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有していること。

（５）研究対象とする学問分野

設置する薬学部薬学科・薬科学科が研究対象とする中心的な学問分野は、「薬学」である。

２．学部・学科等の特色

設置する薬学部は、大阪薬科大学薬学部としてこれまでより、薬剤師をはじめ、薬学技術者、研究者、教育関係者、行政関係者、その他多様な人材を養成・育成することにより、長く社会に貢献してきた。特に薬学科においては、日進月歩の医療の進歩と医薬分業の進展の中で、薬剤師がその役割を十分果し得るよう豊かな教養と確かな薬学の基礎学力を身に付けさせるとともに、医療薬学領域の知識を広く修得させ、その上で実務に関する十分な実践的教育を行うことに重点を置き、病院・薬局の医療の場で活動するものに対する社会の要請に応え得る知識、技能、心構えの充実した、患者や医療チームの構成員から薬の専門家として信頼される薬剤師の養成にあたってきた。設置する薬学科では、大阪薬科大学薬学部薬学科で展開してきたこのような特色を踏襲し、薬剤師に求められる職能の高度化・複雑化に対応できる人材を輩出する教育を実践する。また、我が国の課題である「多職種が連携するチーム医療に貢献できる良質な医療従事者の養成」に対応すべく、大学統合により医学部・薬学部・看護学部の専門職連携教育（IPE）のさらなる発展・深化を目指し、他の医療従事者等とのチーム医療に参画できる質の高い薬剤師を養成する。このことから、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえた上で、「高度専門職業人養成」に比重を置く取組みを特色とし、もって社会に貢献する。

一方、平成 30 年度より学生募集を停止している薬科学科では、企業や教育機関、各種薬学関連研究所等における研究者、技術者、教育関係者、その他薬学を基盤とする多様な分野で活躍する人材の養成を目的としているため、卒後大学院博士前期課程における教育・研究への連繋も可能とすべく構築し、「薬学専門教育」を中心として薬学の基礎知識及び薬の物性と構造、反応などについて展開してきた。この薬科学科については、前述の「募集停止中の学科の取扱い」に記載するとおり、学生の権利保証のため、学生募集停止を継続したまま設置する学科であり、在籍する又は進級する権利を有する学生がいなくなり次第廃止することとするが、廃止するまではこのような特色を踏襲する。

３．学部・学科等の名称及び学位の名称

組織として研究対象とする中心的な学問分野及び人材養成の目的を反映する最も相応しい名称として、学部・学科・学位の名称は次のとおりとする。

また、これらの英訳名称については、国際的な通用性に留意して次のとおりとする。

学部の名称：薬学部「Faculty of Pharmacy」
学科の名称：薬学科「Division of Pharmacy」
　　薬科学科「Division of Pharmaceutical Sciences」
学位の名称：学士（薬学)「Bachelor of Pharmacy」
　　学士（薬科学)「Bachelor of Pharmaceutical Sciences」

４．教育課程の編成の考え方及び特色

（１）教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程の編成・実施にあたっては、内部質保証を念頭に「卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針」の策定及び運用に関するガイドライン（平成 28 年 3 月 31 日中央教育審議会大学分科会大学教育部会）を踏まえた 3 つのポリシーの一体的な策定を基本とする。また、「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成 25 年 12 月 25 日)」に準拠し、「薬剤師として求められる基本的な資質」を達成するための一般目標（GIO）と到達目標（SBO）に基づく学習成果基盤型教育を行う。

これらの前提を踏まえ、人材養成の目的の実現やディプロマ・ポリシーに掲げる内容の達成のため、設置する薬学部薬学科・薬科学科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を次のとおり定める。なお、このカリキュラム・ポリシーについても、ディプロマ・ポリシーと同様に大阪薬科大学薬学部における内容を踏襲するものである。

教育課程編制・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
【薬学科】 薬学科では、薬に対する幅広い知識を持つとともに、医療人に相応しい、高い実践能力と研究力、倫理観と使命感を併せ持つ、社会に貢献できる質の高い薬剤師の養成を目的とし、以下のカリキュラムを編成しています。 1.基礎教育・ヒューマニズム教育 薬学を学ぶ上での基礎学力の養成と医療人に相応しい倫理観と社会性、及びコミュ

ニケーション能力の基本を身に付けます。

2. 語学教育

国際化に対応できる語学力を養います。

3. 薬学専門教育

「薬学教育モデル・コアカリキュラム」を基本とした、薬物に関する幅広い科学的知識を修得します。

4. 医療薬学教育

薬の専門家として患者や医療チームから信頼される薬剤師を養成します。また、薬剤師として必要な知識・技能及び態度を修得するために、病院と薬局において参加型実務実習を行い、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力及び生涯にわたる自己研鑽力と次世代を担う人材を育成する意欲と態度の必要性を体得します。さらに、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を養います。

5. 実習科目

講義で得た知識に基づいて、研究活動に必要な技能・態度を身に付けます。さらに、問題発見・解決能力を醸成するために、４年次から研究室に所属し卒業研究を行います。

【薬科学科】

薬科学科では、健康、生命に関する有機的・総合的な知識を持つとともに、応用力、研究力を身に付けた薬学を基盤とする多様な分野で活躍できる人材の養成を目的とし、以下のカリキュラムを編成しています。

1. 基礎教育・ヒューマニズム教育

薬学を学ぶ上での基礎学力の養成と、医療の担い手に相応しい倫理性と社会性、及びコミュニケーション能力の基本を身に付けます。

2. 語学教育

国際化に対応できる語学力を養います。

3. 薬学専門教育

薬学の基礎知識及び薬の物性と構造、反応などの知識について体系的に修得します。

4. 実習科目

講義で得た知識に基づき、研究活動に必要な技能・態度を身に付けます。さらに、問題発見・解決能力及びプレゼンテーション能力を醸成するために研究室に所属し卒業研究を行います。

このカリキュラム・ポリシーに加え、学修成果を把握し評価するための学修成果・評価の方針（アセスメント・ポリシー）を別に策定している。【資料１：薬学部　学修成果評価の方針（アセスメント・ポリシー)】

（２）教育課程の編成とその体系及び特色

＜薬学部薬学科＞

カリキュラム・ポリシーにて柱立てた方針内容に基づき、教育課程を編成するものとするが、より体系的な編成のために教育内容に応じてさらに区分する。具体的には、「基礎教育・ヒューマニズム教育」においては「教育系」「薬学と社会」の２系統、「語学教育」においては「教育系」の１系統、「薬学専門教育」においては「物理系」「有機系」「生物系」の３系統、「医療薬学教育」においては「医療系」「薬学臨床系」「薬学と社会」「総合」の４系統に整理・区分する。また、「実習科目」においては「薬学専門教育」「医療薬学教育」を横断させ、最終的には卒業研究である「特別演習・実習」と繋がるように編成するものとする。このように整理する系統毎に、授業科目は「基礎教育科目」「基礎薬学科目」「応用薬学科目」「医療薬学科目」「実習科目」に区分して配置することをもって、臨床への対応を念頭に置き、基礎教育から応用教育へと進展・深化させる体系的な教育課程の編成を図る。

なお、下述のとおり、カリキュラム・ポリシー及びこれら科目区分に沿った教育課程の編成とその体系について記載するが、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー及び体系を整理するための科目区分との関連において「どの学年次にどの授業科目を配置するか」を示す「カリキュラム・マップ」を策定しているので、併せて参照願いたい。【資料2：薬学科カリキュラムマップ】

①基礎教育・ヒューマニズム教育、語学教育の編成

この区分においては、カリキュラム・ポリシーに掲げるとおり、薬学を学ぶ上での基礎学力の養成と医療人に相応しい倫理観と社会性、及びコミュニケーション能力の基本を身に付けさせるとともに、国際化に対応できる語学力を養うための教育課程を編成する。

「基礎教育・ヒューマニズム教育」では、「教育系：基礎教育科目」の区分において１年次に薬学専門教育への準備学習を行うための科目として、「物理学1、2（必修）」「化学（必修）」「生物学（必修）」「数学1、2（必修）」、大学での多様な学びを進めるための基本的姿勢を修得させる科目として、「アカデミックスキル（必修）」を配置する。加えて、専門性がより高い薬学専門教育や医療統計に繋げるための準備学習科目として２年次に「数理統計学（必修）」を配置する。

また、「薬学と社会：基礎薬学科目」の区分において１年次に医療と社会における薬学・医学の役割や薬剤師の使命を理解させる科目として「薬学入門（必修）」や、「薬学と社会：医療薬学科目」の区分において１年次に入学後の早い段階で病院や薬局などの医療施設等の現場を見学体験させて薬学を学ぶモチベーションを高める科目として「早期体験学習（必

修)」とともに、医療に関わる専門職種の役割・機能や医療人として相応しい態度を自覚させる科目として医学部と看護学部合同で実施する「医療人マインド（必修)」を配置することをもって、医療人に相応しい倫理観や社会性、コミュニケーション能力の基本を身に付けさせる。加えて、「薬学と社会：基礎薬学科目」と「薬学と社会：医療薬学科目」の区分において2年次に「医療心理学（必修)」、3年次に「生命医療倫理（必修)」「医療と法（必修)」、4年次に「コミュニケーション（必修)」「キャリアデザイン概論（必修)」「医療政策論（選択)」を配置し、医療人として相応しい責任感や倫理観、様々な立場の人や多職種との間で行う情報収集と提供のためのコミュニケーション能力と薬学人としての職業観の修得を図る。

その他教養を深めるため、「教育系：基礎教育科目」の区分において1年次から2年次に「文学の世界（選択)」を始めとした複数の教養科目や、「薬学と社会：基礎薬学科目」の区分において2年次に医学・工学・看護学・薬学の学際領域を学ぶ「医工薬連環科学（選択)」を配置する。

また、グループワーク主体の授業方法と学部間の学生数の違いから現時点では選択科目ではあるが、医学部と看護学部合同で実施する授業科目を配置する。具体的には、「薬学と社会：医療薬学科目」の区分において2年次に「専門職連携医療論（選択)」、実務実習を経た6年次に「多職種融合（連携）ゼミ（選択)」を配置し、チーム医療に参画できる質の高い薬剤師の育成に資するための体系化を図る。この専門職連携教育（IPE）については、大学統合を機にさらに拡充を進め、医療薬学教育との繋がりを強化させる。

「語学教育」では、「教育系：基礎教育科目」の区分において1年次に「英語リスニング1、2（必修)」「英語リーディング1、2（必修)」、2年次に「英語スピーキング1、2（必修)」「英語ライティング1、2（必修)」といった科目を配置し、英語の4技能をバランスよく養成できるようにしているほか、3年次には英文講読を通じて異文化理解を深めるための「異文化言語演習1、2（必修)」、「教育系：応用薬学科目」の区分において4年次に薬学の研究分野で必要となる英文講読の知識と技能を修得するための「薬学英語（必修)」を配置し、段階を踏んで英語能力を高められるよう体系化する。その他「教育系：基礎教育科目」の区分において1年次では「ドイツ語1、2（選択必修)」「中国語1、2（選択必修)」「ハングル1、2（選択必修)」を配置し、いずれかの第二外国語を履修させることをもって、国際化・多様化する社会への対応を図る。

②薬学専門教育の編成

この区分においては、カリキュラム・ポリシーに掲げるとおり、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」を基本とした、薬物に関する幅広い科学的知識を修得させるための教育課

程を編成する。なお、この区分におけるモデル・コアカリキュラムへの対応は、【C 薬学基礎：物理、化学、生物】【D 衛生薬学】が該当する。

「物理系：基礎薬学科目」の区分において 1 年次から 2 年次に「物理化学 1、2、3（必修）」「分析化学 1、2（必修）」「生物無機化学（必修）」、3 年次に「放射化学（必修）」を配置し、医薬品を含む化学物質を構成する原子、分子の性質や挙動を司る基本的な原理、医薬品を含む化学物質の分析法の基本的な事項、放射線の測定原理を修得する。「物理系：応用薬学科目」の区分においては 3 年次に「応用分析学（必修）」を配置し、電気化学分析、生物学分析を中心に応用的な分析法を学べるようにしているほか、アドバンストの選択科目として「応用放射化学（選択）」、4 年次に「生物物理化学（選択）」を配置する。

次いで、「有機系：基礎薬学科目」の区分において 1 年次から 3 年次に「基礎有機化学（必修）」「有機化学 1、2、3（必修）」「有機スペクトル学演習（必修）」、4 年次に「有機化学 4（必修）」を配置し、代表的な有機化合物の構造、性質、反応、分離法、構造決定法、及び無機化合物の構造と性質に関する基本的事項を修得する。また、「有機系：応用薬学科目」の区分において 1 年次から 2 年次に「薬用植物学（必修）」「薬用天然物化学（必修）」「生薬学（必修）」を配置し、代表的な生薬の基原、特色、臨床応用及び天然生物活性物質の単離、構造、物性、作用等に関する事項を修得する。これらに並行して 3 年次から 4 年次に「医薬品化学 1（必修）」「医薬品化学 2（必修）」を配置し、医薬品の生体内での作用を化学的に理解できるようになるために、医薬品標的及び医薬品の構造と性質、生体反応の科学に関する事項を修得する。また、アドバンストの選択科目として 4 年次に「精密有機合成化学（選択）」を配置する。

「生物系：基礎薬学科目」の区分において 1 年次から 2 年次に「基礎細胞生物学（必修）」「生化学 1、2（必修）」「分子生物学（必修）」、2 年次から 3 年次に「微生物学（必修）」「免疫学（必修）」、「生物系：応用薬学科目」の区分において 2 年次から 3 年次に「衛生薬学 1、2、3（必修）」「分子細胞生物学（必修）」「病原微生物学（必修）」を配置し、生命体の最小単位である細胞の成り立ちや生命現象を担う分子に関する基本的事項、健康と環境に関する基本的事項、人体の構造、機能、調節に関する基本的事項、免疫反応による生体防御機構とその破綻、及び代表的な病原微生物に関する基本的事項を修得する。また 4 年次にアドバンストの選択科目として「先端分子医科学（選択）」を配置する。

このように、「物理系」「有機系」「生物系」における科目の配置をもって、系統毎に基礎薬学から応用薬学へと段階的な能力の養成を図るとともに、上位学年次においては学生各自の興味関心に応じてさらに深く学べるよう選択科目が配置されている。また、これらの授業科目により得た専門知識の発展を図り、技能・態度の修得へと繋げるため、1 年次に「基礎有機化学実習（必修）」、2 年次に「分析化学実習（必修）」「物理化学実習（必修）」「漢方・生薬学実習（必修）」「生物学実習（必修）」、3 年次に「有機化学実習（必修）」「生物科学実

習（必修)」「衛生薬学・放射化学実習（必修)」を配置することをもって効果的な教育課程の体系化を図る。

③医療薬学教育の編成

この区分においては、カリキュラム・ポリシーに掲げるとおり、薬の専門家として患者や医療チームから信頼される薬剤師を養成するための医療系科目、薬剤師として必要な知識・技能及び態度を修得するための病院・薬局参加型実務実習並びにこれに繋げていく実務実習事前学習科目等の薬学臨床系科目をもって編成する。

「医療系：基礎薬学科目」の区分において1年次から2年次に人体の仕組みを理解させるための科目として「機能形態学1、2（必修)」や、「医療系：医療薬学科目」の区分において1年次に医療現場で使用されている様々な技能・手技等に実際に触れさせる科目「臨床薬学導入学習（必修)」を配置する。これに加え、上述の「薬学専門教育科目」の履修と繋げて「医療系：応用薬学科目」として2年次に「基礎漢方薬学（必修)」、3年次に「物理薬剤学（必修)」を配置する。

また、「医療系：医療薬学科目」の区分において2年次から3年次に薬剤学と薬理学の修得に係る科目として「薬理学1、2、3、4（必修)」「生物薬剤学1、2（必修)」「薬物速度論（必修)」「製剤設計学（必修)」を配置する。これらに並行して、2年次から4年次に代表疾患についての薬物治療や医療現場での感染症について学ぶ科目として「薬物治療学1、2、3、4、5（必修)」「臨床感染症学（必修)」を配置するとともに、これらの授業科目により得た専門知識の発展を図り、技能・態度の修得へと繋げるため、3年次に「薬剤学実習（必修)」「薬理学実習（必修)」を配置することをもって効果的な教育課程の体系化を図るものとする。加えて、3年次に「臨床化学（選択)」、4年次に「医薬品安全性学（選択)」「アドバンスト薬物治療学」、6年次に「漢方医学概論（選択)」「アドバンスト薬理学（選択)」を配置し、学生各自の興味関心に応じてさらに深く学べるよう選択科目が用意されている。

「薬学臨床系：医療薬学科目」の区分において3年次に「臨床薬学概論（必修)」「医薬品情報学（必修)」、4年次に「臨床導入学習1、2（必修)」「個別化医療（必修)」「コミュニティファーマシー（必修)」を配置し、これまでの基礎教育から応用教育並びに医療教育の進展を経て、実務実習事前学習として5年次の病院・薬局での参加型実務実習を迎えるに必要となる知識、技能、態度の修得を図るほか、アドバンストの必修科目として「臨床薬物動態学」を配置し、科学的根拠に基づいた薬物治療の個別化や、最適な薬物投与計画の立案に必要な基礎理論を修得させる。「薬学臨床系：応用薬学科目」の区分においては、4年次に「医療統計学（必修)」を配置し、これまでに得た知識や技能を臨床現場における統計に活用するための知識を修得させる。

前述の実務実習準備教育を経て薬学共用試験（CBT、OSCE）に合格した学生を対象に、5年次において「病院実務実習（必修）」「薬局実務実習（必修）」を履修させ、実際の臨床現場で薬剤師等の医療人から実務的指導を受け、また、協働させることをもってこれまでに得た知識、技能、態度を深化させ、さらにコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上、薬剤師としての自己研鑽や人材育成の必要性を体得させる。なお、これらの実務実習については、「薬学実務実習に関するガイドライン（平成27年　2月10日薬学実務実習に関する連絡会）」に基づき適切に実施する。

「薬学と社会：医療薬学科目」の区分において4年次に「薬事関連法・制度（必修）」「社会保障論（必修）」を配置し、医療人・薬剤師として必要な法規や制度について修得させるとともに、並行する実務実習事前教育や5年次における病院・薬局での参加型実務実習に繋げる。

「総合：医療薬学科目」の区分において4年次に「薬学基礎演習（必修）」を配置し、実務実習の実施に向けた知識の総括を行う。また、4年次から6年次に「統合薬学演習（必修）」を配置し、実務実習で学んだ経験を含めた5年次までの学修成果を活かして、コアカリに示される代表的8疾患について分野横断的に症例検討することにより、様々な専門科目により修得した知識・技能・態度を統合したものとし、医療において薬の専門家としての役割を十分に果たせるまでに醸成させる。さらに6年次に「薬学総合演習（必修）」を配置し、卒業して薬剤師となるために必要な知識や技能、総合的判断力が備わっているかどうかについての総確認を行う。

最後に、「総合：実習科目」の区分において4年次から6年次に卒業研究科目である「特別演習・実習」を配置する。この卒業研究では、学生を研究室に所属させ研究テーマに沿った研究活動を指導する。研究指導に基づき研究活動を実践させることにより、科学的根拠に基づく研究遂行能力の養成及びこれまでに得た知識、技能、態度を向上・深化させて問題発見・解決能力、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の醸成を図る。

＜薬学部薬科学科＞

カリキュラム・ポリシーに示された方針に基づいた教育課程が編成されている。具体的には、「基礎教育・ヒューマニズム教育」「語学教育」及び「薬学専門教育」の区分を中心に編成し、「薬学専門教育」の授業で得た知識に基づき研究活動に必要な技能・態度を身に付けるための「実習科目」を置き、最終的には卒業研究である「特別演習・実習」へ繋がるように編成するものとする。このように整理した下で、授業科目は「基礎教育科目」「基礎薬学科目」「応用薬学科目」「医療薬学科目」「実習科目」に区分して配置することをもって、基礎教育から応用教育へと進展・深化させる体系的な教育課程の編成を図る。

なお、薬科学科については、前述の「募集停止中の学科の取扱い」に記載するとおり、学生の権利保証のため、学生募集停止を継続したまま設置する学科である。教育課程については、大阪薬科大学薬学部薬学科の旧教育課程の1年次から3年次までを学部共通としており、4年次の教育課程のみが独自のものとなる。また、薬科学科の教育課程は、薬学研究科薬科学専攻博士前期課程への進学を前提として設定されている。

下述のとおり、カリキュラム・ポリシー及びこれら科目区分に沿った教育課程の編成とその体系について記載するが、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー及び体系を整理するための科目区分との関連において「どの学年次にどの授業科目を配置するか」を示す「カリキュラム・マップ」を策定しているので、併せて参照願いたい。【資料3：薬科学科カリキュラムマップ】

①基礎教育・ヒューマニズム教育、語学教育の編成

この区分においては、カリキュラム・ポリシーに示すとおり、薬学を学ぶ上での基礎学力の養成と医療の担い手に相応しい倫理観と社会性、及びコミュニケーション能力の基本を身に付けさせるとともに、国際化に対応できる語学力を養うための教育課程を編成する。

「基礎教育・ヒューマニズム教育」では、「基礎教育科目」の区分において1年次に「物理学1、2（必修）」「化学、化学演習（必修）」「数学1、2（必修）」などの薬学専門教育への準備学習を行うための科目、「情報科学演習（必修）」「情報科学（選択）」などの大学での学びに不可欠な情報リテラシー等を修得させる科目を配置する。加えて、専門性がより高い薬学専門教育の準備学習科目として2年次に「数理統計学（必修）」を配置する。

また、「基礎薬学科目」の区分において1年次に医療と社会における薬学・医学の役割や薬剤師の使命を理解させる科目として「薬学入門（必修）」や、「医療薬学科目」の区分において1年次に「早期体験学習1（必修）」を配置し、入学後の早い段階で病院や薬局などの医療施設等の現場を見学体験させて薬学を学ぶモチベーションを高める。加えて、「基礎教育科目」の区分において2年次に「心理社会（必修）」、3年次に「コミュニケーション（必修）」や「医療と法（必修）」を配置し、医療人として相応しい責任感や倫理観、様々な立場の人とのコミュニケーション能力の修得を図る。

その他教養を深めるため、1年次から2年次に「文学の世界（選択）」を始めとした複数の教養科目や、2年次に医学・工学・看護学・薬学の学際領域を学ぶ「医工薬連環科学（選択）」を配置する。

「語学教育」では、「基礎教育科目」の区分において1年次に「英語リスニング1、2（必修）」「英語リーディング1、2（必修）」、2年次に「英語スピーキング1、2（必修）」「英語ライティング1、2（必修）」を配置し、英語の4技能をバランスよく修得できるようにしているほか、3年次には英文講読を通じて異文化理解を深めるための「異文化言語演習1、2

（必修）」を開講し、段階を踏んで英語能力を高められるよう工夫されている。その他 1 年次では「ドイツ語 1、2（選択必修）」「中国語 1、2（選択必修）」「ハングル 1、2（選択必修）」を配置し、いずれかの第二外国語を履修させることをもって、国際化・多様化する社会への対応を図る。

②薬学専門教育の編成

この区分においては、カリキュラム・ポリシーに示すとおり、薬学の基礎知識及び薬の物性と構造、反応などの知識について体系的に修得させるための教育課程を編成する。なお、この区分が薬科学科の教育課程の中心となる。

まず「基礎教育科目」の区分においては、1 年次に「基礎有機化学（必修）」「生物学（必修）」を配置し、本格的な薬学専門教育への準備学習を実施した上で、「基礎薬学科目」の区分において、薬学に必要な「物理」「化学」「生物」の基本的な知識を修得するための科目を配置する。具体的には、「物理」に関しては 1 年次から 2 年次に「物理化学 1、2、3（必修）」「分析化学 1、2（必修）」「生物無機化学（必修）」、3 年次に「放射化学（必修）」を配置し、医薬品を含む化学物質を構成する原子、分子の性質や挙動を司る基本的な原理、医薬品を含む化学物質の分析法の基本的な事項、及び放射線の測定原理を修得する。また、「化学」に関しては 1 年次から 3 年次に「有機化学 1、2、3、4（必修）」「有機スペクトル学解析学（必修）」を配置し、代表的な有機化合物の構造、性質、反応、分離法、構造決定法、及び無機化合物の構造と性質に関する基本的事項を修得する。さらに、「生物」に関しては 1 から 2 年次に「基礎細胞生物学（必修）」「生化学 1、2、3（必修）」「機能形態学 1、2（必修）」、2 年次から 3 年次に「微生物学（必修）」「免疫学（必修）」を配置し、生命体の最小単位である細胞の成り立ちや生命現象を担う分子に関する基本的事項、人体の構造、機能、調節に関する基本的事項、免疫反応による生体防御機構とその破綻に関する基本的事項を修得する。

「応用薬学科目」の区分では「物理」「化学」「生物」の応用的な内容を取り扱い、この区分が薬科学科においては教育課程の中心的な役割を担う。「物理」に関しては、3 年次に電気化学分析法、生物学的分析法について学ぶ「応用分析学（必修）」、製剤学を学ぶために必要な物理化学的知識を修得するための「物理製剤学（必修）」を配置する。4 年次には薬科学科独自の必修科目として、新薬開発における標的分子となるタンパク質の構造と機能を理解し、タンパク質の構造に基づいた分子設計を学ぶ「分子設計学（必修）」を配置する。アドバンストの選択科目としては 3 年次に「応用放射化学（選択）」、4 年次に「生物物理化学（選択）」を配置する。「化学」に関しては、代表的な生薬の基原、特色、臨床応用及び天然生物活性物質の単離、構造、物性、作用等に関する基本的事項を修得するために 1 年次から 3 年次に「生薬学（必修）」「基礎漢方薬学（必修）」「薬用天然物化学 1、2（必修）」

を配置するほか、3 年次に実際に臨床で使用されている医薬品の化学合成法について学ぶ「合成化学（必修）」を配置する。アドバンストの選択科目としては 4 年次に「医薬品化学（選択）」「薬品合成化学（選択）」を配置する。「生物」に関しては、2 年次から 3 年次に「衛生薬学 1、2、3、4（必修）」を配置し、現代社会における健康と環境について修得する。また、2 年次に代表的な病原微生物について学ぶ「病原微生物学（必修）」、3 年次に生命現象を細胞・分子レベルで理解するための「分子細胞生物学（必修）」、ゲノム情報を理解するために必要とされる分子生物学的知識を修得するための「ゲノム医科学（必修）」を配置する。4 年次には薬科学科独自の必修科目である「バイオインフォマティクス（必修）」を配置し、医薬品の開発や研究に必要な生体分子の構造や機能に関して、それらの情報や解析などに関する基本的知識、技能、態度を修得させる。また、その他 3 年次には統計学に関する授業科目として、統計手法の正しい適用及び統計学による医療への展開について修得するための「医療統計学（必修）」を配置する。

「医療薬学科目」の区分では、薬理、病態、薬物治療、医薬品情報、患者情報、薬物動態、及び製剤に関する分野の内容を扱う。1 年次には「人体の構造と病態 1、2（必修）」、医療現場での手技等を体験する「早期体験学習 2」、2 年次から 3 年次には生体内での薬物動態について学ぶ「生物薬剤学 1、2（必修）」「薬物動態解析学（必修）」、医薬品の薬理作用について学ぶ「薬理学 1、2、3（必修）」、薬物治療の実際について学ぶ「薬物治療学 1、2、3、4（必修）」、疾患の発症と進展機構を細胞及び分子レベルで学ぶ「病態生化学（必修）」、製剤化のサイエンスについて学ぶ「製剤学（必修）」、医薬品情報の取扱いについて学ぶ「医薬品情報学」を配置する。4 年次にはアドバンストの選択科目として「薬理学 4（選択）」を配置する。

以上の講義演習科目で得た知識を踏まえ、各学年に配置されている実習科目により必要な技能、態度を身に付ける編成となっている。総合的な学修成果は、4 年次に配置する「特別演習・実習（前期）」「特別演習・実習（後期）」により卒業論文として仕上げていく。この卒業研究では、学生は研究室に所属し、研究テーマに沿った研究活動を行う。研究活動を行うことにより、科学的根拠に基づく研究遂行能力の養成、また、これまでに得た知識、技能、態度を向上・深化させて問題発見・解決能力、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の醸成を図る。

（３）大阪薬科大学薬学部からの教育課程の変更状況

大阪薬科大学の組織及び教育課程等は全て大阪薬科大学より大阪医科大学へ承継することとしている。このように、大学統合に係る組織の移行であることを踏まえ、設置する薬学部の教育課程は大阪薬科大学薬学部の教育課程を踏襲して編成することを基本とし、教育の質の同一性を保持する。なお、この度の大学統合に係る組織設置にあたり、薬学部薬

学科の教育課程については単位数の整数化やこれに伴う授業科目の統廃合、開講科目の充実等の改善を趣旨とする若干の変更を行うが、これまでの大阪薬科大学薬学部薬学科において実施する教育課程からの抜本的な内容変更ではない。

また、薬学部薬科学科については、前述の「募集停止中の学科の取扱い」に記載するとおり、学生募集停止を継続したまま設置するため、大阪薬科大学薬学部薬科学科において実施する教育課程からの変更は一切ない。【資料 4：設置時からの教育課程の変更状況】

５．教員組織の編成の考え方及び特色

（１）教員組織の編成の考え方と概要

設置する薬学部は、薬学科・薬科学科の目的の達成と、それぞれの教育課程の遂行及び高度な研究を推進するために、基礎薬学並びに臨床・医療薬学領域における十分な教育経験と研究能力を備えた教員と、薬剤師実務において豊富な実践力を有する実務家教員（臨床系教員）によって教員組織を編成する。

大阪薬科大学薬学部には、令和 2 年 4 月 1 日付にて採用予定の教員 3 名を含め、設置前年度には計 87 名の専任教員が在籍することとなる。そのうち、令和 2 年度末に 3 名が定年後の再雇用期間満了による退職を予定しており、これら 3 名の教員及び任期満了により退職する現大阪薬科大学学長 1 名を除いた計 83 名が設置する薬学部に異動し、教員組織を構成する。

専任教員 83 名のうち、薬学部薬学科には 76 名の専任教員（うち教授 26 人）を配置する。これは、薬学科の収容定員 1,764 名に対し、大学設置基準が定める専任教員数 40 名（うち教授 20 名）という基準を満たしている。なお、薬学科の専任教員は、併せて設置する薬科学科（募集停止）の兼担教員となる。

一方、大阪薬科大学からの募集停止を継続しつつ設置する薬学部薬科学科には、7 名の専任教員（うち教授 4 名）を配置する。これは、薬科学科の収容定員 2 名に対し、大学設置基準が定める専任教員数 7 名（うち教授 4 名）という基準を満たしている。薬科学科の設置に至る経緯や収容定員の考え方等については前述の「募集停止中の学科の取扱い」に記載するとおりである。なお、薬科学科の専任教員も同様に、薬学科の兼担教員となることで、両学科のシームレスな連携により、薬学部全体の教員組織の充実を図ることとする。

また、薬学科を構成する専任教員 76 名のうち実務家教員（臨床系教員）は 11 名であり「薬学部における教員（実務家教員を含む）に関する基準」が定める実務家教員数 6 名という基準を満たしている。

専任教員は、原則として大阪薬科大学で担当している授業科目を引き継ぎ、主に教育課程等の概要で示した「基礎薬学科目」、「応用薬学科目」、「医療薬学科目」及び実習科目を

担当する。特に、「応用薬学科目」及び「医療薬学科目」のコアとなる必修科目については主に専任教員の教授あるいは准教授が担当する。また、「基礎教育科目」については、専任教員の他、主に兼担・兼任教員が担当する。

薬学部の教員組織は、6つの専門研究領域の中に20の研究室と3つのセンター（臨床薬学教育研究センター、薬学教育研究センター、生涯学習センター）及び附属施設である共同研究センターを構成する「RI研究施設」「中央機器研究施設」や「三大学医工薬連環科学教育研究機構」に専任教員を配置することをもって編成する。

各研究室は、原則として教授を研究室責任者として計3名のスタッフにより運営しており、組織の改編、教員の退職等によりスタッフが3名に満たない研究室は、将来的な教員組織構想や人事構想を踏まえつつ、適切な人員補充等を行うこととする。

以下に、主要な6つの専門研究領域と、それぞれの教育研究体制を示す。

①医療薬学領域

医療薬学領域は7つの研究室で構成され、教授6名、准教授3名、講師2名が配置されている。医療薬学領域の教員は、該当する専門領域である薬理学、医療薬学等についての科目を担当するほか、関連領域における研究を行う。また、助教7名、助手1名を配置することで実習科目の指導体制を整えている。

②薬学臨床領域

薬学臨床領域は3つの研究室及び臨床薬学教育研究センターで構成され、教授11名（うち特任教授5名)、准教授4名、講師1名が配置されている。薬学臨床領域の教員の多くは臨床経験を有する実務家教員であり、該当する専門領域である薬剤学、製剤学についての科目を担当するほか、常に臨床との繋がりを意識した臨床研究を通して、質の高い薬剤師教育を行っている。また、助教4名、助手1名を配置することで実習科目の指導体制を整えている。

③生物・予防薬学領域

生物・予防薬学領域は5つの研究室で構成され、教授3名、准教授5名、講師2名が配置されている。生物・予防薬学領域の教員は、該当する専門領域である衛生化学、微生物学、物理化学、生物化学についての科目を担当するほか、関連領域における研究を行う。また、助教3名を配置することで実習科目の指導体制を整えている。

④創薬化学領域

創薬化学領域は5つの研究室で構成され、教授5名、准教授3名、講師1名が配置されている。創薬化学領域の教員は、該当する専門領域である有機化学、生薬化学・天然物化学等についての科目を担当するほか、関連領域における研究を行う。また、助教6名を配置することで実習科目の指導体制を整えている。

⑤薬学教育領域

薬学教育領域は2つのセンター（薬学教育研究センター、生涯学習センター）で構成され、教授3名、准教授2名、講師1名が配置されている。教員の専門領域は多岐にわたり、教員毎に専門領域に関連する科目を担当している。また、助教1名を配置することで実習科目の指導体制を整えている。薬学教育研究センターでは、アクティブ・ラーニングやICTを取り入れた効果の高い双方向性教育手法をセンター教員自ら積極的に実践しており、その評価や検証などの薬学教育研究及び学生の学修支援を行っている。生涯学習センターでは、薬剤師の生涯学習教育の提供及び研究を行っている。

⑥総合科学領域

総合科学領域は、言語文化学グループ、自然学グループ、人間文化学グループ及び環境医療学グループの4分野で構成され、教授2名、准教授4名、講師1名が配されている。グループ毎に、例えば言語文化学グループの教員であれば、薬学関連の英語系科目等を担当し、医学・薬学領域における英語能力の向上や医療現場・医療研究の現場における医療英語の活用についての研究を行う。他のグループも同様に、その名称に示す教育を担い、また研究を実施する。

（２）教員組織編成の特色

編成する専任教員83名（令和3年4月現在）のうち、博士の学位を有する者は77名、修士の学位を有する者は2名である。博士の学位を有する者のうち、48名が薬学博士、博士（薬学）又は博士（薬科学）である。いずれも、所属する部門・分野に関連する豊富な教育歴と研究業績、教育研究指導の能力を有している。

建学の精神、大学の理念、大学の目的、薬学部の目的に定めている通り、設置する薬学部では臨床現場で活躍できる医療人の育成を目指している。これを実現するため、11名の実務家教員を配置し、教育を行う。実務家教員は「医療薬学領域」に1名、「薬学臨床領域」の中核を担う臨床薬学教育研究センターに10名が所属している。これら、多くの実務家教員を配置する教員組織は、専門職連携教育（IPE）の強力な推進役となり、臨床現場から真に求められる質の高い薬剤師の輩出を目指す医療系総合大学として大きな特色と言える。

大阪薬科大学では、一部の実務家教員を臨床能力の維持、臨床教育・研究の推進のため週次で医療施設に派遣しており、大学統合後も引き続き派遣することとしている。現在の派遣施設は、「大阪医科大学附属病院」、「国立循環器病研究センター」、「神戸市立医療センター中央市民病院」、「京都府立医科大学附属病院」、「大阪医科大学関西 BNCT 共同医療センター」等である。

実例を挙げると、「国立循環器病研究センター」とは、教育・研究・医療に関わる交流等を促進するための包括協定を締結し、実務家教員を 3 名派遣し（延べ 1 名／日）、回診及びカンファレンスに参加するなど他の医療専門職種と協働して業務を行い、実務実習においても施設と共に教育指導を行うなど連携体制を整えている。また、「神戸市立医療センター中央市民病院」に派遣している実務家教員は、緩和ケアを含むがん治療などにおいてチーム医療を実践した業務を行い、その活動を通して教育研究に生かす試みを行っている。教育においては、「臨床導入学習 1」、「臨床導入学習 2」等の科目を担当し、高い実践力を備えた次世代の薬剤師の育成に努めており、今後もこれらの取組みを継続し、さらに充実させることとする。

（3）教員配置と年齢構成

教員の年齢構成と学科毎の教員配置は、以下のとおりであり、完成年度において教育・研究水準の維持向上に支障がない構成となっている。なお、60 歳代以上の世代が全体の 20%を占め、50 歳代以上では 54%となることから、短期的には組織の活性化のため、長期的には組織の維持・向上のためにも、戦略的に有能な若手教員の採用を推進し、年齢構成等に配慮した適正な人員配置を実行していく。

【教員の年齢構成表（設置時）】

	39 歳以下	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70 歳以上	合計
教授	0 名	6 名	11 名	13 名	0 名	30 名
准教授	0 名	8 名	10 名	4 名	0 名	22 名
講師	0 名	3 名	7 名	0 名	0 名	10 名
助教	17 名	4 名	0 名	0 名	0 名	21 名
合計	17 名	21 名	28 名	17 名	0 名	83 名

本学における専任教員の定年年齢は 65 歳であるが、定年年齢に達した専任教員については、「大阪医科薬科大学薬学部　定年退職規則」によって 67 歳まで嘱託教員として再雇用することができる。【資料 5：大阪医科薬科大学薬学部　定年退職規則】

就任予定教員の中には、完成年度を迎える前に定年年齢に達する者及び定年後の嘱託教員として勤務する者も複数在籍することとなるため、薬学部及び薬学研究科での教育研究

を適切に実施することを目的に、上記の再雇用期間が終了した後も、理事長が法人（大学）の運営上特に必要と認めた者について、「大阪医科薬科大学薬学部　定年退職者の再任用に関する特例内規」により、完成年度を迎えるまでの間、67 歳を超えて再任用できると定めており、教員組織の継続性の維持に努める。【資料 6：大阪医科薬科大学薬学部　定年退職者の再任用に関する特例内規】

なお、専任教員に完成年度末までに定年年齢に達する者及び定年後の再雇用及び再任用期間を満了する者が一定数いること、また、教員組織の将来構想と有望な若手教員の育成や積極的な登用などを念頭に、完成後の教育研究水準の維持向上に努めるための中期的な計画を策定するとともに、毎年度、教員組織の編成に関する計画を策定し、同計画に基づき、教員の採用・昇任等の諸人事を遂行することとしている。

（４）完成年度後の教員の採用計画

設置時の就任予定教員 83 名のうち、薬学部完成年度末（令和 8 年度末）に定年年齢に達した後、嘱託教員としての再雇用期間及び嘱託後の再任用期間が満了となり退職する専任教員は、教授 12 名、准教授 1 名の計 13 名となる。

完成年度末に 13 名の専任教員が退職することに対応するため、先に述べた中期的な計画に基づき策定する教員組織の編成に関する年次計画により、完成年度末までの間に若手教員を中心に、公募による積極的な採用を行うとともに、昇任基準に基づき薬学部内の教員を後任者として昇任させる。これらの教員に対し、経験や実績を積んだ退職予定教員等からの引継ぎや教育研究に対する的確な助言等を綿密に行うことで、教育研究水準の維持向上に努めるとともに、教員組織の継続性を担保し、完成年度後においても設置時の専任教員数 83 名を維持する。

なお、これらの教員人事については、完成年度以降も教育研究水準の維持向上と、教員組織の活性化を目的に、前述の毎年度の計画に対する結果検証を踏まえ、継続して実施することとしている。

６．教育方法、履修指導方法及び卒業要件

（１）教育方法

①授業の方法

薬学部の授業は、その教育の目的に応じ講義、演習、実習の 3 つの学習方法又はこれを併用して実施する。講義は知識の修得及び理解を目的とする。演習は知識の理解及び技能の修得を目的とし、学生は主体的・能動的に課題に取り組むことにより知識及び技能を定着させる。実習は知識の理解、技能の修得に加え、態度を統合的に学習することを目的と

し、学生はグループディスカッションやロールプレイを通じて、講義や演習で得た知識、技能を体得させる。

シラバスでは、授業を担当する専任教員のオフィス・アワー一覧、授業科目毎に指導教員、配当年次・期間、単位、選択・必修区分のほか、授業の目的と概要、一般目標（GIO)、授業の方法、アクティブ・ラーニングの取組、成績評価方法、試験・課題に対するフィードバック方法、ディプロマ・ポリシーとの関連、関連する授業科目、具体的な授業計画を明示しており、授業計画には各授業における到達目標（SBO）とその内容、事前学習の具体的内容と必要な時間について記載する。

授業科目の単位数算定の基準は、大学設置基準を踏まえ、1 単位の授業科目は 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準として、授業の方法に応じ、教育効果、授業時間外に必要な学修を考慮して、「講義、チュートリアル及び演習については、15 時間から 30 時間までの範囲で学部規程に定める時間の授業をもって 1 単位」「実験、実習及び実技については、30 時間から 45 時間までの範囲で学部規程に定める時間の授業をもって 1 単位」とする。学則に定めるこれらの全学的な前提を踏まえ、薬学部では「講義及び演習による授業は、原則として 15 時間の授業をもって 1 単位」「実習及び実技による授業は、原則として 45 時間の授業をもって 1 単位」「教育上必要があると認めたときは、講義及び演習については 15 時間から 30 時間までの範囲、実習及び実技については 30 時間から 45 時間までの範囲の授業をもって 1 単位とすることができる」「授業は、原則として 90 分を 1 回」とする。なお、講義、演習、実習を複合的に取り入れた科目である卒業研究科目については必要な学修等を考慮して単位数を設定する。これらの授業時間及び単位算定の基準については、薬学部規程及び薬科学科規程に明示する（薬学部規程、薬科学科規程)。また、1 年間の授業期間は試験期間以外に 35 週にわたることとする（学則)。これを受け、薬学部では学期における授業期間を「定期試験等の期間を除き原則として 15 週」とする。この授業期間については、薬学部規程及び薬科学科規程に明示する。

なお、薬学教育評価機構が実施する 6 年制薬学教育プログラムの第 1 期評価に関するガイドラインにおいて、卒業研究の実施期間は通算して約 1 年間確保することと併せて、「卒業研究や problem-based learning などの問題解決型学習の実質的な実施時間数が 18 単位（大学設置基準における卒業要件単位数の 1／10）以上に相当するよう努めていること」と示されている。薬学科では、卒業研究である「特別演習・実習」の開設期は 4 年次前期から 6 年次前期までの間とする。この間においては病院・薬局での参加型実務実習や講義などが併行して設定されており、2 年半という期間において講義や実習のない期間を有効に使って、実質的に 1 年程度の研究期間を確保することする。単位数は 14 単位とし、その他の問題発見・解決能力の醸成に係る授業科目の実施時間数と合わせて 18 単位を超える構成とする。

一方、薬科学科では、卒業研究である「特別研究（前期）」「特別研究（後期）」を 4 年次の前期及び後期で実施する。薬科学科においては、集中的に卒業研究を実施できることから、単位数は前期 5 単位と後期 6 単位を合計して 11 単位とする。

②学生数の設定

薬学部では、1 学年の学生数（入学定員）が 300 名程度であることを踏まえ、1 科目あたりの学生数が適切になるように考慮して授業を編成する。すなわち、基本的には 1 学年を 2 クラス編成とし、1 授業あたりの学生数を 150 名程度とし、授業効果を図る。

この 2 クラス編制を基本として、1 年次に配置する「数学 1、2」は 1 クラス 80 名程度、1・2 年次に配置する「化学」「英語リスニング 1、2」「英語リーディング 1、2」「英語スピーキング 1、2」「英語ライティング 1、2」、4 年次に配置する「薬学英語」については 1 クラスが概ね 40 名程度、3 年次に配置する「異文化言語演習 1、2」は 1 クラス 15 名程度となるよう、複数名の担当者を配置してクラス編成する。また、実習科目についても 4 クラス編成として 1 クラス 80 名程度で開講する。このような編成は、薬学専門教育の実施に向けた準備教育への対応、語学教育の性質を踏まえた対応、指導密度を保った実習指導等、効果的に授業を実施するための措置である。

③配当年次

＜薬学部薬学科＞

教育課程の編制については、前述の「教育課程の編成とその体系及び特色」に記載するとおりである。配当年次の考えとしては、次のような考え方で科目を配置している。【資料 2：薬学科カリキュラムマップ】

1 年次では薬学専門教育に繋げる学習や大学での学びの基本姿勢やスキルを修得させるための準備学習科目、教養科目や語学科目を中心に配置する。また、入学早期の段階で、薬学の役割、薬剤師の使命、医療人連携の概要、病院等の現場体験等について学習する授業科目を配置する。さらに、後期より、物理系・有機系・生物系の基礎薬学科目を中心に配置する。

2 年次では 1 年次に引き続き教養科目や語学科目も配置するが、物理系・有機系・生物系の基礎薬学科目を中心に配置する。並行して、医療薬学科目として薬理学や薬物治療学、薬物動態学に関する科目の配置を開始する。

3 年次では、引き続き物理系・有機系・生物系の応用薬学科目を配置し、原則として、この学年次において基本的な物理系・有機系・生物系の学習を終了させる。あわせて本格的に医療薬学科目を配置し、3 年次に引き続き薬理薬剤、薬物動態、薬物治療に関する科目を

履修させるとともに、実務実習事前学習についても一部開始する。その他、語学科目も継続的に配置し、異文化理解に基づく国際的なコミュニケーション能力を涵養する。

4 年次では、医療薬学科目を中心に配置し、薬事関連法、社会保障や医療政策について学ばせるとともに、実務実習事前学習を行う。応用薬学科目では物理系・有機系・生物系のアドバンストの選択科目を配置する。また 5 年次の実務実習を見据え、ここまでの修得した知識の統合を狙いとする薬学基礎演習を配置する。さらに、この学年次から卒業研究である「特別・演習実習」を開始する。加えて、卒業研究との繋がりを踏まえた「薬学英語」や、実務実習の実施や将来の職業選択等を意識した「コミュニケーション」「キャリアデザイン概論」を配置する。

5 年次では病院・薬局での実務実習と卒業研究を配置し、実務実習を実施しない期間は卒業研究に注力させる。

6 年次では卒業研究とともに、アドバンストの医療薬学科目や 6 年間で修得した知識の統合と総まとめ的な授業科目「薬学総合演習」を配置する。なお、卒業研究は前期に終了し、後期は総合演習による 6 年間の学修成果の総まとめに注力する。

その他 IPE に関する授業科目は、1 年次に「医療人マインド」、2 年次に「専門職連携医療論)」、6 年次に「多職種融合（連携）ゼミ」として、段階を踏んだ内容で配置する。

＜薬学部薬科学科＞

教育課程の編制については、前述の「教育課程の編成とその体系及び特色」に記載するとおりである。【資料 3：薬科学科カリキュラムマップ】

薬科学科については、前述の「募集停止中の学科の取扱い」に記載するとおり、学生の権利保証のため、学生募集停止を継続したまま設置する学科である。教育課程については、大阪薬科大学薬学部薬学科の旧教育課程と 1 年次から 3 年次までを学部共通としており、4 年次の教育課程のみが独自のものとなる。大阪薬科大学薬学部としての配当年次の考えは設置する薬学科に踏襲するため、この度設置する薬学科の教育課程とは一部授業科目が異なるものの、学部共通の教育課程としてきた薬科学科の 1 年次から 3 年次までの配当年次の考えは、前述の薬学科の 1 年次から 3 年次までの考えと根本的には同様である。

4 年次では、薬科学科としての独自の授業科目である「バイオインフォマティクス」「分子設計学」等を配置するとともに、卒業研究である「特別演習・実習（前期)」「特別演習・実習（後期)」を配置する。なお、薬剤師養成教育に係る授業科目は配置せず、卒業研究に注力することができようにしている。

（２）成績評価基準の明示

全学的な成績評価及び単位の認定については学則に明示し、薬学科の詳細な事項は薬学部規程に明示する。具体的には、授業科目における成績評価は試験その他の方法をもって100点法によって行い、90点以上を秀（S)、80点以上89点以下を優（A)、70点以上79点以下を良（B)、60点以上69点以下を可（C)、59点以下を不可（D)、特に薬学部においては不可のうち29点以下を不可（E）で評価し、SからCを合格とする。また、授業科目の成績評価については、授業科目毎に担当教員が授業内容に対する学生の学習到達度によって行い、到達目標及び成績評価方法はシラバスに示す。単位は、授業科目の成績評価により合格とする者に認定する。学生への周知については、シラバスへの記載に合わせて年度当初の学年毎の履修ガイダンスにおいて説明するとともに、授業において担当教員から学生に説明する。

一方、薬科学科の詳細な事項は、薬科学科規程に明示する。具体的には、授業科目における成績評価は試験その他の方法をもって100点法によって行い、80点以上を（A)、70点以上79点以下を（B)、60点以上69点以下を（C)、59点以下を（D）で評価し、AからCを合格とする。このように、薬学科の成績評価基準とは若干異なっているが、これは前述の「募集停止中の学科の取扱い」に記載するとおり、学生の権利保証のために募集停止前の教育課程等を踏襲することによるものである。その他については、薬学科と同様である。

（３）履修指導の方法

①ガイダンス

入学時と年度初めのガイダンスを実施する。その中でディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー、その学年での学習目標、教育課程に開設される科目の概要、進級・卒業要件、試験制度等について説明・指導する。また、1年次から2年次で履修することになる一般教養の選択科目や単位互換制度の利用方法等については、別途担当教員よりガイダンスを行う。

留年者に対しては、別途各学期の初めにガイダンスを行う。ここでは履修上の注意点や進級要件等について説明した上で、アドバイザー教員による個別指導を行い、その学期の履修計画を教務課に提出させる。アドバイザー教員については、下述の「アドバイザー制度」を参照願いたい。

5年次に実施する実務実習を控えた学生に対しては、4年次の5月に当該学生を対象に最初の実習ガイダンスを行い、実務実習施設（病院・薬局）への配属方法と基準について説明する。その後、12月に実習先施設の発表と提出書類等、実習実施の1ヵ月前に施設内容、直前の心構え、「実務実習指導・管理システム」の使用方法等についてガイダンスを行う。

その他、年度の前期の成績が判明した段階で、各学生の成績を分析し、教授会で報告の上、成績不良者には各学生のアドバイザー教員同席の下でガイダンスを実施し、後期の修学への指導を行う。

②アドバイザー制度について

大阪薬科大学薬学部における制度を踏襲し、専任教員（教授・准教授・講師）が学年毎に約 6 名ずつの学生を担当するアドバイザー制度を設ける。アドバイザー教員の主な役割は、「修学指導と学業成績の伝達」「種々の相談への助言」「問題行動に対する指導」「諸手続きの確認」である。学生の意見や相談がアドバイザー教員に寄せられた場合、アドバイザー教員は必要に応じて学内における学生支援組織と連携して対応する。特に、「修学指導と学業成績の伝達」にあたり、アドバイザー教員は担当学生の成績評価結果を年 4 回（前期定期試験結果、前期最終結果、後期定期試験結果、後期最終結果）学生に手渡すとともに、修学・学生生活等の指導・助言を行い、学期毎の最終試験結果を保護者に送付する際には、必要に応じて、学修状況や家庭での指導に関するコメントを付記する。このようなアドバイザー制度を導入することにより、入学から卒業まで継続して担当学生の学業から生活面までの総合的な事項に対して適切に助言できるシステムを構築する。

③学習支援について

公募制推薦入試又は指定校制推薦入試に合格し、早期に入学が決定した学生を対象に、入学前教育として物理、化学、生物、数学、英語に関する課題を与えており、指定校推薦入試合格者に対しては、併せて 3 月上旬に課題に関する学力確認試験を課す。入学直後の 4 月上旬には、新入生全員に化学、生物、数学の試験並びに大学におけるジェネリックスキルを測定するための PROG テスト等を実施し、アドバイザー教員より結果に基づいた修学指導を行う。さらに、これらの試験結果等を踏まえ学生の習熟度や学習歴を考慮し、手厚くきめ細やかな教育指導を行うことを目的とし、「化学」では 40 名程度の比較的少人数のクラス編成を行う。「数学 1、2」についても 80 名程度の少人数制で開講する。進級判定の際、進級・卒業要件に満たない学生個人の成績結果と、留年と判定される予定の学生数を学年別にまとめた資料をもって、経年的な内容を含めた状況把握を行う。また、留年経験者全員の入学年次及び在籍状況を把握するために、年度初めの教授会で「留年経験調査表」を配布し、情報を共有するとともに、教育指導上の参考資料として役立てる。

留年者には、前述の「ガイダンス」に記載する留年者対象の履修ガイダンスを別途実施する。

その他、学生の学籍異動（留年・休学・退学）の情報は、教授会で共有しており、また、前期は 5 月、後期は 10 月に学生の出席状況調査を行い、出席不良者には指導を行う。精神

面での問題を抱えた学生が結果的に学力不振に陥り、留年・休学・退学にいたるケースもあることから、学内における学生支援組織が連携し対応にあたる。

④他大学等における授業科目の履修等について

教育上有益と認めるときは、本学入学前の学生の他大学における既修得単位について、合計 30 単位を限度に本学において修得したものとして認定することができることとする。また、本学の他学部及び他大学との協議に基づき、学生に当該学部や他大学の授業科目を履修させることができるものとし、これは学則に明示する。薬学部における具体的な単位互換制度については単位互換規程に定め、既修得単位の認定数の合計は大学設置基準に定める 60 単位を超えるものではない。【資料 7：大阪医科薬科大学薬学部　単位互換実施に関する規程】

（４）卒業要件

＜薬学部薬学科＞

薬学科の目的に基づく学位授与の基本的な方針及び学修成果の目標については、前述の「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー)」に記載するとおり、ディプロマ・ポリシーとして明確にしている。

薬学科の卒業要件は、「修業年限である 6 年以上在学し、薬学部規程に定める所定の単位を修得した者には、薬学部教授会の議を経て、薬学部長が卒業を認定し、学長が決定の上、卒業証書及び学士（薬学）の学位を授与する」と学則に明示する。なお、薬学部規程に定める所定の単位及びその内訳は、下表の通りであり、合計数は法令要件を超す 187 単位とする。

種　別	区分等	単位数	備　考
必修科目	基礎教育科目 基礎薬学科目 応用薬学科目 医療薬学科目 実　習	２７単位 ３４単位 ２３単位 ４９単位 ４４単位	
選択必修科目	基礎教育科目 「ドイツ語１，２」「中国語１，２」 「ハングル１，２」から１ヵ国語２科目	２単位	
選択科目	①基礎教育科目 １・２年次配当 「文学の世界」「歴史と社会」 「地球環境論」「政治と社会」 「基礎心理学」「法と社会」 「経済の世界」「数理論理学」 「社会分析の基礎」「人間と宗教」 「文化人類学」「倫理と社会」 「コーチング論」「スポーツ・運動２」	４単位以上	・＜その他＞に区分する科目を除き、１年次では各学期に１科目、２年次では各学期に２科目まで選択して履修できる。

	「情報科学」　　各科目１単位 ＜その他＞ 「本学の他学部､他大学等との単位互換の制度を利用して履修した科目」		
	②基礎薬学科目、応用薬学科目、医療薬学科目 ２年次配当 「医工薬連環科学」「専門職連携医療論」 ３年次配当 「応用放射化学」「精密有機合成化学」 「臨床化学」 ４年次配当 「生物物理化学」「先端分子医科学１」 「医薬品安全性学」「医療政策論」 「アドバンスト薬物治療学」 ６年次配当 「多職種融合（連携）ゼミ」 「漢方医学概論」 「アドバンスト薬理学」 各科目１単位	４単位以上 （２～４年次配当科目からは３単位以上、６年次配当科目からは１単位）	・３年次配当科目は、２科目まで選択して履修できる。 ・６年次配当科目は、１科目選択して履修する。
合　　計		１８７単位以上	

前述の「教育課程の編成とその体系及び特色」に記載するとおり、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関連を踏まえ体系的に編成した教育課程から、このような卒業要件単位数を設定する。薬学教育モデル・コアカリキュラムに示される到達目標を全て修得させることが求められること、また、前述の「配当年次」に記載するとおり、5 年次に控える病院・薬局での参加型実務実習を迎えるに必要となる知識、技能、態度の修得にあたり、3 年次までに薬学専門教育や主な実務実習事前学習を除く医療薬学教育を体系的にかつ確実に実施するための授業時間を適切に確保する必要があり、3 年次までに修得すべき単位数は学年次毎に大きな差がないよう配慮の上で比較的多く設定している。なお、4 年次からは実務実習事前学習に該当する主な授業科目や卒業研究に該当する「特別演習・実習」に関する学習時間を適切に確保するための単位数設定としている。【資料 8：薬学科履修モデル】

必修科目の割合が高いものの、いわゆる「出口管理」に関しては、選択科目の履修や再履修等に配慮するため CAP 制（各学年次において原則上限 55 単位）を導入する。また、厳格な成績評価と学修成果を把握・評価のため、GPA を導入する。これらについては、大阪薬科大学薬学部薬学科からの内容を踏襲するものであり、薬学部規程において明示する。

＜薬学部薬科学科＞

薬科学科の目的に基づく学位授与の基本的な方針及び学修成果の目標については、前述の「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー)」に記載するとおり、ディプロマ・ポリシーとして明確にしている。

薬科学科の卒業要件は､｢修業年限である 4 年以上在学し､所定の単位を修得した者には、薬学部教授会の議を経て、薬学部長が卒業を認定し、学長が決定のうえ卒業証書及び学士（薬科学）の学位を授与する」と薬科学科規程に明示する。なお、薬学部規程に定める所定の単位及びその内訳は、下表の通りであり、合計数は法令要件を超す 136.5 単位とする。

種　別	区分等	単位数
必修科目	基礎教育科目 基礎薬学科目 応用薬学科目 医療薬学科目 実　習	２６．５単位 ３１単位 ２５単位 ２３単位 ２１単位
選択必修科目	基礎教育科目 「ドイツ語１，２」「フランス語１，２」 「中国語１，２」「ハングル１，２」から１ヵ国語２科目	２単位
選択科目	①基礎教育科目 「教養科目（各１単位)」 「情報科学（１単位)」「医工薬連環科学（1.5 単位)」 「３大学連携、５大学連携、コンソーシアム大阪の各プログラム」の中から ※但し､「教養科目」からは３単位以上修得すること	５単位以上
	②基礎教育科目以外 応用薬学科目 「応用放射化学（1 単位)」「生物物理化学（1.5 単位)」 「薬品合成化学（1.5 単位)」「医薬品化学（1.5 単位)」 医療薬学科目 「薬理学４（1.5 単位)」 計７単位の中から	３単位以上
合　　計		１３６．５単位以上

前述の「教育課程の編成とその体系及び特色」に記載するとおり、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関連を踏まえ体系的に編成した教育課程から、このような卒業要件単位数を設定する。3 年次までに薬学専門教育で物理、化学、生物の基礎的な知識を修得させる教育課程としていることから、修得すべき単位数は学年次毎に大きな差がないよう配慮の上で、適切な授業時間数を確保できるような単位数の設定としている。なお、4 年次は授業科目が薬科学科としての独自の「バイオインフォマティクス」「分子設計学」等が中心となり、必要な授業時間数は少なくなる。卒業研究に該当する「特別演習・実習（前期)」「特別演習・実習（後期)」に係る学習時間数を適切に確保できる単位数の設定とする。【資料 9：薬科学科履修モデル】

薬科学科は、前述の「募集停止中の学科の取扱い」に詳述するとおり、学生の権利保証のため、学生募集停止を継続したまま設置する学科である。卒業要件及びその単位数についても、当然に大阪薬科大学薬学部薬科学科のものを踏襲する必要がある。また、薬学科と異なりCAP制やGPAについても導入しないが、これも同じ理由による。

７．施設、設備等の整備計画

大阪薬科大学キャンパスは高槻市奈佐原（最寄り駅：JR摂津富田駅）に位置し、大阪医科大学キャンパスは高槻市大学町（最寄り駅：阪急高槻市駅）に位置している。

大学統合後も薬学部及び大学院薬学研究科における教育・研究は、引き続き大阪薬科大学キャンパスの校地並びに施設及び設備をそのまま利用して実施することとし、大学統合に伴いキャンパス名を「阿武山キャンパス」とする。「阿武山（あぶやま）」とは、大阪薬科大学が位置する高槻市奈佐原を含み、隣接する茨木市にまたがる山とその周辺地域の総称として、大阪府北部地域において過去より親しまれてきた名称である。

大阪薬科大学では、平成8年にこの地に移転して以来、教育研究環境の整備と充実に積極的に取り組んでおり、キャンパスをそのまま引き継ぐこととなる薬学部及び大学院薬学研究科における教育研究のために必要な校地、校舎、施設及び設備等はこれまでの20余年の間に増築、更新、改修等の計画的な実施により十分に整備されている。整備計画の詳細については以下の通りである。

（１）校地、運動場の整備計画

大阪薬科大学から引き継ぐ阿武山キャンパス全体の校地等の総面積は約59,260㎡、校地面積は53,191.63㎡で、設置時の収容定員1,766名から算出すると学生一人あたり約30㎡以上となり、学生の休息、その他の利用のための適当な空地を含む十分な校地面積が確保されている。なお、大学全体の校地等の総面積は約160,972㎡であり、設置基準上必要な校地面積を十分に満たしている。キャンパスは自然が豊かで閑静な地域に位置しており、大学教育に相応しいゆとりある落ち着いた環境を整備している。

また、運動場は、13,930㎡の面積を確保しており、天然芝生のグラウンドは、体育の授業をはじめ、クラブ活動では主にサッカー部、ラグビー部、陸上競技部が利用している。さらに全天候型のテニスコートを4面備え、主に学生のクラブ活動を中心に利用している。

（２）校舎等施設の整備計画

校舎等施設の整備については、大阪薬科大学キャンパスの校舎等をそのまま維持・管理するとともに、教育・研究の必要性及び学生等からの要望に応じ発展させていく考えである。阿武山キャンパスの校舎の面積は 25,924.98 ㎡で、校舎面積に算入されない施設等を加えた総面積は約 35,735 ㎡となる。大学全体の校舎の総面積は約 75,795 ㎡であり、設置基準上必要な校舎面積を十分に満たしている。なお、キャンパスの校舎等施設の維持・管理は、大阪薬科大学の「建物・設備長期保全計画」を承継し、本計画に基づき適切に実施することとしている。

また、阿武山キャンパスは主に 7 棟の施設を有している。各棟の概要は以下の通りである。

・A 棟（事務局・図書館棟）　　地上 4 階建て
・B 棟（研究棟）　　地上 6 階地下 1 階建て
・C 棟（講義・実習棟）　　地上 4 階建て
・D 棟（講義・実習棟）　　地上 3 階地下 1 階建て
・体育館
・大学会館（学生食堂、ブックセンター、クラブ活動場）
・学生クラブハウス（クラブ活動場）

C 棟及び D 棟（講義・実習棟）は、500 名が収容可能な講堂 1 室及び 300 名以上が収容可能な大講義室 2 室、160 名から 240 名が収容可能な中講義室 10 室を有している。現大阪薬科大学では原則 1 学年 2 クラス編成（1 授業あたりの学生数 150 名程度）としており、大学統合後もこのクラス制度を継続することから、C 棟及び D 棟を維持・管理することで、講義を十分継続実施できると言える。また、150 名以下の少人数制教育を行う語学科目等に対応するため、60 名が収容可能な小講義室 8 室、10～30 名が収容可能なセミナー室 7 室、10 名が収容可能な演習室 8 室等も備えている。

平成 21 年に新築した D 棟は、新薬学教育制度にかかる臨床薬学教育・薬学実務実習の事前学習（科目名「臨床導入学習 1、2」）に対応できる施設となっている。実習科目では、技能・態度の「修得」に加え、グループディスカッションやロールプレイを通じた「体得」の必要性があり、例えば、少人数クラス制を取っている「臨床導入学習 1、2」では、担当教員 1 名あたり 10 名程度の学生を担当することとなっている。「臨床導入学習 1、2」の実施のために、D 棟 2 階フロアに模擬調剤室（227 ㎡）、模擬無菌製剤室（107 ㎡）、製剤準備室（36 ㎡）、一般製剤室（107 ㎡）、薬剤交付カウンター、スモールディスカッション（SGD）室 8 室（17.52 ㎡×3 室、16.28 ㎡×5 室）等を備えており、これらが薬学専門知識の「体得」を施設面から支えていると言え、各部屋の広さについても、クラスの人数から見て、十分であると考えられる。また、器機についてもクラス人数に適正な数を用意している。

例えば、模擬調剤室には全自動分割分包機 1 台、全自動錠剤包装機 2 台及び散薬調剤台、水剤台、錠剤台、軟膏外用台、調剤監査台が各 8 台設置されており、一般調剤室には集塵機能付き実験台 6 台を中心に、各種製剤機器が設置されている。以上の通り、D 棟を維持・管理することで、薬学実務実習事前学習を含む臨床薬学教育を十分に継続実施できると言える。また、その他実習科目についても、C 棟実習室に多数実験機器等を揃えることで、実施体制を整えている。【資料 10：実習科目に係る主な機械・器具等一覧】

なお、講義室確保については、設置する薬学部薬学科の授業時間割モデルを作成し、支障ないことを確認している。【資料 11：薬学科授業時間割モデル】

また、学生に快適な学習環境を提供するため、D 棟には 128 名収容の自習室を設置するとともに、D 棟 1 階ラウンジとホワイエに自由に利用可能な約 500 席の自習スペースを確保している。加えて、A 棟図書館にも計 301 名の学生が収容できる図書館閲覧室・図書館自習室・グループ学習室等を整備している。

B 棟（研究棟）については、研究室毎に、第一研究室（約 108 ㎡）、第二研究室（約 30 ㎡）、教授室（約 25 ㎡）、大学院研究室（約 27 ㎡）が整備されている。室数は、専任教員 83 名（令和 3 年 4 月現在）に対し 82 室となり、研究室の教員構成によっては 1 室を複数名の教員が利用する場合があるが、研究室運営に支障が生じることはない。また、複数名の教員が研究室を共同利用する場合、広さが十分に確保されている第一研究室（約 108 ㎡）を主に活用することとなるため、室数及び研究室の広さともに不足はない。

また、B 棟には共同研究センターとして、1 階に高度な研究が可能な研究設備を設置する中央機器研究施設、地下 1 階には動物実験や放射性物質を使用した研究が可能な動物関連研究施設、RI 研究施設が整備されている。

大阪薬科大学で使用している機器・備品等約 2,800 点については、大学統合後も引き続き活用する。平成 30 年度には中央機器研究施設に高速微量成分分析システム（研究装置）を整備し、平成 31 年度には RI 研究施設に小動物用インビボイメージングシステム（研究装置）を整備する等、教育・研究のため機器等の充実に努めている。これらの研究機器は、適切な維持・管理を継続する他、今後も計画的な研究機器の整備を進め、研究環境の向上に努める。

（３）図書等の資料及び図書館の整備計画

阿武山キャンパス図書館については、大阪薬科大学図書館の施設設備、所蔵図書をそのまま引き継ぐとともに、大阪医科大学本部キャンパス図書館との相互利用や連携をより推進し、全学部の学生や教職員が有効利用できるよう整備する。

図書館は、A 棟 3 階に事務室、閲覧室、グループ学習室、図書館自習室、ブラウジングコーナー、4 階に閲覧室、AV 利用室、資料展示室を整備しており、延べ床面積は 1,994 ㎡である。このうち、閲覧室等の面積は、1,273 ㎡である。

図書館は、事務職員 1 名（専任、統括)、契約職員及び派遣職員合わせて 3 名（司書 2 名）で運営し、司書 2 名は図書館事務業務全般や利用者の対応にあたる。また、図書館システム「CARIN」を導入することにより、図書館業務の効率化を図っている。

図書館開館時間は、平日（月から金曜日）は 9 時～20 時、土曜日は 10 時～16 時 30 分（なお、試験期間中は 18 時まで）である。また、学生の利用の便宜を図るため、図書館自習室は月から土曜日の 7 時～22 時まで開放している。

総座席数は、2 室ある図書館自習室の座席数 29 席、グループ学習室の座席数 12 席と合わせて 301 席確保している。また、館内の各階に情報検索コーナーとして 20 台の端末パソコンを設置し、学生の利便性向上を目的とした施策を実行してきた。なお、情報検索コーナーでは学生証（IC カード）で図書館プリントシステムが利用でき、レポート、課題、関連資料等の印刷が可能である。

図書館の令和 2 年 3 月現在の蔵書数は 92,477 冊、学術雑誌が 618 種類(和雑誌 225 種、洋雑誌 393 種)、視聴覚資料が 1,924 点である。

図書資料は、収集・管理・提供等の運営を通じて本学の目指す研究・教育に貢献するものである。新規購入図書は、薬学、医学、化学分野の学術図書が圧倒的に多いが、近年では、人権、就職、情報関連や実用書、又は新書・文庫等、教員・学生からの要望をできるだけ取り入れられるよう、購入希望図書の募集等、電子資料も含めた多様な資料の購入に努めている。

電子ジャーナルは、冊子体の学術雑誌に代わって研究者にとって必要不可欠な情報源であり、積極的に導入している。図書館は、大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE)、日本薬学図書館協議会コンソーシアム等を通して 12 種のコンソーシアムに参加し、これらコンソーシアムが提供するパッケージを中心に契約しており、現在 3,655 種類の電子ジャーナルが図書館ホームページからアクセスでき、教育研究活動の効率化に大きく寄与している。

大学図書館が教育研究活動を支える基盤であるためには、医学部・看護学部が利用する本部キャンパス図書館（本館）や、学外施設との相互協力が不可欠となる。図書館は国立情報学研究所が提供する目録所在情報サービス（NACSIS- CAT/ILL）に参加し、図書館間相互協力により資料提供サービスを実施しているが、さらに、日本薬学図書館協会に加盟し、薬系大学はもとより、製薬企業、研究所、試験所の加盟図書館とも情報交換及び連携を図っている他、機関リポジトリを活用した情報発信の強化に努めている。

８．入学者選抜の概要

（１）入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

大学の理念、目的、設置する学部の目的、養成する人材像並びにディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、薬学部薬学科の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）について、求める学生像、大学入学までに身につけておくべき教科・科目等、入学者選抜の基本方針により、以下のとおり定める。

なお、薬学科と併せて設置する薬科学科は、前述の「募集停止中の学科の取扱い」に記載するとおり、大阪薬科大学から転学する平成 29 年度以前の入学生の教育条件（学科選択の権利）の維持を目的として、大阪薬科大学における平成 30 年度からの同学科の学生募集停止を継続したまま設置するものであり、新たに入学者を受け入れることはないため、本項における記述を省略する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

薬学部薬学科では、医療人としての自覚と高い倫理観をもち、薬学の基礎的、応用的、実践的知識や技能を修得することに加え、人に対する思いやりと豊かな人間性を備え社会に貢献できる質の高い薬剤師を養成するため、次のような学生を求めています。

<u>求める学生像</u>

1. 薬の専門家として社会に貢献する意思をもち、そのための努力を継続できる人
2. 薬学を学ぶために必要な基礎学力と語学力に加え、論理的思考力と応用力をもつ人
3. 将来の医療人としての自覚をもち、人に対する思いやりの心と協調性・倫理性をもつ人
4. 薬剤師として必要な知識・技能・態度を修得し、高いコミュニケーション能力を身に付けることができる人
5. 豊かな人間性を自らに育む意思をもち、患者・生活者の立場に立って医療に取り組むことができる人
6. 薬学・医療の進歩と改善に関心をもち、課題を見出して解決する能力を涵養できる人

<u>大学入学までに身につけておくべき教科・科目等</u>

薬学は化学、生物、物理などに基礎をおく総合科学であると同時に、医療、衛生、環境問題を通して人間の生命や社会と深く関わるため、人文社会科学的側面も強く合わせもつ領域です。大学入学までに確実に修得しておくことが不可欠な教科・科目は入試科

目として評価します。

理科：化学、生物、物理について、科学的知識とそれに基づいた思考力・応用力

数学：数学的・論理的に思考し表現する能力

外国語：英語についての読解力・表現力と、英語による基礎的なコミュニケーション能力

また、入試科目に含まれない国語、社会、数学Ⅲについても、高等学校卒業相当の基礎的な学力を保持していることが望まれます。

入学者選抜の基本方針

1. 学校推薦型選抜

(1) 指定校制推薦入学試験

薬学を学ぼうとする意欲、コミュニケーション能力および基礎学力について、調査書や志望理由書等の提出書類を参考に、面接試験と学力確認試験（化学）により評価・判定を行い、入学者を選抜します。

(2) 公募制推薦入学試験（併願可）

活動実績報告書等の提出書類を参考に、調査書（全体の学習成績の状況）と理科（化学または生物)、数学（数学Ⅲを除く)、英語の学力試験により基礎学力の評価・判定を行い、入学者を選抜します。

2. 一般選抜

(1) 一般入学試験Ａ

理科（化学または生物)、数学（数学Ⅲを除く)、英語の学力試験により基礎学力の評価・判定を行い、入学者を選抜します。一般入試Ａでは、理科に秀でた学生を選抜するために、その配点を高くしています。

(2) 一般入学試験Ｂ

理科（化学)、英語に加え、数学（数学Ⅲを除く）または理科（生物）の学力試験により基礎学力の評価・判定を行い、入学者を選抜します。

(3) 大学入学共通テスト利用入学試験

大学入学共通テストにより、理科（化学)、数学（数学Ⅰ・数学Ａ、数学Ⅱ・数学Ｂ)、英語の基礎学力の評価・判定を行い、入学者を選抜します。

3. その他

(1) 帰国生徒特別選抜入学試験

志望理由書等の提出書類を参考に、面接と理科（化学または生物)、数学（数学Ⅲを除く)、英語の学力試験により基礎学力の評価・判定を行い、入学者を選抜します。

アドミッション・ポリシーは、大阪薬科大学薬学部薬学科における内容を踏襲するものであり、「3 ポリシーの策定及び運用に関するガイドライン（平成 28 年 3 月 31 日中央教育審議会大学分科会大学教育部会)」を踏まえ、「学力の三要素（1 知識・技能の確実な習得、2 これを基にした思考力、判断力、表現力、3 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)」を念頭に置き策定したものである。

（２）入学者選抜の体制、実施・選抜方法

薬学部の入学者選抜制度（試験科目、募集人員等）は、アドミッション・ポリシーに基づき、薬学部における入学者選抜に係る調査・研究、企画・立案、分析及び評価等を担うアドミッション・オフィスにおいて、入学試験結果の分析・評価等に基づき検討・策定し、入試業務の具体的実施計画の策定及びその遂行に当たる入試委員会が確認し、教授会での審議を経て、学長が決定する体制としている。

この入学者選抜制度では、アドミッション・ポリシーに沿い、薬学部にふさわしい学生を公正な選考により受け入れるため、「指定校制推薦入学試験（専願)」「公募制推薦入学試験（併願)」「一般入学試験 A」「一般入学試験 B」「大学入学共通テスト利用入学試験」「帰国生徒特別選抜入学試験（専願)」の 6 つの入学試験を設定する。試験区分毎の入学者選抜の実施・選抜方法は以下のとおりである。

なお、学校推薦型入試と一般選抜の募集定員は、それぞれ 130 名と 164 名であり、学校推薦型入試を全募集定員の 50%以内とする。

①（学校推薦型入試）指定校制推薦入学試験

専願

実施時期：11 月下旬

募集人員：40 名

実施・選抜方法：高等学校長宛てに「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー)」を示すとともに、薬学を意欲的に勉学する意思を有し、理科は化学基礎・化学と生物基礎・生物又は化学基礎・化学と物理基礎・物理を履修している全体の学習成績の状況が 3.5 以上の生徒の推薦依頼を行う。高等学校長からの推薦を受け、調査書、志望理由書等の提出書類と基礎学力確認の面接及び化学基礎・化学の学力確認試験により総合的に評価・判定し、入学者を選抜する。

②（学校推薦型入試）公募制推薦入学試験

併願

実施時期：11 月下旬

募集人員：90 名

実施・選抜方法：薬学を意欲的に勉学する意思を有し、全体の学習成績の状況が 3.2 以上の生徒を対象に高等学校長からの推薦を受け、理科（化学基礎・化学又は生物基礎・生物)、数学（数Ⅲを除く)、英語の学力試験及び調査書、推薦書、高校生活で主体性をもって取り組んだことや学んだことを志願者本人が記載する活動実績報告書により基礎学力の評価・判定を行い、入学者を選抜する。

③（一般選抜）一般入学試験 A、④（一般選抜）一般入学試験 B

実施時期：2 月上旬～中旬

募集人員：一般入学試験 A・100 名、一般入学試験 B・50 名

実施・選抜方法：一般入学試験 A は理科（化学基礎・化学又は生物基礎・生物)、数学（数学Ⅲを除く)、英語の学力試験により基礎学力の評価・判定を行い、入学者を選抜する。一般入学試験 B は理科（化学基礎・化学)、英語、並びに数学（数学Ⅲを除く）または理科（生物基礎・生物）の学力試験により基礎学力の評価・判定を行い、入学者を選抜する。

⑤（一般選抜）大学入学共通テスト利用入学試験

実施時期：2 月中旬

募集人員：14 名

実施・選抜方法：大学入学共通テストにより、理科（化学)、数学（数学Ⅰ・数学 A、数学Ⅱ・数学 B)、外国語（英語）の基礎学力の評価・判定を行い、入学者を選抜する。

⑥（その他）帰国生徒特別選抜入学試験

専願

実施時期：11 月下旬

募集人員：若干名

実施・選抜方法：薬学を意欲的に勉学する意思を有した帰国生徒を対象に募集を行い、理科（化学基礎・化学又は生物基礎・生物)、数学（数Ⅲを除く)、英語の学力試験及び成績証明書、推薦書、志望理由書等の提出書類と面接によりコミュニケーション能力並びに基礎学力を総合的に評価・判定し、入学者を選抜する。

薬学部として独自に実施する入学試験（学力試験及び学力確認試験）の教科・科目は、全て記述式問題（英語：英作文・和訳等、数学：計算式・グラフ等、化学：構造式・計算等、生物：計算・論述等をそれぞれ含む）とし、知識・技能を十分に有しているか確認することに加え、思考力、判断力、表現力を評価し、選抜する。

９．取得可能な資格

設置する薬学部薬学科を卒業することにより、薬剤師国家試験受験資格を得ることができる。

１０．実習の具体的計画

（１）実習の基本計画

設置する薬学部薬学科は、薬剤師の養成が主目的であり、6 年制薬学教育が準拠すべき「薬学教育モデル・コアカリキュラム」において明示された「薬剤師として求められる基本的な資質」及びディプロマ・ポリシーに定める「薬剤師として医療に関わるための知識・技能・態度、チーム医療や薬物療法に必要な専門的知識・技能・態度、薬の専門家に必要なコミュニケーション能力」等を獲得させることを目的に薬学実務実習を実施する。

「薬学教育モデル・コアカリキュラム」は平成 25 年 12 月に改訂され、平成 27 年度からこれに基づくカリキュラムを実施している。また改訂モデル・コアカリキュラムに準拠した大学の薬学実務実習を適正に実施するための指針を示した「薬学実務実習に関するガイドライン」が示されており、大阪薬科大学薬学部においては、ガイドラインに沿った実施体制の整備、学習方略の検討、大学と病院・薬局間の連携を進め、平成 31 年度から、これに沿った実習を実施している。

近畿地区各府県の薬剤師会及び病院薬剤師会と近畿地区に所在する薬系大学から構成する一般社団法人薬学教育協議会病院・薬局実務実習近畿地区調整機構が薬学実務実習の実施に関する事項を総括し、本機構の下、大学と病院、薬局間の連携や実施体制の整備が行われてきた。設置する薬学部においても、調整機構の方針に基づき、大阪薬科大学で行われてきた体制を踏襲し、薬学実務実習を実施する計画である。

大阪薬科大学では、実務実習等に関する具体的な方針又は計画等について審議する実務実習等専門委員会を薬学実務実習実施の総括組織とし、その下に実務実習実施部会を置き、本部会において以下の事項を審議し、薬学実務実習の円滑な実施に当たってきた。【資料 12：実務実習　実施・指導・連携体制図】

- 実習受入れ施設の調整と決定
- 実習前準備（抗体検査・予防接種、各種保険への加入、報告・連絡システムの整備、学生へのオリエンテーションなど）
- 評価（修得度）表及び日報の書式作成

・訪問指導の準備（指導要領作成とその訪問指導担任教員への周知徹底、スケジュール調整等）
・訪問指導
・訪問指導担任教員からの報告の収集と定期的（緊急時はその都度の）検討と対応
・指導薬剤師及び訪問指導担任教員からの実習に係わる種々の要望及び相談への対応
・学生配属研究室の主任教員からの報告の収集及び対応要請
・定期的実習評価と単位認定
・成績不良者への対応
・指導薬剤師との総合懇談会の定期的開催
・実習期間中の学生に対する就職活動支援
・実習成果のまとめ（報告集作成、報告会の開催など）
・緊急時（病気、事故、災害、人的トラブル、その他ドロップアウトなど）への即時対応

薬学実務実習での大学と施設の連携・学生指導は、5 名の特任教員（教授：大規模病院等での薬剤部長等の要職経験者の実務家教員）がこの窓口となり、薬学部の教員全体が実務実習に関わる体制をとっている。設置する薬学部においても、これら委員会組織及び実習の実施体制のすべてを承継することとする。【資料 13：大阪医科薬科大学薬学部　実務実習等専門委員会規程】

（２）実習先の確保の状況

実習施設として登録するには、実務実習指導薬剤師（指導薬剤師）が確保され、「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成 25 年度改訂版）」の SBOs に基づく実習内容を実施できることが条件となる。これら登録施設は調整機構から提示され、各大学の申請を基に調整機構にて調整を行い実習施設の確保を行う。なお、平成 31 年度実務実習に向け調整機構から提示のあった近畿地区での延べ実習受入人数は 2,790 名余りに上り、近畿地区 14 大学の薬学部入学定員（2,459 名）を上回る状況であった。以上から、近畿地区出身の学生のみならず他地域からの出身者の実習に関しても受入に支障は無いと言える。

また、他地域からの出身者のうち、出身地の地域医療に貢献したいという強い意志を持つものに関しては、調整機構を通じ、出身地域の調整機構に依頼し、実習施設を確保する。

（３）実習先との契約内容

調整機構が提供する「薬学部学生の病院・薬局実習に関する契約書」を用い、大学と実習施設間で契約を締結する。この契約では実習に係る費用や個人情報、秘密及びプライバシーの保護、法人機密情報の保護及び実習生の疾病及び傷害に関することが含まれる。【資

料 14：薬学部学生の病院実習に関する契約書】【資料 15：薬学部学生の薬局実習に関する契約書】

また、個人情報、秘密及びプライバシー保護等については、薬学教育協議会が提供する取り扱い例に倣い、大学は「病院・薬局等における実習等の誠実な履行並びに個人情報等及び法人機密情報の保護に関する説明文書」に基づいて守秘義務の遵守に関する指導を行い、実習生より提出させた個人情報・法人機密情報の保護に関する誓約書を実習施設に提出する。【資料 16：病院・薬局等における実習等の誠実な履行ならびに個人情報等および病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する説明文書】【資料 17：病院・薬局等における実習等の誠実な履行ならびに個人情報等および病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する誓約書】

（4）実習水準の確保の方策

指導薬剤師が確保され、「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成 25 年度改訂版）」の SBOs に基づく実習内容を実施できることが、調整機構への実務実習施設としての登録条件である。また指導薬剤師の育成も調整機構が「認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ」を開催し、この任に当たっている。大学では、実習施設と契約を交わす際、当該施設に認定実務実習指導薬剤師が配置されていることを確認し、実習施設としての適性を判断している。

特任教員は、実務実習開始前に病院・薬局と合同での協議会を開催し、薬局と病院のグループ化を図り、実習計画が改訂モデル・コアカリキュラムに準拠した内容となるよう調整を行う。また、実習開始前と実習開始後に 2 回、併せて 3 回施設を訪問し、実習の進捗状況の把握、指導薬剤師へのアドバイスを行うほか、「薬学臨床」の中項目 GIO の 5 項目（薬学臨床の基礎（臨床における心構え）、処方せんに基づく調剤、薬物療法の実践、チーム医療への参画、地域の保健・医療・福祉への参画）の到達度を用いて学生の形成的評価を行い、実習水準が適正であることを確認する。

学生は実務実習終了後に実習施設の概要、実習内容を記載した実務実習報告書を大学に提出する。実務実習報告書の内容は特任教員が確認を行い、実習施設へフィードバックし、実習水準の向上に役立てている。

なお、実習の日々の記録には、富士ゼロックスシステムサービス株式会社の提供する「実務実習指導・管理システム」を導入しており、学生はこれを利用して、オンライン上で日誌・週報の作成と SBOs の達成状況を記載し、特任教員や研究室の指導教員はオンライン上で担当する学生の実習日誌・週報、進捗状況を把握し、必要に応じて指導薬剤師に実習状況を確認する。

薬学実務実習は薬学教育協議会が指定する 4 期で実施する。実務実習の日数等については、調整機構の「薬学実務実習に関する Q&A（平成 25 年度改訂版)」によって、11 週の考え方、1 日の実習時間の考え方、実習期間中の病欠の考え方、勉強会・講演会・在宅訪問等による時間外の実習に対する考え方が定められている。これらに従い薬学実務実習を実施するが、実習期間が 11 週より短くなった場合は、原則として補習で対応するなど、実習水準を担保するために実習時間の確保にも努める。【資料 18：実務実習スケジュール】

（５）実習先との連携体制

薬学実務実習期間中は、特任教員が学生を支援するとともに実習施設との連携を図る。継続して実習施設とかかわることが、実習施設との円滑な連携を図るため重要であると考え、実習実施年度によって教員の担当施設及び担当地区が変わることのないよう可能な限り配慮した配置としている。

また、施設との連絡を密にするため、事前訪問の際に、「実務実習指導・管理システム」のメッセージ機能の利用について確認をとり、特任教員だけでなく研究室の指導教員とも連絡が取れることを周知する。学生と特任教員や研究室の指導教員、指導薬剤師は、このシステムを利用して相互に連携し実習を円滑に実施する。

加えて、前述の「教員組織編成の特色」にて詳述した通り、一部の実務家教員を臨床能力の維持、臨床教育・研究の推進のため週次で実務実習先となる医療施設に派遣しており、実務実習においても施設と共に教育指導を行う等、実務実習先との連携体制の強化に注力する。

（６）実習前の準備状況

薬学実務実習は臨床現場での実習であることから、実務実習学生、患者及び他の医療関係職の安全確保の面から、感染症予防への対応が求められる。設置する薬学部薬学科では、現在の大阪薬科大学における指導と同様に、必要な予防接種の対応について事前指導を行う。

薬学教育協議会が公表している「病院における長期実務実習に対する基本的な考え方」「6 年制薬局実習の受入薬局に対する基本的な考え方」に基づき、毎年 4 月に定期健康診断を実施する。4 年次には定期健康診断と合わせて、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘及びＢ型肝炎の抗体検査を行い、抗体価が低い学生に対してはワクチンを接種するよう指導し、指導後のワクチン接種の有無を確認する。実務実習学生の抗体検査の結果は、実務実習施設に提示する。なお、学生に対しては、臨床導入学習や実務実習に関するガイダンスを通じ、健康診断・ワクチン接種の意義を説明する。【資料 19：令和元年度　実務実習ガイダンス資料】

また、学生自身の傷害に対応するために公益財団法人日本国際教育支援協会が提供している「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」に全学生を対象に大学として加入する他、実習中に実習施設へ損害を与えた場合の補償のため「学研災付帯賠償責任保険」にも同様に加入する。さらに、学研災で対応できない感染症に罹患した際の対応として、薬学実務実習災害補償規程を定め、補償に対応すべく大学として約定履行保険に加入する。

実習中に知り得た個人情報、機密情報等の取り扱いは、「病院・薬局等における実習等の誠実な履行並びに個人情報等及び法人機密情報の保護に関する説明文書」に基づいて守秘義務の遵守に関する指導を行い、実習生に個人情報・法人機密情報の保護に関する誓約書を提出させる。【資料 16：病院・薬局等における実習等の誠実な履行ならびに個人情報等および病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する説明文書】【資料 17：病院・薬局等における実習等の誠実な履行ならびに個人情報等および病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する誓約書】

（７）事前・事後における指導計画

①事前指導

特任教員は薬学実務実習開始前の施設訪問時に、学生の提出したプロフィールに基づき指導上必要な情報を指導薬剤師に伝え、また施設の作成した実習スケジュール表をもとに、実習計画が「薬学実習モデル・コアカリキュラム（平成 25 年度改訂版）」に準拠していることを確認する。

学生に対する実務実習直前の指導として、実務実習の全体ガイダンス終了後に学生と特任教員の個別面談を行う。面談では、実習施設の概要、実習スケジュール、施設からの連絡事項、その他注意事項などを確認する。

実務実習のための事前学習は、3 年次に配置する「臨床薬学概論」、「医薬品情報学」、4 年次に配置する「臨床導入学習 1」「個別化医療」、「コミュニティファーマシー」、「臨床導入学習 2」で行う。これらの科目を通じて、実務実習に臨むに際して必要な、医療人としての態度の醸成、薬剤師の職責の重さ及び薬剤師業務の概要を理解させる。【資料 20：授業科目の概要（実務実習事前学習）】

②事後指導

実務実習終了後、学生は実務実習報告書と実習中に作成した資料及び到達度確認のために「実務実習指導・管理システム」から出力した進捗レポートを提出し、特任教員の最終的な内容の確認を受ける。

（８）教員の配置並びに巡回指導計画

近畿 2 府 4 県を、大阪府北部、大阪府南部・奈良・和歌山、京滋、兵庫と大まかに 4 つのエリアに分け､それぞれのエリアに特任教員 1～2 名を各エリア担当教員として割り当て、学生の実習状況などの学習面と生活面を支援する。

実務実習期間中、特任教員は実習施設に常駐するのではなく、各施設での実務実習の指導は施設の指導薬剤師が行う。特任教員は学生が記録した日誌・週報を「実務実習指導・管理システム」で確認し、指導薬剤師と連携をとり必要な指導を行う。

実習施設の巡回については、特任教員が実務実習開始前と実習開始後 1 ヶ月内、及び終了 1 ヶ月前を目安に計 3 回、それぞれ施設を訪問する。なお、特任教員は実習施設訪問と並行し、大学での授業も担当するが、大学での教育活動と特任教員の負担を考慮した訪問計画となるよう配慮している。【資料 21：薬学実務実習における教員配置計画】

（９）実習施設における指導者の配置計画

実習施設には指導薬剤師が確保され、「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成 25 年度改訂版)」の SBOs に基づく実習内容を実施できることが、調整機構への実務実習施設としての登録条件となっており、実習施設の指導薬剤師が学生の指導にあたる。

また、実習施設のうち、多くの学生を受け入れている大阪医科大学附属病院及び国立循環器病研究センターでは、当該施設所属の指導薬剤師が指導にあたる他、本学の特任教員による巡回指導に加え、実務家教員である専任教員も週に一度のペースで訪問し、施設の指導薬剤師と共に学生指導に当たる。

（１０）成績評価体制及び単位認定方法

実務実習の成績評価は、平成 27 年 2 月 10 日に薬学実務実習に関する連絡会議より示された「薬学実務実習に関するガイドライン」に従い、学習成果基盤型教育（OBE）の考え方に基づいて、「薬学臨床」の中項目 GIO（５項目）の到達度を指標とした評価とする。

到達度の指標については、「薬学実務実習に関するガイドライン」に基づき、平成 28 年 11 月 30 日に薬学実務実習に関する連絡会議から「薬学実務実習の評価の観点について(例示)」が示され、さらに平成 30 年 2 月 28 日にはこれに一部改訂がなされた。

これらに従い、成績評価・単位認定はシラバス記載のとおりとしている。

これまでは、本学教員の評価 50%、指導薬剤師の評価 50%として総合評価を行うこととしていたが、目標達成度に重点を置き大学が主体的に評価を行うという観点から、以降、実務実習記録による評価 50%、学生との懇談内容 10%、指導薬剤師による評価 30%、学生のルーブリック 10%という割合で、総合評価を行う。【資料 22：病院実務実習シラバス・薬局実務実習シラバス】【資料 23：実務実習　ルーブリック】

１１．管理運営

本学の教学マネジメントは、学長をリーダーとし、その下に各学部の学部長を置くとともに、学長が必要と認めた場合は、副学長を置くことができる体制とする。

また、学長－学部長のマネジメント体制を効果的に機能させるため、以下の会議体や教学面における管理運営に必要な組織を設置し、教学のガバナンスを構築する。

（１）学部間協議会

学部間協議会（仮称）は、学長、副学長、学部長・研究科長及び各学部・研究科の必要な教員をもって構成し、学長が議長となり、定例として原則毎月一回開催する。

学部間協議会は、各学部・研究科教授会での審議事項の共有、各学部・研究科間の調整を行うとともに、次に掲げる事項について学長が決定するに当たり、審議のうえ意見を述べる。

・教育・研究・大学運営面における全学的又は学部・研究科横断的な重要事項
・学則その他重要な全学的又は学部・研究科横断的規則の改廃
・その他、必要と認められる事項

（２）教授会

学則第 47 条に基づき、学部毎に教授会を設置する。教授会は、学部毎に学部長及び教授で構成し、学部長が議長となり、定例として毎月一回開催する。薬学部においては、実務家教員である教授を構成員に加え、教育課程の編成や教育研究上の組織運営に参画させることとしている。なお、学長は教授会に陪席することができる。

教授会は、次に掲げる事項について学長が決定するに当たり、審議のうえ意見を述べる。

・学生の入学、卒業及び課程の修了
・学位の授与
・上記の他、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの（以下の 1～9）
  1. 学則制定、改廃に関する事項
  2. 学部の管理、運営及び諸規程の制定、改廃に関する事項
  3. 教授、准教授その他教員の候補者に対する適格性審査に関する事項
  4. 教育課程、授業、試験又は進級判定等に関する事項
  5. 学生の教育研究に関する事項
  6. 研究生又は科目等履修生等に関する事項
  7. 所属職員の教育研究活動、教育研究におけるＩＲ及び危機管理に関する事項

8. 附置施設の教育研究上の利用に関する事項

9. その他、学長が諮問する事項

なお、薬学部においては審議内容に応じ、薬学部長及び教授、准教授、講師をもって構成する拡大教授会を不定期に開催する。

（3）委員会等

薬学部の教育課程の編成や教育研究の推進、その他専門的な事項を審議するため、各種委員会等の組織を設置する。委員会は、学長や薬学部教授会からの諮問事項及び当該委員会が所掌する事項について審議し、必要な任務を遂行する。以下に薬学部における主要な委員会を示す。

・教務部委員会
・学生部委員会
・キャリアサポート部委員会
・入試委員会
・研究委員会
・共同研究センター運営委員会
・カリキュラム委員会
・FD 委員会
・実務実習等専門委員会
・自己点検・評価委員会

１２．自己点検・評価

（1）自己点検・評価の基本方針

大阪医科薬科大学学則第 3 条に、大学の教育研究水準の向上を図り、大学の目的及び社会的使命を達成するため、本学の教育研究活動等の状況について、点検及び評価を行う旨定めている。これを受け、大学に設置する大阪医科薬科大学教育戦略会議及び研究戦略会議が全学的な内部質保証の推進を担う。この戦略会議は、「学長が提唱し、戦略会議で定めた教学目標を実現するために必要な事項に関する企画を立案し、教育及び研究活動等に関する展開及び内部質保証を推進する」ことを任務としている。この戦略会議の下に、学部・研究科の自己点検・評価組織として薬学部長を長とする「薬学部／薬学研究科自己点検・評価委員会」を設置する。【資料 24：大阪医科薬科大学薬学部／大学院薬学研究科　自己点検・評価委員会規程】

薬学部／薬学研究科自己点検・評価委員会の任務は、「薬学部等の教育研究水準の向上を図り、薬学部等の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等に関する事項（下述の（2）に記載）について自己点検・評価を実施し、薬学部等の内部質保証を推進するとともに、もって本学における内部質保証の推進に寄与するものとする」と委員会規程に明示する。

薬学部／薬学研究科自己点検・評価委員会が実施する自己点検・評価の結果や、この結果に基づき策定する改善計画等については、全学的内部質保証推進組織に報告することとし、これをもって学部・研究科における PDCA サイクルを機能させるとともに戦略会議による学部・研究科の内部質保証活動の管理や全学的な目標等にも対応していく。なお、このような PDCA サイクルを機能させる考えは、大阪薬科大学での考えと同様であり、大学統合後は戦略会議に踏襲する。大阪薬科大学において全学的組織であった内部質保証委員会は、学部・研究科の自己点検・評価組織である薬学部／薬学研究科自己点検・評価委員会に引き継ぐものとする。

大学機関別認証評価については、大阪薬科大学では平成 16 年度（第 1 期）、平成 23 年度（第 2 期）、平成 30 年度（第 3 期）に公益財団法人大学基準協会による認証評価を受審し、同協会が定める基準に適合しているとの認定を受けた。また、薬学教育評価機構による 6 年制薬学教育プログラムの分野別評価についても、平成 28 年度に受審し、同機構が定める基準に適合しているとの認定を受けた。

大阪医科大学では平成 18 年度（第 1 期）、平成 25 年度（第 2 期）に同協会による認証評価を受審し、同協会が認める基準に適合しているとの認定を受け、令和 2 年度に第 3 期認証評価を受審する。大学統合後は、文部科学省及び同協会からの見解を受け、大阪医科大学の受審サイクルにより大学機関別認証評価に対応することとなる。

大阪薬科大学においては実施していた大学機関別認証評価や分野別評価等の自己点検・評価結果については、大学統合後についても薬学部・薬学研究科ホームページにおいて公表を継続するものとし、これまでの大阪薬科大学としての内部質保証は薬学部・薬学研究科に全て承継するものとする。

（２）自己点検・評価の基本項目

薬学部・薬学研究科における自己点検・評価の項目については、薬学部／薬学研究科自己点検・評価委員会規程において次のとおり明示する。この項目は全学内部質保証推進組織である大阪医科薬科大学教育戦略会議及び研究戦略会議が実施する検証項目と同様のものであり、全学組織と学部・研究科組織の活動が連動する形とする。

①全学内部質保証推進組織からの要請等に関すること

②薬学部等の理念・目的の策定及び検証に関すること

③薬学部等のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシー（3 ポリシー）の策定及び検証に関すること

④3 ポリシーに基づく薬学部等の学習成果、教育課程及び入学者選抜の成果の検証に関すること

⑤薬学部等の教育研究組織、教員組織、学生支援、教育研究環境、社会連携・社会貢献の方針の策定及び検証に関すること

⑥薬学教育第三者評価（分野別評価）の受審に関すること

⑦機関別認証評価及びその他内部質保証に関すること

１３．情報の公表

（１）公表の取組み

本学では、大学設置基準第 2 条、学校教育法第 113 条の定め及び学校教育法施行規則第 172 条の 2 の改正による「教育研究活動等に関する情報公表」の義務化に基づき、大学運営や教育研究等の諸事項について、公的な教育機関としての社会的説明責任を果たすとともに、公正かつ透明性の高い運営を実現し、教育研究活動の質的向上を図ることを目的として、これらの情報を積極的に公表する。

設置する薬学部においても、ステークホルダーが適切に必要な情報を得られるよう配慮し、学部及び学科における教育研究上の目的等について情報を公表する。

教育情報の公表については、インターネットを利用し広く周知を図ることとする。ホームページ上では、「トップ＞大学紹介＞公表情報」へと明確にリンクさせ、ステークホルダーにとって分かりやすく閲覧することができるように準備する。

ホームページアドレス（予定）：https://www.ompu.ac.jp/about/disclosure/index.html

（２）公表項目

次の教育研究活動等の状況についての情報を公表する。

①大学の教育研究上の目的に関すること

・大学の基本姿勢（建学の精神、学是、教育研究上の目的、教育指針、教育の特色）

・学部・学科／研究科・専攻の概要（教育目的、教育指針、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、取得を目指せる資格）

②教育研究上の基本組織に関すること

・学部・学科／研究科・専攻、研究室一覧

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

・教員一覧（学位を含む）、教員数、教員組織、研究業績一覧

④入学者に関する受入方針及び入学者の数，収容定員及び在学する学生の数，卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

・学部・学科／研究科・専攻のアドミッション・ポリシー

・入学定員・入学者数・入学者数推移、収容定員・在籍者数、学位授与数

・卒業者数、就職実績（就職・求人状況）、就職先情報（業種別実績）

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

・学部・学科／研究科・専攻のカリキュラム・ポリシー

・学びの特色、学則、年間の授業計画（シラバス）

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定にあたっての基準に関すること

・学部・学科／研究科・専攻のディプロマ・ポリシー

・学則、学位規程

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

・キャンパスマップ、施設紹介、校地・校舎面積、学習環境、課外活動の状況、主な交通手段、耐震化率

⑧授業料、入学金その他の大学が徴収する費用に関すること

・入学金、学費、その他の学生納付金関連経費

⑨大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

・修学支援体制、経済的支援体制、学生生活支援体制、就職支援体制、高等教育の修学支援制度への対応

⑩その他の教育研究活動等

・学位論文にかかる評価にあたっての基準

・国際交流（国際交流助成事業、提携校、外国語教育支援プログラム）

・社会貢献活動（地域連携、市民講座）

・大学機関別認証評価における評価報告書、自己点検・評価報告書

・学事カレンダー、年間行事予定

・学内の行事や出来事（随時トピックスとして配信）

上記の他、次の財務及び経営に関する情報を公表する。

・事業計画書及び事業報告書

・計算書類

・寄附行為

・役員名簿

１４．教育内容等の改善を図るための組織的な研修

（１）教育内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等（FD 研修）

教育内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等（FD 研修）については、大阪薬科大学薬学部における体制及び内容を踏襲した上で、さらに発展を目指すものとする。

FD 研修の組織的な対応にあたり FD 委員会を設置する。【資料 25：大阪医科薬科大学薬学部／大学院薬学研究科　FD 委員会規程】

具体的には、授業に関する学生へのアンケート調査、公開授業及び研究会の実施、教員の職能を高めるための研修会等の実施、ティーチング・ポートフォリオの導入、学生 FD 委員会との意見交換等を実施する。【資料 26：FD 実施状況一覧】

授業、実習に関する学生へのアンケート調査については、毎年前期・後期に 1 回ずつ、全ての講義演習、実習で実施する。アンケート結果は、集計して各担当教員に配布し、授業改善の参考とさせる。また、科目毎のアンケート結果は、学内専用ホームページで、学生及び教職員に公開する。

公開授業については、前期・後期のそれぞれで FD 委員会が選定する教員の講義を教員が参観し、評価する。また、当該公開授業に参加する学生に対してもアンケートを実施し、その結果を用いた検討の後、学生も参加可能な公開授業研究会を実施する。

教員の職能を高めるための研修会については、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーをはじめ、アクティブ・ラーニング、学生ポートフォリオと GPA の活用事例等の関心が高い事項を取り上げ、ワークショップ形式により開催する。

ティーチング・ポートフォリオについては、教員自身の教育理念や教育活動等、教育の方法、教育の成果や今後の目標までを自己省察等を用いて記載させ、「教育業績ファイル」として将来の授業の向上や改善等のために導入する。

また、学生の意見を FD 活動に反映することを狙いとして、学生 FD 委員会を立ち上げ、FD 委員会と合同で会議を開催し、授業や実習に関するアンケート調査の在り方などについて意見交換を行う。

（２）管理運営に必要な教職員への研修等（SD 研修）

本法人では、「学校法人大阪医科薬科大学　職員研修に関する基本方針」及び大阪医科大学、大阪薬科大学それぞれの年度計画に基づき、組織的なスタッフ・ディベロップメント（SD）を実施している。【資料 27：学校法人大阪医科薬科大学　職員研修に関する基本方針】

本基本方針において、SD とは「教育研究、診療活動の適切かつ効果的な運営を図るため、職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修（別に実施するファカルティ・ディベロップメント（FD）に関するものを除く。）を指し、法人に所属する全ての職員を対象とするものの他、SD の実施内容に応じて、事務職員、教

員や学長等の大学執行部、医療技術職員、管理職や監督職あるいは若年職員や中堅職員等、対象者を指定して実施する。

法人合併後、SD に関する基本方針を法人として統一し、実際の企画・実施は年度計画に基づき大学毎に行いながら、取扱うテーマによっては、大阪薬科大学所属職員を大阪医科大学主催の SD に派遣する等、大学間での柔軟な連携により推進してきた。【資料 28：大阪薬科大学 SD 基本計画】

大学統合後は、学部横断的に実施すべき SD については全学的研修として扱うよう、研修区分の見直しを行う。これまで大学毎に実施してきた階層別研修については、大学事務局を中心に企画、全学的に実施することとする。また、テーマ別研修のうち、例えばハラスメント・人権・厚生補導等に関するものについては、関係委員会主導のもと、全学的に実施することとする。一方、テーマ別研修のうち、薬学部特有のテーマ（薬学部 3 ポリシー関連等）を扱う場合は、所属別研修として学部で実施する等、SD の内容に応じ、より効果的な企画・実施に努める。以上のように、大阪医科大学、大阪薬科大学で独自に築きあげてきた SD 実施基盤をもとに、大学統合後は、委員会及び事務組織等の連携を実現し、研修機会の一層の充実を目指す。

参考として、大阪薬科大学及び大阪医科大学における SD の実施状況を資料に示す。【資料 29：SD 実施状況一覧】

１５．社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

（１）教育課程内の取組

1 年次の「薬学入門」では薬剤師に関する本質的事柄や薬剤師の使命、「医療人マインド」では本学医学部・看護学部と共同で医療に関わる様々な専門職種の役割・機能について学ばせ、医療人となることの自覚を持たせる。さらに、1 年次の「早期体験学習」では、薬剤師の業務と果たすべき役割について講義の後、薬剤師及び薬学卒業生の活躍する病院薬剤部や保険薬局、製薬企業や特別養護老人ホーム等の医療関連施設における体験型学習を行い、グループ討議を行わせ、入学後の早い時期から薬剤師をはじめとする医療人になるという将来目標を達成するための意欲・意識の向上を図る。

加えて、4 年次の「キャリアデザイン概論」では、薬剤師をはじめとする薬事・薬業関連業種における職種や業務が多様化・細分化へと進む社会背景を踏まえ、自己理解と職業理解を通して自身のキャリアデザインを考え、自立・自律した社会人としての意識・態度を身に付けさせる。【資料 30：授業科目の概要（社会的・職業的自立指導関係）】

また、実務実習事前学習の実施、これを経た 5 年次に病院・薬局での参加型実務実習を実施することをもって、実際の医療現場での幅広い薬剤師業務を実践させ、知識、技能、

態度の修得のみならず、薬剤師として社会において他者と協働し患者と関わるということの理解を修得させる。

（２）教育課程外の取組

大阪薬科大学における就職支援と同等の支援を、設置する薬学部においても引き続き実施する。

＜薬学部薬学科＞

薬学部薬学科における就職支援は、入学時のガイダンスで概略を説明することから始めるが、4 年次後期以降に就活スタートを意識づけるガイダンスや講演会を開催し、就職やキャリアに対する意識を醸成することから本格的に開始する。就職状況一般の説明や薬学生の進路を幅広く解説する講座と共に、社会人と接するための基本的マナーを学ぶ講座など、社会と関わるための基礎的な能力を身につけることにも配慮する。

また、それに続き、学生の希望進路に応じて、様々な講座を開催する。企業を目指す学生に対しては、「志望企業の選び方講座」「SPI 試験対策講座」「企業志望者講座（製薬企業)」「製薬企業での働き方講座（少人数×4 職種)」「インターンシップ面接体験」などを開催することにより、企業でのキャリアを考える機会を提供しつつ、インターンシップへの参加を促してより詳しい情報を収集できるよう支援する。病院を目指す学生に対しては、「病院薬剤部長による講演」「志望病院の探し方」「病院就活方針説明会」、病院薬剤部出身教員による「系統別病院ガイダンス」などの講座を開催する。公務員を目指す学生に対しては、5 年次から「公務員対策講座（全６回)」を開催することで行政における薬剤師の役割やキャリア形成を紹介すると共に公務員試験への対応策について支援する。これらの講座、ガイダンスには低年次学生の参加も可能とし、キャリア形成の基盤とする。

これに加え、年に一度開催する「学内合同説明会」には企業、病院、薬局、官公庁から合わせて 140 以上の団体が一堂に集い、就活生には会社説明会の場としての参加を、また、就活前の学生には会社研究に活用するよう積極的な参加を呼びかけ、毎年大勢の学生が参加するイベントになっている。

＜薬学部薬科学科＞

薬学部薬科学科における就職支援は、薬学科と同様に入学時のガイダンスでの概略説明から始まり、4 年次進級を前に学科配属が決定されると、キャリアサポート課から進路に関する希望を確認する。薬科学科では、合わせて設置する大学院薬学研究科薬科学専攻への進学希望者の割合が大きいが、就職を希望する学生に対しては就活に後れを取らないよう面談を行う。また、3 年次の 2 月に開催される就活スタートガイダンスや講演会への参加を

促し、社会人と接するための基本的マナーを学ぶ講座など、社会と関わるための基礎的な能力を身につけることにも配慮する。

また、その先に学生の希望進路に応じて、様々な講座を開催する。薬学科と同様に「志望企業の選び方」「SPI 試験対策」「企業研究（製薬企業)」などの各種講座や「面接実践トレーニング」などを開催することにより、企業でのキャリアを考える機会を提供しつつ、インターンシップに参加してより詳しい情報を収集できるよう支援する。

学科の隔てなく年に一度開催する「学内合同説明会」にも、薬科学科における就職先となり得る企業、官公庁から合わせて 50 以上の団体が集い、就活生へ会社説明会の場としての積極的な参加を促している。

（３）適切な体制の整備

薬学部に、学生の進路・就職支援に関する事項を審議する「キャリアサポート部委員会」を設置する。委員会は教員及び後述のキャリアサポート課の事務職員により構成され、学生のキャリア形成及び進路・就職を支援する企画の立案、実施全般を担う。

キャリアサポート部委員会は、キャリアサポート課からの進路・就職に関する各種調査やその分析結果、有用な情報をもとに学部学生並びに大学院学生の進路選択に関する支援施策を審議し、決定する。また、学生からの進路相談、進路に関するガイダンスやセミナー、インターンシップ活用の推進にも携わる。

事務組織としては「キャリアサポート課」を設置する。キャリアサポート課は専任職員 4 名と契約職員 1 名が配置されており、専任職員 3 名が国家資格であるキャリアコンサルタントの資格を持ち、学生の個別相談に当たる体制を取っている。

キャリアサポート課は、キャリアサポート部委員会と連携しながら、学部学生並びに大学院学生に対して自分が進むべき進路に関する意識を高めて具体的に検討するための教育セミナーや各種講座を企画・実施すると共に、進路に関する個人相談や面接トレーニングなどの学生支援を実施する。また、進路に関する調査・分析・情報の収集及びキャリアサポート部委員会への提供などを行う。

病院に関する情報や学生の相談には、教員組織である臨床薬学教育研究センターの「臨床実践薬学教育部門」（特任教員として、大規模病院等での薬剤部長等の要職経験者の実務家教員が所属）と緊密な連携を取り対応する。さらに、多国籍企業においては英語での面接が設定されていることもあり、英語を担当する専任教員との連携により、学生の求めに応じて英語での面接の練習を実施している。

学生への情報提供は学生ポータルシステムとキャリアサポート資料室により行う。学生ポータルシステムでは、web による求人情報の検索やメールによる情報提供ができる環境が

整備され、また、キャリアサポート資料室では、求人票だけでなく、会社案内、先輩達の採用試験報告書やその他の情報を提供できる環境を整備している。

１６．学科間の差異・特徴

この度設置する薬学部においては、薬学科と薬科学科を設ける。前述の「薬学部薬学科・薬科学科の目的及び養成する人材像」「学部・学科の特色」に記載するとおり、薬学科については薬剤師の養成が主な目的である。一方、薬科学科については大学院進学と連携した薬学を基盤とする研究者の養成が主な目的である。

この薬科学科は平成 30 年度より学生募集を停止している学科であり、前述の「募集停止中の学科の取扱い」に記載するとおり、この度の大学統合にあたり、学生の権利保証のため、学生募集停止を継続したまま設置する学科である。教育課程については、大阪薬科大学薬学部薬学科の旧教育課程（平成 27 年度から平成 29 年度入学生適用）の 1 年次から 3 年次までを学部共通としており、4 年次の教育課程のみが独自のものとなる。4 年次では、薬科学科としての独自の授業科目である「バイオインフォマティクス」「分子設計学」等を配置するとともに、卒業研究である「特別演習・実習（前期）」「特別演習・実習（後期）」を配置する。なお、薬剤師養成教育に係る授業科目は配置せず、卒業研究に注力することができるようにしている。

薬科学科の教育課程の編成の概要はこのような内容であるが、この度設置する薬学科の教育課程（令和 3 年度以降入学生適用）と大阪薬科大学薬学部薬学科の旧教育課程（平成 27 年度から平成 29 年度入学生適用）は教育課程の編成に係る基本的な考えは同じものの、全く同一ではないため、薬科学科の教育課程との差異を単純に抽出して対比させることはできない。

ついては、この度設置する薬科学科と大阪薬科大学薬学部薬学科（平成 27 年度から平成 29 年度入学生適用）の教育課程を対比させた資料を添付するので、こちらから参照願いたい。【資料 31：学科間の教育課程の差異について】

１７．実務の経験を有する教員の配置に関する考え方・計画

建学の精神、大学の理念、薬学部の目的に定めている通り、薬学部では臨床現場で活躍できる医療人の育成を目指している。臨床現場における実践力を学生が修得するために、実務家教員 10 名が配置される臨床薬学教育研究センターを設置している。この臨床薬学教育研究センターに所属する実務家教員 10 名が中心となり、関連委員会（早期体験学習委員

会、実務実習等専門委員会、実務実習実施部会等）による教育・研究活動を推進し、また、実務家教員以外の教員においても、適宜役割に応じ薬学臨床教育に参画している。

以上の考え方を大学統合後も踏襲し、実務家教員を中心とした臨床教育の実践を継続実施する計画としている。なお、前述の「教員組織編成の特色」にて記載するとおり、当該実務家教員の多くは、臨床能力の維持、臨床教育・研究の推進のため週次で医療施設に派遣しており、大学統合後も引き続き派遣することとしている。

１８．長期実務実習の具体的計画

（１）実習計画の概要

近畿地区の薬学実務実習は、上記「10.実習の具体的計画」で示したとおり、一般社団法人薬学教育協議会病院・薬局実務実習近畿地区調整機構の下で体制が整備されている。「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成 25 年度改訂版）」に準拠する実務実習については、「薬学実務実習に関するガイドライン」が示されており、ガイドラインに沿った実施体制の整備、学習方略の検討、大学と病院・薬局間の連携がなされている。設置する薬学部では、調整機構の調整の下、現在の大阪薬科大学で行われてきた実施体制を踏襲して実務実習を実施する。

①実習のねらい

薬局実務実習では、薬局の社会的役割と責任を理解し、地域医療に参画できるようになるために、保険調剤、医薬品などの供給・管理、情報提供、健康相談、医療機関や地域とのかかわりについての基本的な知識、技能、態度を修得する。

病院実務実習では、病院薬剤師の業務と責任を理解し、チーム医療に参画できるようになるために、調剤及び製剤、服薬指導などの薬剤師業務に関する基本的知識、技能、態度を修得する。

②実習単位

実務実習で修得できる単位は、薬局実務実習 10 単位、病院実務実習 10 単位の計 20 単位とする。実習時間は、調整機構が定めているとおり、薬局実務実習及び病院実務実習の各期間を 11 週間とし、1 日を 7.5 時間（90 分×5 コマ）、1 週間 5 日間を標準としている。

③主な内容

実務実習は、「薬学実務実習に関するガイドライン」に沿って行うこととし、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に定められている SBOs について行う。

④実習施設

近畿地区の薬学実務実習は、調整機構が実習受入施設を調整している。実習施設として登録するための条件は、指導薬剤師が確保され、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に定められているSBOsに基づく実習内容を実施できることである。

ちなみに平成31年度実務実習に向け調整機構から提示のあった近畿地区での延べ実習受入人数は2,790名余りに上り、近畿地区14大学の薬学部入学定員（2,459名）を上回る状況であった。このため、近畿地区出身の学生のみならず他地域からの出身者の実習に関しても受入に支障は無い。

また、他地域からの出身者のうち、出身地の地域医療に貢献したいという強い意志を持つものに関しては、調整機構を通じ、出身地域の調整機構に依頼し、実習施設を確保している。

⑤実習時期

「薬学実務実習に関するガイドライン」及び連絡会議で示された通り、1年を4期に分け、連続した2期に薬局実習と病院実習の順で、5年次（実際は4年次の2月から開始し、5年次の3月で終了）に履修する。大阪薬科大学において平成31年度に実施した実習スケジュールを資料として添付するが、大学統合後も同様のスケジュールに基づき実施するものとする。【資料32：実務実習年間スケジュール】

⑥学生の配置

通学距離等を考慮し、調整機構の調整結果に基づき、1病院につき1期1名～2名程度（大規模病院の場合は1期10名～12名程度）、1薬局につき1期1名～2名程度を配置する。

⑦委員会の設置

設置する薬学部には、薬学実務実習を統括する実務実習等専門委員会の下に、実務実習実施部会を置き、本部会において以下の事項を審議し、薬学実務実習の円滑な実施に当たる。【資料12：実務実習　実施・指導・連携体制図】【資料13：大阪医科薬科大学薬学部　実務実習等専門委員会規程】

- 実習受入れ施設の調整と決定
- 実習前準備（抗体検査・予防接種、各種保険への加入、報告・連絡システムの整備、学生へのオリエンテーションなど）
- 評価（修得度）表及び日報の書式作成
- 訪問指導の準備（指導要領作成とその訪問指導担任教員への周知徹底、スケジュール調整等）
- 訪問指導
- 訪問指導担任教員からの報告の収集と定期的（緊急時はその都度の）検討と対応
- 指導薬剤師及び訪問指導担任教員からの実習に係わる種々の要望及び相談への対応
- 学生配属研究室の主任教員からの報告の収集及び対応要請

・定期的実習評価と単位認定
・成績不良者への対応
・指導薬剤師との総合懇談会の定期的開催
・実習期間中の学生に対する就職活動支援
・実習成果のまとめ（報告集作成、報告会の開催など）
・緊急時（病気、事故、災害、人的トラブル、その他ドロップアウトなど）への即時対応

⑧学生へのオリエンテーションの内容、方法（事前指導）

学生へは、4 年次に実務実習の全体ガイダンスを実施し、意義、目標、実習概要、実習スケジュールなどを説明する。【資料 19：令和元年度　実務実習ガイダンス資料】

また、実務実習直前の指導として、薬学実務実習での大学と施設の連携・学生指導を担う特任教員（教授：大規模病院等での薬剤部長等の要職経験者の実務家教員）と学生との個別面談を行い、実際の実習施設の概要、実習スケジュール、施設からの連絡事項、その他注意事項などを確認する。

⑨実習までの抗体検査、予防接種及び傷害保険、損害賠償責任保険などの対策

薬学実務実習は臨床現場での実習であることから、実務実習学生、患者及び他の医療関係職の安全確保の面から、感染症予防への対応が求められ、学生へは臨床導入学習や実務実習に関するガイダンスを通じ、健康診断・ワクチン接種の意義を説明し、必要な予防接種の対応について事前指導を行う。

薬学教育協議会が公表している「病院における長期実務実習に対する基本的な考え方」「6 年制薬局実習の受入薬局に対する基本的な考え方」に基づき、毎年 4 月に定期健康診断を実施する。4 年次には定期健康診断と合わせて、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘及び B 型肝炎の抗体検査を行う。その結果、抗体価が十分でない学生には、日本環境感染学会が公表している「医療関係者のためのワクチンガイドライン 第 2 版」を参考にワクチンを接種するよう指導し、指導後のワクチン接種の有無を確認する。実務実習学生の抗体検査の結果は、実務実習施設に提示する。

また、学生自身の傷害に対応するために公益財団法人日本国際教育支援協会が提供する「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」に全学生を対象に大学として加入する他、実習中に実習施設へ損害を与えた場合の補償のため「学研災付帯賠償責任保険」にも同様に加入する。さらに、学研災で対応できない感染症に罹患した際の対応として、薬学実務実習災害補償規程を定め、補償に対応すべく大学として約定履行保険に加入する。

（２）実習指導体制と方法

①巡回指導計画

近畿 2 府 4 県を、大阪府北部、大阪府南部・奈良・和歌山、京滋、兵庫と大まかに 4 つのエリアに分け､それぞれのエリアに特任教員 1～2 名を各エリア担当教員として割り当て、学生の実習状況などの学習面と生活面を支援する。

実務実習期間中、特任教員は実習施設に常駐するのではなく、各施設での実務実習の指導は施設の指導薬剤師が行う。特任教員は学生が記録した日誌・週報を「実務実習指導・管理システム」で確認し巡回指導を行うとともに、実習施設毎の指導薬剤師と連携をとり必要な指導を行う。

特任教員による実習施設の巡回スケジュール及び回数は、実務実習開始前と実習開始後 1 ヶ月内、及び終了 1 ヶ月前を目安に計 3 回、それぞれ施設を訪問することとする。

②実習計画全体が掌握できる年間スケジュール表及び各班のスケジュール表

調整機構と協議の上、策定した年間スケジュールを示す。【資料 32：実務実習年間スケジュール】

③各段階における学生へのフィードバック、アドバイスの方法等

学生による実習の日々の記録は、富士ゼロックスシステムサービス株式会社の提供する「実務実習指導・管理システム」を利用し、オンライン上で日誌・週報の作成と SBOs の達成状況等を記載する。特任教員及び研究室の指導教員はオンライン上で担当する学生の実習日誌・週報、進捗状況を把握し、必要に応じて指導薬剤師に実習状況を確認している。

学生に対しては、指導薬剤師から日々の指導の中でフィードバックやアドバイスを行う他、特任教員よりシステム上のメッセージ機能やその他の連絡手段により指導を行う。また、実習開始後の巡回指導の際に面談する他、指導薬剤師とともに実習の進捗状況の確認を行う。

④学生の実習中、実習後のレポート作成・提出等

実習中は、「実務実習指導・管理システム」を利用して、オンライン上で日誌・週報を作成する。

実習後は、実務実習終了後に実習施設の概要、実習内容を記載した「実務実習報告書」と実習中に作成した資料（パワーポイント資料）及び到達度確認のために「実務実習指導・管理システム」から出力した進捗レポートを提出し、特任教員の最終的な内容の確認を受ける。

（３）施設との連携体制と方法

①施設との連携の具体的方法、内容

薬学実務実習期間中は､5 名の特任教員が主となって学生を支援するとともに実習施設との連携を図る。継続して実習施設とかかわることが、実習施設との円滑な連携を図るため

重要であると考え、教員の担当施設及び担当地区はできる限り固定し、年度によって変わることのないよう可能な限り配慮する。

また施設との連絡を密にするため、事前訪問の際に「実務実習指導・管理システム」のメッセージ機能の利用について確認をとり、特任教員だけでなく研究室の指導教員とも連絡が取れることを周知する。学生は、このシステムを利用して、オンライン上で日誌・週報の作成と SBOs の達成状況を記載する。特任教員や研究室の指導教員は、担当する学生の実習日誌・週報、進捗状況をオンライン上で把握し、必要に応じて指導薬剤師に実習状況を確認する。

さらに年度末には学生による報告会（ポスター発表形式）を開催し、併せて特任教員と指導薬剤師との懇談・振り返りの場を設け、実習教育・指導における連携を図る。

②相互の指導者の連絡会議設置の予定等

「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成 25 年度改訂版）」に移行後、病院と薬局のグループ化を図り、実習開始前に特任教員と指導薬剤師が協議会を開催し、実習内容が薬局ー病院といった連続したものとなるよう、また、実習内容が SBOs を充たすことを確認し、加えて、実習終了時には振り返りの会合を開催することで連携を深めている。

③大学と実習施設との緊急連絡体制

実習施設との連絡は、通常は「実務実習指導・管理システム」のメッセージ機能を利用することとし、特任教員だけでなく研究室の指導教員とも連絡が取り合える体制としている。さらに、特任教員には携帯電話（スマートフォン）を貸与し、緊急時には施設や学生と相互に連絡できるよう体制を整えている。

④各施設での指導者の配置状況

前述のとおり、実習施設には指導薬剤師が確保されている。

⑤実習前、実習中、実習後等における施設との調整・連携等

実習開始前は、特任教員が実習施設訪問時に、学生の提出したプロフィールに基づき指導上必要な情報を指導薬剤師に伝える等、必要な調整・連繋を行う。

実習期間中は、特任教員が巡回指導を行うとともに「実務実習指導・管理システム」等を利用し、実習施設との連携を図る。

年度の実習終了後も特任教員の担当施設及び担当地区は可能な限り固定するよう配慮し、継続して実習施設と関わることで、実務実習における実習施設との円滑な連携を図ることとする。

（４）単位認定等評価方法

①各施設での学生の評価方法

各施設の指導薬剤師が「実習態度」と「実習内容の修得度」について、それぞれ 5 項目、25 項目について 5 段階評価を行う。さらに実習指導者の「概評」が加えられる。これらの評価項目は調整機構により統一されたものである。

②各施設の指導者と大学側の指導者との評価における連携方法

前述のような施設の指導者による実習の評価の結果は、特任教員が訪問、巡回時に逐一点検し、当該指導者と協議の上、学生への面接を行う。この際、必要に応じて引続き行われる実習について、指導や助言を行うこととする。実習終了後は、施設の指導者による評価の結果は、特任教員による確認を経て、実務実習実施部会で審議し、最終評価とする。

③大学における単位認定方法

実務実習の成績評価は、「薬学実務実習に関するガイドライン」に従い、学習成果基盤型教育（OBE）の考え方に基づき、「薬学臨床」の中項目 GIO（5 項目）の到達度を指標とした評価とする。

到達度の指標については、平成 27 年 2 月 10 日に薬学実務実習に関する連絡会議より示された「薬学実務実習に関するガイドライン」に基づき、平成 28 年 11 月 30 日に同会議から「薬学実務実習の評価の観点について(例示)」が示され、さらに平成 30 年 2 月 28 日にはこれに一部改訂がなされた。

これらに従い、成績評価・単位認定はシラバス記載のとおりとしている。

これまでは、本学教員の評価 50%、指導薬剤師の評価 50%として総合評価を行うこととしていたが、目標達成度に重点を置き大学が主体的に評価を行うという観点から、以降、実務実習記録による評価 50%、学生との懇談内容 10%、指導薬剤師による評価 30%、学生のルーブリック 10%という割合で、総合評価を行う。【資料 22：病院実務実習シラバス・薬局実務実習シラバス】【資料 23：実務実習　ルーブリック】

１９．教育課程と指定規則等との対比表

「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成 25 年度改訂版)」の一般目標（GIO）及びそれを達成するための到達目標（SBO）と設置する薬学部薬学科の教育課程との対比について、「教育課程と指定規則等との対比表」に示す。

なお、設置する薬学部薬学科における実務実習は改訂モデル・コアカリキュラムに準拠して実施することとなるため、設置する薬学部薬学科の実習科目と改訂モデル・コアカリキュラムの到達目標、実施施設（病院・薬局）の対応関係については【F 薬学臨床】において示している。【資料 33：教育課程と指定規則等との対比表】

２０．転入学する学生への措置について

（１）学生、保護者、入学志願者及び関係組織等の周知方法

令和 3 年度に大阪医科大学（大阪医科薬科大学へ名称変更申請予定）に薬学部及び大学院薬学研究科を設置（薬学部及び薬学研究科各専攻課程の各年次の同時開設）し、現在の大阪薬科大学及び同大学院薬学研究科を廃止することから、現在の大阪薬科大学及び同大学院薬学研究科に在籍する学生を設置する薬学部及び大学院薬学研究科に転入学させる計画については、学生、保護者に十分に周知・説明している。

転入学する学生に対しては、事前に学生掲示板及びポータルサイトにて周知したうえで、令和元年 6 月 18 日～20 日開催の大学統合説明会において、転学に係る経緯及び今後の予定を周知し、同意を得た上で「転学承諾書」を取得している。

学生の保護者に対しては、令和元年 5 月 28 日に大学統合に関する説明文「大阪薬科大学と大阪医科大学との大学統合計画について」を郵送し、さらに令和元年 6 月 15 日、22 日に大学統合説明会を開催した。また、令和元年 9 月から 10 月にかけて実施した父母懇談会において、大学統合の進捗状況などを随時説明し、理解を得ている。

大阪薬科大学の志願者に対しては、平成 31 年度のオープンキャンパスにて大学統合に関する説明リーフレットを配布し、入試担当職員による近畿地区及び西日本地域を中心とした高等学校訪問の際にも同リーフレットを配布し、説明を行っている。また、令和 2 年度の大学案内（志願者向けパンフレット）においても、大学統合の計画を記載した頁を設けるなど、統合計画を広く周知している。

令和 2 年度の大阪薬科大学の入学予定者に対しては、入学手続き案内において、大学統合の計画と入学後に設置する薬学部又は大学院薬学研究科に転学することとなる旨を十分に説明し、これらの了承のもと、入学手続きを行うこととしている。

現在の大阪薬科大学の外郭団体である大阪薬科大学同窓会や教育研究等で関連のある大阪府薬剤師会及び大阪府病院薬剤師会をはじめとする近畿地区の各都道府県薬剤師会及び病院薬剤師会、所在する高槻市薬剤師会及び一般社団法人薬学教育協議会病院・薬局実務実習近畿地区調整機構に対しては、大学統合計画の主旨について説明を行い、賛同を得ている。

（２）転学に伴う教育方法の担保

設置する薬学部薬学科・薬科学科を開設する令和 3 年 4 月 1 日に大阪薬科大学から転学する学生に対しては、教育の質を担保するため、大阪薬科大学の入学年度の教育課程や履修に関する事項を継続して適用する。

この対応にあたっては、学則の附則に「薬学部規程に定めることとする取扱いのうち、学則の第 3 章及び第 5 章に関する事項の令和 3 年 4 月 1 日に大阪薬科大学から薬学部に転入学した学生への適用については、薬学部規程細則に大阪薬科大学の入学年度に応じた個別の取扱いを定める。」と明示し、これと連動させ、薬学部規程の附則に「第 3 条、第 7 条、第 9 条から第 14 条、第 17 条、第 18 条及び第 20 条に定める事項については、大阪薬科大学の入学年度に応じた薬学部規程細則に個別の取扱いを定める。」と明示することにより、転学する学生に適用する異なる取扱いの所在を明確なものとする。

これらの学則及び薬学部規程の附則の定めを受け、薬学部規程細則を入学年度に応じて区分して作成し、これらの入学年度に応じた薬学部規程細則において、転学する学生に適用する教育課程や履修に関する事項を明示することより、当該転学する学生が卒業するまでの間、確実に教育方法を担保していく。【資料 34：大阪医科薬科大学薬学部規程細則】

その他、修学のための履修指導の方法、健康管理、ハラスメント対策及び障がい者への支援、就職活動支援等、大阪薬科大学において提供してきた学生生活支援サービスはその質や内容を落とすことなく継続し、学生の安心・安全対策への配慮も適切に行う。

以上の通り、転入学する学生への教育条件の維持並びに学生支援等については万全を期すこととする。

設置の趣旨等を記載した書類(薬学部)　資料目次

【資料 1】　薬学部　学修成果評価の方針（アセスメント・ポリシー）

【資料 2】　薬学科カリキュラムマップ

【資料 3】　薬科学科カリキュラムマップ

【資料 4】　設置時からの教育課程の変更状況

【資料 5】　大阪医科薬科大学薬学部　定年退職規則

【資料 6】　大阪医科薬科大学薬学部　定年退職者の再任用に関する特例内規

【資料 7】　大阪医科薬科大学薬学部　単位互換実施に関する規程

【資料 8】　薬学科履修モデル

【資料 9】　薬科学科履修モデル

【資料 10】　実習科目に係る主な機械・器具等一覧

【資料 11】　薬学科授業時間割モデル

【資料 12】　実務実習　実施・指導・連携体制図

【資料 13】　大阪医科薬科大学薬学部　実務実習等専門委員会規程

【資料 14】　薬学部学生の病院実習に関する契約書

【資料 15】　薬学部学生の薬局実習に関する契約書

【資料 16】　病院・薬局等における実習等の誠実な履行ならびに個人情報等および病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する説明文書

【資料 17】　病院・薬局等における実習等の誠実な履行ならびに個人情報等および病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する誓約書

【資料 18】　実務実習スケジュール

【資料 19】　令和元年度　実務実習ガイダンス資料

【資料 20】　授業科目の概要（実務実習事前学習）

【資料 21】　薬学実務実習における教員配置計画

【資料 22】　病院実務実習シラバス・薬局実務実習シラバス

【資料 23】　実務実習　ルーブリック

【資料 24】　大阪医科薬科大学薬学部／大学院薬学研究科　自己点検・評価委員会規程

【資料 25】　大阪医科薬科大学薬学部／大学院薬学研究科　FD 委員会規程

【資料 26】　FD 実施状況一覧

【資料 27】　学校法人大阪医科薬科大学　職員研修に関する基本方針

【資料 28】　大阪薬科大学 SD 基本計画

【資料 29】　SD 実施状況一覧

【資料 30】　授業科目の概要（社会的・職業的自立指導関係）

【資料 31】　学科間の教育課程の差異について

【資料 32】　実務実習年間スケジュール

【資料 33】　教育課程と指定規則等との対比表

【資料 34】　大阪医科薬科大学薬学部規程細則

薬学部　学修成果評価の方針（アセスメント・ポリシー）

薬学部では、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針を踏まえ、学修成果を把握し評価するための方針を以下のとおり定めます。評価は、教育課程レベル及び科目レベルごとに行います。

【評価の目的】

学修成果を可視化することにより、学修支援及び教育課程の改善等を恒常的に行います。
- 学位授与の方針に掲げられている資質と能力の修得状況を把握するために、評価を実施します（教育課程レベルにおける学修成果の可視化）。
- 各科目において示された学習目標の達成状況を把握するために、評価を実施します（科目レベルにおける学修成果の可視化）。

【達成すべき質的水準及び評価の実施方法】

教育課程レベル

	入学時	在学中	卒業時
達成すべき質的水準	**入学者受入れの方針を満たす人材かどうか** ※入学後に円滑に学修することに懸念がある水準の場合は、対策を行います。	**教育課程編成・実施の方針に則って学修が進められているかどうか** ※特に４年次終了時点では、病院・薬局での実務実習に参加できるだけの資質と能力を有しているかどうかを確認します。	**学位授与の方針に掲げる資質と能力を有しているかどうか**
評価の実施方法	**・入学試験** ※入学の判定に使用します。 **・新入生学力テスト** **・ＰＲＯＧテスト（入学時）** ※入学後の学修支援に使用します。	**・単位修得状況** **・薬学共用試験（４年次）** ※進級の判定に使用します。 **・ＧＰＡ** **・標準年限進級率** **・ＰＲＯＧテスト（４年次）** **・授業、実習に対する学生アンケート** ※在学中の学修支援、授業及び教育課程の改善に使用します。	**・単位修得状況** **・卒業研究への評価（卒業論文発表会の際に、評価シートを用いて評価）** ※学位授与の判定に使用します。 **・標準年限卒業率** **・就職及び進学状況** **・国家試験合格率** **・卒業時に実施する学生へのアンケート調査** **・卒業後に実施する卒業生及び就職先へのアンケート調査** ※教育課程の改善に使用します。

※別途、教育課程全体としての学修成果を把握し評価するための指標により、総合的な評価を実施します。

科目レベル

達成すべき質的水準	**教育課程編成・実施の方針に則って学修が進められているかどうか** ※各科目で修得すべき資質や能力（到達目標）はシラバスに記載します。
評価の実施方法	**・定期試験** **・授業内で実施する演習試験** **・レポート** **・実技、プレゼンテーションの評価** ※単位認定に使用します。 ※学則及び授業科目の履修要項の規定により評価します。評価結果は学業成績通知書に記載し、本人、保証人、アドバイザーに通知します。 ※上記の方法を組み合わせて、授業形態等に適した方法により総合的に評価を実施します。具体的な評価の方法や寄与率はシラバスに記載しますが、講義科目は筆記試験やレポート等により、知識及び思考力等を中心に評価します。演習、実習科目は、プレゼンテーション、実技等により、技能や態度を中心に評価します。また、必要に応じてルーブリック評価表を使用します。 **・ＧＰＡ** **・授業評価アンケート** ※授業内容の改善に使用します。

薬学部薬学科カリキュラムマップ （2021年度以降学生）

▲:選択必修科目　◯選択科目

カリキュラム・ポリシー	系		科目区分	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	5年次 前期	5年次 後期	6年次 前期	6年次 後期	ディプロマ・ポリシー
基礎教育 **ヒューマニズム教育** 薬学を学ぶ上での基礎学力の養成と医療人に相応しい倫理観と社会性、及びコミュニケーション能力の基本を身に付けます。	教育系	人と文化	基礎教育科目	◯＜教養科目＞ 前期:「文学の世界」「歴史と社会」「地球環境論」「政治と社会」「基礎心理学」「法と社会」「経済の世界」「数理論理学」 後期:「社会分析の基礎」「人間と宗教」「文化人類学」「倫理と社会」「コーチング論」「スポーツ・運動2」「情報科学」 各1科目1単位											医療人として相応しい倫理観と社会性を身につけていること
		人の行動と心理														
		情報リテラシー		情報科学演習 1												
		プレゼンテーション		アカデミックスキル 1												
		―		身体運動科学 1												
				スポーツ・運動1 1												
		物理		物理学1 1	物理学2 1											薬の専門家として必要な幅広い科学的知識を有していること
		化学		化学 2												
		生物		生物学 1												
		数学・統計学		数学1 2	数学2 1		数理統計学 2									
	薬学と社会		基礎教育科目				医療心理学 1			コミュニケーション 1						薬剤師として医療に関わるための基本的知識・技能・態度を有していること
										キャリアデザイン概論 1						
			基礎薬学科目	薬学入門 1		◯医工薬連環科学 2										薬の専門家に必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有していること
			医療薬学科目	医療人マインド 1			◯専門職連携医療論 1	生命医療倫理 1	医療と法 1		◯医療政策論 1			◯多職種融合(連携)ゼミ 1		
				早期体験学習 1												
語学教育 国際化に対応し得る語学力を養う。	教育系	英語	基礎教育科目	英語リスニング1 1	英語リスニング2 1	英語スピーキング1 1	英語スピーキング2 1	異文化言語演習1 1	異文化言語演習2 1							国際化に対応できる基礎的な語学力を有していること
				英語リーディング1 1	英語リーディング2 1	英語ライティング1 1	英語ライティング2 1									
			応用薬学科目							薬学英語 1	※学術論文講読(特別演習・実習の一環として実施)					
		―	基礎教育科目	▲ドイツ語1 ▲中国語1 1 ▲ハングル1	▲ドイツ語2 ▲中国語2 1 ▲ハングル2											
実習科目 講義で得た知識に基づいて、研究活動に必要な技能・態度を身に付けます。さらに、問題発見・解決能力を醸成するために、4年次から研究室に所属し卒業研究を行います。	物理系		基礎薬学科目		物理化学1 1	物理化学2 1	物理化学3 1	放射化学 1								薬の専門家として必要な幅広い科学的知識を有していること
					分析化学1 1	分析化学2 2										
						生物無機化学 1										
			応用薬学科目					応用分析学 1	◯応用放射化学 1	◯生物物理化学 1						
			実習科目			分析化学実習 1	物理化学実習 1									
	有機系		基礎薬学科目	基礎有機化学 1	有機化学1 2	有機化学2 2	有機化学3 1	有機化学4 2								
							有機スペクトル学演習 1									
			応用薬学科目	薬用植物学 1	薬用天然物化学 2	生薬学 1			医薬品化学1 2	医薬品化学2 1						
									◯精密有機合成化学 1							
			実習科目		基礎有機化学実習 1		漢方・生薬学実習 1	有機化学実習 1								
	生物系		基礎薬学科目		基礎細胞生物学 2	生化学2 2	分子生物学 2									
					生化学1 2	微生物学 2		免疫学 2								
			応用薬学科目				衛生薬学1 2	分子細胞生物学 2	病原微生物学 1	◯先端分子医科学 1						
								衛生薬学2 2	衛生薬学3 2							
			実習科目			生物学実習 1		生物科学実習 1	衛生薬学・放射化学実習 1							
	医療系		基礎薬学科目		機能形態学1 2	機能形態学2 2										薬学・医療の進歩と改善に役立てる研究を遂行する意欲と科学的根拠・研究に基づく問題発見・解決能力を有していること
			応用薬学科目				基礎漢方薬学 2	物理薬剤学 2								
			医療薬学科目		医療薬学導入学習 1		生物薬剤学1 1	生物薬剤学2 1	薬物速度論 2	臨床感染症学 2	◯アドバンスト薬物治療学 1			◯漢方医学概論 1		薬剤師として医療に関わるための基本的知識・技能・態度を有していること
						薬理学1 2	薬理学2 2	薬理学3 2	製剤設計学 2	薬物治療学5 2				◯アドバンスト薬理学 1		
						薬物治療学1 2	薬物治療学2 2	薬物治療学3 2	薬理学4 2	◯医薬品安全性学 1						チーム医療や薬物療法に必要な専門的知識・技能・態度を有していること
									薬物治療学4 2							
									◯臨床化学 1							
			実習科目						薬理学実習 1							
									薬剤学実習 1							
	薬学臨床系		応用薬学科目								医療統計学 1	病院実務実習 10				薬の専門家に必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有していること 地域における必要な情報を適切に発信し、人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有していること 薬学・医療の進歩に対応するために自己研鑽し、次なる人材を育成する意欲と態度を有していること
			医療薬学科目					臨床薬学概論 1	医薬品情報学 1	個別化医療 1	コミュニティファーマシー 1	薬局実務実習 10				
										臨床導入学習1 3	臨床導入学習2 1					
										臨床薬物動態学 1						
			実習科目													
	薬学と社会		医療薬学科目							薬事関連法・制度 2						
										社会保障論 1						
	総合		医療薬学科目								薬学基礎演習 1			薬学総合演習 3		
														統合薬学演習 2		
	総合		実習科目							特別演習・実習 14						

薬学部薬科学科カリキュラムマップ

▲:選択必修科目　○選択科目

カリキュラム・ポリシー	科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		ディプロマ・ポリシー
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎教育 **ヒューマニズム教育** 薬学を学ぶ上での基礎学力の養成と医療人に相応しい倫理観と社会性、及びコミュニケーション能力の基本を身に付けます。	基礎教育科目	○＜教養科目＞ 前期:「文学の世界」「歴史と社会」「地球環境論」「政治と社会」「基礎心理学」「法と社会」「経済の世界」「社会分析の基礎」 後期:「人間と宗教」「文化人類学」「倫理と社会」「コーチング論」「スポーツ・運動実習2」「数理論理学」 各1科目1単位								医療に関わるために必要な倫理性と社会性を身に付けていること 研究者に必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有していること
		情報科学演習 1	○情報科学 1							
		身体運動科学 1								
		スポーツ・運動実習1 1								
		物理学1 1	物理学2 1							
		化学 1								
		化学演習 1								
		数学1 1	数学2 1	数理統計学 1.5						
				○医工薬連環科学 1.5	心理社会 1.5	コミュニケーション 1.5	医療と法 1			
	基礎薬学科目	薬学入門 1								
	医療薬学科目	早期体験学習1 1								
語学教育 国際化に対応し得る語学力を養う。	基礎教育科目	英語リスニング1 1	英語リスニング2 1	英語スピーキング1 1	英語スピーキング2 1	異文化言語演習1 1	異文化言語演習2 1			国際化に対応できる基礎的な語学力を有していること
		英語リーディング1 1	英語リーディング2 1	英語ライティング1 1	英語ライティング2 1					
		▲ドイツ語1 ▲フランス語1 ▲中国語1 ▲ハングル1 1	▲ドイツ語2 ▲フランス語2 ▲中国語2 ▲ハングル2 1							
薬学専門教育 薬学の基礎知識及び薬の物性と構造、反応などの知識について体系的に修得します。	基礎教育科目	基礎有機化学 1								創薬研究などに必要な基礎的知識と技能・態度を有していること 科学的な課題を探求し、解決する能力を有していること 研究者に必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有していること
		生物学 1								
	基礎薬学科目		物理化学1 1.5	物理化学2 1.5	物理化学3 1.5	放射化学 1.5				
			分析化学1 1.5	分析化学2 1.5						
				生物無機化学 1.5						
			有機化学1 1.5	有機化学2 1.5	有機化学3 1.5	有機化学4 1.5				
					有機スペクトル解析学 1.5					
			基礎細胞生物学 1.5	生化学2 1.5	生化学3 1.5					
			生化学1 1.5	微生物学 1.5			免疫学 1.5			
			機能形態学1 1.5	機能形態学2 1.5						
	応用薬学科目					応用分析学 1.5	○応用放射化学 1	分子設計学 1.5		
						物理薬剤学 1.5		○生物物理化学 1.5		
			生薬学 1.5	基礎漢方薬学 1.5	薬用天然物化学1 1.5	薬用天然物化学2 1.5	合成化学 1.5	○薬品合成化学 1.5		
								○医薬品化学 1.5		
					衛生薬学1 1.5	衛生薬学2 1.5	衛生薬学4 1.5			
						衛生薬学3 1.5				
					病原微生物学 1.5	分子細胞生物学 1.5		バイオインフォマティクス 1.5		
						ゲノム医科学 1.5				
							医療統計学 1			
	医療薬学科目	人体の構造と病態1 1.5	人体の構造と病態2 1.5		生物薬剤学1 1.5	生物薬剤学2 1.5	薬物動態解析学 1.5			
			早期体験学習2 0.5		薬理学1 1.5	薬理学2 1.5	薬理学3 1.5	○薬理学4 1.5		
				薬物治療学1 1.5	薬物治療学2 1.5	薬物治療学3 1.5	薬物治療学4 1.5			
							病態生化学 1.5			
							製剤学 1.5			
							医薬品情報学 0.5			
実習科目 講義で得た知識に基づき、研究活動に必要な技能・態度を身に付けます。さらに、問題発見・解決能力及びプレゼンテーション能力を醸成するために、研究室に所属し卒業研究を行います。	実習科目			分析化学実習 1	物理・放射化学実習 1					
		基礎薬学実習 0.5	基礎有機化学実習 1		漢方・生薬学実習 0.5	有機化学実習 1				
				生物学実習 1		生物科学実習 1	衛生薬学実習 1			
							薬理学実習 1			
							薬剤学実習 1			
								特別演習・実習(前期) 5	特別演習・実習(後期) 6	

設置時からの教育課程の変更状況（薬学部）

【 設置時（平成１８年４月） 】

（薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	単位数 必修	選択	自由
基礎教育科目	人間と文化４c(人間と文学)		1	
	人間と文化４d(人間と都市)		1	
	人間と文化４a(人間と宗教)		1	
	人間と文化４b(女性学)		1	
	人間と文化４e(ドイツ語・フランス語)		1	
	情報科学		1	
	情報科学演習	1		
	健康科学	1		
	健康科学演習	1		
	基礎物理学１	1		
	基礎物理学２	1		
	熱統計物理学	1		
	化学	1		
	化学演習	1		
	基礎細胞生物学１	1		
	基礎細胞生物学２	1		
	数学１	1		
	数学２	1		
	数理統計学	1		
	英語１	1		
	英語２	1		
	英語３	1		
	英語４	1		
選択必修科目	ドイツ語１		1	
	ドイツ語２		1	
	ドイツ語３		1	
	ドイツ語４		1	
	フランス語１		1	
	フランス語２		1	
	フランス語３		1	
	フランス語４		1	
	異文化言語演習１	1		
	異文化言語演習２	1		
	人間と文化１b(人間と心理)		1	
	人間と文化１c(人間と社会)		1	
	人間と文化２	1		
	人間と文化１d(人間とコミュニケーション)		1	
	人間と文化３	1		
	人間と文化１a(人間と法)		1	
	小計（39科目）	21	18	0
基礎薬学科目	薬学概論	0.5		
	物理化学１	1		
	物理化学２	1		
	物性化学	1		
	放射化学	1		
	分析化学	1		
	機器分析学	1		
	生物無機化学	1		
	基礎有機化学	1		
	有機化学１	1		
	有機化学２	1		
	有機化学３	1		
	有機化学４	1		
	有機スペクトル解析学	1		
	生化学１	1		
	生化学２	1		
	生化学３	1		
	生化学４	1		
	微生物学	1		
	免疫学	1		
	機能形態学１	1		
	機能形態学２	1		
	薬用植物学	1		
	有機化学演習	1		
	物理化学演習	1		
	分析化学演習	1		
	小計（26科目）	25.5	0	0
応用薬学科目	薬学英語１	1.5		
	薬学英語２	1.5		
	応用分析学	1.5		
	応用放射化学		1	
	生物物理化学		1	
	生薬学１	1.5		
	薬用天然物化学	1.5		
	医薬品化学１	1.5		
	医薬品化学２		1	
	薬品合成化学１	1.5		
	薬品合成化学２		1	
	衛生薬学１	1.5		
	衛生薬学２	1.5		
	衛生薬学３	1.5		
	衛生薬学４	1.5		
	衛生薬学５	1.5		
	分子細胞生物学	1.5		
	応用分子生物学	1.5		
	病原微生物学	1.5		
	蛋白質機能学		1	
	分子免疫学		1	
	実験動物科学		1	
	生薬学２	1.5		
	基礎薬剤学	1.5		
	生物統計学演習	0.5		
	薬局方総論	1.5		
	薬事関連法・制度１	0.5		
	薬事関連法・制度２	1		
	薬学総合演習	3		
	小計（29科目）	32	7	0

【平成２５年４月】

（薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	単位数 必修	選択	自由	変更内容
基礎教育科目	人間と文化１(人間と文学・芸術)		1		名称変更
	人間と文化２(人間と歴史)		1		新設
	人間と文化６(人間と地球環境)		1		名称変更
	人間と文化８(人間と政治)		1		新設
	人間と文化３(人間と宗教)		1		名称変更
	人間と文化４(文化人類学)		1		新設
	人間と文化５(人間と生命)		1		新設
	人間と文化７(人間と言語)		1		名称変更
	健康科学演習２			0.5	新設
	情報科学		1.5		単位数変更
	情報科学演習	1			
	医療総合人間学２　医療と健康	1.5			名称・単位数変更
	健康科学演習１	1			名称変更
	物理学入門１	1			名称変更
	物理学入門２	1			名称変更
	化学	1			廃止
	化学	1			
	化学演習	1			
	生物学	1			名称変更
	数学１	1			基礎薬学科目へ区分変更
	数学２	1			
	数理統計学	1.5			単位数変更
	英語１	1			
	英語２	1			
	英語３	1			
	英語４	1			
選択必修科目	ドイツ語１		1		
	ドイツ語２		1		
					廃止
					廃止
	フランス語１		1		
	フランス語２		1		
					廃止
					廃止
	異文化言語演習１	1			
	異文化言語演習２	1			
	医療総合人間学５　臨床心理学／医療社会学	1.5			統合
	医療総合人間学３　総合人間学／コミュニケーション学	1.5			統合
	医療総合人間学４　生命倫理と法／人権とジェンダー	1.5			統合
	医工薬連環科学		1.5		新設
	基礎有機化学	1			基礎薬学科目より区分変更
	実践ビジネス英語			0.5	新設
	小計（37科目）	23.5	15	1	
基礎薬学科目	医療総合人間学１　薬学・生命倫理の基礎	0.5			名称変更
	物理化学１	1.5			単位数変更
	物理化学２	1.5			単位数変更
	物理化学３	1.5			名称・単位数変更
	放射化学	1.5			単位数変更
	分析化学	1.5			単位数変更
	機器分析学	1.5			単位数変更
	生物無機化学	1.5			
					基礎教育科目へ区分変更
	有機化学１	1.5			単位数変更
	有機化学２	1.5			単位数変更
	有機化学３	1.5			単位数変更
	有機化学４	1.5			単位数変更
	有機スペクトル解析学	1.5			単位数変更
	基礎細胞生物学	1.5			基礎教育科目より区分変更・名称変更・単位数変更
	生化学１	1.5			単位数変更
	生化学２	1.5			単位数変更
	生化学３	1.5			単位数変更
					廃止
	微生物学	1.5			単位数変更
	免疫学	1.5			単位数変更
	機能形態学１	1.5			単位数変更
	機能形態学２	1.5			単位数変更
					廃止
					廃止
					廃止
					廃止
	小計（21科目）	30.5	0	0	
応用薬学科目	薬学英語	1			名称・単位数変更
					廃止
	応用分析学	1.5			
	応用放射化学		1.5		単位数変更
	生物物理化学		1.5		単位数変更
	生薬学１	1.5			
	薬用天然物化学１	1.5			分割
	薬用天然物化学２	1.5			
	医薬品化学１	1.5			
	医薬品化学２		1.5		単位数変更
	薬品合成化学１	1.5			
	薬品合成化学２		1.5		単位数変更
	衛生薬学１	1.5			
	衛生薬学２	1.5			
	衛生薬学３	1.5			
	衛生薬学４	1.5			
					廃止
	分子細胞生物学	1.5			
	応用分子生物学	1.5			
	病原微生物学	1.5			
					廃止
					廃止
					廃止
	生薬学２	1.5			
	基礎薬剤学	1.5			
	生物統計学演習	1			単位数変更
	薬局方総論	1			単位数変更
	薬事関連法・制度	1.5			統合
					医療薬学科目へ区分変更
	小計（23科目）	27	6	0	

【 名称変更前 （令和２年４月）】

（薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	単位数 必修	選択	自由	変更内容
教養科目	文学の世界（教養）		1		名称変更
	歴史と社会（教養）		1		名称変更
	地球環境論（教養）		1		名称変更
	政治と社会（教養）		1		名称変更
	基礎心理学（教養）		1		新設
	法と社会（教養）		1		新設
	経済の世界（教養）		1		新設
	数理論理学（教養）		1		新設
	社会分析の基礎（教養）		1		新設
	人間と宗教（教養）		1		名称変更
	文化人類学（教養）		1		名称変更
	倫理と社会（教養）		1		名称変更
	コーチング論（教養）		1		新設
					廃止
	スポーツ・運動実習２（教養）		1		名称・単位数変更 自由から選択に変更
	情報科学		1		単位数変更
基礎教育科目	情報科学演習	1			
	アカデミックスキル	1			新設
	身体運動科学	1			名称・単位数変更
	スポーツ・運動実習１	1			名称変更
	物理学１	1			名称変更
	物理学２	1			名称変更
	化学	1			
	化学演習	1			
	生物学	1			
	数学１	1			
	数学２	1			
	数理統計学	1.5			
	英語リスニング１	1			新設
	英語リスニング２	1			新設
	英語リーディング１	1			名称変更
	英語リーディング２	1			名称変更
	英語スピーキング１	1			名称変更
	英語スピーキング２	1			名称変更
	英語ライティング１	1			新設
	英語ライティング２	1			新設
選択必修科目	ドイツ語１		1		
	ドイツ語２		1		
	フランス語１		1		
	フランス語２		1		
	中国語１		1		新設
	中国語２		1		新設
	ハングル１		1		新設
	ハングル２		1		新設
	異文化言語演習１	1			
	異文化言語演習２	1			
	心理社会	1.5			名称変更
	コミュニケーション	1.5			名称変更
					医療薬学科目へ区分変更
	医工薬連環科学		1.5		
					基礎薬学科目へ区分変更
					廃止
	小計（48科目）	25.5	24.5	0	
基礎薬学科目	薬学入門	1			名称・単位数変更
	物理化学１	1.5			
	物理化学２	1.5			
	物理化学３	1.5			
	放射化学	1.5			
	分析化学１	1.5			名称変更
	分析化学２	1.5			名称変更
	生物無機化学	1			単位数変更
	基礎有機化学	1.5			基礎教育科目より区分変更
	有機化学１	1.5			
	有機化学２	1.5			
	有機化学３	1.5			
	有機化学４	1.5			
	有機スペクトル学演習	1.5			
	基礎細胞生物学	1.5			
	生化学１	1.5			
	生化学２	1.5			
	生化学３	1.5			
	微生物学	1.5			
	免疫学	1.5			
	機能形態学１	1.5			
	機能形態学２	1.5			
	小計（22科目）	32	0	0	
応用薬学科目	薬学英語	1			
	応用分析学	1.5			
	応用放射化学		1		単位数変更
	生物物理化学		1		単位数変更
	薬用植物学	1.5			新設
	生薬学	1.5			名称変更
	薬用天然物化学	1.5			統合
	医薬品化学１	1.5			
	医薬品化学２	1.5			選択から必修に変更
	精密有機合成化学		1		名称・単位数変更
					廃止
	衛生薬学１	1.5			
	衛生薬学２	1.5			
	衛生薬学３	1.5			
	衛生薬学４	1.5			
	分子細胞生物学	1.5			
	ゲノム医科学	1.5			名称変更
					廃止
	臨床感染症学	1.5			医療薬学科目より区分変更
	先端分子医科学１		0.5		新設
	先端分子医科学２		0.5		新設
	基礎漢方薬学	1.5			名称変更
	物理薬剤学	1.5			名称変更
	医療統計学	1			名称変更
	薬局方総論	0.5			単位数変更
					医療薬学科目へ区分変更
	小計（23科目）	25	4	0	

【 名称変更後 】

（薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	単位数 必修	選択	自由	変更内容
教養科目	文学の世界		1		名称変更
	歴史と社会		1		名称変更
	地球環境論		1		名称変更
	政治と社会		1		名称変更
	基礎心理学		1		名称変更
	法と社会		1		名称変更
	経済の世界		1		名称変更
	数理論理学		1		名称変更
	社会分析の基礎		1		名称変更
	人間と宗教		1		名称変更
	文化人類学		1		名称変更
	倫理と社会		1		名称変更
	コーチング論		1		名称変更
					廃止
	スポーツ・運動２		1		名称変更
	情報科学		1		
基礎教育科目	情報科学演習	1			
	アカデミックスキル	1			
	身体運動科学	1			
	スポーツ・運動１	1			名称変更
	物理学１	1			
	物理学２	1			
	化学	2			統合
	生物学	1			
	数学１	2			単位数変更
	数学２	1			
	数理統計学	2			単位数変更
	英語リスニング１	1			
	英語リスニング２	1			
	英語リーディング１	1			
	英語リーディング２	1			
	英語スピーキング１	1			
	英語スピーキング２	1			
	英語ライティング１	1			
	英語ライティング２	1			
選択必修科目	ドイツ語１		1		
	ドイツ語２		1		
					廃止
					廃止
	中国語１		1		
	中国語２		1		
	ハングル１		1		
	ハングル２		1		
	異文化言語演習１	1			
	異文化言語演習２	1			
	医療心理学	1			名称・単位数変更
	コミュニケーション	1			単位数変更
					基礎薬学科目へ区分変更
	キャリアデザイン概論	1			新設
	小計（45科目）	27	21		
基礎薬学科目	薬学入門	1			
	医工薬連環科学		1		基礎教育科目より区分変更・単位数変更
	物理化学１	1			単位数変更
	物理化学２	1			単位数変更
	物理化学３	1			単位数変更
	放射化学	1			単位数変更
	分析化学１	1			単位数変更
	分析化学２	2			単位数変更
	生物無機化学	1			
	基礎有機化学	1			単位数変更
	有機化学１	2			単位数変更
	有機化学２	2			単位数変更
	有機化学３	1			単位数変更
	有機化学４	2			単位数変更
	有機スペクトル学演習	1			単位数変更
	基礎細胞生物学	2			単位数変更
	生化学１	2			単位数変更
	生化学２	2			単位数変更
	分子生物学	2			単位数変更
	微生物学	2			単位数変更
	免疫学	2			単位数変更
	機能形態学１	2			単位数変更
	機能形態学２	2			単位数変更
	小計（23科目）	34	1		
応用薬学科目	薬学英語	1			
	応用分析学	1			単位数変更
	応用放射化学		1		
	生物物理化学		1		
	薬用植物学	1			単位数変更
	生薬学	1			単位数変更
	薬用天然物化学	2			単位数変更
	医薬品化学１	2			単位数変更
	医薬品化学２	1			単位数変更
	精密有機合成化学		1		
	衛生薬学１	2			単位数変更
	衛生薬学２	2			単位数変更
	衛生薬学３	2			単位数変更
					廃止
	分子細胞生物学	2			単位数変更
					廃止
	病原微生物学	1			新設
					医療薬学科目へ区分変更
	先端分子医科学		1		統合
	基礎漢方薬学	2			単位数変更
	物理薬剤学	2			単位数変更
	医療統計学	1			
					廃止
	小計（19科目）	23	4		

設置時からの教育課程の変更状況（薬学部）

【 設置時（平成１８年４月） 】

（薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	単位数 必修	選択	自由
医療薬学科目	臨床医学概論	0.5		
	社会薬学１	1.5		
	病態生理学１	1.5		
	病態生理学２	1.5		
	病態生化学	1.5		
	薬理学１	1.5		
	薬理学２	1.5		
	薬理学３	1.5		
	薬理学４	1.5		
	薬物動態学１	1.5		
	薬物動態学２	1.5		
	薬物動態学３	1.5		
	剤形設計学	1.5		
	薬物治療学１	1.5		
	薬物治療学２	1.5		
	薬物治療学３	1.5		
	臨床感染症学	0.5		
	医薬品安全性学	0.5		
	東洋医学概論	1.5		
	医療薬剤学２	1.5		
	医療薬剤学１	1.5		
	コミュニティファーマシー	1.5		
	臨床薬物動態学	1.5		
	社会薬学２	1.5		
	臨床栄養学	0.5		
	医薬品開発学	1.5		
	医療情報学	1.5		
	薬剤疫学	0.5		
	臨床検査学	1.5		
	薬学共用試験演習		1	
	医療コミュニケーション学	1.5		
	小計（31科目）	40	1	0
実習	基礎薬学実習	0.5		
	分析化学実習	1		
	物理化学実習	1		
	放射化学実習	0.5		
	基礎有機化学実習	1		
	生薬学実習	0.5		
	有機化学実習	1		
	生物学実習	1		
	生物科学実習	1		
	衛生薬学実習	1		
	薬理学実習	1		
	薬剤学実習	1		
	調剤学実習	1		
	臨床生理化学・形態実習	1		
	臨床導入実習	4		
	病院実務実習	10		
	薬局実務実習	10		
	特別演習・実習１	12		
	特別演習・実習２	6		
	小計（19科目）	54.5	0	0
合計（144科目）		173	26	0

学位又は学科の分野：薬学関係

卒業要件及び履修方法

本学部に6年以上在学し、必修科目173単位、選択必修科目4単位（第二外国語）、選択科目9単位以上（基礎教育科目：4単位以上、応用薬学科目・医療薬学科目：5単位以上）の計186単位以上を修得すること。

【平成２５年４月】

（薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	単位数 必修	選択	自由	変更内容
医療薬学科目					廃止
	医療総合人間学６　医療倫理学	1.5			名称変更
	早期体験学習１	1			新設
	早期体験学習２	0.5			新設
	人体の構造と機能	1.5			新設
	病態生理学１	1.5			
	病態生理学２	1.5			
	病態生化学	1.5			
	薬理学１	1.5			
	薬理学２	1.5			
	薬理学３	1.5			
	薬理学４	1.5			
	薬物動態学１	1.5			
	薬物動態学２	1.5			
	薬物動態学３	1.5			
	剤形設計学	1.5			
	薬物治療学１	1.5			
	薬物治療学２	1.5			
	薬物治療学３	1.5			
	薬物治療学４	1.5			新設
	臨床化学		1.5		新設
	臨床感染症学	0.5			応用薬学科目へ区分変更
	医薬品安全性学	1.5			単位数変更
	漢方医学概論	1			名称・単位数変更
	医療薬剤学２	1.5			
	医療薬剤学１	1.5			
	コミュニティファーマシー	1			単位数変更
	臨床薬物動態学	0.5			分割
	臨床薬剤学	0.5			
	医療総合人間学７　医療経済学・医療制度論	1.5			名称変更
	医薬品情報評価学	1			新設
	臨床栄養学	0.5			
	医薬品開発学	1.5			
	医療情報学	1.5			
	臨床検査学	1.5			
	薬学基礎演習	1			名称変更 選択から必修に変更
	病態・薬物治療学演習	0.5			新設
	臨床生理学		1.5		新設
	医用工学概論		1.5		新設
	薬学総合演習	4			応用薬学科目から区分変更
	小計（39科目）	48	4.5	0	
実習	基礎薬学実習	0.5			
	分析化学実習	1			
	物理・放射化学実習	1			統合
	基礎有機化学実習	1			
	生薬学実習	0.5			
	有機化学実習	1			
	生物学実習	1			
	生物科学実習	1			
	衛生薬学実習	1			
	薬理学実習	1			
	薬剤学実習	1			
					廃止
					廃止
	臨床導入学習１	4			分割
	臨床導入学習２	1			
	病院実務実習	10			
	薬局実務実習	10			
	特別演習・実習	18			統合
	小計（16科目）	53	0	0	
合計（136科目）		182	25.5	1	

学位又は学科の分野：薬学関係

卒業要件及び履修方法

本学部に6年以上在学し、必修科目182単位、選択必修科目2単位（第二外国語科目）、選択科目10単位以上（基礎教育科目：4単位以上、応用薬学科目・医療薬学科目：6単位以上）の計194単位以上を修得すること。

【 名称変更前 （令和２年４月）】

（薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	単位数 必修	選択	自由	変更内容
医療薬学科目	医療人マインド	1			新設
	専門職連携医療論		1		新設
	生命医療倫理	1.5			名称変更
	医療と法	1			基礎教育科目より区分変更 ・名称変更・単位数変更
	医療政策論		0.5		新設
	医療倫理論		0.5		新設
	医薬看融合ゼミ		0.5		新設
	連携医療学	1			新設
	早期体験学習１	1			
	早期体験学習２	0.5			
					廃止
					廃止
					廃止
	病態生化学	1.5			
	薬理学１	1.5			
	薬理学２	1.5			
	薬理学３	1.5			
	薬理学４	1.5			
	創薬薬理学		0.5		新設
	生物薬剤学１	1.5			名称変更
	生物薬剤学２	1.5			名称変更
	薬物動態解析学	1.5			名称変更
	製剤学	1.5			名称変更
	薬物治療学１	1.5			
	薬物治療学２	1.5			
	薬物治療学３	1.5			
	薬物治療学４	1.5			
	薬物治療学５	1.5			新設
	アドバンスト薬物治療学１		0.5		新設
	アドバンスト薬物治療学２		0.5		新設
	臨床化学		1		単位数変更
	臨床感染症学				応用薬学科目へ区分変更
	医薬品安全性学		1		単位数変更 必修から選択に変更
	漢方医学概論		0.5		単位数変更 必修から選択に変更
	医療薬剤学	1			名称・単位数変更
	医薬品情報学	1			名称・単位数変更
	医薬品情報演習	1			新設
	個別化医療	1			新設
	コミュニティファーマシー	1.5			単位数変更
	臨床薬物動態学	1			単位数変更
					廃止
	臨床導入学習１	3			実習より区分変更・単位数変更
	臨床導入学習２	1			実習より区分変更
	薬事関連法・制度	1.5			区分変更
	医療制度	1			名称・単位数変更
	薬剤経済学	0.5			名称・単位数変更
	臨床栄養学		0.5		必修から選択に変更
	レギュラトリーサイエンス		0.5		名称・単位数変更 必修から選択に変更
					廃止
					廃止
	薬学基礎演習	0.5			単位数変更
	病態・薬物治療学演習		1		単位数変更 必修から選択に変更
	臨床生理学		1		単位数変更
					廃止
	統合薬学演習	2			新設
	薬学総合演習	3			単位数変更
	小計（48科目）	46	9.5	0	
実習	基礎薬学実習	0.5			
	分析化学実習	1			
	物理・放射化学実習	1			
	基礎有機化学実習	1			
	漢方・生薬学実習	0.5			名称変更
	有機化学実習	1			
	生物学実習	1			
	生物科学実習	1			
	衛生薬学実習	1			
	薬理学実習	1			
	薬剤学実習	1			
					医療薬学科目へ区分変更
					医療薬学科目へ区分変更
	病院実務実習	10			
	薬局実務実習	10			
	特別演習・実習	16			単位数変更
	小計（14科目）	46	0	0	
合計（155科目）		174.5	38	0	

学位又は学科の分野：薬学関係

卒業要件及び履修方法

本学部に6年以上在学し、必修科目174.5単位、選択必修科目2単位（第二外国語科目）、選択科目10.5単位以上（基礎教育科目：6単位以上（教養科目からは4単位以上）、応用薬学科目・医療薬学科目：2年次～4年次配当科目からは4単位以上、6年次配当科目からは0.5単位以上）の計187単位以上を修得すること。
（履修科目の登録の上限：55単位／年間）

【 名称変更後 】

（薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	単位数 必修	選択	自由	変更内容
医療薬学科目	医療人マインド	1			
	専門職連携医療論		1		
	生命医療倫理	1			単位数変更
	医療と法	1			
	医療政策論		1		単位数変更
					廃止
	多職種融合（連携）ゼミ		1		統合
	早期体験学習	1			名称変更
	医療薬学導入学習	1			名称・単位数変更
					廃止
	薬理学１	2			単位数変更
	薬理学２	2			単位数変更
	薬理学３	2			単位数変更
	薬理学４	2			単位数変更
	アドバンスト薬理学		1		名称・単位数変更
	生物薬剤学１	1			単位数変更
	生物薬剤学２	1			単位数変更
	薬物速度論	2			名称・単位数変更
	製剤設計学	2			名称・単位数変更
	薬物治療学１	2			単位数変更
	薬物治療学２	2			単位数変更
	薬物治療学３	2			単位数変更
	薬物治療学４	2			単位数変更
	薬物治療学５	2			単位数変更
	アドバンスト薬物治療学		1		統合
	臨床化学		1		
	臨床感染症学	2			応用薬学科目より区分変更 ・単位数変更
	医薬品安全性学		1		
	漢方医学概論		1		単位数変更
	臨床薬学概論	1			名称変更
	医薬品情報学	1			統合
	個別化医療	1			
	コミュニティファーマシー	1			単位数変更
	臨床薬物動態学	1			
	臨床導入学習１	3			
	臨床導入学習２	1			
	薬事関連法・制度	2			単位数変更
	社会保障論	1			名称変更
					廃止
					廃止
					廃止
	薬学基礎演習	1			単位数変更
					廃止
					廃止
	統合薬学演習	2			
	薬学総合演習	3			
	小計（39科目）	49	8		
実習					廃止
	分析化学実習	1			
	物理化学実習	1			一部分割
	基礎有機化学実習	1			
	漢方・生薬学実習	1			単位数変更
	有機化学実習	1			
	生物学実習	1			
	生物科学実習	1			
	衛生薬学・放射化学実習	1			一部統合
	薬理学実習	1			
	薬剤学実習	1			
	病院実務実習	10			
	薬局実務実習	10			
	特別演習・実習	14			単位数変更
	小計（13科目）	42			
合計（139科目）		175	34	0	

学位又は学科の分野：薬学関係

卒業要件及び履修方法

本学部に6年以上在学し、必修科目177単位、選択必修科目2単位（第二外国語科目）、選択科目8単位以上（基礎教育科目：4単位以上、基礎薬学科目・応用薬学科目・医療薬学科目：2年次～4年次配当科目からは3単位以上、6年次配当科目からは1単位）の計187単位以上を修得すること。
（履修科目の登録の上限：55単位／年間）

大阪医科薬科大学薬学部　定年退職規則

（令和３年４月１日施行）

第１条　この規則は、大阪医科薬科大学薬学部及び大学院薬学研究科の教員の定年制を設けて人事の円滑な運営に資することを目的とする。

第２条　教員は満６５歳に達したときは、その年度末をもって定年退職するものとする。

第３条　定年退職者には、別に定める退職手当を支給する。

第４条　本人の申請により、第２条の定年に達した者に対して、本学が必要と認めた場合は、なお嘱託として本学の職務を委嘱することができる。

２　前項に規定する嘱託には、退職手当を支給しない。

第５条　前条の申請は、定年に達する年度の前年度に書面で薬学部長を経て学長に提出するものとする。

第６条　第４条第１項の委嘱の決定は当該職員が定年に達した年度に、学長の内申に基づき理事長が行う。ただし、教授（嘱託）の委嘱は、理事会の承認を得るものとする。

第７条　嘱託として委嘱する期間は１年とし、１回に限り更新することができる。

２　前項の委嘱期間を更新する場合は、前２条の規定を準用するが、理事会の承認は要さない。

第８条　この規則に定めるもののほか、この規則の運用に関し必要な事項は別に定める。

第９条　この規則の改廃は、理事会が行う。

附　　則

この規則は、令和３年４月１日から施行する。

大阪医科薬科大学薬学部　定年退職者の再任用に関する特例内規

（令和３年４月１日施行）

（目　的）

第１条　この内規は、大阪医科薬科大学（以下、「本学」という。）の薬学部及び大学院薬学研究科（以下、「薬学部等」という。）の設置に際し、大学統合に係る大阪薬科大学の薬学部等からの教員組織の円滑な移行と本学の薬学部等における教育研究の適切な実施に資することを目的に、本学の薬学部等の完成年度を迎えるまでの間の特例措置として定年退職者等の再任用に関し必要な事項を定める。

（定義及び対象者）

第２条　この内規において「再任用」とは、大阪医科薬科大学薬学部定年退職規則第２条による定年退職後に同規則第７条第１項により嘱託として再雇用された教員及び大阪医科薬科大学薬学部特任教員規程第４条第１項ただし書きに基づく任期満了退職後に同規程同条第２項により再雇用された特任教員を対象に、当該規則等に定める当該嘱託教員又は特任教員としての再雇用期間（更新期間を含む）の限度を超えて引続き雇用する制度をいう。

（職　位）

第３条　再任用者の職位は、再任用前の職位を引き継ぐものとする。

（再任用）

第４条　理事長は、第２条に規定する対象者のうち、学長からの推薦により、薬学部等の運営上特に必要と認めた者について次表左欄の生年月日区分に応じ同表右欄に定める年齢に達した日の属する年度の末日を限度として再任用することができる。

生年月日	再任用限度年齢
１９５４年４月１日から１９５５年３月３１日	７２歳
１９５５年４月１日から１９５６年３月３１日	７１歳
１９５６年４月１日から１９５７年３月３１日	７０歳
１９５７年４月１日から１９５８年３月３１日	６９歳
１９５８年４月１日から１９５９年３月３１日	６８歳

２　再任用期間は１年間とし、学長の推薦に基づき、その都度理事長が更新の要否を判断する。

（雑　則）

第５条　この内規に定めるもののほか、この内規の運用に関し必要な事項は別に定める。

（規程の改廃）

第６条　この内規の改廃は、理事長が行う。

附　　則

１　この内規は、令和３年４月１日から施行する。

２　この内規は、薬学部の完成年度の末日の令和９年３月３１日をもって廃止する。

大阪医科薬科大学薬学部　単位互換実施に関する規程（案）

（令和３年４月１日施行）

（趣　旨）

第１条　大阪医科薬科大学学則（以下、「学則」という。）第２５条第２項の規定に基づき、大阪医科薬科大学（以下、「本学」という。）の他学部及び他の大学等との単位互換を円滑に実施するため必要な事項を定める。

（大学間協議）

第２条　他の大学等と単位互換を実施する場合は、必要な事項を協議の上、学長が当該大学等との間で協定を締結する。

２　前項の大学等間の協議では、履修できる授業科目の範囲、認定される単位数、対象となる学生数、単位の認定方法、費用の取り扱い、その他必要な事項を決めなければならない。

３　前項の授業科目は、文部科学大臣が定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

４　本学の他学部との単位互換については、前２項の定めを準用するものとする。

（出願手続等）

第３条　本学の他学部及び他の大学等の授業科目の履修を希望する学生は、所定の期日までに別に定める書類を添えて学長に願い出るものとする。

２　学長は、本学の他学部及び他の大学等から受入れの通知があった者について願い出を許可する。

（単位の認定）

第４条　学生が本学の他学部及び他の大学等において履修した科目の単位については、当該他大学等からの成績評価及び履修単位の報告に基づき、薬学部教授会（以下、「教授会」という。）の議を経て、学長は本学薬学部の卒業の要件となる単位として認定する。

２　本学薬学部の卒業要件として認定する単位数は、２単位を限度とし、基礎教育科目の選択単位として加算する。

３　前項の規定を超えて履修した科目の単位は、増加単位とし認定する。

（受入れ学生の許可）

第５条　他大学等の学生で本学薬学部の授業科目の履修を希望する者があったときは、教授会の議を経て、学長は単位互換の受入れ学生（以下、「単位互換履修生」という。）として許可する。

２　前項により許可された学生は、単位互換履修生として所定の手続きを行わなければならない。

（履修期間）

第６条　単位互換履修生の履修期間は、半年間（前期又は後期）とする。

第７条　本学薬学部で受講する単位互換履修生には所定の単位互換履修生証を交付するので、当該科目受講や試験の際には携帯しなければならない。

２　単位互換履修生の有効期間は、当該科目の履修期間とする。

（履修及び単位修得の方法）

第８条　単位互換履修生の履修及び単位修得の方法は本学薬学部学生の場合と同様とする。ただし、再試験の受験は科目担当者の判断によるものとする。

（学業成績等の報告）

第９条　単位互換履修生が履修を終了するときは、教授会の議を経て、学長は、当該学生の成績評価及び修得単位について当該学生の所属する大学長に報告する。

（その他）

第１０条　単位互換履修生は所定の手続きを経て、図書館を利用することができる。

第１１条　単位互換履修生は本学の学生に準じ、学則その他諸規程を順守しなければならない。

２　前項に単位互換履修生が違反した場合は、履修の許可を取り消す場合がある。

（改　廃）

第１２条　この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長が決定する。

附　　則

この規程は令和３年４月１日から施行する。

薬学部薬学科 履修モデル

基礎教育科目

授　業　科　目	１年次		２年次		３年次		４年次		５年次		６年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
経済の世界			○									
社会分析の基礎				○								
コーチング論				○								
情報科学		○										
情報科学演習	○											
アカデミックスキル	○											
身体運動科学	○											
スポーツ・運動１	○											
物理学１	○											
物理学２		○										
化学	○											
生物学	○											
数学１	○											
数学２		○										
数理統計学				○								
英語リスニング１	○											
英語リスニング２		○										
英語リーディング１	○											
英語リーディング２		○										
英語スピーキング１			○									
英語スピーキング２				○								
英語ライティング１			○									
英語ライティング２				○								
ドイツ語１	○											
ドイツ語２		○										
異文化言語演習１					○							
異文化言語演習２						○						
医療心理学				○								
コミュニケーション							○					
キャリアデザイン概論							○					

基礎薬学科目

授　業　科　目	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
薬学入門	○											
物理化学１		○										
物理化学２			○									
物理化学３				○								
放射化学					○							
分析化学１		○										
分析化学２			○									
生物無機化学			○									
基礎有機化学	○											
有機化学１		○										
有機化学２			○									
有機化学３				○								
有機化学４					○							
有機スペクトル学演習				○								
基礎細胞生物学		○										
生化学１		○										
生化学２			○									
分子生物学				○								
微生物学			○									
免疫学					○							
機能形態学１		○										
機能形態学２			○									

応用薬学科目

授　業　科　目	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
薬学英語							○					
応用分析学					○							
薬用植物学	○											
薬用天然物化学		○										
生薬学			○									
医薬品化学１						○						
医薬品化学２							○					
精密有機合成化学						○						
衛生薬学１				○								
衛生薬学２					○							
衛生薬学３						○						
分子細胞生物学					○							
病原微生物学						○						
基礎漢方薬学				○								
物理薬剤学					○							
医療統計学								○				

医療薬学科目

授　業　科　目	１年次		２年次		３年次		４年次		５年次		６年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医療人マインド	○											
専門職連携医療論				○								
生命医療倫理					○							
医療と法						○						
多職種融合（連携）ゼミ											○	
早期体験学習	←	○	→									
医療薬学導入学習		○										
薬理学１			○									
薬理学２				○								
薬理学３					○							
薬理学４						○						
生物薬剤学１				○								
生物薬剤学２					○							
薬物速度論						○						
製剤設計学						○						
薬物治療学１			○									
薬物治療学２				○								
薬物治療学３					○							
薬物治療学４						○						
薬物治療学５							○					
臨床化学						○						
臨床感染症学							○					
臨床薬学概論					○							
医薬品情報学						○						
個別化医療							○					
コミュニティファーマシー								○				
臨床薬物動態学							○					
臨床導入学習１							○					
臨床導入学習２								○				
薬事関連法・制度							○					
社会保障論							○					
薬学基礎演習								○				
統合薬学演習											○	
薬学総合演習											←	○ →

実習

授　業　科　目	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
分析化学実習			○									
物理化学実習				○								
基礎有機化学実習		○										
漢方・生薬学実習				○								
有機化学実習					○							
生物学実習			○									
生物科学実習					○							
衛生薬学・放射化学実習						○						
薬理学実習						○						
薬剤学実習						○						
病院実務実習									←	○	→	
薬局実務実習									←	○	→	
特別演習・実習							←		○		→	

薬学部薬科学科　履修モデル

基礎教育科目

授　業　科　目	１年次		２年次		３年次		４年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
経済の世界(教養)			○					
社会分析の基礎(教養)	○							
人間と宗教(教養)		○						
コーチング論(教養)				○				
数学１	○							
数学２		○						
数理統計学			○					
物理学１	○							
物理学２		○						
英語リスニング１	○							
英語リスニング２		○						
英語リーディング１	○							
英語リーディング２		○						
英語スピーキング１			○					
英語スピーキング２				○				
英語ライティング１			○					
英語ライティング２				○				
ドイツ語１	○							
ドイツ語２		○						
異文化言語演習１					○			
異文化言語演習２						○		
心理社会				○				
コミュニケーション					○			
医療と法						○		
身体運動科学	○							
スポーツ・運動実習１	○							
情報科学		○						
情報科学演習	○							
化学	○							
化学演習	○							
生物学	○							
基礎有機化学	○							

基礎薬学科目

授　業　科　目	１年次		２年次		３年次		４年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
薬学入門	○							
基礎細胞生物学		○						
有機化学１		○						
有機化学２			○					
有機化学３				○				
有機化学４					○			
有機スペクトル解析学				○				
物理化学１		○						
物理化学２			○					
物理化学３				○				
分析化学１		○						
分析化学２			○					
放射化学					○			
生化学１		○						
生化学２			○					
生化学３				○				
微生物学			○					
機能形態学１		○						
機能形態学２			○					
生物無機化学			○					
免疫学						○		

応用薬学科目

授　業　科　目	１年次		２年次		３年次		４年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医療統計学						○		
生薬学		○						
基礎漢方薬学			○					
薬用天然物化学１				○				
薬用天然物化学２					○			
衛生薬学１				○				
衛生薬学２					○			
衛生薬学３					○			
衛生薬学４						○		
病原微生物学				○				
分子細胞生物学					○			
ゲノム医科学					○			
バイオインフォマティクス							○	
応用分析学					○			
分子設計学							○	
物理薬剤学					○			
合成化学						○		
薬品合成化学							○	

医療薬学科目

授　業　科　目	１年次		２年次		３年次		４年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
早期体験学習１	←	○	→					
早期体験学習２		○						
人体の構造と病態１	○							
人体の構造と病態２		○						
病態生化学						○		
薬理学１				○				
薬理学２					○			
薬理学３						○		
薬理学４							○	
製剤学						○		
生物薬剤学１				○				
生物薬剤学２					○			
薬物動態解析学						○		
薬物治療学１			○					
薬物治療学２				○				
薬物治療学３					○			
薬物治療学４						○		
医薬品情報学						○		

実習

授　業　科　目	１年次		２年次		３年次		４年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎薬学実習	○							
基礎有機化学実習		○						
有機化学実習					○			
漢方・生薬学実習				○				
分析化学実習			○					
物理・放射化学実習				○				
生物学実習			○					
生物科学実習					○			
衛生薬学実習						○		
薬理学実習						○		
薬剤学実習						○		
臨床導入学習１							○	
臨床導入学習２								○
特別演習・実習（前期）							○	
特別演習・実習（後期）								○

実習科目に係る主な機械・器具等一覧

No.	用途	機器等名称	数量	設置場所
1	学部・実習	６連式崩壊試験器	1	C棟
2	学部・実習	８連式溶出試験器	1	C棟
3	学部・実習	ＦＡＳ－５　フルシステム	1	C棟
4	学部・実習	ＨＰＬＣ基本システム	2	C棟
5	学部・実習	ＨＰＬＣポンプ	5	C棟
6	学部・実習	ＰＣＲサーマルサイクラー	2	C棟
7	学部・実習	ＰＨメーター	2	C棟
8	学部・実習	γ線ウェルシンチレーション測定装置	2	C棟
9	学部・実習	インキュベーター	1	C棟
10	学部・実習	インテグレーター	9	C棟
11	学部・実習	ウイレー氏実験場用粉砕機	1	C棟
12	学部・実習	ウォーターバスインキュベーター	4	C棟
13	学部・実習	エースホモジナイザー	2	C棟
14	学部・実習	オートクレーブ	3	C棟
15	学部・実習	カラー汎用超音波画像診断装置	1	C棟
16	学部・実習	カラムオーブン	2	C棟
17	学部・実習	眼底診察シュミレータ	1	C棟
18	学部・実習	ガンマ線検出測定装置	1	C棟
19	学部・実習	クリーンベンチ	1	C棟
20	学部・実習	ゲル撮影システム	1	C棟
21	学部・実習	検眼鏡	1	C棟
22	学部・実習	恒温水槽	2	C棟
23	学部・実習	サーマルアレイレコーダ	1	C棟
24	学部・実習	サーモミンダー	1	C棟
25	学部・実習	採血静注シュミレータ	1	C棟
26	学部・実習	シンチレーション検出器	2	C棟
27	学部・実習	ステップ測定システム	1	体育館
28	学部・実習	スパイロシフト	2	C棟
29	学部・実習	スパイロメーター	1	C棟
30	学部・実習	セルイメージングシステム	1	C棟
31	学部・実習	全自動散薬分包機	1	D棟
32	学部・実習	卓上手動丸薬機（７ｍｍ）	1	C棟

No.	用途	機器等名称	数量	設置場所
33	学部・実習	超音波診断ファントム	1	C棟
34	学部・実習	低温湯煎器角型	2	C棟
35	学部・実習	テーブルトップ遠心機	1	C棟
36	学部・実習	デスクトップX線回折装置	1	C棟
37	学部・実習	トランスイルミネーター	1	C棟
38	学部・実習	バイオスペクトロメーター	2	C棟
39	学部・実習	バイオメディカルクーラー	1	C棟
40	学部・実習	バイオメディカルフリーザー	2	C棟
41	学部・実習	ひずみ圧力用アンプその他	2	C棟
42	学部・実習	ピペット乾燥器	1	C棟
43	学部・実習	微量高速冷却遠心機	4	C棟
44	学部・実習	フィジカルアセスメントモデル	1	C棟
45	学部・実習	フォトビーム式運動解析システム	2	C棟
46	学部・実習	フナロイドカメラ	1	C棟
47	学部・実習	フラクションコレクター	1	C棟
48	学部・実習	ベーシックスケーラ	3	C棟
49	学部・実習	ヘマトクリット用遠心機	4	C棟
50	学部・実習	崩壊試験器	1	C棟
51	学部・実習	ポータブルガス濃度測定装置	1	C棟
52	学部・実習	ポータブル天秤	5	C棟
53	学部・実習	ホモジスターラー	2	C棟
54	学部・実習	ポリシーラー	1	C棟
55	学部・実習	ポリトロンホモジナイザー	1	C棟
56	学部・実習	マイクロミニ遠心機	3	C棟
57	学部・実習	マグヌス実験装置	1	C棟
58	学部・実習	マッキントッシュ　ＬＣ５２０システム	1	C棟
59	学部・実習	ミクロトーム	1	C棟
60	学部・実習	ミクロ形顆粒製造機	1	C棟
61	学部・実習	耳の構造模型	1	C棟
62	学部・実習	耳の診断シュミレータ	1	C棟
63	学部・実習	目の構造模型	1	C棟
64	学部・実習	モデル人形収納ケース	1	C棟
65	学部・実習	薬剤用平行板粘度計	1	C棟
66	学部・実習	ユニット実験台	1	C棟

No.	用途	機器等名称	数量	設置場所
67	学部・実習	冷凍機付インキュベータ	1	C棟
68	学部・実習	レーザーライター	1	C棟
69	学部・実習	ロータリーエバポレーター	2	C棟
70	学部・実習	炎光光度計	1	C棟
71	学部・実習	加圧式鎮痛作用測定装置	2	C棟
72	学部・実習	可視紫外検出器	1	C棟
73	学部・実習	簡易融点測定装置	1	C棟
74	学部・実習	蛍光式パーソナルＤＮＡシーケンサー	1	C棟
75	学部・実習	血圧測定用アンプ	2	C棟
76	学部・実習	研究用保冷庫	1	C棟
77	学部・実習	顕微鏡	84	C棟
78	学部・実習	恒温振盪水槽	1	C棟
79	学部・実習	高速液体クロマトグラフ	8	C棟
80	学部・実習	高速液体クロマトグラフ用送液ユニット	1	C棟
81	学部・実習	混合機	1	C棟
82	学部・実習	紫外可視分光光度計	36	C棟
83	学部・実習	紫外線検出器	2	C棟
84	学部・実習	自動小型単発式打錠機	1	C棟
85	学部・実習	純水製造装置	2	C棟
86	学部・実習	小型滑走ミクロトーム	1	C棟
87	学部・実習	小型卓上試験機	1	C棟
88	学部・実習	小型冷却遠心機	3	C棟
89	学部・実習	心電計	4	C棟
90	学部・実習	振とう機	1	C棟
91	学部・実習	全自動分割分包機ＧＲＡＮ・Ｃ印字装置付	1	D棟
92	学部・実習	卓上型振とう恒温槽	2	C棟
93	学部・実習	卓上手動丸薬機	1	C棟
94	学部・実習	卓上多本架遠心機	1	C棟
95	学部・実習	炭酸ガス培養器	1	C棟
96	学部・実習	調剤薬局支援システム	1	C棟
97	学部・実習	調剤用電子天秤	11	C棟
98	学部・実習	超音波ピペット洗浄器	1	C棟
99	学部・実習	超音波洗浄器	2	C棟
100	学部・実習	定温乾燥機	5	C棟

No.	用途	機器等名称	数量	設置場所
101	学部・実習	日立微量高速冷却遠心機	1	C棟
102	学部・実習	薄窓ガスフローカウンター	1	C棟
103	学部・実習	微量高速遠心機	1	C棟
104	学部・実習	分析天秤	4	C棟
105	学部・実習	万能粉砕機	1	C棟
106	学部・実習	有機溶媒留去・回収システム	2	C棟
107	学部・実習	冷却遠心分離機	2	C棟

薬学部薬学科　前期授業時間割モデル

曜日	時限/年次		1限 9:00〜10:30				2限 10:40〜12:10				3限 13:00〜14:30				4限 14:40〜16:10				5限 16:20〜17:50			
月	1	A	●	基礎有機化学	和田俊　浦田 宇佐美　平野 山田　米山 菊地　平田佳 林淳　葉山	C204	A	▲	ドイツ語1 中国語1 ハングル1	阪本 陳 李	D305 D307 D308	A	●	薬学入門	中村敏 永井　藤森 天満　阪本 角山	C204	A	●	身体運動科学	当麻	C204	A	○	経済の世界 文学の世界 数理論理学 歴史と社会	べ 松本 永田 眞杉	C204 C205 C206 C207
		B	▲	ドイツ語1 中国語1 ハングル1	阪本 陳 李	D305 D307 D308	B	●	基礎有機化学	和田俊　浦田 宇佐美　平野 山田　米山 菊地　平田佳 林淳　葉山	C205	B	●	身体運動科学	当麻	C205	B	●	薬学入門	中村敏 永井　藤森 天満　阪本 角山	C205	B	○			
	2											A	●	生薬学	芝野	D303	A	●	物理化学2	土井光	D303	A	○	経済の世界 文学の世界 数理論理学 歴史と社会	べ 松本 永田 眞杉	C204 C205 C206 C207
												B	●	物理化学2	土井光	D302	B	●	生薬学	芝野	D302	B	○	医工薬連環科学	永井 寺崎　倉田	D302
	3						A	●	応用分析学	佐藤卓	C201	A	●	異文化言語演習1	楠瀬　城下 田邊　桝矢 藤本幸　伊藤 中本　木村 中村惠	C104　C102 C101　C−3C D305　D306 D307　D308 C103	A	●	臨床薬学概論	岩永	C201					
							B	●	臨床薬学概論	岩永	C206	B	●	応用分析学	佐藤卓	C201	B	●	異文化言語演習1	楠瀬　城下 田邊　桝矢 藤本幸　伊藤 中本　木村 中村惠	C104　C102 C101　C−3C D305　D306 D307　D308 C103					
	4	A	○	生物物理化学	友尾	C105	A	●	キャリアデザイン概論	福永　中村敏	C105	A	●	医薬品化学2	平野	C202	A	●	臨床薬物動態学	中村任	C202	A	●	特別演習・実習		
		B	○				B	●				B	●	臨床薬物動態学	中村任	C203	B	●	医薬品化学2	平野	C203	B	●			
	5	A	●	病院実務実習　薬局実務実習（中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田） 特別演習・実習								A	●	病院実務実習　薬局実務実習（中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田） 特別演習・実習　13:00〜17:30											
		B	●									B	●													
	6	A	●	特別演習・実習			A	○	多職種融合 （連携）ゼミ	中村敏 角山　羽田	C207	A	●	特別演習・実習　13:00 〜 17:30												
		B	●				B	○				B	●													
火	1						A	●	化学	大桃 山田　尹 箕浦　浅野 平田雅　山沖 藤嶽	C202　C203 C204　D305 D306　D307 D308	A	●	情報科学演習	永井	情報科学演習室										
														早期体験学習	中村敏・井上薫・芝野 ・幸田・角山・加藤隆 ・浅野・藤嶽・羽田 ・田中早											
												B	●													
	2	A	●	英語スピーキング1	スミス　Guard Brotherton　佐藤真	情報　C101 C102　C103	A	●	生化学2	井上晴	C205	A	●	分析化学実習（天満・大桃・箕浦・佐藤卓・近藤）　13:00 〜 17:30 生物学実習（駒野・坂口・土屋・田中智・倉田）　13:00 〜 17:30											
		B	●	生化学2	井上晴	C205	B	●	英語スピーキング1	スミス　Guard Brotherton　佐藤真	情報　C101 C102　C103	B	●													
	3	A	●	薬理学3	大野	D302	A	●	免疫学	土屋	D302	A	●	有機化学実習（浦田・宇佐美・和田俊・米山・葉山）　13:00 〜 17:30 生物科学実習（福永・井上晴・藤森・宮本・藤井忍・藤井俊・前原）　13:00 〜 17:30											
		B	●	免疫学	土屋	D303	B	●	薬理学3	大野	D303	B	●													
	4	A	●	薬事関連法・制度	恩田	C206	A	●	臨床感染症学	駒野　浮村	C206	A	●	臨床導入学習1（岩永・中村任・中村敏・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・細畑・内田・羽田・庄司・音窪）　13:00 〜 17:30 特別演習・実習　13:00 〜 17:30											
		B	●	臨床感染症学	駒野　浮村	C207	B	●	薬事関連法・制度	恩田	C207	B	●													
	5	A	●	病院実務実習　薬局実務実習（中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田） 特別演習・実習								A	●	病院実務実習　薬局実務実習（中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田） 特別演習・実習　13:00〜17:30											
		B	●									B	●													
	6	A	●	薬学総合演習（岩永・友尾・宇佐美・藤森・佐久間・大喜多・宮崎・松村人・中村敏・中村任）　（C201　D301） 特別演習・実習								A	●	薬学総合演習（岩永・友尾・宇佐美・藤森・佐久間・大喜多・宮崎・松村人・中村敏・中村任）　（C201　D301） 特別演習・実習　13:00 〜 17:30											
		B	●									B	●													
水	1	A	●	英語リスニング1	スミス　田邊 神前　武井	情報　C101 D305　D306	A	●	数学1	永田 竹本	C206 C207	A	●	情報科学演習	永井	情報科学演習室										
														スポーツ・運動1	当麻・橋口・宮田・門川											
		B	●	数学1	永田 竹本	C206 C207	B	●	英語リスニング1	スミス　田邊 神前　武井	情報　C101 D305　D306			早期体験学習	中村敏・井上薫・芝野 ・幸田・角山・加藤隆 ・浅野・藤嶽・羽田 ・田中早		B	●										
	2	A	●	機能形態学2	大野	C204	A	●	微生物学	駒野　宮本	C204	A	●	分析化学実習（天満・大桃・箕浦・佐藤卓・近藤）　13:00 〜 17:30 生物学実習（駒野・坂口・土屋・田中智・倉田）　13:00 〜 17:30											
		B	●	微生物学	駒野　宮本	C205	B	●	機能形態学2	大野	C205	B	●													
	3	A	●	有機化学4	浦田　宇佐美 平野　山田 和田俊　米山 菊地　平田佳 林淳　葉山	D303	A	●	衛生薬学2	佐久間 長谷井	D303	A	●	有機化学実習（浦田・宇佐美・和田俊・米山・葉山）　13:00 〜 17:30 生物科学実習（福永・井上晴・藤森・宮本・藤井忍・藤井俊・前原）　13:00 〜 17:30											
		B	●	衛生薬学2	佐久間 長谷井	D304	B	●	有機化学4	浦田　宇佐美 平野　山田 和田俊　米山 菊地　平田佳 林淳　葉山	D304	B	●													
	4	A	●	個別化医療	井尻　細畑　加藤隆	C202						A	●	臨床導入学習1（岩永・中村任・中村敏・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・細畑・内田・羽田・庄司・音窪）　13:00 〜 17:30 特別演習・実習　13:00 〜 17:30											
							B	●	個別化医療	井尻　細畑　加藤隆	C203	B	●													
	5	A	●	病院実務実習　薬局実務実習（中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田） 特別演習・実習								A	●	病院実務実習　薬局実務実習（中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田） 特別演習・実習　13:00〜17:30											
		B	●									B	●													
	6	A	●	薬学総合総合演習（岩永・友尾・宇佐美・藤森・佐久間・大喜多・宮崎・松村人・中村敏・中村任） 特別演習・実習　（C105 C201）								A	●	薬学総合演習（岩永・友尾・宇佐美・藤森・佐久間・大喜多・宮崎・松村人・中村敏・中村任） 特別演習・実習　（C201　D301）　13:00 〜 17:30											
		B	●									B	●													
木	1	A	●	医療人マインド	中村敏　角山	D301	A	●	アカデミックスキル	大桃　井上晴 宮崎　佐藤卓 竹本　長谷井 河合　倉田	C101　C102 C103　C104 D305　D306 D307　D308	A	●	情報科学演習	永井	情報科学演習室										
														スポーツ・運動1	当麻・橋口・宮田・門川											
		B	●											早期体験学習	中村敏・井上薫・芝野 ・幸田・角山・加藤隆 ・浅野・藤嶽・羽田 ・田中早		B	●										
	2	A	●	英語ライティング1	田邊　Guard 堀　氏木	C202　C203 C206　C207	A	●	薬物治療学1	加藤隆 松村人　山口	D302	A	●	分析化学実習（天満・大桃・箕浦・佐藤卓・近藤）　13:00 〜 17:30 生物学実習（駒野・坂口・土屋・田中智・倉田）　13:00 〜 17:30											
		B	●	薬物治療学1	加藤隆 松村人　山口	D302	B	●	英語ライティング1	田邊　Guard 堀　氏木	C202　C203 C206　C207	B	●													
	3	A	●	物理薬剤学	門田　戸塚	D303	A	●	分子細胞生物学	福永	D303	A	●	有機化学実習（浦田・宇佐美・和田俊・米山・葉山）　13:00 〜 17:30 生物科学実習（福永・井上晴・藤森・宮本・藤井忍・藤井俊・前原）　13:00 〜 17:30											
		B	●	分子細胞生物学	福永	D304	B	●	物理薬剤学	門田　戸塚	D304	B	●													
	4	A	●	社会保障論	城下	C204	A		薬物理療学5	井尻　幸田	C205	A	●	臨床導入学習1（岩永・中村任・中村敏・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・細畑・内田・羽田・庄司・音窪）　13:00 〜 17:30 特別演習・実習　13:00 〜 17:30											
		B	●	薬物治療学5	井尻　幸田	C205	B	●	社会保障論	城下	C204	B	●													
	5	A	●	病院実務実習　薬局実務実習（中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田） 特別演習・実習								A	●	病院実務実習　薬局実務実習（中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田） 特別演習・実習　13:00〜17:30											
		B	●									B	●													
	6	A	●	特別演習・実習								A	●	統合薬学演習（中村敏・土井・浦田・戸塚・永井・岩永・中村任・藤本・天満・平野・福森）　13:00 〜 17:30 特別演習・実習　13:00〜17:30											
		B	●									B	●													
金	1	A	●	英語リーディング1	楠瀬　大神 藤本幸　井上径	C101　C102 C103　C104	A	●	薬用植物学	谷口雅	C204	A	●	物理学1	竹本	C204	A	●	生物学	藤森	C204	A	○	政治と社会 基礎心理学 地球環境論 法と社会	北村 中田 河野康 謝	D305 C203 D302 D303
		B	●	薬用植物学	谷口雅	C205	B	●	英語リーディング1	楠瀬　大神 藤本幸　井上径	C101　C102 C103　C104	B	●	生物学	藤森	C205	B	●	物理学1	竹本	C205					
	2	A	●	分析化学2	佐藤卓	C201	A	●	生物無機化学	天満	C202	A	●	薬理学1	大野	C202	A	●	有機化学2	宇佐美　浦田 平野　山田 和田俊　米山 菊地　平田佳 林淳　葉山	C202	B	○			
		B	●	生物無機化学	天満	C203	B	●	分析化学2	佐藤卓	C201	B	●	有機化学2	宇佐美　浦田 平野　山田 和田俊　米山 菊地　平田佳 林淳　葉山	C203	B	●	薬理学1	大野	C203					
	3	A	●	薬物治療学3	松村人　福森　幸田	D303	A	●	放射化学	平田雅	D303	A	●	生命医療倫理	阪本	D303	A	●	生物薬剤学2	本橋	D303					
		B	●	放射化学	平田雅	D304	B	●	薬物治療学3	松村人　福森　幸田	D304	B	●	生物薬剤学2	本橋	D304	B	●	生命医療倫理	阪本	D304					
	4	A	●	薬学英語	天ヶ瀬　神前 堀　村木	D305　D306 D307　D308	A	●	コミュニケーション	岩永	D302	A	○	医薬品安全性学	河合	D301	A	○	先端分子医科学	福永 藤森　駒野 坂口　土屋	D301	A	●	特別演習・実習		
		B	●	コミュニケーション	岩永	D302	B	●	薬学英語	スミス　神前 堀　村木	D305　D306 D307　D308	B	○				B	○				B	●			
	5	A	●	病院実務実習　薬局実務実習（中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田） 特別演習・実習								A	●	病院実務実習　薬局実務実習（中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田） 特別演習・実習　13:00〜17:30											
		B	●									B	●													
	6	A	○	漢方医学概論	芝野	C105	A	○	アドバンスト 薬理学	大野 大喜多　清水 國澤	C105	A	●	特別演習・実習　13:00 〜 17:30												
		B	○				B	○				B	●													

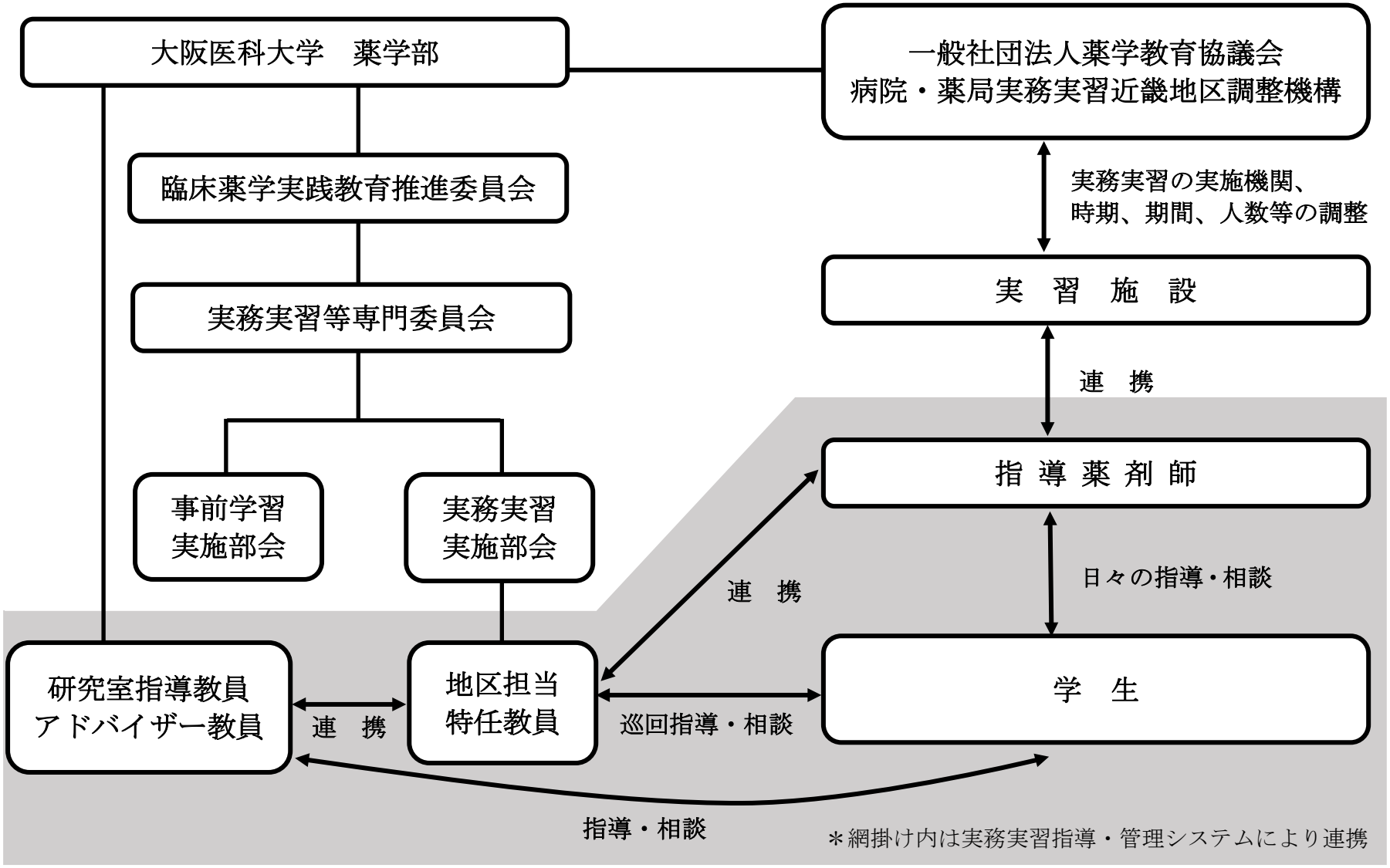
●:必修科目　▲:選択必修科目　○:選択科目　A・B:クラス区分　B−1:B棟1階セミナー室　C−3C:C棟3階3Cセミナー室　情報:C棟4階情報科学演習室

薬学部薬学科　後期授業時間割モデル

曜日	時限 / 午次		1限 9:00		10:30		2限 10:40		12:10		3限 13:00		14:30		4限 14:40		16:10		5限 16:20		17:50	
月	1	A ●	数学2	永　田 竹　本	C203 C204	A ▲	ドイツ語2 中国語2 ハングル2	阪本 陳 李	D305 D307 D308	A ●	薬用天然物化学	谷口雅	D303					A ○	人間と宗教 文化人類学 社会分析の基礎	鶴 中　本 銭　廣	D304 C203 C204	
		B ▲	ドイツ語2 中国語2 ハングル2	阪本 陳 李	D305 D307 D308	B ●	薬用天然物化学	谷口雅	D302	B ●	数学2	永　田 竹　本	C203 C204						情報科学	林武　下川 土井麻　谷岡	C202	
	2	A ●	医療心理学	川端	D304	A ●	物理化学3	友尾・尹	D304	A ●	分子生物学	福永	D304					B ○	スポーツ運動2 （スポーツ運動2は5・6限で実施する）	当　麻	（　）	
		B ●	分子生物学	福永	D303	B ●	医療心理学	川端	D303	B ●	物理化学3	友尾・尹	D302									
	3	A ●	医薬品情報学	角山　中村敏	C205	B ●	医薬品化学1	平野	C205	A ●	異文化言語演習2	楠瀬　城下　田邊 中村恵　桝矢　伊藤 藤本幸　鶴　木村	B-1　C102　C101 C103　D305　D306 D307　C104　D308	A ●	製剤設計学	戸塚　門田	C206					
		B ●	医薬品化学1	平野	C206	B ●	医薬品情報学	角山　中村敏	C206	B ●	製剤設計学	戸塚　門田	C205	B ●	異文化言語演習2	楠瀬　城下　田邊 中村恵　桝矢　伊藤 藤本幸　鶴　木村	B-1　C102　C101 C103　D305　D306 D307　C104　D308					
	4					A ○ B ○	アドバンスト 薬物治療学	松村人　駒野　福森 井尻　幸田　加藤隆 山口	D301	A ●	コミュニティファーマシー	恩　田	C202	A ●	医療統計学	細　畑	C202					
										B ●	医療統計学	細　畑	C206	B ●	コミュニティファーマシー	恩　田	C203					
	5	A ● B ●	病院実務実習・薬局実務実習（中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田） 特別演習・実習							A ● B ●	病院実務実習・薬局実務実習（中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田） 特別演習・実習　13:00 ～ 17:30											
	6	A B ●	薬学総合演習（岩永・友尾・宇佐美・藤森・佐久間・大喜多・宮崎・松村人・中村敏・中村任）（C105　C201）							A B ●	薬学総合演習（岩永・友尾・宇佐美・藤森・佐久間・大喜多・宮崎・松村人・中村敏・中村任）（C105　C201）											
火	1	A ●	有機化学1	和田俊　浦田 宇佐美　平野 山田　米山 菊地　平田佳 林淳　葉山	C206	A ●	物理化学1	土井光	C206	A ●	基礎有機化学実習（宇佐美・平野・山田・菊地・林淳）　13:00 ～ 17:30 早期体験学習（中村敏・井上薫・芝野・幸田・角山・加藤隆・浅野・藤嶽・羽田・田中早）　13:00 ～ 17:30 医療薬学導入学習（松村人・中村敏・駒野・福森・井尻・幸田・角山・加藤隆・山口・田中早）　13:00 ～ 17:30											
		B ●	物理化学1	土井光	C202	B ●	有機化学1	和田俊　浦田 宇佐美　平野 山田　米山 菊地　平田佳 林淳　葉山	C202													
	2	A ●	英語スピーキング2	スミス　Guard Brotherton　佐藤真	情報　C101 C102 C103	A ●	薬理学2	大喜多	D302	A ●	漢方・生薬学実習（谷口・芝野・平田佳）　13:00 ～ 17:30 物理化学実習（友尾・土井光・尹・浅野・加藤巧）　13:00 ～ 17:30											
		B ●	薬理学2	大喜多	D302	B ●	英語スピーキング2	スミス　Guard Brotherton　佐藤真	情報　C101 C102 C103													
	3	A ●	病原微生物学	駒野	C204	A ●	薬物速度論	宮崎	C204	A ●	衛生薬学・放射化学実習（奥平・佐久間・長谷井・平田雅・山沖・東・小池）　13:00 ～ 17:30 薬理学実習（大野・大喜多・河合・清水・國澤・中川）　13:00 ～ 17:30 薬剤学実習（戸塚・永井・宮崎・本橋・門田・内山・竹林）　13:00 ～ 17:30											
		B ●	薬物速度論	宮崎	C205	B ●	病原微生物学	駒野	C205													
	4					A ○ B ○	医療政策論	城下	D303	A ● B	臨床導入学習2（岩永・中村任・中村敏・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・細畑・内田・羽田・庄司・音窪）　13:00 ～ 17:30											
	5	A ● B ●	病院実務実習・薬局実務実習（中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田） 特別演習・実習							A ● B ●	病院実務実習・薬局実務実習（中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田） 特別演習・実習　13:00 ～ 17:30											
	6	A ● B ●	薬学総合演習（岩永・友尾・宇佐美・藤森・佐久間・大喜多・宮崎・松村人・中村敏・中村任）（C105　C201）							A ● B ●	薬学総合演習（岩永・友尾・宇佐美・藤森・佐久間・大喜多・宮崎・松村人・中村敏・中村任）（C105　C201）											
水	1	A ●	英語リスニング2	スミス　田邊 神前　武井	情報 C101 C103 D306					A ●	基礎有機化学実習（宇佐美・平野・山田・菊地・林淳）　13:00 ～ 17:30 早期体験学習（中村敏・井上薫・芝野・幸田・角山・加藤隆・浅野・藤嶽・羽田・田中早）　13:00 ～ 17:30 医療薬学導入学習（松村人・中村敏・駒野・福森・井尻・幸田・角山・加藤隆・山口・田中早）　13:00 ～ 17:30											
						B ●	英語リスニング2	スミス　田邊 神前　武井	情報 C101 C103 D306	B ●												
	2	A ●	有機スペクトル 学演習	山田　浦田 宇佐美　平野 和田俊　米山 菊地　平田佳 林淳　葉山	D302	A ●	基礎漢方薬学	芝野	D302	A ○ B ○	専門職連携 医療論	中村敏、角山	D302	A ○ B ○	専門職連携 医療論	中村敏、角山	D302					
		B ●	基礎漢方薬学	芝野	D303	B ●	有機スペクトル 学演習	山田　浦田 宇佐美　平野 和田俊　米山 菊地　平田佳 林淳　葉山	D303	A ● B ●	漢方・生薬学実習（谷口・芝野・平田佳）　13:00 ～ 17:30 物理化学実習（友尾・土井光・尹・浅野・加藤巧）　13:00 ～ 17:30											
	3	A ●	医療と法	城下	C204	A ●	薬理学4	大喜多	C204	A ●	衛生薬学・放射化学実習（奥平・佐久間・長谷井・平田雅・山沖・東・小池）　13:00 ～ 17:30 薬理学実習（大野・大喜多・河合・清水・國澤・中川）　13:00 ～ 17:30 薬剤学実習（戸塚・永井・宮崎・本橋・門田・内山・竹林）　13:00 ～ 17:30											
		B ●	薬理学4	大喜多	C205	B ●	医療と法	城下	C205													
	4	A ● B ●	薬学基礎演習（大桃・恩田・藤森・宮崎・大喜多・和田・加藤隆・長谷井・佐藤）（D301）							A ● B ●	薬学基礎演習（大桃・恩田・藤森・宮崎・大喜多・和田・加藤隆・長谷井・佐藤）（D301）							特別演習・実習				
	5	A ● B ●	病院実務実習・薬局実務実習（中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田） 特別演習・実習							A ● B ●	病院実務実習・薬局実務実習（中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田） 特別演習・実習　13:00 ～ 17:30											
	6	A ● B ●	薬学総合演習（岩永・友尾・宇佐美・藤森・佐久間・大喜多・宮崎・松村人・中村敏・中村任）（C105　C201）							A ● B ●	薬学総合演習（岩永・友尾・宇佐美・藤森・佐久間・大喜多・宮崎・松村人・中村敏・中村任）（C105　C201）											
木	1	A ●	基礎細胞生物学	坂　口	D304	A ●	物理学2	竹本	D304	A ●	基礎有機化学実習（宇佐美・平野・山田・菊地・林淳）　13:00 ～ 17:30 早期体験学習（中村敏・井上薫・芝野・幸田・角山・加藤隆・浅野・藤嶽・羽田・田中早）　13:00 ～ 17:30 医療薬学導入学習（松村人・中村敏・駒野・福森・井尻・幸田・角山・加藤隆・山口・田中早）　13:00 ～ 17:30											
		B ●	物理学2	竹本	D303	B ●	基礎細胞生物学	坂　口	D303													
	2	A ●	英語ライティング2	田邊　Guard 堀　氏木	C101　C102 C103　C104	A ●	薬物治療学2	福森　幸田 加藤隆	D302	A ● B ●	漢方・生薬学実習（谷口・芝野・平田佳）　13:00 ～ 17:30 物理化学実習（友尾・土井光・尹・浅野・加藤巧）　13:00 ～ 17:30											
		B ●	薬物治療学2	福森　幸田 加藤隆	D302	B ●	英語ライティング2	田邊　Guard 堀　氏木	C101　C102 C103　C104													
	3	A ●	衛生薬学3	奥平	C204	A ●	薬物治療学4	幸田　井尻　内田	C204	A ●	衛生薬学・放射化学実習（奥平・佐久間・長谷井・平田雅・山沖・東・小池）　13:00 ～ 17:30 薬理学実習（大野・大喜多・河合・清水・國澤・中川）　13:00 ～ 17:30 薬剤学実習（戸塚・永井・宮崎・本橋・門田・内山・竹林）　13:00 ～ 17:30											
		B ●	薬物治療学4	幸田　井尻　内田	C205	B ●	衛生薬学3	奥平	C205													
	4	A ● B ●	特別演習・実習							A ● B ●	臨床導入学習2（岩永・中村任・中村敏・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・細畑・内田・羽田・庄司・音窪）　13:00 ～ 17:30											
	5	A ● B ●	病院実務実習・薬局実務実習（中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田） 特別演習・実習							A ● B ●	病院実務実習・薬局実務実習（中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田） 特別演習・実習　13:00 ～ 17:30											
	6	A ● B ●	薬学総合演習（岩永・友尾・宇佐美・藤森・佐久間・大喜多・宮崎・松村人・中村敏・中村任）（C105　C201）							A ● B ●	薬学総合演習（岩永・友尾・宇佐美・藤森・佐久間・大喜多・宮崎・松村人・中村敏・中村任）（C105　C201）											
金	1	A ●	分析化学1	天　滿	D302	A ●	英語リーディング2	楠瀬　藤本幸 井上径　大神	D305　D306 D307　D308	A ●	機能形態学1	大野　藤森	D303	A ●	生化学1	藤井忍	D303	A ○	倫理と社会	阪　本	C202	
		B ●	英語リーディング2	楠瀬　藤本幸 井上径　大神	D305　D306 D307　D308	B ●	分析化学1	天　滿	D302	B ●	生化学1	藤井忍	D302	B ●	機能形態学1	大野　藤森	D302					
	2	A ●	生物薬剤学1	永　井	D303	A ●	有機化学3	浦田　宇佐美 平野　山田 和田俊　米山 菊地　平田佳 林淳　葉山	C202	A ●	衛生薬学1	奥平 佐久間　長谷井	D304	A ●	数理統計学	永田	C202	B ○	コーチング論	当　麻	C205	
		B ●	有機化学3	浦田　宇佐美 平野　山田 和田俊　米山 菊地　平田佳 林淳　葉山	C205	B ●	生物薬剤学1	永　井	D304	B ●	数理統計学	永田	C205	B ●	衛生薬学1	奥平 佐久間　長谷井	D304					
	3	A ○ B ○	応用放射化学	大　桃	D301	A ○ B ○	臨床化学	山口	D301	A ○ B ○	精密有機合成化学	宇佐美	D301									
	4	A ● B ●	特別演習・実習							A ● B ●	薬学基礎演習（大桃・恩田・藤森・宮崎・大喜多・和田・加藤隆・長谷井・佐藤）（D301）							A ● B ●	特別演習・実習			
	5	A ● B ●	病院実務実習・薬局実務実習（中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田） 特別演習・実習							A ● B ●	病院実務実習・薬局実務実習（中村敏・中村任・恩田・金・井上薫・岡田・神林・和田恭・角山・加藤隆・羽田） 特別演習・実習　13:00 ～ 17:30											
	6	A ● B ●	薬学総合演習（岩永・友尾・宇佐美・藤森・佐久間・大喜多・宮崎・松村人・中村敏・中村任）（C105　C201）							A ● B ●	薬学総合演習（岩永・友尾・宇佐美・藤森・佐久間・大喜多・宮崎・松村人・中村敏・中村任）（C105　C201）											

●：必修科目　　▲：選択必修科目　　○：選択科目　　A・B：クラス区分　　※ B－1：B棟1階セミナー室　　C－3C：C棟3Cセミナー室　　情報：C棟4階情報科学演習室

実務実習　実施・指導・連携体制



大阪医科薬科大学薬学部　実務実習等専門委員会規程（案）

（令和３年４月１日施行）

（目　的）

第１条　この規程は、大阪医科薬科大学薬学部臨床薬学実践教育推進委員会規程第７条に基づき、薬学部の実務実習等専門委員会（以下、「専門委員会」という。）の運営に必要な事項を定める。

（任　務）

第２条　専門委員会は、薬学実務実習等に関する具体的な方針又は計画等について審議する。

（委員の構成）

第３条　専門委員会は、次の各号の委員をもって組織する。

(1) 教務部長
(2) 学生部長
(3) キャリアサポート部長
(4) カリキュラム委員長
(5) 臨床薬学教育研究センター長
(6) 事前学習実施部会責任者
(7) 実務実習実施部会責任者
(8) 総務課長
(9) 教務課長
(10) 臨床教育・研究支援課長
(11) 学生課長
(12) その他、専門委員会が必要と認めた者　若干名

（委員長）

第４条　専門委員会に委員長を置き、薬学部教授会（以下、「教授会」という。）の議を経て、薬学部長が指名する。

（事前学習実施部会及び実務実習実施部会）

第５条　専門委員会は、実務実習等を円滑に実施するため、事前学習実施部会及び実務実習実施部会を置く。

２　事前学習実施部会責任者及び実務実習実施部会責任者は、教授（特任）のうちから専門委員会の議を経て、薬学部長が指名する。

３　事前学習実施部会責任者及び実務実習実施部会責任者は、それぞれ、事前学習実施部会及び実務実習実施部会を組織し、実務実習等の具体的な準備及び実施にあたる。
４　事前学習実施部会責任者及び実務実習実施部会責任者は、それぞれ、前項の部会を構成する部会委員を指名する。なお、両実施部会委員を兼任することは、これを妨げない。
５　その他、事前学習実施部会及び実務実習実施部会の運営に関し必要な事項は、別に定めることができる。

（事前学習実施部会の任務）
第６条　事前学習実施部会は、臨床導入実習を含め、事前学習の実施に関し必要な事項について審議・実施する。

（実務実習実施部会の任務）
第７条　実務実習実施部会は、実務実習の実施に関し、次の事項について審議・実施する。
(1) 実習受入れ施設の調整と決定
(2) 実習前準備（抗体検査・予防接種、各種保険への加入、報告・連絡システムの整備、学生へのオリエンテーションなど）
(3) 評価（修得度）表及び日報の書式作成
(4) 訪問指導の準備（指導要領作成とその訪問指導担任教員への周知徹底、スケジュール調整等）
(5) 訪問指導
(6) 訪問指導担任教員からの報告の収集と定期的（緊急時はその都度の）検討と対応
(7) 指導薬剤師及び訪問指導担任教員からの実習に係わる種々の要望及び相談への対応
(8) 学生配属研究室の主任教員からの報告の収集及び対応要請
(9) 定期的実習評価と単位認定
(10) 成績不良者への対応
(11) 指導薬剤師との総合懇談会の定期的開催
(12) 実習期間中の学生に対する就職活動支援
(13) 実習成果のまとめ（報告集作成、報告会の開催など）
(14) 緊急時（病気、事故、災害、人的トラブル、その他ドロップアウトなど）への即時対応

（任　期）

第８条　第４条の委員長の任期は２年とする。ただし、再任を妨げない。
２　第５条第２項の各部会責任者及び同条第４項の各実施委員の任期は２年とする。ただし、再任を妨げない。
３　第３条第１２号の専門委員の任期は２年とする。ただし、再任を妨げない。

（事　務）
第９条　専門委員会に関する事務は、臨床教育・研究支援課が行う。

（規程の改廃）
第１０条　この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長が決定する。

附　　則
この規程は、令和３年４月１日から施行する。

薬学部学生の病院実習に関する契約書

○○病院（以下、甲 という）と、学校法人大阪医科薬科大学が置く大阪医科薬科大学（以下、乙という）は、甲の施設において、乙の学生（以下、実習生という）の薬学実務実習を実施するにあたり、次のとおり契約を締結する。

第1条（実習内容及び実習生）

乙は、甲に対し、実習を委託し甲はこれを受託する。なお、実習生の氏名等の個人情報等については、「学生プロフィール」又は「薬学実務実習の委託について」の提出をもって代える。

実習内容　「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）」に基づく、薬学部学生の薬学実務実習

第2条（実習の実施方法）

甲は、甲及び乙ならびに連携施設間での協議に基づき作成した「実習計画書」に従って実習を実施する。

第3条（実習教育費）

乙は、甲に対し、実習教育費として、11週間（原則55日間）実習生1人あたり＊＊＊，＊＊＊円（消費税別）を支払うものとする。部分的に受け入れた場合は、実習日数に応じた実習教育費（実習教育費を55で除した金額）を支払うものとする。支払いは、甲の請求に基づき、実習終了後支払うものとする。

第4条（実習生の健康状態）

乙は、甲に対し、実習開始前に実習生の健康状態を記載した書類を提出する。

2. 実習生は各種抗体検査（麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎）を実施し、甲が必要と認めた場合は、乙は甲に対して実習生の抗体検査結果を提出する。また、予防接種についても実習内容及び実習期間を勘案の上実施し、甲が必要と認めた場合は、乙は甲に対して実習生の予防接種実施状況を報告する。なお、検査結果について、甲は適正に管理する。

3. 本契約書に定める実習にあたって実習生の健康状態に問題が生じた場合には、甲乙協議の上、当該実習生の実習を中断又は中止することができる。

第5条（実習生への規則遵守の徹底）

乙は、実習生が実習を行うにあたり、甲が定める諸規則・心得等を遵守し、かつ実習指導者の指示に従うように実習生を指導しなければならない。

第6条（個人情報、秘密及びプライバシー（以下、個人情報等という）の保護）

実習の実施にあたって、甲乙双方は、個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 57 号（以下、「個人情報保護法」という）、個人情報保護委員会「個人情報の保護に関する法律についてのガイドライン（通則編）」及び厚生労働省「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス」に従い、甲の保有する患者をはじめとする個人情報等ならびに実習生の個人情報等の漏えいなどが生じないように、情報を適正に管理しなければならない。

2. 前項に基づき、乙は実習生に対し、個人情報等の保護に関する取扱いについて文書をもって十分に説明し、実習生の承諾のもとに、個人情報等の保護に関する誓約書を提出させるものとする。

3. 乙は、甲の求めがある場合、前項の文書及び誓約書を開示するものとする。

4. 乙は実習生に対し、実習終了後も甲の保有する個人情報等の保護を徹底するよう指導監督 しなければならない。

5. 甲は、実習終了後、実習生の個人情報等をすべて乙に返却しなければならない。ただし、病院機能評価等で不都合が生じる場合には、甲乙協議の上、一定期間適切に管理することを可とする。

第7条（個人情報等の保護状況の報告及び調査）

甲及び乙は、互いに実習中及び実習終了後の個人情報等の保護状況について、書面による報告を求めることができるものとし、甲及び乙は、遅滞なくこれに応じるものとする。

2. 甲及び乙は、互いに実習中及び実習終了後の個人情報等の保護状況について、確認のために調査することができるものとし、正当な理由がある場合を除き、これに協力するものとする。

第8条（法人機密情報の保護）

本契約における甲及び乙の法人機密情報とは、次の各号の情報をいう。

（1） 甲及び乙の経営及び事業運営に関する情報で公知でないもの

（2） 公知であっても、第三者に提供されることによって甲及び乙の権利利益が損なわれるおそれのある情報

2. 甲及び乙は、実習の実施にあたって、相手方の法人機密情報の漏えいなどが生じないように、法人機密情報の管理について、甲においては従業員、乙においては実習生に適切な指導をするとともに、実習終了後も法人機密情報の保護を徹底するよう指導監督する。

第9条（実習の中止）

甲又は乙は、以下に示す事項に該当すると判断したときは、甲乙協議の上、実習生の実習を中止させることができる。

（1）実習生が甲の定める諸規則・心得等に違反した場合

（2）実習生が甲の施設内の秩序あるいは規律を乱した場合

（3）実習生の責により実習の目的を果たし得ない場合

（4）実習生が実習期間中に生じた疾病・傷害等により長期欠席した場合

（5）甲又は実習生に個人情報等の保護に関して問題があった場合

(6) 甲又は実習生に相手方の法人機密情報の保護に関して問題があった場合
(7) 認定実務実習指導薬剤師が不在の場合など甲による実習指導の継続が不可能となった場合
(8) 甲と実習生との間に解決しがたい問題が発生した場合
(9) 甲が第2条に定める「実習計画書」に基づく実習を実施していないと乙が判断した場合。
2. 実習が中止となった場合の実習教育費の取扱いに関しては、甲乙協議の上、決定するものとする。

第10条(実習生の疾病及び傷害)

実習生の実習期間中における疾病及び傷害、又は実習を原因として実習後に生じた疾病及び傷害については、乙の責任において対処するものとする。ただし、甲の管理・監督不足または実習施設内(院内)感染などの感染源が特定されるなど、原因が甲に特定される場合は、甲の責任において対処するものとする。

第11条(損害賠償)

甲及び乙は、故意、過失ならびに甲又は乙の管理・監督不足により、相手方に事故、器物破損、機密情報の漏えいその他の損害を与えた場合は、その賠償責任を負うものとする。

第12条(第三者損害賠償)

実習生の故意、過失ならびに甲又は乙の管理・監督不足により、第三者あるいは甲の従業員等(以下、「第三者」という)に人的又は物的損害を与え、当該第三者と甲との間で損害賠償責任を問う紛争又は訴訟が発生した場合は、甲及び乙は、その当事者として誠意をもってその対応にあたるとともに、甲乙は、実習生と連帯して当該第三者に対する賠償責任を負うものとする。
2. 前項の賠償負担の割合及び求償については、甲乙協議の上、決定するものとする。

第13条(契約期間)

この契約書の期間は契約締結日から、2020年3月31日までとする。ただし、契約満了の2カ月前までに、甲又は乙から相手方に対する書面による変更の申し入れがないかぎり、同一条件で1年間延長するものとし、以降も同様とする。

第14条(その他の事項)

本契約に定めない事項及び契約条項に疑義が生じた場合又は変更については、それぞれ甲乙協議の上、解決する。

本契約の締結を証すために、本契約書を2通作成し、甲乙記名押印の上、各自その1通を保有するものとする。

（西暦）　　年　　月　　日

甲　医療提供施設名 （個人名又は法人名）

代表者名
注:理事長、病院長
又はそれに相当する者

所在地

乙　法 人 名　　学校法人 大阪医科薬科大学
代表者名　　理事長　植木　實
所 在 地　　大阪府高槻市大学町2番7号

薬学部学生の薬局実習に関する契約書

○○○○薬局（以下、甲 という）と、学校法人大阪医科薬科大学が置く大阪医科薬科大学（以下、乙 という）は、甲の施設において、乙の学生（以下、実習生という）の薬学実務実習を実施するにあたり、次のとおり契約を締結する。

第１条（実習内容及び実習生）

乙は、甲に対し、実習を委託し甲はこれを受託する。なお、実習生の氏名等の個人情報等については、「学生プロフィール」又は「薬学実務実習の委託について」の提出をもって代える。

実習内容　　「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成２５年度改訂版）」に基づく、薬学部学生の薬学実務実習

第２条（実習の実施方法）

甲は、甲及び乙ならびに連携施設間での協議に基づき作成した「実習計画書」に従って実習を実施する。

第３条（実習教育費）

乙は、甲に対し、実習教育費として、１１週間（原則５５日間）実習生１人あたり＊＊＊，＊＊＊円(消費税別)を支払うものとする。部分的に受け入れた場合は、実習日数に応じた実習教育費（実習教育費を５５で除した金額）を支払うものとする。支払いは、甲の請求に基づき、実習終了後支払うものとする。

第４条（実習生の健康状態）

乙は、甲に対し、実習開始前に実習生の健康状態を記載した書類を提出する。

２．実習生は各種抗体検査（麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎）を実施し、甲が必要と認めた場合は、乙は甲に対して実習生の抗体検査結果を提出する。また、予防接種についても実習内容及び実習期間を勘案の上実施し、甲が必要と認めた場合は、乙は甲に対して実習生の予防接種実施状況を報告する。なお、検査結果について、甲は適正に管理する。

３．本契約書に定める実習にあたって実習生の健康状態に問題が生じた場合には、甲乙協議の上、当該実習生の実習を中断又は中止することができる。

第５条（実習生への規則遵守の徹底）

乙は、実習生が実習を行うにあたり、甲が定める諸規則・心得等を遵守し、かつ実習指導者の指示に従うように実習生を指導しなければならない。

第６条（個人情報、秘密及びプライバシー（以下、個人情報等という）の保護）

実習の実施にあたって、甲乙双方は、個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号（以下、「個人情報保護法」という）、個人情報保護委員会「個人情報の保護に関する法律についてのガイドライン（通則編）」及び厚生労働省「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス」に従い、甲の保有する患者をはじめとする個人情報等ならびに実習生の個人情報等の漏えいなどが生じないように、情報を適正に管理しなければならない。

２．前項に基づき、乙は実習生に対し、個人情報等の保護に関する取扱いについて文書をもって十分に説明し、実習生の承諾のもとに、個人情報等の保護に関する誓約書を提出させるものとする。

３．乙は、甲の求めがある場合、前項の文書及び誓約書を開示するものとする。

４．乙は実習生に対し、実習終了後も甲の保有する個人情報等の保護を徹底するよう指導監督　しなければならない。

５．甲は、実習終了後、実習生の個人情報等をすべて乙に返却しなければならない。ただし、病院機能評価等で不都合が生じる場合には、甲乙協議の上、一定期間適切に管理することを可とする。

第７条（個人情報等の保護状況の報告及び調査）

甲及び乙は、互いに実習中及び実習終了後の個人情報等の保護状況について、書面による報告を求めることができるものとし、甲及び乙は、遅滞なくこれに応じるものとする。

２．甲及び乙は、互いに実習中及び実習終了後の個人情報等の保護状況について、確認のために調査することができるものとし、正当な理由がある場合を除き、これに協力するものとする。

第８条（法人機密情報の保護）

本契約における甲及び乙の法人機密情報とは、次の各号の情報をいう。

（１）　甲及び乙の経営及び事業運営に関する情報で公知でないもの

（２）　公知であっても、第三者に提供されることによって甲及び乙の権利利益が損なわれるおそれのある情報

２．甲及び乙は、実習の実施にあたって、相手方の法人機密情報の漏えいなどが生じないように、法人機密情報の管理について、甲においては従業員、乙においては実習生に適切な指導をするとともに、実習終了後も法人機密情報の保護を徹底するよう指導監督する。

第９条（実習の中止）

甲又は乙は、以下に示す事項に該当すると判断したときは、甲乙協議の上、実習生の実習を中止させることができる。

（１）実習生が甲の定める諸規則・心得等に違反した場合

（２）実習生が甲の施設内の秩序あるいは規律を乱した場合

（３）実習生の責により実習の目的を果たし得ない場合
（４）実習生が実習期間中に生じた疾病・傷害等により長期欠席した場合
（５）甲又は実習生に個人情報等の保護に関して問題があった場合
（６）甲又は実習生に相手方の法人機密情報の保護に関して問題があった場合
（７）認定実務実習指導薬剤師が不在の場合など甲による実習指導の継続が不可能となった場合
（８）甲と実習生との間に解決しがたい問題が発生した場合
（９）甲が第２条に定める「実習計画書」に基づく実習を実施していないと乙が判断した場合。
２．実習が中止となった場合の実習教育費の取扱いに関しては、甲乙協議の上、決定するものとする。

第１０条（実習生の疾病及び傷害）
実習生の実習期間中における疾病及び傷害、又は実習を原因として実習後に生じた疾病及び傷害については、乙の責任において対処するものとする。ただし、甲の管理・監督不足または実習施設内（院内）感染などの感染源が特定されるなど、原因が甲に特定される場合は、甲の責任において対処するものとする。

第１１条（損害賠償）
甲及び乙は、故意、過失ならびに甲又は乙の管理・監督不足により、相手方に事故、器物破損、機密情報の漏えいその他の損害を与えた場合は、その賠償責任を負うものとする。

第１２条（第三者損害賠償）
実習生の故意、過失ならびに甲又は乙の管理・監督不足により、第三者あるいは甲の従業員等（以下、「第三者」という）に人的又は物的損害を与え、当該第三者と甲との間で損害賠償責任を問う紛争又は訴訟が発生した場合は、甲及び乙は、その当事者として誠意をもってその対応にあたるとともに、甲乙は、実習生と連帯して当該第三者に対する賠償責任を負うものとする。
２．前項の賠償負担の割合及び求償については、甲乙協議の上、決定するものとする。

第１３条（契約期間）
この契約書の期間は契約締結日から、２０２０年3月３１日までとする。ただし、契約満了の２カ月前までに、甲又は乙から相手方に対する書面による変更の申し入れがないかぎり、同一条件で１年間延長するものとし、以降も同様とする。

第１４条（その他の事項）
本契約に定めない事項及び契約条項に疑義が生じた場合又は変更については、それぞ

れ甲乙協議の上、解決する。

本契約の締結を証すために、本契約書を２通作成し、甲乙記名押印の上、各自その１通を保有
するものとする。

（西暦）　　年　　月　　日

甲　医療提供施設名　（個人名又は法人名）

代表者名
注：理事長、病院長
又はそれに相当する者

所在地

乙　法 人 名　　学校法人 大阪医科薬科大学
代表者名　　理事長　植木　實
所 在 地　　大阪府高槻市大学町２番７号

大阪医科薬科大学薬学部
病院・薬局等における実習等の誠実な履行ならびに
個人情報等および病院・薬局等の法人機密情報の保護
に関する説明文書

本説明文書は、大阪医科薬科大学（以下、「本学」という）の薬学部のカリキュラムとしておこなわれる病院・薬局等における実習・研修・見学（以下、「実習等」という）において本学学生が守るべき事項のうち、特に、実習等の誠実な履行、実習等に関連して本学学生が取得した個人情報、秘密およびプライバシー（以下、「個人情報等」という）の保護、病院・薬局等の法人機密情報の保護に関するものである。

1. 実習等の誠実な履行

本学学生は、実習先病院・薬局等の定める諸規則・心得等を遵守し、実習指導者の指示に従って、実習等を誠実に履行する。

2. 個人情報等

1）「個人情報の保護に関する法律」において、個人情報とは、生存する個人に関する情報であって、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるもの（他の情報と容易に照合することができ、それにより特定の個人を識別することができることとなるものを含む）をいう。

2） 個人情報等には、以下の情報などが含まれる。

(1)特定の患者あるいはその関係者が識別できる情報
（カルテ情報、処方せん、データなどを含む）

(2)実習先病院・薬局等の特定の職員あるいはその関係者が識別できる情報

(3)特定の本学学生が識別できる情報

3. 個人情報等の適正管理

1） 本学および本学学生は、個人情報の保護に関する法律等、本学が定める個人情報保護規程、および実習先病院・薬局等の定める個人情報保護規程・機密保持規程等に従って個人情報等を適正に管理する。

2） 個人情報等を記録した文書、パソコン、記憶媒体などが紛失あるいは盗難に遭わないように最大限に配慮し、注意する。

3） 以下に掲げる行為は個人情報等の適正管理を妨げるものであり、本学学生はこれらの行為をおこなってはならない。

(1)個人情報等を、実習先病院・薬局等の許可なしに、基本契約に定める実習等を実施する以外の目的に使用すること

(2)実習先病院・薬局等の文書による許可なく個人情報等を第三者に提供すること

(3)個人情報等を、実習先病院・薬局等の許可なしに、複製・複写すること

(4)個人情報等を、実習先病院・薬局等の許可なしに、実習先病院・薬局の指定した場所以外へ持ち出すこと
(5)個人情報等を、実習先病院・薬局等の許可なしに、廃棄すること
(6)個人情報等を、実習先病院・薬局等の許可なしに、私有パソコンで取り扱うこと
(7)個人情報等を、ファイル交換ソフト(Winny など)を入れたパソコンで取り扱うこと
(8)個人情報等を、離席時あるいは退室時に、机上等に放置すること

4) 本学学生は、実習等の終了時に、実習先病院・薬局等の指示に従い、実習等の間に取得した個人情報等およびその複製物・複写物のすべてを、返還または廃棄しなければならない。

5) 本学学生は、実習等の終了後においても、個人情報等の保護義務を負う。

4. 病院・薬局等の法人機密情報の保護

1) 本文書の「病院・薬局等の法人機密情報」とは、以下の情報をいう。
(1)実習先病院・薬局等の経営および事業運営に関する情報で公知でないもの
(2)公知であっても、第三者に提供されることによって実習先病院・薬局等の権利利益が損なわれるおそれのある情報

2) 以下は本文書の病院・薬局等の法人機密情報の対象ではない。
(1)情報取得時に既に公知であった情報
(2)情報取得後、本学学生の責によらず公知となった情報
(3)情報取得時に既に本学学生が保有していた情報
(4)正当な権限を有する第三者から秘密保持義務を負わず入手した情報
(5)法令その他に基づき公的機関等により開示を要求された情報

本学学生は、病院・薬局等における実習等において、法人機密情報の保護義務を負う。法人機密情報の適正管理については、前項の個人情報等の適正管理に従う。

5. 周知徹底の義務

本学は本学学生に対し、個人情報等および法人機密情報の保護義務を履行するために、個人情報等および法人機密情報の取扱いについて周知徹底しなければならない。

6. 誓約書の提出

本学学生は、以上の条項を理解した上で、これを遵守する証として、「病院・薬局等における実習等の誠実な履行ならびに個人情報等および法人機密情報の保護に関する誓約書」を提出する。

以上

大阪医科薬科大学
病院・薬局等における実習等の誠実な履行ならびに
個人情報等および病院・薬局等の法人機密情報の保護
に関する誓約書

大阪医科薬科大学長　殿

1. 私は、大阪医科薬科大学薬学部学生として実習先病院・薬局等において実習・研修・見学（以下、「実習等」という）をおこなうにあたり、「大阪医科薬科大学薬学部　病院・薬局等における実習等の誠実な履行ならびに個人情報等および病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する説明文書」の事項を十分に理解しましたので、これを遵守いたします。

2. 私は、実習先病院・薬局等の定める諸規則・心得等を遵守し、実習指導者の指示に従って、実習等を誠実に履行いたします。

3. 私は、実習等の期間中はもちろん、その後においても、実習等において知り得た個人情報等および法人機密情報を第三者に漏えいいたしません。

4. 私は、私の故意または過失により、実習先病院・薬局等、その関係者、あるいは第三者に事故、器物破損、個人情報等および法人機密情報の漏えいその他の損害を与えた場合は、その賠償責任を負います。なお、大学が賠償を負担した場合は、大学の求償に応じます。

以上、誓約いたします。

令和　　年　　月　　日

住所 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学籍番号 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

施設での実務実習スケジュール

薬局実習

第1週	導入
第2週	保険調剤
第3週	
第4週	
第5週	薬物治療モニタリング 情報提供
第6週	
第7週	
第8週	
第9週	
第10週	地域貢献の実践
第11週	

病院実習

第1週	導入
第2週	内服・外用薬調剤
第3週	注射薬調剤・無菌調製
第4週	病棟業務実践
第5週	
第6週	
第7週	
第8週	
第9週	
第10週	DI・TDM・医薬品管理
第11週	

令和元年度　Ⅲ期・Ⅳ期　実務実習ガイダンス

日　時：令和　１年　７月２３日（火）　　10：00～
場　所：D棟３階　講義室　Ｄ－３０２

１．全般的な説明

（１）実習期間

３期
令和　１年　８月２６日（月）～１１月１１日（月）の内の原則５５日間
４期
令和　１年１１月２５日（月）～令和　２年　２月１６日（日）の内の原則５５日間
（１２月３０日（月）～１月５日（日）を除く）

（２）実習期間中の実習担当教員の施設への訪問（原則２回）

３期
①　　９月　２日（月）～　９月２７日（金）
②　１０月１４日（月）～１１月　８日（金）
４期
①　１２月　２日（月）～１２月２６日（金）
②　令和　２年　１月２０日（月）～　２月１４日（金）

（３）特研教員とのコンタクト・登校日（コンタクト期間）

３期
９月２８日（土）～１０月１３日（日）
４期
令和　２年　１月　７日（火）～　１月１９日（日）
上記期間中に，特研教員からメール或いは電話などで実習状況を確認する
研究室によっては，登校日を設定し情報交換の場とする場合もある

２．実習にあたっての諸注意事項

（１）学生の実習施設への事前訪問

・事前訪問の連絡は　７月２４日（水）から開始する
・訪問にあたっては、必ず事前に電話予約（アポイント）を入れてから訪問すること
※アポイントをとる際には業務多忙と考えられる時間帯は避けること
・出来るだけ早期に訪問すること
・訪問時の服装はリクルートスーツとする
・訪問時の態度に注意する（第一印象が後の評価に影響する）
・遅くとも事前訪問までに実習記録システムの「学生プロフィール」欄への記入を済ませておくこ

と

・複数の学生が実習する施設では全員揃って訪問すること
訪問にあたっては、事前に学生間で相談の上、担当（１１ページの「◎印」）が代表してアポイントをとり、他の学生に連絡すること

・施設アンケートの内容を事前に確認してから訪問すること。不明な点等については、訪問時に確認すること

※訪問日時が決まり次第、実習担当教員に訪問日をメールにて連絡すること

（２）事前訪問で確認する事項

・交通手段　⇒ 原則、公共交通機関を利用する

・実習時間
原則、月曜日～金曜日の午前９時～午後５時

※あくまで基本である。不明な時は訪問時に確認する

土・日曜日の研修や平日でも時間延長の場合がある
薬局の中には、平日の午後に閉店する場合があり、代わりに土曜日の実習や平日の時間延長といった場合もある

・薬剤師会等の研修会参加、他施設での実習がある
指導薬剤師の判断で参加を促される場合がある
薬剤師会での薬局製剤等の集合研修会に参加する場合もある

・集合場所や時間、昼食、ロッカー、持ち物について確認する

・緊急時（忌引き、事故、自然災害等）の連絡先、連絡方法等を確認しておくこと

（３）代休、振替実習

・時間外の実習や、振替日の実習(土曜)を行った場合、実習時間に応じ代休となる場合がある

※日誌には「欠席」と記入し、備考欄に〇月〇日の代休と必ず記入すること

（４）実習を欠席する場合

・必ず実習施設（指導薬剤師）に事情を説明し了解を得た上、①臨床教育・研究支援課、②実習担当教員、③特研教員にメールで連絡する
後日、「欠席届」を臨床教育・研究支援課に提出すること

・「欠席届」は、欄外に実習担当教員の署名・捺印をもらった上で臨床教育・研究支援課に提出すること

・公休(７ページ)に該当する場合でも欠席届を提出すること

・病気により３日以上実務実習を欠席した場合は、診断書もあわせて提出すること

・発熱・下痢等の体調不良時には指導薬剤師の指示に従うこと

＊外から帰ったときは、「手洗い」や「うがい」を励行すること
咽頭粘膜や手指など身体に付着したウイルスを物理的に除去するために有効な方法であり、感染予防の基本です。

※何らかの事情により実習ができない時には、必ず臨床教育・研究支援課に連絡すること

（5）実習担当教員、臨床教育・研究支援課への連絡に際して

・携帯電話に電話番号およびメールアドレスの登録をしておくこと（8ページ参照）

・口頭連絡時は実習施設名および学籍番号・氏名を忘れずに伝えること

（6）臨床教育・研究支援課からのお願い

・実習期間中に臨床教育・研究支援課から連絡する場合、原則としてポータルサイトを通して行う

必ずユニバーサルパスポートに転送先のメールアドレス（スマートフォン・携帯電話など）の登録をし、連絡事項がメールで受信できるように設定しておくこと

・携帯電話番号およびメールアドレスを変更した場合は、必ず臨床教育・研究支援課に連絡すること

3．実習記録について

事前訪問前（実務実習開始前）までに行うこと（指導薬剤師が見て実務実習の参考とする）

- 「学生プロフィール」⇒「自己紹介」
  自己紹介、4年次までの学習、将来の希望、目指す薬剤師像を入力する。
- 「学生プロフィール」⇒「薬局（病院）実習自己目標」
  実習に対する気持ち、実習における個人目標を入力する。

実務実習が始まって行うこと

実習日誌の記載内容は、指導薬剤師と大学担当教員からの評価の対象です。必ず定められた時期に記載すること。実習日誌の記載例は、別紙を参照すること。

✧毎日行うこと

- 「実習日誌」
  ① 出欠状況
  ② 具体的な実習内容（【本日の目標】、【本日得たこと】、【関連して調べたこと】等：実習日誌記載例に習って項目立てて記載
  ③ 1日のスケジュール（午前　調剤　午後　在宅　等でも可能）
  ④ 場所
  ⑤ 関わった疾患のべ人数（処方解析等をしたもの　ピッキングのみは入れない）
  ⑥ 服薬指導を実施した疾患人数
  ⑦ 実習にて達成できなかった点
- 指導薬剤師からのコメントは必ず読み、直にその日の日誌に反映、対応する。

✧毎週行うこと

- 「一週間振り返り」
  ① 実習したこと
  ② 関わった疾患とその人数、服薬指導を実施した疾患とその人数（日々の人数が自動集計

されます）

③　理解、実践、今週出来なかったことに対する改善策、施設・大学に伝えたいこと

このレポートは、薬局・病院の指導薬剤師が、それぞれの実習の参考にするために相互に閲覧できるようになっています。

- 指導薬剤師、大学教員からのコメントは必ず読み、対応する。

✧適宜行うこと

- 「到達度評価」

■項目：評価追加で段階を入力（チェックポイント SBOs を参考とする）。

□項目：評価追加すると実施した日が入力される。

自己評価は、進捗状況により何度行ってもよいが、4 週目、8 週目、最終週には必ず自己評価を実施し、到達度評価を実施した旨を指導薬剤師に伝え現段階での指導薬剤師評価を受けること。

特に、評価で指導薬剤師と乖離が大きい場合、振り返り面談を行い、次の段階へのステップアップを行う。

✧4 週目、8 週目に行うこと

- 「到達度評価」

必ず 4 週目、8 週目には自己評価を行い、指導薬剤師の評価を受けること。時期を過ぎると進捗レポートに反映されないので注意する。

- 「学生プロフィール」⇒「薬局（病院）実習自己目標」

実習個人目標達成度(4 週目終了時) (8 週目終了時)を入力する。

✧最終週、実務実習終了後に行うこと

- 「到達度評価」

必ず最終週に自己評価を行い、指導薬剤師の評価を受けること。時期を過ぎると進捗レポートに反映されないので注意する。

- 「学生プロフィール」⇒「薬局（病院）実習自己目標」

実習個人目標達成度(実習終了時)、実務実習の自己評価を入力する。

- 「実習日誌」⇒「カレンダー」⇒「実習全体の振り返り」

各項目を入力する。このレポートは、薬局・病院の指導薬剤師が、それぞれの実習の参考にするために相互に閲覧できるようになっています。

- 「データ出力」⇒学校提出用書類をプリントアウトする。

出欠集計表は、指導薬剤師の印をもらう。

４．実務実習終了後すみやかに実施する項目

（出欠表、進捗レポート、報告書、アンケート、欠席届の提出）

・出欠表：最終日に出力し、指導薬剤師の印をもらい提出すること

（必ず学生本人のログイン画面の内容を出力してください）

・**進捗レポート：実習記録システムの「データ出力」メニューから出力すること（実習記録システムを用いない（手書き）施設の者はポータルサイトから様式をダウンロードすること）**

（4週・8週・最終週の時点で自己評価を入力したもの）

・報告書：ポータルサイトからダウンロードしパソコンで作成すること

・アンケート：ポータルサイトからダウンロードするか、臨床教育・研究支援課備え付けの用紙を使用すること

・**パワーポイント：実務実習の成果を「配付資料１ページ６スライド」で２ページ以上を出力したもの**

・欠席届：ポータルサイトからダウンロード、もしくは臨床教育・研究支援課に取りにくること

（平日の９時～１７時）

・提出期限：　**3期　11月15日（金）　午後5時まで**

4期　令和　2年　2月21日（金）　午後5時まで

・提出場所：臨床教育・研究支援課（Ｂ棟５階）

・施設への礼状：実習終了後１週間以内に出すこと（手紙もしくはハガキ）

５．情報の取り扱い

・守秘義務を負っていることを念頭に行動すること

・SNS（LINE, Twitter, Facebook, ブログ, 掲示板など）を通じての安易な情報発信は慎むこと

６．教科書

・「２０１９年版薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト」を用いる

・実習施設には、「治療薬マニュアル」を携帯すること

７．白衣のクリーニングについて

実習には清潔な白衣を持参すること

ブックセンターにおいても白衣のクリーニングの取扱いを行なっています

１．料金　　１枚６５０円（前払い）

２．受付と仕上がり　「折りたたみ仕上げ」で、月曜日又は木曜日に受け取れる

（１）月、火、水曜日の受付 → 翌週の月曜日仕上がり

（２）木、金、土曜日の受付 → 翌週の木曜日仕上がり

３．その他　　「白衣」のみの取扱い

薬品の汚れは多くの場合「染み抜き」処理が必要となります

８．評価について

実習施設の実習終了時評価表、実務実習記録の内容、提出物等を「実務実習実施部会」で総合的に評価の上、実務実習の単位認定とする。

なお、下記事項に該当する場合、一定期間の再実習やレポートの提出、面談等のうえ再度評価する。（９ページ「実習終了評価表」参照）

(1)実習終了時評価表に「1」がある場合

(2)実習終了時評価表に複数の「2」がある場合

(3)複数回の遅刻(交通機関の遅れを除く)や早退、欠席日数（病欠も含む）が多く実習期間が不十分と判断された場合

(4)大学の指定した提出物（報告書、欠席届等）を定められた提出日までに提出しなかった場合

(5)伝達報告会に参加しなかった場合

(6)実習期間中の実習態度や姿勢など実習生として不適切な行動をとったと判断された場合（実習終了後（単位認定後も含む）に不適切な行動が判明した場合を含む）

(7)指導薬剤師、大学教員からの指導で、改善がみられなかった場合

９．実習の中止について

大学は、実習施設の実習生受け入れについて契約を締結している。その中で、実習施設での諸規則・心得等を遵守することが明示されている。

したがって、実習施設からの申し出があり、かつ大学が中止もやむを得ないと判断した場合は、実習を中止することがある。

同様に、大学が中止もやむを得ないと判断した場合でも、実習を中止することがある。

１０．学生からの質問

１１．実習施設からの連絡事項（グループ別になって）・・・・場所移動

実習担当教員が事前訪問で得た情報・注意事項など、施設ごとの個別面談等を実施する

－　メモ　－

公休（出席扱い）の取扱い（2019 年度）

下記に該当する場合は公休とする．

１．慶弔休暇

１）学生の父母，子または配偶者が死亡した時　5 日

２）学生の祖父母，兄弟姉妹または配偶者の父母が死亡した時　3 日

２．交通ストまたは災害等により交通機関が使用できなくなった場合（徒歩で実習先に向かう場合を除く）

１）7 時までに解除した時　通常どおり

２）10 時までに解除した時　午前中公休

３）10 時以降に解除した時　終日公休

４）上記１）～３）については実習施設と予め協議した上決定する．

３．大雨特別警報（土砂災害)、大雨特別警報（浸水害)、暴風特別警報、高潮特別警報、波浪特別警報、暴風雪特別警報、大雪特別警報、大津波警報、噴火特別警報（噴火警報居住地域)、緊急地震速報（震度 6 弱以上）および暴風警報が発令された場合あるいは津波警報等により実習先への移動を控える必要が生じた場合

１）7 時までに解除された時　通常どおり

２）10 時までに解除された時　午前中公休

３）10 時以降に解除された時　終日公休

４）上記１）～３）および災害が予測される場合は実習施設と協議した上決定する．

４．裁判員制度により裁判員の指名を受けた場合に出頭等の手続きが必要になった場合，公休とする。ただし、終日休む必要がない場合は，午前中公休あるいは午後公休とする。

５．学校保健安全法施行規則第 18 条に定めた下記の「学校において予防すべき感染症」に罹患した場合，同施行規則第 19 条に定めた出席停止期間を公休とする．

・第一種　エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎（ポリオ)、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（ＳＡＲＳ)、及び特定鳥インフルエンザ、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律　（平成十年法律第百十四号）　第六条第七項　から第九項までに規定する新型インフルエンザ等感染症、指定感染症（中東呼吸器症候群（ＭＥＲＳ）等）及び新感染症

・第二種 インフルエンザ、百日咳、麻しん、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱、結核及び髄膜炎菌性髄膜炎

・第三種 コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎

・その他の感染症（第三類として扱う場合もある）　感染性胃腸炎、サルモレラ感染症，カンピロバクター感染症、マイコプラズマ感染症等

＊上記、公休に該当する事項で欠席した場合、欠席日数が長期間にわたるときは、補講を受けなければならない．この場合の補講については、学生、大学、関係機関等と協議して決める．

公休の場合の連絡

１．上記１．５．の場合

学生は可及的速やかに大学の指導担当教員および指導薬剤師に電話連絡する．

２．上記２．３．４．の場合

学生は可及的速やかに大学の指導担当教員および指導薬剤師に電話またはメール連絡する．

３．上記５の場合

学生は、原則、後日医師の診断書を大学に提出すること．

【実習担当教員への連絡について】

（実習中で困ったこと、相談したいことの連絡方法・手段）

◍平日の時間帯（9時～17時）

臨床教育・研究支援課　　メール　XX@XXXX.ac.jp
電話　072－690－XXXX（直通）
FAX　072－690－XXXX

◍上記時間外（休日含む）

実習担当教員へ

実習担当教員	携帯	メールアドレス（携帯）
A	080−XXXX−XXXX	XXXX@XXXX.ne.jp
B	080−XXXX−XXXX	XXXX@XXXX.ne.jp
C	080−XXXX−XXXX	XXXX@XXXX.ne.jp
D	080−XXXX−XXXX	XXXX@XXXX.ne.jp
E	080−XXXX−XXXX	XXXX@XXXX.ne.jp

＜担当教員に連絡が付かない場合の代理＞

担当の教員		左の教員に連絡が取れない時
A	⇒	B
B	⇒	C
C	⇒	D
D	⇒	E
E	⇒	A

実習終了時評価表

大阪薬科大学　　学籍番号（　15***　）　　氏名　　（　　大薬　太郎　　）

実習態度・実習内容の習得度は、5 段階（5 優れている　－　3 ふつう－　1 劣る）で評価

１．実習期間中の実習態度	
マナー	
積極性、探求心	
協調性	
医療人となるための心構え	
社会的常識	

２．実習内容の修得度					
	(1) 薬学臨床の基礎	(2) 処方箋に基づく調剤	(3) 薬物療法の実践	(4) チーム医療への参画	(5) 地域の保健・医療・福祉への参画
医療関連科目の基礎学力					
学習内容の理解度					
実務の処理能力					
実習中の質疑応答能力					
報告書作成能力					

３．概評

年　　月　　日

施設名

責任者名　　（　　印　）

指導薬剤師名　（　　印　）

大阪薬科大学
実務実習に向けての諸注意（服装・身だしなみ等）について

※本学学生には次の通り指導しております。

その他、補足事項等がございましたら、同封の「施設アンケート」（2）の②にご記入ください。

白衣	清潔で、しみ、しわのない白衣を2枚用意すること。 袖口からひもが出ていないこと。
白衣の下の着衣	シャツ、ブラウスは衿ぐりのしみや汚れ、すり切れないものを着用すること。 スラックスはしみや汚れ、裾のすり切れのないものを着用すること。 Tシャツ、ジーンズを不可にされている施設があるので注意すること。 Tシャツ、ジーンズの着用が許可されている施設においても色は控えめにすること。 Tシャツは大きなプリント柄のあるものは避けること。 スラックスの丈は床を引きずらないような長さにすること。 スカートは実習の邪魔にならないような丈にすること。（短すぎたり、白衣から大きくはみ出さないような長さにすること）
名札	胸につける。
上履き	清潔で、すべらない、音のしない、色は派手でないものを用意すること。 （白のスニーカーが望ましい。）

行き帰りの服装	清潔であること。 施設への行き帰りも実習中と心得えること。短パンや草履ばき、後ろを踏んだ靴などは禁止。 更衣室、ロッカーを利用できない施設もあるため、事前に確認しシンプルな服装をすること。 施設外での実習の指示（患者宅訪問など）にも対応できる服装を考慮しておくこと。
ヘアスタイル	清潔であること。 肩より長い髪は後ろでまとめること。 長い前髪は邪魔にならないように留める。横もしっかり留めること。 色は自然な色。（黒を原則とする） 香りの強い整髪料、スプレーは禁止。
化粧	控え目にすること。 つけまつげ禁止。マスカラも原則禁止。 香水、オーデコロンなど香りの強いものは禁止。
爪	短く切り、清潔にすること。 マニュキュア、付けづめは禁止。
ひげ	ひげは毎日剃ること。
装飾品	ネックレス、イヤリング、ピアス、指輪、ブレスレットは禁止。 施設への行き帰りも実習中と心得え、派手なものは控えること。

複数学生が実習する施設

【薬局】

施設名	代表	学籍番号	研究室
XX 薬局	◎	XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
XX 薬局	◎	XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
XX 薬局	◎	XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室

【病院】

施設名	代表	学籍番号	研究室
XX 病院	◎	XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
XX 病院	◎	XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
XX 病院	◎	XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室

【病院（大阪医科薬科大学グループ実習）】

前半実習施設			
大阪医科薬科大学附属病院	◎	XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
XX 病院		XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室

後半実習施設			
大阪医科薬科大学附属病院	◎	XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
XX 病院		XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室
		XXXXX	XXXX 研究室

実習担当教員別　学生一覧

3期

A教授	B教授	C教授	D教授	E教授
（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）
（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）
（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）
（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）
（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）
（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）
（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）
（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	
（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	
（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	
（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	
（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	
（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	
（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	
（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	
	（学籍番号）			
	（学籍番号）			
	（学籍番号）			

4期

A教授	B教授	C教授	D教授	E教授
（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）
（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）
（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）
（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）
（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）
（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）
（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）
（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）
（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）
（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）
（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）	（学籍番号）
	（学籍番号）		（学籍番号）	（学籍番号）
			（学籍番号）	（学籍番号）
			（学籍番号）	（学籍番号）
			（学籍番号）	（学籍番号）
			（学籍番号）	（学籍番号）
			（学籍番号）	（学籍番号）
				（学籍番号）
				（学籍番号）

授業科目の概要（実務実習　事前学習）

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

授業科目の名称	講義等の内容	備考
臨床薬学概論	4年次で行われる「臨床導入実習」の序論を成すもので、さらに5年次で行われる「病院・薬局実務実習」のための準備学習となることを目的とする。講義では、病院・薬局における薬剤師業務全体の流れ、医薬品管理の意義や流れ、医薬品管理の意義と必要性、医薬品管理の流れ、劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬及び覚醒剤原料等の管理と取扱い、特定生物由来製品の管理と取扱い、代表的な放射性医薬品の種類と用途・保管管理方法、法的な調剤業務に関わる事項（処方せん、調剤録、疑義照会等）の意義や取扱い、代表的な疾患に使用される医薬品の効能・効果・用法・用量・警告・禁忌・副作用・相互作用、処方オーダリングシステム及び電子カルテ、処方せんの様式と必要記載事項・記載方法、処方せんの監査の意義とその必要性・注意点、処方せんの監査、不適切な処方せん、主な医薬品の成分・商品名・剤形・規格等、代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せ、感染予防の基本的考え方とその方法、代表的な消毒薬の用途・使用濃度・調製時の注意点、院内製剤の意義・調製上の手続き・品質管理、薬局製剤について学習する。	
医薬品情報学	医薬品情報・患者情報の収集・評価・加工・提供・管理に関する基本的事項の修得を目的とする。講義では、医薬品を使用したり取り扱う上での必須の医薬品情報、医薬品情報に関わる職種と役割、医薬品添付文書の法的位置付け、医薬品添付文書の記載項目、医薬品インタビューフォームの位置付けと医薬品添付文書との違い、厚生労働省等の発行する資料、目的に合った適切な情報源の選択と必要な情報を検索・収集、医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報、副作用の因果関係を評価するための方法、医薬品の開発過程で行われる試験と得られる医薬品情報、医薬品情報に関係する代表的な法律・制度とレギュラトリーサイエンス、薬物治療に必要な患者基本情報、患者情報源の種類・違い、問題志向型システム、SOAP形式などの患者情報の記録方法、医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報、患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性、医薬品情報源の一次資料・二次資料・三次資料の分類、医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料の特徴、MEDLINE などの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード・シソーラスの重要性、医薬品情報の信頼性・科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目、臨床試験などの原著論文および三次資料における医薬品情報の質の評価、医薬品情報をニーズに合わせた加工・提供と管理する際の方法と注意点、病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目、医薬品情報に基づく代表的な同種同効薬の有効性や安全性の比較・評価、医薬品情報に基づく先発医薬品と後発医薬品の品質・安全性・経済性の比較・ 評価について学習する。	共同 講義14時間 演習10時間
臨床導入学習１	「病院・薬局実務実習」において、実臨床現場にて積極的・効果的かつ安全に実習に取り組めるように薬物療法・チーム医療・地域保健医療の基本的な知識・技能・態度の修得を目的とする。この授業では、調剤を始めるにあたって、病院での調剤業務、処方せんと薬袋、計数調剤：内用剤・外用剤、計量調剤：散剤・水剤・軟膏剤、錠剤鑑別、新薬・ジェネリック医薬品、処方鑑査、調剤過誤・医療安全、特別な薬剤の調剤（毒薬、麻薬・向精神薬）、フィジカルアセスメント、医薬品の適正使用、チーム医療（病院）、臨床栄養、注射剤処方鑑査、注射薬調剤、一般院内製剤・薬局製剤、配合変化（一般製剤・注射剤）、簡易懸濁法、無菌操作、高カロリー輸液の調製、抗悪性腫瘍剤の調製、病院薬剤師業務（初回面談、持参薬管理、疑義照会、服薬指導）、薬局薬剤師業務（医の倫理と患者の基本的権利、在宅医療への関わり、初回面談、疑義照会、服薬指導、薬歴管理、在宅医療への関わり、セルフメディケーション）について学習する。	共同

授業科目の概要（実務実習　事前学習）

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

授業科目の名称	講義等の内容	備考
個別化医療	（概要） 「予測・予防の医療」における「一次予防」「二次予防」「三次予防」の概念及び「重篤副作用」「初期症状」についての基本的知識の修得を目的とする。また、個別化医療に必須となる情報について把握し、医薬品適正使用を行うことができるための基本的知識の修得を目的する。（オムニバス方式／計8回） （27　井尻好雄／4回） 「薬禍・薬害」と「Precision Medicine」の関連性、予測・予防の医療と重篤副作用概説・リスクマネジメントプラン、妊娠・授乳期における薬物動態と生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点、低出生体重児・新生児・乳児・幼児・小児における薬物動態と薬物治療で注意すべき点、高齢者及び心疾患・心機能低下時における薬物動態と薬物治療で注意すべき点について学習する。 （44　加藤隆児／2回） 吸収・分布・排泄過程における薬物相互作用と薬物中毒時の個別対応、治療的薬物マネジメント（TDM）への応用・症例解析、コンパニオン診断とがんゲノムパネル検査について学習する。 （42　細畑圭子／2回） 代謝・排泄過程における遺伝子多型と個別化薬物治療、移植医療の原理・方法と手順・現状及びゲノム情報の取扱いに関する倫理的問題点、薬物の主作用及び副作用に影響する代表的な遺伝的素因について学習する。	オムニバス
コミュニティファーマシー	社会保障制度、医療政策、医療経済、医療・福祉・行政関連機関や職種に関する基礎的知識の修得、また、医薬分業の意義や地域における薬局・薬剤師の役割について考え行動できるための素地の涵養を目的とする。講義では、国民医療費、療養担当規則、医薬分業、地域における薬局の役割 （かかりつけ薬局・薬剤師、医療安全の確保、パブリックヘルスの向上、地域包括ケアと多職種連携、介護保険制度、在宅医療）、調剤報酬・診療報酬及び介護報酬の仕組み、薬価基準制度、医薬品の市場の特徴と流通の仕組み、後発医薬品とその役割、薬物療法の経済評価手法、プライマリ・ケアとセルフメディケーションについて学習する。	講義16時間 演習8時間
臨床導入学習２	「病院・薬局実務実習」において、実臨床現場にて積極的・効果的かつ安全に実習に取り組めるように薬物療法・チーム医療・地域保健医療の基本的な知識・技能・態度の修得を目的とする。この授業では、法令・規則等の理解と遵守、処方箋と疑義照会、処方箋に基づく医薬品の調製、患者・来局者応対、服薬指導、患者教育、安全管理、患者情報の把握、チーム医療への参画、在宅（訪問）医療・介護への参画、プライマリケア、セルフメディケーションの実践について学習する。	共同

薬学実務実習における教員配置計画

地区		主担当者	担当者	担当病院数	担当薬局数
近畿地区	大阪北部	教員A・教員C	教員A	12	26
			教員C	16	27
			教員D	1	10
			教員E	1	12
	大阪南部・奈良・和歌山	教員B・教員A	教員B	25	42
			教員A	6	12
			教員C	5	5
	京滋	教員D	教員D	10	20
			教員E	1	
	兵庫	教員E・教員C	教員E	12	21
			教員C	3	3
近畿地区外（ふるさと実習）	富山		教員A	1	1
	三重		教員D	2	2
	鳥取		教員E	3	3
	島根		教員A	1	1
	岡山		教員C	3	3
	広島		教員E	3	3
	香川		教員D	2	2
	高知		教員D	3	3

＊平成31年度の実績等に基づき、担当者の延べ担当施設数を想定したものである。

科目名　病院実務実習

指導教員	年次・期間	単位	選必区分
中村敏明、中村任、恩田光子、金美惠子、井上薫、岡田博、神林祐子、和田恭一、角山香織、加藤隆児、羽田理恵	５年次・通年	10	必修

授業の目的と概要

本科目は、６年制薬学教育にあたって義務付けられている病院における参加型実務教育科目であり、臨床に係る実践的能力を持つ薬剤師を養成することを目的とする。

一般目標（GIO）

・患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。

・医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活躍する臨床現場で必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れを把握する。

・処方せんに基づいた調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的調剤業務を修得する。

・患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得する。

・医療機関や地域で、多職種が連携・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における多職種の役割と意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案と実施ができる。

・地域での保険・医療・福祉に積極的に貢献できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解するとともに、これらの活動に参加することで、地域住民の健康の回復、維持、向上に関わることができる。

授業の方法

病院での実習

成績評価

I. 概略評価

指導薬剤師と実習生が、定期的（２～４週間毎を目安）に、概略評価表を基に評価を行い、実習の振り返りを行うことで実習生がどの程度、何が成長したかを評価する。

II. 実務実習記録（日誌・レポート）による評価

実習生は、毎日の日誌に自分がその日学習した内容、体験した事例、修得した能力等を簡潔に記録して指導薬剤師、教員等の指導者に提示する。指導者は、その日誌の報告から実習生の実習の進捗状況を確認するとともに、実習についてフィードバックを行う。実習生は、指導者からのアドバイスを受けて薬剤師として求められる臨床能力の成長を確認する。

III. 合否に関わる成績の決定

科目名　病院実務実習

大学では、実務実習記録による評価 50%、学生との懇談内容 10%、指導薬剤師による評価 30%、学生のルーブリック 10%という割合で、総合評価を行う。

学位授与方針との関連

本科目は以下のディプロマポリシーと関連している。

○薬剤師として医療に関わるための基本的知識・技能・態度を有していること。

○チーム医療や薬物療法に必要な専門的知識・技能・態度を有していること。

○薬の専門家に必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有していること。

○地域において必要な情報を適切に発信し、人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有していること。

○薬学・医療の進歩に対応するために自己研鑽し、次なる人材を育成する意欲と態度を有していること。

関連する科目

臨床系関連科目・内容：「臨床薬学概論」、「医薬品情報学」、「医薬品安全性学」、「個別化医療」、「コミュニティファーマシー」、「臨床導入学習１」、「臨床導入学習２」

教科書

『薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト』　　日本病院薬剤師会近畿ブロック／日本薬剤師会大阪・近畿ブロック（編）　　じほう

授業計画

11 週に渡る病院での実習の中で、薬学教育モデル・コアカリキュラムの「F　薬学臨床」のうち以下の SBO s を学習する
（1）薬学臨床の基礎
【① 早期臨床体験】 ・患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重　要性について討議する。（知識・態度） ・地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。（知識・態度）
【②臨床における心構え】〔A（1）、（2）参照〕 ・医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。（態度） ・患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。（態度） ・薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。（態度） ・職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。（態度）
【③臨床実習の基礎】 ・病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。 ・代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。 ・入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。（態度） ・急性期医療（救急医療・集中治療・外傷治療等）や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。 ・周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。 ・終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。 ・外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。 ・保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。
（2）処方せんに基づく調剤
【① 法令・規則等の理解と遵守】〔B（2）、（3）参照〕 ・調剤業務に関わる法的文書（処方せん、調剤録等）の適切な記載と保存・管理ができる。（知識・技能） ・法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。（技能・態度）

科目名　病院実務実習

【② 処方せんと疑義照会】
・処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）
・注射薬処方せんの記載事項（医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）
・処方せんの正しい記載方法を例示できる。（技能）
・薬歴、診療録、患者の状態から処方が妥当であるか判断できる。（知識・技能）
・薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。（技能・態度）

【③処方せんに基づく医薬品の調製】
・主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。（技能）
・適切な手順で後発医薬品を選択できる。（知識・技能）
・処方せんに従って計数・計量調剤ができる。（技能）
・錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技能）
・一回量 一包化）調剤の必要性を判断し、実施できる。（知識・技能）
・注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。（技能）
・注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。
・注射剤（高カロリー輸液等）の無菌的混合操作を実施できる。（技能）
・抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。（知識・技能）
・特別な注意を要する医薬品（劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等）の調剤と適切な取扱いができる。（知識・技能）
・調製された薬剤に対して、監査が実施できる。（知識・技能）

【④患者・来局者応対、服薬指導、患者教育】
・患者・来局者に合わせて適切な応対ができる。（態度）
・患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）
・医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。（知識・態度）
・患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。（知識・態度）
・妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な応対ができる。（知識・態度）
・お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。（態度）
・収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。（知識・技能）

【⑤医薬品の供給と管理】
・医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。（知識・技能）
・医薬品の適切な在庫管理を実施する。（知識・技能）
・医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。
・劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。（知識・技能）
・特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。（知識・技能）

【⑥安全管理】
・特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の安全管理を体験する。（知識・技能・態度）
・調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。
・施設内のインシデント（ヒヤリハット）、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。（知識・態度）
・施設内の安全管理指針を遵守する。（態度）
・施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。（技能）
・臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。（技能・態度）
・院内での感染対策（予防、蔓延防止など）について具体的な提案ができる。（知識・態度）

（３）薬物療法の実践

科目名　病院実務実習

【①患者情報の把握】
・基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。（知識・態度）
・患者・来局者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬　等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度）
・患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。（技能・態度）

【② 医薬品情報の収集と活用】〔Ｅ３（１）参照〕
・施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。（知識・　技能）
・薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。（知識・技能）
・医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。（知識・態度）
・安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。（知識・技能）
・緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。（知識・態度）

【③ 処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】
・代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。
・治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方を立案できる。
・患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機 能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等）や薬剤の特徴（作用機序や製剤的性質等）に基づき、適切な処方を提案できる。（知識・態度）
・処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコールやクリニカルパスを活用できる。（知識・態度）
・入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。（知識・態度）
・アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。（知識・態度）
・処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。
・処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。（知識・態度）

【④ 処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】
・医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。（知識・技能）
・薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定の提案ができる。（知識・態度）
・薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。（知識・技能）
・臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。
・薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。
・副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。
・薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。（知識・態度）
・報告に必要な要素（５W1H）に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。（技能）
・患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、　　形式等で適切に記録する。（知識・技能）
・医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。（知識・技能）

科目名　薬局実務実習

指導教員	年次・期間	単位	選必区分
中村敏明、中村任、恩田光子、金美惠子、井上薫、岡田博、神林祐子、和田恭一、角山香織、加藤隆児、羽田理恵	５年次・通年	10	必修

授業の目的と概要

本科目は、６年制薬学教育にあたって義務付けられている薬局における参加型実務教育科目であり、臨床に係る実践的能力を持つ薬剤師を養成することを目的とする。

一般目標（GIO）

・患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。

・医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活躍する臨床現場で必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れを把握する。

・処方せんに基づいた調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的調剤業務を修得する。

・患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得する。

・医療機関や地域で、多職種が連携・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における多職種の役割と意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案と実施ができる。

・地域での保険・医療・福祉に積極的に貢献できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解するとともに、これらの活動に参加することで、地域住民の健康の回復、維持、向上に関わることができる。

授業の方法

薬局での実習

成績評価

I. 概略評価

指導薬剤師と実習生が、定期的（２～４週間毎を目安）に、概略評価表を基に評価を行い、実習の振り返りを行うことで実習生がどの程度、何が成長したかを評価する。

II. 実務実習記録（日誌・レポート）による評価

実習生は、毎日の日誌に自分がその日学習した内容、体験した事例、修得した能力等を簡潔に記録して指導薬剤師、教員等の指導者に提示する。指導者は、その日誌の報告から実習生の実習の進捗状況を確認するとともに、実習についてフィードバックを行う。実習生は、指導者からのアドバイスを受けて薬剤師として求められる臨床能力の成長を確認する。

III. 合否に関わる成績の決定

科目名　薬局実務実習

大学では、実務実習記録による評価 50%、学生との懇談内容 10%、指導薬剤師による評価 30%、学生のルーブリック 10%という割合で、総合評価を行う。

学位授与方針との関連

本科目は以下のディプロマポリシーと関連している。

○薬剤師として医療に関わるための基本的知識・技能・態度を有していること。

○チーム医療や薬物療法に必要な専門的知識・技能・態度を有していること。

○薬の専門家に必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有していること。

○地域において必要な情報を適切に発信し、人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有していること。

○薬学・医療の進歩に対応するために自己研鑽し、次なる人材を育成する意欲と態度を有していること。

関連する科目

臨床系関連科目・内容：「臨床薬学概論」、「医薬品情報学」、「医薬品安全性学」、「個別化医療」、「コミュニティファーマシー」、「臨床導入学習１」、「臨床導入学習２」

教科書

『薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト』　　日本病院薬剤師会近畿ブロック／日本薬剤師会大阪・近畿ブロック（編）　　じほう

授業計画

11 週に渡る薬局での実習の中で、薬学教育モデル・コアカリキュラムの「F　薬学臨床」のうち以下の SBO s を学習する
(1) 薬学臨床の基礎
【① 早期臨床体験】 ・患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。（知識・態度） ・地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。（知識・態度）
【② 臨床における心構え】〔A（1）、（2）参照〕 ・医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。（態度） ・患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。（態度） ・薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。（態度） ・職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。（態度）
【③ 臨床実習の基礎】 ・終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。 ・外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。 ・保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。 ・薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。 ・来局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。（知識・態度）
（2）処方せんに基づく調剤
【① 法令・規則等の理解と遵守】〔B（2）、（3）参照〕 ・調剤業務に関わる法的文書（処方せん、調剤録等）の適切な記載と保存・管理ができる。（知識・技能） ・法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。（技能・態度） ・保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。

科目名　薬局実務実習

【② 処方せんと疑義照会】
・処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）
・注射薬処方せんの記載事項（医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）
・処方せんの正しい記載方法を例示できる。（技能）
・薬歴、診療録、患者の状態から処方が妥当であるか判断できる。（知識・技能）
・薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。（技能・態度）

【③ 処方せんに基づく医薬品の調製】
・主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。（技能）
・適切な手順で後発医薬品を選択できる。（知識・技能）
・処方せんに従って計数・計量調剤ができる。（技能）
・錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技能）
・一回量 一包化）調剤の必要性を判断し、実施できる。（知識・技能）
・注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。（技能）
・注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。
・注射剤（高カロリー輸液等）の無菌的混合操作を実施できる。（技能）
・特別な注意を要する医薬品（劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等）の調剤と適切な取扱いができる。（知識・技能）
・調製された薬剤に対して、監査が実施できる。（知識・技能）

【④ 患者・来局者応対、服薬指導、患者教育】
・患者・来局者に合わせて適切な応対ができる。（態度）
・患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）
・医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。（知識・態度）
・患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。（知識・態度）
・妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な応対ができる。（知識・態度）
・お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。（態度）
・収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。（知識・技能）

【⑤ 医薬品の供給と管理】
・医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。（知識・技能）
・医薬品の適切な在庫管理を実施する。（知識・技能）
・医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。
・劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。（知識・技能）

【⑥ 安全管理】
・特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の安全管理を体験する。（知識・技能・態度）
・調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。
・施設内のインシデント（ヒヤリハット）、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。（知識・態度）
・施設内の安全管理指針を遵守する。（態度）
・施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。（技能）

（3）薬物療法の実践

【① 患者情報の把握】
・基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。（知識・態度）
・患者・来局者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度）
・患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。（技能・態度）

科目名　薬局実務実習

【② 医薬品情報の収集と活用】〔Ｅ３（１）参照〕 ・施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。（知識・　技能） ・薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。（知識・技能） ・医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。（知識・態度） ・安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。（知識・技能） ・緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。（知識・態度）
【③ 処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】 ・代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。 ・治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方を立案できる。 ・患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機 能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等）や薬剤の特徴（作用機序や製剤的性質等）に基づき、適切な処方を提案できる。（知識・態度） ・処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコールやクリニカルパスを活用できる。（知識・態度） ・アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。（知識・態度） ・処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。 ・処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。（知識・態度）
【④ 処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】 ・医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。（知識・技能） ・臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。 ・薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。 ・副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。 ・報告に必要な要素（５W1H）に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。（技能） ・患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP 形式等で適切に記録する。（知識・技能）

1年次から4年次までの学習を通して、今の自分はどの程度の段階ですか？該当する欄に○をつけてください。

「第1段階」に満たない場合は「0」の欄にチェックしてください。

大阪薬科大学　学籍番号：　　学生氏名：　　評価記入日：　西暦　　年　　月　　日

(1)薬学臨床の基礎

観点	アウトカム	第 4 段階	第 3 段階	第 2 段階	第 1 段階	0
①薬剤師の重要性と地域保健医療を学ぶ shows how	病院、福祉施設などでの体験、一次救命の体験を通して、医療現場や地域における医療従事者の存在意義や責任、多職種の存在の重要性を自覚する	薬剤師および多職種の果たすべき役割と医療の課題に関して、患者・生活者の視点に基づいて討議する。これまでの体験を、早期臨床体験および社会貢献活動等のファシリテーションに活かす。	薬剤師および多職種の活動を見聞した内容に関して、患者・生活者の視点にたって討議する。討議結果と早期臨床体験および社会貢献活動等の内容を他者に伝える。	薬剤師および多職種の活動を見聞した内容に関して、患者・生活者の背景を踏まえて討議する。更に自身にできる社会貢献活動等に参加する。	薬剤師及び多職種の役割に関して、患者・生活者への関心に基づいて討議する。 更に自身にできる社会貢献活動等を自ら調査し、その調査結果を紹介する。	
		一次救命処置（一般市民用、医療者従事者用）を他者に指導する。	バイタルサイン（脈など）の測定をし、一次救命処置（医療者従事者用）の必要性を判断し、シミュレートする。	模擬症例に基づいて一次救命処置（一般市民用）の必要性を適切に判断し、シミュレートする。	一次救命処置をシミュレーターを用いて実施する。	
②生命の尊厳と薬剤師の社会的使命及び社会的責任 shows how	生命の尊厳と薬剤師の社会的使命を自覚し、倫理的行動をする。医療関係法規を遵守して、薬剤師としての責任を自覚する。	患者・生活者に寄り添い、患者・生活者の利益と安全を最優先して、患者・生活者の自己決定をサポートする姿勢を模擬的な環境で示す。医療の中で薬剤師に求められる責任を自覚し、自らを律して行動する。	患者・生活者に寄り添い、患者・生活者の利益と安全を配慮する姿勢を模擬的な環境で示す。 日常の学びを振り返り記録し、省察する。	薬剤師としての義務及び法令の遵守を踏まえて、生命の尊厳、他者の人権、プライバシーについて、真摯に討議する。	薬剤師としての責任、守るべき倫理規範や法令を意識して生命の尊厳について討議する。共同体メンバーの個人情報や権利に配慮する。医療に従事する者として、自らの食生活や生活のリズムに気を配り、体調を良好な状態に維持するように努める。	
③薬剤師の位置づけと社会保障制度 shows how	社会保障制度における薬剤師の役割および他職種との関係を理解する。	薬剤師の役割と他職種の役割および社会保障制度を相互に関連させ、より進んだ薬剤師業務や他職種との連携を提案する。	薬剤師の役割と他職種の役割を理解し、多職種のなかでの薬剤師の貢献について討議する。	薬剤師と他職種の業務や役割を理解し、医療における薬剤師の位置づけ、薬剤師の役割と他職種とのの役割の関連を説明する。	薬剤師や他職種の業務、役割および関連する社会保障制度を列挙し、それぞれの概要を説明する。	

(2)処方せんに基づく調剤

観点	アウトカム	第 4 段階	第 3 段階	第 2 段階	第 1 段階	0
①法令・規則等の理解	法令に基づいた調剤・医薬品の調製を模擬的に実施する。	（２）－ ②、③の実践を理解に基づいて行うことで評価を行う。				
②処方監査と疑義照会 shows how	処方監査と疑義照会を模擬的な環境で実施する。 処方監査：患者情報と医薬品情報に基づき、処方の妥当性、適切性を判断する。疑義照会：必要に応じて、疑義照会の必要性を判断し、適切なコミュニケーションのもと実施し記録する。	模擬の患者情報と薬学的知見を統合し、患者の薬物療法のアウトカムに照らし、処方の妥当性、適切性を判断する。必要に応じて、関連する法令・規則の理解に基づき、疑義照会を適切に行うと共に、チーム内で情報の共有を模擬的に行う。	模擬の患者情報と処方されている医薬品の基本的な医薬品情報に基づき、処方の妥当性を判断する関連する法令・規則の理解に基づき、疑義照会の必要性に自ら気づき、模擬的な環境で自発的に実施する。	模擬の患者情報に基づく処方箋の不備・不適切な点を指摘する。指摘した内容について関連する法令・規則の定めに基づき疑義照会を模擬的な環境で実施し、その内容を適切に記録する。	模擬の患者情報と処方を照らし合わせて適切性を確認し、関連する法令・規則等の定めに基づき処方箋の不備に関する形式的疑義照会を模擬的な環境で実施する。	
③処方せんに基づく医薬品の調製 shows how	監査結果に基づき適正な医薬品調製を模擬的な環境で実施する。	模擬的な環境で、患者ニーズやアドヒアランスの向上に配慮して適切な医薬品の調製や監査を行い、その内容について最適な服用方法を提案する。抗がん剤など特別な注意を要する製剤の調製では、ケミカルハザードの回避操作を適切に実施する。	模擬的な環境において、監査・調剤で用法に特別な注意を要する医薬品（休薬期間や漸減のある薬等）を確認し、その適切な取り扱いを行う。調製された医薬品にある誤りを指摘する。	一包化、錠剤等の粉砕、適切な賦形等、工夫を必要とする調剤について、模擬的な環境において適切に実施すると共に、その理由を他者に説明する。	患者情報に基づき後発品の選択を行い、医薬品の規制区分（毒・劇・向精神薬等を含む）に配慮して、計数・計量調剤を正確に行う。模擬注射処方箋に従って、無菌的混合操作を実施する。	
④患者・来局者応対、情報提供・教育 shows how	患者役から情報を収集し、患者教育に繋がる情報提供および服薬指導を実施する。	患者役の薬物療法のアウトカムを達成するために必要な情報を的確に判断し、患者役から情報収集する。 患者役のニーズを的確に判断し、それを盛り込んだ情報提供及び教育を行う。患者役のニーズを判断して、それに対応した患者教育をする。	患者役の病態や状況、高齢者、妊婦・授乳婦、小児、障害を持った方などに自然に配慮し、情報を収集する。患者役の理解度を確認しながら、情報の提供と必要に応じて患者教育を行う。	医薬品を安全かつ有効に使用するための情報を種々のツールを用いて患者役に提供する。患者役への指導、教育内容を主体的に適切に記録する。	患者役から薬物治療に係る基本的な情報（症状、既往歴、アレルギー歴、薬歴、副作用歴､生活状況等）を収集する。医薬品を安全かつ有効に使用するための情報を指示に従い、種々のツールを用いて患者役に提供する。患者役への指導、教育内容を指示に従って適切に記録する。	
⑤医薬品の供給と管理 knows how	適切な医薬品の供給と管理の意義と必要性を理解する。 （知識として評価するが、調剤や災害時医療領域で活用することが望ましい。）	法的に取扱い上の規制を受けている医薬品 （劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料、特定生物由来製品、放射性医薬品、院内製剤、薬局製剤、漢方製剤など） の適切な管理（発注、供給、 補充、保管など）に関する理解に基づいて解決案を提示する。	法的に取扱い上の規制を受けている医薬品 （劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料、特定生物由来製品、放射性医薬品、院内製剤、薬局製剤、漢方製剤など） の適切な管理（発注、供給、 補充、保管など）に関して説明する。	一般的な医薬品の種類と取扱い上の注意点の理解と、発注や補充の仕組み、棚卸等の業務の中で適切な在庫管理の基本を説明する。	適切な医薬品の供給と管理の意義と必要性を説明する。	
⑥安全管理 shows how	医療機関における安全管理をシミュレートする。	模擬的に医薬品及び医薬品以外に関連した安全管理体制の不備を指摘し、改善案を提案する。模擬的な場で、臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱う。	模擬処方箋で実施した調剤実習において、経験した調剤ミスあるいは過去にあった調剤ミスに対する安全対策案を立案する。	模擬処方箋で実施した調剤実習において、経験した調剤ミスあるいは過去にあった調剤ミスに基づいて医療安全に関する報告書を模擬的に作成する。	代表的な医療事故事例を知り、患者へ与える影響を討議する。医療現場における感染対策の重要性に留意し、スタンダードプリコーションを模擬的に実施する。	

(3)薬物療法の実践

観点	アウトカム	第 4 段階	第 3 段階	第 2 段階	第 1 段階	0
①患者情報の把握 shows how	薬物療法に活かすために患者情報を適切に収集・評価・共有し、患者状態を正確に把握する。	模擬カンファレンスにおいて、積極的に参加し、情報の発信と共有により、患者情報の精度を高め、より多面的かつ正確に患者状態を把握する。	模擬患者情報から、必要性を的確に判断して、自ら模擬患者との医療面談や身体所見を得るための観察・測定等を実施し、判断に必要な患者情報を収集・評価し、患者の状態を推測する。	模擬患者の情報の各種媒体（診療録、薬歴、指導記録、看護記録、検査記録、お薬手帳など）から薬物治療に必要な情報を収集し、評価する。	模擬の患者情報源から薬物療法の評価に必要な情報を試行錯誤しながら収集する。	
②医薬品情報の収集と評価・活用 shows how	薬物療法の評価等に必要な情報について、最も適切な情報源を効果的に利用し、情報を収集すると共に、得た情報及び情報源を批判的に評価し、効果的に活用する。	模擬的な症例に関する調査の目的に合わせて、一次資料(原著論文)も含めた適切な情報源を利用し、調査を実践する。得た情報を量的、質的に評価し、提供する。患者啓発や医療の質向上に寄与する情報を主体的に作成・提案する。	模擬的な症例に関する調査の目的を明確にし、基本的な情報源に加え、複数の情報源を利用して調査を実践する。得た情報の評価を常に行い、患者や医療スタッフのニーズを踏まえた資料を作成する。	模擬的な症例に関して薬物療法の評価等に必要な基本的な情報源である医薬品添付文書、インタビューフォーム、診療ガイドラインなどを確認し、情報の収集・評価を行う。	薬物療法に関連する医薬品情報を試行錯誤しながら、収集・整理できる。	
③薬物療法の問題点の識別と処方設計及び問題解決 shows how	薬物療法の問題点の評価に基づき、問題解決策を提案し、薬物療法の個別最適化をシミュレートする。	模擬的な症例に対して、薬物療法の問題点を主体的に識別する。問題点の現状評価を明確に行い、処方設計や他の解決策について検討し、論理的で実行可能な解決策を明示し、薬物療法の個別最適化を実施する。	模擬的な症例に対して、有効性、安全性、経済性の観点から問題点の識別を行う努力をする。処方設計を含めた解決策について、主体的に検討し、当該ケースの薬物療法の個別最適化に努める。	模擬的な症例に対して、薬物療法の有効性、アドヒアランス不良や腎機能低下時の投与量などの基本的な安全性の問題点を識別し、現状評価を行い、必要な処方設計を行う。	模擬的な症例に対して、薬物療法の有効性、基本的な安全性を考慮し、必要な処方設計を行う。	
④薬物療法の効果と副作用モニタリング	代表的な疾患を題材として、薬物療法の効果と副作用をモニタリングし、患者状態を適切に評価し、適切な薬物療法を立案する。	代表的な疾患の薬物療法の有効性・安全性を確認するために必要な臨床検査項目や症候を、模擬的な環境で適切に収集・評価し、予後の予測に基づいた継続的な観察計画を立て、必要に応じてよりよい薬物療法を立案する。	代表的な疾患の薬物療法の有効性・安全性を確認するために必要な臨床検査項目や症候を、模擬的な環境で適切に収集・評価し、それらを SOAP 形式等で記録する。	代表的な疾患の薬物療法の有効性・安全性を確認するために必要な臨床検査項目や症候を、模擬的な環境で適切に収集し、問題点を指摘する。	代表的な疾患の薬物療法の有効性・安全性を確認するために必要な臨床検査項目や症候を、模擬的な環境で適切に収集する。	

(4)チーム医療への参画

観点	アウトカム	第 4 段階	第 3 段階	第 2 段階	第 1 段階	0
①医療におけるチーム医療 **②地域におけるチーム医療** shows how	患者・生活者中心の保健医療福祉において、チームの構成員の役割を把握し、多職種協働でのマネジメントを修得する。	薬剤師が主導的に薬物治療・健康維持増進上の問題点を解決するために、患者・生活者のニーズや地域の医療資源を把握した上で多様なチームメンバーと協働し、患者・生活者に応じた具体的なケア計画を提案し、必要に応じて改善をする。	薬物治療・健康維持増進上の問題点を把握し、多様なチームメンバーと協働し、患者・生活者に応じた具体的なケア計画を提案する。	薬物治療・健康維持増進上の問題点を理解し、多様なチームの構成員と連携し、患者・生活者の保健医療福祉に関するケア計画を説明する。	地域の保健医療福祉にかかわる職種とその連携体制（地域包括ケア）及びその意義について説明する。	

＊ ①と②は同一の基準で合わせて評価する。臨床準備教育では場を分けるのではなく、shows how レベルの振る舞いを評価する。

(5)地域の保健･医療･福祉への参画

観点	アウトカム	第 4 段階	第 3 段階	第 2 段階	第 1 段階	0
①在宅（訪問）医療・介護への参画 knows how	患者および介護者の支援に関与するために、在宅医療にかかわる地域の仕組みと他職種連携を理解し、問題点を把握する。	患者の問題点への気づきや、他職種との情報の共有による解決案の提案方法について論じる。	患者の病態・状態に基づく必要情報を整理・選択した記録内容を把握し、その内容に基づいた他職種との情報共有について論じる。	地域包括ケアのしくみの理解に基づいた、在宅医療・介護の現状を論じ、基本的な記録を模倣する。	在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容や、それを受ける患者の特色と背景の理解に基づいて、薬剤師の役割と記録による情報伝達の重要性を論じる。	
②薬物乱用防止・自殺防止・感染予防・アンチドーピング活動 shows how	地域の保健・衛生について関わりをもつために、地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）について把握する。	地域の保健・衛生に関して薬剤師に求められるニーズを調査、評価し、実現可能な対策について討議する。	学校や地域、地域住民からの相談事例を基に、地域の保健・衛生の向上について討議する。	地域の啓発活動などの実施例を把握し、薬剤師の役割の重要性について討議する。	薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等について理解し、地域の啓発活動などとの関連性を調べ、その結果について説明する。	
③プライマリケア、セルフメディケーションの実践 shows how	プライマリケアとセルフメディケーションをシミュレートできる。	代表的な症候を示す模擬来局者に対し、情報収集・分析を行うだけでなく、模擬来局者の生活環境や個人的心情を反映したアドバイス（受診勧奨、一般用医薬品の選定、生活習慣に関する指導等）を行う。	薬剤師によるプライマリケア、セルフメディケーションの重要性の認識に基づいて、代表的な症候を示す模擬来局者に対し適切な情報収集を行い、その分析を活かした対応をする。	薬剤師によるプライマリケア、セルフメディケーションの重要性の認識に基づいて、代表的な症候を示す模擬来局者に対し、一般的なアドバイス（受診勧奨、一般用医薬品の選定、生活習慣に関する指導等）を行う。	薬剤師によるプライマリケアとセルフメディケーション、およびそれらの重要性に関して討議する。	
④災害時における薬剤師の役割 shows how	災害時における薬剤師の役割を理解する。	災害時に必要な物品、備蓄や供給体制等について、倫理的側面（適応外使用、処方権、トリアージなど）も含めて薬剤師の役割をシミュレートする。	災害時における薬剤師の役割について、倫理的側面（適応外使用、処方権、トリアージなど）も含めて討議する。	災害時における薬剤師の役割を列挙し、要点を説明する。	災害時における薬剤師の活動事例を収集する。	

大阪医科薬科大学薬学部／大学院薬学研究科　自己点検・評価委員会規程（案）

（令和３年４月１日施行）

（目　的）

第１条　大阪医科薬科大学（以下、「本学」という。）の薬学部及び薬学研究科（以下、「薬学部等」という。）に、自己点検・評価委員会（以下、「委員会」という。）を置く。

（任　務）

第２条　委員会は、薬学部等の教育研究水準の向上を図り、薬学部等の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等に関する以下の事項について自己点検・評価を実施し、薬学部等の内部質保証を推進するとともに、もって本学における内部質保証の推進に寄与するものとする。

(1) 全学内部質保証推進組織からの要請等に関すること
(2) 薬学部等の理念・目的の策定及び検証に関すること
(3) 薬学部等のディプロマポリシー、カリキュラムポリシー及びアドミッションポリシー（以下、「３ポリシー」という。）の策定及び検証に関すること
(4) ３ポリシーに基づく薬学部等の学習成果、教育課程及び入学者選抜の成果の検証に関すること
(5) 薬学部等の教育研究組織、教員組織、学生支援、教育研究環境、社会連携・社会貢献の方針の策定及び検証に関すること
(6) 薬学教育第三者評価（分野別評価）の受審に関すること
(7) 機関別認証評価及びその他内部質保証に関すること

２　委員会は、前項各号に定める方針の策定及び検証等の実施にあたり、薬学部等におけるその他関連委員会等に対して事前検証等を行わせることができる。

３　委員会で実施した自己点検・評価結果、この結果に基づき策定する改善計画等については、全学的内部質保証推進組織に報告する。

（組　織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) 薬学部長
(2) 教務部長、学生部長及びキャリアサポート部長
(3) カリキュラム委員長
(4) 入試委員長及びアドミッション・オフィス長
(5) 研究委員長及び図書館長
(6) ＩＲ室長
(7) 事務局長
(8) 総務課長及び教務課長
(9) 学長が指名する教員　　若干名
(10) 事務局長が指名する事務職員　　若干名

２　前項各号に定める委員のほか、薬学部等における内部質保証の取組みについて、客観的視点を取り入れるため、薬学部長が必要と認めた場合は、学外からの有識者等を委員として委嘱することができる。
３　委員は、薬学部長が委嘱する。
４　第１項第９号及び第１０号並びに第２項の委員の任期は１年とし、再任を妨げない。ただし、任期の途中で委員が交替した場合、後任の委員の任期は前任者の残任期間とする。
５　委員会に委員長を置き、薬学部長をもって充てる。
６　委員会に副委員長を置くことができ、委員の中から薬学部長が指名するものとする。副委員長は、薬学部長に事故等ある場合、委員長の職務を代行する。

（運　営）
第４条　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
２　委員会は、過半数の委員の出席をもって成立する。
３　委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数の場合は、委員長の決するところによる。
４　委員会は、原則として毎月開催する。

（委員以外の者の出席）
第５条　委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を委員会に出席を求め、意見を聴くことができる。
２　前項にかかわらず、学長はオブザーバーとして委員会に出席することができる。

（専門部会）
第６条　委員会に薬学部等の専門的な事項を調査検討するため、必要に応じて専門部会（以下、「部会」という。）を置くことができる。
２　部会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

（事　務）
第７条　委員会に関する事務は、総務課及び教務課で行う。

（規程の改廃）
第８条　この規程の改廃は、薬学部教授会の議を経て、学長が決定する。

附　則
この規程は、令和３年４月１日から施行する。

大阪医科薬科大学薬学部／大学院薬学研究科　ＦＤ委員会規程（案）

（令和３年４月１日施行）

（設置及び目的）

第１条　大阪医科薬科大学薬学部及び大学院薬学研究科における教員の教育活動の向上・能力開発に関して検討を行い、その質的充実に資することを目的とし、教育方法の研究・工夫を積極的に推進するため、ＦＤ委員会（以下、「委員会」という。）を置く。

（任　務）

第２条　委員会は前条の目的を達成するため、次に掲げる事項の推進を図ることを任務とする。

(1) 学部・大学院教育の活動改善の方策に関する事項
(2) ＦＤフォーラム、研修会等の開催・参加に関する事項
(3) ピア・レヴューを含む教員の教授活動相互研鑽に関する事項
(4) 学生による授業評価の実施に関する事項
(5) その他ＦＤの推進に関すること

（構　成）

第３条　委員会は委員長並びに委員及び事務職員から構成される。

２　前項の委員長及び委員等は、薬学部長がこれを委嘱する。

３　副委員長は、委員のうちから、委員会の同意を得て、委員長が指名する。

４　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

（任　期）

第４条　委員の任期は２年とし、再任を妨げない。また、委員に欠員が生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（会　議）

第５条　委員長は委員会を招集し、その議長となる。

２　委員会の開催は委員の３分の２以上の出席を必要とする。

３　委員会が必要と認めたときは、委員以外の教職員の出席を求め、その意見を聴くことができる。

４　委員会の決定事項について、薬学部長の承認をもって実行するものとする。ただし、その内容によっては、薬学部長の判断により必要に応じて薬学部教授会の議を経て、学長の承認を受けるものとする。

（事　務）

第６条　委員会の事務は、教務課が行い、必要に応じて関係部署がこれに協力するものとする。

（雑　則）

第７条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、別に定める。

（規程の改廃）

第８条　この規程の改廃は、薬学部教授会の議を経て、学長が決定する。

附　　則

この規程は、令和３年４月１日から施行する。

FD実施状況一覧（2018・2019年度分）

	2018年度	2019年度
公開授業	4～7月　「アカデミックスキル」 12月　「医療と法」	11月　「分析化学１」 11月　「数学２」
公開授業研究会	実施見送り	3月実施（新型コロナウイルスの影響で実施見送り）
研修会	8月　教育業務研修会 「IPEからIPWへの展開ー千葉大学亥鼻IPEを例としてー」 （千葉大学　石井伊都子氏）他 9月　研究業務研修会 「大薬がんプロ教育講演会」 （奈良先端科学技術大学院大学　石田　靖雅氏） 10月　無線LANを利用したアクティブラーニングの説明会 （佐藤委員） 11月　シラバス作成に関する説明会（教務部主催） 12月　研究業務研修会 「薬学トップランナー研究講演会」 （東京医科歯科大学　武部貴則氏）	8月　FD&SD研修　教育業務研修会 「九州大学時代や国際医療福祉大学でのIPEの具体例」 （国際医療福祉大学　吉田素文氏） 9月　大薬がんプロ教育講演会2019（ＦＤ研究業務研修会） 「ＣＡＲ－Ｔ細胞療法の最前線～基礎研究から臨床応用へ～」 （大阪大学大学院医学系研究科　保山直毅氏） 11月　ICTを活用した教育に関する説明会 ＊教務部委員会・ＦＤ委員会共催 11月　シラバス作成に関する説明会 ＊教務部委員会・ＦＤ委員会共催 12月　第3回 薬学トップランナー研究講演会 「ファースト・イン・クラスのMEK 阻害剤トラメチニブの発見」 （京都府立医科大学名誉教授 創薬センターセンター長 大学院医学研究科創薬医学 特任教授　酒井敏行 先生）
授業アンケート	学内専用ホームページへアンケート結果公開	学内専用ホームページへアンケート結果公開 「レスポンによる授業手法改善のためのアンケート」のトライアル実施 ・分析化学２ ・応用分析学 ・生物学 ・生物無機化学
学生FD委員会	3月　第1回教員学生合同FD委員会	3月　第1回教員学生合同FD委員会（新型コロナウイルスの影響で実施見送り）
ティーチング・ポートフォリオ	―	導入初年度

学校法人大阪医科薬科大学職員研修に関する基本方針

（平成２８年８月９日施行）

この基本方針は、学校法人大阪医科薬科大学が設置する大学、学校及び病院等（以下、「大学等」という。）に所属する職員を対象にスタッフ・ディベロップメント（ＳＤ）を実施するための基本的事項を定めるものである。

１．ＳＤとは、教育研究、診療活動（以下、「教育活動等」という。）の適切かつ効果的な運営を図るため、職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修（別に実施するファカルティ・ディベロップメント（ＦＤ）に関するものを除く。）を言い、その対象は、事務職員のほか教授等の教員や学長等の大学等執行部、技術職員等とする。

２．ＳＤは、以下の内容について実施するものとする。

(1)　学校法人の組織のあり方に関すること。

(2)　各大学が定めるアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの３つのポリシーに基づく各種取組に係る自己点検・評価と内部質保証に関すること。

(3)　教育活動等におけるマネジメントに関わる専門的職員の育成に関すること。

(4)　大学改革、医療制度改革に関すること。

(5)　学生の厚生補導に関すること。

(6)　業務領域の知見の獲得を目的とすること（総務、財務、人事、企画、教務、研究、医事等）。

(7)　その他、法人及び大学等の運営に関すること。

３．ＳＤは、大学等の組織ごとに計画的に実施するほか、組織連携での実施や各組織内の部署単位での実施を可能とする。また、関連団体等が実施するセミナー等を活用することができるものとする。

４．大学等の長は、ＳＤ活動の推進に積極的に取組むとともに、毎年１月末日までに次年度に行うＳＤの実施計画を立てて理事長に報告し、了承を得なければならない。ただし、関連団体等が実施するセミナー等に係るものについては、その都度、理事長に了承を求めることができるものとする。

５．理事長は、各組織のＳＤ実施計画のうち、共同実施が好ましいものについて調整する

ほか、法人全体として実施する必要があるものについて企画、実施することができるものとする。

附　則

この基本方針は、平成２８年８月９日から施行する。

大阪薬科大学ＳＤ基本計画
（平成３１年度計画）

学校法人大阪医科薬科大学

1)「職員研修に関する基本方針」について

学校法人大阪医科薬科大学では、「大学設置基準等の一部を改正する省令（平成 29 年 4 月 1 日施行）」を踏まえた「学校法人大阪医科薬科大学職員研修に関する基本方針」を策定している。本学においても職員の能力向上を目指し、本学の基本計画に基づくＳＤを平成 28 年度より実施している。

【平成 31 年度　大阪薬科大学 SD 基本計画の方針と基本的事項】

＜方針＞

今後、さらに法人、本学において、多様な雇用形態による職員の増大が予想され、リカレント教育の場として社会から大学への期待も大きくなる中で、ますます個々の人的資本の蓄積が重要になると予想される。職員の職能の多様化と高度化は、法人の発展だけではなく、ステークホルダーとの良好かつ円滑な関係を築く上でも必須で、そのための人材育成は欠くことができない。限られた人的資源管理を適切に行うためにも、前年度の検討事項を踏まえ、引き続き下記について注力していく。

1）学外研修の積極的な参画
2）e-ラーニングの推進
3）法人内及び他大学との共同開催研修の充実
4）執行部層など、階層上位の者への研修の実施
5）研修実施による効果測定方法の検討

＜基本的事項＞

１．ＳＤとは、教育研究、診療活動（以下、「教育活動等」という。）の適切かつ効果的な運営を図るため、職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修（別に実施するファカルティ・ディベロップメント（ＦＤ）に関するものを除く。）を言い、その対象は、事務職員のほか教授等の教員や学長等の大学執行部、医療技術職員等とする。

２．ＳＤは、以下の内容について実施するものとする。

(1)　学校法人の組織のあり方に関すること
(2)　各大学が定めるアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの３つのポリシーに基づく各種取組に係る自己点検・評価と内部質保証に関すること
(3)　教育研究診療におけるマネジメントに関わる専門的職員の育成に関すること
(4)　大学改革、医療制度改革に関すること
(5)　学生の厚生補導に関すること
(6)　業務領域の知見の獲得を目的とすること（総務、財務、人事、企画、教務、研究、医事等）
(7)　その他、法人及び大学の運営に関すること

３．ＳＤは、大学、学校及び病院等の組織ごとに計画的に実施するほか、組織連携での実施や各組織内の部署単位での実施を可能とする。また、関連団体等が実施するセミナー等を活用することができるものとする。

４．大学、学校及び病院等の長は、ＳＤ活動の推進に積極的に取組むとともに、毎年１月末日までに次年度に行うＳＤの実施計画を立てて理事長に報告し、了承を得なければならない。ただし、関連団体等が実施するセミナー等に係るものについては、その都度、理事長に了承を求めることができるものとする。

５．理事長は、各組織のＳＤ実施計画のうち、共同実施が好ましいものについて調整するほか、法人全体として実施する必要があるものについて企画、実施することができるものとする。

2）大阪薬科大学の実施計画

① 各階層の研修対象者

A	執行部層（学長、教務部長、学生部長、キャリアサポート部長）
B	教員（教授）
C	教員（教授以外）
D	事務職員 管理職（事務局長、事務局次長、課長）
E	事務職員、医療職員、技術職員、技能職員（上記以外）

② 年間計画

No		研修名等	対象者	担 当	実施計画スケジュール（月）											
					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1	階層別研修	新入職員研修（フォロー研修）	新入職員	総務課	→											
2		事務局管理職 SD 会議	D	医・企画課	→											→
3	テーマ別研修	コンプライアンス研修	A、B、C、D、E	総務課								→				
4		メンタルヘルスケア研修		医・人事企画研修課												→
5		人権研修		学生課				→		→						
6		学校法人大阪医科薬科大学職員研修に関する基本方針に係る研修 ① 組織のあり方 ② 各大学が定めるアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの３つのポリシーに基づく各種取組に係る自己点検・評価と内部質保証 ③ 教育活動等におけるマネジメントに関わる専門的職員の育成 ④ 大学改革、医療制度改革 ⑤ 学生の厚生補導 ⑥ 業務領域の知見の獲得 ⑦ 専門的職員の育成 SD ⑧ その他、法人及び大学等の運営	A、B、C、D、E	①③⑥⑦ 総務課 医・人事企画研修課、企画課 ②総務課 医・学務部 ④総務課 医・学務部、病院事務部 ⑤総務課 学生課 ⑧総務課 医・総務部	→						→	→	→	→	→	→
7	全学的研修	F&SD「教育研究集会」等	A、B、C、D、E	医・学務部 臨床教育・研究支援課			→							→		
8		他	A、B、C、D、E		→											→
9	所属別研修	学部の SD 活動	B、C	総務課 臨床教育・研究支援課				→								
10	学外研修	日本私立大学連盟会議	A	医・総務課	→											→
11		日本私立大学連盟研修会	A、B、C、D、E	総務課 医・人事企画研修課		→										→
12		大学コンソーシアムでの SD 研修会（大阪、京都）	A、B、C、D、E													→
13		他大学の SD 公開講座への参加			→											→
14		SMBC ビジネスセミナー	A、B、C、D、E	医・人事企画研修課	→											→
15		自己啓発（e-ラーニング）	A、B、C、D、E		→											→

※上表のほか、大阪医科大学 SD 基本計画に基づき実施される研修のうち、共同実施できる研修に参加する。

令和２年３月１日現在

大阪医科大学、大阪薬科大学

平成 31（令和元）年度　SD 実施状況一覧

区分	企画部署	実施日	内容（研修名・実施テーマ等）	主な対象者	参加者数
階層別研修	大阪医科大学 人事企画研修課	4 月 2 日	新入職員基本研修	4 月入職新卒者	171 名
		5 月 15 日	若手職員フォロー研修	新卒入職後 5 年目の事務職員等	14 名
		7 月 22 日、 7 月 24 日	管理職対象研修	課長代理級・看護師長・看護主任以上の者	80 名
		10 月 16 日	新入事務職員フォロー研修	4 月入職新卒者	6 名
		1 月 21 日	昇格者・新任評価者研修	2019 年度管理職・監督職昇格者	32 名
		11 月 23 日～ 11 月 24 日	日本私立大学連盟「ヒューマン・リソース・マネジメント研修」(学外)	課長・課長代理級	1 名
テーマ別研修	大阪薬科大学 人権委員会	8 月 28 日	大学に求められる性的指向と性自認の多様性への配慮	全教職員	69 名
	大阪医科大学 人事企画研修課	6 月 12 日	ロジカルシンキング研修	入職 2～4 年目事務職員	40 名
		9 月 18 日	問題解決研修	入職 2～4 年目事務職員	43 名
		9 月 30 日	障がい者雇用研修	全教職員	42 名
全学的研修	大阪医科大学 人事企画研修課	5 月 1 日～ 3 月 31 日	日本私立大学連盟「オンデマンド研修」(WEB 受講)	全教職員	20 名
	大阪医科大学 研究支援センター	11 月 20 日	研究活動に対する本学の取組姿勢	全教職員	212 名
所属別研修	大阪薬科大学 総務課	7 月 24 日	薬学教育に活かすためのアンガーマネジメント	大阪薬大の教職員	56 名
	大阪薬科大学 FD 委員会	8 月 29 日	九州大学および国際医療福祉大学における IPE	大阪薬大の教職員	59 名
	大阪薬科大学 総務課	9 月 10 日	関西三薬科大学合同 SD（大学が直面している問題について考える）	大阪薬大の事務職員	30 名
	大阪薬科大学 総務課	9 月 24 日～ 9 月 27 日	DVD「みんなで考える LGBTs」上映会	大阪薬大の教職員	39 名

区分	企画部署	実施日	内容（研修名・実施テーマ等）	主な対象者	参加者数
所属別研修	大阪薬科大学総務課	2 月 26 日	学生の厚生補導	大阪薬大の教職員	33 名
	大阪医科大学 人事企画研修課	4 月 2 日～ 4 月 11 日	新入事務職員導入研修	大阪医大の 4 月入職新卒事務職員	8 名
	大阪医科大学 中山国際医学医療交流センター	4 月 26 日	アジアにおける医学教育と研究の展開	大阪医大の教員	79 名
	大阪医科大学研究拠点育成奨励事業	6 月 14 日	医学部における国際バカロレア入試の活用	大阪医大の教員	56 名
	大阪医科大学 医学教育センター、看護学教育センター	7 月 16 日	多職種連携教育とシミュレーション教育法	大阪医大の教員	41 名
		9 月 9 日	シミュレーションを用いた多職種連携教育	大阪医大の教員	25 名
	大阪医科大学 看護学教育センター	8 月 28 日	教育の質向上のためのティーチング・ポートフォリオ	大阪医大の教員	66 名
		12 月 23 日			37 名
	大阪医科大学学務課	12 月 11 日	FD&SD 教育研究集会	大阪医大の教員、学生	144 名

授業科目の概要（社会的・職業的自立指導関係）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	キャリアデザイン概論	自己理解と職業理解を通して自分自身のキャリアデザインを考え、自立・自律した社会人としての意識・態度を身に付けることを目的とする。講義では、キャリアデザインの意義と薬学部卒業生の多くが進む業種と職種に関する概説の後、現在及び将来の薬剤師に求められる役割とその実践について討議を行わせる。この後、自己理解と職業理解に基づくキャリアデザインの具体例を学び、社会人として必要な能力の理解とその実践に向けた体験学習型演習を実施する。	共同 講義9時間 演習7時間
基礎薬学科目	薬学入門	（概要） 医療人・薬の専門家としての必要な基本的姿勢を身に付けるため、医療と社会における薬学・医学の役割や薬剤師の使命を理解することを目的とする。（オムニバス方式／計8回） （10　中村敏明／2回） 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について学習する。また、医療従事者が守るべき倫理規範、患者の基本的権利と自己決定権、医療事故、医療チーム内での薬剤師の役割、病気が患者に及ぼす心理的影響、患者や家族への配慮の大切さ等について学習する。 （18　永井純也／1回） 6年間で何を学ぶか、本学の教育方針、学習スケジュールについて理解させ、薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連付けを図る。 （41　角山香織／1回） 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケア、医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性、病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について学習する。 （17　阪本恭子／1回） 生命・医療倫理の諸原則を学び、薬を扱う医療人としてどのような心構えで人間・生命に向き合うべきかを考え、人間の尊厳と生命の尊厳の意味について学習する。 （16　藤森功／1回） 薬剤師として薬の作用メカニズムや副作用を理解するために、生物系薬学や生命科学などの基礎知識の習得が必須であること、生命科学における基礎研究の成果がいかに医薬品開発に重要であるかについて学習する。 （26　天滿敬／2回） 医薬品の創製に関わる基礎研究の重要性を放射性医薬品創薬を例に学習する。	オムニバス
医療薬学科目	医療人マインド	病院の機能と役割、医療に関わる専門職種の役割・機能を理解し、医療人としてふさわしい態度を身に付け、また、医療人としての自覚を持たせることを目的とする。講義は、本学医学部・看護学部と合同で実施し、看護師のやりがいと醍醐味、地域に根ざす大学病院の看護の働き、これからの医師と看護師・多職種の協働、日本の保健医療行政、医師のやりがいと醍醐味、病院組織での医療職の協働と医療人マインド、特定機能病院の役割と患者にやさしい病院、薬剤師のやりがいと醍醐味、薬剤師の役割と機能、多職種の協働、MSW（メディカルソーシャルワーカー）のやりがいと醍醐味、地域連携の意味と連携機関と職種、附属病院でのMSWとしての活動、高槻市の健康課題と取り組み、大学病院への期待、医師・看護師・薬剤師の役割・機能の討論、放射線技師・臨床検査技師のやりがいと醍醐味、放射線技師・臨床検査技師の仕事、リハビリテーション部の機能と役割、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のやりがいと醍醐味、栄養士のやりがいと醍醐味、栄養士としての患者・家族への栄養指導、医療事務職のやりがいと醍醐味について学習する。	共同 メディア
	早期体験学習	薬学生として学習に対するモチベーションを高めるために早期体験学習を中心に薬剤師及び薬学卒業生の活躍する現場を体験し、さらに、患者・生活者本位の視点に立つ医療人として果たすべき役割を理解し、その重要性や課題を討議することを目的とする。この体験学習では、コンプライアンス研修、医療現場における薬剤師のマナー（倫理）や薬局薬剤師・病院薬剤師の業務と果たすべき役割についての導入講義を経て、小グループ単位で地域の総合病院、薬局、ドラッグストア一、製薬企業、介護施設等の見学を実施する。なお、見学前には施設体験の動機付けと目標設定についてグループディスカッションを行う。また、見学後には各薬剤師の役割や位置付け、現状での問題点などについてグループディスカッションを行った後、全体発表会を実施することで、それぞれの学びを共有する。	共同 講義12時間 現場体験4時間 演習8時間

学科間の教育課程の差異について

＜設置の趣旨等を記載した書類より＞
この度設置する薬学部においては、薬学科と薬科学科を設ける。
この薬科学科は平成30年度より学生募集を停止している学科であり、この度の大学統合にあたり、学生の権利保証のため、学生募集停止を継続したまま設置する学科である。教育課程については、大阪薬科大学薬学部薬学科の旧教育課程（平成27年度から平成29年度入学生適用）の1年次から3年次までを学部共通としており、4年次の教育課程のみが独自のものとなる。4年次では、薬科学科としての独自の授業科目である「バイオインフォマティクス」「分子設計学」等を配置するとともに、卒業研究である「特別演習・実習（前期）」「特別演習・実習（後期）」を配置する。なお、薬剤師養成教育に係る授業科目は配置せず、卒業研究に注力することができるようにしている。
薬科学科の教育課程の編成の概要はこのような内容であるが、この度設置する薬学科の教育課程（令和3年度以降入学生適用）と大阪薬科大学薬学部薬学科の旧教育課程（平成27年度から平成29年度入学生適用）は教育課程の編成に係る基本的な考えは同じものの、全く同一ではないため、薬科学科の教育課程との差異を単純に抽出して対比させることはできない。
ついては、この度設置する薬科学科と大阪薬科大学薬学部薬学科（平成27年度から平成29年度入学生適用）の教育課程を下表のとおり対比させることをもって、教育課程の差異を示す。

（注）
・この度設置する薬学科の教育課程（令和3年度以降入学生適用）についても、大阪薬科大学薬学部薬学科の教育課程を踏襲しており、
その教育課程の変遷については、別途「資料4：設置学部における教育課程の変更状況」に示すとおりです。
・両学科は3年次までは共通の教育課程であり、4年次から薬学科と薬科学科の教育課程に分かれるため、4年次以降の教育課程の差異を示します。

薬学科・薬科学科４年次

	区分	授業科目	薬学科 前期	薬学科 後期	薬学科 単位	薬科学科 前期	薬科学科 後期	薬科学科 単位	備考
両学科共通科目	応用薬学科目	生物物理化学	○		1.5	○		1.5	●：必修科目
		薬品合成化学	○		1.5	○		1.5	○：選択科目
	医療薬学科目	薬理学４	●		1.5	○		1.5	
薬学科独自科目	応用薬学科目	薬学英語	●		1				選択科目の卒業要件に関する差異 ○薬学科 3年次及び4年次配当の応用薬学科目及び医療薬学科目から4単位以上、6年次配当の応用薬学科目及び医療薬学科目から2単位以上、計6単位以上修得を要する。 ○薬科学科 3年次及び4年次配当の応用薬学科目及び医療薬学科目から3単位以上修得を要する。 ※1年次及び2年次配当の基礎教育科目の選択科目については、両学科共通で5単位以上修得を要する。
		医薬品化学１	●		1.5				
		医薬品化学２		●	1				
		薬事関連法・制度	●		1.5				
	医療薬学科目	臨床薬物動態学	●		1				
		ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ薬物治療学１		○	1				
		医療薬剤学	●		1.5				
		個別化医療		●	1				
		コミュニティファーマシー		●	1.5				
		医薬品安全性学		●	1				
		医薬品情報演習	●		0.5				
		臨床栄養学	○		1				
		臨床感染症学	○		1				
		病態・薬物治療学演習	○		1				
		生命医療倫理	●		1.5				
		制度経済		●	1.5				
		薬学基礎演習		●	0.5				
		臨床化学		○	1				
		臨床生理学		○	1				
	実習	臨床導入学習１	●		4				
		臨床導入学習２		●	1				
		特別演習・実習 ※	●						※ 薬学科の特別演習・実習は4年次前期から6年次前期の期間で行い、18単位取得する。
薬科学科独自科目	応用薬学科目	バイオインフォマティクス				●		1.5	
		分子設計学				●		1.5	
		医薬品化学				○		1.5	
	実習	特別演習・実習（前期）				●		5	
		特別演習・実習（後期）					●	6	

薬学科５年次

区分	授業科目	薬学科 前期	薬学科 後期	薬学科 単位	薬科学科 前期	薬科学科 後期	薬科学科 単位	備考
実習	病院実務実習	●		10				●：必修科目
	薬局実務実習	●		10				○：選択科目
	特別演習・実習 ※	●						※ 薬学科の特別演習・実習は4年次前期から6年次前期の期間で行い、18単位取得する。

薬学科６年次

区分	授業科目	薬学科 前期	薬学科 後期	薬学科 単位	薬科学科 前期	薬科学科 後期	薬科学科 単位	備考
応用薬学科目	薬局方総論	●		1				●：必修科目
	先端分子医科学１	○		0.5				
	先端分子医科学２	○		0.5				○：選択科目
	先端分子医科学３	○		0.5				
医療薬学科目	アドバンスト薬物治療学２	○		0.5				
	アドバンスト薬物治療学３	○		0.5				
	医薬品情報評価学	●		1				
	医療政策論	○		0.5				
	医療倫理論	○		0.5				
	医療情報学	○		0.5				
	漢方医学概論	○		0.5				
	レギュラトリーサイエンス	○		0.5				
	創薬薬理学	○		0.5				
	薬学総合演習	●		3				
実習	特別演習・実習 ※	●		18				※ 薬学科の特別演習・実習は4年次前期から6年次前期の期間で行い、18単位取得する。

平成31年度実務実習年間スケジュール

	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期
ガイダンス	平成30年12月7日（金）			
「履歴書」提出締切日	平成30年12月25日　（火）	平成31年2月20日　（水）	平成31年2月20日　（水）	ー
実習期間	平成31年2月25日　（月） ～ 令和1年5月15日　（水）	令和1年5月27日　（月） ～ 令和1年8月11日　（日）	令和1年8月26日　（月） ～ 令和1年11月11日　（月）	令和1年11月25日　（月） ～ 令和2年2月16日　（日）
直前ガイダンス	平成31年1月21日　（月）	平成31年4月23日　（火）	令和1年7月23日　（火）	ー
実習記録システム講習会	平成31年1月21日　（月）	平成31年4月3日　（水）	令和1年7月23日　（火）	ー
「報告書」等の提出締切	令和1年5月17日　（金）	令和1年8月20日　（火）	令和1年11月15日　（金）	令和2年2月21日　（金）
「報告会」実施予定日	令和2年2月19日（水）頃を予定			
教員事前訪問	平成31年1月28日　（月） ～ 平成31年2月22日　（金）	平成31年4月30日　（火） ～ 令和1年5月24日　（金）	令和1年7月29日　（月） ～ 令和1年8月23日　（金）	令和1年10月28日　（月） ～ 令和1年11月22日　（金）
教員訪問第1回	平成31年3月4日　（月） ～ 平成31年3月29日　（金）	令和1年6月3日　（月） ～ 令和1年6月28日　（金）	令和1年9月2日　（月） ～ 令和1年9月27日　（金）	令和1年12月2日　（月） ～ 令和1年12月26日　（木）
特研教員の 学生へのコンタクト または登校日の設定	平成31年3月30日　（土） ～ 平成31年4月14日　（日）	令和1年6月29日　（土） ～ 令和1年7月14日　（日）	令和1年9月28日　（土） ～ 令和1年10月13日　（日）	令和2年1月7日　（火） ～ 令和2年1月19日　（日）
教員訪問第2回	平成31年4月15日　（月） ～ 令和1年5月10日　（金）	令和1年7月15日　（月） ～ 令和1年8月9日　（金）	令和1年10月14日　（月） ～ 令和1年11月8日　（金）	令和2年1月20日　（月） ～ 令和2年2月14日　（金）

教育課程と指定規則等との対比表

薬学教育モデル・コアカリキュラムの一般目標(GIO)と授業科目の対比について下表に示す。

※選択科目は○を付記

一般目標(GIO)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
A 基本事項						
(1)薬剤師の使命 医療と薬学の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割を理解し、薬剤師としての使命感を身につける。	薬学入門 医療人マインド ○専門職連携医療論 早期体験学習		生命医療倫理	コミュニケーション キャリアデザイン概論 医薬品化学2 ○医薬品安全性学 個別化医療 臨床薬物動態学 コミュニティファーマシー		○多職種融合(連携)ゼミ
(2)薬剤師に求められる倫理観 倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養う。	薬学入門 早期体験学習		生命医療倫理	コミュニケーション 臨床導入学習1 薬事関連法・制度		
(3)信頼関係の構築 患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。	アカデミックスキル 薬学入門 医療人マインド ○専門職連携医療論	医療心理学	生命医療倫理	コミュニケーション ○アドバンスト薬物治療学 コミュニティファーマシー 臨床導入学習1		
(4)多職種連携協働とチーム医療 医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身につける。	薬学入門 医療人マインド ○専門職連携医療論 早期体験学習			コミュニケーション キャリアデザイン概論 コミュニティファーマシー		○多職種融合(連携)ゼミ
(5)自己研鑽と次世代を担う人材の育成 生涯にわたって自ら学ぶことの必要性・重要性を理解し、修得した知識・技能・態度を確実に次世代へ継承する意欲と行動力を身につける。	情報科学演習 アカデミックスキル 薬学入門 早期体験学習		生命医療倫理	キャリアデザイン概論 ○アドバンスト薬物治療学 臨床導入学習1 特別演習・実習	病院実務実習 薬局実務実習 特別演習・実習	特別演習・実習
B 薬学と社会 人と社会に関わる薬剤師として自覚を持って行動するために、保健・医療・福祉に係る法規範・制度・経済、及び地域における薬局と薬剤師の役割を理解し、義務及び法令を遵守する態度を身につける。						
(1)人と社会に関わる薬剤師 人の行動や考え方、社会の仕組みを理解し、人・社会と薬剤師の関わりを認識する。	薬学入門	医療心理学	生命医療倫理			

一般目標(GIO)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2)薬剤師と医薬品等に係る法規範 調剤、医薬品等(医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品)の供給、その他薬事衛生に係る任務を薬剤師として適正に遂行するために必要な法規範とその意義を理解する。			医薬品化学1 医療と法 製剤設計学	医薬品化学2 薬事関連法・制度		
(3)社会保障制度と医療経済 社会保障制度のもとで提供される医療と福祉について、現状と課題を認識するとともに、薬剤師が担う役割とその意義を理解する。	薬学入門		医療と法 製剤設計学	○医療政策論 コミュニティファーマシー 薬事関連法・制度 社会保障論		
(4)地域における薬局と薬剤師 地域の保健、医療、福祉について、現状と課題を認識するとともに、その質を向上させるための薬局及び薬剤師の役割とその意義を理解する。	薬学入門			○医療政策論 コミュニティファーマシー 社会保障論		
C 薬学基礎						
C1 物質の物理的性質 物質の物理的性質を理解するために、原子・分子の構造、熱力学、反応速度論などに関する基本的事項を身につける。						
(1)物質の構造 物質を構成する原子・分子の構造、および化学結合に関する基本的事項を修得する。	基礎有機化学 有機化学1 生化学1	物理化学2 物理化学3 分析化学2 有機化学3 有機スペクトル学演習	放射化学 ○応用放射化学 ○精密有機合成化学 物理薬剤学 製剤設計学 衛生薬学・放射化学実習 薬剤学実習			
(2)物質のエネルギーと平衡 物質の状態を理解するために、熱力学に関する基本的事項を修得する。	物理化学1 分析化学1 有機化学1	物理化学2 物理化学3 生化学2 物理化学実習	応用分析学 物理薬剤学			
(3)物質の変化 物質の変換過程を理解するために、反応速度論に関する基本的事項を修得する。		物理化学3 物理化学実習	物理薬剤学			
C2 化学物質の分析 化学物質(医薬品を含む)を適切に分析できるようになるために、物質の定性、定量に関する基本的事項を修得する。						

一般目標(GIO)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(1)分析の基礎 化学物質の分析に用いる器具の使用法と得られる測定値の取り扱いに関する基本的事項を修得する。	分析化学1	分析化学2 分析化学実習	生物科学実習			
(2)溶液中の化学平衡　溶液中の化学平衡に関する基本的事項を修得する。	分析化学1 基礎有機化学 生化学1	分析化学実習 物理化学実習	生物科学実習			
(3)化学物質の定性分析・定量分析 化学物質の定性分析および定量分析に関する基本的事項を修得する。	分析化学1	生物無機化学 分析化学実習	応用分析学 製剤設計学			
(4)機器を用いる分析法 機器を用いる分析法の原理とその応用に関する基本的事項を修得する。		物理化学2 分析化学2 有機スペクトル学演習 分析化学実習	物理薬剤学 製剤設計学 ○臨床化学 生物科学実習 薬剤学実習	○生物物理化学		
(5)分離分析法 分離分析法に関する基本的事項を修得する。	生化学1 基礎有機化学実習	分析化学2 分析化学実習	○臨床化学 有機化学実習 生物科学実習	○生物物理化学		
(6)臨床現場で用いる分析技術 臨床現場で用いる代表的な分析技術に関する基本的事項を修得する。	医療薬学導入学習	分析化学2 薬物治療学1 薬物治療学2	応用分析学 ○応用放射化学 薬物治療学3 薬物治療学4 ○臨床化学 生物科学実習			
C3　化学物質の性質と反応 化学物質を理解できるようになるために、代表的な有機化合物の構造、性質、反応、分離法、構造決定法、および無機化合物の構造と性質に関する基本的事項を修得する。						
(1)化学物質の基本的性質 基本的な有機化合物の命名法、電子配置、反応、立体構造などに関する基本的事項を修得する。	基礎有機化学 有機化学1 生化学1 基礎有機化学実習	有機化学2 有機化学3	有機化学4 ○精密有機合成化学 有機化学実習			
(2)有機化合物の基本骨格の構造と反応 有機化合物の基本骨格となる脂肪族および芳香族化合物の構造、性質、反応性などに関する基本的事項を修得する。	基礎有機化学 有機化学1	有機化学2 有機化学3				

一般目標(GIO)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3)官能基の性質と反応 官能基を有する有機化合物の性質、反応性に関する基本的事項を修得する。	基礎有機化学 有機化学1 基礎有機化学実習	有機化学2 有機化学3	有機化学4 ○精密有機合成化学 有機化学実習			
(4)化学物質の構造決定 代表的な機器分析としての核磁気共鳴(NMR)、赤外吸収(IR)、質量分析による構造決定法の基本的事項を修得する。		有機スペクトル学演習	有機化学実習			
(5)無機化合物・錯体の構造と性質 代表的な無機化合物・錯体(医薬品を含む)の構造、性質に関する基本的事項を修得する。		生物無機化学				
C4　生体分子・医薬品の化学による理解 医薬品の生体内での作用を化学的に理解できるようになるために、医薬品標的および医薬品の構造と性質、生体反応の化学に関する基本的事項を修得する。						
(1)医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質 医薬品の標的となる生体分子の基本構造と、その化学的な性質に関する基本的事項を修得する。		薬理学1	医薬品化学1 ○臨床化学	○生物物理化学		
(2)生体反応の化学による理解 医薬品の作用の基礎となる生体反応の化学的理解に関する基本的事項を修得する。	生物学 生化学1	薬理学1	医薬品化学1			
(3)医薬品の化学構造と性質、作用 医薬品に含まれる代表的な構造およびその性質を医薬品の作用と関連づける基本的事項を修得する。		薬理学1 薬理学2	医薬品化学1 製剤設計学	医薬品化学2		
C5　自然が生み出す薬物 自然界に存在する物質を医薬品として利用できるようになるために、代表的な生薬の基原、特色、臨床応用および天然生物活性物質の単離、構造、物性、作用などに関する基本的事項を修得する。						
(1)薬になる動植鉱物 基原、性状、含有成分、品質評価などに関する基本的事項を修得する。	薬用植物学 薬用天然物化学	生薬学 漢方・生薬学実習	基礎漢方薬学			○漢方医学概論
(2)薬の宝庫としての天然物 医薬品資源としての天然生物活性物質を構造によって分類・整理するとともに、天然生物活性物質の利用に関する基本的事項を修得する。	薬用天然物化学 基礎有機化学実習	漢方・生薬学実習				

一般目標(GIO)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C6　生命現象の基礎 生命現象を細胞レベル、分子レベルで理解できるようになるために、生命体の最小単位である細胞の成り立ちや生命現象を担う分子に関する基本的事項を修得する。						
(1)細胞の構造と機能 細胞膜、細胞小器官、細胞骨格などの構造と機能に関する基本的事項を修得する。	生物学					
(2)生命現象を担う分子 生命現象を担う分子の構造、性質、役割に関する基本的事項を修得する。	生物学 生化学1 基礎細胞生物学 薬用天然物化学	生化学2 分子生物学	医薬品化学1 ○臨床化学 生物科学実習	○生物物理化学		
(3)生命活動を担うタンパク質 生命活動を担うタンパク質の構造、性質、機能、代謝に関する基本的事項を修得する。	生物学 生化学1 基礎細胞生物学	生化学2 分子生物学	分子細胞生物学 ○臨床化学 生物科学実習	○生物物理化学		
(4)生命情報を担う遺伝子　生命情報を担う遺伝子の複製、発現と、それらの制御に関する基本的事項を修得する。	基礎細胞生物学	分子生物学	分子細胞生物学			
(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系 生体エネルギーの産生、貯蔵、利用、およびこれらを担う糖質、脂質、タンパク質、核酸の代謝に関する基本的事項を修得する。	生物学 薬用天然物化学	生化学2	分子細胞生物学 ○臨床化学			
(6)細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達 細胞間コミュニケーション及び細胞内情報伝達の方法と役割に関する基本的事項を修得する。	生物学 機能形態学1	薬理学1	分子細胞生物学			
(7)細胞の分裂と死 細胞周期と分裂、細胞死に関する基本的事項を修得する。	基礎細胞生物学		分子細胞生物学	○先端分子医科学		
C7　人体の成り立ちと生体機能の調節 人体の成り立ちを個体、器官、細胞の各レベルで理解できるようになるために、人体の構造、機能、調節に関する基本的事項を修得する。						
(1)人体の成り立ち 遺伝、発生、および各器官の構造と機能に関する基本的事項を修得する。	基礎細胞生物学 機能形態学1	分子生物学 機能形態学2 薬理学1 薬理学2 薬物治療学2 生物学実習	免疫学 分子細胞生物学 薬理学3	薬物治療学5 ○医薬品安全性学		

一般目標(GIO)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 生体機能の調節 生体の維持に関わる情報ネットワークを担う代表的な情報伝達物質の種類、作用発現機構に関する基本的事項を修得する。	機能形態学1	生化学2 機能形態学2 薬理学1 薬理学2 薬物治療学2	分子細胞生物学 薬理学3 薬理学4	○アドバンスト薬物治療学		
C8 生体防御と微生物 生体の恒常性が崩れたときに生ずる変化を理解できるようになるために、免疫反応による生体防御機構とその破綻、および代表的な病原微生物に関する基本的事項を修得する。						
(1)身体をまもる ヒトの主な生体防御反応としての免疫応答に関する基本的事項を修得する。	生物学 機能形態学1		免疫学 分子細胞生物学			
(2)免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用 免疫応答の制御とその破綻、および免疫反応の臨床応用に関する基本的事項を修得する。	生物学	生物学実習	免疫学			
(3)微生物の基本 微生物の分類、構造、生活環などに関する基本的事項を修得する。	生物学	微生物学 生物学実習	病原微生物学	臨床感染症学		
(4)病原体としての微生物 ヒトと微生物の関わりおよび病原微生物に関する基本的事項を修得する。		微生物学	病原微生物学	臨床感染症学		
D 衛生薬学						
D1 健康 人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献できるようになるために、現代社会における疾病とその予防、栄養と健康に関する基本的知識、技能、態度を修得する。						
(1)社会・集団と健康 人々(集団)の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握するために、保健統計と疫学に関する基本的事項を修得する。			衛生薬学3 衛生薬学・放射化学実習			
(2)疾病の予防 健康を理解し疾病の予防に貢献できるようになるために、感染症、生活習慣病、職業病などについての現状とその予防に関する基本的事項を修得する。		微生物学	衛生薬学3 病原微生物学 衛生薬学・放射化学実習	臨床感染症学		

一般目標(GIO)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3)栄養と健康 食生活が健康に与える影響を科学的に理解するために、栄養と食品機能、食品衛生に関する基本的事項を修得する。		微生物学 衛生薬学1 薬物治療学2	衛生薬学3 病原微生物学 衛生薬学・放射化学実習			
D2 環境 人々の健康にとってより良い環境の維持と公衆衛生の向上に貢献できるようになるために、化学物質などのヒトへの影響、適正な使用、および地球生態系や生活環境と健康との関わりにおける基本的知識、技能、態度を修得する。						
(1)化学物質・放射線の生体への影響 化学物質などの生体への有害作用を回避し、適正に使用できるようになるために、化学物質の毒性などに関する基本的事項を修得する。		衛生薬学1	衛生薬学2 衛生薬学・放射化学実習	○医薬品安全性学		
(2)生活環境と健康 地球生態系や生活環境を保全、維持できるようになるために、環境汚染物質などの成因、測定法、生体への影響、汚染防止、汚染除去などに関する基本的事項を修得する。			衛生薬学2 衛生薬学・放射化学実習			
E 医療薬学						
E1 薬の作用と体の変化 疾病と薬物の作用に関する知識を修得し、医薬品の作用する過程を理解する。						
(1)薬の作用 医薬品を薬効に基づいて適正に使用できるようになるために、薬物の生体内における作用に関する基本的事項を修得する。		薬理学1 薬理学2 生物薬剤学1 生物学実習	医薬品化学1 生物薬剤学2 製剤設計学 薬物治療学3 薬物治療学4 薬物速度論 薬理学実習	医薬品化学2 ○医薬品安全性学 臨床薬物動態学		
(2)身体の病的変化を知る 身体の病的変化から疾患を推測できるようになるために、代表的な症候、病態・臨床検査に関する基本的事項を修得する。	医療薬学導入学習	薬物治療学1 薬物治療学2	○臨床化学	薬物治療学5 ○アドバンスト薬物治療学		
(3)薬物治療の位置づけ 医療チームの一員として薬物治療に参画できるようになるために、代表的な疾患における治療と薬物療法に関する基本的事項を修得する。		薬物治療学2	薬物治療学3 薬物治療学4	薬物治療学5 ○アドバンスト薬物治療学		

一般目標(GIO)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(4)医薬品の安全性 医療における医薬品のリスクを回避できるようになるために、有害事象(副作用、相互作用)、薬害、薬物乱用に関する基本的事項を修得する。	医療薬学導入学習	薬理学1 薬物治療学2	薬物治療学3 薬物治療学4	○アドバンスト薬物治療学 ○医薬品安全性学 個別化医療		
E2 薬理・病態・薬物治療 患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定および医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、疾病に伴う症状などの患者情報を解析し、最適な治療を実施するための薬理、病態・薬物治療に関する基本的事項を修得する。						
(1)神経系の疾患と薬 神経系・筋に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。	医療薬学導入学習	薬理学1 薬理学2 薬物治療学2	医薬品化学1 薬理学3 薬物治療学3 薬物治療学4 薬理学実習	医薬品化学2 ○アドバンスト薬物治療学		○アドバンスト薬理学
(2)免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。		薬理学1 薬理学2 薬物治療学1 薬物治療学2	免疫学 薬理学3 薬物治療学3	医薬品化学2 薬物治療学5 ○医薬品安全性学		○アドバンスト薬理学
(3)循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬 循環器系・血液・造血器系・泌尿器系・生殖器系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。	医療薬学導入学習	薬理学1 薬理学2 薬物治療学1 薬物治療学2	薬理学4 薬物治療学3 薬物治療学4 薬理学実習	医薬品化学2 薬物治療学5 ○アドバンスト薬物治療学		○アドバンスト薬理学
(4)呼吸器系・消化器系の疾患と薬 呼吸器系・消化器系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。	医療薬学導入学習	薬理学1 薬物治療学1 薬物治療学2	薬理学3	医薬品化学2 ○アドバンスト薬物治療学		

一般目標(GIO)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(5)代謝系・内分泌系の疾患と薬 代謝系・内分泌系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。	医療薬学導入学習	薬理学2 薬物治療学1	薬理学4	医薬品化学2 薬物治療学5 ○アドバンスト薬物治療学		○アドバンスト薬理学
(6)感覚器・皮膚の疾患と薬 感覚器・皮膚の疾患と薬の薬理作用・機序および副作用に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。		薬理学1 薬物治療学2	医薬品化学1 薬物治療学3 薬物治療学4	医薬品化学2 薬物治療学5 個別化医療		
(7)病原微生物(感染症)・悪性新生物(がん)と薬 病原微生物(細菌、ウイルス、真菌、原虫)、および悪性新生物に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。		微生物学 薬物治療学1 薬物治療学2	免疫学 病原微生物学 薬理学4 薬物治療学3 薬物治療学4	医薬品化学2 薬物治療学5 ○アドバンスト薬物治療学 臨床感染症学 臨床薬物動態学		○アドバンスト薬理学
(8)バイオ・細胞医薬品とゲノム情報 医薬品としてのタンパク質、遺伝子、細胞を適正に利用するために、それらを用いる治療に関する基本的知識を修得し、倫理的態度を身につける。併せて、ゲノム情報の利用に関する基本的事項を修得する。		薬物治療学2	薬物治療学3 薬物治療学4	薬物治療学5 ○アドバンスト薬物治療学		
(9)要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション 適切な薬物治療および地域の保健・医療に貢献できるようになるために、要指導医薬品・一般用医薬品およびセルフメディケーションに関する基本的知識を修得する。併せて、薬物治療実施に必要な情報を自ら収集するための基本的事項を修得する。				○アドバンスト薬物治療学 コミュニティファーマシー 臨床導入学習1		
(10)医療の中の漢方薬 漢方の考え方、疾患概念、代表的な漢方薬の適応、副作用や注意事項などに関する基本的事項を修得する。		漢方・生薬学実習	基礎漢方薬学 薬物治療学3 薬物治療学4			○漢方医学概論

一般目標(GIO)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(11)薬物治療の最適化 最適な薬物治療の実現に貢献できるようになるために、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。		薬物治療学2	薬物治療学3 薬物治療学4	○アドバンスト薬物治療学 個別化医療		
E3 薬物治療に役立つ情報 薬物治療に必要な情報を医療チームおよび患者に提供したり、処方設計を提案したり、臨床上の問題解決ができるようになるために、医薬品情報ならびに患者情報の収集・評価・加工、臨床研究デザイン・解析などに関する基本的知識を修得し、それらを活用するための基本的事項を身につける。						
(1)医薬品情報 医薬品情報の収集・評価・加工・提供・管理・評価、EBM の実践、生物統計ならびに臨床研究デザイン・解析に関する基本的事項を修得する。		数理統計学	医薬品情報学	医療統計学 ○アドバンスト薬物治療学 個別化医療 臨床導入学習1 特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習
(2)患者情報 患者からの情報の収集、評価に必要な基本的事項を修得する。			医薬品情報学	○アドバンスト薬物治療学		
(3)個別化医療 薬物治療の個別化に関する基本的事項を修得する。		薬物治療学1	生物薬剤学2 薬物速度論	○アドバンスト薬物治療学 ○医薬品安全性学 個別化医療 臨床薬物動態学		
E4 薬の生体内運命　薬物の生体内運命を理解し、個々の患者の投与設計ができるようになるために、薬物の体内動態およびその解析に関する基本的知識を修得し、それらを応用する基本的技能を身につける。						
(1)薬物の体内動態 吸収、分布、代謝、排泄の各過程および薬物動態学的相互作用に関する基本的事項を修得する。		物理化学3 生物薬剤学1	生物薬剤学2 製剤設計学 薬剤学実習	○生物物理化学 ○アドバンスト薬物治療学 個別化医療 臨床薬物動態学		
(2)薬物動態の解析 薬物動態の理論的解析ならびに投与設計に関する基本的事項を修得する。			薬物速度論 ○臨床化学 薬剤学実習	個別化医療 臨床薬物動態学		

一般目標(GIO)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
E5 製剤化のサイエンス 製剤化の意義と製剤の性質を理解するために、薬物と製剤材料の物性、製剤設計、および薬物送達システムに関する基本的事項を修得する。						
(1)製剤の性質 薬物と製剤材料の物性に関する基本的事項を修得する。		物理化学3 物理化学実習	物理薬剤学 製剤設計学 薬剤学実習			
(2)製剤設計 製剤の種類、製造、品質などに関する基本的事項を修得する。			製剤設計学 薬剤学実習			
(3)DDS(Drug Delivery System:薬物送達システム) 薬物の投与形態や薬物体内動態の制御法などを工夫した DDS に関する基本的事項を修得する。			製剤設計学			
F 薬学臨床 患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。						
(1)薬学臨床の基礎 医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活躍する臨床現場で必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れを把握する。	薬学入門 医療人マインド 早期体験学習 医療薬学導入学習			○アドバンスト薬物治療学 コミュニティファーマシー 臨床導入学習1 臨床導入学習2	病院実務実習 薬局実務実習	
(2)処方せんに基づく調剤 処方せんに基づいた調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的調剤業務を修得する。	医療薬学導入学習		○応用放射化学 臨床薬学概論 衛生薬学・放射化学実習	○アドバンスト薬物治療学 個別化医療 臨床導入学習1 臨床導入学習2	病院実務実習 薬局実務実習	
(3)薬物療法の実践 患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得する。	医療薬学導入学習		○臨床化学	○アドバンスト薬物治療学 個別化医療 臨床導入学習1 臨床導入学習2	病院実務実習 薬局実務実習	
(4)チーム医療への参画〔A(4)参照〕 医療機関や地域で、多職種が連携・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における多職種の役割と意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案と実施ができる。	医療人マインド ○専門職連携医療論			臨床感染症学 コミュニティファーマシー 臨床導入学習1	病院実務実習 薬局実務実習	○多職種融合(連携)ゼミ

一般目標(GIO)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(5)地域の保健・医療・福祉への参画〔B(4)参照〕 地域での保健・医療・福祉に積極的に貢献できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解するとともに、これらの活動に参加することで、地域住民の健康の回復、維持、向上に関わることができる。	医療薬学導入学習			○アドバンスト薬物治療学 コミュニティファーマシー 臨床導入学習1	病院実務実習 薬局実務実習	
G 薬学研究 薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。						
(1)薬学における研究の位置づけ 研究マインドをもって生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。			医療と法	特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習

学校法人大阪医科薬科大学　薬学部規程細則（平成 30～令和 2 年度入学生適用）

（令和３年４月１日施行）

（目　的）

第１条　大阪医科薬科大学薬学部薬学科における授業科目の履修に関しては、大阪医科薬科大学薬学部規程（以下、「薬学部規程」という。）に定めるもののほか、この細則による。

２　この細則は、令和３年４月１日に大阪薬科大学から薬学部に転入学した学生のうち、平成３０年度から令和２年度大阪薬科大学入学生に適用する。

（授業科目、履修及び授業日程の公示）

第２条　授業科目、単位数及び配当年次は別表１のとおりとする。

２　授業科目は原則として、配当されている学年次において履修しなければならない。

３　各学年次において履修する授業科目の内容、授業時間表及び担当教員はシラバスにより公示する。

４　各学年次において学生が１年間に履修できる授業科目の単位数の合計は、原則として５５単位を上限とする。なお、各学年次での履修単位数を算定する際、複数の学年次にわたり配当されている授業科目は、その授業科目の単位数を各学年次に按分し算定する。

５　学業成績が優秀な学生は、前項に定める単位数の上限を適用しないことを認める場合がある。

（成　績）

第３条　授業科目の成績の評価は、授業科目毎に担当教員が授業内容に対する学生の学習到達度によって行い、到達目標及び成績評価方法はシラバスに示す。

２　前項の評価は、学則第２１条第２項の規定にかかわらず、原則として１００点法によって行い、６０点以上を合格、５９点以下を不合格とし、Ｓ（１００～９０点)、Ａ（８９～８０点)、Ｂ（７９～７０点)、Ｃ（６９～６０点)、Ｄ（５９点以下）とする。なお、Ｄのうち２９点以下のものを特にＥとする。

３　前項の規定にかかわらず、一部の授業科目は、論文、報告書等の審査により合・否を判定する。

（単位の認定）

第４条　薬学部規程第８条に定めるほか、第１１条の規定により必修科目、選択必修科目の単位が未修得で進級した場合、次年度以降に実施される再試験又は４年次及び６年次の再試験終了後に実施される特別再試験を受験し、単位修得の認定を受けることができる。ただし、選択科目は次年度に再試験を実施しない。

（ＧＰＡ）

第５条　ＧＰＡは、各学期の履修科目によるＧＰＡ（以下、「学期ＧＰＡ」という。）、各年度の履修科目によるＧＰＡ（以下、「年度ＧＰＡ」という。）及び入学時からのすべての学期の履修科目によるＧＰＡ（以下、「累積ＧＰＡ」という。）の三種類を算出する。

２　学期ＧＰＡは、当該学期に履修したすべての授業科目の、当該学期の最終の成績評定により算出する。年度ＧＰＡは、当該年度に履修したすべての授業科目の、当該年度の最終の成績評定により算出する。また、累積ＧＰＡは、ＧＰＡ算出時点までに履修したすべての授業科目の、算出時点での最終の成績評定により算出する。

３　前項にかかわらず、次の各号に該当する授業科目はＧＰＡの算出対象外とする。

⑴ 合否で判定し、成績の評点を表示しない授業科目

⑵ 学則第２４条により本学における履修とみなし単位を与え、成績の評点を表示しない授業科目

４　ＧＰＡの算出のためのＧＰは、授業科目履修の成績の評定ごとにＳが４点、Ａが３点、Ｂが２点、Ｃが１点、Ｄ及びＥが０点とする。なお、試験を欠席した場合のＧＰは０点とする。

５　ＧＰＡは、次の計算式により算出する。なお、得られた数値に小数が生じた場合は、小数点以下第３位を四捨五入し、通知する。

ＧＰＡ＝「対象授業科目のＧＰ×当該授業科目の単位数」の合計／「対象授業科目の単位数」の合計

６　各学期の成績が確定した段階で、学期ＧＰＡ、年度ＧＰＡ、累積ＧＰＡ、あるいはこれらの組み合わせが一定の基準を下回った場合は、成業の見込みを立てるため、当該学生に対し面談等による修学指導を行う。

７　累積ＧＰＡが１未満の学期が３期続いた場合は、学則第２９条第２項により退学を勧告する。

８　前項の期間には、休学した学期は含まない。

９　年度ＧＰＡは、指定する奨学金の選考に用いる。その他各種ＧＰＡは、学修成果の分析等に用いるものとする。

（試験の種類）

第６条　試験は定期試験、追試験、再試験及び特別再試験に分ける。

（定期試験）

第７条　定期試験を学期末に各１回行い、それぞれ前期定期試験及び後期定期試験とする。

２　定期試験における成績の評点は、試験の評点により、又は試験の評点に平常の成績などを含め、１００点を満点とした整数によって表示する。

（追試験）

第８条　次の理由により定期試験を欠席した者に対し、各学期末に行う定期試験終了後に追試験を実施することがある。

(1) 忌引（一親等又は二親等死亡の場合）又は就職試験、大学院入学試験の場合

(2) 傷病

(3) その他やむを得ない理由

２　追試験の受験を希望する者は、所定の期日までに試験欠席届及びその理由を証明する書類（又は理由書）を提出しなければならない。

３　前項の試験欠席届が提出された場合、審議のうえ追試験の実施を決定する。

４　追試験における成績の評点は、試験の評点により、又は試験の評点に平常の成績などを含め、第１項第１号の場合は定期試験と同様に１００点、同項第２号の場合は９０点を限度として表示する。同項第３号の場合の上限点は審議のうえ決定する。

（再試験）

第９条　試験は原則として各学期末に行う定期試験終了後に行う。

２　定期試験を受験し、成績が合格と判定されなかった者は、次の各号をいずれも満たす場合に限り、再試験を受験することができる。

(1) 当該科目の出席回数がその授業回数の３分の２以上であること

(2) 当該科目の定期試験における成績の評点が３０点以上であること

３　前項にかかわらず、２年次から４年次において、下位年次配当科目に単位未修得科目がある場合は、別表１に規定する当該科目の配当年次に実施する再試験を受験することができる。ただし、第１３条第１項に規定する再履修の場合を除く。

４　定期試験を欠席した場合、再試験を受験することはできない。ただし、前条に定めるとおり、欠席理由により追試験を実施することがある。なお、追試験を不合格又は欠席した場合であっても、当該学期に実施する再試験は受験することはできない。

５　再試験における成績の評点は、試験の評点により、又は試験の評点に平常の成績などを含め、６０点を限度として表示する。

６　第３項にかかわらず、選択科目の再試験は、履修した年度のみ受験することができる。

７　前各項にかかわらず、基礎教育科目の選択科目は、再試験を実施しない。

（特別再試験）

第１０条　４年次の再試験終了後、第１１条第５項に規定する進級に必要な履修授業科目のうち、単位未修得科目について４年次特別再試験を行う。

２　前項の単位未修得科目のうち、必修科目及び選択必修科目が５科目を超える場合は、４年次特別再試験を受験することができない。また、選択科目の受験は、基礎教育科目以外の２年次から４年次に履修した科目に限る。

３　６年次の再試験終了後、別表２に規定する卒業に必要な履修授業科目のうち、単位未

修得科目について６年次特別再試験を行う。

４　特別再試験における成績の評点は、試験の評点により、又は試験の評点に平常の成績などを含め、６０点を限度として表示する。

５　定期試験を実施せずに、他の適切な方法で学修の成果を評価し単位を与える科目（実習、実技、演習等）については、特別再試験を実施しない。

（進　級）

第１１条　進級査定は、年度末に行う。

２　１年次から２年次への進級は、１年次に課せられた必修科目及び選択必修科目のうち、単位未修得科目が５科目以下のとき認められる。

３　２年次から３年次への進級は、次の各号すべてを満たしたときに認められる。

⑴ ２年次までに課せられた必修科目及び選択必修科目の単位未修得科目が５科目以下であること

⑵ 基礎教育科目の選択科目を６単位以上修得していること（ただし、教養科目は４単位以上修得していること）

４　３年次から４年次への進級は、次を満たしたときに認められる。

⑴ ３年次までに課せられた必修科目及び選択必修科目の単位未修得科目が５科目以下であること

５　４年次から５年次への進級は、次の各号すべてを満たしたときに認められる。

⑴ ４年次までに課せられた必修科目及び選択必修科目をすべて修得していること

⑵ ２年次から４年次に課せられた基礎教育科目以外の選択科目を４単位以上修得していること

⑶ 薬学共用試験に合格していること

６　５年次から６年次への進級は、１年以上の在学を満たしたとき認められる。

（卒　業）

第１２条　本学に６年以上在学し、別表２に定める履修すべき授業科目のすべての単位を修得したとき卒業が認められる。

２　卒業の認定は、毎年度末に行う。ただし、やむを得ない理由により、この認定を受けることができなかった者については、次年度においてこれを行うことができる。

（留　年）

第１３条　原級に留め置かれた場合、原則として当該年次までの単位未修得のすべての授業科目を再履修するものとする。

２　原級に留め置かれた場合、当該年度に限り薬学部規程第３条第２項の規定にかかわらず、一つ上位の学年次に配当されている授業科目の履修（先取り履修）を認めることがある。

３　前項に定める先取り履修についての取扱いは、別に定める。

（改　廃）

第１４条　この細則の改廃は、薬学部教授会の議を経て、学長が決定する。

附　則

１　この細則は、令和３年４月１日から施行する。

２　令和３年４月１日に大阪薬科大学から薬学部に転入学した学生の大阪薬科大学において修得した単位等については、薬学部に継承する。

（別表１）授業科目及び単位年次配当表

＜薬学部薬学科：平成３０～令和２年度入学生適用＞

区分	授業科目		必選	１年次		２年次		３年次		４年次		５年次		６年次	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
	教養科目	文学の世界(教養)	○	1		1									
		歴史と社会(教養)	○	1		1									
		地球環境論(教養)	○	1		1									
		政治と社会(教養)	○	1		1									
		基礎心理学(教養)	○	1		1									
		法と社会(教養)	○	1		1									
		経済の世界(教養)	○	1		1									
		社会分析の基礎(教養)	○		1		1								
		人間と宗教(教養)	○		1		1								
		文化人類学(教養)	○		1		1								
		倫理と社会(教養)	○		1		1								
		コーチング論(教養)	○		1		1								
		スポーツ・運動実習２(教養)	○		1		1								
		数理論理学(教養)	○		1		1								
基礎教育科目	数学１		●	1											
	数学２		●		1										
	数理統計学		●			1.5									
	物理学１		●	1											
	物理学２		●		1										
	英語リスニング１		●	1											
	英語リスニング２		●		1										
	英語リーディング１		●	1											
	英語リーディング２		●		1										
	英語スピーキング１		●			1									
	英語スピーキング２		●				1								
	英語ライティング１		●			1									
	英語ライティング２		●				1								
	ドイツ語１	※１	▲	1											
	ドイツ語２	※１	▲		1										
	フランス語１	※１	▲	1											
	フランス語２	※１	▲		1										
	中国語１	※１	▲	1											
	中国語２	※１	▲		1										
	ハングル１	※１	▲	1											
	ハングル２	※１	▲		1										
	異文化言語演習１		●					1							
	異文化言語演習２		●						1						
	心理社会		●				1.5								
	コミュニケーション		●							1.5					
	身体運動科学		●	1											
	スポーツ・運動実習１		●	1											
	情報科学		○		1										
	情報科学演習		●	1											
	アカデミックスキル		●	1											
	化学		●	1											
	化学演習		●	1											

区分	授業科目	必選	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教基科目育礎	生物学	●	1											
	医工薬連環科学	○			1.5									
基礎薬学科目	薬学入門	●	1											
	基礎細胞生物学	●		1.5										
	基礎有機化学	●	1.5											
	有機化学１	●		1.5										
	有機化学２	●			1.5									
	有機化学３	●				1.5								
	有機化学４	●					1.5							
	有機スペクトル学演習	●				1.5								
	物理化学１	●		1.5										
	物理化学２	●			1.5									
	物理化学３	●				1.5								
	分析化学１	●		1.5										
	分析化学２	●			1.5									
	放射化学	●			1.5									
	生化学１	●		1.5										
	生化学２	●			1.5									
	生化学３	●				1.5								
	微生物学	●			1.5									
	機能形態学１	●		1.5										
	機能形態学２	●			1.5									
	生物無機化学	●			1									
	免疫学	●					1.5							
応用薬学科目	薬学英語	●							1					
	医療統計学	●						1						
	薬用植物学	●	1.5											
	生薬学	●			1.5									
	基礎漢方薬学	●					1.5							
	薬用天然物化学	●		1.5										
	衛生薬学１	●				1.5								
	衛生薬学２	●					1.5							
	衛生薬学３	●					1.5							
	衛生薬学４	●						1.5						
	臨床感染症学	●							1.5					
	分子細胞生物学	●				1.5								
	ゲノム医科学	●					1.5							
	応用分析学	●					1.5							
	応用放射化学	○						1						
	生物物理化学	○							1					
	物理薬剤学	●					1.5							
	精密有機合成化学	○						1						
	医薬品化学１	●						1.5						
	医薬品化学２	●							1.5					
	薬局方総論	●							0.5					
	先端分子医科学１	○							0.5					
	先端分子医科学２	○								0.5				

区分	授業科目	必選	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医療薬学科目	早期体験学習１	●	← 1 →											
	早期体験学習２	●		0.5										
	医療人マインド	●	1											
	専門職連携医療論	○				1								
	連携医療学	●								1				
	医薬看融合ゼミ	○											0.5	
	病態生化学	●				1.5								
	薬理学１	●			1.5									
	薬理学２	●				1.5								
	薬理学３	●					1.5							
	薬理学４	●						1.5						
	製剤学	●						1.5						
	生物薬剤学１	●				1.5								
	生物薬剤学２	●					1.5							
	薬物動態解析学	●						1.5						
	臨床薬物動態学	●							1					
	薬物治療学１	●			1.5									
	薬物治療学２	●				1.5								
	薬物治療学３	●					1.5							
	薬物治療学４	●						1.5						
	薬物治療学５	●							1.5					
	アドバンスト薬物治療学１	○								0.5				
	アドバンスト薬物治療学２	○								0.5				
	医療薬剤学	●							1					
	個別化医療	●								1				
	コミュニティファーマシー	●								1.5				
	医薬品安全性学	○							1					
	医薬品情報学	●					1							
	医薬品情報演習	●							1					
	薬剤経済学	●											0.5	
	臨床栄養学	○							0.5					
	病態・薬物治療学演習	○							1					
	生命医療倫理	●					1.5							
	医療と法	●						1						
	医療制度	●							1					
	薬事関連法・制度	●							1.5					
	医療政策論	○								0.5				
	医療倫理論	○								0.5				
	漢方医学概論	○											0.5	
	レギュラトリーサイエンス	○							0.5					
	創薬薬理学	○											0.5	
	薬学基礎演習	●								0.5				
	臨床化学	○						1						
	臨床生理学	○						1						
	臨床導入学習１	●							3					
	臨床導入学習２	●								1				
	統合薬学演習 ※2	●							←	2	→			
	薬学総合演習	●											← 3 →	

区分	授業科目	必選	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
実習科目	基礎薬学実習	●	0.5											
	基礎有機化学実習	●		1										
	有機化学実習	●					1							
	漢方・生薬学実習	●				0.5								
	分析化学実習	●			1									
	物理・放射化学実習	●				1								
	生物学実習	●			1									
	生物科学実習	●					1							
	衛生薬学実習	●						1						
	薬理学実習	●						1						
	薬剤学実習	●						1						
	病院実務実習	●									← 10 →			
	薬局実務実習	●									← 10 →			
	特別演習・実習 ※3	●							← 16 →					

●：必修科目　▲：選択必修科目　○：選択科目

選択科目は、同時間に複数科目開講することがある

※1　ドイツ語、フランス語、中国語、ハングルより1カ国語を選択必修

※2　統合薬学演習は4年次前期から6年次前期の期間内のいずれかで行う

※3　特別演習・実習は4年次前期から6年次前期の期間で行う

（別表２）卒業に必要な単位数

＜薬学部薬学科：平成３０～令和２年度入学生適用＞

種　別	区分等	単位数	備　考
必修科目	基礎教育科目 基礎薬学科目 応用薬学科目 医療薬学科目 実　習	25.5 単位 32 単位 25 単位 46 単位 46 単位	
選択必修科目	基礎教育科目 「ドイツ語1,2」、「フランス語1,2」、「中国語1,2」、「ハングル1,2」から１カ国語２科目	２単位	
選択科目	①基礎教育科目 ＜教養科目＞1・2 年次配当 「文学の世界（教養）」、「歴史と社会（教養）」、 「地球環境論（教養）」、「政治と社会（教養）」、 「基礎心理学（教養）」、「法と社会（教養）」、 「経済の世界（教養）」、「社会分析の基礎（教養）」、 「人間と宗教（教養）」、「文化人類学（教養）」、 「倫理と社会（教養）」、「コーチング論（教養）」、 「スポーツ・運動実習２（教養）」、 「数理論理学（教養）」各１科目１単位 ＜その他＞ 「情報科学（1 単位）」（1 年次配当）、 「医工薬連環科学（1.5 単位）」（2 年次配当）、 「他の大学等との単位互換の制度を利用して履修した科目」	6 単位以上（教養科目からは 4 単位以上）	教養科目は 1 年次では各学期に 1 科目、2 年次では各学期に 2 科目まで選択して履修できる。
	②応用薬学科目、医療薬学科目 2 年次配当　「専門職連携医療論（1 単位）」 3 年次配当　「応用放射化学（1 単位）」、 「精密有機合成化学（1 単位）」、「臨床化学（1 単位）」、 「臨床生理学（1 単位）」 4 年次配当　「生物物理化学（1 単位）」、 「先端分子医科学１（0.5 単位）」、「先端分子医科学２（0.5 単位）」、 「医療政策論（0.5 単位）」、「医療倫理論（0.5 単位）」、 「レギュラトリーサイエンス（0.5 単位）」、 「医薬品安全性学（1 単位）」、「病態･薬物治療学演習（1 単位）」、 「アドバンスト薬物治療学１（0.5 単位）」、 「アドバンスト薬物治療学２（0.5 単位）」、 「臨床栄養学（0.5 単位）」 6 年次配当　「医薬看融合ゼミ（0.5 単位）」、 「漢方医学概論（0.5 単位）」、「創薬薬理学（0.5 単位）」	4.5 単位以上（2～4 年次配当科目からは 4 単位以上、6 年次配当科目からは 0.5 単位以上）	・3 年次配当科目は、2 科目まで選択して履修できる。 ・6 年次配当科目は、2 科目まで選択して履修できる。
合　　計		187 単位以上	

・各科目の配当年次学期及び単位数については学則別表１を参照すること。

・選択科目は、各項目に示された単位数以上の単位を修得すること。

・単位互換の取扱いについては「単位互換実施に関する規程」に定める。

学生確保の見通し等を記載した書類（薬学部）

目　次

１．学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

（１）学生確保の見通し

①定員充足の見込み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．２

②定員充足の根拠となる客観的なデータの概要・・・・・・・・・Ｐ．３

③学生納付金の設定の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．６

（２）学生確保に向けた具体的な取組状況

①学生確保に向けた取組方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．６

②学生確保に向けた取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．６

２．人材需要の動向等社会の要請

（１）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）・・Ｐ．８

（２）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

①関係団体等からの要望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．１０

②既設学部の求人状況及び就職状況・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．１０

１．学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

（１）学生確保の見通し

「設置の趣旨等を記載した書類」において記載した通り、今回の薬学部設置は同一法人内の 2 大学（大阪医科大学、大阪薬科大学）を統合するための手続きである。

両大学は共に伝統ある大学であり、過去の志願者数実績からも十分な定員充足を見込むことができるが、大学業界の社会全体の急速な変化や 18 歳人口の減少を踏まえ、大学統合を機に医療系総合大学「大阪医科薬科大学」としてのリブランディングを図ることで、永続的に安定した志願者獲得に繋げる。

以下に示す通り、18 歳人口の全国的・地域的動向や、設置する薬系大学・薬学部の動向、近隣の競合校の状況、設置する薬学部の母体となる大阪薬科大学薬学部での学生確保の実績等を総合的に勘案し、大学統合後も薬学部の入学定員を大阪薬科大学薬学部と同じく 294 名とする。これらのデータや調査結果等から、定員充足の見込みは充分あると考えるが、未だ数値化、表面化されていない大学統合のシナジー効果を十分に発揮できるよう、設置認可後は学生募集活動の一層の強化及び積極的な広報活動を行う。

なお、薬学部薬科学科については、設置する薬学部の母体となる大阪薬科大学薬学部薬科学科において平成 30 年度より学生募集を停止しており、今般の設置にあたっても募集停止を継続するため、入学定員充足の見通しに関する記載は省略する。

設置時の令和 3 年度以降の入学生及び大阪薬科大学より転学する平成 30 年度以降の入学生は、入学時より全員が 6 年制の薬学科の配属となり募集停止中の薬科学科の選択権はないが、同じく大阪薬科大学より転学する平成 29 年度以前の入学生は、4 年次進級時に学科選択の権利を有することとなる。これらの学生が不利益を被らないための措置として、薬科学科は学生募集停止を継続し、新規の入学定員は設けず、学科配属年次となる 4 年次の収容定員を 2 名として設置する。なお、4 年次の定員 2 名を定めた根拠は、薬科学科の過去からの学科配属現員（1 名～2 名で推移）と、この先の同学科のニーズ及び学科選択の動向を勘案し、可能な限り実人員に則して設定した。薬学部薬科学科の設置に至る取扱いは、「設置の趣旨等を記載した書類」中の「募集停止中の学科の取扱い」に詳述している。

①定員充足の見込み

（ア）中長期的な 18 歳人口の動向、新設学部等の分野の動向

少子高齢化が進む我が国において、令和 6 年には 18 歳人口が約 106 万人まで減少すると予測されており、こうした人口構造の変化は国公私立を問わず、大学の置かれている環境をより厳しくするものである。一方で、我が国は世界有数の長寿国であるとも言え、国民の健康な生活を支える薬剤師という職業の重要性が今後一層高まることは明白である。

実際に、一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会 株式会社リクルートマーケティングパートナーズ合同調査「高校生と保護者の進路に関する意識調査」（2017 年）の結果から、高校

生及びその保護者の薬学部進学意向が年々高まっていることが確認できる。【資料 1：一般社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会・株式会社リクルートマーケティングパートナーズ合同調査第 8 月分回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」2017 年報告書】

実際の薬学部の志願状況については、日本私立薬科大学協会「私立薬科大学（薬学部）入学志願者数等調」（2019 年度）によると、全国薬系学部の入学志願者数は前年比で減少しているように見える。しかしながら、入試倍率は大学間あるいは地域間で大きな開きが見られ、今回設置する薬学部の属する関西圏エリアの平均倍率は依然として高い数値を維持していることが読み取れる。【資料 2：私立薬科大学（薬学部）入学志願者数等調（一般社団法人　日本私立薬科大学協会)】

（イ）競合校の状況

設置する薬学部の母体となる大阪薬科大学薬学部の創始は、遠く明治 37 年にさかのぼる。薬学部を有する近隣大学のうち、このような長い歴史を持つ大学は、京都薬科大学、神戸薬科大学が挙げられ、これら 3 校は互いの大学が立地する府県の高校を中心に募集活動を行い、切磋琢磨しながら今日に至っている。この 3 大学の薬学部は最近 6 年間入学定員を充足しており、また最近 6 年の志願倍率も安定的に 8 倍以上を維持している。【資料 3：近隣薬科大学の学部設置状況並びに定員充足状況】

（ウ）大阪薬科大学における学生確保の状況

現在の大阪薬科大学薬学部の位置するキャンパス（阿武山キャンパス）は大阪府北部（北摂）という大きな市場に立地していることもあり、安定的な入学定員充足率、志願倍率を維持している。入学定員数 294 名に対し、最近 6 年間は約 2,500 名～3,500 名程度の志願者数と約 8 倍～10 倍程度の安定した志願倍率を維持している。【資料 4：大阪薬科大学における過去 6 年間の入試状況】

②定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

（ア）中長期的な 18 歳人口の動向、新設学部等の分野の動向

リクルート進学総研マーケットリポート「18 歳人口予測大学・短期大学・専門学校進学率地元残留率の動向」（2019）より、18 歳人口は令和 6 年には約 106 万人、令和 13 年には約 103 万人まで減少すると分析されている。【資料 5：リクルート進学総研マーケットリポート Vol.70 2019 年 11 月号「18 歳人口予測　大学・短期大学・専門学校進学率　地元残留率の動向」】

同リポートのエリア別 18 歳人口予測においては、平成 31（令和元）年から令和 13 年にかけて減少数が大きいのは近畿であり、令和 13 年には約 17 万人となると予想されている。このことから、今回設置する薬学部においても 18 歳人口減少の影響を受けることは避けられないと考える。しかしながら、近畿圏は地元残留率が比較的高い地域であるとも分析さ

れている。また、文部科学省「大学進学時の都道府県別流入・流出者数」より、大阪府は東京都、京都府に次いで他県からの大学進学者が多いことが分かる。【資料 6：大学進学時の都道府県別流入・流出者数（文部科学省）】

今回設置する薬学部のキャンパスは大阪府高槻市という、近畿圏の大都市である大阪市と京都市のほぼ中間に近い場所に位置し、キャンパス最寄り駅から大阪駅及び京都駅までは電車にてそれぞれ 20 分程度である。以上から、大阪府という大きな市場と京都府に近いという立地上の特性を活かした学生募集活動を行うことで、今後も安定的に志願者を確保できるものと考える。

また、薬学部進学に関する動向について、一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会 株式会社リクルートマーケティングパートナーズ合同調査「高校生と保護者の進路に関する意識調査」（2017 年）によると、高校生が就きたい職業として薬剤師が 7 位（4.3%）となっている他、保護者が子どもに就いてほしい職業として薬剤師が 5 位（5.8%）となっている。同調査は隔年で実施されており、平成 25 年～平成 29 年における 3 回分の調査結果を比較したところ、高校生が就きたい職業・保護者が子どもに就いてほしい職業としての薬剤師の順位及び回答比率は年々上がっていることが確認でき、18 歳人口が減少している一方で薬剤師養成に対する需要は今後も上がることが見込まれる。【資料 1：一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会・株式会社リクルートマーケティングパートナーズ合同調査第 8 月分回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」2017 年報告書】

同調査において、高校生が薬剤師を志す具体的理由としては「薬で誰かを助けたい。」、「国家資格なので結婚・出産後も働けるし、働き口が常に安定してあるから。」等が挙げられている。保護者が子どもに薬剤師に就いてほしいと思う具体的理由としては、「資格を持って、長く働いて欲しいと思うから。」、「国家試験であり、職の幅が広いと思う。人に接する事が好きで、性格的にも適しているのでは、と思う。」等が挙げられている。以上から、薬剤師という職業は、人の役に立ち、社会貢献性が高く、国家資格を取得すると安定的に仕事ができる魅力的な職業であると捉えられていることが分かる。また、同調査の調査結果トピックスでは、「高校生･保護者とも進路に関して『役立つ資格』『安定している仕事』『手に職』を望んでいる。」と分析されている。これら調査結果より、薬剤師の職業イメージ及び高校生・保護者の資格取得への強い意識が薬剤師養成需要拡大の一因であると考えられる。

また、日本私立薬科大学協会「私立薬科大学（薬学部）入学志願者調査」（2019 年度）によると、全国薬系学部の入学志願者数は約 8 万 9 千人と前年度に比べてやや減少している。しかしながら、入試倍率は大学間あるいは地域間で大きな開きが見られ、関西圏エリア全体で見た志願倍率（入学志願者総数／入学定員総数）は依然として高い数値（10.63 倍）を維持しており、関西圏の薬系学部には引続き強いニーズがあると言える。【資料 2：私立薬科大学（薬学部）入学志願者数等調（一般社団法人　日本私立薬科大学協会）】

（イ）競合校の状況

京阪神地区で創立80年を経過し、かつ入学定員が250名を超えた大規模な私立薬科大学は、前述のとおり、大阪薬科大学（明治37年)、京都薬科大学（明治17年)、神戸薬科大学（昭和5年）の3大学で、この3大学の薬学部の入学定員の合計は924名となっている。また最近6年間の大阪薬科大学、京都薬科大学、神戸薬科大学の薬学部の入学定員充足率の平均についてみると、平成26年度は105.4%、平成27年度は103.1%、平成28年度は103.3%、平成29年度は106.0%、平成30年度は106.3%、平成31年度は104.3%となっており、安定した入学定員の充足状況を維持していることが分かる。加えて、最近6年の3大学の平均志願倍率は、平成26年度は11.2倍、平成27年度は10.1倍、平成28年度は9.1倍、平成29年度は9.1、平成30年度は8.6倍、平成31年度は8.1倍と推移している。【資料3：近隣薬科大学の学部設置状況並びに定員充足状況】

また、6年制薬学部における標準修業年限卒業率を前述の3大学間にて比較したところ、平成25年度入学生の標準修業年限卒業率は大阪薬科大学81.8%、京都薬科大学79%、神戸薬科大学72.0%となっている。【資料7：2019年（平成31年・令和元年）度の入学試験・6年制学科生の修学状況（一般社団法人　日本私立薬科大学協会)】

以上のことから、大阪薬科大学薬学部の定員をそのままスライドさせる形で大阪医科大学に薬学部薬学科を設置するにあたり、3大学の入学定員に増減は生じないこと、また、標準修業年限卒業率も3大学ともに高水準かつ、大阪薬科大学のみが80%超となっていることは志願者への大きなPRポイントであり、これまで通りの十分な定員充足の見通しがあるものと考えられる。

（ウ）大阪薬科大学における学生確保の状況

設置する薬学部の母体となる大阪薬科大学薬学部薬学科における最近6年間の入学志願者数等の実績については、平成26年度の志願者数は3,561名、志願倍率は11.9倍、平成27年度の志願者数は2,967名、志願倍率は9.9倍、平成28年度の志願者数は2,902名、志願倍率は9.7倍、平成29年度の志願者数は2,673名、志願倍率は8.9倍、平成30年度の志願者数は2,511名、志願倍率は8.5倍、平成31年度の志願者数は2,279名、志願倍率は7.8倍となっており、安定した志願者数を維持している。【資料4：大阪薬科大学における過去6年間の入試状況】

また、リクルート進学総研「進学ブランド力調査2019」では、薬学分野における分野別志願度ランキングにて大阪薬科大学は関西圏1位（19.0%）となっており、同調査の理系女子における志願度ランキングにおいては関西圏6位（5.4%）であった。【資料8：リクルート カレッジマネジメント218 / Sep. - Oct. 2019「特集　進学ブランド力調査2019」】このように、既に高い知名度と安定的な志願者数が確保できている中、この後に、医療系総合大学の薬学部として第一歩を踏み出すべく、既に始まっている大阪医科大学の医学部、看護学部と連携した専門職連携教育（IPE:Interprofessional Education）の推進を前面に

出し、大学統合に向けた準備を整えている旨、各高等学校進路指導部に説明を行っており、高等学校からの関心は非常に高い。

以上から、学生確保においては十分な見通しがあると考えられる。

③学生納付金の設定の考え方

学生納付金は、これまでの教育研究費や大学運営上の管理経費の推移と今後の教育研究環境の維持・充実に資することを勘案し、設置する薬学部の母体となる大阪薬科大学薬学部と同額とした。入学金及び授業料ともに、競合校を含めた近隣の私立薬系大学・薬学部の標準的な額に設定している。

＜近隣県の薬学部を持つ私立大学の学生納付金　（単位 円）＞

所在地	大学・学部・学科	入学金	授業料等
大阪府	**大阪医科大学薬学部薬学科**	**400,000**	**1,800,000**
大阪府	摂南大学薬学部薬学科	450,000	1,720,000
大阪府	大阪大谷大学薬学部薬学科	400,000	1,780,000
京都府	京都薬科大学薬学部薬学科	400,000	1,800,000
兵庫県	神戸薬科大学薬学部薬学科	400,000	1,800,000

（２）学生確保に向けた具体的な取組状況

①学生確保に向けた取組方針

設置する薬学部の広報活動については、設置認可申請中であることを考慮し、現在の大阪薬科大学の教育研究環境の充実、教育内容、就職実績及び大学統合後のビジョン等を周知することに努め、設置認可後は薬学部設置の目的、専門職連携教育（IPE:Interprofessional Education）の充実など医療系総合大学としての特徴的な教育研究内容等を高等学校及び薬学部への志願が期待される高校生等にオープンキャンパス、進学相談会、高校内ガイダンス、学生募集ホームページ等を通して入学試験制度等の周知を積極的に行い、学生確保に努めることとする。

以上の広報活動を通じ、医療系総合大学としての強みを全面的に打ち出し、「大阪医科薬科大学」（設置認可後、大学名称変更の学則変更届出予定）としての新たなブランド力を強化し、大学統合を志願者の更なる増加の契機とすべく、取組を積極的に推進する。

②学生確保に向けた取組状況

大阪薬科大学では、教員と事務職員による入試関連部門（入試委員会及び入試課）により、年間を通して積極的かつ全国的な学生確保の取組を実施し、薬学部 PR のため入試広報のみならず、大学や法人広報関連部門とも連携しながら学生募集活動を強化・推進しており、こうした組織的な広報活動が今日までの学生確保に繋がっていると言える。

設置認可後の学生確保に向けた取組としては、これまで大阪薬科大学にて行ってきた取組体制を継続・発展させ、設置する薬学部及び医療系総合大学としての特色を強く PR する予定である。

具体的な取組内容は以下（ア）～（エ）に記載する。

（ア）オープンキャンパス

大阪薬科大学では、春季（1 回）、夏期（3 回）、秋季（1 回）にオープンキャンパスを開催している。

過去の参加者数は、平成 26 年は 1,465 組・2,605 名、平成 27 年は 1,566 組・2,416 名、平成 28 年は 1,585 組・2,576 名、平成 29 年は 1,445 組・2,311 名、平成 30 年は 938 組・1,801 名（1 回あたり平均参加者数は概ね 400 名超）で、入学定員を大きく上回る実績となっている。なお、平成 30 年の参加者数が少ない原因は、大型の台風の影響により 7 月のオープンキャンパスを中止したことによる。

オープンキャンパスの内容は、入試説明会、入試対策講座、キャンパスツアー、オープンラボ（研究室見学）、模擬実習体験、在学生による大学生活紹介、教員個別相談、学生個別相談等である。また、入試説明会では説明しきれない学部・学科の細かな教育内容や学生支援体制等を紹介する大学案内や大学統合リーフレットを配付しており、これは以下の取組みについても同様である。

実施体制については今後も現状の体制を維持するが、実施内容については適宜見直しを行い、一層の受験生増に繋がるプログラム等を考案するよう努める。

（イ）進学相談会

大阪薬科大学では、高等学校や広告業者が主催する高校内ガイダンス（平成 30 年度実績 34 校）、進学相談会（平成 30 年度実績 29 会場）に参加している。高校内ガイダンスは京阪神地区の高等学校を中心に参加し、進学相談会は地方試験会場（福岡、広島、高松、名古屋、岡山）のある地域も含め、エリアを広げて参加している。今後もエリア毎に受験生獲得可能性を検証し、進学相談会実施体制の拡充を目指す。

（ウ）高校訪問

大阪薬科大学では、志願者・入学者の 7 割が集中している近畿圏や入学試験会場のある広島県、岡山県、香川県、福岡県、愛知県の高校訪問及び地方試験会場のある地域を中心に進路指導部を訪問している。訪問の際は、受験の実績、在学生の成績、入学者選抜方法、カリキュラム、進級率、就職等について説明を行っている（平成 30 年度実績のべ 350 校）。今後も高校との連携を密にして入学志願者の獲得に努める。

（エ）その他広報活動等

大阪薬科大学では、入試課による予備校訪問、進学雑誌・新聞への広告掲出、進学情報サイトの活用等の広報活動により、志願者の確保に努めている。

当然ながら、大学 HP においても「入試情報」コーナーを設け、アドミッションポリシーや入試要項をはじめ、各種イベントやニュースを発信し、受験生がリアルタイムで情報を得られるようにしている。昨今スマートフォンがインターネット利用のメインデバイスとなっていることを踏まえ、大学 HP のスマートフォン対応も実施している。その他、Twitter や LINE を活用する等、時流に乗った方法で広く情報提供を続けている。

また、所在する高槻市主催の各種公開講座や小中学生向けの薬剤師体験イベント、駅構内における広告掲出等により、学生だけでなく一般市民へも訴求する広報活動を全学的に実施している。近年の実績としては、高槻市主催「夏休み子ども大学」への講座提供、駅近辺における広告掲出（JR 大阪駅及び近鉄上本町駅の電照看板、JR 京都駅、高槻駅、広島駅、高松駅のデジタルサイネージ等）が挙げられる。広告掲出場所の選定は、キャンパス付近で利用者数の多い駅、入試地方会場最寄り駅、高校、予備校が多く受験生の目に触れやすい場所等、幅広い観点を取り入れている。現在掲出中の広告については、令和 2 年度も継続する予定である（設置認可後にはデザインを変更、統合後大学の情報を盛り込む予定)。なお、看板（サイネージ）の内容は、通常は大学を広く PR するものとなっているが、オープンキャンパス前にはその告知を含めたものに意匠替えしている。

大学統合後は薬学部として本取組を継続実施するとともに、医療系総合大学の魅力を全面的に打ち出した PR を行い、大学全体の認知度の更なる向上及び薬学部の志願者数の増加を図る。

以上の通り、大阪薬科大学薬学部では学生募集活動における豊富な実績があり、過去 5 年間の志願者数、入学者数ともに定員を充足するのに十分な数で推移していることから、現在の体制を継続し、更に発展させることにより、設置する薬学部においても入学定員を十分に確保できると考える。【資料 4：大阪薬科大学における過去 6 年間の入試状況】

また、大学統合計画が決定した平成 31 年度以降は、受験生向けの広報活動において、入学後に全学生が大阪医科大学へ転学する予定であることを伝えるべく、リーフレットを作成する等、大学統合に関する計画、統合後大学のビジョン、展望に関する情報も含め情報発信している。なお、これらの情報は、設置認可前であることを踏まえ、受験生等のステークホルダーに誤解を与えることのないよう十分に留意し、広報活動を行っている。

２．人材需要の動向等社会の要請

（１）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

現在、調剤機器や情報技術の発達により、AI やロボットを活用した対物業務の効率化・省人化が進むなど、薬剤師が置かれている状況は変革の時を迎えており、薬剤師に求めら

れる職能が、これまでの調剤等の“対物”を中心とした業務から、医師や看護師等の医療従事者、患者との議論・対話をベースとした“対人”業務へとシフトしている。これは同時に、6 年制薬学教育に対し、臨床現場でのチーム医療の一員として、また、厚生労働省が提唱する地域包括ケアシステムの構築における地域医療の担い手として、薬に対する高度な知識と技術、高い生命倫理観を持ち合わせた上で、患者の状態・病態を把握し医師と議論を重ねることのできる薬剤師の養成が社会から求められていると言える。つまり、薬学教育には、患者の身体の健康状態を評価し薬物の適正使用及び副作用出現の有無を確認するためのフィジカルアセスメント等の技能、医療人としての倫理観の醸成はもとより、臨床現場でのチーム医療において、医師や看護師等の医療従事者との実践的なコミュニケーション能力までをカバーすることが求められている。

薬学部の設置により、医学、薬学、看護学の 3 学部を擁する大学となることで、これまでの薬学教育で不足していた実践的な教育、特に 3 学部及び附属病院を含む専門職連携教育（IPE：Interprofessional Education）をさらに推進し、医療系総合大学としての強みを最大限に活かし、社会からそして臨床現場から真に求められる質の高い薬剤師を輩出することを目指す。

加えて、将来的な薬剤師の供給過剰予測に対し、現状においては薬剤師不足が続いており、特に地方の薬剤師不足は深刻な状況にあることから、これまでも薬剤師が不足している地方自治体と就職支援協定を締結し、様々な活動を通じて地方の薬剤師不足に貢献する活動を行ってきたが、今般、設置する薬学部においても、この活動を継続するだけでなく、さらに発展させて西日本の薬剤師不足の地域にまで広げていく計画であり、地方の地域医療に積極的に参画できる薬剤師を養成し、都市部や関西圏のみならず地方への社会貢献を果たしていく。

設置する薬学部薬学科・薬科学科の教育上の目的は、次のとおりである。

薬学部薬学科の目的
(1) 生命の尊厳と人権の尊重を基本に、人々の生き方や価値観を尊重できる豊かな人間性を育成する。 (2) 多様な人材と共同し、薬学や医療の分野で国際的に通用する新しい知識や技術を創造できる能力を育成する。 (3) 科学的知識と倫理的判断に基づき、薬学に関する専門知識、情報や技術を効果的に活用した医療が実践できる能力を育成する。 (4) 薬剤師として地域社会の特性を学び、多職種と連携し協働してさまざまな健康課題に取り組むことができる能力を育成する。 (5) 薬剤師として専門能力と教育能力を自律的に探求し、継続的に発展させる基本的姿勢を育成する。

薬学部薬科学科の目的
健康、生命に関する有機的・総合的な知識を持つとともに、応用力、研究力を身に付けた薬学を基盤とする多様な分野で活躍できる人材の要請を目的とする。

なお、薬学科の目的は、大阪薬科大学薬学部薬学科の目的を踏襲するとともに、統合後大学の目的との関連や他学部の目的の表現等を踏まえ整理したものである。薬学科については、薬剤師の養成が主目的であり、6年制薬学教育が準拠すべき「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年12月25日)」において明示された「薬剤師として求められる基本的な資質」を全て踏まえた内容として、社会が薬剤師に求める臨床に係る実践的な能力と医療人としての自負並びに倫理感を併せ持つ人材の養成について示している。

一方、薬科学科については、大学統合にあたり、学生の権利保障のため、学生募集停止を継続したまま設置する学科であるため、大阪薬科大学薬学部薬科学科の目的から一切の変更はない大学院進学を踏まえた薬学研究者・技術者等の養成が主目的であり、基礎薬学分野における多様な人材の養成について示している。

（２）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

①関係団体等からの要望

設置する薬学部の母体となる大阪薬科大学に在籍する学生のおよそ3分の2が､大阪府、兵庫県、京都府内に居住することから、各府県の職能団体（大阪府薬剤師会、大阪府病院薬剤師会、兵庫県薬剤師会、兵庫県病院薬剤師会、京都府薬剤師会（京都府病院薬剤師会は、京都府薬剤師会の下に病院診療所薬剤師部会として設置)）を訪問し、大学統合及び医療系総合大学としての薬学部の設置の意義について説明を行い、意見を聴取した。各団体からは､「大学統合により更に推進・充実が期待される医学･薬学･看護学の専門職連携教育（Interprofessional Education:IPE）を通じて、薬学教育の基本である『医薬品に対する高度な知識や技能』の習得に加え､『人の命に関わる医薬品を扱うための高い生命倫理観』を習得した薬剤師を養成することが最も重要なこと」であるとし、地域社会の保健、医療、福祉の向上に寄与できる薬剤師を養成されることを要望する。」とした薬学部の設置に対する要望書が提出されており、大学統合と薬学部の設置に対する期待の高さがうかがえる。

【資料9：大阪府薬剤師会、大阪府病院薬剤師会等の要望書】

このことから、設置する大阪医科大学薬学部の設置及び人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的が、社会的、地域的な人材需要の動向等社会の要請を踏まえたものであるといえる。

②既設学部の求人状況及び就職状況

＜薬学科＞

大阪薬科大学薬学部薬学科における最近5年間の求人票受付件数は、平成26年度は就職希望者319人に対して求人件数1,656件、平成27年度は就職希望者283人に対して求人件数1,583件、平成28年度は就職希望者286人に対して求人件数1,442件、平成29年度は就職希望315人に対して求人件数1,437件、平成30年度は就職希望者322人に対して求人件数1,288件となっている。大阪薬科大学薬学部薬学科に届く求人票には、各企業･団体の当該年度に募集する求人数が一括して記載されており、大手薬局･ドラッグストアチェーンでは薬剤師資格取得見込者を数百人の規模で募集するものも多くあることから、ここでは求人票受付件数のみを記載した。なお、近年、薬業関連企業や薬局･ドラッグストア等においては、大学に求人票を送付することなく就職ナビや自社ホームページを利用した募集が一般的になっており、求人票受け取り件数だけで見ると減少する傾向にあるが、実質的にはインターネットでの募集を勘案するとさらに多くの求人に接することができる状況にあると言える。

また、大阪薬科大学薬学部薬学科における最近5年間の就職率の実績は、平成26年度は就職希望者319人に対して就職者数279人、就職率は87.5%、平成27年度は就職希望者283人に対して就職者数262人、就職率は92.6%、平成28年度は就職希望者286人に対して就職者数277人、就職率は96.9%、平成29年度は就職希望者315人に対して就職者数302人、就職率は95.9%、平成30年度は就職希望者322人に対して就職者数298人、就職率は92.5%となっている。以上の数値は、薬剤師資格取得が採用条件となっている病院や公務員等において、薬剤師国家試験に不合格となり内定取消となった者を就職者数から除外して集計した結果である。【資料10：大阪薬科大学における過去5年間の就職状況（薬学科)】

このように、多数の求人を受け付け、高い就職率を維持していることは、厚生労働省発行の「労働市場分析レポート第35号」(平成26年5月30日)の報告とも一致する。同レポートにおいて、職業別に見た新規求人倍率の順位は、「医師･歯科医師･獣医･薬剤師」が10倍を超えており、他を引き離して第1位となっている。【資料11：労働市場分析レポート第35号　平成26年5月30日（厚生労働省)】

また、薬剤師は大都市の中心部に偏在しており、当該地域の大病院や薬局では充足しているものの、それ以外の地域では大病院を含め、特に中小病院ではまだまだ薬剤師不足との声が大きい。【資料12：平成28年（2016）医師・歯科医師・薬剤師調査の概況（厚生労働省)】これら地方の地域医療に貢献する薬剤師の輩出要請に応えるために、大阪薬科大学では、鳥取県(平成30年4月)及び高知県(平成31年4月)と就職支援協定を締結し、連携して地方での薬剤師不足の解消に資する取り組みを行っており、これらの取組みは薬学部の設置後も継続・拡充することとしている。

＜薬科学科＞

薬学部には薬剤師養成のための 6 年制課程の他、薬学を究める研究者をはじめとして、薬学をもとにさまざまな分野で活躍する人材育成を行う役割を持つ 4 年制課程がある。大阪薬科大学薬学部においては、「健康、生命に関する有機的・総合的な知識を持つとともに、応用力、研究力を身に付けた薬学を基盤とする多様な分野で活躍できる人材の養成」を目的とする薬科学科を設置している。同学科の卒業生の多くはさらに専門知識を深め、研究能力を養うために、接続する大阪薬科大学大学院薬学研究科薬科学専攻博士前期課程に進学する。

このようなことから、薬科学科卒業生の進路は、大学院に進学する者と、薬学を基盤とする応用力・研究力を生かして就職する者に分かれている。

大阪薬科大学薬学部薬科学科における最近 5 年間の就職率の実績は、平成 26 年度は就職希望者 1 人に対して就職者数 1 人、就職率は 100%、平成 27 年度は卒業者なし、平成 28 年度は就職希望者 0 人、平成 29 年度は就職希望者 2 人に対して就職者数 2 人、就職率は 100%、平成 30 年度は就職希望者 1 人に対して就職者数 1 人、就職率は 100%となっている。以上の通り、最近 5 年間における就職者合計数は 4 名、5 年間の就職率平均は 36.4%（大学院への進学希望者及び他学部への編入希望者を母数に含む）となっている。就職希望者以外の 7 人のうち 6 人は、大学院に進学しており、その比率は 54.5%、医学部編入準備が 1 人でその比率は 9.1%となっており、就職希望者は全員就職している。【資料 13：大阪薬科大学における過去 5 年間の就職状況（薬科学科）】

薬科学科卒業生は薬剤師の資格を持たないが、薬科学を修め応用力、研究力を身に付けた人材として、多様な分野から採用の対象とされている。製薬関連企業では医薬品開発関連職種や製造・品質管理に関する技術職等として、また、ドラッグストア等からは非薬剤師としての求人、さらには化粧品業界等から幅広く技術・技能を持つ者として多数の求人があり、卒業生は希望する分野に就職している。

以上より、設置する薬学部薬学科及び薬科学科における人材需要は、医療系総合大学として社会から求められる人材を養成していくことでこの先も高く推移すると考えられ、卒業先の進路及び就職先の確保についても十分見込めるものであると言える。

学生確保の見通し等を記載した書類(薬学部)　資料目次

【資料 1】　一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会・株式会社リクルートマーケティングパートナーズ合同調査第 8 回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」2017 年報告書

【資料 2】　私立薬科大学（薬学部）入学志願者数等調（一般社団法人　日本私立薬科大学協会）

【資料 3】　近隣薬科大学の学部設置状況並びに定員充足状況

【資料 4】　大阪薬科大学における過去 6 年間の入試状況

【資料 5】　リクルート進学総研マーケットリポート Vol.70 2019 年 11 月号「18 歳人口予測　大学・短期大学・専門学校進学率　地元残留率の動向」

【資料 6】　大学進学時の都道府県別流入・流出者数（文部科学省）

【資料 7】　2019 年（平成 31 年・令和元年）度の入学試験・6 年制学科生の修学状況（一般社団法人　日本私立薬科大学協会）

【資料 8】　リクルート カレッジマネジメント 218 / Sep. - Oct. 2019「特集　進学ブランド力調査 2019」

【資料 9】　大阪府薬剤師会、大阪府病院薬剤師会等の要望書

【資料 10】　大阪薬科大学における過去 5 年間の就職状況（薬学科）

【資料 11】　労働市場分析レポート第 35 号　平成 26 年 5 月 30 日（厚生労働省）

【資料 12】　平成 28 年（2016）医師・歯科医師・薬剤師調査の概況（厚生労働省）

【資料 13】　大阪薬科大学における過去 5 年間の就職状況（薬科学科）

＜抜粋版＞

2018年2月

一般社団法人全国高等学校PTA連合会・株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 合同調査

第8回
「高校生と保護者の進路に関する意識調査」
2017年
報告書

少子高齢化・人口減やグローバル化や情報化の進展などに伴う急激な社会変化の中で、高校生の進路観の育成、進路先の決定における保護者の関わりがますます重要になっています。行政、学校教育はむろんですが、高校生にとって最も身近な大人である「保護者」ができることはなんでしょうか。

高校生と保護者の進路をめぐる意識と行動の実態を調べ、両者のよりよい意思疎通のあり方を研究するとともにその成果を広く社会に提言することを目的に、一般社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会と株式会社リクルートマーケティングパートナーズは、全国の高校生をもつ保護者とその子どもに対して、コミュニケーションの実態と様々な進路観に関するアンケート調査を2003年より隔年で実施してまいりました。その8回目となる調査の分析結果をまとめましたので、ここにご報告申し上げます。

一般社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会
会長　牧田和樹
進路対策委員長　渡辺正和

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
まなび事業本部長　山口文洋

▼本調査や「キャリアガイダンス」に関するお問い合わせ▼

㈱リクルートマーケティングパートナーズ　リクルート進学総研

http://souken.shingakunet.com/

※ この調査結果については、キャリア教育専門誌『キャリアガイダンス』 Vol.421(リクルート)にも掲載しています。

※ 出版・印刷物等へデータ転載する際には、“一般社団法人全国高等学校PTA連合会・(株)リクルートマーケティングパートナーズ調べ”と付記していただきますようお願い申し上げます。

調査結果トピックス

Ⅰ 親子コミュニケーションの実態

■ 進路について親子で「話す」割合は、高校生は79%、保護者は89%。保護者は話しているとの認識が高校生より高い。

・高校2年生の時点で、卒業後の進路について保護者との対話頻度は「よく話をする」高校生は18%、「話す・計」で79%。一方、保護者の「話す・計」は89%であり、高校生よりも保護者のほうが「話している」認識が高い。【5ページ】

■ 高校生・保護者とも、85%が進路選択について「高校生自身で決めたい・決めてほしい」。

・進路選択について、高校生は「保護者の意見を少し参考にしながら、自分自身で決めたい」が54%。「できるだけ自分の意思や考えだけで決めたい」(31%)を合わせると、「自分自身・計」は85%。一方、保護者は「保護者の意見を少し参考にしながら、お子さん自身で決めてほしい」(66%)は高校生を上回るが、「子ども自身・計」の割合は高校生と同程度(85%)。【19ページ】

Ⅱ 進路・将来にまつわる考え

■ 高校生・保護者とも進路に関して「役立つ資格」「収入や雇用が安定している仕事」「手に職」を望んでいる。

・進路に関する価値観について、「将来は役立つ資格を身につけたい/つけてほしい」「収入や雇用が安定している仕事をしたい/してほしい」「将来は手に職をつけて仕事をしたい/つけてほしい」の3項目が上位に挙がり、いずれも「そう思う・計」の割合が高校生と保護者ともに約8～9割に達する。【25～26ページ】

■ 貸与型奨学金を「利用したい」割合は、高校生は32%、保護者は41%。保護者の利用意向が高校生に比べ高い。保護者の74%が、家庭の経済事情が子どもの進路決定に「影響がある」。

・貸与型奨学金制度の利用意向について、「ぜひ利用したい」高校生は9%、「利用したい・計」で32%、「考えたことがないのでわからない」が最も多く46%。一方、保護者は子どもに「ぜひ利用してほしい」が14%、「利用してほしい・計」は41%、「考えたことがないのでわからない」は24%。保護者の31%が家庭の経済事情は子どもの進路決定に「非常に影響がある」。「ある程度影響がある」を含む「影響がある・計」は74%。【32～35ページ】

Ⅲ 進路にまつわる期待と不安

■ 進路を考えるとき、高校生の72%が「不安」。進路について親子で話す高校生は、「楽しい」が相対的に高く、前向き。

・高校生の進路を考えるときの気持ちは「不安な気持ち」「どちらかというと不安」あわせて72%が不安を感じている。一方、「楽しい・計」は23%。進路対話頻度別にみると、話す層は話さない層に比べ「楽しい・計」の割合が高く、進路を考えることに前向きな姿勢がみられる。【37ページ】

■ 未来社会について、高校生・保護者とも2013年以降「好ましい」（高校生は52%・保護者は34%）認識が増加。

・これからの社会について「とても好ましい」「まあまあ好ましい」と感じている高校生は52%、保護者は34%。2013年以降、高校生・保護者とも「好ましい」という回答が漸増傾向であり、肯定的な認識に転じつつある。

・高校生が「好ましい」と思う理由としては、「AI発達による職業・雇用の喪失」「少子高齢化」を危惧する反面、「選択肢が多い」「若い人材が必要とされる」といった自分の努力しだいで未来を実現できるとする前向きな回答が挙がった。【42～43ページ】

Ⅳ 保護者の動き

■ 進学先検討で重要な情報は、「進学費用」「現在の入試制度の仕組み」「将来の職業との関連」「学部・学科の内容」「就職の状況」。そのうち、「入試制度」「将来の職業との関連」「就職の状況」の取得率は2～3割程度に留まる。

・子どもの進学を希望する保護者に、重要だと思う進学情報を最大5項目まで選んでもらったところ、「進学費用」「現在の入試制度の仕組み」「将来の職業との関連」「学部・学科の内容」「就職の状況」が上位に挙がった。

・これら上位の進学情報の内、「学部・学科の内容」「進学費用」については重要視する保護者の4割が取得済み。一方、「現在の入試制度の仕組み」「将来の職業との関連」「就職の状況」の取得率は2～3割程度に留まり、重要視する進学情報を充分に取得できていないことがわかる。【46～47ページ】

Ⅴ 学校での教育

■『社会人基礎力』のうち、将来必要とされるが現在は不足している高校生の能力は、「主体性」「実行力」「発信力」。

・経済産業省で定義されている『社会人基礎力』:3つの能力(12の能力要素)について、「将来必要とされる能力」を3つまで高校生に選んでもらったところ「主体性」(53%)、「実行力」(40%)、「発信力」(38%)が挙がった。同様に「現在持っている能力」について尋ねたところ、「傾聴力」(39%)、「規律性」(37%)、「柔軟性」(27%) が挙がった。
高校生が考える「将来必要とされるが、現在は不足している能力」は、「主体性」「発信力」「実行力」で必要−現状の差が顕著。

・保護者にも尋ねた結果、子どもに現在不足している能力は同様に「主体性」「実行力」「発信力」だった。【52～53ページ】

Ⅵ 家庭での教育

■ 保護者は、日常のコミュニケーション・行動で「意見を尊重」「『自分で選択し責任をもつ』ことが大切だと言う」「励ます」を7割以上が実践していると自己評価したが、高校生の実感は下回る。保護者が思うほど子どもに伝わっていない。

・高校生・保護者のそれぞれに日常のコミュニケーション・行動について12項目を呈示し、各実施状況を尋ねたところ、高校生・保護者とも「意見が尊重される・意見を尊重している」がトップに挙がったが、保護者の自己評価(76%)と高校生の実感(66%)のスコアには大きな差がある。保護者の自己評価上位の項目はいずれも高校生を上回っており、保護者が実践しているコミュニケーション・行動は、保護者が思うほど子どもに伝わっていない。【56ページ】

Ⅷ グローバル化社会・AIの普及発達に対する高校生と保護者の意識

**■ 高校生の将来への社会・経済のグローバル化の影響は、高校生の55%・保護者の48%が「ある」。
AI（人工知能）などの普及・発達の高校生の将来への影響は、高校生の52%・保護者の39%が「ある」。
社会的環境の変化の影響について、高校生は保護者以上に強く捉えている。**

・高校生の将来に社会・経済のグローバル化の影響が「ある」と思う高校生は55%、保護者は48%。

・同様に、AI(人工知能)などの普及・発達の影響について「ある」と思う高校生は52%・保護者は39%。高校生の影響への認識が保護者を大きく上回る。【67ページ・71ページ】

調査概要・回答者プロフィール

▶調査概要

●調査実施者　一般社団法人全国高等学校PTA連合会 ／ 株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

●調査対象　全国の高校2年生とその保護者
全国高等学校PTA連合会より依頼した9都道府県の公立高等学校26校
2年生2クラス分の高校生と保護者

●調査期間　2017年9月15日～10月26日

●調査方法　学校を通した質問紙による自記式調査
①高校生：ホームルームにてアンケートに回答
②保護者：高校生から保護者へアンケートを手渡し
③学級担任が高校生と保護者分を取りまとめ、その後学校責任者が学校分として返送

●有効回答数　高校生1,987人 ※全問無回答1人を除く
保護者1,722人 ※全問無回答11人を除く

▶回答者プロフィール

【高校生】

●性別　男子53.5%　女子44.8%（無回答1.7%）

●所属学科　普通科75.7%　専門学科20.4%　総合学科3.8%

●地域分布　北海道11.9%　岩手県4.0%　福島県6.5%　群馬県11.6%　東京都11.6%　長野県8.8%　岐阜県11.9%
大阪府6.7%　和歌山県3.9%　岡山県11.1%　長崎県12.1%

●高校卒業後の希望進路
大学進学67.2%　短大進学2.8%　専門職大学進学0.5%　専門学校進学10.2%
海外の大学等への進学0.2%　就職16.8%　パート・アルバイト0.1%　その他0.8%（無回答1.6%）

【保護者】

●続柄　父親12.8%　母親84.1%　その他0.8%（無回答2.3%）

●子どもの性別　男子51.7%　女子45.7%（無回答2.6%）

●所属学科　普通科 75.7%　専門学科 20.3%　総合学科3.9%

●地域分布　北海道11.9%　岩手県4.5%　福島県5.4%　群馬県12.0%　東京都9.4%　長野県8.3%　岐阜県13.0%
大阪府5.3%　和歌山県4.5%　岡山県12.0%　長崎県13.7%

●子どもの高校卒業後の希望する進路
大学進学59.3%　短大進学2.0%　専門職大学進学0.4%　専門学校進学7.5%
海外の大学等への進学0.1%　就職10.3%　その他0.3%
子どもが希望する進路なら何でもいい18.5%（無回答1.6%）

【注】
※第6回調査(2013年)は、2013年9～10月に全国の高校2年生とその保護者を対象に実施
（有効回答数：高校生2,043人／保護者1,696人）
※第7回調査(2015年)は、2015年9～10月に全国の高校2年生とその保護者を対象に実施
（有効回答数：高校生1,887人／保護者1,584人）

※報告書内の表記について
- グラフの数値は、小数点第2位以下を四捨五入して表示している
- 本文の数値は、グラフ中の数値の小数点第1位を四捨五入して記載している
- <フリーコメント>末尾カッコ内は以下の属性を表す
  高校生：[都道府県/性別/希望進路]
  保護者：[都道府県/続柄/子どもの性別/希望進路]

18. 将来就きたい・就いてほしい職業／その理由

1）高校生が将来就きたい職業

▶高校生の55%が就きたい職業が「ある」。

▶就きたい職業のトップは「教師」。以下、「公務員」「看護師」など国家資格が必要な職業が上位。男子は「公務員」「製造業」「教師」、女子は「看護師」「教師」「保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連」が人気。

●高校生に将来就きたい職業はあるか尋ねたところ、「ある」が半数強(55%)。

●性別にみると、「ある」の割合は女子(65%)が男子(47%)を大きく上回る。女子の過半数が将来就きたい職業を決めている。

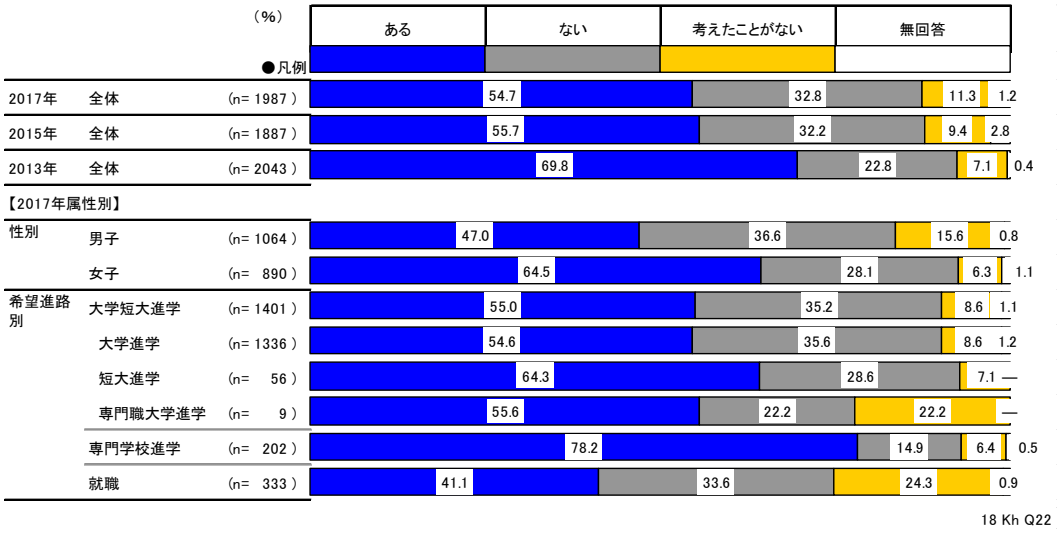
●具体的に就きたい職業は、「教師」が最も多く、「公務員」「看護師」「製造業(自動車・造船など)」が続く。

●男子は、「公務員」が最多。以下「製造業(自動車・造船など)」「教師」「医師・歯科医師・獣医」「エンジニア・プログラマー・IT関連」。

女子は、「看護師」が最多。以下「教師」「保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連」「公務員」「薬剤師」。

→フリーコメントは31ページに掲載

【高校生】 将来、就きたい職業があるか（全体／単一回答）



18 Kh Q22

【高校生】就きたい職業ランキング （就きたい職業が「ある」・職業回答者／自由回答）

(%)

全体

順位	職業	(n=1045)
1	教師	10.5
2	公務員	10.2
3	看護師	7.9
4	製造業（自動車・造船など）	7.0
5	医師・歯科医師・獣医	5.6
6	保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	5.3
7	薬剤師	4.3
8	技術者・研究者	3.3
9	建築士・建築関連	3.2
10	美容師・理容師・ヘアメイクアーティスト・エステティシャン・美容関連	3.1
11	エンジニア・プログラマー・ＩＴ関連	2.9
12	画家・イラストレーター・アニメーター・ＣＧデザイナー・芸術・ゲーム関連	2.6
13	放射線技師・臨床検査技師	2.5
14	管理栄養士・栄養士	2.4
15	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ	2.1
16	調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	2.0
17	社会福祉士・介護福祉士・福祉関連	1.8
	俳優・アイドル・ミュージシャン・声優・芸能関連	1.8
	会社員	1.8
20	ジャーナリスト・編集者・ライター	1.6

男子

順位	職業	(n= 480)
1	公務員	16.0
2	製造業（自動車・造船など）	14.0
3	教師	12.1
4	医師・歯科医師・獣医	7.1
5	エンジニア・プログラマー・ＩＴ関連	5.4
6	技術者・研究者	5.2
7	建築士・建築関連	4.6
8	薬剤師	4.0
9	画家・イラストレーター・アニメーター・ＣＧデザイナー・芸術・ゲーム関連	2.7
10	放射線技師・臨床検査技師	2.1

女子

順位	職業	(n= 554)
1	看護師	13.7
2	教師	9.0
	保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	9.0
4	公務員	5.2
5	薬剤師	4.7
6	医師・歯科医師・獣医	4.5
7	管理栄養士・栄養士	4.0
	美容師・理容師・ヘアメイクアーティスト・エステティシャン・美容関連	4.0
9	放射線技師・臨床検査技師	2.9
10	社会福祉士・介護福祉士・福祉関連	2.5
	臨床心理士・心理カウンセラー・スクールカウンセラー・心理関連	2.5

2) 保護者が子どもに将来就いてほしい職業

▶保護者の15%が子どもに就いてほしい職業が「ある」。73%が「子どもが希望する職業なら何でもよい」。

▶就いてほしい職業は「公務員」が突出。以下「看護師」「医療事務・医療関連」「医師・歯科医師・獣医」「教師」「薬剤師」など雇用が安定したイメージがある職業や医療系の職種が上位。

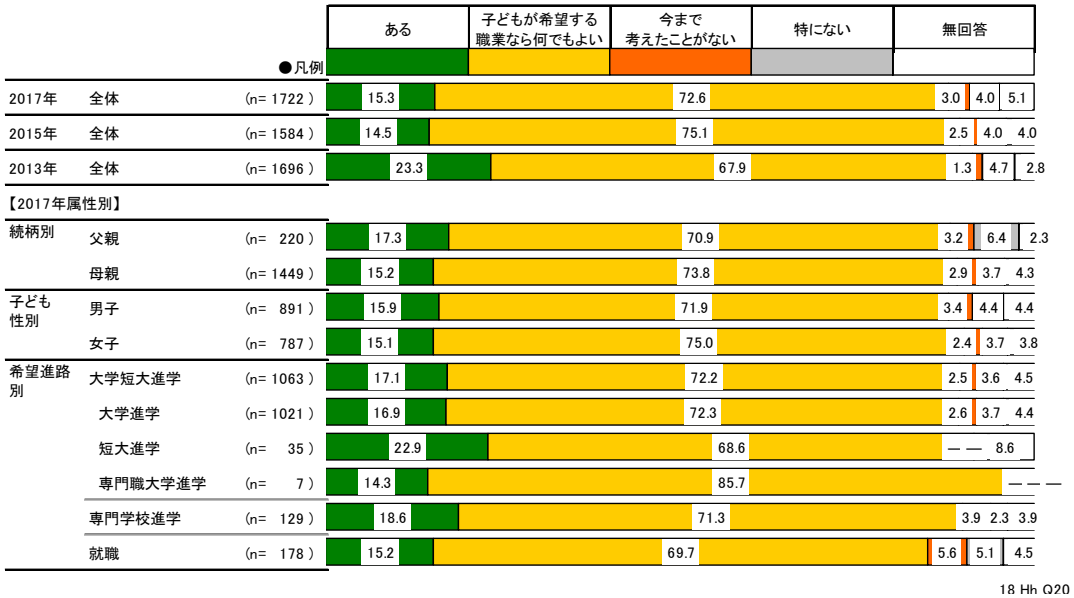
●保護者に子どもに将来就いてほしい職業はあるか尋ねたところ、「子どもが希望する職業なら何でもよい」(73%)が過半数を占める。就いてほしい職業が「ある」は15%。

●具体的に就いてほしい職業を尋ねたところ、「公務員」が突出。次いで「看護師」「医療事務・医療関連」「医師・歯科医師・獣医」「教師」「薬剤師」が続く。

●男子の保護者では、「公務員」が突出。以下「医師・歯科医師・獣医」「医療事務・医療関連」「教師」「製造業(自動車・造船など)」が続く。
女子の保護者では、「看護師」が突出。以下「公務員」「医療事務・医療関連」「薬剤師」「医師・歯科医師・獣医」。

→フリーコメントは31ページに掲載

【保護者】 将来、子どもに就いて欲しい職業はあるか (全体／単一回答)



18 Hh Q20

【保護者】就いてほしい職業 (就いてほしい職業がある・職業回答者／自由回答)

(%)

全体

順位	職業	(n= 241)
1	公務員	32.0
2	看護師	12.9
3	医療事務・医療関連	9.5
4	医師・歯科医師・獣医	8.7
5	教師	5.8
	薬剤師	5.8
7	製造業 (自動車・造船など)	3.7
	技術者・研究者	3.7
9	社会福祉士・介護福祉士・福祉関連	2.1
10	保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	1.7
	管理栄養士・栄養士	1.7
	調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	1.7
13	放射線技師・臨床検査技師	1.2
	保健師	1.2
	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ	1.2
	空港職員・航空関連	1.2
	鉄道関連	1.2
	ホテル・旅館・旅行関連	1.2
	会社員	1.2
20	学校職員	0.8
	助産師	0.8
	エンジニア・プログラマー・ＩＴ関連	0.8
	建築士・建築関連	0.8
	社長・経営者・起業家	0.8

子どもの性別：男子

順位	職業	(n= 129)
1	公務員	44.2
2	医師・歯科医師・獣医	11.6
3	医療事務・医療関連	8.5
4	教師	7.0
5	製造業 (自動車・造船など)	6.2
6	技術者・研究者	5.4
7	薬剤師	4.7
8	看護師	2.3
	鉄道関連	2.3
	調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	2.3

子どもの性別：女子

順位	職業	(n= 110)
1	看護師	24.5
2	公務員	17.3
3	医療事務・医療関連	10.9
4	薬剤師	7.3
5	医師・歯科医師・獣医	5.5
6	教師	4.5
7	保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	3.6
	管理栄養士・栄養士	3.6
9	保健師	2.7
	社会福祉士・介護福祉士・福祉関連	2.7

<フリーコメント> 将来就きたい職業の理由【高校生】

■教師
○自分を育て、指導してくれた先生のようになりたいと思ったから。
[岩手県/男子/大学]
教えることが好き。大変な分やりがいや達成感があると思う。
[北海道/女子/大学]
○身近で安定していて忙しそうだがやりがいがありそうだから。
[東京都/男子/大学]
○今までたくさんの先生方に支えられた。今度は自分が生徒の力になりたいと思うから。[岡山県/女子/大学]z
○人の夢を育てる、すばらしい職業だと思うから。[長崎県/男子/大学]

■公務員(国家・地方、警察官・消防士・自衛官など)
○本当にやりたいこと(趣味を超えて)をするために、時間とお金が必要だから。[北海道/男子/大学]
○収入が安定しているし、子育てにも協力的で安心して生活ができそうだから。[福島県/女子/大学]
○社会を支えていけるような仕事に就きたいため。
[和歌山県/男子/大学]
○地域活生化に貢献するため。[福島県/男子/大学]
○命救助は勇気もいるし、身の危険もあり大変なのはわかるがやりがいはあると思うから。[長野県/男子/大学]

■看護師
○母が看護師だから。小さい頃からの夢だから。
[北海道/女子/専門学校]
○いつまでも働けるし、人と関わるのが好きだし、看護の分野に興味があるから。[東京都/女子/専門学校]
○就職するときに、正社員で雇ってくれる所が多いから。安定しているから。人の役に立ちたい。資格をとっていた方が、これからの時代はいいから。[長崎県/女子/大学]
○医療に興味があるし、安定しているから。[//]

■製造業(自動車・造船など)
○自分が小さい頃からずっとあこがれていた職業で、人の役にも立てるし、今後どんな事があっても車はなくならないから。
[長野県/男子/専門学校]
○物を作ったりすることが好きで、部品などを作りたいと思ったから。
[長崎県/男子/就職]
○流れ作業だから、勉強とかが苦手だから合っていると思った。
[群馬県/女子/就職]

■医師・歯科医師・獣医
○安定していて、なおかつ高収入だから。大変な仕事だと思うので、生活にハリが出ると思うから。[//]
○人のために自分が役立っていることを自覚できるから。金銭面でも親に恩返しができそうだから。[岩手県/男子/大学]
○自分がサッカーをやっている縁でスポーツで負傷した人の診察をしたいから。あこがれたから。[岩手県/男子/大学]

■保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連
○子供が好きで、子供とかかわれる仕事をしたいから。誰かの役に立ちたいから。[長野県/女子/大学]
○小さい頃から小さい子が好きで、保育体験に行った時に、保育士をずっとやれたら嬉しいと思ったから。[東京都/女子/短期大学]
○子供が好きだし、今、人が足りていないから。[群馬県/女子/専門学校]

■薬剤師
○昔から医療関係の仕事に就きたかった。病気を治す手助けをしたい。給料が安定している。[北海道/女子/大学]
○小さい時に体が弱くよく薬を使っていたので、自分が救う側になりたいから。[長崎県/男子/大学]
○薬のことを勉強して、開発などもしたいし、薬を使って病気で苦しんでいる人の役に立ちたいから。[長崎県/女子/大学]

<フリーコメント> 将来就いてほしい職業の理由【保護者】

■公務員(国家・地方、警察官・消防士・自衛官など)
○安定した職業であり、国や地方が潰れる事は滅多にないので。
[岡山県/母親/男子/大学]
○子供が自分の将来の事を考えて、安定した職業だと、言ったから。
[北海道/母親/男子/専門学校]
○女性が働き続けるための環境が整っていることが多いから。
[長崎県/母親/女子/大学]
○責任感があり、スポーツをずっとしてきているので、体力もあり、向いていると思うから。[長野県/母親/男子/専門学校]

■看護師
○人を助ける職業に就きたいと言っていたので、大変だけれど、やりがいもあり、また高収入で安定していると思うから。
[岐阜県/母親/男子/その他]
○子供は小さい頃から人の役に立つ仕事、やりがいのある仕事、医療に関する事、どんな仕事かは、はっきりしないが言葉にして話していましたので、やりたい仕事を一番して欲しいです。自分の人生だから。
[長崎県/母親/女子/その他]
○女性として、働きがいのある、年齢、状況に合わせた働き方ができる。子どももやってもよいと考えているから。[岐阜県/母親/女子/大学]
○資格があれば再就職もできる可能性が高く、いくつになっても働くことができるので[東京都/母親/女子/大学]

■医療事務・医療関連
○本人も医療職を希望しているので、又、専問職であるため、人の健康維持に取り組んで充実感を得る事ができる。
[岩手県/母親/男子/大学]
○私自身も看護師で、手に職をつけておいて良かったと思うから。
[岡山県/母親/女子/専門学校]
○安定している。資格を取れる・活かせる。[長崎県/母親/女子/大学]
○いつまでも働けるから[岡山県/母親/女子/大学]

■医師・歯科医師・獣医
○父が医師なので、同業者として悩みを受けとめやすいしどのような苦労も人のために、自分の糧になるわかりやすい仕事だと思うから。
[北海道/母親/男子/大学]
○社会的に安定し、尚、人の役に立つ職業に就いてほしいから。
[和歌山県/母親/男子/大学]

■教師
○本人が希望しているし、人と関わりを持つ中で自己有用感を抱くことも出来ると思うから。[岡山県/母親/女子/大学]
○安定しているから又親が教員をしているから。
[東京都/母親/男子/大学]

■薬剤師
○国家試験に合格し、医薬品の調合、供給、その他の薬事衛生に携わる人になってもらいたい。[福島県/母親/女子/大学]
○資格を持って、長く働いて欲しいと思うから。
[岩手県/母親/女子/大学]

■製造業(自動車・造船など)
○せっかく資格を取得したのでそれをいかしてほしい。
[大阪府/母親/男子/何でもいい]
○人の生活を発展させたり、役に立つものをつくることは、夢のある仕事だから。またそれを、チームで開発していくことで人間としても成長できるから。[長崎県/母親/男子/大学]

■技術者・研究者
○科学技術の進歩に関るような仕事をしてもらいたい。
[群馬県/母親/男子/大学]
○子供が望んでいるから　ノルマに左右されずにアカデミックな分野で活躍してほしいから。[長野県/母親/男子/大学]

私立薬科大学(薬学部)入学志願者数等調 （志願者・合格者・入学者 等）（平成31年4月1日 現在）

【 6年制 】

一般社団法人　日本私立薬科大学協会

大学名	入学定員（A）	入学志願者総数	合格者数					入学者数（B）	倍率 B／A	備考
			一般	推薦	センター	その他	計			
	名	名	名	名	名	名	名	名	倍	
北海道医療大学	160	727	185	45	172	25	427	165	1.03	
北海道科学大学	180	995	352	65	188	15	620	189	1.05	
青森大学	70	114	26	23	23	10	82	54	0.77	
岩手医科大学	120	183	82	21	35	2	140	48	0.40	
東北医科薬科大学	300	1,009	285	127	147		559	305	1.01	
医療創生大学	90	397	181	20	165	2	368	57	0.63	
奥羽大学	140	244	90	41		33	164	101	0.72	
国際医療福祉大学	180	990	360	26	53	10	449	186	1.03	
高崎健康福祉大学	90	431	108	33	52	1	194	95	1.05	
城西大学	250	1,317	390	45	284	2	721	227	0.90	
日本薬科大学	260	1,313	456	64	111	98	729	250	0.96	
城西国際大学	130	419	160	18	110	21	309	101	0.77	
千葉科学大学	120	289	123	10	114	16	263	61	0.50	
帝京平成大学	240	2,386	380	22	59	88	549	210	0.87	
北里大学	260	2,176	314	126	100	2	542	273	1.05	
慶應義塾大学	150	1,653	303	48			351	151	1.00	
昭和大学	200	1,754	290	56	87		433	200	1.00	
昭和薬科大学	240	2,541	333	158	294		785	248	1.03	
帝京大学	320	3,221	519	4	5	77	605	364	1.13	
東京薬科大学	420	2,821	374	281	106	54	815	414	0.98	
東京理科大学	100	2,155	254	23	275		552	82	0.82	
東邦大学	220	1,900	240	86	204	4	534	239	1.08	
日本大学	244	1,875	407	133	51	5	596	261	1.06	
星薬科大学	260	3,382	345	164	235		744	301	1.15	
武蔵野大学	160	3,550	44	56	145	134	379	140	0.87	
明治薬科大学	300	3,208	261	201	158		620	308	1.02	
横浜薬科大学	340	2,929	479	160	107	51	797	366	1.07	
新潟薬科大学	180	360	131	45	134		310	132	0.73	
北陸大学	200	532	246	22	214	2	484	127	0.63	
愛知学院大学	145	1,243	154	81	304		539	145	1.00	
金城学院大学	150	904	245	92	152		489	150	1.00	
名城大学	265	2,240	809	58	119		986	258	0.97	
鈴鹿医療科学大学	100	454	192	65	130		387	106	1.06	
京都薬科大学	360	2,491	447	133	407		987	366	1.01	
同志社女子大学	120	1,035	153	126	30		309	123	1.02	
立命館大学	100	1,372	322	39	80		441	84	0.84	
大阪大谷大学	140	474	117	146	60		323	134	0.95	
大阪薬科大学	294	2,279	405	261	188	2	856	311	1.05	
近畿大学	150	4,587	351	172	108	2	633	154	1.02	
摂南大学	220	4,784	831	512	140	3	1,486	219	0.99	
神戸学院大学	250	2,786	695	352	73	15	1,135	256	1.02	
神戸薬科大学	270	2,696	378	205	201		784	287	1.06	
姫路獨協大学	100	156	48	43	23		114	30	0.30	
兵庫医療大学	150	715	240	195	39	13	487	152	1.01	
武庫川女子大学	210	1,766	318	331	19		668	196	0.93	
就実大学	120	394	234	60	29		323	94	0.78	
広島国際大学	120	412	197	49	47		293	72	0.60	
福山大学	150	369	142	28	49	13	232	108	0.72	
安田女子大学	120	505	171	38	126	3	338	84	0.70	
徳島文理大学	180	252	83	53	56	10	202	72	0.40	
〃 香川薬学部	90	146	33	27	65	6	131	40	0.44	
松山大学	100	345	148	27	106		281	93	0.93	
第一薬科大学	173	455	135	24	80	148	387	147	0.84	
福岡大学	230	2,936	464	67	149		680	231	1.00	
長崎国際大学	120	539	148	22	113	17	300	123	1.02	
崇城大学	120	1,637	388	58	131		577	132	1.10	
九州保健福祉大学	100	353	158	29	142	4	333	90	0.90	
計	10,571	83,196	15,724	5,416	6,794	888	28,822	9,912	0.93	

【 4年制 】

大学名	入学定員（A）	入学志願者総数	合格者数					入学者数（B）	倍率 B／A	備考
			一般	推薦	センター	その他	計			
	名	名	名	名	名	名	名	名	倍	
東北医科薬科大学	40	74	21	3	24		48	15	0.37	
城西大学	50	275	48	28	52		128	52	1.04	
日本薬科大学	90	322	55	77	10	12	154	103	1.14	
北里大学	35	356	114	5	25		144	35	1.00	
慶應義塾大学	60	639	229	2		1	232	61	1.01	
東京理科大学	100	1,278	289	13	196		498	95	0.95	
星薬科大学	20	346	47	12	66		125	21	1.05	
明治薬科大学	60	662	134	17	100		251	66	1.10	
横浜薬科大学	30	261	82	8	20	6	116	32	1.06	
立命館大学	60	536	144	13	55	10	222	61	1.01	
近畿大学	40	991	157	34	52	4	247	38	0.95	
武庫川女子大学	40	194	52	44	9		105	34	0.85	
九州保健福祉大学	40	61	27	9	20		56	18	0.45	
計	665	5,995	1,399	265	629	33	2,326	631	0.94	

（注）

1.「医療創生大学」は平成30年度まで「いわき明星大学」

2. 入学定員の変更

○ 6年制　3大学

・青森大学　90名→70名（20名 減）

・北陸大学　220名→200名（20名 減）

・九州保健福祉大学　140名→100名（40名 減）

○ 4年制　1大学

・千葉科学大学：35名は、募集停止（35名減）

3. 灰色の箇所が変更等箇所となります。

近隣薬科大学の学部設置状況並びに定員充足状況

				2014	2015	2016	2017	2018	2019
設置区分	大学	学部	学科※	入学定員※					
				平成26年度（25年度実施）	平成27年度（26年度実施）	平成28年度（27年度実施）	平成29年度（28年度実施）	平成30年度（29年度実施）	平成31年度（30年度実施）
私立	大阪薬科大学	薬	薬・(薬科)	300	300	300	300	294	294
私立	京都薬科大学	薬	薬	360	360	360	360	360	360
私立	神戸薬科大学	薬	薬	270	270	270	270	270	270
合計				930	930	930	930	924	924

設置区分	大学	学部	学科※	入学者数※					
				平成26年度（25年度実施）	平成27年度（26年度実施）	平成28年度（27年度実施）	平成29年度（28年度実施）	平成30年度（29年度実施）	平成31年度（30年度実施）
私立	大阪薬科大学	薬	薬・(薬科)	303	311	316	306	307	311
私立	京都薬科大学	薬	薬	378	372	369	373	407	366
私立	神戸薬科大学	薬	薬	299	276	276	307	268	287
合計				980	959	961	986	982	964

設置区分	大学	学部	学科	入学定員充足率					
				平成26年度（25年度実施）	平成27年度（26年度実施）	平成28年度（27年度実施）	平成29年度（28年度実施）	平成30年度（29年度実施）	平成31年度（30年度実施）
私立	大阪薬科大学	薬	薬・(薬科)	101.0%	103.7%	105.3%	102.0%	104.4%	105.8%
私立	京都薬科大学	薬	薬	105.0%	103.3%	102.5%	103.6%	113.1%	101.7%
私立	神戸薬科大学	薬	薬	110.7%	102.2%	102.2%	113.7%	99.3%	106.3%
合計				105.4%	103.1%	103.3%	106.0%	106.3%	104.3%

設置区分	大学	学部	学科※	募集人員※					
				平成26年度（25年度実施）	平成27年度（26年度実施）	平成28年度（27年度実施）	平成29年度（28年度実施）	平成30年度（29年度実施）	平成31年度（30年度実施）
私立	大阪薬科大学	薬	薬・(薬科)	300	300	300	300	294	294
私立	京都薬科大学	薬	薬	360	360	360	360	360	360
私立	神戸薬科大学	薬	薬	270	270	270	270	270	270
合計				930	930	930	930	924	924

設置区分	大学	学部	学科※	志願者数※					
				平成26年度（25年度実施）	平成27年度（26年度実施）	平成28年度（27年度実施）	平成29年度（28年度実施）	平成30年度（29年度実施）	平成31年度（30年度実施）
私立	大阪薬科大学	薬	薬・(薬科)	3,561	2,967	2,902	2,673	2,511	2,279
私立	京都薬科大学	薬	薬	3,118	2,687	2,453	2,521	2,475	2,491
私立	神戸薬科大学	薬	薬	3,783	3,743	3,147	3,270	2,960	2,696
合計				10,462	9,397	8,502	8,464	7,946	7,466

設置区分	大学	学部	学科※	志願倍率					
				平成26年度（25年度実施）	平成27年度（26年度実施）	平成28年度（27年度実施）	平成29年度（28年度実施）	平成30年度（29年度実施）	平成31年度（30年度実施）
私立	大阪薬科大学	薬	薬・(薬科)	11.9	9.9	9.7	8.9	8.5	7.8
私立	京都薬科大学	薬	薬	8.7	7.5	6.8	7.0	6.9	6.9
私立	神戸薬科大学	薬	薬	14.0	13.9	11.7	12.1	11.0	10.0
合計				11.2	10.1	9.1	9.1	8.6	8.1

※入学定員、入学者数、募集人員、志願者数は、各大学ホームページ、一般社団法人日本私立薬科大学協会発行「日本私立薬科大学協会だより」を参照して記載。

大阪薬科大学　平成29年度入試(28年度実施)まで6年制薬学科(270名)・4年制薬科学科(30名)計300名一括募集。

平成30年度(29年度実施)から4年制薬科学科を廃止、6年制薬学科のみ294名。

大阪薬科大学における過去6年間の入試状況

	2014	2015	2016	2017	2018	2019
項目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	（25年度実施）	（26年度実施）	（27年度実施）	（28年度実施）	（29年度実施）	（30年度実施）
入学定員（A）	300	300	300	300	294	294
志願者（B）	3,561	2,967	2,902	2,673	2,511	2,279
志願倍率（B/A）	11.9	9.9	9.7	8.9	8.5	7.8
合格者	728	845	806	854	887	856
入学定員（A）	300	300	300	300	294	294
入学者	303	311	316	306	307	311
入学定員充足率	101.0%	103.7%	105.3%	102.0%	104.4%	105.8%

編入学試験（H29年度(28年度実施)まで実施）を除く

リクルート進学総研 マーケットリポート
＜抜粋版＞
Vol.70
2019年11月号

18歳人口予測
大学・短期大学・専門学校進学率
地元残留率の動向

【将来予測　2019～2031年（男女別は、2019年~2030年）】

▶18歳人口予測　P3～P8

・2019年117.5万人→2031年103.3万人(14.2万人減少)
・特に2023～2024年の1年で3.5万人と大きく減少する
・減少率が高いのは東北(2019年比77.3%) 、減少数が大きいのは近畿(28,979人減)

【経過推移　2009年～2018年　(地元残留率は2010～2019年) 】

▶進学率(現役・過年度含)の推移　P9～P15

大学進学率(現役)
・2009年47.3%→2018年49.7%(2.4ポイント上昇
・上昇率が高いのは、1位北海道(114.2) 、2位東北(109.7) 、3位九州沖縄(106.5) ※
・進学率が高いのは、南関東、近畿、東海の三大都市圏

短期大学進学率(現役)
・2009年6.2%→2018年4.6%(1.6ポイント低下)
・低下率が高いのは、1位南関東(64.7) 、2位中国(65.7) 、3位近畿(68.9)※
・進学率が高いのは、北陸、甲信越、四国

専門学校進学率(現役)
・2009年14.7%→2018年15.9%(1.2ポイント上昇)
・上昇率が高いのは、1位東海(113.6)、2位近畿(113.4)、3位南関東(113.3)※
・進学率が高いのは、甲信越、北海道、九州沖縄

都道府県別進学率(現役・2018年)
・大学進学率1位は東京、短期大学進学率1位は長野、専門学校進学率1位は新潟

大学・短期大学・専門学校進学率（現役・過年度含 比較・ 2009～2018年）
・現役と過年度含の進学率の差は、大学は3.6ポイント(過年度含が高い)
　短期大学はほとんど差なし

注）※の( )内の数値は、2009年を100としたときの2018年の指数

▶地元残留率の推移　P16～P24

・大学入学者の地元残留率は、2010年43.4%→2019年44.4%(1.0ポイント上昇)
・短期大学入学者の地元残留率は、2010年66.6%→2019年69.9%(3.3ポイント上昇)
・大学入学者の地元残留率1位は愛知(70.7%)
　短期大学入学者の地元残留率1位は福岡(93.2%)

▶18歳人口減少率×地元残留率　P25・26

・大学入学者：都道府県別：2019→2031年
・短期大学入学者：都道府県別：2019→2031年

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社リクルートマーケティングパートナーズ　リクルート進学総研
http://souken.shingakunet.com/

分析・データついて

■分析・データについて

① 18歳人口概算は、文部科学省「学校基本調査」より、以下のとおり定義して算出した。
- 18歳人口＝3年前の中学校卒業者および中等教育学校前期課程修了者数
- 中学校卒業者数＝高校生＋フリーター＋就職者　すべて含む

② 表内の「年」に属する18歳とは、その年の3月に卒業を迎える高校3年生を指す。
③ 表内の「指数」とは、グラフ開始年の値を100とおいた際の値を示す。
④ 進学率とは、進学者数(大学・短大・専修学校専門課程(専門学校）)÷高等学校卒業者数(全日制・定時制＋中等教育学校後期課程)で算出した。
⑤ 残留率とは、自県内(地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内(地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合。（浪人含）
⑥ 図表で利用している百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入しているため、四捨五入の結果、数値の和が100.0にならない場合がある。
⑦ 各分析の該当期間については、速報段階では数値が公表されないものもあるため、分析によっては期間(年）が一致しない場合がある。
⑧ エリア別分析における各エリアに含まれる都道府県については以下のとおり。

北海道　：北海道
東北　　：青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
北関東　：茨城、栃木、群馬
南関東　：埼玉、千葉、東京、神奈川
甲信越　：新潟、山梨、長野
北陸　　：富山、石川、福井
東海　　：岐阜、静岡、愛知、三重
近畿　　：滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国　　：鳥取、島根、岡山、広島、山口
四国　　：徳島、香川、愛媛、高知
九州沖縄：福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

【年早見表】

学校基本調査		18歳人口		3年前の中学・中等教育卒業者
		図表（年）	人数	
確報	学校基本調査公表	2019	1,174,801	H28年(2016年)　の中学校卒業者+中等教育学校前期課程修了者
確報	進学総研集計（予測）	2020	1,167,348	H29年(2017年)　の中学校卒業者+中等教育学校前期課程修了者+義務教育学校卒業者数
確報	進学総研集計（予測）	2021	1,141,140	H30年(2018年)　の中学校卒業者+中等教育学校前期課程修了者+義務教育学校卒業者数
速報	進学総研集計（予測）	2022	1,121,276	（令和元年）2019年　の中学校3年生+中等教育学校前期課程修了者（全国計のみ）+義務教育学校卒業者数（全国計のみ）
速報	進学総研集計（予測）	2023	1,097,105	（令和元年）2019年　の中学校3年生+中等教育学校前期課程3年生＋義務教育学校9年生の生徒数
速報	進学総研集計（予測）	2024	1,061,961	（令和元年）2019年　の中学校2年生+中等教育学校前期課程2年生＋義務教育学校8年生の生徒数
速報	進学総研集計（予測）	2025	1,089,005	（令和元年）2019年　の中学校1年生+中等教育学校前期課程1年生＋義務教育学校7年生の生徒数
速報	進学総研集計（予測）	2026	1,093,565	（令和元年）2019年　の小学校6年生＋義務教育学校6年生の生徒数
速報	進学総研集計（予測）	2027	1,085,011	（令和元年）2019年　の小学校5年生＋義務教育学校5年生の生徒数
速報	進学総研集計（予測）	2028	1,068,978	（令和元年）2019年　の小学校4年生＋義務教育学校4年生の生徒数
速報	進学総研集計（予測）	2029	1,066,720	（令和元年）2019年　の小学校3年生＋義務教育学校3年生の生徒数
速報	進学総研集計（予測）	2030	1,048,177	（令和元年）2019年　の小学校2年生＋義務教育学校2年生の生徒数
速報	進学総研集計（予測）	2031	1,033,386	（令和元年）2019年　の小学校1年生＋義務教育学校1年生の生徒数

18歳人口予測（全体：全国：2019～2031年)

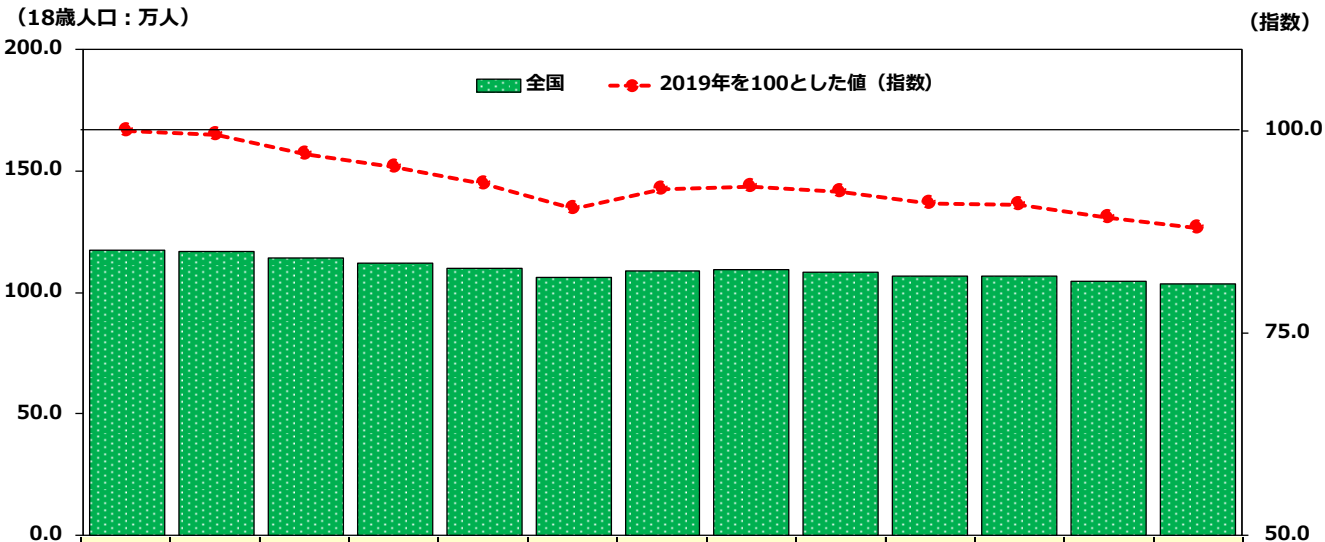
■2019年117.5万人→2031年103.3万人(14.2万人減少)

・全体の18歳人口は、以下の3段階を経て経年的に減少する。

① 2019～2024年：6年間かけて減少(117.5万人から106.2万人、11.3万人減少）。
特に2023～2024年の1年で3.5万人と大きく減少する。

② 2025～2027年：2025年に108.9万人（前年比2.7万人増）と増加に転じ、
2027年は108.5万人とほぼ変わらず。

③ 2028～2031年：2028年に106.9万人（前年比1.6万人減）と再び減少し、
2031年には103.3万人となる。



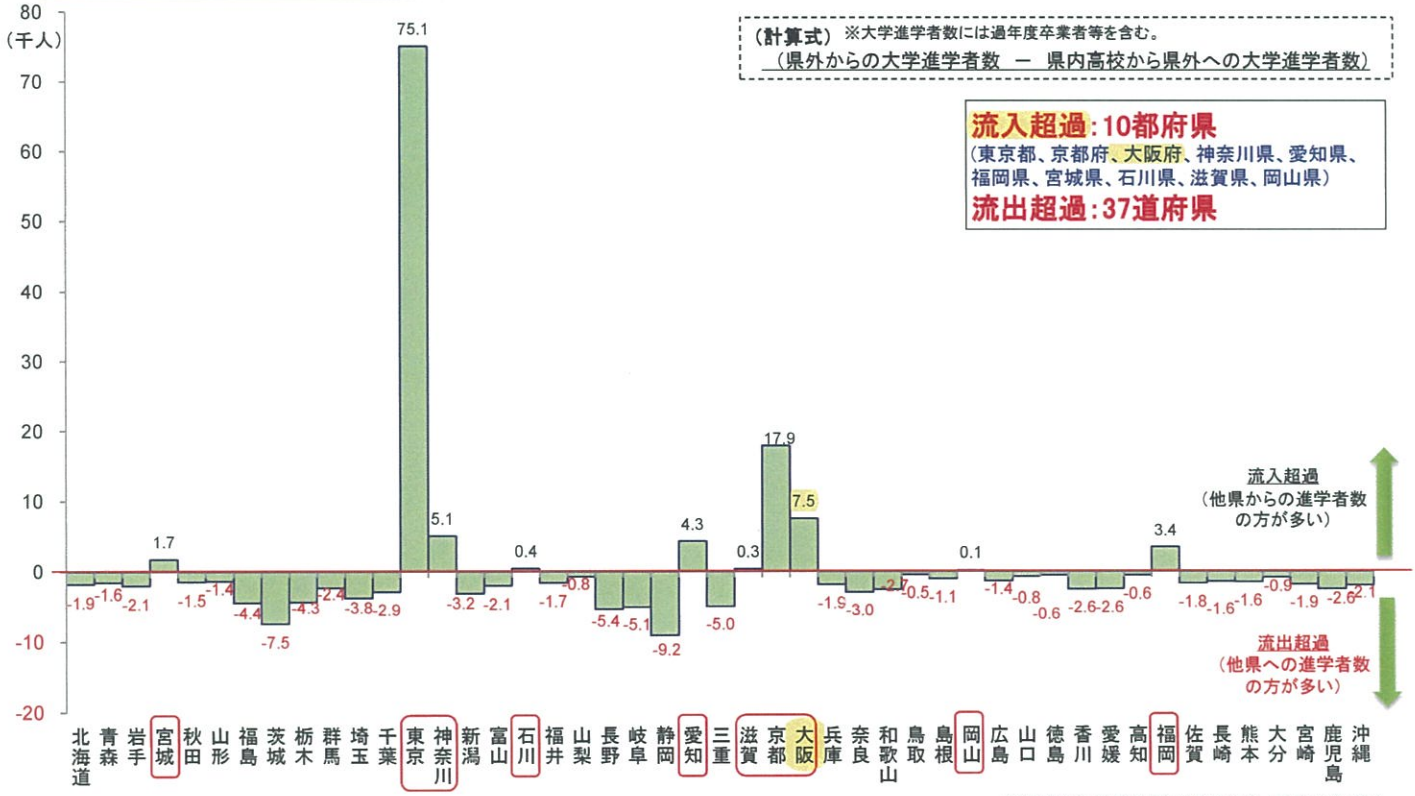
		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年
全体	人数（万人）	117.5	116.7	114.1	112.1	109.7	106.2	108.9	109.4	108.5	106.9	106.7	104.8	103.3
	指数	100.0	99.4	97.1	95.4	93.4	90.4	92.7	93.1	92.4	91.0	90.8	89.2	88.0

① ② ③

※データ元：「令和元年（2019年度）学校基本調査　速報値」より

大学進学時の都道府県別流入・流出者数

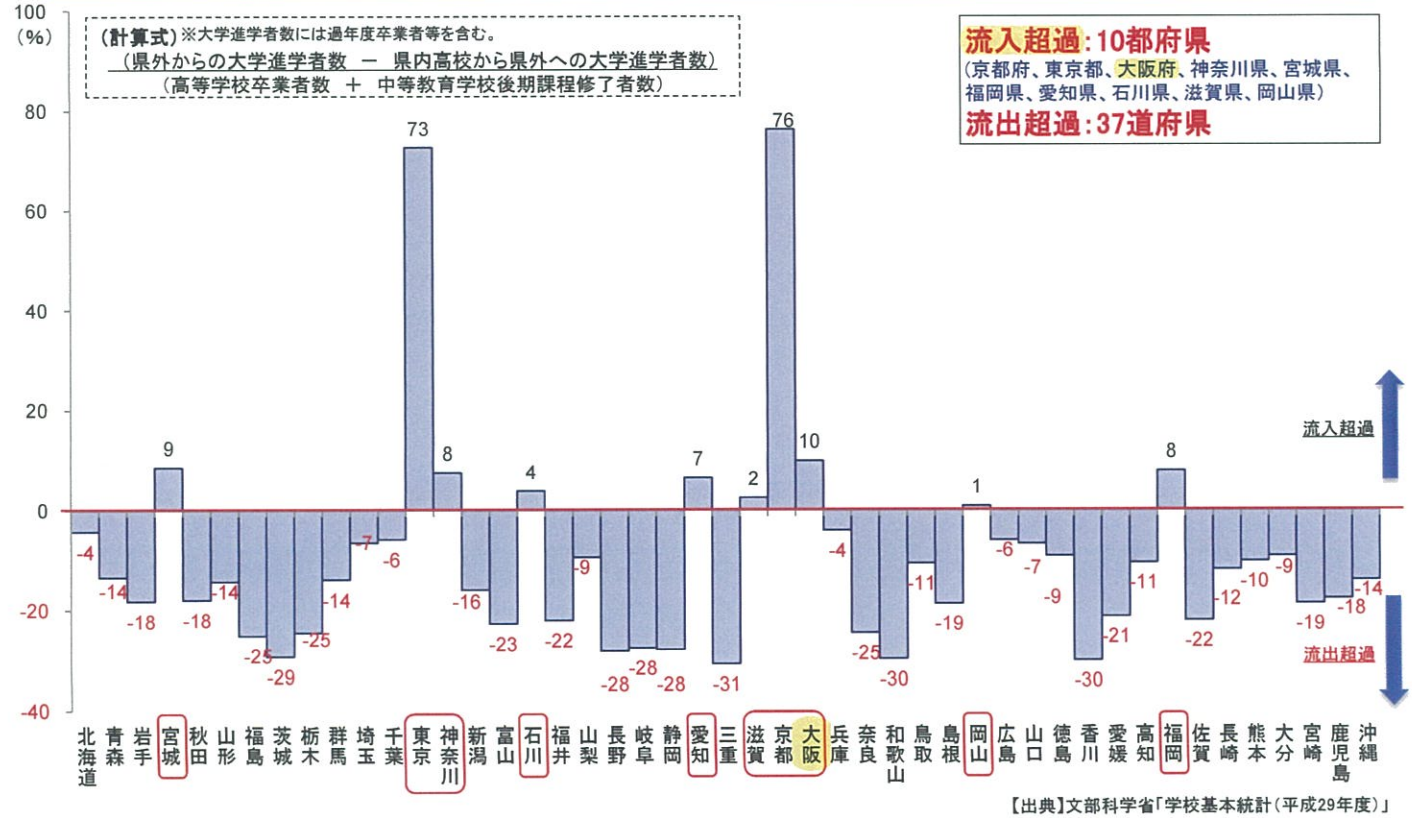
○ 大学進学時の各都道府県における流入者・流出者数をみると、流入超過が10都府県、流出超過が37道府県となっている。
○ 東京都には75,088人、京都府には17,899人、大阪府には7,544人が流入している一方、静岡県からは9,166人、茨城県からは7,508人、長野県からは5,359人が流出している。



【出典】文部科学省「学校基本統計（平成29年度）」

大学進学時の都道府県別流入・流出率

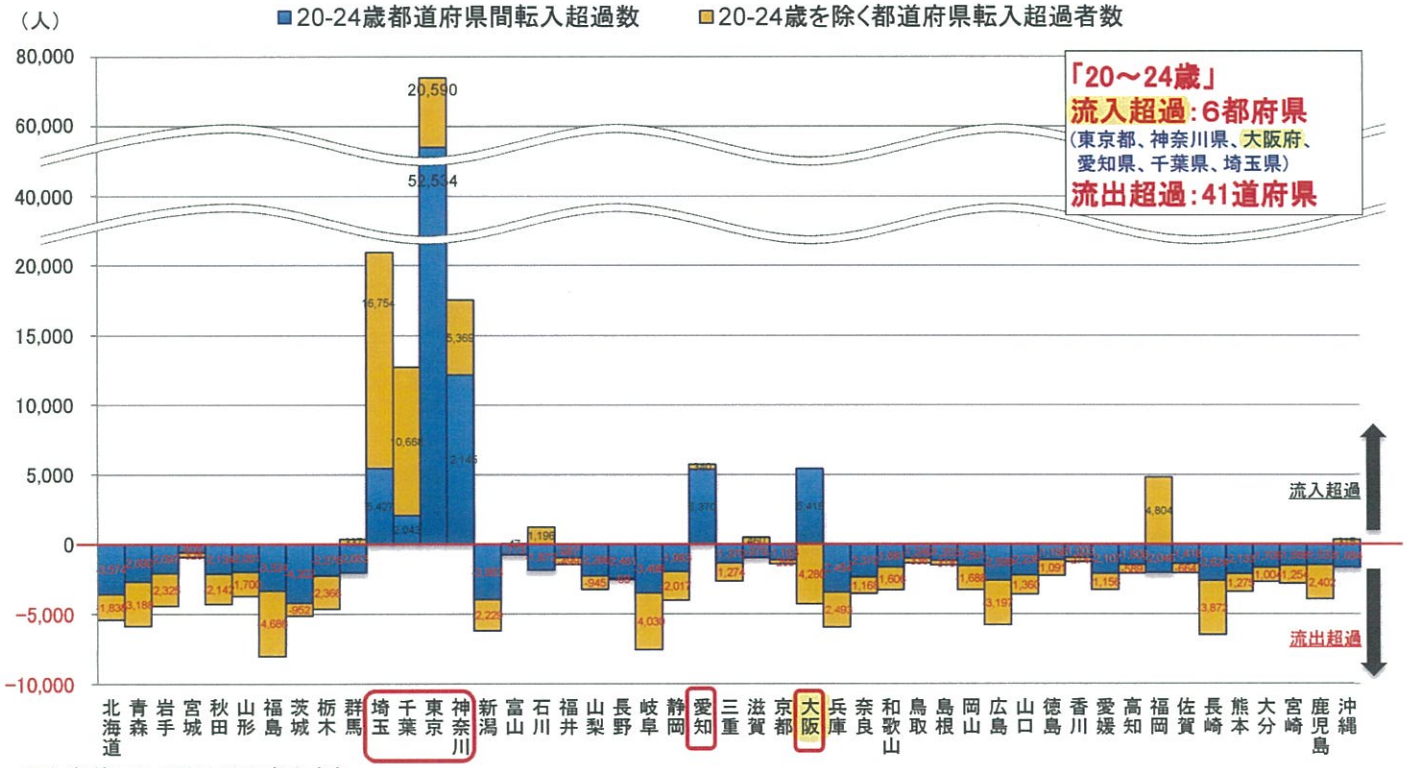
○ 大学進学時の各都道府県における流入者・流出者の割合をみると、流入超過が10都府県、流出超過が37道府県となっている。
○ 流入率が最も高い京都府では、京都府の高校等卒業者の76.2%に相当する人数が他県から京都府内の大学に入学し、流出率が最も高い三重県では、三重県の高校等卒業者の30.8%に相当する人数が三重県から他県の大学に進学している。



【出典】文部科学省「学校基本統計（平成29年度）」

「20～24歳」における都道府県間人口移動（※外国人移動者を含む）

○ 就職や進学等を機に41道府県の若者が県外に流出（平成29年）

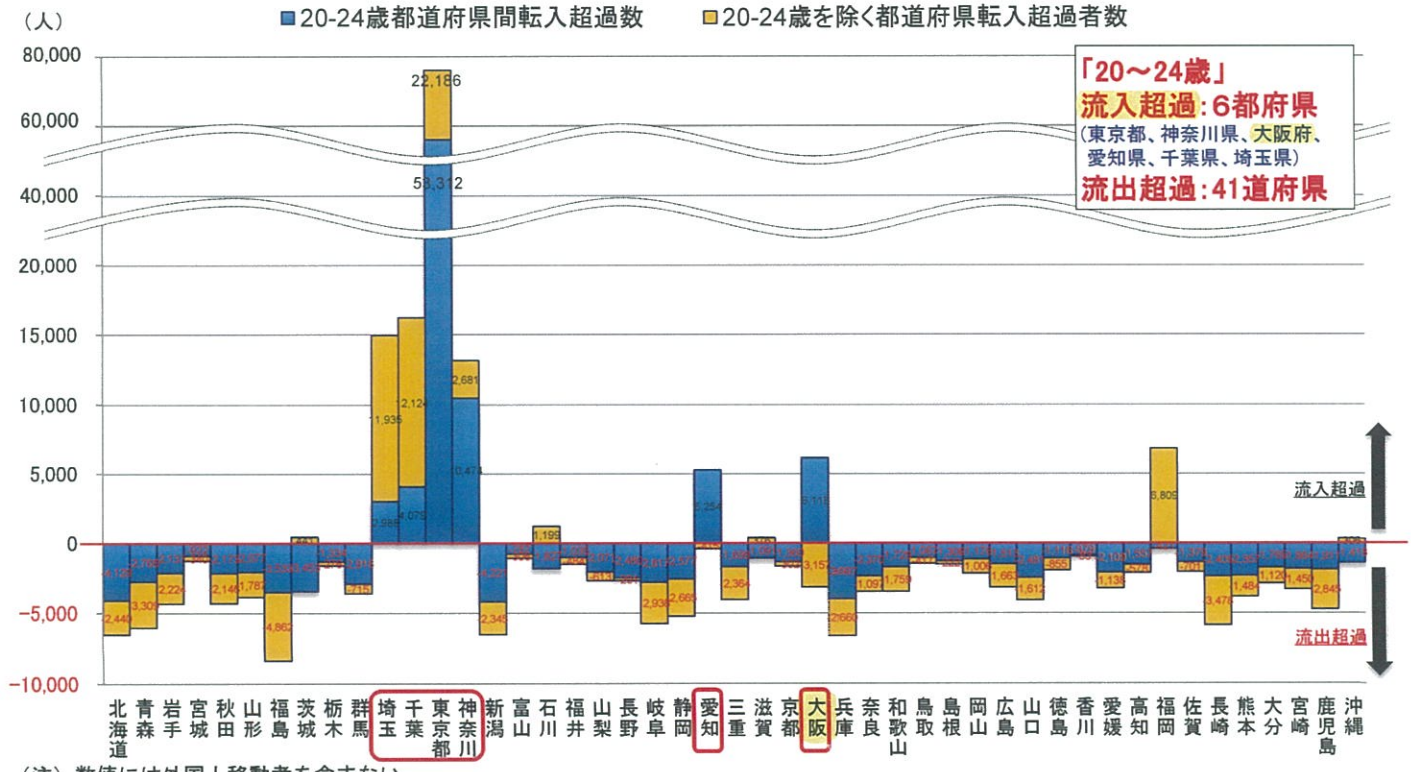


（注）数値には外国人移動者を含む。

総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」（2017年）より作成

「20～24歳」における都道府県間人口移動（※外国人移動者を含まない）

○ 就職や進学等を機に41道府県の若者が県外に流出（平成29年）



（注）数値には外国人移動者を含まない。

総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」（2017年）より作成

2019年（平成31年・令和元年）度の入学試験・６年制学科生の修学状況

国立大学

	大学名	2019年度入学定員			2019年度合格者数等				2019年度倍率・充足率		6年制学科の修学状況																2018年度卒業者入学年度別分布（6年制）					国家試験合格状況			
											2013年度入学生									2014年度入学生					2015年度入学生									2019年国家試験（第104回）※4			
		入学定員		6年制・4年制一括募集の場合の4年制学科の入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	実質競争倍率（受験者数／合格者数）	入学定員充足率（入学者数／入学定員）	2013年度入学時	2017年度5年次※3	5年次進級率	実習修了者	実習修了率	卒業者数	卒業率	国家試験合格者数	合格率	2014年度入学時	2018年度5年次※3	5年次進級率	実習修了者	実習修了率	2015年度入学時	2019年度5年次※3	5年次進級率	2013年度	2012年度	2011年度	その他	計	出願者	受験者	合格者	合格率
1	北海道大学 ※1	—	80	50（一括）	252	112	27	25	－	－	ー	27	ー	27	ー	27	ー	26	ー	ー	28	ー	28	ー	ー	30	ー	27	0	0	0	27	27	27	26	96.3%
2	東北大学	—	80	60（一括）	270	226	87	87	2.6	108.8%	ー	19	ー	19	ー	19	ー	18	ー	ー	21	ー	21	ー	ー	19	ー	19	0	0	0	19	19	19	18	94.7%
3	千葉大学	—	90	30（一括）	595	481	106	90	4.5	100.0%	ー	40	ー	40	ー	40	ー	37	ー	ー	40	ー	40	ー	ー	40	ー	40	0	0	0	40	40	40	37	92.5%
4	東京大学 ※2（理科Ⅱ類）	—	532	72（一括）	2,098	1,864	558	550	3.3	103.4%	ー	8	ー	7	ー	6	ー	6	ー	ー	8	ー	8	ー	ー	8	ー	7	0	0	0	7	7	7	7	100.0%
5	富山大学	6年制	55		469	353	62	59	5.7	107.3%	59	49	83.1%	49	83.1%	49	83.1%	44	74.6%	60	52	86.7%	51	85.0%	56	47	83.9%	50	5	0	0	55	55	54	47	87.0%
		4年制	50		153	130	62	55	2.1	110.0%																									
6	金沢大学	—	75	40（一括）	196	179	81	73	2.2	97.3%	ー	35	ー	35	ー	35	ー	34	ー	ー	35	ー	35	ー	ー	36	ー	35	1	0	0	36	36	36	35	97.2%
7	京都大学	—	80	65（一括）	196	189	87	86	2.2	107.5%	31	31	100.0%	27	87.1%	26	83.9%	26	83.9%	31	30	96.8%	30	96.8%	30	29	96.7%	26	1	0	1	28	28	28	28	100.0%
8	大阪大学	6年制	80		285	242	85	85	2.8	106.3%	25	24	96.0%	24	96.0%	24	96.0%	22	88.0%	29	27	93.1%	27	93.1%	27	23	85.2%	25	1	0	1	27	26	26	23	88.5%
9	岡山大学	6年制	40		219	167	44	41	3.8	102.5%	40	39	97.5%	38	95.0%	38	95.0%	35	87.5%	40	35	87.5%	35	87.5%	42	41	97.6%	38	3	1	1	43	43	43	39	90.7%
		4年制	40		95	57	46	40	1.2	100.0%																									
10	広島大学	6年制	38		207	186	41	41	4.5	107.9%	38	38	100.0%	36	94.7%	34	89.5%	32	84.2%	39	37	94.9%	32	82.1%	39	37	94.9%	34	2	1	0	37	36	36	33	91.7%
		4年制	22		49	45	25	24	1.8	109.1%																									
11	徳島大学	6年制	40		233	203	47	44	4.3	110.0%	ー	40	ー	40	ー	40	ー	39	ー	ー	42	ー	42	ー	ー	42	ー	40	0	0	0	40	40	40	39	97.5%
		4年制	40		253	153	72	45	2.1	112.5%																									
12	九州大学	6年制	30		112	84	31	30	2.7	100.0%	30	28	93.3%	28	93.3%	28	93.3%	28	93.3%	30	26	86.7%	26	86.7%	30	28	93.3%	28	2	0	1	31	32	32	32	100.0%
		4年制	49		132	96	55	52	1.7	106.1%																									
13	長崎大学	6年制	40		282	139	43	40	3.2	100.0%	41	40	97.6%	38	92.7%	38	92.7%	38	92.7%	42	41	97.6%	38	90.5%	40	39	97.5%	38	2	2	2	44	40	40	40	100.0%
		4年制	40		181	116	65	42	1.8	105.0%																									
14	熊本大学	6年制	55		330	320	61	60	5.2	109.1%	57	49	86.0%	48	84.2%	45	78.9%	41	71.9%	58	55	94.8%	54	93.1%	57	52	91.2%	45	5	0	0	50	52	49	45	91.8%
		4年制	35		130	120	41	38	2.9	108.6%																									

公立大学

	大学名	2019年度入学定員			2019年度合格者数等				2019年度倍率・充足率		6年制学科の修学状況																2018年度卒業者入学年度別分布（6年制）					国家試験合格状況			
											2013年度入学生									2014年度入学生					2015年度入学生									2019年国家試験（第104回）※4			
		入学定員		6年制・4年制一括募集の場合の4年制学科の入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	実質競争倍率（受験者数／合格者数）	入学定員充足率（入学者数／入学定員）	2013年度入学時	2017年度5年次※3	5年次進級率	実習修了者	実習修了率	卒業者数	卒業率	国家試験合格者数	合格率	2014年度入学時	2018年度5年次※3	5年次進級率	実習修了者	実習修了率	2015年度入学時	2019年度5年次※3	5年次進級率	2013年度	2012年度	2011年度	その他	計	出願者	受験者	合格者	合格率
15	岐阜薬科大学	6年制	120		1,152	771	199	132	3.9	110.0%	85	64	75.3%	64	75.3%	63	74.1%	61	71.8%	79	62	78.5%	62	78.5%	81	63	77.8%	63	5	2	0	70	70	70	66	94.3%
16	静岡県立大学	6年制	80		791	568	115	85	4.9	106.3%	ー	80	ー	80	ー	80	ー	79	ー	ー	81	ー	81	ー	ー	80	ー	80	0	0	0	80	80	80	79	98.8%
		4年制	40		319	234	70	44	3.3	110.0%																									
17	名古屋市立大学	6年制	60		801	551	109	66	5.1	110.0%	86	80	93.0%	76	88.4%	73	84.9%	70	81.4%	67	59	88.1%	55	82.1%	69	62	89.9%	73	7	0	0	80	80	80	74	92.5%
		4年制	40		414	294	72	47	4.1	117.5%																									
18	山口東京理科大学	6年制	120		1,103	764	240	145	3.2	120.8%	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー

※1 平成23年度から北海道大学は総合入試を導入しており、平成30年度合格者数等欄は学部別入試分（6年制・4年制一括で募集数24人）に対するものであるほか、倍率・充足率は算出しない。

※2 東京大学の入学定員欄には理科Ⅱ類の募集数を記載している。薬学部の入学定員は80。

※3 5年次進級率の算出に当たっては、留年・休学者と編入学者を除いている。

※4 2019年国家試験（第104回）の出願者・受験者・合格者は新卒者のみの数値であり、合格率は受験者に対する率である。

私立大学

	大学名	2019年度入学定員			2019年度合格者数等				2019年度倍率・充足率		6年制学科の修学状況																2018年度卒業者入学年度別分布（6年制）					国家試験合格状況			
											2013年度入学生									2014年度入学生					2015年度入学生								2019年国家試験（第104回）※4			
		入学定員		6年制・4年制一括募集の場合の4年制学科の入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	実質競争倍率（受験者数／合格者数）	入学定員充足率（入学者数／入学定員）	2013年度入学時	2017年度5年次※3	5年次進級率	実習修了者	実習修了率	卒業者数	卒業率	国家試験合格者数	合格率	2014年度入学時	2018年度5年次※3	5年次進級率	実習修了者	実習修了率	2015年度入学時	2019年度5年次※3	5年次進級率	2013年度	2012年度	2011年度	その他	計	出願者	受験者	合格者	合格率
19	北海道医療大学	6年制	160		727	703	427	165	1.6	103.1%	186	134	72.0%	134	72.0%	120	64.5%	111	59.7%	176	112	63.6%	112	63.6%	175	110	62.9%	123	31	7	8	169	162	138	125	90.6%
20	北海道科学大学	6年制	180		995	957	620	189	1.5	105.0%	229	168	73.4%	143	62.4%	148	64.6%	124	54.1%	232	170	73.3%	169	72.8%	226	172	76.1%	148	4	5	1	158	183	158	129	81.6%
21	青森大学	6年制	70		114	99	82	54	1.2	77.1%	56	31	55.4%	30	53.6%	26	46.4%	20	35.7%	59	17	28.8%	17	28.8%	60	27	45.0%	34	7	1	3	45	34	34	25	73.5%
22	岩手医科大学	6年制	120		183	178	140	48	1.3	40.0%	187	105	56.1%	104	55.6%	78	41.7%	62	33.2%	190	124	65.3%	124	65.3%	159	91	57.2%	78	21	10	7	116	144	83	65	78.3%
23	東北医科薬科大学	6年制	300		1,009	908	559	305	1.6	101.7%	326	229	70.2%	228	69.9%	219	67.2%	206	63.2%	318	238	74.8%	238	74.8%	313	233	74.4%	219	42	14	6	281	293	266	242	91.0%
		4年制	40		74	70	48	15	1.5	37.5%																									
24	医療創生大学	6年制	90		397	387	368	57	1.1	63.3%	59	26	44.1%	26	44.1%	20	33.9%	20	33.9%	83	30	36.1%	30	36.1%	96	31	32.3%	22	7	4	0	33	40	33	29	87.9%
25	奥羽大学	6年制	140		241	235	161	101	1.5	72.1%	125	84	67.2%	84	67.2%	61	48.8%	31	24.8%	118	79	66.9%	79	66.9%	86	68	79.1%	62	3	0	0	65	100	64	32	50.0%
26	国際医療福祉大学	6年制	180		990	967	449	186	2.2	103.3%	197	148	75.1%	148	75.1%	139	70.6%	137	69.5%	197	135	68.5%	135	68.5%	197	130	66.0%	139	27	16	6	188	150	150	146	97.3%
27	高崎健康福祉大学	6年制	90		431	417	194	95	2.1	105.6%	98	74	75.5%	74	75.5%	65	66.3%	59	60.2%	100	81	81.0%	81	81.0%	98	74	75.5%	65	12	6	2	85	79	68	60	88.2%
28	城西大学	6年制	250		1,317	1,200	721	227	1.7	90.8%	374	209	55.9%	207	55.3%	196	52.4%	135	36.1%	327	169	51.7%	168	51.4%	290	162	55.9%	196	40	11	8	255	256	224	144	64.3%
		4年制	150		533	499	340	125	1.5	83.3%																									
29	日本薬科大学	6年制	260		1,313	1,237	729	250	1.7	96.2%	330	155	47.0%	155	47.0%	115	34.8%	101	30.6%	283	151	53.4%	151	53.4%	279	155	55.6%	115	35	5	11	166	135	118	103	87.3%
		4年制	90		322	303	154	103	2.0	114.4%																									
30	城西国際大学	6年制	130		419	390	309	101	1.3	77.7%	167	55	32.9%	55	32.9%	52	31.1%	43	25.7%	167	74	44.3%	74	44.3%	166	101	60.8%	52	6	2	3	63	70	59	47	79.7%
31	千葉科学大学	6年制	120		289	269	263	61	1.0	50.8%	120	78	65.0%	76	63.3%	61	50.8%	47	39.2%	142	84	59.2%	75	52.8%	179	70	39.1%	62	9	8	4	83	73	68	49	72.1%
32	帝京平成大学	6年制	240		2,386	2,196	549	210	4.0	87.5%	253	199	78.7%	199	78.7%	160	63.2%	123	48.6%	242	195	80.6%	195	80.6%	248	194	78.2%	160	68	10	3	241	167	167	125	74.9%
33	東京理科大学	6年制	100		2,155	1,991	552	82	3.6	82.0%	94	88	93.6%	88	93.6%	85	90.4%	80	85.1%	109	94	86.2%	94	86.2%	102	95	93.1%	88	5	0	2	95	92	92	87	94.6%
		4年制	100		1,278	1,198	498	95	2.4	95.0%																									
34	東邦大学	6年制	220		1,900	1,814	566	239	3.2	108.6%	235	196	83.4%	195	83.0%	186	79.1%	177	75.3%	258	207	80.2%	205	79.5%	238	203	85.3%	186	31	11	1	229	215	204	193	94.6%
35	日本大学	6年制	244		1,873	1,692	594	259	2.8	106.1%	272	212	77.9%	210	77.2%	186	68.4%	160	58.8%	251	220	87.6%	219	87.3%	261	223	85.4%	186	45	12	5	248	201	201	169	84.1%
36	北里大学	6年制	260		2,176	2,107	542	273	3.9	105.0%	259	237	91.5%	236	91.1%	235	90.7%	213	82.2%	260	240	92.3%	240	92.3%	265	240	90.6%	236	7	1	0	244	246	243	219	90.1%
		4年制	35		356	353	144	35	2.5	100.0%																									
37	慶應義塾大学	6年制	150		1,653	1,479	351	151	4.2	100.7%	161	139	86.3%	139	86.3%	136	84.5%	129	80.1%	160	142	88.8%	142	88.8%	150	137	91.3%	142	9	2	1	154	157	154	144	93.5%
		4年制	60		630	589	231	61	2.5	101.7%																									
38	昭和大学	6年制	200		1,754	1,693	433	200	3.9	100.0%	232	209	90.1%	207	89.2%	187	80.6%	159	68.5%	188	162	86.2%	162	86.2%	198	163	82.3%	187	19	3	2	211	220	195	164	84.1%
39	昭和薬科大学	6年制	240		2,541	2,222	785	248	2.8	103.3%	245	170	69.4%	169	69.0%	164	66.9%	145	59.2%	245	174	71.0%	168	68.6%	255	210	82.4%	164	33	15	1	213	208	201	169	84.1%
40	東京薬科大学	6年制	420		2,821	2,597	815	414	3.2	98.6%	517	433	83.8%	433	83.8%	409	79.1%	362	70.0%	401	329	82.0%	328	81.8%	457	362	79.2%	409	49	17	11	486	509	463	400	86.4%
41	星薬科大学	6年制	260		3,382	3,240	744	301	4.4	115.8%	261	245	93.9%	244	93.5%	233	89.3%	222	85.1%	278	258	92.8%	258	92.8%	286	268	93.7%	233	14	11	1	259	258	242	231	95.5%
		4年制	20		346	338	125	21	2.7	105.0%																									
42	武蔵野大学	6年制	160		3,550	3,323	379	140	8.8	87.5%	157	130	82.8%	130	82.8%	120	76.4%	104	66.2%	157	126	80.3%	125	79.6%	145	117	80.7%	120	27	6	0	153	146	132	113	85.6%
43	明治薬科大学	6年制	300		3,208	2,833	620	308	4.6	102.7%	333	288	86.5%	288	86.5%	269	80.8%	250	75.1%	325	278	85.5%	277	85.2%	326	289	88.7%	275	28	4	1	308	320	291	269	92.4%
		4年制	60		662	599	251	66	2.4	110.0%																									
44	帝京大学	6年制	320		3,326	2,981	611	364	4.9	113.8%	327	230	70.3%	230	70.3%	216	66.1%	198	60.6%	324	248	76.5%	248	76.5%	324	232	71.6%	216	25	5	4	250	259	250	226	90.4%
45	横浜薬科大学	6年制	340		2,929	2,782	797	366	3.5	107.6%	383	182	47.5%	181	47.3%	159	41.5%	121	31.6%	391	234	59.8%	233	59.6%	371	245	66.0%	160	70	29	36	295	246	245	154	62.9%
		4年制	30		261	241	116	32	2.1	106.7%																									
46	新潟薬科大学	6年制	180		360	346	310	131	1.1	72.8%	208	147	70.7%	146	70.2%	137	65.9%	102	49.0%	178	127	71.3%	127	71.3%	184	123	66.8%	138	22	6	3	169	167	148	108	73.0%
47	北陸大学	6年制	200		532	516	471	127	1.1	63.5%	290	116	40.0%	116	40.0%	115	39.7%	101	34.8%	249	123	49.4%	123	49.4%	151	81	53.6%	115	17	1	6	139	140	139	106	76.3%
48	愛知学院大学	6年制	145		1,243	1,120	539	144	2.1	99.3%	154	103	66.9%	103	66.9%	87	56.5%	84	54.5%	157	105	66.9%	105	66.9%	147	95	64.6%	88	21	10	10	129	120	102	96	94.1%
49	金城学院大学	6年制	150		904	876	489	150	1.8	100.0%	196	176	89.8%	176	89.8%	167	85.2%	135	68.9%	162	142	87.7%	142	87.7%	162	136	84.0%	168	25	9	2	204	175	169	136	80.5%
50	名城大学	6年制	265		2,240	2,057	986	258	2.1	97.4%	296	195	65.9%	195	65.9%	193	65.2%	189	63.9%	278	197	70.9%	197	70.9%	285	206	72.3%	193	42	9	5	249	223	223	218	97.8%
51	鈴鹿医療科学大学	6年制	100		454	451	387	106	1.2	106.0%	112	75	67.0%	72	64.3%	54	48.2%	51	45.5%	124	87	70.2%	87	70.2%	112	88	78.6%	54	10	3	1	68	90	57	53	93.0%
52	京都薬科大学	6年制	360		2,491	2,427	987	365	2.5	101.4%	366	295	80.6%	294	80.3%	288	78.7%	279	76.2%	377	302	80.1%	302	80.1%	371	293	79.0%	288	43	12	9	352	372	352	332	94.3%
53	同志社女子大学	6年制	120		1,035	1,023	309	123	3.3	102.5%	154	124	80.5%	121	78.6%	118	76.6%	97	63.0%	139	120	86.3%	119	85.6%	116	105	90.5%	118	12	1	0	131	137	130	104	80.0%
54	立命館大学	6年制	100		1,372	1,292	441	84	2.9	84.0%	108	93	86.1%	93	86.1%	92	85.2%	86	79.6%	99	79	79.8%	79	79.8%	103	73	70.9%	92	8	1	4	105	106	101	92	91.1%
		4年制	60		536	489	221	61	2.2	101.7%																									
55	大阪大谷大学	6年制	140		474	431	323	134	1.3	95.7%	148	91	61.5%	91	61.5%	79	53.4%	54	36.5%	143	110	76.9%	110	76.9%	152	111	73.0%	79	31	11	5	126	123	94	60	63.8%
56	大阪薬科大学	6年制	294		2,279	2,087	856	311	2.4	105.8%	ー	273	－	273	－	266	－	229	ー	ー	255	－	254	－	ー	239	－	266	37	15	7	325	342	324	266	82.1%
57	近畿大学	6年制	150		4,584	4,208	633	153	6.6	102.0%	176	136	77.3%	135	76.7%	129	73.3%	121	68.8%	156	132	84.6%	132	84.6%	160	134	83.8%	131	16	7	3	157	161	142	132	93.0%
		4年制	40		994	924	225	38	4.1	95.0%																									
58	摂南大学	6年制	220		4,818	4,395	1,486	219	3.0	99.5%	248	166	66.9%	164	66.1%	160	64.5%	143	57.7%	227	164	72.2%	164	72.2%	218	170	78.0%	161	26	9	7	203	223	203	169	83.3%
59	神戸学院大学	6年制	250		2,786	2,612	1,135	256	2.3	102.4%	282	191	67.7%	189	67.0%	183	64.9%	159	56.4%	263	179	68.1%	179	68.1%	252	179	71.0%	183	33	18	9	243	246	229	190	83.0%
60	神戸薬科大学	6年制	270		2,696	2,448	784	287	3.1	106.3%	289	214	74.0%	214	74.0%	208	72.0%	198	68.5%	298	248	83.2%	248	83.2%	276	219	79.3%	208	39	13	6	266	260	246	230	93.5%

大学名		6年制			2019年度合格者数等				2019年度倍率・充足率		6年制学科の修学状況																2018年度卒業者入学年度別分布（6年制）					国家試験合格状況			
											2013年度入学生									2014年度入学生					2015年度入学生									2019年国家試験（第104回）※4			
		入学定員		6年制・4年制一括募集の場合の4年制学科の入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	実質競争倍率（受験者数／合格者数）	入学定員充足率（入学者数／入学定員）	2013年度入学時	2017年度5年次※3	5年次進級率	実習修了者	実習修了率	卒業者数	卒業率	国家試験合格者数	合格率	2014年度入学時	2018年度5年次※3	5年次進級率	実習修了者	実習修了率	2015年度入学時	2019年度5年次※3	5年次進級率	2013年度	2012年度	2011年度	その他	計	出願者	受験者	合格者	合格率
61	兵庫医療大学	6年制	150		715	673	487	152	1.4	101.3%	171	103	60.2%	103	60.2%	96	56.1%	76	44.4%	159	123	77.4%	122	76.7%	153	118	77.1%	96	22	9	4	131	138	131	84	64.1%
62	姫路獨協大学	6年制	100		156	122	114	30	1.1	30.0%	80	38	47.5%	38	47.5%	29	36.3%	23	28.8%	129	59	45.7%	59	45.7%	101	54	53.5%	32	10	2	2	46	51	38	30	78.9%
63	武庫川女子大学	6年制	210		1,766	1,495	668	196	2.2	93.3%	232	181	78.0%	181	78.0%	159	68.5%	130	56.0%	219	169	77.2%	169	77.2%	206	158	76.7%	159	48	12	9	228	219	176	141	80.1%
		4年制	40		194	151	105	34	1.4	85.0%																									
64	就実大学	6年制	120		394	386	324	94	1.2	78.3%	135	98	72.6%	98	72.6%	82	60.7%	69	51.1%	139	98	70.5%	97	69.8%	111	83	74.8%	86	17	6	5	114	110	90	75	83.3%
65	広島国際大学	6年制	120		374	360	269	72	1.3	60.0%	163	120	73.6%	119	73.0%	104	63.8%	79	48.5%	138	98	71.0%	95	68.8%	88	67	76.1%	104	17	12	9	142	136	111	83	74.8%
66	福山大学	6年制	150		369	361	232	108	1.6	72.0%	164	131	79.9%	129	78.7%	122	74.4%	95	57.9%	161	131	81.4%	130	80.7%	154	133	86.4%	124	11	3	0	138	139	127	99	78.0%
67	安田女子大学	6年制	120		505	492	338	84	1.5	70.0%	103	86	83.5%	86	83.5%	84	81.6%	63	61.2%	113	99	87.6%	96	85.0%	96	85	88.5%	85	4	0	1	90	91	89	66	74.2%
68	徳島文理大学	6年制	180		252	245	205	72	1.2	40.0%	142	110	77.5%	109	76.8%	102	71.8%	84	59.2%	172	136	79.1%	134	77.9%	130	96	73.8%	111	3	1	1	116	189	162	133	82.1%
69	徳島文理大学（香川薬学部）	6年制	90		146	141	131	40	1.1	44.4%	76	46	60.5%	46	60.5%	40	52.6%	35	46.1%	101	56	55.4%	56	55.4%	76	42	55.3%	43	8	8	1	60				
70	松山大学	6年制	100		345	315	281	93	1.1	93.0%	127	88	69.3%	87	68.5%	74	58.3%	61	48.0%	126	92	73.0%	91	72.2%	103	74	71.8%	77	10	0	1	88	102	80	67	83.8%
71	第一薬科大学	6年制	173		455	442	387	147	1.1	85.0%	204	136	66.7%	123	60.3%	78	38.2%	58	28.4%	202	155	76.7%	131	64.9%	164	84	51.2%	78	21	12	10	121	166	85	63	74.1%
72	福岡大学	6年制	230		2,936	2,812	680	231	4.1	100.4%	283	251	88.7%	251	88.7%	226	79.9%	206	72.8%	233	204	87.6%	201	86.3%	240	217	90.4%	226	29	8	1	264	271	235	214	91.1%
73	長崎国際大学	6年制	120		539	530	300	123	1.8	102.5%	139	92	66.2%	91	65.5%	83	59.7%	73	52.5%	133	83	62.4%	83	62.4%	131	101	77.1%	86	12	4	0	102	110	90	78	86.7%
74	崇城大学	6年制	120		1,637	1,593	577	132	2.8	110.0%	140	110	78.6%	110	78.6%	102	72.9%	98	70.0%	129	105	81.4%	105	81.4%	129	104	80.6%	103	9	2	1	115	138	115	109	94.8%
75	九州保健福祉大学	6年制	100		353	346	333	90	1.0	90.0%	139	80	57.6%	80	57.6%	64	46.0%	62	44.6%	121	70	57.9%	70	57.9%	177	96	54.2%	66	19	7	10	102	105	70	68	97.1%
		4年制	40		61	60	56	18	1.1	45.0%																									

※3 5年次進級率の算出に当たっては、留年・休学者と編入学者を除いている。

※4 2019年国家試験（第104回）の出願者・受験者・合格者は新卒者のみの数値であり、合格率は受験者に対する率である。

特集

進学ブランド力調査 2019

進学先を本格的に考え始める高校3年生の4月。高校生自身の様々な経験の中で醸成された大学イメージの総和は、彼らの進路選択にどのように影響しているのだろうか。そして各大学が発信しているメッセージは、狙い通りに伝わっているのか。独自の魅力として他大学との差別化につながっているのだろうか。2008年にスタートした弊社「進学ブランド力調査」は、今年で12回目を迎えた。高校生が抱く純粋な大学認知の状況について今年も紹介する。

第1章

全体報告

本調査は2020年3月卒業予定の高校3年生に対して、2019年4月5日～26日にかけて実施したものである。知名度ランキングとは、高校生が「知っている」と回答した大学を、志願度ランキングは「志願したい大学」を4校まで選択してもらい、ランキングにまとめたものだ。本誌では、関東・東海・関西の3エリアごとに全体（男女）、文系・理系（全体・男女）の詳細な結果を掲載している。

次に、3エリアごとの大学のイメージランキングを掲載している。イメージランキングとは、スペックで示しやすい機能的価値、情緒的な側面を示す感性的価値について、各大学のイメージを回答してもらい、上位15位をランキングにしたものだ。全体（男女）の回答結果を見て、各大学が伝えたいイメージが高校生に伝わっているか、ご確認いただきたい。

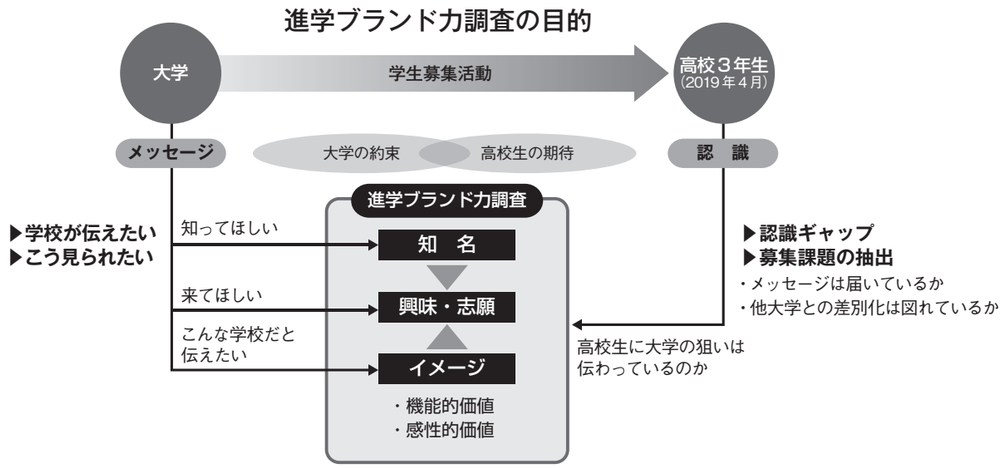
国公私立大学志望の状況

関東・関西は私立志向、東海は国公立志向が高いが私立志向がやや増加

大学の国公私立別の志望状況を過去10年分表したのが図表1である。3エリアごとの特徴を見ていこう。

まず関東は一貫して「私立志向・計」が過半数を占め、私立志向が顕著である。多少の数値変動はあるものの、国公立志向が私立志向を上回ることはない。関東にはもともと総合型私立大学が多く、高校生の進路選択の候補の層が厚い。卒業生も多いため、企業からの評価もあり、私大中心のブランドが形成されやすいエリアと言える。

東海は3エリア中最も国公立志向が高く、調査開始以来一貫して「国



「理学」「生物・農・獣医・林産・水産」「工学（機械）」「工学（電気・電子・情報）」「工学（建築・土木）」「看護・医療・保健・衛生」「薬学」

国公立の人気が高い理系であるが、3エリア共に、多様な大学が分野ごとに強さを発揮し1位を獲得した。医療系は、関東では北里大学が強く、東海・関西は名古屋大学・藤田医科大学と大阪薬科大学・森ノ宮医療大学がそれぞれ1位を分け合う結果となった。

● 理学

あらゆる科学の基盤分野と言われる理学だが、ランキングは難関校が上位を占める。関東1位は東京理科大学（14.6％）、2位明治大学（11.9％）。東海は1位の名古屋大学のスコアが高く（25.4％）、4人に1人は志望している状態。関西1位は大阪市立大学（16.4％）、2位は同率で大阪大学と関西大学（16.0％）となった。

● 生物・農・獣医・林産・水産

食糧自給問題や食の安全保証等、全人類的な課題解決に期待が集まる分野。関東は幅広い自然科学分野を網羅する東京農業大学が圧倒的1位を獲得（25.2％）。系統志望者の4人に1人が志望している状態だ。東海は農学部を持つ名城大学が1位（21.1％）、応用生物科学部を持つ岐阜大学が2位（14.3％）。関西は生命環境科学域を持つ大阪府立大学が1位（17.5％）、2位は農学部を持つ神戸大学（16.0％）となった。

● 工学（機械）

関東1位は幅広い理工学分野を擁する東京理科大学（13.3％）、2位芝浦工業大学（12.9％）、3位東京工業大学（11.7％）となった。東海は1位名古屋工業大学（23.9％）、2位名古屋大学（22.4％）、3位静岡大学（18.2％）と国立大学がトップスリー。関西は1位は同率で関西大学と神戸大学（18.1％）、3位は大阪大学（17.1％）となった。

● 工学（電気・電子・情報）

エネルギーや通信に関わり、近年エンジニア人材ニーズが高い分野である。概ね幅広く領域を網羅した工学部を持つ大学が並ぶ。関東1位は芝浦工業大学（14.8％）、2位は東京理科大学（14.0％）、3位に東京工業大学と早稲田大学が同率で並んだ（10.6％）。東海は工学（機械）に引き続き名古屋工業大学が1位（24.1％）、2位は名古屋大学（20.3％）、3位は名城大学（18.2％）。関西1位は大阪大学（19.3％）、2位神戸大学（17.2％）、3位は同率で関西大学と近畿大学が並んだ（15.1％）。

● 工学（建築・土木）

東日本震災復興需要や東京五輪開催等を背景に業界人気が高まっている系統。関東1位は2017年に建築学部を設置した芝浦工業大学（16.4％）、2位東京理科大学（12.0％）、3位明治大学（10.6％）となった。東海1位は名城大学（20.7％）、2位名古屋工業大学（18.9％）、3位名古屋大学（17.7％）と、理工系に強い大学が並ぶ。関西1位は建築学部を擁する近畿大学（19.0％）、2位は環境都市工学部に建築学科を持つ関西大学（18.2％）となった。

● 看護・医療・保健・衛生

医学部の有無に拘わらずコメディカルを標榜する大学が多くランクイン。3エリアとも、多様な大学に志望が分散している。関東1位は北里大学（11.7％）、2位は順天堂大学（8.0％）、3位は杏林大学（7.4％）と、いずれも附属病院と多くのコメディカル学科を持つ大学が並ぶ。東海は2018年秋に校名変更した藤田医科大学が2位以下に大差をつけて1位（15.3％）、2位は生命健康科学部を持つ中部大学（8.6％）。関西1位は「医療系総合大学」を標榜する森ノ宮医療大学（10.1％）、2位は健康科学部に医療技術系学科を擁する京都橘大学（8.0％）、3位は看護学部・リハビリテーション学部を持つ兵庫医療大学（6.6％）となった。

● 薬学

薬学部を持つ総合大学だけでなく、薬科大学も多くランクインしている。関東は1位北里大学（19.4％）、2位星薬科大学（14.9％）、3位明治薬科大学（11.6％）。いずれも6年制と4年制を併設する大学である。東海1位は薬学部は持たず大学院に創薬研究科を持つ名古屋大学（20.7％）、2位名城大学（18.1％）、3位名古屋市立大学（14.8％）。関西1位は大阪薬科大学（19.0％）、2位京都薬科大学（15.4％）、僅差で3位大阪大学（15.2％）となった。

理学

関東（N=579）				東海（N=163）				関西（N=265）			
順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)
1	東京理科大学	私	14.6	1	名古屋大学	国	25.4	1	大阪市立大学	公	16.4
2	明治大学	私	11.9	2	静岡大学	国	19.2	2	大阪大学	国	16.0
3	早稲田大学	私	10.0	3	名城大学	私	17.9	2	関西大学	私	16.0
4	青山学院大学	私	7.8	4	名古屋工業大学	国	17.3	4	近畿大学	私	14.9
5	東京工業大学	国	7.4	5	岐阜大学	国	13.0	5	神戸大学	国	14.2
6	筑波大学	国	6.8	6	三重大学	国	8.6	6	大阪府立大学	公	14.1
7	千葉大学	国	6.5	7	中部大学	私	6.2	7	京都大学	国	10.4
7	中央大学	私	6.5	8	大阪大学	国	5.6	8	大阪教育大学	国	6.3
7	横浜国立大学	国	6.5	9	名古屋市立大学	公	5.5	9	同志社大学	私	6.0
10	埼玉大学	国	6.1	10	愛知教育大学	国	4.9	9	立命館大学	私	6.0
10	東京大学	国	6.1								

生物・農・獣医・林産・水産

関東（N=431）				東海（N=147）				関西（N=249）			
順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)
1	東京農業大学	私	25.2	1	名城大学	私	21.1	1	大阪府立大学	公	17.5
2	明治大学	私	11.2	2	岐阜大学	国	14.3	2	神戸大学	国	16.0
3	北里大学	私	10.3	3	名古屋大学	国	13.6	3	近畿大学	私	13.2
4	東京農工大学	国	9.1	4	静岡大学	国	13.0	4	大阪市立大学	公	10.8
5	日本大学	私	8.2	5	三重大学	国	10.2	5	大阪大学	国	8.8
6	早稲田大学	私	6.5	6	中部大学	私	6.8	6	龍谷大学	私	8.4
7	千葉大学	国	6.3	6	名古屋工業大学	国	6.8	7	京都大学	国	7.2
8	東京海洋大学	国	6.1	6	名古屋市立大学	公	6.8	8	関西大学	私	6.8
9	玉川大学	私	4.9	9	静岡県立大学	公	4.7	9	摂南大学	私	6.0
9	筑波大学	国	4.9	9	東京農業大学	私	4.7	10	京都府立大学	公	5.6

工学（機械）

関東（N=504）				東海（N=216）				関西（N=299）			
順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)
1	東京理科大学	私	13.3	1	名古屋工業大学	国	23.9	1	関西大学	私	18.1
2	芝浦工業大学	私	12.9	2	名古屋大学	国	22.4	1	神戸大学	国	18.1
3	東京工業大学	国	11.7	3	静岡大学	国	18.2	3	大阪大学	国	17.1
4	早稲田大学	私	11.1	4	名城大学	私	17.3	4	近畿大学	私	16.5
5	明治大学	私	8.3	5	岐阜大学	国	12.6	5	大阪市立大学	公	15.1
6	青山学院大学	私	8.2	6	三重大学	国	11.7	6	大阪工業大学	私	13.1
7	東京電機大学	私	7.9	7	愛知工業大学	私	7.5	7	大阪府立大学	公	11.5
8	横浜国立大学	国	7.7	8	中部大学	私	6.1	8	京都大学	国	7.6
9	東京大学	国	6.7	9	南山大学	私	3.7	9	京都工芸繊維大学	国	6.9
10	筑波大学	国	6.5	10	中京大学	私	3.3	10	立命館大学	私	5.9
				10	豊橋技術科学大学	国	3.3				

工学（電気・電子・情報）

関東（N=659）				東海（N=288）				関西（N=378）			
順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)
1	芝浦工業大学	私	14.8	1	名古屋工業大学	国	24.1	1	大阪大学	国	19.3
2	東京理科大学	私	14.0	2	名古屋大学	国	20.3	2	神戸大学	国	17.2
3	東京工業大学	国	10.6	3	名城大学	私	18.2	3	関西大学	私	15.1
3	早稲田大学	私	10.6	4	静岡大学	国	16.1	3	近畿大学	私	15.1
5	明治大学	私	10.0	5	岐阜大学	国	10.5	5	大阪市立大学	公	14.8
6	東京電機大学	私	9.9	5	三重大学	国	10.5	6	大阪工業大学	私	11.7
7	青山学院大学	私	7.6	7	愛知工業大学	私	8.4	7	大阪府立大学	公	9.4
8	首都大学東京	公	7.1	8	中部大学	私	6.3	8	京都大学	国	8.6
9	慶應義塾大学	私	6.8	9	中京大学	私	4.2	9	京都工芸繊維大学	国	7.6
10	筑波大学	国	6.6	9	豊橋技術科学大学	国	4.2	10	同志社大学	私	6.8
				9	南山大学	私	4.2	10	立命館大学	私	6.8

工学（建築・土木）

関東（N=365）				東海（N=165）				関西（N=254）			
順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)
1	芝浦工業大学	私	16.4	1	名城大学	私	20.7	1	近畿大学	私	19.0
2	東京理科大学	私	12.0	2	名古屋工業大学	国	18.9	2	関西大学	私	18.2
3	明治大学	私	10.6	3	名古屋大学	国	17.7	3	大阪市立大学	公	17.9
4	日本大学	私	10.3	4	愛知工業大学	私	14.1	4	神戸大学	国	17.1
5	早稲田大学	私	10.0	5	三重大学	国	9.8	5	大阪大学	国	12.1
6	東京工業大学	国	8.3	6	岐阜大学	国	9.2	6	大阪工業大学	私	10.4
7	青山学院大学	私	7.2	7	中部大学	私	8.5	7	京都工芸繊維大学	国	9.8
7	首都大学東京	公	7.2	8	静岡大学	国	7.9	8	京都大学	国	8.2
9	東京電機大学	私	7.0	9	名古屋市立大学	公	5.5	9	大阪府立大学	公	6.6
10	法政大学	私	6.4	10	豊橋技術科学大学	国	4.3	10	立命館大学	私	6.2
10	横浜国立大学	国	6.4								

看護・医療・保健・衛生

関東（N=850）				東海（N=371）				関西（N=583）			
順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)
1	北里大学	私	11.7	1	藤田医科大学	私	15.3	1	森ノ宮医療大学	私	10.1
2	順天堂大学	私	8.0	2	中部大学	私	8.6	2	京都橘大学	私	8.0
3	杏林大学	私	7.4	3	名古屋市立大学	公	6.9	3	兵庫医療大学	私	6.6
4	帝京大学	私	7.0	4	名古屋学芸大学	私	5.9	4	大阪府立大学	公	6.2
5	帝京平成大学	私	7.0	5	名城大学	私	5.4	5	大和大学	私	5.4
6	埼玉県立大学	公	5.0	6	愛知県立大学	公	5.1	6	摂南大学	私	5.2
7	国際医療福祉大学	私	4.3	6	愛知淑徳大学	私	5.1	7	兵庫県立大学	公	4.4
8	首都大学東京	公	4.1	6	鈴鹿医療科学大学	私	5.1	8	近畿大学	私	4.3
9	千葉県立保健医療大学	公	3.7	9	岐阜県立看護大学	公	4.8	9	京都府立医科大学	公	4.0
10	千葉大学	国	3.4	9	名古屋大学	国	4.8	9	神戸大学	国	4.0
10	東京医療保健大学	私	3.4								

※医学・歯学を除くコメディカル領域

薬学

関東（N=335）				東海（N=121）				関西（N=190）			
順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)
1	北里大学	私	19.4	1	名古屋大学	国	20.7	1	大阪薬科大学	私	19.0
2	星薬科大学	私	14.9	2	名城大学	私	18.1	2	京都薬科大学	私	15.4
3	明治薬科大学	私	11.6	3	名古屋市立大学	公	14.8	3	大阪大学	国	15.2
4	千葉大学	国	10.2	4	静岡県立大学	公	9.9	4	神戸大学	国	11.5
5	東京薬科大学	私	9.3	5	千葉大学	国	8.3	5	近畿大学	私	11.0
6	慶應義塾大学	私	9.0	6	岐阜薬科大学	公	7.5	6	京都大学	国	10.5
7	東邦大学	私	6.8	7	藤田医科大学	私	6.6	7	大阪市立大学	公	8.9
8	日本大学	私	6.0	8	岐阜大学	国	5.8	7	大阪府立大学	公	8.9
9	昭和薬科大学	私	5.9	8	静岡大学	国	5.8	9	摂南大学	私	7.9
9	帝京大学	私	5.9	10	金城学院大学	私	5.7	10	神戸薬科大学	私	7.4

※割合（%）は、小数点第2位四捨五入
※区分の略称は以下の通り
国／国立　公／公立　私／私立

調 査 概 要

調査目的

2020年3月卒業予定の高校3年生の大学に対する志願度、知名度、イメージを把握し、関係各位の参考にする

調査対象

関東エリア、東海エリア、関西エリアの高校に通っている2020年3月卒業予定者（調査時高校3年生）計11万8128名

※2018年度学校基本調査の「全日制・本科2年生生徒数（県別）」、「中等教育学校・後期課程2年生」を基に、リクルートマーケティングパートナーズが保有するリスト（注）より調査対象とする数を抽出

（注）リクルートが発行する進学情報誌『スタディサプリ進路ブック』及び、配信する進学情報WEBサービス『スタディサプリ進路』(http://shingakunet.com)会員リスト

【エリア区分】
関東エリア（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県の1都6県）
東海エリア（静岡県、愛知県、岐阜県、三重県の4県）
関西エリア（大阪府、京都府、奈良県、和歌山県、兵庫県、滋賀県の2府4県）

調査期間

2019年4月5日（金）～4月26日（金）

調査方法

対象者に調査票を郵送し、記入後郵送で回収

調査対象校

（各エリアとも下記に該当する大学を調査対象とした）
調査対象都府県にキャンパスが所在する全大学及びその他2エリアの国立大学全て、公立・私立大学の入学定員1000名以上の大学

調査エリア	調査対象校数	有効回答数（※ウェイトバック前）
関東エリア	大学 308校（自エリア 244校、他エリア 64校）	全体 6598件（男子3255件・女子3343件）
東海エリア	大学 214校（自エリア 82校、他エリア132校）	全体 2367件（男子1189件・女子1178件）
関西エリア	大学 259校（自エリア147校、他エリア112校）	全体 4151件（男子2117件・女子2034件）

＜集計対象の詳細一覧表＞

	【回収実数】全体（ウェイトバック前）	【回収実数】大学進学希望者数	ウェイト値	【補正後】全体	うち、大学進学希望者 → 【補正後】大学進学希望者数
3エリア・計	13,116	11,544		13,146	11,572
関東・計	6,598	5,887		6,630	5,919
男子	3,255	3,035	1.02	3,320	3,096
女子	3,343	2,852	0.99	3,310	2,823
文系	3,388	3,044		3,399	3,056
理系	2,236	2,115		2,252	2,131
どちらでもない	457	265		458	266
東海・計	2,367	2,017		2,367	2,018
男子	1,189	1,076	1.01	1,201	1,087
女子	1,178	941	0.99	1,166	932
文系	1,223	1,068		1,221	1,066
理系	802	756		805	759
どちらでもない	227	107		227	107
関西・計	4,151	3,640		4,149	3,635
男子	2,117	1,940	0.98	2,075	1,901
女子	2,034	1,700	1.02	2,075	1,734
文系	2,205	1,960		2,211	1,963
理系	1,257	1,191		1,249	1,184
どちらでもない	421	251		422	251

調査対象校の定義と校数 ＜各エリアとも下記に該当する大学を調査対象とした＞

調査対象都府県に所在する全大学、及びその他2エリアの国立大学全て、公立・私立大学の入学定員 1000名以上の大学

※大学名 50音順

■ 関東エリア

【エリア内】244校
愛国学園大学
青山学院大学
麻布大学
亜細亜大学
足利大学
跡見学園女子大学
育英大学
茨城キリスト教大学
茨城県立医療大学
茨城大学
植草学園大学
上野学園大学
宇都宮共和大学
宇都宮大学
浦和大学
江戸川大学
桜美林大学
大妻女子大学
お茶の水女子大学
開智国際大学
嘉悦大学
学習院女子大学
学習院大学
神奈川県立保健福祉大学
神奈川工科大学
神奈川歯科大学
神奈川大学
鎌倉女子大学
亀田医療大学
川村学園女子大学
神田外語大学
関東学院大学
関東学園大学
北里大学
共愛学園前橋国際大学
共栄大学
共立女子大学
杏林大学
桐生大学
国立音楽大学
群馬医療福祉大学
群馬県立県民健康科学大学
群馬県立女子大学
群馬大学
群馬パース大学
敬愛大学
慶應義塾大学
恵泉女学園大学
工学院大学
國學院大學
国際医療福祉大学
国際基督教大学
国際ファッション専門職大学
国際武道大学
国士舘大学
こども教育宝仙大学
駒沢女子大学
駒澤大学
埼玉医科大学
埼玉学園大学
埼玉県立大学
埼玉工業大学
埼玉大学
相模女子大学
作新学院大学
三育学院大学
産業能率大学
自治医科大学
実践女子大学
芝浦工業大学
秀明大学
十文字学園女子大学
淑徳大学
首都大学東京
順天堂大学
松蔭大学
城西国際大学
城西大学
上智大学
湘南医療大学
湘南工科大学
尚美学園大学
上武大学
昭和音楽大学
昭和女子大学
昭和大学
昭和薬科大学
女子栄養大学
女子美術大学
白梅学園大学
白百合女子大学
杉野服飾大学
駿河台大学
聖学院大学
成蹊大学
成城大学
聖心女子大学
清泉女子大学
聖徳大学
西武文理大学
聖マリアンナ医科大学
聖路加国際大学
清和大学
専修大学
洗足学園音楽大学
創価大学
大正大学
大東文化大学
高崎経済大学
高崎健康福祉大学
高崎商科大学
高千穂大学
宝塚大学
拓殖大学
玉川大学
多摩大学
多摩美術大学
千葉科学大学
千葉経済大学
千葉県立保健医療大学
千葉工業大学
千葉商科大学
千葉大学
中央学院大学
中央大学
筑波学院大学
筑波技術大学
つくば国際大学
筑波大学
津田塾大学
鶴見大学
帝京科学大学
帝京大学
帝京平成大学
デジタルハリウッド大学
田園調布学園大学
電気通信大学
桐蔭横浜大学
東海大学
東京有明医療大学
東京医科歯科大学
東京医科大学
東京医療学院大学
東京医療保健大学
東京音楽大学
東京外国語大学
東京海洋大学
東京学芸大学
東京家政学院大学
東京家政大学
東京基督教大学
東京経済大学
東京芸術大学
東京工科大学
東京工業大学
東京工芸大学
東京国際大学
東京歯科大学
東京慈恵会医科大学
東京純心大学
東京情報大学
東京女子医科大学
東京女子体育大学
東京女子大学
東京神学大学
東京聖栄大学
東京成徳大学
東京造形大学
東京大学
東京電機大学
東京都市大学
東京農業大学
東京農工大学
東京福祉大学
東京富士大学
東京未来大学
東京薬科大学
東京理科大学
東都大学
東邦音楽大学
桐朋学園大学
東邦大学
東洋英和女学院大学
東洋学園大学
東洋大学
常磐大学
獨協医科大学
獨協大学
二松学舎大学
日本工業大学
日本歯科大学
日本体育大学
日本医科大学
日本医療科学大学
日本映画大学
日本社会事業大学
日本獣医生命科学大学
日本女子体育大学
日本女子大学
日本赤十字看護大学
日本大学
日本文化大学
日本保健医療大学
日本薬科大学
人間総合科学大学
白鴎大学
一橋大学
フェリス女学院大学
文化学園大学
文京学院大学
文教大学
文星芸術大学
平成国際大学
法政大学
星薬科大学
前橋工科大学
武蔵大学
武蔵野音楽大学
武蔵野学院大学
武蔵野大学
武蔵野美術大学
明海大学
明治学院大学
明治大学
明治薬科大学
明星大学
目白大学
ものつくり大学
ヤマザキ動物看護大学
横浜国立大学
横浜商科大学
横浜市立大学
横浜創英大学
横浜美術大学
横浜薬科大学
立教大学
立正大学
流通経済大学
了徳寺大学
ルーテル学院大学
麗澤大学
和光大学
早稲田大学
和洋女子大学

【エリア外】64校
愛知学院大学
愛知教育大学
愛知工業大学
愛知淑徳大学
愛知大学
追手門学院大学
大阪学院大学
大阪教育大学
大阪経済大学
大阪芸術大学
大阪工業大学
大阪産業大学
大阪商業大学
大阪市立大学
大阪大学
大阪電気通信大学
大阪府立大学
関西外国語大学
関西大学
関西学院大学
岐阜大学
京都教育大学
京都工芸繊維大学
京都産業大学
京都女子大学
京都精華大学
京都大学
京都橘大学
近畿大学
金城学院大学
甲南大学
神戸学院大学
神戸大学
滋賀医科大学
滋賀大学
静岡大学
椙山女学園大学
摂南大学
中京大学
中部大学
同志社女子大学
同志社大学
常葉大学
豊橋技術科学大学
名古屋外国語大学
名古屋学院大学
名古屋工業大学
名古屋大学
奈良教育大学
奈良女子大学
南山大学
日本福祉大学
浜松医科大学
阪南大学
兵庫教育大学
兵庫県立大学
佛教大学
三重大学
武庫川女子大学
名城大学
桃山学院大学
立命館大学
龍谷大学
和歌山大学

■ 東海エリア

【エリア内】82校
愛知医科大学
愛知学院大学
愛知学泉大学
愛知教育大学
愛知県立芸術大学
愛知県立大学
愛知工科大学
愛知工業大学
愛知産業大学
愛知淑徳大学
愛知大学
愛知東邦大学
愛知文教大学
愛知みずほ大学
朝日大学
一宮研伸大学
桜花学園大学
岡崎女子大学
岐阜医療科学大学
岐阜協立大学
岐阜県立看護大学
岐阜聖徳学園大学
岐阜女子大学
岐阜大学
岐阜保健大学
岐阜薬科大学
金城学院大学
皇學館大学
国際ファッション専門職大学
至学館大学
静岡英和学院大学
静岡県立大学
静岡産業大学
静岡大学
静岡福祉大学
静岡文化芸術大学
静岡理工科大学
修文大学
椙山女学園大学
鈴鹿医療科学大学
鈴鹿大学
星城大学
聖隷クリストファー大学
大同大学
中京学院大学
中京大学
中部学院大学
中部大学
東海学院大学
東海学園大学
東京女子医科大学
同朋大学
常葉大学
豊田工業大学
豊橋技術科学大学
豊橋創造大学
名古屋音楽大学
名古屋外国語大学
名古屋学院大学
名古屋学芸大学
名古屋経済大学
名古屋芸術大学
名古屋工業大学
名古屋産業大学
名古屋商科大学
名古屋女子大学
名古屋市立大学
名古屋造形大学
名古屋大学
名古屋文理大学
南山大学
日本赤十字豊田看護大学
日本福祉大学
人間環境大学
浜松医科大学
浜松学院大学
藤田医科大学
三重県立看護大学
三重大学
名城大学
四日市看護医療大学
四日市大学

【エリア外】132校
青山学院大学
亜細亜大学
茨城大学
宇都宮大学
追手門学院大学
桜美林大学
大阪学院大学
大阪教育大学
大阪経済大学
大阪芸術大学
大阪工業大学
大阪産業大学
大阪商業大学
大阪市立大学
大阪大学
大阪電気通信大学
大阪府立大学
大妻女子大学
お茶の水女子大学
学習院大学
神奈川工科大学
神奈川大学
関西外国語大学
関西大学
関西学院大学
関東学院大学
北里大学
京都教育大学
京都工芸繊維大学
京都産業大学
京都女子大学
京都精華大学
京都大学
京都橘大学
共立女子大学
杏林大学
近畿大学
群馬大学
慶應義塾大学
工学院大学
甲南大学
神戸学院大学
神戸大学
國學院大學
国際医療福祉大学
国士舘大学
駒澤大学
埼玉大学
滋賀医科大学
滋賀大学
芝浦工業大学
淑徳大学
首都大学東京
城西国際大学
城西大学
上智大学
昭和女子大学
成蹊大学
成城大学
聖徳大学
摂南大学
専修大学
創価大学
大正大学
大東文化大学
拓殖大学
玉川大学
多摩美術大学
千葉工業大学
千葉商科大学
千葉大学
中央大学
筑波技術大学
筑波大学
帝京科学大学
帝京大学
帝京平成大学
電気通信大学
東海大学
東京医科歯科大学
東京外国語大学
東京海洋大学
東京学芸大学
東京家政学院大学
東京家政大学
東京経済大学
東京芸術大学
東京工科大学
東京工業大学
東京国際大学
東京大学
東京電機大学
東京都市大学
東京農業大学
東京農工大学
東京福祉大学
東京理科大学
同志社女子大学
同志社大学
東洋大学
獨協大学
奈良教育大学
奈良女子大学
日本工業大学
日本体育大学
日本女子大学
日本大学
白鴎大学
阪南大学
一橋大学
兵庫教育大学
兵庫県立大学
佛教大学
文京学院大学
文教大学
法政大学
武庫川女子大学
武蔵野大学
明海大学
明治学院大学
明治大学
明星大学
目白大学
桃山学院大学
横浜国立大学
立教大学
立正大学
立命館大学
龍谷大学
流通経済大学
和歌山大学
早稲田大学

■ 関西エリア

【エリア内】147校
藍野大学
芦屋大学
追手門学院大学
大阪青山大学
大阪医科大学
大阪大谷大学
大阪音楽大学
大阪学院大学
大阪河﨑リハビリテーション大学
大阪観光大学
大阪教育大学
大阪経済大学
大阪経済法科大学
大阪芸術大学
大阪工業大学
大阪国際大学
大阪産業大学
大阪歯科大学
大阪樟蔭女子大学
大阪商業大学
大阪女学院大学
大阪市立大学
大阪成蹊大学
大阪総合保育大学
大阪体育大学
大阪大学
大阪電気通信大学
大阪人間科学大学
大阪物療大学
大阪府立大学
大阪保健医療大学
大阪薬科大学
大阪行岡医療大学
大谷大学
大手前大学
関西医科大学
関西医療大学
関西外国語大学
関西看護医療大学
関西国際大学
関西大学
関西福祉科学大学
関西福祉大学
関西学院大学
畿央大学
京都医療科学大学
京都外国語大学
京都先端科学大学
京都華頂大学
京都看護大学
京都教育大学
京都光華女子大学
京都工芸繊維大学
京都産業大学
京都女子大学
京都市立芸術大学
京都精華大学
京都造形芸術大学
京都大学
京都橘大学
京都ノートルダム女子大学
京都美術工芸大学
京都府立医科大学
京都府立大学
京都文教大学
京都薬科大学
近畿大学
甲子園大学
甲南女子大学
甲南大学
神戸医療福祉大学
神戸海星女子学院大学
神戸学院大学
神戸芸術工科大学
神戸国際大学
神戸市外国語大学
神戸市看護大学
神戸松蔭女子学院大学
神戸女学院大学
神戸女子大学
神戸親和女子大学
神戸大学
神戸常盤大学
神戸薬科大学
神戸山手大学
高野山大学
国際ファッション専門職大学
嵯峨美術大学
滋賀医科大学
滋賀県立大学
滋賀大学
四條畷学園大学
四天王寺大学
種智院大学
成安造形大学
聖泉大学
摂南大学
千里金蘭大学
相愛大学
園田学園女子大学
太成学院大学
宝塚大学
宝塚医療大学
帝塚山学院大学
帝塚山大学
天理医療大学
天理大学
東京医療保健大学
同志社女子大学
同志社大学
常磐会学園大学
長浜バイオ大学
奈良学園大学
奈良教育大学
奈良県立医科大学
奈良県立大学
奈良女子大学
奈良大学
梅花女子大学
羽衣国際大学
花園大学
阪南大学
東大阪大学
姫路大学
姫路獨協大学
兵庫医科大学
兵庫医療大学
兵庫教育大学
兵庫県立大学
兵庫大学
びわこ学院大学
びわこ成蹊スポーツ大学
福知山公立大学
佛教大学
平安女学院大学
武庫川女子大学
明治国際医療大学
桃山学院教育大学
桃山学院大学
森ノ宮医療大学
大和大学
立命館大学
龍谷大学
流通科学大学
和歌山県立医科大学
和歌山信愛大学
和歌山大学

【エリア外】112校
愛知学院大学
愛知教育大学
愛知工業大学
愛知淑徳大学
愛知大学
青山学院大学
亜細亜大学
茨城大学
宇都宮大学
桜美林大学
大妻女子大学
お茶の水女子大学
学習院大学
神奈川工科大学
神奈川大学
関東学院大学
北里大学
岐阜大学
共立女子大学
杏林大学
金城学院大学
群馬大学
慶應義塾大学
工学院大学
國學院大學
国際医療福祉大学
国士舘大学
駒澤大学
埼玉大学
静岡大学
芝浦工業大学
淑徳大学
首都大学東京
城西国際大学
城西大学
上智大学
昭和女子大学
椙山女学園大学
成蹊大学
成城大学
聖徳大学
専修大学
創価大学
大正大学
大東文化大学
拓殖大学
玉川大学
多摩美術大学
千葉工業大学
千葉商科大学
千葉大学
中央大学
中京大学
中部大学
筑波技術大学
筑波大学
帝京科学大学
帝京大学
帝京平成大学
電気通信大学
東海大学
東京医科歯科大学
東京外国語大学
東京海洋大学
東京学芸大学
東京家政学院大学
東京家政大学
東京経済大学
東京芸術大学
東京工科大学
東京工業大学
東京国際大学
東京大学
東京電機大学
東京都市大学
東京農業大学
東京農工大学
東京福祉大学
東京理科大学
東洋大学
常葉大学
獨協大学
豊橋技術科学大学
名古屋外国語大学
名古屋学院大学
名古屋工業大学
名古屋大学
南山大学
日本工業大学
日本体育大学
日本女子大学
日本大学
日本福祉大学
白鴎大学
浜松医科大学
一橋大学
文京学院大学
文教大学
法政大学
三重大学
武蔵野大学
明海大学
明治学院大学
明治大学
名城大学
明星大学
目白大学
横浜国立大学
立教大学
立正大学
流通経済大学
早稲田大学

▶カレッジマネジメントTOPページへ戻る

別添資料として、以下関係団体からの要望書を添付した。

・一般社団法人大阪府薬剤師会
・一般社団法人大阪府病院薬剤師会
・一般社団法人兵庫県薬剤師会
・一般社団法人兵庫県病院薬剤師会
・一般社団法人京都府薬剤師会

大阪薬科大学における過去５年間の就職状況

平成26年度から平成30年度までの就職率と求人件数を示す。

薬学部薬学科

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
卒業者数	331	292	293	327	325
就職希望者数	319	283	286	315	322
就職者数	279	262	277	302	298
就職率	87.5%	92.6%	96.9%	95.9%	92.5%

求人件数	1,656	1,583	1,442	1,437	1,288

＜抜粋版＞

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health , Labour and Welfare

労働市場分析レポート　　第 35 号　　平成 26 年 5 月 30 日

平成 18 年度と 25 年度の求人倍率

季節調整値でみた有効求人倍率は、平成 21 年 8 月の 0.42 倍を底として上昇に転じ、平成 25 年度末（平成 26 年 3 月）には、1.07 倍と平成 18 年度のピーク値（平成 18 年 7 月の 1.08 倍）とほぼ並んだ。このレポートでは「職業安定業務統計」の最新の年度値である平成 25 年度値を平成 18 年度値と比較することで、近年の労働力需給の特徴について考察する。

１．平成 18 年度の倍率に迫る平成 25 年度

有効求人倍率の長期的な推移をみると、景気拡張過程で有効求人倍率は上昇し、昭和 48 年度に 1.74 倍、平成 2 年度に 1.43 倍、平成 18 年度に 1.06 倍と、上昇過程におけるピークを迎えた。平成 25 年度の 0.97 倍は、景気拡張の中で平成 18 年度のピークの値に近づいている。また、あわせて新規求人倍率をみると、平成 25 年度は 1.53 倍であり、平成 18 年度の 1.56 倍に迫っている（図 1）。

ただし、有効求人倍率の内訳をみると常用のフルタイム（常用的フルタイム）は 0.78 倍と、一般の 0.97 倍に比べても、また、平成 18 年度の常用的フルタイムの 0.92 倍と比べても低さが目立っている（表 2）。

有効求人の内訳をみると、平成 25 年度の有効求人 217.9 万人のうち、常用的フルタイムは 122.4 万人と平成 18 年度の 146.2 万人に比べ少ない。一方、平成 25 年度の常用的パートタイムは 69.9 万人、臨時・季節は 25.5 万人と、すでに平成 18 年度値を上回っている（図 3）。

２．女性と高齢層でみられるパート求職者の増加

有効求職者の内訳をみると、平成 25 年度の有効求職者 223.7 万人のうち、常用的フルタイムは 156.8 万人と平成 18 年度の 159.5 万人に比べ少ないが、常用的パートタイムは 64.2 万人で、平成 18 年度の 49.5 万人より多く、有効求職者全体としてみても、平成 25 年度の値は 18 年度の値を超えている（図 3）。

常用的フルタイムを年齢階級別にみると、男女とも 35 歳未満層で、平成 25 年度の値が小さくなっている（図 4）。

一方、常用的パートタイムを年齢階級別にみると、男性の 60 歳以上層、女性の 35～49 歳層及び 60 歳以上層で、平成 25 年度の値が大きい（図 4）。

３．小規模企業と大企業でウェイトが高まる新規求人

求人の動向を、新規求人により規模別にみると、平成 25 年度の新規求人は、4 人以下規模企業と 1000 人以上規模企業で、平成 18 年度の値より大きい（図 6）。

規模別求人の動向を、常用、臨時・季節の別にみると、平成 18 年度と比べ 1000 以上規模の求人が増加しているのは、常用的パートタイムと臨時・季節によるものであることが分かる（図 7）。

また、求人の動向を産業別にみると、常用的フルタイムと常用的パートタイムで医療、福祉の求人が多く、臨時・季節で、卸売・小売業やサービス業等での求人が多い（図 8）。

４．一部の職業で特に高い水準にある求人倍率

職業別に新規求人倍率をみると、医師・歯科医師・獣医・薬剤師（10.05 倍）、建設躯体工事の職業（7.98 倍）、保安の職業（5.59 倍）など、平成 18 年度値を超え特に高い水準にある職業がみられる（表 9）。

表 9 の職業分類でみれば、平成 25 年度には求人倍率が平成 18 年度値を超える職業は 15 あるが、その職業の求職者（新規求職者）の総計は 11.1 万人であり、新規求職者に占める割合は 21.5%にすぎない。一方、平成 18 年度の倍率以下にある求職者は、平成 25 年度において、約 8 割を占めている（図 10）。

なお、平成 18 年度において、平均を超える職業の求職者数と平均倍率以下の職業の求職者数はほぼ同数であるが、平成 25 年度においては、平均を超える職業の求職者数は全体の 36.7%であり、特定の職業の求人倍率が高く、平均値以下の倍率のものとにある求職者の方が多い（表 11）。

職業別求人倍率の順位 5 階級別に求人倍率をみると、上位 2 割の職業で、平成 25 年度の倍率が 18 年度値を上回っており、一部の職業で、求人倍率が特に高い水準にあるとともに、相対的にみて労働力需給の改善に遅れがみられる求職者も少なくないことが分かる（図 12）。

問い合わせ先
職業安定局雇用政策課
石水喜夫　直通：03-3502-6770

表９　職業別新規求人倍率（職業分類の大括化による簡易接合）

（単位：倍）

	平成18年度	平成25年度
職業計（常用新規求人倍率）	1.49	1.37
専門的・技術的職業（福祉関係を除く）	2.80	2.34
建築・土木・測量技術者	2.64	○4.88
情報処理・通信技術者	5.28	2.96
医師・歯科医師・獣医・薬剤師	7.28	○10.05
保健師・助産師・看護師	2.63	○3.46
医療技術者	2.72	○3.42
美術家、デザイナー、写真家	0.68	0.68
その他の専門的・技術的職業	2.56	1.11
管理的職業	1.16	○1.34
事務的職業	0.66	0.52
販売の職業	1.77	1.71
福祉・サービスの職業	2.29	2.41
介護・医療・家庭支援サービスの職業	1.75	○2.31
生活衛生サービスの職業	2.86	○3.37
飲食物調理の職業	2.20	○2.36
その他のサービス職業	3.45	2.50
保安の職業	5.02	○5.59
農林漁業の職業	1.24	○1.43
生産工程の職業	2.19	1.31
運転・輸送の職業	1.92	2.07
鉄道運転の職業	0.47	0.46
自動車運転の職業	1.97	○2.25
船舶・航空機運転の職業	0.51	○0.61
その他の輸送の職業	1.49	0.83
建設工事関連の職業	2.53	3.46
建設躯体工事の職業	6.48	○7.98
建設の職業	2.51	○3.55
電気工事の職業	3.10	2.62
土木の職業	1.73	○3.01
その他の労務の職業	0.99	0.94
分類不能の職業	―	―

資料出所：厚生労働省「職業安定業務統計」をもとに試算

（注）1）本表は、旧分類（平成11年改定の労働省編職業分類）と新分類（平成23年改定の厚生労働省編職業分類）とを簡易な方法により接合したもの。職業分類の新旧を接合する場合は、職業小分類まで遡って数値の接合を図るのが好ましいが、本表では中分類の値を用いて職業を大括りにすることで接合を図った。このため、大括化したものには新たな職業名を付している。

2）介護・医療・家庭支援サービスの職業は、旧分類のその他の保健医療の職業、社会福祉専門の職業、家庭生活支援サービスの職業の合計、新分類のその他の保健医療の職業、社会福祉の専門的職業、家庭生活支援サービスの職業、介護サービスの職業、保健医療サービスの職業の合計とした。

3）その他の専門的・技術的職業は、旧分類の機械・電気技術者、鉱工業技術者、その他の技術者、その他の専門的職業の合計、新分類の開発技術者、製造技術者、その他の技術者、その他の専門的職業の合計とした。

4）その他のサービス職業は、旧分類の接客・給仕の職業、居住施設・ビル等の管理の職業、その他のサービスの職業の合計、新分類の接客・給仕の職業、居住施設・ビル等の管理の職業、その他のサービスの職業の合計とした（中分類の各項目は接合しない）。

5）その他の労務の職業は、旧分類の通信の職業、定置・建設機械運転の職業、採掘の職業、運搬労務の職業、その他の労務の職業の合計、新分類の定置・建設機械運転の職業、採掘の職業、運搬・清掃・包装等の職業の合計とした。

6）旧分類の生産工程・労務の職業のうち、本表の運転・輸送の職業、建設工事関連の職業、その他の労務の職業に加えなかったものを生産工程の職業とした。

7）平成25年度の○印は、平成18年度の倍率を超える職業に付した。なお、中分類に付すことを基本としたが、中分類がない職業は大分類に付した。

＜抜粋版＞

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health , Labour and Welfare

政府統計

平成 29 年 12 月 14 日
政策統括官付参事官付保健統計室
室　　長　　森　　桂
専 門 官　　小澤　公子
医師・歯科医師・薬剤師統計係
（代表電話）　03(5253)1111(内線 7523)
（直通電話）　03(3595)2958

平成２８年（２０１６）

医師・歯科医師・薬剤師調査の概況

目　次

頁

調査の概要 …… 1

結果の概要 …… 3

１　医　師
（１）　施設・業務の種別にみた医師数 …… 4
（２）　医療施設に従事する医師数
１）　性・年齢階級別にみた医師数 …… 5
２）　施設の種別にみた医師数 …… 6
３）　診療科別にみた医師数 …… 8
４）　取得している広告可能な医師の専門性に関する資格名及び麻酔科の標榜資格別にみた医師数 …… 12
５）　都道府県（従業地）別にみた人口 10 万対医師数 …… 14

２　歯科医師
（１）　施設・業務の種別にみた歯科医師数 …… 16
（２）　医療施設に従事する歯科医師数
１）　性・年齢階級別にみた歯科医師数 …… 17
２）　施設の種別にみた歯科医師数 …… 18
３）　診療科別にみた歯科医師数 …… 20
４）　取得している広告可能な歯科医師の専門性に関する資格名別にみた歯科医師数 …… 21
５）　都道府県（従業地）別にみた人口 10 万対歯科医師数 …… 21

３　薬　剤　師
（１）　施設･業務の種別にみた薬剤師数 …… 22
（２）　薬局・医療施設に従事する薬剤師数
１）　施設の種別にみた薬剤師数 …… 23
２）　性・年齢階級別にみた薬剤師数 …… 24
３）　都道府県（従業地）別にみた人口 10 万対薬剤師数 …… 25

統　計　表 …… 26

平成２８年医師・歯科医師・薬剤師調査の結果は、厚生労働省のホームページにも掲載されています。
アドレス　(http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/33-20.html)

調　査　の　概　要

１　調査の目的

この調査は、医師、歯科医師及び薬剤師について、性、年齢、業務の種別、従事場所及び診療科名（薬剤師を除く。）等による分布を明らかにし、厚生労働行政の基礎資料を得ることを目的とするものであり、昭和 57 年までは毎年、同年以降は２年ごとに実施している。

２　調査の期日

平成 28 年 12 月 31 日現在

３　調査の対象及び客体

日本国内に住所があって、医師法第６条第３項により届け出た医師、歯科医師法第６条第３項により届け出た歯科医師及び薬剤師法第９条により届け出た薬剤師の各届出票を調査の対象及び客体とした。

４　調査の事項

(1) 住所
(2) 性別
(3) 生年月日
(4) 登録年月日
(5) 業務の種別
(6) 従事先の所在地
(7) 主たる業務内容(薬剤師を除く)
(8) 従事する診療科名(薬剤師を除く)
(9) 取得している広告可能な医師・歯科医師の専門性に関する資格名（薬剤師を除く）

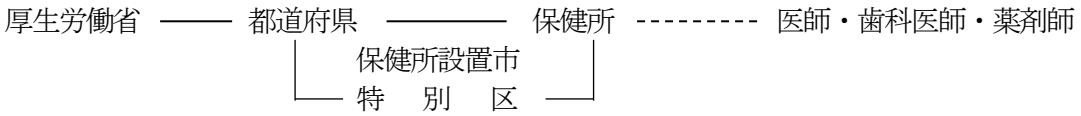
等

５　調査の方法及び系統

(1) 調査の方法

届出義務者である医師、歯科医師及び薬剤師から提出された届出票を、保健所で取りまとめ厚生労働大臣に提出する。

(2) 調査の系統



６　結果の集計

厚生労働省政策統括官（統計・情報政策担当）において行った。

7　用語の説明

「病院」

医師又は歯科医師が医業又は歯科医業を行う場所であって、患者 20 人以上の入院施設を有するものをいう。

「医育機関」

学校教育法に基づく大学等において、医学又は歯学の教育を行う機関をいう。

「診療所」

医師又は歯科医師が医業又は歯科医業を行う場所であって、患者の入院施設を有しないもの、又は患者 19 人以下の入院施設を有するものをいう。

「介護老人保健施設」

介護保険法による都道府県知事の開設許可を受けた施設であって、入所する要介護者に対し、施設サービス計画に基づいて、看護、医学的管理下における介護及び機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話を行うことを目的とする施設をいう。

8　利用上の注意

(1) 表章記号の規約

計数のない場合	－
計数不明又は計数を表章することが不適当な場合	…
統計項目のあり得ない場合	・
比率等でまるめた結果が表章すべき最下位の桁の１に達しない場合	0.0
減少数又は減少率を意味する場合	△

(2) 掲載している割合の数値は四捨五入しているため、内訳の合計が「総数」に合わない場合がある。

(3) 人口 10 万対比率は、「人口推計（平成 28 年 10 月１日現在)」（総務省）の総人口により算出した。

(4) 「広告可能な医師・歯科医師の専門性に関する資格名」は、「医療法第六条の五第一項及び第六条の七第一項の規定に基づく医業、歯科医業若しくは助産師の業務又は病院、診療所若しくは助産所に関して広告することができる事項」（平成 19 年厚生労働省告示第 108 号）第１条第２号に基づき広告することができる医師・歯科医師の専門性に関する資格名（同告示で定める基準を満たすものとして厚生労働大臣に届出がなされた団体の認定する資格名）である。

なお、本概況においては「専門性資格」という。

(5) 本調査における診療科名は、医療法において広告が認められている診療科名である。

医療機関が標榜する診療科名については、従来、医療法施行令に具体的名称を限定列挙して規定していたところであるが、平成 20 年４月１日から適切な医療機関の選択と受診を支援する観点から、身体の部位や患者の疾患等、一定の性質を有する名称を診療科名とする柔軟な方式に改められたため、年次推移の単純な比較はできない。

（参照：平成 20 年３月 31 日医政発第 0331042 号医政局長通知「広告可能な診療科名の改正について」）
ＵＲＬ(http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/isei/kokokukisei/dl/koukokukanou.pdf)

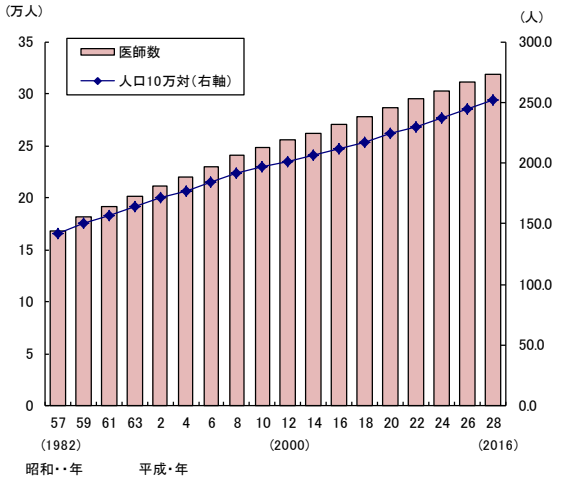
結　果　の　概　要

本調査は、平成 28 年 12 月 31 日現在における全国の届出「医師」319,480 人、「歯科医師」104,533 人、「薬剤師」301,323 人を各々取りまとめたものである。

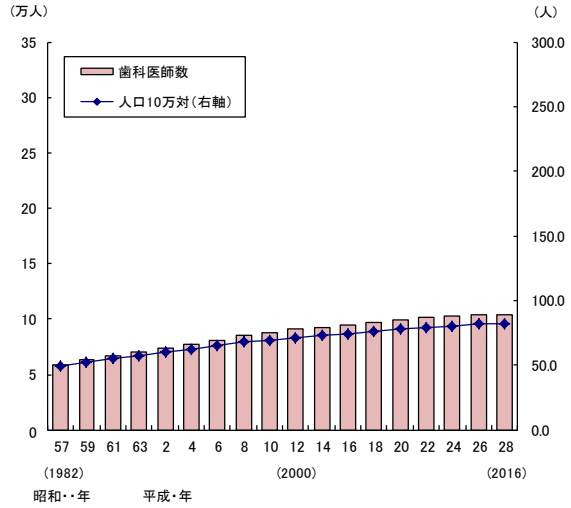
医師・歯科医師・薬剤師数の年次推移

各年 12 月 31 日現在

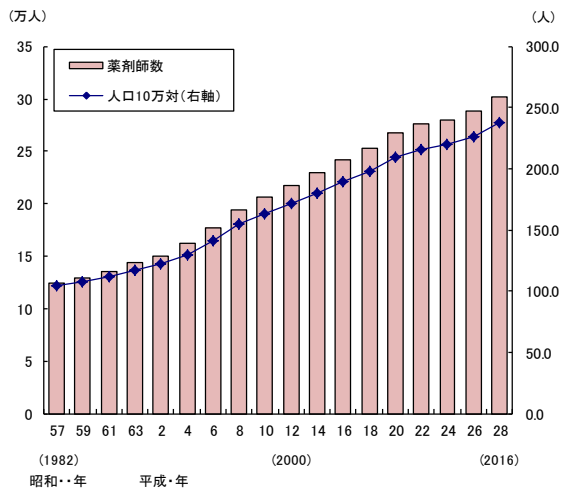
	医師数（人）	増減率（%）	人口10万対（人）
昭和 57 年 (1982)	167 952	…	141.5
59 ('84)	181 101	7.8	150.6
61 ('86)	191 346	5.7	157.3
63 ('88)	201 658	5.4	164.2
平成 2 年 ('90)	211 797	5.0	171.3
4 ('92)	219 704	3.7	176.5
6 ('94)	230 519	4.9	184.4
8 ('96)	240 908	4.5	191.4
10 ('98)	248 611	3.2	196.6
12 (2000)	255 792	2.9	201.5
14 ('02)	262 687	2.7	206.1
16 ('04)	270 371	2.9	211.7
18 ('06)	277 927	2.8	217.5
20 ('08)	286 699	3.2	224.5
22 ('10)	295 049	2.9	230.4
24 ('12)	303 268	2.8	237.8
26 ('14)	311 205	2.6	244.9
28 ('16)	319 480	2.7	251.7



	歯科医師数（人）	増減率（%）	人口10万対（人）
昭和 57 年 (1982)	58 362	…	49.2
59 ('84)	63 145	8.2	52.5
61 ('86)	66 797	5.8	54.9
63 ('88)	70 572	5.7	57.5
平成 2 年 ('90)	74 028	4.9	59.9
4 ('92)	77 416	4.6	62.2
6 ('94)	81 055	4.7	64.8
8 ('96)	85 518	5.5	67.9
10 ('98)	88 061	3.0	69.6
12 (2000)	90 857	3.2	71.6
14 ('02)	92 874	2.2	72.9
16 ('04)	95 197	2.5	74.6
18 ('06)	97 198	2.1	76.1
20 ('08)	99 426	2.3	77.9
22 ('10)	101 576	2.2	79.3
24 ('12)	102 551	1.0	80.4
26 ('14)	103 972	1.4	81.8
28 ('16)	104 533	0.5	82.4



	薬剤師数（人）	増減率（%）	人口10万対（人）
昭和 57 年 (1982)	124 390	…	104.8
59 ('84)	129 700	4.3	107.9
61 ('86)	135 990	4.8	111.8
63 ('88)	143 429	5.5	116.8
平成 2 年 ('90)	150 627	5.0	121.9
4 ('92)	162 021	7.6	130.2
6 ('94)	176 871	9.2	141.5
8 ('96)	194 300	9.9	154.4
10 ('98)	205 953	6.0	162.8
12 (2000)	217 477	5.6	171.3
14 ('02)	229 744	5.6	180.3
16 ('04)	241 369	5.1	189.0
18 ('06)	252 533	4.6	197.6
20 ('08)	267 751	6.0	209.7
22 ('10)	276 517	3.3	215.9
24 ('12)	280 052	1.3	219.6
26 ('14)	288 151	2.9	226.7
28 ('16)	301 323	4.6	237.4



3　薬剤師

平成 28 年 12 月 31 日現在における全国の届出「薬剤師数」は 301,323 人で、「男」116,826 人（総数の 38.8%）、「女」184,497 人（同 61.2%）となっている。

平成 28 年届出薬剤師数を前回と比べると 13,172 人、4.6%増加している。

また、人口 10 万対薬剤師数は 237.4 人で、前回に比べ 10.7 人増加している。

（1） 施設・業務の種別にみた薬剤師数

主に従事している施設・業務の種別をみると、「薬局の従事者」は 172,142 人（総数の 57.1%）で、前回に比べ 10,944 人、6.8%増加している。「医療施設の従事者」は 58,044 人（同 19.3%）で、3,165 人、5.8%増加している。そのうち、「病院の従事者」は 52,145 人（同 17.3%）、「診療所の従事者」は 5,899 人（同 2.0%）となっている。「大学の従事者」は 5,046 人で、前回に比べ 57 人減少し、「医薬品関係企業の従事者」は 42,024 人で 1,584 人減少し、「衛生行政機関又は保健衛生施設の従事者」は 6,813 人で 237 人増加している。（表 15）

（参考）統計表１　医師・歯科医師・薬剤師数、構成割合及び平均年齢，性・年齢階級、施設・業務の種別

表 15　施設・業務の種別にみた薬剤師数

各年12月31日現在

	平成28年（2016）		平成26年（2014）	対前回		人口10万対（人）		
	薬剤師数（人）	構成割合（%）	薬剤師数（人）	増減数（人）	増減率（%）	平成28年（2016）	平成26年（2014）	増減数
総　　数[1]	301 323	100.0	288 151	13 172	4.6	237.4	226.7	10.7
男	116 826	38.8	112 494	4 332	3.9	92.0	88.5	3.5
女	184 497	61.2	175 657	8 840	5.0	145.3	138.2	7.1
薬局の従事者	172 142	57.1	161 198	10 944	6.8	135.6	126.8	8.8
薬局の開設者又は法人の代表者	17 201	5.7	17 859	△ 658	△ 3.7	13.6	14.1	△ 0.5
薬局の勤務者	154 941	51.4	143 339	11 602	8.1	122.1	112.8	9.3
医療施設の従事者	58 044	19.3	54 879	3 165	5.8	45.7	43.2	2.5
医療施設で調剤・病棟業務に従事する者	55 634	18.5	52 577	3 057	5.8	43.8	41.4	2.4
医療施設でその他（治験、検査等）の業務に従事する者	2 410	0.8	2 302	108	4.7	1.9	1.8	0.1
病院の従事者	52 145	17.3	48 980	3 165	6.5	41.1	38.5	2.6
病院で調剤・病棟業務に従事する者	50 785	16.9	47 708	3 077	6.4	40.0	37.5	2.5
病院でその他（治験、検査等）の業務に従事する者	1 360	0.5	1 272	88	6.9	1.1	1.0	0.1
診療所の従事者	5 899	2.0	5 899	－	－	4.6	4.6	0.0
診療所で調剤・病棟業務に従事する者	4 849	1.6	4 869	△ 20	△ 0.4	3.8	3.8	0.0
診療所でその他（治験、検査等）の業務に従事する者	1 050	0.3	1 030	20	1.9	0.8	0.8	0.0
大学の従事者	5 046	1.7	5 103	△ 57	△ 1.1	4.0	4.0	0.0
大学の勤務者（研究・教育）	4 523	1.5	4 640	△ 117	△ 2.5	3.6	3.7	△ 0.1
大学院生又は研究生	523	0.2	463	60	13.0	0.4	0.4	0.0
医薬品関係企業の従事者	42 024	13.9	43 608	△ 1 584	△ 3.6	33.1	34.3	△ 1.2
医薬品製造販売業・製造業（研究・開発、営業、その他）に従事する者[2]	30 265	10.0	30 762	△ 497	△ 1.6	23.8	24.2	△ 0.4
医薬品販売業に従事するもの[3]	11 759	3.9	12 846	△ 1 087	△ 8.5	9.3	10.1	△ 0.8
衛生行政機関又は保健衛生施設の従事者	6 813	2.3	6 576	237	3.6	5.4	5.2	0.2
その他の者	17 233	5.7	16 766	467	2.8	13.6	13.2	0.4
その他の業務の従事者	6 802	2.3	6 349	453	7.1	5.4	5.0	0.4
無職の者	10 431	3.5	10 417	14	0.1	8.2	8.2	0.0

注：1)「総数」には、「施設・業務の種別」の不詳を含む。

2) 製薬会社（その研究所を含む）、血液センター等医薬品の製造販売業又は製造業に従事する者。

3) 医薬品の店舗販売業、配置販売業、卸売販売業に従事する者。

年齢階級別にみると、「30～39 歳」が 76,714 人（25.5%）と最も多く、次いで「40～49 歳」71,949 人（23.9%）となっている。

施設の種別に年齢階級をみると、「薬局」「大学」「医薬品関係企業」では「40～49 歳」、「病院」では「30～39 歳」、「診療所」では「50～59 歳」が最も多い。

平均年齢をみると、「薬局」では 46.5 歳、「病院」40.7 歳、「診療所」56.8 歳、「医薬品関係企業」46.8 歳となっている。（表 16）

（参考）統計表１　医師・歯科医師・薬剤師数、構成割合及び平均年齢，性・年齢階級、施設・業務の種別

表 16　年齢階級、施設の種別にみた薬剤師数及び施設の種別薬剤師の平均年齢

平成28（2016）年12月31日現在

	総　数[1)]	薬局・医療施設	（再掲）			大　学	医薬品関係企業	衛生行政機関又は保健衛生施設	その他の者
			薬局	病院	診療所				
				薬　剤　師　数　（人）					
総　数	301 323	230 186	172 142	52 145	5 899	5 046	42 024	6 813	17 233
29 歳 以 下	39 494	33 178	20 009	13 033	136	583	3 898	962	872
30 ～ 39 歳	76 714	58 780	42 761	15 528	491	1 227	10 432	2 347	3 927
40 ～ 49 歳	71 949	54 715	42 830	10 916	969	1 236	11 097	1 568	3 331
50 ～ 59 歳	60 514	44 908	34 829	8 222	1 857	1 154	10 072	1 483	2 895
60 ～ 69 歳	38 409	29 228	23 744	3 773	1 711	792	4 636	411	3 338
70 歳 以 上	14 243	9 377	7 969	673	735	54	1 889	42	2 870
				構　成　割　合　（%）					
総　数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
29 歳 以 下	13.1	14.4	11.6	25.0	2.3	11.6	9.3	14.1	5.1
30 ～ 39 歳	25.5	25.5	24.8	29.8	8.3	24.3	24.8	34.4	22.8
40 ～ 49 歳	23.9	23.8	24.9	20.9	16.4	24.5	26.4	23.0	19.3
50 ～ 59 歳	20.1	19.5	20.2	15.8	31.5	22.9	24.0	21.8	16.8
60 ～ 69 歳	12.7	12.7	13.8	7.2	29.0	15.7	11.0	6.0	19.4
70 歳 以 上	4.7	4.1	4.6	1.3	12.5	1.1	4.5	0.6	16.7
平 均 年 齢	46.0 歳	45.5 歳	46.5 歳	40.7 歳	56.8 歳	46.1 歳	46.8 歳	42.3 歳	53.0 歳

注：1）「総数」には、「施設の種別」の不詳を含む。

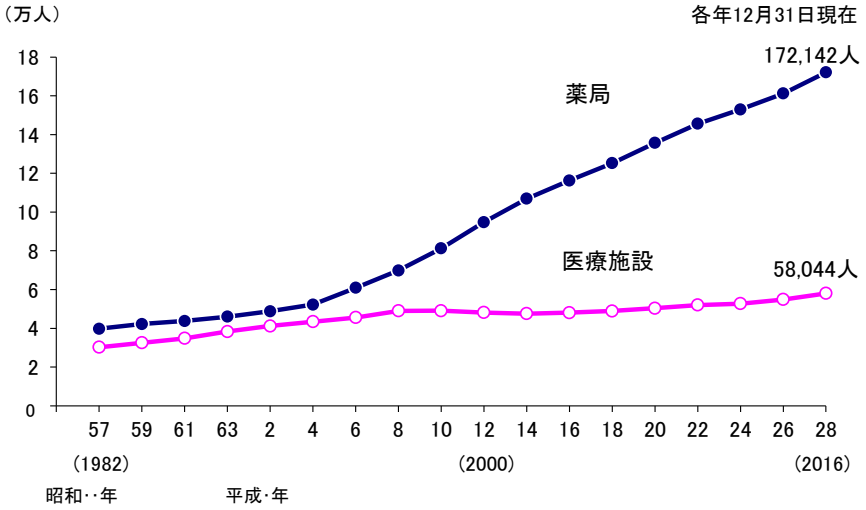
（2）　薬局・医療施設に従事する薬剤師数

1）　施設の種別にみた薬剤師数

薬局・医療施設（病院・診療所）に従事する薬剤師を施設の種別にみると、「薬局」が 172,142 人、「医療施設」が 58,044 人となっており、これを年次推移でみると、「薬局」は大幅に増加しており、「医療施設」は増加傾向が続いている（図 13）。

（参考）統計表２　医師・歯科医師・薬剤師数の年次推移，施設の種別・性別

図 13　施設の種別にみた薬局・医療施設に従事する薬剤師数の年次推移



2）性・年齢階級別にみた薬剤師数

薬局・医療施設に従事する薬剤師を性別にみると、「男」が 78,432 人で、前回に比べ 5,220 人（7.1%）増加し、「女」は 151,754 人で、8,889 人（6.2%）増加している。

年齢階級別にみると、「30～39 歳」が 58,780 人（25.5%）と最も多く、次いで「40～49 歳」54,715 人（23.8%）となっている。これを性別にみると、「男」は「30～39 歳」（28.9%）が最も多く、「女」は「40～49 歳」（25.2%）が最も多い。（表 17）

（参考）統計表４　医療施設従事医師・歯科医師数、薬局・医療施設従事薬剤師数及び構成割合の年次推移，年齢階級、性別
統計表５　医療施設従事医師・歯科医師数及び薬局・医療施設従事薬剤師数の年次推移，施設の種別、年齢階級、性別

表 17　性、年齢階級別にみた薬局・医療施設に従事する薬剤師数

各年12月31日現在

			総　数	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
薬剤師数（人）	平成28年（2016）	総数	230 186	33 178	58 780	54 715	44 908	29 228	9 377
		男	78 432	12 114	22 687	16 479	13 194	9 926	4 032
		女	151 754	21 064	36 093	38 236	31 714	19 302	5 345
	平成26年（2014）	総数	216 077	31 318	55 708	50 738	44 462	25 259	8 592
		男	73 212	11 736	20 535	15 169	13 049	8 792	3 931
		女	142 865	19 582	35 173	35 569	31 413	16 467	4 661
対前回	増減数（人）	総数	14 109	1 860	3 072	3 977	446	3 969	785
		男	5 220	378	2 152	1 310	145	1 134	101
		女	8 889	1 482	920	2 667	301	2 835	684
	増減率（%）	総数	6.5	5.9	5.5	7.8	1.0	15.7	9.1
		男	7.1	3.2	10.5	8.6	1.1	12.9	2.6
		女	6.2	7.6	2.6	7.5	1.0	17.2	14.7
構成割合（%）	性・年齢階級別	総数	100.0	14.4	25.5	23.8	19.5	12.7	4.1
		男	34.1	5.3	9.9	7.2	5.7	4.3	1.8
		女	65.9	9.2	15.7	16.6	13.8	8.4	2.3
	年齢階級別	総数	100.0	14.4	25.5	23.8	19.5	12.7	4.1
		男	100.0	15.4	28.9	21.0	16.8	12.7	5.1
		女	100.0	13.9	23.8	25.2	20.9	12.7	3.5
	性別	総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		男	34.1	36.5	38.6	30.1	29.4	34.0	43.0
		女	65.9	63.5	61.4	69.9	70.6	66.0	57.0

３）都道府県（従業地）別にみた人口 10 万対薬剤師数

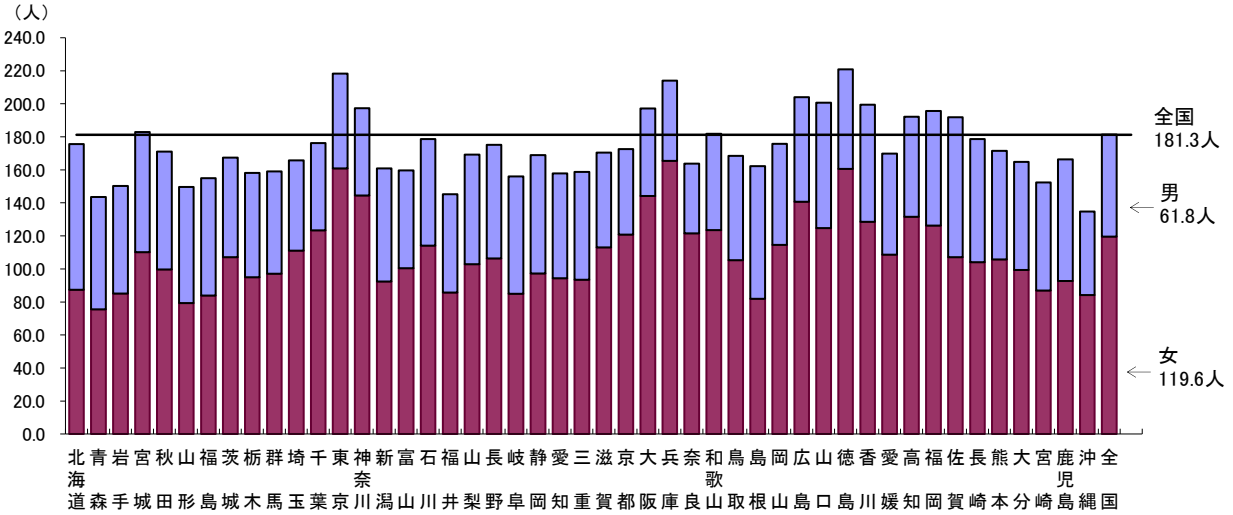
薬局・医療施設に従事する人口 10 万対薬剤師数は 181.3 人で、前回（170.0 人）に比べ 11.3 人増加している。

これを都道府県（従業地）別にみると、徳島県が 220.9 人と最も多く、次いで東京都 218.3 人、兵庫県 214.0 人となっており、沖縄県が 134.7 人と最も少なく、次いで、青森県 143.5 人、福井県 145.1 人となっている。（図 14）

（参考）統計表 15　人口 10 万対医師･歯科医師･薬剤師数，従業地による都道府県－指定都市･特別区・中核市（再掲）、業務の種別、性別
統計表 16　人口 10 万対医療施設従事医師･歯科医師数及び薬局･医療施設従事薬剤師数の年次推移，従業地による都道府県－指定都市・特別区・中核市（再掲）別

図 14　都道府県（従業地）別にみた薬局・医療施設に従事する人口 10 万対薬剤師数

平成 28（2016）年 12 月 31 日現在



大阪薬科大学における過去５年間の就職状況

平成26年度から平成30年度までの就職率を示す。

薬学部薬科学科

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
卒業者数	4	－	2	3	2
就職希望者数	1	－	0	2	1
就職者数	1	－	0	2	1
就職率	100.0%	－	－	100.0%	100.0%

審査意見への対応を記載した書類（8 月）

（目次）　薬学部　薬学科

１．授業科目 「情報科学演習」について、授業内容が単にソフトウエアの操作法を学ぶ水準にとどまっており、大学教育の水準にふさわしい内容ではないため、授業科目の内容を改めるか、卒業要件に算入しない取扱いに改めること。（是正事項） ····· 2

２．授業科目 「薬学総合演習」について、授業の目的と概要に「薬剤師国家試験科目として設定されている・・・の全ての科目について、その出題基準にもとづいて講義、演習形式での学習を行う。」とあり、教科書は薬剤師国家試験対策参考書としていることから、本科目は薬剤師国家試験対策を目的とする授業科目と考えられる。大学の教育課程において薬剤師国家試験対策を位置付けることは、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させるという大学が担う目的にふさわしくないため、適切に改めること。（是正事項） ····· 7

３．授業科目「薬学総合演習」の評価方法について、「正規試験の結果に基づいて評価を行う」とあるが、「正規試験」の指すところが明確でないため、説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。また、シラバスにおける評価方法の記載で、「定期試験」、「期末試験」と表記が統一されていないため、同一の試験を指すのであれば、記載を統一するなど、全ての科目におけるシラバスを点検し、適切に改めること。（是正事項） ····· 13

（目次）　薬学部　薬科学科

１．ディプロマ・ポリシーでプレゼンテーション能力をあげているが、カリキュラム・ポリシーには該当する学修内容がなく、不整合であるため、適切に改めること。（対象となる学生がいる場合に限る。）（改善事項） ····· 17

２．授業科目 「情報科学演習」について、授業内容が単にソフトウエアの操作法を学ぶ水準にとどまっており、大学教育の水準にふさわしい内容ではないため、授業科目の内容を改めるか、卒業要件に算入しない取扱いに改めること。（対象となる学生がいる場合に限る。）（改善事項） ····· 19

３．シラバスにおける評価方法の記載で、「定期試験」、「期末試験」と表記が統一されていないため、同一の試験を指すのであれば、記載を統一するなど、全ての科目におけるシラバスを点検し、適切に改めること。（対象となる学生がいる場合に限る。）（改善事項） ····· 24

（是正事項）　薬学部　薬学科

１．授業科目 「情報科学演習」について、授業内容が単にソフトウエアの操作法を学ぶ水準にとどまっており、大学教育の水準にふさわしい内容ではないため、授業科目の内容を改めるか、卒業要件に算入しない取扱いに改めること。

（対応）

審査意見を踏まえ、幅広い分野での情報教育として、高等教育段階で取り扱うべき知識と技能を取り上げることに改める。また、Society 5.0 で実現する社会に向けた、人工知能(AI)やIoT、ビッグデータの活用、クラウドコンピューティングなど、利用者として参画できる能力を養成するための授業内容を取り入れることとし、卒業要件への算入は維持する。

この対応にあたり、授業科目の概要、薬学部薬学科のシラバスを修正する。（【別紙 1】及び【別紙 2】参照）

（新旧対照表）授業科目の概要

	新	旧
2 頁	急速に進展する情報社会の中でコンピュータを利用した学習を進めていく上で不可欠な情報社会・情報科学に関する知識と技能を修得させることを目的とする。演習では、一人に一台の統一した環境下でWindowsパソコンと関連機器を利用した個別演習とグループワークを行い、情報社会への参画と情報倫理と情報セキュリティ、人工知能(AI)とデータ科学、クラウドコンピューティングと情報検索、アカデミックライティングを実現する構造的文書作成、化学構造式描画方法、学術活動に必要なデータ処理と分析、説明技術としてのプレゼンテーション、学術活動のための情報活用について学習する。	医療業界においてもＩＴ化の伸展により、コンピュータの利用は必須であり情報処理能力が多くの場面で求められていることを踏まえ、情報処理に必要な基礎となるコンピュータの知識及び使用方法を修得させることを目的とする。演習では、一人に一台の統一した環境のパソコンを利用してコンピュータの基礎教育を行い、Windows のパソコン、ワープロ、表計算、グラフ作成、プレゼンテーションデータ作成等の基礎となる情報処理技術を修得することにより、今後ますます高度化していくＩＴスキルに柔軟に対応していける技能と、それに関する基礎知識を学習する。

薬学部薬学科シラバス

	新	旧
38 頁	授業科目の目的と概要 情報社会である Society 4.0 をより融合かつ発展させた次世代コンセプト Society 5.0 が提唱され、医療現場においても技術革新に伴う診断や治療などに関連する業務のデジタル化･AI 化が急速に進展している。	授業科目の目的と概要 近年、医療業界においても、ＩＴ化の伸展により、コンピュータの利用は必須になっており、情報処理能力が多くの場面で求められています。本演習では、基礎となる情報処理技術を修得することにより、今後ますます高度化してい

	また、そのような著しい変化に対応するためには、最新の知見を入手するとともに、多くの情報の中からより適切かつ正確な情報を選別し、必要に応じて適正に加工並びに処理することで、社会にあふれる情報を効果的に還元できる能力が求められる。 本演習では、コンピュータを利用した学習を進めていく上で不可欠な情報社会・情報科学に関する知識と技能を修得することを目的とする。本演習科目で身についた知識と技能は、本学での６年間における学びに盛り込まれているアクティブラーニングや学術活動といった能動的学習において必要な情報活用の基盤となるものと位置づけられる。	くＩＴスキルに柔軟に対応していける技能と、それに関する基礎知識を学びます。
38 頁	一般目標（GIO） 情報社会の中で、適正な判断をするための必要な情報社会・情報科学に関する知識と技能を修得する。また、大学における学術活動を効果的に行うための必要な知識と技能を、本演習を通じて修得する。	一般目標（GIO） 情報処理に必要な基礎となるコンピュータの知識及び使用方法を修得する。
38 頁	授業の方法 情報活用教育として、Windows パソコンと関連機器を利用した個別演習とグループワークを行う。個別演習として、文書作成、データ処理と分析・グラフ描画、プレゼンテーションデータ作成、化学構造式作成などを行う。また、グループワークとしてレポート発表やプレゼンテーション発表の相互評価を行い、積極的、能動的な演習を行う。 入学以前の情報教育で修得した知識・技能は、個人差があるため、ＴＡを教室内に配置する。	授業の方法 一人に一台の統一した環境のパソコンを利用してコンピュータの基礎教育を行う。Windows のパソコン、ワープロ、表計算、グラフ作成、プレゼンテーションデータ作成などを行う。また、入学以前の情報教育で修得した知識・技能は、個人差があるため、ＴＡを教室内に配置する。
38 頁	成績評価 毎回の練習課題(50%)、総合課題(50%)を総合して評価する。定期試験は行わない。	成績評価 毎回の練習課題(50%)、総合課題(50%)を総合して評価する。筆記試験は行わない。
39 頁	教科書 『情報リテラシー　Windows10/Office2019 対応』　ＦＯＭ出版 『2020 年度版　情報倫理ハンドブック』　大石	教科書 『情報リテラシー改訂版』　ＦＯＭ出版 2019 年度版　情報倫理ハンドブック　大石博雄　noa 出版

<table>
<tr><td></td><td>博雄　noa 出版</td><td></td></tr>
<tr><td>39 頁</td><td>参考書
『よくわかるスッキリ！Windows10』　ＦＯＭ出版
『Word2019 基礎』　ＦＯＭ出版
『Word2019 応用』　ＦＯＭ出版
『Excel2019 基礎』　ＦＯＭ出版
『Excel2019 応用』　ＦＯＭ出版
『PowerPoint2019 基礎』　ＦＯＭ出版
『PowerPoint2019 応用』　ＦＯＭ出版
『Society(ソサエティ) 5.0 人間中心の超スマート社会』日立東大ラボ　日本経済新聞出版
『Newton 別冊　ゼロからわかる人工知能 増補第 2 版』ニュートンプレス</td><td>参考書
『よくわかるスッキリ！Windows10』　ＦＯＭ出版
『Word2016 基礎』　ＦＯＭ出版
『Word2016 応用』　ＦＯＭ出版
『Excel2016 基礎』　ＦＯＭ出版
『Excel2016 応用』　ＦＯＭ出版
『PowerPoint2016 基礎』　ＦＯＭ出版
『PowerPoint2016 応用』　ＦＯＭ出版</td></tr>
<tr><td>39～
40 頁</td><td>授業計画
<table><tr><th>回</th><th>項目</th><th>到達目標（SBOs・コアカリキュラム番号)・授業内容</th></tr><tr><td>1</td><td>情報社会への参画と情報倫理と情報セキュリティ</td><td>情報社会に主体的に参画するための知識と態度、行動を身に付け、情報技術の進展が社会にどのような変化をもたらし、いかなる問題を生じうるかについて、技術、法律、倫理、活用の 4 つの面から重要性を学び、これらに関する知識と技能を修得する。</td></tr><tr><td>2</td><td>人工知能(AI)とデータ科学</td><td>ディープラーニングなどの人工知能(AI)の実用化などの情報システムの高度化、データの広域・大量化及び IoT、ビッグデータ活用など情報技術革新の流れを踏まえ、Society5.0 に向けた情報化の進展についての知識を修得する。</td></tr><tr><td>3</td><td>クラウドコンピューティングと情報検索</td><td>クラウドコンピューティングのサービスを利用して利点、問題点の理解</td></tr></table></td><td>授業計画
<table><tr><th>回</th><th>項目</th><th>到達目標（SBOs・コアカリキュラム番号)・授業内容</th></tr><tr><td>1</td><td>コンピュータの概要と情報モラルと情報セキュリティ</td><td>コンピュータの基本操作を行うことができ、安全に利用できる知識を修得する。情報モラルやセキュリティについてその基礎的・基本的な知識と実際の注意点を学ぶ。</td></tr><tr><td>2</td><td>タイピングと日本語入力</td><td>タイピングと日本語・外国語の入力操作を修得する。</td></tr><tr><td>3</td><td>ワープロソフト</td><td>ワープロソフトの基本操作を行うことができる。</td></tr></table></td></tr>
</table>

			を深めて、必要となったときに実践的な判断を可能とする知識と技術を修得する。 大学図書館と様々なインターネット上の情報源について、学術情報の視点から理解すると共に目的に沿った情報検索に関する知識と技能を修得する。			
	4	アカデミックライティングを実現する構造的文書作成	表題、見出し、図表、参考文献、校閲などを含む学術的な文書処理法の知識と技能を修得する。	4	ワープロソフト	ワープロソフトの書式設定を行うことができる。
	5	アカデミックライティングを実現する構造的文書作成	提示された課題に対して、より効果的なレポートを作成し、レポートを学生グループ内で相互評価を行い、フィードバックを踏まえ改善したものを作成し、処理する知識と技能を修得する。	5	ワープロソフト	ワープロソフトを用いて文書を作成できる。
	6	化学構造式描画方法	化学構造式描画ソフトを使用し、基本操作を理解し、化学結合・元素記号などの描画方法を理解し、医薬品の化学構造式の描画に関する知識と技能を修得する。	6	表計算ソフト	表計算ソフトの基本操作を行うことができる。
	7	学術活動に必要なデータ処理と分析	取得したデータを正確かつ適正に解析するために、表の標準的な構成法、入力の検査、集計、クロス集計、整列などを表計算処理の技能を修得する。	7	表計算ソフト	表計算ソフトの関数を使用することができる。
	8	学術活動に必要なデータ処理と分析	取得したデータを正確かつ適正に解析するために、集計・平均・最大・最少などの基本的な関数の設定、棒・折れ線・円のグラフ描画に関する知識	8	表計算ソフト	表計算ソフトのグラフ作成を行うことができる。

			と技能を修得する。			
	9	説明技術としてのプレゼンテーション	タイトル、序論、本論、結論といった流れを意識した発表のアウトラインの作成や、発表内容を合わせ、文字での表現、また図解や表による文字以外での表現方法の知識と技能を修得する。	9	プレゼンテーションソフト	プレゼンテーションソフトの基本操作を行うことができる。
	10	説明技術としてのプレゼンテーション	聴衆を意識したスライドやポスターによる発表資料の作成方法や、作成したスライドやポスターを参照しながら、プレゼンテーションを効果的に実施するための知識を修得する。	10	プレゼンテーションソフト	プレゼンテーションソフトの基本操作を行うことができる。
	11	学術活動のための情報活用	文献収集や ICT を活用した情報収集を行うとともに、入手した情報を利用し、文書作成や表計算処理を駆使しながら、課題に関するレポートを作成する統合的な能力を修得する。	11	ソフトウエアの活用	インターネット、ワープロソフト、表計算ソフトなどを使用してレポートを作成することができる。
	12	学術活動のための情報活用	文献収集や ICT を活用した情報収集を行うとともに、入手した情報を文書作成ソフトや表計算処理ソフトなどを統合的に駆使しながらレポートを作成し、グループ内で客観的な相互評価を行い、フィードバックを踏まえ改善したものを提出する。課題を通じて、より効果的な課題解決能力を修得する。	12	ソフトウエアの活用	インターネット、ワープロソフト、表計算ソフトなどを使用してレポートを作成することができる。

（是正事項）　薬学部　薬学科

２．授業科目 「薬学総合演習」について、授業の目的と概要に「薬剤師国家試験科目として設定されている・・・の全ての科目について、その出題基準にもとづいて講義、演習形式での学習を行う。」とあり、教科書は薬剤師国家試験対策参考書としていることから、本科目は薬剤師国家試験対策を目的とする授業科目と考えられる。大学の教育課程において薬剤師国家試験対策を位置付けることは、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させるという大学が担う目的にふさわしくないため、適切に改めること。

（対応）

「薬学総合演習」は、本学における 6 年間の薬学教育の集大成として、6 年次までに修得した薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成 25 年度改訂版）関連教科における重要項目の再確認と知識の整理・再構築を行うことによって、薬剤師に求められる総合的な判断力と問題解決能力等を養成する趣旨で設けた授業科目である。本科目を受講することによって、学生は高度化、専門化する医療に対応できる薬学の基礎知識と専門知識を系統的にまとめ、より高い論理的思考力や問題解決能力、さらには医療人としての実践力を身に付けることが可能となる。また講義については、オムニバス形式で実施し、指導教員から随時配布される資料や参考書等を用いて重要項目の解説や、理解度を検証するための確認テストを実施する。

審査意見を受け、シラバスの内容を全面的に改めることとし、この対応にあたり、授業科目の概要、薬学部薬学科のシラバスを修正する。（【別紙 3】及び【別紙 4】参照）

（新旧対照表）授業科目の概要

	新	旧
25 頁	（概要） 本学における薬学教育の集大成として設置された科目であり、薬学部卒業時に備えているべき知識及びそれに基づく総合的な判断力を身に付けることを目的とする。（オムニバス方式／計 45 回） （14　岩永一範／45 回） 授業全体のコーディネートを行う。 （83　友尾幸司／5 回） 物理系統の「物質の物理的性質」「化学物質の分析」について講義・演習を行う。 （80　宇佐美吉英／5 回） 化学系統の「化学物質の性質と反応」「生体分子・医薬品の化学」「自然が生み出す薬物（天然	（概要） 本学における薬学教育の集大成として設置された科目であり、薬学部卒業時に備えているべき知識及びそれに基づく総合的な判断力を身に付けることを目的とする。（オムニバス方式／計 45 回） （14　岩永一範／45 回） 授業全体のコーディネートを行う。 （83　友尾幸司／5 回） 物理領域について演習を行う。 （80　宇佐美吉英／5 回） 化学領域について演習を行う。

	物由来薬物)」について講義・演習を行う。 (16　藤森功／5 回) 生物系統の「生命現象の基礎」「人体の成り立ちと生体機能の調節」「生体防御と微生物」について講義・演習を行う。 (31　佐久間覚／5 回) 衛生系統の「健康」「環境」について講義・演習を行う。 (20　大喜多守／5 回) 薬理系統の「薬の作用と体の変化」「薬の効き方(薬理)」について講義・演習を行う。 (15　宮崎誠／5 回) 薬剤系統の「薬の生体内運命」「製剤化のサイエンス」について講義・演習を行う。 (1　松村人志／5 回) 病態・薬物治療系統の「薬の作用と体の変化」「病態・薬物治療」「薬物治療に役立つ情報」について講義・演習を行う。 (10　中村敏明／5 回) 法規・制度・倫理系統の「プロフェッショナリズム(薬剤師の使命や薬剤師に求められる倫理観など)」「薬学と社会」について講義・演習を行う。 (22　中村任／5 回) 実務系統の「薬学臨床基本事項」「薬学臨床実践」について講義・演習を行う。	(16　藤森功／5 回) 生物領域について演習を行う。 (31　佐久間覚／5 回) 衛生領域について演習を行う。 (20　大喜多守／5 回) 薬理領域について演習を行う。 (15　宮崎誠／5 回) 薬剤領域について演習を行う。 (1　松村人志／5 回) 病態・薬治領域について演習を行う。 (10　中村敏明／5 回) 法規・制度・倫理領域について演習を行う。 (22　中村任／5 回) 実務領域について演習を行う。

薬学部薬学科シラバス

	新	旧
380 頁	授業科目の目的と概要 本学における6年間の薬学教育の集大成として設置された科目であり、薬学部卒業時に備えているべき知識およびそれに基づく総合的な判断力を身に付けることを目的とする。6 年次までに修得した科目(特に「物理系」、「化学系」、「生物系」、「衛生系」、「薬理系」、「薬剤系」、「病態・薬物治療系」、「法規・制度・倫理系」、「実務系」)についてオムニバス形式で講義、演習を	授業科目の目的と概要 本学における6年間の薬学教育の集大成として設置された科目であり、薬学部卒業時に備えているべき知識およびそれに基づく総合的な判断力を身につけることを目的とする。薬剤師国家試験科目として設定されている「物理系・化学・生物」、「衛生」、「薬理」、「薬剤」、「病態・薬物治療」、「法規・制度・倫理」、「実務」のすべての科目について、その出題基準に基づいて

	行い、重要項目の再確認と知識の整理によって、より高い論理的思考力、問題解決能力、実践力を身に付けることを目指す。	講義、演習形式での学習を行う。
380 頁	一般目標（GIO） 薬剤師に必要な知識及びそれに基づく総合的な判断力を身に付けるために、薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成 25 年度改訂版）関連科目全般について重要項目を系統的にまとめ、整理し、理解を深める。	一般目標（GIO） 薬剤師に必要な知識及びそれに基づく総合的な判断力を修得する。
380 頁	成績評価 定期試験の結果に基づいて評価を行う（100%）。	成績評価 正規試験の結果に基づいて評価を行う（100%）。
380 頁	試験、課題に対するフィードバック方法 随時行われる確認テスト等により学習到達度をはかり、特別研究担当教員、指導教員よりフィードバックを行う。	試験、課題に対するフィードバック方法 随時行われる確認テスト等により学習到達度をはかり、特別研究担当教員、国家試験対策委員よりフィードバックを行う。
380 頁	学位授与方針との関連 薬学科の全ての学位授与方針と関連する。	学位授与方針との関連 医療人として相応しい倫理観と社会性を持ち、薬剤師として医療に関わるための基本的知識を身に付ける。
380 頁	関連する科目 関連科目：薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成 25 年度改訂版）に関連する全ての科目	関連する科目 関連科目：薬剤師国家試験出題基準に相当する内容を含むすべての科目
381 頁	教科書 各関連授業の教科書・参考書や配布資料	教科書 薬剤師国家試験対策参考書　1「物理」（薬学ゼミナール　編集） 薬剤師国家試験対策参考書　2「化学」（薬学ゼミナール　編集） 薬剤師国家試験対策参考書　3「生物」（薬学ゼミナール　編集） 薬剤師国家試験対策参考書　4「衛生」（薬学ゼミナール　編集） 薬剤師国家試験対策参考書　5「薬理」（薬学ゼミナール　編集） 薬剤師国家試験対策参考書　6「薬剤」（薬学ゼミナール　編集） 薬剤師国家試験対策参考書　7「病態・薬物治療」（薬学ゼミナール　編集） 薬剤師国家試験対策参考書　8「法規・制度・

<table>
<tr><td></td><td></td><td>倫理」（薬学ゼミナール　編集）
薬剤師国家試験対策参考書　9「実務」（薬学ゼミナール　編集）</td></tr>
<tr><td>381 頁</td><td>参考書
各関連授業の参考書・問題集、「今日の治療薬 2020（浦部昌夫 他、南江堂）」、「治療薬マニュアル 2020（高久史麿 他、医学書院）」</td><td>参考書
領域別既出問題集（薬学ゼミナール　編集）、回数別既出問題集（薬学ゼミナール　編集）</td></tr>
<tr><td>381～
382 頁</td><td>授業計画
<table>
<tr><th>回</th><th>項目</th><th>到達目標（SBOs・コアカリキュラム番号）・授業内容</th><th>準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間</th></tr>
<tr><td>1～5</td><td>物理系（友尾）</td><td>「物質の物理的性質」、「化学物質の分析」について基本的・応用的知識の定着と、論理的思考力、問題解決能力、実践力を身に付ける。</td><td rowspan="3">予習:2 時間
講義範囲について、これまで学んできたことを振り返り、わからない個所をあらかじめ整理した上で講義に臨むよう準備を行う。
復習:2 時間
学習した内容について、これまでに用いた当該分野の教科書・参考書や問題集等を活用することにより知識の定着をはかる。</td></tr>
<tr><td>6～10</td><td>化学系（宇佐美）</td><td>「化学物質の性質と反応」、「生体分子・医薬品の化学」、「自然が生み出す薬物（天然物由来薬物）」について基本的・応用的知識の定着と、論理的思考力、問題解決能力、実践力を身に付ける。</td></tr>
<tr><td>11～15</td><td>生物系（藤森）</td><td>「生命現象の基礎」、「人体の成り立ちと生体機能の調節」、「生体防御と微生</td></tr>
</table></td><td>授業計画
<table>
<tr><th>回</th><th>項目</th><th>到達目標（SBOs・コアカリキュラム番号）・授業内容</th><th>準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間</th></tr>
<tr><td>1～5</td><td>物理（友尾）</td><td>薬剤師国家試験出題科目の一つである「物理」について、薬剤師として必要な知識および総合的判断力を評価する問題に対応できる。</td><td rowspan="3">予習:2 時間
講義範囲について、これまで学んできたことを振り返り、わからない個所をあらかじめ整理した上で講義に臨むよう準備を行う。
復習:2 時間
学習した内容について、問題集等を解くこと等により知識の定着をはかる。</td></tr>
<tr><td>6～10</td><td>化学（宇佐美）</td><td>薬剤師国家試験出題科目の一つである「化学」について、薬剤師として必要な知識および総合的判断力を評価する問題に対応できる。</td></tr>
<tr><td>11～15</td><td>生物（藤森）</td><td>薬剤師国家試験出題科目の一つである「生物」について、薬剤師として必要な知</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

			物」について基本的・応用的知識の定着と、論理的思考力、問題解決能力、実践力を身に付ける。				識および総合的判断力を評価する問題に対応できる。
	16～20	衛生系（佐久間）	「健康」、「環境」について基本的・応用的知識の定着と、論理的思考力、問題解決能力、実践力を身に付ける。		16～20	衛生（佐久間）	薬剤師国家試験出題科目の一つである「衛生」について、薬剤師として必要な知識および総合的判断力を評価する問題に対応できる。
	21～25	薬理系（大喜多）	「薬の作用と体の変化」、「薬の効き方（薬理）」について基本的・応用的知識の定着と、論理的思考力、問題解決能力、実践力を身に付ける。		21～25	薬理（大喜多）	薬剤師国家試験出題科目の一つである「薬理」について、薬剤師として必要な知識および総合的判断力を評価する問題に対応できる。
	26～30	薬剤系（宮崎）	「薬の生体内運命」、「製剤化のサイエンス」について基本的・応用的知識の定着と、論理的思考力、問題解決能力、実践力を身に付ける。		26～30	薬剤（宮崎）	薬剤師国家試験出題科目の一つである「薬剤」について、薬剤師として必要な知識および総合的判断力を評価する問題に対応できる。
	31～35	病態・薬物治療系（松村人）	「薬の作用と体の変化」、「病態・薬物治療」、「薬物治療に役立つ情報」について基本的・応用的知識の定着と、論理的思考		31～35	病態・薬治（松村人）	薬剤師国家試験出題科目の一つである「病態・薬物治療」について、薬剤師として必要な知識および総合的判断力を評価する

			力、問題解決能力、実践力を身に付ける。				問題に対応できる。
	36～40	法規・制度・倫理系（中村敏）	「プロフェッショナリズム（薬剤師の使命や薬剤師に求められる倫理観など）」、「薬学と社会」について基本的・応用的知識の定着と、論理的思考力、問題解決能力、実践力を身に付ける。		36～40	法規・制度・倫理（中村敏）	薬剤師国家試験出題科目の一つである「法規・制度・倫理」について、薬剤師として必要な知識および総合的判断力を評価する問題に対応できる。	
	41～45	実務系（中村任）	「薬学臨床基本事項」、「薬学臨床実践」について基本的・応用的知識の定着と、論理的思考力、問題解決能力、実践力を身に付ける。		41～45	実務（中村任）	薬剤師国家試験出題科目の一つである「実務」について、薬剤師として必要な知識および総合的判断力を評価する問題に対応できる。	

（是正事項）　薬学部　薬学科

３．授業科目「薬学総合演習」の評価方法について、「正規試験の結果に基づいて評価を行う」とあるが、「正規試験」の指すところが明確でないため、説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。また、シラバスにおける評価方法の記載で、「定期試験」、「期末試験」と表記が統一されていないため、同一の試験を指すのであれば、記載を統一するなど、全ての科目におけるシラバスを点検し、適切に改めること。

（対応）

「薬学総合演習」の評価方法に記載する「正規試験」とは学内で用いてきた用語であり、内容は「定期試験」を指す。ついては、審査意見を受け、評価方法における記載を「定期試験」に改める。（【別紙 4】参照）

また、「定期試験」と「期末試験」が同一の試験を指すため、審査意見を受け、シラバスにおける評価方法の記載についても、「定期試験」に記載を統一することに改める。

これらの対応にあたり、薬学部薬学科のシラバスを修正する。

（新旧対照表）薬学部薬学科シラバス

科目	頁	新	旧
薬学総合演習	380 頁	成績評価 定期試験の結果に基づいて評価を行う（100%）。	成績評価 正規試験の結果に基づいて評価を行う（100%）。
文学の世界	4 頁	成績評価 平常点 50%（小テスト・ミニッツペーパー）/定期試験 50%	成績評価 平常点 50%（小テスト・ミニッツペーパー）/期末試験 50%
経済の世界	16 頁	成績評価 グループ別ディスカッションへの積極的参加や授業中に講師がする質問への回答など平常の貢献 20%、定期試験 80% 試験、課題に対するフィードバック方法 定期試験後に各設問の模範解答を公開する。希望者には個別に採点後の試験答案を開示する。	成績評価 グループ別ディスカッションへの積極的参加や授業中に講師がする質問への回答など平常の貢献 20%、期末試験 80% 試験、課題に対するフィードバック方法 期末試験後に各設問の模範解答を公開する。希望者には個別に採点後の試験答案を開示する。
数理統計学	61 頁	成績評価 課題(レポート、リアクションペーパー)20%と定期試験 80%を用いて総合的に評価します。	成績評価 課題(レポート、リアクションペーパー)20%と期末試験 80%を用いて総合的に評価します。

<table>
<tr><td rowspan="2">英語ライティング1</td><td>81 頁</td><td>成績評価
定期試験結果（60%）と発表・積極的な発言（40%）により評価する。
試験、課題に対するフィードバック方法
授業内で定期試験を実施し、試験答案の開示および解説を行う。</td><td>成績評価
期末試験結果（60%）と発表・積極的な発言（40%）により評価する。
試験、課題に対するフィードバック方法
授業内で期末試験を実施し、試験答案の開示および解説を行う。</td></tr>
<tr><td>82 頁</td><td>授業計画<table><tr><td>回</td><td>項目</td><td>到達目標…</td><td>準備学習…</td></tr><tr><td>11</td><td>定期試験</td><td>授業内で定期試験を実施</td><td>定期試験のための勉強をする</td></tr><tr><td>12</td><td>解説</td><td>定期試験について解説</td><td>定期試験について質問があれば…</td></tr></table></td><td>授業計画<table><tr><td>回</td><td>項目</td><td>到達目標…</td><td>準備学習…</td></tr><tr><td>11</td><td>期末試験</td><td>授業内で期末試験を実施</td><td>期末試験のための勉強をする</td></tr><tr><td>12</td><td>解説</td><td>期末試験について解説</td><td>期末試験について質問があれば…</td></tr></table></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ドイツ語1</td><td>86 頁</td><td>成績評価
授業への参加態度（アクティブ・ラーニングに積極的に取り組む姿勢、宿題の提出、小テスト）…40%
授業内定期試験（筆記、音読）…60%
試験、課題に対するフィードバック方法
宿題や小テストは返却後に解説する。授業最終日に行う定期試験については、事前に説明するので十分に準備すること。</td><td>成績評価
授業への参加態度（アクティブ・ラーニングに積極的に取り組む姿勢、宿題の提出、小テスト）…40%
授業内期末試験（筆記、音読）…60%
試験、課題に対するフィードバック方法
宿題や小テストは返却後に解説する。授業最終日に行う期末試験については、事前に説明するので十分に準備すること。</td></tr>
<tr><td>88 頁</td><td>授業計画<table><tr><td>回</td><td>項目</td><td>到達目標…</td><td>準備学習…</td></tr><tr><td>12</td><td>定期試験</td><td>筆記・音読試験を行う。</td><td></td></tr></table></td><td>授業計画<table><tr><td>回</td><td>項目</td><td>到達目標…</td><td>準備学習…</td></tr><tr><td>12</td><td>期末試験</td><td>筆記・音読試験を行う。</td><td></td></tr></table></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ドイツ語2</td><td>89 頁</td><td>成績評価
授業への参加態度（アクティブ・ラーニングに積極的に取り組む姿勢、宿題の提出、小テスト）…40%
授業内定期試験（筆記、音読）…60%
試験、課題に対するフィードバック方法
宿題や小テストは返却後に解説する。授業最終日に行う定期試験については、事前に説明するので十分に準備すること。</td><td>成績評価
授業への参加態度（アクティブ・ラーニングに積極的に取り組む姿勢、宿題の提出、小テスト）…40%
授業内期末試験（筆記、音読）…60%
試験、課題に対するフィードバック方法
宿題や小テストは返却後に解説する。授業最終日に行う期末試験については、事前に説明するので十分に準備すること。</td></tr>
<tr><td>91 頁</td><td>授業計画<table><tr><td>回</td><td>項目</td><td>到達目標…</td><td>準備学習…</td></tr><tr><td>12</td><td>定期試験</td><td>筆記・音読試験を行う。</td><td></td></tr></table></td><td>授業計画<table><tr><td>回</td><td>項目</td><td>到達目標…</td><td>準備学習…</td></tr><tr><td>12</td><td>期末試験</td><td>筆記・音読試験を行う。</td><td></td></tr></table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>中国語1</td><td>92 頁</td><td>アクティブ・ラーニングの取組
発音練習が主になる第１回・２回目の授業および定期試験を実施する第１１ 回目の授業を除いては、毎回文法の説明は最小限にとどめ、学習した項目を３人または４人から成るグループの中で、実際に発話することに重点を置いた授業を行う。…
成績評価
授業内定期試験結果（４０％）、小テスト（２０％）、授業への参加度*（４０％）により評価する。 …
試験、課題に対するフィードバック方法
定期試験は、第１１回目の授業で実施し、第１２ 回目の授業で答案を開示し、解説を行う。…</td><td>アクティブ・ラーニングの取組
発音練習が主になる第１回・２回目の授業および期末試験を実施する第１１ 回目の授業を除いては、毎回文法の説明は最小限にとどめ、学習した項目を３人または４人から成るグループの中で、実際に発話することに重点を置いた授業を行う。…
成績評価
授業内期末試験結果（４０％）、小テスト（２０％）、授業への参加度*（４０％）により評価する。 …
試験、課題に対するフィードバック方法
期末試験は、第１１回目の授業で実施し、第１２ 回目の授業で答案を開示し、解説を行う。…</td></tr>
<tr><td></td><td>94 頁</td><td>授業計画
<table><tr><th>回</th><th>項目</th><th>到達目標…</th><th>準備学習…</th></tr><tr><td>10</td><td>時刻および誕生日について話す</td><td>第8・9回授業で学習した内容に関する…</td><td>…次回授業時に実施される定期試験に向けて復習する、…</td></tr><tr><td>11</td><td>定期試験</td><td>筆記・リスニングから成る定期試験を実施する。</td><td></td></tr><tr><td>12</td><td>定期試験の解説および…</td><td>定期試験の解答を開示し、…</td><td>夏季休暇中に、新しく習得した単語を、…</td></tr></table></td><td>授業計画
<table><tr><th>回</th><th>項目</th><th>到達目標…</th><th>準備学習…</th></tr><tr><td>10</td><td>時刻および誕生日について話す</td><td>第８・９回授業で学習した内容に関する…</td><td>…次回授業時に実施される期末試験に向けて復習する、…</td></tr><tr><td>11</td><td>期末試験</td><td>筆記・リスニングから成る期末試験を実施する。</td><td></td></tr><tr><td>12</td><td>期末試験の解説および…</td><td>期末試験の解答を開示し、…</td><td>夏季休暇中に、新しく習得した単語を、…</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>中国語2</td><td>95 頁</td><td>成績評価
授業内定期試験結果（４０％）、小テスト（２０％）、授業への参加度*（４０％）により評価する。…
試験、課題に対するフィードバック方法
後期定期試験は、学生が自ら作成した中国語会話を発話するスピーキングテストであるため、合格点に達しなかった場合（再試験受験対象者）にのみ問題点の指摘および再試験に向けての解説を行う。…</td><td>成績評価
授業内期末試験結果（４０％）、小テスト（２０％）、授業への参加度*（４０％）により評価する。…
試験、課題に対するフィードバック方法
後期期末試験は、学生が自ら作成した中国語会話を発話するスピーキングテストであるため、合格点に達しなかった場合（再試験受験対象者）にのみ問題点の指摘および再試験に向けての解説を行う。…</td></tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>中国語2</td>
<td>97頁</td>
<td>授業計画
<table>
<tr><th>回</th><th>項目</th><th>到達目標…</th><th>準備学習…</th></tr>
<tr><td>11</td><td>定期試験（スピーキング）に向けての準備</td><td>グループに分かれ、提示されたルールに沿って…</td><td>作成した会話の発音を調べ、…</td></tr>
<tr><td>12</td><td>定期試験</td><td>作成した会話を発表し、定期試験とする。</td><td></td></tr>
</table>
</td>
<td>授業計画
<table>
<tr><th>回</th><th>項目</th><th>到達目標…</th><th>準備学習…</th></tr>
<tr><td>11</td><td>期末試験（スピーキング）に向けての準備</td><td>グループに分かれ、提示されたルールに沿って…</td><td>作成した会話の発音を調べ、…</td></tr>
<tr><td>12</td><td>期末試験</td><td>作成した会話を発表し、期末試験とする。</td><td></td></tr>
</table>
</td>
</tr>
<tr>
<td>ハングル1</td>
<td>98頁</td>
<td>成績評価
小テスト30%、定期試験30%、課題20%、授業参加度20%</td>
<td>成績評価
小テスト30%、期末試験30%、課題20%、授業参加度20%</td>
</tr>
<tr>
<td>ハングル2</td>
<td>100頁</td>
<td>成績評価
小テスト30%、定期試験30%、課題20%、授業参加度20%</td>
<td>成績評価
小テスト30%、期末試験30%、課題20%、授業参加度20%</td>
</tr>
</table>

（改善事項）　薬学部　薬科学科

1．ディプロマ・ポリシーでプレゼンテーション能力をあげているが、カリキュラム・ポリシーには該当する学修内容がなく、不整合であるため、適切に改めること。（対象となる学生がいる場合に限る。）

（対応）

プレゼンテーション能力については、設置の趣旨等を記載した書類（23 頁）に記載のとおり、「特別演習・実習（前期）」「特別演習・実習（後期）」の実施により醸成を図ることとしている。しかし、この点についてカリキュラム・ポリシーの内容に盛り込めていなかったため、審査意見を踏まえ、プレゼンテーション能力について掲げるディプロマ・ポリシーと関連が強いカリキュラム・ポリシーの内容にプレゼンテーション能力を追記することに改める。

この対応にあたり、設置の趣旨等を記載した書類、及びこの添付資料である薬学部薬科学科カリキュラムマップを修正する。（【別紙 5】及び【別紙 6】参照）

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類

	新	旧
15 頁	【薬科学科】 薬科学科では、健康、生命に関する有機的・総合的な知識を持つとともに、応用力、研究力を身に付けた薬学を基盤とする多様な分野で活躍できる人材の養成を目的とし、以下のカリキュラムを編成しています。 1. 基礎教育・ヒューマニズム教育 薬学を学ぶ上での基礎学力の養成と、医療の担い手に相応しい倫理性と社会性、及びコミュニケーション能力の基本を身に付けます。 2. 語学教育 国際化に対応できる語学力を養います。 3. 薬学専門教育 薬学の基礎知識及び薬の物性と構造、反応などの知識について体系的に修得します。 4. 実習科目 講義で得た知識に基づき、研究活動に必要な技能・態度を身に付けます。さらに、問題発見・解決能力<u>及びプレゼンテーション能力</u>を醸成するために研究室に所属し卒業研究を行います。	【薬科学科】 薬科学科では、健康、生命に関する有機的・総合的な知識を持つとともに、応用力、研究力を身に付けた薬学を基盤とする多様な分野で活躍できる人材の養成を目的とし、以下のカリキュラムを編成しています。 1. 基礎教育・ヒューマニズム教育 薬学を学ぶ上での基礎学力の養成と、医療の担い手に相応しい倫理性と社会性、及びコミュニケーション能力の基本を身に付けます。 2. 語学教育 国際化に対応できる語学力を養います。 3. 薬学専門教育 薬学の基礎知識及び薬の物性と構造、反応などの知識について体系的に修得します。 4. 実習科目 講義で得た知識に基づき、研究活動に必要な技能・態度を身に付けます。さらに、問題発見・解決能力を醸成するために研究室に所属し卒業研究を行います。

薬学部薬科学科カリキュラムマップ

	新	旧
左から 1列目 最下段	実習科目 講義で得た知識に基づき、研究活動に必要な技能・態度を身に付けます。さらに、問題発見・解決能力及びプレゼンテーション能力を醸成するために研究室に所属し卒業研究を行います。	実習科目 講義で得た知識に基づき、研究活動に必要な技能・態度を身に付けます。さらに、問題発見・解決能力を醸成するために研究室に所属し卒業研究を行います。

(改善事項)　薬学部　薬科学科

２．授業科目 「情報科学演習」について、授業内容が単にソフトウエアの操作法を学ぶ水準にとどまっており、大学教育の水準にふさわしい内容ではないため、授業科目の内容を改めるか、卒業要件に算入しない取扱いに改めること。(対象となる学生がいる場合に限る。)

(対応)

審査意見を踏まえ、幅広い分野での情報教育として、高等教育段階で取り扱うべき知識と技能を取り上げることに改める。また、Society 5.0 で実現する社会に向けた、人工知能(AI)や、IoT、ビッグデータの活用、クラウドコンピューティングなど、利用者として参画できる能力を養成するための授業内容を取り入れることとし、卒業要件への算入は維持する。

この対応にあたり、授業科目の概要、薬学部薬科学科のシラバスを修正する。

なお、薬学部薬科学科は学生募集を停止しており、開講年次により受講対象となる学生がいないが、薬学部薬学科と同様の対応としておく。(【別紙 7】及び【別紙 8】参照)

(新旧対照表) 授業科目の概要

	新	旧
5 頁	急速に進展する情報社会の中でコンピュータを利用した学習を進めていく上で不可欠な情報社会・情報科学に関する知識と技能を修得させることを目的とする。演習では、一人に一台の統一した環境下でWindowsパソコンと関連機器を利用した個別演習とグループワークを行い、情報社会への参画と情報倫理と情報セキュリティ、人工知能(AI)とデータ科学、クラウドコンピューティングと情報検索、アカデミックライティングを実現する構造的文書作成、化学構造式描画方法、学術活動に必要なデータ処理と分析、説明技術としてのプレゼンテーション、学術活動のための情報活用について学習する。	医療業界においてもＩＴ化の伸展により、コンピュータの利用は必須であり情報処理能力が多くの場面で求められていることを踏まえ、情報処理に必要な基礎となるコンピュータの知識及び使用方法を修得させることを目的とする。演習では、一人に一台の統一した環境のパソコンを利用してコンピュータの基礎教育を行い、Windows のパソコン、ワープロ、表計算、グラフ作成、プレゼンテーションデータ作成等の基礎となる情報処理技術を修得することにより、今後ますます高度化していくＩＴスキルに柔軟に対応していける技能と、それに関する基礎知識を学習する。

薬学部薬科学科シラバス

	新	旧
109 頁	授業科目の目的と概要 情報社会である Society 4.0 をより融合かつ発展させた次世代コンセプト Society 5.0 が提唱され、医療現場においても技術革新に伴う診断や治療などに関連する業務のデジタル化・AI 化	授業科目の目的と概要 近年、医療業界においても、ＩＴ化の伸展により、コンピュータの利用は必須になっており、情報処理能力が多くの場面で求められています。本演習では、基礎となる情報処理技術を修

	が急速に進展している。 また、そのような著しい変化に対応するためには、最新の知見を入手するとともに、多くの情報の中からより適切かつ正確な情報を選別し、必要に応じて適正に加工並びに処理することで、社会にあふれる情報を効果的に還元できる能力が求められる。 本演習では、コンピュータを利用した学習を進めていく上で不可欠な情報社会・情報科学に関する知識と技能を修得することを目的とする。 本演習科目で身についた知識と技能は、本学での６年間における学びに盛り込まれているアクティブラーニングや学術活動といった能動的学習において必要な情報活用の基盤となるものと位置づけられる。	得することにより、今後ますます高度化していくＩＴスキルに柔軟に対応していける技能と、それに関する基礎知識を学びます。
109 頁	一般目標（GIO） 情報社会の中で、適正な判断をするための必要な情報社会・情報科学に関する知識と技能を修得する。また、大学における学術活動を効果的に行うための必要な知識と技能を、本演習を通じて修得する。	一般目標（GIO） 情報処理に必要な基礎となるコンピュータの知識及び使用方法を修得する。
109 頁	授業の方法 情報活用教育として、Windows パソコンと関連機器を利用した個別演習とグループワークを行う。個別演習として、文書作成、データ処理と分析・グラフ描画、プレゼンテーションデータ作成、化学構造式作成などを行う。また、グループワークとしてレポート発表やプレゼンテーション発表の相互評価を行い、積極的、能動的な演習を行う。 入学以前の情報教育で修得した知識・技能は、個人差があるため、ＴＡを教室内に配置する。	授業の方法 一人に一台の統一した環境のパソコンを利用してコンピュータの基礎教育を行う。Windows のパソコン、ワープロ、表計算、グラフ作成、プレゼンテーションデータ作成などを行う。また、入学以前の情報教育で修得した知識・技能は、個人差があるため、ＴＡを教室内に配置する。
109 頁	成績評価 毎回の練習課題(50%)、総合課題(50%)を総合して評価する。定期試験は行わない。	成績評価 毎回の練習課題(50%)、総合課題(50%)を総合して評価する。筆記試験は行わない。
110 頁	教科書 『情報リテラシー　Windows10/Office2019 対応』　ＦＯＭ出版	教科書 『情報リテラシー改訂版』　ＦＯＭ出版 2019 年度版　情報倫理ハンドブック　大石

<table>
<tr><td></td><td>『2020年度版　情報倫理ハンドブック』 大石博雄　noa出版</td><td>博雄　noa出版</td></tr>
<tr><td>110頁</td><td>参考書
『よくわかるスッキリ！Windows10』　ＦＯＭ出版
『Word2019基礎』　ＦＯＭ出版
『Word2019応用』　ＦＯＭ出版
『Excel2019基礎』　ＦＯＭ出版
『Excel2019応用』　ＦＯＭ出版
『PowerPoint2019基礎』　ＦＯＭ出版
『PowerPoint2019応用』　ＦＯＭ出版
『Society(ソサエティ) 5.0 人間中心の超スマート社会』日立東大ラボ　日本経済新聞出版
『Newton別冊　ゼロからわかる人工知能 増補第2版』ニュートンプレス</td><td>参考書
『よくわかるスッキリ！Windows10』　ＦＯＭ出版
『Word2016基礎』　ＦＯＭ出版
『Word2016応用』　ＦＯＭ出版
『Excel2016基礎』　ＦＯＭ出版
『Excel2016応用』　ＦＯＭ出版
『PowerPoint2016基礎』　ＦＯＭ出版
『PowerPoint2016応用』　ＦＯＭ出版</td></tr>
<tr><td>110～
111頁</td><td>授業計画
<table>
<tr><th>回</th><th>項目</th><th>到達目標（SBOs・コアカリキュラム番号)・授業内容</th></tr>
<tr><td>1</td><td>情報社会への参画と情報倫理と情報セキュリティ</td><td>情報社会に主体的に参画するための知識と態度、行動を身に付け、情報技術の進展が社会にどのような変化をもたらし、いかなる問題を生じうるかについて、技術、法律、倫理、活用の４つの面から重要性を学び、これらに関する知識と技能を修得する。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>人工知能(AI)とデータ科学</td><td>ディープラーニングなどの人工知能(AI)の実用化などの情報システムの高度化、データの広域・大量化及びIoT、ビッグデータ活用など情報技術革新の流れを踏まえ、Society5.0に向けた情報化の進展についての知識を修得する。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>クラウドコンピューティングと情報</td><td>クラウドコンピューティングのサー</td></tr>
</table></td><td>授業計画
<table>
<tr><th>回</th><th>項目</th><th>到達目標（SBOs・コアカリキュラム番号)・授業内容</th></tr>
<tr><td>1</td><td>コンピュータの概要と情報モラルと情報セキュリティ</td><td>コンピュータの基本操作を行うことができ、安全に利用できる知識を修得する。情報モラルやセキュリティについてその基礎的・基本的な知識と実際の注意点を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>タイピングと日本語入力</td><td>タイピングと日本語・外国語の入力操作を修得する。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>ワープロソフト</td><td>ワープロソフトの基本操作を行うこ</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

	検索	ビスを利用して利点、問題点の理解を深めて、必要となったときに実践的な判断を可能とする知識と技術を修得する。 大学図書館と様々なインターネット上の情報源について、学術情報の視点から理解すると共に目的に沿った情報検索に関する知識と技能を修得する。			とができる。
4	アカデミックライティングを実現する構造的文書作成	表題、見出し、図表、参考文献、校閲などを含む学術的な文書処理法の知識と技能を修得する。	4	ワープロソフト	ワープロソフトの書式設定を行うことができる。
5	アカデミックライティングを実現する構造的文書作成	提示された課題に対して、より効果的なレポートを作成し、レポートを学生グループ内で相互評価を行い、フィードバックを踏まえ改善したものを作成し、処理する知識と技能を修得する。	5	ワープロソフト	ワープロソフトを用いて文書を作成できる。
6	化学構造式描画方法	化学構造式描画ソフトを使用し、基本操作を理解し、化学結合・元素記号などの描画方法を理解し、医薬品の化学構造式の描画に関する知識と技能を修得する。	6	表計算ソフト	表計算ソフトの基本操作を行うことができる。
7	学術活動に必要なデータ処理と分析	取得したデータを正確かつ適正に解析するために、表の標準的な構成法、入力の検査、集計、クロス集計、整列などを表計算処理の技能を修得する。	7	表計算ソフト	表計算ソフトの関数を使用することができる。
8	学術活動に必要なデータ処理と分析	取得したデータを正確かつ適正に解析するために、集計・平均・最大・最少などの基本的な関数の設定、棒・折	8	表計算ソフト	表計算ソフトのグラフ作成を行うことができる。

			れ線・円のグラフ描画に関する知識と技能を修得する。			
	9	説明技術としてのプレゼンテーション	タイトル、序論、本論、結論といった流れを意識した発表のアウトラインの作成や、発表内容を合わせ、文字での表現、また図解や表による文字以外での表現方法の知識と技能を修得する。	9	プレゼンテーションソフト	プレゼンテーションソフトの基本操作を行うことができる。
	10	説明技術としてのプレゼンテーション	聴衆を意識したスライドやポスターによる発表資料の作成方法や、作成したスライドやポスターを参照しながら、プレゼンテーションを効果的に実施するための知識を修得する。	10	プレゼンテーションソフト	プレゼンテーションソフトの基本操作を行うことができる。
	11	学術活動のための情報活用	文献収集や ICT を活用した情報収集を行うとともに、入手した情報を利用し、文書作成や表計算処理を駆使しながら、課題に関するレポートを作成する統合的な能力を修得する。	11	ソフトウエアの活用	インターネット、ワープロソフト、表計算ソフトなどを使用してレポートを作成することができる。
	12	学術活動のための情報活用	文献収集や ICT を活用した情報収集を行うとともに、入手した情報を文書作成ソフトや表計算処理ソフトなどを統合的に駆使しながらレポートを作成し、グループ内で客観的な相互評価を行い、フィードバックを踏まえ改善したものを提出する。課題を通じて、より効果的な課題解決能力を修得する。	12	ソフトウエアの活用	インターネット、ワープロソフト、表計算ソフトなどを使用してレポートを作成することができる。

（改善事項）　薬学部　薬科学科

３．シラバスにおける評価方法の記載で、「定期試験」、「期末試験」と表記が統一されていないため、同一の試験を指すのであれば、記載を統一するなど、全ての科目におけるシラバスを点検し、適切に改めること。（対象となる学生がいる場合に限る。）

（対応）

「定期試験」と「期末試験」が同一の試験を指すため、審査意見を受け、シラバスにおける評価方法の記載を「定期試験」に統一することに改める。

これらの対応にあたり、薬学部薬科学科のシラバスを修正する。

なお、薬学部薬科学科は学生募集を停止しており、開講年次により受講対象となる学生がいない授業科目の修正箇所があるが、薬学部薬学科と同様の対応としておく。

（新旧対照表）薬学部薬科学科シラバス

科目	頁	新	旧
文学の世界（教養）	4頁	成績評価 平常点50%（小テスト・ミニッツペーパー）/定期試験50%	成績評価 平常点50%（小テスト・ミニッツペーパー）/期末試験50%
経済の世界（教養）	16頁	成績評価 グループ別ディスカッションへの積極的参加や授業中に講師がする質問への回答など平常の貢献20%、定期試験80% 試験、課題に対するフィードバック方法 定期試験後に各設問の模範解答を公開する。希望者には個別に採点後の試験答案を開示する。	成績評価 グループ別ディスカッションへの積極的参加や授業中に講師がする質問への回答など平常の貢献20%、期末試験80% 試験、課題に対するフィードバック方法 期末試験後に各設問の模範解答を公開する。希望者には個別に採点後の試験答案を開示する。
数理統計学	39頁	成績評価 課題(レポート、リアクションペーパー)20%と定期試験80%を用いて総合的に評価します。	成績評価 課題(レポート、リアクションペーパー)20%と期末試験80%を用いて総合的に評価します。
英語ライティング1	63頁	成績評価 定期試験結果（60%）と発表・積極的な発言（40%）により評価する。 試験、課題に対するフィードバック方法 授業内で定期試験を実施し、試験答案の開示および解説を行う。	成績評価 期末試験結果（60%）と発表・積極的な発言（40%）により評価する。 試験、課題に対するフィードバック方法 授業内で期末試験を実施し、試験答案の開示および解説を行う。

<table>
<tr><td></td><td>64
頁</td><td>授業計画<table><tr><td>回</td><td>項目</td><td>到達目標…</td><td>準備学習…</td></tr><tr><td>11</td><td>定期試験</td><td>授業内で定期試験を実施</td><td>定期試験のための勉強をする</td></tr><tr><td>12</td><td>解説</td><td>定期試験について解説</td><td>定期試験について質問があれば…</td></tr></table></td><td>授業計画<table><tr><td>回</td><td>項目</td><td>到達目標…</td><td>準備学習…</td></tr><tr><td>11</td><td>期末試験</td><td>授業内で期末試験を実施</td><td>期末試験のための勉強をする</td></tr><tr><td>12</td><td>解説</td><td>期末試験について解説</td><td>期末試験について質問があれば…</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>ドイツ語1</td><td>68
頁</td><td>成績評価
授業への参加態度（アクティブ・ラーニングに積極的に取り組む姿勢、宿題の提出、小テスト）…40%
授業内定期試験（筆記、音読）…60%
試験、課題に対するフィードバック方法
宿題や小テストは返却後に解説する。授業最終日に行う定期試験については、事前に説明するので十分に準備すること。</td><td>成績評価
授業への参加態度（アクティブ・ラーニングに積極的に取り組む姿勢、宿題の提出、小テスト）…40%
授業内期末試験（筆記、音読）…60%
試験、課題に対するフィードバック方法
宿題や小テストは返却後に解説する。授業最終日に行う期末試験については、事前に説明するので十分に準備すること。</td></tr>
<tr><td></td><td>70
頁</td><td>授業計画<table><tr><td>回</td><td>項目</td><td>到達目標…</td><td>準備学習…</td></tr><tr><td>12</td><td>定期試験</td><td>筆記・音読試験を行う。</td><td></td></tr></table></td><td>授業計画<table><tr><td>回</td><td>項目</td><td>到達目標…</td><td>準備学習…</td></tr><tr><td>12</td><td>期末試験</td><td>筆記・音読試験を行う。</td><td></td></tr></table></td></tr>
<tr><td>ドイツ語2</td><td>71
頁</td><td>成績評価
授業への参加態度（アクティブ・ラーニングに積極的に取り組む姿勢、宿題の提出、小テスト）…40%
授業内定期試験（筆記、音読）…60%
試験、課題に対するフィードバック方法
宿題や小テストは返却後に解説する。授業最終日に行う定期試験については、事前に説明するので十分に準備すること。</td><td>成績評価
授業への参加態度（アクティブ・ラーニングに積極的に取り組む姿勢、宿題の提出、小テスト）…40%
授業内期末試験（筆記、音読）…60%
試験、課題に対するフィードバック方法
宿題や小テストは返却後に解説する。授業最終日に行う期末試験については、事前に説明するので十分に準備すること。</td></tr>
<tr><td></td><td>73
頁</td><td>授業計画<table><tr><td>回</td><td>項目</td><td>到達目標…</td><td>準備学習…</td></tr><tr><td>12</td><td>定期試験</td><td>筆記・音読試験を行う。</td><td></td></tr></table></td><td>授業計画<table><tr><td>回</td><td>項目</td><td>到達目標…</td><td>準備学習…</td></tr><tr><td>12</td><td>期末試験</td><td>筆記・音読試験を行う。</td><td></td></tr></table></td></tr>
<tr><td>フランス語1</td><td>74
頁</td><td>成績評価
授業内定期試験 50%、プレゼンおよび課題提出 50%</td><td>成績評価
授業内期末試験 50%、プレゼンおよび課題提出 50%</td></tr>
<tr><td>フランス語2</td><td>77
頁</td><td>成績評価
授業内定期試験 50%、プレゼン・課題提出 50%</td><td>成績評価
授業内期末試験 50%、プレゼン・課題提出 50%</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>中国語1</td><td>80頁</td><td>アクティブ・ラーニングの取組
発音練習が主になる第１回・２回目の授業および定期試験を実施する第１１ 回目の授業を除いては、毎回文法の説明は最小限にとどめ、学習した項目を３人または４人から成るグループの中で、実際に発話することに重点を置いた授業を行う。…
成績評価
授業内定期試験結果（４０%）、小テスト（２０%）、授業への参加度*（４０%）により評価する。 …
試験、課題に対するフィードバック方法
定期試験は、第１１ 回目の授業で実施し、第１２回目の授業で答案を開示し、解説を行う。…</td><td>アクティブ・ラーニングの取組
発音練習が主になる第１回・２回目の授業および期末試験を実施する第１１ 回目の授業を除いては、毎回文法の説明は最小限にとどめ、学習した項目を３人または４人から成るグループの中で、実際に発話することに重点を置いた授業を行う。…
成績評価
授業内期末試験結果（４０%）、小テスト（２０%）、授業への参加度*（４０%）により評価する。 …
試験、課題に対するフィードバック方法
期末試験は、第１１ 回目の授業で実施し、第１２ 回目の授業で答案を開示し、解説を行う…</td></tr>
<tr><td></td><td>82頁</td><td>授業計画
<table><tr><th>回</th><th>項目</th><th>到達目標…</th><th>準備学習…</th></tr><tr><td>10</td><td>時刻および誕生日について話す</td><td>第８・９回授業で学習した内容に関する…</td><td>…次回授業時に実施される定期試験に向けて復習する、…</td></tr><tr><td>11</td><td>定期試験</td><td>筆記・リスニングから成る定期試験を実施する。</td><td></td></tr><tr><td>12</td><td>定期試験の解説および…</td><td>定期試験の解答を開示し、…</td><td>夏季休暇中に、新しく習得した単語を、…</td></tr></table></td><td>授業計画
<table><tr><th>回</th><th>項目</th><th>到達目標…</th><th>準備学習…</th></tr><tr><td>10</td><td>時刻および誕生日について話す</td><td>第８・９回授業で学習した内容に関する…</td><td>…次回授業時に実施される期末試験に向けて復習する、…</td></tr><tr><td>11</td><td>期末試験</td><td>筆記・リスニングから成る期末試験を実施する。</td><td></td></tr><tr><td>12</td><td>期末試験の解説および…</td><td>期末試験の解答を開示し、…</td><td>夏季休暇中に、新しく習得した単語を、…</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>中国語2</td><td>83頁</td><td>成績評価
授業内定期試験結果（４０%）、小テスト（２０%）、授業への参加度*（４０%）により評価する。 …
試験、課題に対するフィードバック方法
後期定期試験は、学生が自ら作成した中国語会話を発話するスピーキングテストであるため、合格点に達しなかった場合（再試験受験対象者）にのみ問題点の指摘および再試験に向けての解説を行う。…</td><td>成績評価
授業内期末試験結果（４０%）、小テスト（２０%）、授業への参加度*（４０%）により評価する。 …
試験、課題に対するフィードバック方法
後期期末試験は、学生が自ら作成した中国語会話を発話するスピーキングテストであるため、合格点に達しなかった場合（再試験受験対象者）にのみ問題点の指摘および再試験に向けての解説を行う。…</td></tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>中国語2</td>
<td>85頁</td>
<td>授業計画
<table>
<tr><th>回</th><th>項目</th><th>到達目標…</th><th>準備学習…</th></tr>
<tr><td>11</td><td>定期試験（スピーキング）に向けての準備</td><td>グループに分かれ、提示されたルールに沿って…</td><td>作成した会話の発音を調べ、…</td></tr>
<tr><td>12</td><td>定期試験</td><td>作成した会話を発表し、定期試験とする。</td><td></td></tr>
</table>
</td>
<td>授業計画
<table>
<tr><th>回</th><th>項目</th><th>到達目標…</th><th>準備学習…</th></tr>
<tr><td>11</td><td>期末試験（スピーキング）に向けての準備</td><td>グループに分かれ、提示されたルールに沿って…</td><td>作成した会話の発音を調べ、…</td></tr>
<tr><td>12</td><td>期末試験</td><td>作成した会話を発表し、期末試験とする。</td><td></td></tr>
</table>
</td>
</tr>
<tr>
<td>ハングル1</td>
<td>86頁</td>
<td>成績評価
小テスト30%、定期試験30%、課題20%、授業参加度20%</td>
<td>成績評価
小テスト30%、期末試験30%、課題20%、授業参加度20%</td>
</tr>
<tr>
<td>ハングル2</td>
<td>88頁</td>
<td>成績評価
小テスト30%、定期試験30%、課題20%、授業参加度20%</td>
<td>成績評価
小テスト30%、期末試験30%、課題20%、授業参加度20%</td>
</tr>
</table>

【別紙1】

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	人間と宗教	非科学的とされる宗教の「物語」が、生老病死に関しては依然として説得力を持つものとして、その機能が失われてはおらず、医療に携わる者にとって宗教的思考や心性を理解することは、一つの「素養」である。不合理なものと片づけるのではなく、人々が宗教に意味を見出し、生きる糧を得ているという現実に対する理解を深めることを目的とする。また、講義を通じ、日本人の宗教意識がどのように形成され現在に至っているのかを理解すると同時に、さまざまな宗教の考え方を知ることで、自らの宗教観を問い直すことを目標とする。	
	文化人類学	様々な文化・社会における多様なものの見方・考え方・価値観、これらを形成する環境・文化・社会の力、多文化共生社会における文化・社会的状況について理解し、それら状況の対処や取り組みへの姿勢を養うことを目的とする。講義では、文化人類学の方法と理論、成果を学び、様々な文化でのものの見方や考え方を学ぶことを通して、私たちのものの考え方や見方について相対化する。その上で、異文化をルーツに持つ人々との交流・交渉・共存のあり方についての視点や方法、考え方を養う。	
	倫理と社会	倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身に付けて、医療の担い手としての感性を養う。また、生涯にわたって自ら学ぶことの必要性・重要性を理解し、人の行動や考え方、社会の仕組みを理解し、人・社会と薬剤師の関わりを認識させることを目的とする。講義では、この社会で最も弱い立場にいる「子ども」に注目して、子どもたち一人ひとりの“well-being”（健康で、幸せであること）について話しあう 。取りあげるテーマは、児童遺棄・虐待、生殖補助医療である。「良い社会」とはどんな社会なのか、そうした社会の実現のためには、医療人としてどう行動すべなのかを考えて、自らの新たな役割と可能性を発見させる。	
	コーチング論	人間関係を充実させていくためのパーソナリティーやコミュニケーション能力などの向上を図ることを目的とする。講義では、選手の目標達成や競技パフォーマンス向上に貢献するため実際の指導者による手法等を用い、優れたパーソナリティーやコミュニケーション能力など幅広い分野における見識について学習する。	
	スポーツ・運動２	基礎体力向上、行われる種目の技能向上及びコミュニケーション能力向上を目的する。授業では、スポーツ・運動実習１で経験していない種目（ジョギング、卓球、バドミントン、ハンドボール、カヌー、スキー等）を経験しながら、身体を定期的に動かすことの大切さ、身体の不活動がいかに健康度を低下させているかについて学習する。	
	情報科学	近年の情報処理技術の進歩は目覚ましく、薬学分野においてもコンピュータリテラシーの修得が不可欠なものとなっていることを踏まえ、単にコンピュータの利用方法を覚えるだけでなく、取り扱うことのできる情報についてネットワークやデータベース技術などの知識を背景に、情報を取得／整理／分析／発信して問題解決のセンスを養うこと目的とする。講義では、情報科学において薬学系の学生が関係する分野からテーマを選びその技術内容の解説と事例紹介を行い、受講者が情報科学の全体像を把握させるとともに個別の技術の概要について興味をもって学べるよう具体例を示しながら進める。	
	情報科学演習	急速に進展する情報社会の中でコンピュータを利用した学習を進めていく上で不可欠な情報社会・情報科学に関する知識と技能を修得させることを目的とする。演習では、一人に一台の統一した環境下でWindowsパソコンと関連機器を利用した個別演習とグループワークを行い、情報社会への参画と情報倫理と情報セキュリティ、人工知能(AI)とデータ科学、クラウドコンピューティングと情報検索、アカデミックライティングを実現する構造的文書作成、化学構造式描画方法、学術活動に必要なデータ処理と分析、説明技術としてのプレゼンテーション、学術活動のための情報活用について学習する。	

科目名　情報科学演習

指導教員	年次・期間	単位	選必区分
永井純也	１年次・前期	1	必修

授業の目的と概要

情報社会である Society 4.0 をより融合かつ発展させた次世代コンセプト Society 5.0 が提唱され、医療現場においても技術革新に伴う診断や治療などに関連する業務のデジタル化・AI化が急速に進展している。
また、そのような著しい変化に対応するためには、最新の知見を入手するとともに、多くの情報の中からより適切かつ正確な情報を選別し、必要に応じて適正に加工並びに処理することで、社会にあふれる情報を効果的に還元できる能力が求められる。
本演習では、コンピュータを利用した学習を進めていく上で不可欠な情報社会・情報科学に関する知識と技能を修得することを目的とする。本演習科目で身についた知識と技能は、本学での６年間における学びに盛り込まれているアクティブラーニングや学術活動といった能動的学習において必要な情報活用の基盤となるものと位置づけられる。

一般目標（GIO）

情報社会の中で、適正な判断をするための必要な情報社会・情報科学に関する知識と技能を修得する。また、大学における学術活動を効果的に行うための必要な知識と技能を、本演習を通じて修得する。

授業の方法

情報活用教育として、Windows パソコンと関連機器を利用した個別演習とグループワークを行う。個別演習として、文書作成、データ処理と分析・グラフ描画、プレゼンテーションデータ作成、化学構造式作成などを行う。また、グループワークとしてレポート発表やプレゼンテーション発表の相互評価を行い、積極的、能動的な演習を行う。
入学以前の情報教育で修得した知識・技能は、個人差があるため、ＴＡを教室内に配置する。

成績評価

毎回の練習課題(50%)、総合課題(50%)を総合して評価する。定期試験は行わない。

試験、課題に対するフィードバック方法

授業内の課題のフィードバックは、翌回の授業時間内または、ポータルサイトにて行う。

学位授与方針との関連

「３．薬の専門家として必要な幅広い科学的知識・技能・態度を有している」の達成に寄与する。

関連する科目

関連科目：アカデミックスキル、情報科学
臨床系関連科目・内容：医薬品情報学、医療統計学

教科書

『情報リテラシー Windows10/Office2019 対応』　ＦＯＭ出版
『2020 年度版　情報倫理ハンドブック』　大石　博雄　noa 出版

参考書

『よくわかるスッキリ！Windows10』　ＦＯＭ出版
『Word2019 基礎』　ＦＯＭ出版
『Word2019 応用』　ＦＯＭ出版
『Excel2019 基礎』　ＦＯＭ出版
『Excel2019 応用』　ＦＯＭ出版
『PowerPoint2019 基礎』　ＦＯＭ出版
『PowerPoint2019 応用』　ＦＯＭ出版
『Society(ソサエティ) 5.0 人間中心の超スマート社会』日立東大ラボ　日本経済新聞出版
『Newton 別冊　ゼロからわかる人工知能 増補第 2 版』ニュートンプレス

授業計画

回	項目	到達目標（SBOs・コアカリキュラム番号）・授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	情報社会への参画と情報倫理と情報セキュリティ	情報社会に主体的に参画するための知識と態度、行動を身に付け、情報技術の進展が社会にどのような変化をもたらし、いかなる問題を生じうるかについて、技術、法律、倫理、活用の４つの面から重要性を学び、これらに関する知識と技能を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習１時間・事後学習１時間の合計２時間程度必要である。
2	人工知能(AI)とデータ科学	ディープラーニングなどの人工知能(AI)の実用化などの情報システムの高度化、データの広域・大量化及び IoT、ビッグデータ活用など情報技術革新の流れを踏まえ、Society5.0 に向けた情報化の進展についての知識を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習１時間・事後学習１時間の合計２時間程度必要である。
3	クラウドコンピューティングと情報検索	クラウドコンピューティングのサービスを利用して利点、問題点の理解を深めて、必要となったときに実践的な判断を可能とする知識と技術を修得す	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習１時間・事後学習１時間の合計２時

		る。 大学図書館と様々なインターネット上の情報源について、学術情報の視点から理解すると共に目的に沿った情報検索に関する知識と技能を修得する。	間程度必要である。
4	アカデミックライティングを実現する構造的文書作成	表題、見出し、図表、参考文献、校閲などを含む学術的な文書処理法の知識と技能を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習 1 時間・事後学習 1 時間の合計 2 時間程度必要である。
5	アカデミックライティングを実現する構造的文書作成	提示された課題に対して、より効果的なレポートを作成し、レポートを学生グループ内で相互評価を行い、フィードバックを踏まえ改善したものを作成し、処理する知識と技能を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習 1 時間・事後学習 1 時間の合計 2 時間程度必要である。
6	化学構造式描画方法	化学構造式描画ソフトを使用し、基本操作を理解し、化学結合・元素記号などの描画方法を理解し、医薬品の化学構造式の描画に関する知識と技能を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習 1 時間・事後学習 1 時間の合計 2 時間程度必要である。
7	学術活動に必要なデータ処理と分析	取得したデータを正確かつ適正に解析するために、表の標準的な構成法、入力の検査、集計、クロス集計、整列などを表計算処理の技能を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習 1 時間・事後学習 1 時間の合計 2 時間程度必要である。
8	学術活動に必要なデータ処理と分析	取得したデータを正確かつ適正に解析するために、集計・平均・最大・最少などの基本的な関数の設定、棒・折れ線・円のグラフ描画に関する知識と技能を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習 1 時間・事後学習 1 時間の合計 2 時間程度必要である。
9	説明技術としてのプレゼンテーション	タイトル、序論、本論、結論といった流れを意識した発表のアウトラインの作成や、発表内容を合わせ、文字での表現、また図解や表による文字以外での表現方法の知識と技能を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習 1 時間・事後学習 1 時間の合計 2 時間程度必要である。
10	説明技術としてのプレゼンテーション	聴衆を意識したスライドやポスターによる発表資料の作成方法や、作成したスライドやポスターを参照しながら、プレゼンテーションを効果的に実施するための知識を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習 1 時間・事後学習 1 時間の合計 2 時間程度必要である。
11	学術活動のための情報活用	文献収集や ICT を活用した情報収集を行うとともに、入手した情報を利用し、文書作成や表計算処理を駆使しながら、課題に関するレポートを作成する統合的な能力を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習 2 時間・事後学習 2 時間の合計 2 時間程度必要である。
12	学術活動のための情報活用	文献収集や ICT を活用した情報収集を行うとともに、入手した情報を文書作成ソフトや表計算処理ソフトなどを統合的に駆使しながらレポートを作成し、グループ内で客観的な相互評価を行い、フィードバックを踏まえ改善したものを提出する。課題を通じて、より効果的な課題解決能力を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習 2 時間・事後学習 2 時間の合計 2 時間程度必要である。

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
医療薬学科目	薬学基礎演習	（概要） 1から4年次に履修した全ての薬学関連科目の知識を短期間に、集中的に再確認することで、それらを総合的に理解し、専門知識を駆使して問題解決にあたる能力を育成するための必要な基盤の確立を目的とする。（オムニバス方式／計8回） （2　大桃善朗／8回） 授業全体のコーディネートを行う。 （20　大喜多守／1回） 薬理学について演習を行う。 （44　加藤隆児／1回） 薬物治療学について演習を行う。 （33　佐藤卓司／1回） 物理系薬学について演習を行う。 （16　藤森功／1回） 生物系薬学について演習を行う。 （47　長谷井友尋／1回） 衛生薬学について演習を行う。 （35　和田俊一／1回） 化学系薬学について演習を行う。 （12　恩田光子／1回） 社会薬学について演習を行う。 （15　宮崎誠／1回） 薬剤学について演習を行う。	オムニバス
	統合薬学演習	独立した科目として学習した内容を科目横断的に関連付け、また、医療現場で発生する課題に対し、薬学部で学んだことを統合して解決する能力を養成することを目的とする。演習では、がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症の8疾患を取り上げる。なお、学生を小グループで編成し、1疾患領域毎に統合講義を実施し、その後にグループワーク、発表とディスカッションを行わせ、知識・技能・態度の統合を図る。	共同
	薬学総合演習	（概要） 本学における薬学教育の集大成として設置された科目であり、薬学部卒業時に備えているべき知識及びそれに基づく総合的な判断力を身に付けることを目的とする。（オムニバス方式／計45回） （14　岩永一範／45回） 授業全体のコーディネートを行う。 （83　友尾幸司／5回） 物理系統の「物質の物理的性質」「化学物質の分析」について講義・演習を行う。 （80　宇佐美吉英／5回） 化学系統の「化学物質の性質と反応」「生体分子・医薬品の化学」「自然が生み出す薬物（天然物由来薬物）」について講義・演習を行う。 （16　藤森功／5回） 生物系統の「生命現象の基礎」「人体の成り立ちと生体機能の調節」「生体防御と微生物」について講義・演習を行う。 （31　佐久間覚／5回） 衛生系統の「健康」「環境」について講義・演習を行う。 （20　大喜多守／5回） 薬理系統の「薬の作用と体の変化」「薬の効き方（薬理）」について講義・演習を行う。 （15　宮崎誠／5回） 薬剤系統の「薬の生体内運命」「製剤化のサイエンス」について講義・演習を行う。 （1　松村人志／5回） 病態・薬物治療系統の「薬の作用と体の変化」「病態・薬物治療」「薬物治療に役立つ情報」について講義・演習を行う。 （10　中村敏明／5回） 法規・制度・倫理系統の「プロフェッショナリズム（薬剤師の使命や薬剤師に求められる倫理観など）」「薬学と社会」について講義・演習を行う。 （22　中村任／5回） 実務系統の「薬学臨床基本事項」「薬学臨床実践」について講義・演習を行う。	オムニバス

科目名　薬学総合演習

指導教員	年次・期間	単位	選必区分
岩永一範、友尾幸司、宇佐美吉英、藤森功、佐久間覚、大喜多守、宮崎誠、松村人志、中村敏明、中村任	6 年次・通年	3	必修

授業の目的と概要

本学における 6 年間の薬学教育の集大成として設置された科目であり、薬学部卒業時に備えているべき知識およびそれに基づく総合的な判断力を身に付けることを目的とする。6 年次までに修得した科目（特に「物理系」、「化学系」、「生物系」、「衛生系」、「薬理系」、「薬剤系」、「病態・薬物治療系」、「法規・制度・倫理系」、「実務系」）についてオムニバス形式で講義、演習を行い、重要項目の再確認と知識の整理によって、より高い論理的思考力、問題解決能力、実践力を身に付けることを目指す。

一般目標（GIO）

薬剤師に必要な知識及びそれに基づく総合的な判断力を身に付けるために、薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成 25 年度改訂版）関連科目全般について重要項目を系統的にまとめ、整理し、理解を深める。

授業の方法

講義、演習形式で授業を行い、随時補講を行う。なお本科目は範囲が多岐にわたるため、特に集中力を高めた効果的な授業を行うことを目的として 70 分授業で行う。

成績評価

定期試験の結果に基づいて評価を行う（100%）。

試験、課題に対するフィードバック方法

随時行われる確認テスト等により学習到達度をはかり、特別研究担当教員、指導教員よりフィードバックを行う。

学位授与方針との関連

薬学科の全ての学位授与方針と関連する。

関連する科目

関連科目：薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成 25 年度改訂版）に関連する全ての科目

教科書

各関連授業の教科書・参考書や配布資料

参考書

各関連授業の参考書・問題集、「今日の治療薬 2020（浦部昌夫 他、南江堂）」、「治療薬マニュアル 2020（高久史麿 他、医学書院）」

授業計画

回	項目	到達目標（SBOs・コアカリキュラム番号）・授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1～5	物理系（友尾）	「物質の物理的性質」、「化学物質の分析」について基本的・応用的知識の定着と、論理的思考力、問題解決能力、実践力を身に付ける。	予習：2時間　講義範囲について、これまで学んできたことを振り返り、わからない個所をあらかじめ整理した上で講義に臨むよう準備を行う。 復習：2時間　学習した内容について、これまでに用いた当該分野の教科書・参考書や問題集等を活用することにより知識の定着をはかる。
6～10	化学系（宇佐美）	「化学物質の性質と反応」、「生体分子・医薬品の化学」、「自然が生み出す薬物（天然物由来薬物）」について基本的・応用的知識の定着と、論理的思考力、問題解決能力、実践力を身に付ける。	
11～15	生物系（藤森）	「生命現象の基礎」、「人体の成り立ちと生体機能の調節」、「生体防御と微生物」について基本的・応用的知識の定着と、論理的思考力、問題解決能力、実践力を身に付ける。	
16～20	衛生系（佐久間）	「健康」、「環境」について基本的・応用的知識の定着と、論理的思考力、問題解決能力、実践力を身に付ける。	
21～25	薬理系（大喜多）	「薬の作用と体の変化」、「薬の効き方（薬理）」について基本的・応用的知識の定着と、論理的思考力、問題解決能力、実践力を身に付ける。	
26～30	薬剤系（宮崎）	「薬の生体内運命」、「製剤化のサイエンス」について基本的・応用的知識の定着と、論理的思考力、問題解決能力、実践力を身に付ける。	
31～35	病態・薬物治療系（松村人）	「薬の作用と体の変化」、「病態・薬物治療」、「薬物治療に役立つ情報」について基本的・応用的知識の定着と、論理的思考力、問題解決能力、実践力を身に付ける。	
36～40	法規・制度・	「プロフェッショナリズム（薬剤	

	倫理系（中村敏）	師の使命や薬剤師に求められる倫理観など)」、「薬学と社会」について基本的・応用的知識の定着と、論理的思考力、問題解決能力、実践力を身に付ける。	
41～45	実務系（中村任）	「薬学臨床基本事項」、「薬学臨床実践」について基本的・応用的知識の定着と、論理的思考力、問題解決能力、実践力を身に付ける。	

３．学部・学科等の名称及び学位の名称

組織として研究対象とする中心的な学問分野及び人材養成の目的を反映する最も相応しい名称として、学部・学科・学位の名称は次のとおりとする。

また、これらの英訳名称については、国際的な通用性に留意して次のとおりとする。

学部の名称：薬学部「Faculty of Pharmacy」
学科の名称：薬学科「Division of Pharmacy」
　　薬科学科「Division of Pharmaceutical Sciences」
学位の名称：学士（薬学）「Bachelor of Pharmacy」
　　学士（薬科学）「Bachelor of Pharmaceutical Sciences」

４．教育課程の編成の考え方及び特色

（１）教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程の編成・実施にあたっては、内部質保証を念頭に「卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針」の策定及び運用に関するガイドライン（平成 28 年 3 月 31 日中央教育審議会大学分科会大学教育部会）を踏まえた 3 つのポリシーの一体的な策定を基本とする。また、「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成 25 年 12 月 25 日)」に準拠し、「薬剤師として求められる基本的な資質」を達成するための一般目標（GIO）と到達目標（SBO）に基づく学習成果基盤型教育を行う。

これらの前提を踏まえ、人材養成の目的の実現やディプロマ・ポリシーに掲げる内容の達成のため、設置する薬学部薬学科・薬科学科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を次のとおり定める。なお、このカリキュラム・ポリシーについても、ディプロマ・ポリシーと同様に大阪薬科大学薬学部における内容を踏襲するものである。

教育課程編制・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
【薬学科】 薬学科では、薬に対する幅広い知識を持つとともに、医療人に相応しい、高い実践能力と研究力、倫理観と使命感を併せ持つ、社会に貢献できる質の高い薬剤師の養成を目的とし、以下のカリキュラムを編成しています。 1.基礎教育・ヒューマニズム教育 薬学を学ぶ上での基礎学力の養成と医療人に相応しい倫理観と社会性、及びコミュ

ニケーション能力の基本を身に付けます。

2. 語学教育

国際化に対応できる語学力を養います。

3. 薬学専門教育

「薬学教育モデル・コアカリキュラム」を基本とした、薬物に関する幅広い科学的知識を修得します。

4. 医療薬学教育

薬の専門家として患者や医療チームから信頼される薬剤師を養成します。また、薬剤師として必要な知識・技能及び態度を修得するために、病院と薬局において参加型実務実習を行い、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力及び生涯にわたる自己研鑽力と次世代を担う人材を育成する意欲と態度の必要性を体得します。さらに、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を養います。

5. 実習科目

講義で得た知識に基づいて、研究活動に必要な技能・態度を身に付けます。さらに、問題発見・解決能力を醸成するために、４年次から研究室に所属し卒業研究を行います。

【薬科学科】

薬科学科では、健康、生命に関する有機的・総合的な知識を持つとともに、応用力、研究力を身に付けた薬学を基盤とする多様な分野で活躍できる人材の養成を目的とし、以下のカリキュラムを編成しています。

1. 基礎教育・ヒューマニズム教育

薬学を学ぶ上での基礎学力の養成と、医療の担い手に相応しい倫理性と社会性、及びコミュニケーション能力の基本を身に付けます。

2. 語学教育

国際化に対応できる語学力を養います。

3. 薬学専門教育

薬学の基礎知識及び薬の物性と構造、反応などの知識について体系的に修得します。

4. 実習科目

講義で得た知識に基づき、研究活動に必要な技能・態度を身に付けます。さらに、問題発見・解決能力及びプレゼンテーション能力を醸成するために研究室に所属し卒業研究を行います。

このカリキュラム・ポリシーに加え、学修成果を把握し評価するための学修成果・評価の方針（アセスメント・ポリシー）を別に策定している。【資料１：薬学部　学修成果評価の方針（アセスメント・ポリシー)】

【別紙6】

薬学部薬科学科カリキュラムマップ

▲：選択必修科目　○選択科目

カリキュラム・ポリシー	科目区分	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	ディプロマ・ポリシー
基礎教育 **ヒューマニズム教育** 薬学を学ぶ上での基礎学力の養成と医療人に相応しい倫理観と社会性、及びコミュニケーション能力の基本を身に付けます。	基礎教育科目	○＜教養科目＞ 前期：「文学の世界」「歴史と社会」「地球環境論」「政治と社会」「基礎心理学」「法と社会」「経済の世界」「社会分析の基礎」 後期：「人間と宗教」「文化人類学」「倫理と社会」「コーチング論」「スポーツ・運動実習2」「数理論理学」 各1科目1単位								医療に関わるために必要な倫理性と社会性を身に付けていること
		情報科学演習 1	○情報科学 1							
		身体運動科学 1								
		スポーツ・運動実習1 1								
		物理学1 1	物理学2 1							
		化学 1								研究者に必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有していること
		化学演習 1								
		数学1 1	数学2 1	数理統計学 1.5						
				○医工薬連環科学 1.5	心理社会 1.5	コミュニケーション 1.5	医療と法 1			
	基礎薬学科目	薬学入門 1								
	医療薬学科目	早期体験学習1 1								
語学教育 国際化に対応し得る語学力を養う。	基礎教育科目	英語リスニング1 1	英語リスニング2 1	英語スピーキング1 1	英語スピーキング2 1	異文化言語演習1 1	異文化言語演習2 1			国際化に対応できる基礎的な語学力を有していること
		英語リーディング1 1	英語リーディング2 1	英語ライティング1 1	英語ライティング2 1					
		▲ドイツ語1 ▲フランス語1 ▲中国語1 ▲ハングル1 1	▲ドイツ語2 ▲フランス語2 ▲中国語2 ▲ハングル2 1							
薬学専門教育 薬学の基礎知識及び薬の物性と構造、反応などの知識について体系的に修得します。	基礎教育科目	基礎有機化学 1								創薬研究などに必要な基礎的知識と技能・態度を有していること 科学的な課題を探求し、解決する能力を有していること 研究者に必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有していること
		生物学 1								
	基礎薬学科目		物理化学1 1.5	物理化学2 1.5	物理化学3 1.5	放射化学 1.5				
			分析化学1 1.5	分析化学2 1.5						
				生物無機化学 1.5						
			有機化学1 1.5	有機化学2 1.5	有機化学3 1.5	有機化学4 1.5				
					有機スペクトル解析学 1.5					
			基礎細胞生物学 1.5	生化学2 1.5	生化学3 1.5					
			生化学1 1.5	微生物学 1.5			免疫学 1.5			
			機能形態学1 1.5	機能形態学2 1.5						
	応用薬学科目					応用分析学 1.5	○応用放射化学 1	分子設計学 1.5		
						物理薬剤学 1.5		○生物物理化学 1.5		
			生薬学 1.5	基礎漢方薬学 1.5	薬用天然物化学1 1.5	薬用天然物化学2 1.5	合成化学 1.5	○薬品合成化学 1.5		
								○医薬品化学 1.5		
					衛生薬学1 1.5	衛生薬学2 1.5	衛生薬学4 1.5			
						衛生薬学3 1.5				
					病原微生物学 1.5	分子細胞生物学 1.5		バイオインフォマティクス 1.5		
						ゲノム医科学 1.5				
							医療統計学 1			
	医療薬学科目	人体の構造と病態1 1.5	人体の構造と病態2 1.5		生物薬剤学1 1.5	生物薬剤学2 1.5	薬物動態解析学 1.5			
			早期体験学習2 0.5		薬理学1 1.5	薬理学2 1.5	薬理学3 1.5	○薬理学4 1.5		
				薬物治療学1 1.5	薬物治療学2 1.5	薬物治療学3 1.5	薬物治療学4 1.5			
							病態生化学 1.5			
							製剤学 1.5			
							医薬品情報学 0.5			
実習科目 講義で得た知識に基づき、研究活動に必要な技能・態度を身に付けます。さらに、問題発見・解決能力及びプレゼンテーション能力を醸成するために、研究室に所属し卒業研究を行います。	実習科目			分析化学実習 1	物理・放射化学実習 1					
		基礎薬学実習 0.5	基礎有機化学実習 1		漢方・生薬学実習 0.5	有機化学実習 1				
				生物学実習 1		生物科学実習 1	衛生薬学実習 1			
							薬理学実習 1			
							薬剤学実習 1			
								特別演習・実習（前期） 5	特別演習・実習（後期） 6	

授　業　科　目　の　概　要

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	異文化言語演習２	言語力を一層確実なものとし、実用に耐える読書力を涵養するとともに、異文化を正しく理解することを目的とする。授業はゼミ形式とし、教育効果を高めるため、学生を小グループで編成し、複数クラスを開講してクラス毎に担当教員を配置する。ゼミにより異なるテーマ（価値観の多様性が文化・習慣の違いから生まれることの実例説明、言語・歴史・宗教などから外国と日本の文化の比較、人の行動や心理がいかなる要因によりどのように決定されるか、宇宙・自然現象と人とのかかわり、地球環境を守る重要性を自らの言葉で表現する）について、英語の文献を精読し、担当者を決めてそれぞれ発表させ、受講者で検討修正の後、最終決定した日本語訳を解説させる。	
	心理社会	心理社会的な観点から、病いが患者に及ぼす心理的な影響を理解し、患者やその家族との基本的なコミュニケーションスキルを修得することを目的とする。講義では、医療における心理学と社会学の役割、心理状態と行動を形成する諸要因、「健康とは何か」その定義と現代医療の問題点、人間理解の心理学、対人関係の心理学、症状と問題行動の形成、医療コミュニケーション、行動変容の心理支援、多職種連携とチーム医療、ストレスマネジメントについて学習する。	
	コミュニケーション	薬剤師に求められるファーマシューティカルコミュニケーションや、患者を理解し上でのコミュニケーションについて実践的な技術を習得することを目的とする。講義では、医療におけるコミュニケーションの重要性、言語・非言語コミュニケーション、コミュニケーションの基礎的スキル、多様性の受容と自他尊重のコミュニケーション、ファーマシューティカルコミュニケーション、患者理解、他職種とのコミュニケーションについて学習する。なお、グループ討議やロールプレイを取り入れるとともに、双方向学習ツールを用いる。	講義16時間 演習8時間
	医療と法	薬事衛生・薬剤師業務に関する法令についてその概要と具体的内容を把握し、業務遂行にあたっての法令の重要性を認識することをもって、薬剤師としての任務を適正に遂行するとともに予見しうる法的問題の発生を防止するための知識を身に付けることを目的とする。講義では、薬剤師に関わる法令とその構成、薬剤師免許に関する薬剤師法の規定、医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義、医療提供体制に関する医療法の規定とその意義、薬剤師の刑事責任・民事責任、治験の意義と仕組み、個人情報の取扱いについて学習する。	
	身体運動科学	身体活動が著しく不足することが様々な生活習慣病の発症を助長していることを受け、運動・スポーツの生理学的基礎理論について修得させることを目的とする。講義では、運動・スポーツと健康の保持増進、生活習慣病の予防効果との関係、その具体的な運動方法、子供の発育発達とスポーツ・運動の影響、生活習慣病予防のための運動、介護予防に及ぼす運動・スポーツの有効性について学習する。	
	スポーツ・運動実習１	基礎体力向上、行われる種目の技能向上及びコミュニケーション能力向上を目的する。授業では様々な種目（テニス、バスケットボール、エアロビクス、ソフトボール、ウォーキング等）を経験しながら、身体を定期的に動かすことの大切さ、身体の不活動がいかに健康度を低下させているかについて学習する。	共同
	情報科学	近年の情報処理技術の進歩は目覚ましく、薬学分野においてもコンピュータリテラシーの修得が不可欠なものとなっていることを踏まえ、単にコンピュータの利用方法を覚えるだけでなく、取り扱うことのできる情報についてネットワークやデータベース技術などの知識を背景に、情報を取得／整理／分析／発信して問題解決のセンスを養うこと目的とする。講義では、情報科学において薬学系の学生が関係する分野からテーマを選びその技術内容の解説と事例紹介を行い、受講者が情報科学の全体像を把握させるとともに個別の技術の概要について興味をもって学べるよう具体例を示しながら進める。	
	情報科学演習	急速に進展する情報社会の中でコンピュータを利用した学習を進めていく上で不可欠な情報社会・情報科学に関する知識と技能を修得させることを目的とする。演習では、一人に一台の統一した環境下でWindowsパソコンと関連機器を利用した個別演習とグループワークを行い、情報社会への参画と情報倫理と情報セキュリティ、人工知能(AI)とデータ科学、クラウドコンピューティングと情報検索、アカデミックライティングを実現する構造的文書作成、化学構造式描画方法、学術活動に必要なデータ処理と分析、説明技術としてのプレゼンテーション、学術活動のための情報活用について学習する。	

科目名　情報科学演習

指導教員	年次・期間	単位	選必区分
永井純也	１年次・前期	1	必修

授業の目的と概要

情報社会である Society 4.0 をより融合かつ発展させた次世代コンセプト Society 5.0 が提唱され、医療現場においても技術革新に伴う診断や治療などに関連する業務のデジタル化・AI化が急速に進展している。
また、そのような著しい変化に対応するためには、最新の知見を入手するとともに、多くの情報の中からより適切かつ正確な情報を選別し、必要に応じて適正に加工並びに処理することで、社会にあふれる情報を効果的に還元できる能力が求められる。
本演習では、コンピュータを利用した学習を進めていく上で不可欠な情報社会・情報科学に関する知識と技能を修得することを目的とする。本演習科目で身についた知識と技能は、本学での６年間における学びに盛り込まれているアクティブラーニングや学術活動といった能動的学習において必要な情報活用の基盤となるものと位置づけられる。

一般目標（GIO）

情報社会の中で、適正な判断をするための必要な情報社会・情報科学に関する知識と技能を修得する。また、大学における学術活動を効果的に行うための必要な知識と技能を、本演習を通じて修得する。

授業の方法

情報活用教育として、Windows パソコンと関連機器を利用した個別演習とグループワークを行う。個別演習として、文書作成、データ処理と分析・グラフ描画、プレゼンテーションデータ作成、化学構造式作成などを行う。また、グループワークとしてレポート発表やプレゼンテーション発表の相互評価を行い、積極的、能動的な演習を行う。
入学以前の情報教育で修得した知識・技能は、個人差があるため、ＴＡを教室内に配置する。

成績評価

毎回の練習課題(50%)、総合課題(50%)を総合して評価する。定期試験は行わない。

試験、課題に対するフィードバック方法

授業内の課題のフィードバックは、翌回の授業時間内または、ポータルサイトにて行う。

学位授与方針との関連

「３．薬の専門家として必要な幅広い科学的知識・技能・態度を有している」の達成に寄与する。

関連する科目

関連科目：アカデミックスキル、情報科学
臨床系関連科目・内容：医薬品情報学、医療統計学

教科書

『情報リテラシー Windows10/Office2019 対応』　ＦＯＭ出版
『2020 年度版　情報倫理ハンドブック』　大石　博雄　noa 出版

参考書

『よくわかるスッキリ！Windows10』　ＦＯＭ出版
『Word2019 基礎』　ＦＯＭ出版
『Word2019 応用』　ＦＯＭ出版
『Excel2019 基礎』　ＦＯＭ出版
『Excel2019 応用』　ＦＯＭ出版
『PowerPoint2019 基礎』　ＦＯＭ出版
『PowerPoint2019 応用』　ＦＯＭ出版
『Society(ソサエティ) 5.0 人間中心の超スマート社会』日立東大ラボ　日本経済新聞出版
『Newton 別冊　ゼロからわかる人工知能 増補第 2 版』ニュートンプレス

授業計画

回	項目	到達目標（SBOs・コアカリキュラム番号）・授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	情報社会への参画と情報倫理と情報セキュリティ	情報社会に主体的に参画するための知識と態度、行動を身に付け、情報技術の進展が社会にどのような変化をもたらし、いかなる問題を生じうるかについて、技術、法律、倫理、活用の４つの面から重要性を学び、これらに関する知識と技能を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習１時間・事後学習１時間の合計２時間程度必要である。
2	人工知能(AI)とデータ科学	ディープラーニングなどの人工知能(AI)の実用化などの情報システムの高度化、データの広域・大量化及び IoT、ビッグデータ活用など情報技術革新の流れを踏まえ、Society5.0 に向けた情報化の進展についての知識を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習１時間・事後学習１時間の合計２時間程度必要である。
3	クラウドコンピューティングと情報検索	クラウドコンピューティングのサービスを利用して利点、問題点の理解を深めて、必要となったときに実践的な判断を可能とする知識と技術を修得す	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習１時間・事後学習１時間の合計２時

		る。 大学図書館と様々なインターネット上の情報源について、学術情報の視点から理解すると共に目的に沿った情報検索に関する知識と技能を修得する。	間程度必要である。
4	アカデミックライティングを実現する構造的文書作成	表題、見出し、図表、参考文献、校閲などを含む学術的な文書処理法の知識と技能を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習 1 時間・事後学習 1 時間の合計 2 時間程度必要である。
5	アカデミックライティングを実現する構造的文書作成	提示された課題に対して、より効果的なレポートを作成し、レポートを学生グループ内で相互評価を行い、フィードバックを踏まえ改善したものを作成し、処理する知識と技能を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習 1 時間・事後学習 1 時間の合計 2 時間程度必要である。
6	化学構造式描画方法	化学構造式描画ソフトを使用し、基本操作を理解し、化学結合・元素記号などの描画方法を理解し、医薬品の化学構造式の描画に関する知識と技能を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習 1 時間・事後学習 1 時間の合計 2 時間程度必要である。
7	学術活動に必要なデータ処理と分析	取得したデータを正確かつ適正に解析するために、表の標準的な構成法、入力の検査、集計、クロス集計、整列などを表計算処理の技能を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習 1 時間・事後学習 1 時間の合計 2 時間程度必要である。
8	学術活動に必要なデータ処理と分析	取得したデータを正確かつ適正に解析するために、集計・平均・最大・最少などの基本的な関数の設定、棒・折れ線・円のグラフ描画に関する知識と技能を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習 1 時間・事後学習 1 時間の合計 2 時間程度必要である。
9	説明技術としてのプレゼンテーション	タイトル、序論、本論、結論といった流れを意識した発表のアウトラインの作成や、発表内容を合わせ、文字での表現、また図解や表による文字以外での表現方法の知識と技能を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習 1 時間・事後学習 1 時間の合計 2 時間程度必要である。
10	説明技術としてのプレゼンテーション	聴衆を意識したスライドやポスターによる発表資料の作成方法や、作成したスライドやポスターを参照しながら、プレゼンテーションを効果的に実施するための知識を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習 1 時間・事後学習 1 時間の合計 2 時間程度必要である。
11	学術活動のための情報活用	文献収集や ICT を活用した情報収集を行うとともに、入手した情報を利用し、文書作成や表計算処理を駆使しながら、課題に関するレポートを作成する統合的な能力を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習 2 時間・事後学習 2 時間の合計 2 時間程度必要である。
12	学術活動のための情報活用	文献収集や ICT を活用した情報収集を行うとともに、入手した情報を文書作成ソフトや表計算処理ソフトなどを統合的に駆使しながらレポートを作成し、グループ内で客観的な相互評価を行い、フィードバックを踏まえ改善したものを提出する。課題を通じて、より効果的な課題解決能力を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習 2 時間・事後学習 2 時間の合計 2 時間程度必要である。

別記様式第３号（その１）

教　　員　　名　　簿

学　　長　　の　　氏　　名　　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
－	学長	オオツキ　ヨシノリ 大槻　勝紀 ＜平成27年6月＞		医学博士		大阪医科大学学長 （平成27年6月～令和3年3月）

（注）　高等専門学校にあっては校長について記入すること。

別記様式第３号（その２の１）

教　員　の　氏　名　等

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	マツムラ　ヒトシ 松村　人志 ＜令和3年4月＞		医学博士		医療薬学導入学習 薬物治療学１※ 薬物治療学３※ アドバンスト薬物治療学※ 薬学総合演習※ 特別演習・実習	1後 2前 3前 4後 6通 4～6前	4 1 3.4 0.2 0.3 4.7	4 2 2 1 1 1	大阪薬科大学薬学部教授 （平成22年4月）	5日
2	専	教授	オオモモ　ヨシロウ 大桃　善朗 ＜令和3年4月＞		薬学博士		アカデミックスキル 化学 応用放射化学 薬学基礎演習※ 分析化学実習 特別演習・実習	1前 1前 3後 4後 2前 4～6前	1 2 1 1 4 4.7	1 1 1 1 4 1	大阪薬科大学薬学部教授 （昭和59年4月）	5日
3	実専	教授	イノウエ　カオル 井上　薫 ＜令和3年4月＞		薬学学士		早期体験学習 臨床導入学習1 臨床導入学習2 病院実務実習 薬局実務実習	1通 4前 4後 5通 5通	1 12 1 10 10	1 4 1 1 1	大阪薬科大学薬学部教授（特任） （平成29年4月）	5日
4	実専	教授	オカダ　ヒロシ 岡田　博 ＜令和3年4月＞		薬学学士		臨床導入学習1 臨床導入学習2 病院実務実習 薬局実務実習	4前 4後 5通 5通	12 1 10 10	4 1 1 1	大阪薬科大学薬学部教授（特任） （平成29年4月）	5日
5	実専	教授	キン　ミ エ コ 金　美恵子 ＜令和3年4月＞		薬学学士		臨床導入学習1 臨床導入学習2 病院実務実習 薬局実務実習	4前 4後 5通 5通	12 1 10 10	4 1 1 1	大阪薬科大学薬学部教授（特任） （平成25年4月）	5日
6	実専	教授	カンバヤシユウコ 神林　祐子 ＜令和3年4月＞		博士(薬学)		臨床導入学習1 臨床導入学習2 病院実務実習 薬局実務実習	4前 4後 5通 5通	12 1 10 10	4 1 1 1	大阪薬科大学薬学部教授（特任） （平成30年4月）	5日
7	専	教授	オオノ　ユキヒロ 大野　行弘 ＜令和3年4月＞		医学博士		機能形態学１※ 機能形態学２ 薬理学１ 薬理学３ アドバンスト薬理学※ 統合薬学演習 薬理学実習 特別・演習実習	1後 2前 2前 3前 6前 6前 3後 4～6前	1.6 4 4 4 0.5 16 4 4.7	2 2 2 2 1 8 4 1	大阪薬科大学薬学部教授 （平成19年4月）	5日
8	専	教授	ウラタ　ヒデト 浦田　秀仁 ＜令和3年4月＞		薬学博士		基礎有機化学 有機化学１ 有機化学２ 有機化学３ 有機スペクトル学演習 有機化学４ 統合薬学演習 有機化学実習 特別演習・実習	1前 1後 2前 2後 2後 3前 6前 3前 4～6前	0.2 0.2 0.2 2 0.2 4 16 4 4.7	2 2 2 2 2 2 8 4 1	大阪薬科大学薬学部教授 （昭和62年4月）	5日
9	実専	教授	ワダ　キョウイチ 和田　恭一 ＜令和3年4月＞		博士(薬学)		臨床導入学習1 臨床導入学習2 病院実務実習 薬局実務実習	4前 4後 5通 5通	12 1 10 10	4 1 1 1	大阪薬科大学薬学部教授（特任） （平成30年4月）	5日
10	実専	教授	ナカムラ　トシアキ 中村　敏明 ＜令和3年4月＞		博士(医学)		薬学入門※ 早期体験学習 医療人マインド 専門職連携医療論 多職種融合（連携）ゼミ 医療薬学導入学習 医薬品情報学 キャリアデザイン概論 臨床導入学習１ 臨床導入学習２ 病院実務実習 薬局実務実習 統合薬学演習 薬学総合演習※ 特別演習・実習	1前 1通 1前 2後 6前 1後 3後 4前 4前 4後 5通 5通 6前 6通 4～6前	0.6 1 1 1 1 4 2 1 12 1 10 10 16 0.3 4.7	2 1 1 1 1 4 2 1 4 1 1 1 8 1 1	大阪薬科大学薬学部教授 （平成28年4月）	5日
11	専	教授	タニグチ　マサヒコ 谷口　雅彦 ＜令和3年4月＞		博士(薬学)		薬用植物学 薬用天然物化学 漢方・生薬学実習 特別演習・実習	1前 1後 2後 4～6前	2 4 4 4.7	2 2 4 1	大阪薬科大学薬学部教授 （平成元年4月）	5日
12	専	教授	オンダ　ミツコ 恩田　光子 ＜令和3年4月＞		博士(国際公共政策学)・博士(医学)		コミュニティファーマシー 臨床導入学習１ 臨床導入学習２ 薬学基礎演習※ 薬事関連法・制度 病院実務実習 薬局実務実習 特別演習・実習	4後 4前 4後 4後 4前 5通 5通 4～6前	2 12 1 0.1 4 10 10 4.7	2 4 1 1 2 1 1 1	大阪薬科大学薬学部教授 （平成18年4月）	5日
13	専	教授	トモコ スミス　朋子 ＜令和3年4月＞		博士(言語学)		英語リスニング１ 英語リスニング２ 英語スピーキング１ 英語スピーキング２ 薬学英語	1前 1後 2前 2後 4前	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	大阪薬科大学薬学部教授 （平成23年4月）	5日
14	専	教授	イワナガ　カズノリ 岩永　一範 ＜令和3年4月＞		博士(薬学)		コミュニケーション 臨床薬学概論 臨床導入学習１ 臨床導入学習２ 統合薬学演習 薬学総合演習※ 特別演習・実習	4前 3前 4前 4後 6前 6通 4～6前	2 2 12 1 16 3 4.7	2 2 4 1 8 1 1	大阪薬科大学薬学部教授 （平成4年11月）	5日
15	専	教授	ミヤザキ　マコト 宮崎　誠 ＜令和3年4月＞		博士(薬学)		アカデミックスキル 薬物速度論 薬学基礎演習※ 薬学総合演習※ 薬剤学実習 特別演習・実習	1前 3後 4後 6通 3後 4～6前	1 4 0.1 0.3 4 4.7	1 2 1 1 4 1	大阪薬科大学薬学部教授 （平成11年1月）	5日

教　員　の　氏　名　等

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
16	専	教授	フジモリ　コウ 藤森　功 ＜令和3年4月＞		博士 (農学)		薬学入門※ 生物学 機能形態学１※ 先端分子医科学※ 薬学基礎演習※ 統合薬学演習 薬学総合演習※ 生物科学実習 特別演習・実習	1前 1前 1後 4前 4後 6前 6通 3前 4～6前	0.2 2 2.4 0.1 0.1 16 0.3 4 4.7	2 2 2 1 1 8 1 4 1	大阪薬科大学薬学部教授 （平成19年4月）	5日
17	専	教授	サカモト　キョウコ 阪本　恭子 ＜令和3年4月＞		博士 (文学)		倫理と社会 薬学入門※ ドイツ語１ ドイツ語２ 生命医療倫理	1･2後 1前 1前 1後 3前	1 0.2 2 2 2	1 2 2 2 2	大阪薬科大学薬学部教授 （平成24年4月）	5日
18	専	教授	ナガイ　ジュンヤ 永井　純也 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		情報科学演習 薬学入門※ 医工薬連環科学※ 生物薬剤学１ 統合薬学演習 薬剤学実習 特別演習・実習	1前 1前 2前 2後 6前 3後 4～6前	4 0.2 0.3 2 16 4 4.7	4 2 1 2 8 4 1	大阪薬科大学薬学部教授 （平成26年4月）	5日
19	専	教授	コマノ　アツシ 駒野　淳 ＜令和3年4月＞		博士 (医学)		医療薬学導入学習 微生物学※ 病原微生物学 臨床感染症学※ 先端分子医科学※ アドバンスト薬物治療学※ 生物学実習 特別演習・実習	1後 2前 3後 4前 4前 4後 2前 4～6前	4 3 2 3.4 0.4 0.3 4 4.7	4 2 2 2 1 1 4 1	大阪薬科大学薬学部教授 （平成31年4月）	5日
20	専	教授	オオキタ　マモル 大喜多　守 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		薬理学２ 薬理学４ アドバンスト薬理学※ 薬学基礎演習※ 薬学総合演習※ 薬理学実習 特別・演習実習	2後 3後 6前 4後 6通 3後 4～6前	4 4 0.5 0.1 0.3 4 4.7	2 2 1 1 1 4 1	大阪薬科大学薬学部教授 （平成19年4月）	5日
21	専	教授	トヅカ　ユウイチ 戸塚　裕一 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		物理薬剤学※ 製剤設計学※ 統合薬学演習 薬剤学実習 特別演習・実習	3前 3後 6前 3後 4～6前	1.4 2.6 16 4 4.7	2 2 8 4 1	大阪薬科大学薬学部教授 （平成24年4月）	5日
22	実専	教授	ナカムラ　ツトム 中村　任 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		臨床薬物動態学 臨床導入学習１ 臨床導入学習２ 病院実務実習 薬局実務実習 統合薬学演習 薬学総合演習※ 特別演習・実習	4前 4前 4後 5通 5通 6前 6通 4～6前	2 12 1 10 10 16 0.3 4.7	2 4 1 1 1 8 1 1	大阪薬科大学薬学部教授 （平成28年4月）	5日
23	専	教授	フクモリ　アキオ 福森　亮雄 ＜令和3年4月＞		博士 (医学)		医療薬学導入学習 薬物治療学２※ 薬物治療学３※ アドバンスト薬物治療学※ 統合薬学演習 特別・演習実習	2後 3後 6前 4後 6前 4～6前	4 3 1.4 0.1 16 4.7	4 2 2 1 8 1	大阪薬科大学薬学部教授 （令和2年4月）	5日
24	専	教授	ヒラノ　トモヤ 平野　智也 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		基礎有機化学 有機化学１ 有機化学２ 有機化学３ 有機スペクトル学演習 有機化学４ 医薬品化学１ 医薬品化学２ 統合薬学演習 基礎有機化学実習 特別演習・実習	1前 1後 2前 2後 2後 3前 3後 4前 6前 1後 4～6前	0.2 0.2 0.2 0.2 0.2 0.2 4 2 16 4 4.7	2 2 2 2 2 2 2 2 8 4 1	大阪薬科大学薬学部教授 （平成31年4月）	5日
25	専	教授	オクヒラ　ケイイチロウ 奥平　桂一郎 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		衛生薬学１※ 衛生薬学３ 衛生薬学・放射化学実習 特別・演習実習	2後 3後 3後 4～6前	1.6 4 4 4.7	2 2 4 1	大阪薬科大学薬学部教授 （令和2年4月）	5日
26	専	教授	テンマ　タカシ 天滿　敬 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		薬学入門※ 分析化学１ 生物無機化学 統合薬学演習 分析化学実習 特別演習・実習	1前 1後 2前 6前 2前 4～6前	0.6 2 2 16 4 4.7	2 2 2 8 4 1	大阪薬科大学薬学部教授 （平成29年4月）	5日
27	実専	准教授	イジリ　ヨシオ 井尻　好雄 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		医療薬学導入学習 薬物治療学４※ 薬物治療学５※ 個別化医療※ アドバンスト薬物治療学※ 特別演習・実習	1後 3後 4前 4前 4後 4～6前	4 2.4 3.4 1.2 0.1 4.7	4 2 2 2 1 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成18年4月）	5日
28	専	准教授	イン　ヤスコ 尹　康子 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		化学 物理化学３※ 物理化学実習 特別演習・実習	1前 2後 2後 4～6前	2 0.6 4 4.7	1 2 4 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （昭和59年4月）	5日
29	専	准教授	タイマ　ナリヒト 当麻　成人 ＜令和3年4月＞		体育修士		身体運動科学 コーチング論（教養） スポーツ・運動１ スポーツ・運動２（教養）	1前 1･2前 1前 1･2後	2 1 4 1	2 1 4 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成5年4月）	5日
30	専	准教授	サカグチ　ミノル 坂口　実 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		基礎細胞生物学 先端分子医科学※ 生物学実習 特別演習・実習	1後 4前 2前 4～6前	4 0.1 4 4.7	2 1 4 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成元年6月）	5日
31	専	准教授	サクマ　サトル 佐久間　覚 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		衛生薬学１※ 衛生薬学２※ 薬学総合演習※ 衛生薬学・放射化学実習 特別演習・実習	2後 3前 6通 3後 4～6前	1.8 3.4 0.3 4 4.7	2 2 1 4 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （昭和62年4月）	5日

教　員　の　氏　名　等

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
32	専	准教授	ミヤモト　カツシロ 宮本　勝城 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		微生物学※ 生物科学実習 特別演習・実習	2前 3前 4～6前	1 4 4.7	2 4 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成2年4月）	5日
33	専	准教授	サトウ　タカジ 佐藤　卓史 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		アカデミックスキル 分析化学２ 応用分析学 薬学基礎演習※ 分析化学実習 特別演習・実習	1前 2前 3前 4後 2前 4～6前	1 4 2 0.1 4 4.7	1 2 2 1 4 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成4年8月）	5日
34	専	准教授	ナガタ　マコト 永田　誠 ＜令和3年4月＞		博士 (理学)		数理論理学（教養） 数学１ 数学２ 数理統計学	1･2前 1前 1後 2後	1 4 2 4	1 2 2 2	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成18年10月）	5日
35	専	准教授	ワダ　シュンイチ 和田　俊一 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		基礎有機化学 有機化学１ 有機化学２ 有機化学３ 有機スペクトル学演習 有機化学４ 薬学基礎演習※ 有機化学実習 特別演習・実習	1前 1後 2前 2後 2後 3前 4後 3前 4～6前	2 4 0.2 0.2 0.2 0.2 0.1 4 4.7	2 2 2 2 2 2 1 4 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成7年4月）	5日
36	専	准教授	シバノ　マキオ 芝野　真喜雄 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		早期体験学習 生薬学 基礎漢方薬学 漢方医学概論 漢方・生薬学実習 特別演習・実習	1通 2前 2後 6前 2後 4～6前	1 2 4 1 4 4.7	1 2 2 1 4 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成5年4月）	5日
37	専	准教授	ヤマダ　タケシ 山田　剛司 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		化学 基礎有機化学 有機化学１ 有機化学２ 有機化学３ 有機スペクトル学演習 有機化学４ 基礎有機化学実習 特別演習・実習	1前 1前 1後 2前 2後 2後 3前 1後 4～6前	2 0.2 0.2 0.2 0.2 2 0.2 4 4.7	1 2 2 2 2 2 2 4 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成6年4月）	5日
38	専	准教授	ミノウラ　カツヒコ 箕浦　克彦 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		化学 分析化学実習	1前 2前	2 4	1 4	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成4年4月）	5日
39	専	准教授	タケモト　ヒロキ 竹本　宏輝 ＜令和3年4月＞		博士 (理学)		アカデミックスキル 物理学１ 物理学２ 数学１ 数学２	1前 1前 1後 1前 1後	1 2 2 4 2	1 2 2 2 2	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成29年10月）	5日
40	専	准教授	モトハシ　ヒデユキ 本橋　秀之 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		生物薬剤学２ 薬剤学実習 特別演習・実習	3前 3後 4～6前	2 4 4.7	2 4 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成31年4月）	5日
41	実専	准教授	カドヤマ　カオリ 角山　香織 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		薬学入門※ 早期体験学習 医療人マインド 専門職連携医療論 多職種融合（連携）ゼミ 医療薬学導入学習 医薬品情報学 臨床導入学習１ 臨床導入学習２ 病院実務実習 薬局実務実習 特別演習・実習	1前 1通 1前 2後 6前 1後 3後 4前 4後 5通 5通 4～6前	0.2 1 1 1 1 4 2 12 1 10 10 4.7	2 1 1 1 1 4 2 4 1 1 1 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成28年4月）	5日
42	専	准教授	ホソハタ　ケイコ 細畑　圭子 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		医療統計学 個別化医療※ 臨床導入学習１ 臨床導入学習２ 特別演習・実習	4後 4前 4前 4後 4～6前	2 0.4 12 1 4.7	2 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成28年4月）	5日
43	専	准教授	コウダ　ユカ 幸田　祐佳 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		早期体験学習 医療薬学導入学習 薬物治療学２※ 薬物治療学３※ 薬物治療学４※ 薬物治療学５※ アドバンスト薬物治療学※ 特別演習・実習	1通 1後 2後 3前 3後 4前 4後 4～6前	1 4 0.8 0.6 1 0.6 0.1 14	1 4 2 2 2 2 1 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成10年4月）	5日
44	専	准教授	カトウ　リュウジ 加藤　隆児 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		早期体験学習 医療薬学導入学習 薬物治療学１※ 薬物治療学２※ 個別化医療※ アドバンスト薬物治療学※ 薬学基礎演習※ 病院実務実習 薬局実務実習 特別演習・実習	1通 1後 2前 2後 4前 4後 4後 5通 5通 4～6前	1 4 2.2 1.4 0.4 0.1 0.1 10 10 4.7	1 4 2 2 2 1 1 1 1 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成17年4月）	5日
45	専	准教授	ジョウシタ ケンイチ 城下　賢一 ＜令和3年4月＞		修士 (法学)		異文化言語演習１ 異文化言語演習２ 医療と法 社会保障論 医療政策論	3前 3後 3後 4前 4後	2 2 2 2 1	2 2 2 2 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成29年4月）	5日
46	専	准教授	カドタ カズノリ 門田　和紀 ＜令和3年4月＞		博士 (工学)		物理薬剤学※ 製剤設計学※ 薬剤学実習 特別演習・実習	3前 3後 3後 4～6前	2.6 1.4 4 4.7	2 2 4 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成25年4月）	5日

教　員　の　氏　名　等

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
47	専	准教授	ハセイ　トモヒロ 長谷井　友尋 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		アカデミックスキル 衛生薬学１※ 衛生薬学２※ 薬学基礎演習※ 衛生薬学・放射化学実習 特別演習・実習	1前 2後 3前 4後 3後 4～6前	1 0.6 0.6 0.1 4 4.7	1 2 2 1 4 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成30年4月）	5日
48	専	講師	フジタケ　ミホヨ 藤嶽　美穂代 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		化学 早期体験学習	1前 1通	2 1	1 1	大阪薬科大学薬学部講師 （昭和61年4月）	5日
49	専	講師	ヤマグチ　タカコ 山口　敬子 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		医療薬学導入学習 薬物治療学１※ 臨床化学 アドバンスト薬物治療学※ 特別演習・実習	1後 2前 3後 4後 4～6前	4 0.8 1 0.1 4.7	4 2 1 1 1	大阪薬科大学薬学部講師 （平成元年10月）	5日
50	専	講師	カワイ　ヨシコ 河合　悦子 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		アカデミックスキル 医薬品安全性学 薬理学実習	1前 4前 3後	1 1 4	1 1 4	大阪薬科大学薬学部講師 （昭和63年4月）	5日
51	専	講師	ヒラタ　マサヒコ 平田　雅彦 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		化学 放射化学 衛生薬学・放射化学実習 特別演習・実習	1前 3前 3後 4～6前	2 2 4 4.7	1 2 4 1	大阪薬科大学薬学部講師 （平成6年4月）	5日
52	専	講師	ヤマオキ　ルミ 山沖　留美 ＜令和3年4月＞		博士 (工学)		化学 衛生薬学・放射化学実習	1前 3後	2 4	1 4	大阪薬科大学薬学部講師 （平成3年4月）	5日
53	専	講師	タナベ　クミコ 田邊　久美子 ＜令和3年4月＞		博士 (文学)		英語リスニング１ 英語リスニング２ 英語ライティング１ 英語ライティング２ 異文化言語演習１ 異文化言語演習２	1前 1後 2前 2後 3前 3後	2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成29年4月）	5日
54	専	講師	ツチヤ　タカヒロ 土屋　孝弘 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		免疫学 先端分子医科学※ 生物学実習 特別演習・実習	3前 4前 2前 4～6前	4 0.1 4 4.7	2 1 4 1	大阪薬科大学薬学部講師 （平成17年4月）	5日
55	実専	講師	ウチダ　マヤコ 内田　まやこ ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		薬物治療学４※ 臨床導入学習１ 臨床導入学習２ 特別演習・実習	3後 4前 4後 4～6前	0.6 12 1 4.7	2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部講師 （平成28年4月）	5日
56	専	助教	タケバヤシ　ユミコ 竹林　裕美子 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		薬剤学実習 特別演習・実習	3後 4～6前	4 4.7	4 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成28年4月）	5日
57	実専	助教	ハダ　リエ 羽田　理恵 ＜令和3年4月＞		学士 (薬学)		早期体験学習 多職種融合（連携）ゼミ 臨床導入学習１ 臨床導入学習２ 病院実務実習 薬局実務実習 特別演習・実習	1通 6前 4前 4後 5通 5通 4～6前	1 1 12 1 10 10 4.7	1 1 4 1 1 1 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成10年4月）	5日
58	専	助教	カナイ　ヤスカズ 金井　泰和 ＜令和3年4月＞		博士 (医学)		特別演習・実習	4～6前	4.7	1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成30年4月）	5日
59	専	助教	タナカ　サトシ 田中　智 ＜令和3年4月＞		博士 (薬科学)		生物学実習 特別演習・実習	2前 4～6前	4 4.7	4 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成23年4月）	5日
60	専	助教	フジイ　トシヒロ 藤井　俊裕 ＜令和3年4月＞		博士 (理学)		生物科学実習 特別演習・実習	3前 4～6前	4 4.7	4 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成28年10月）	5日
61	専	助教	コイケ　アツシ 小池　敦資 ＜令和3年4月＞		博士 (医学)		衛生薬学・放射化学実習 特別演習・実習	3後 4～6前	4 4.7	4 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成23年8月）	5日
62	専	助教	ヨネヤマ　ヒロキ 米山　弘樹 ＜令和3年4月＞		博士 (薬科学)		基礎有機化学 有機化学１ 有機化学２ 有機化学３ 有機スペクトル学演習 有機化学４ 有機化学実習 特別演習・実習	1前 1後 2前 2後 2後 3前 3前 4～6前	0.2 0.2 0.2 0.2 0.4 0.2 4 4.7	2 2 2 2 2 2 4 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成23年4月）	5日
63	専	助教	キクチ　タカシ 菊地　崇 ＜令和3年4月＞		博士 (工学)		基礎有機化学 有機化学１ 有機化学２ 有機化学３ 有機スペクトル学演習 有機化学４ 基礎有機化学実習 特別演習・実習	1前 1後 2前 2後 2後 3前 1後 4～6前	0.2 0.2 0.2 0.2 0.2 0.2 4 4.7	2 2 2 2 2 2 4 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成23年4月）	5日
64	専	助教	タナカ　マルノ　サオリ 田中（丸野）　早織 ＜令和3年4月＞		博士 (薬科学)		早期体験学習 医療薬学導入学習 特別演習・実習	1通 1後 4～6前	1 4 4.7	1 4 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成23年4月）	5日
65	専	助教	クラタ　リホ 倉田　里穂 ＜令和3年4月＞		博士 (医学)		アカデミックスキル 生物学実習 特別演習・実習	1前 2前 4～6前	1 4 4.7	1 4 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成30年4月）	5日
66	専	助教	アズマ　タカシ 東　剛志 ＜令和3年4月＞		博士 (工学)		衛生薬学・放射化学実習 特別演習・実習	3後 4～6前	4 4.7	4 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成24年4月）	5日
67	専	助教	ウチヤマ　ヒロマサ 内山　博雅 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		薬剤学実習 特別演習・実習	3後 4～6前	4 4.7	4 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成28年8月）	5日
68	専	助教	ハヤマ　ノボル 葉山　登 ＜令和3年4月＞		博士 (薬科学)		基礎有機化学 有機化学１ 有機化学２ 有機化学３ 有機スペクトル学演習 有機化学４ 有機化学実習 特別演習・実習	1前 1後 2前 2後 2後 3前 3前 4～6前	0.2 0.2 0.2 0.2 0.4 0.2 4 4.7	2 2 2 2 2 2 4 1	大阪薬科大学薬学部助教 （令和2年4月）	5日
69	専	助教	シミズ　フジイ　サキ 清水（藤井）　佐紀 ＜令和3年4月＞		博士 (薬科学)		アドバンスト薬理学※ 薬理学実習 特別・演習実習	6前 3後 4～6前	0.5 4 4.7	1 4 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成23年10月）	5日

教　員　の　氏　名　等

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
70	専	助教	ショウジ　マサキ 庄司　雅紀 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		臨床導入学習１ 臨床導入学習２ 特別演習・実習	4前 4後 4～6前	12 1 4.7	4 1 1	大阪薬科大学薬学部助教（平成28年4月）	5日
71	専	助教	ヒラタ　ヨシユキ 平田　佳之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		基礎有機化学 有機化学１ 有機化学２ 有機化学３ 有機スペクトル学演習 有機化学４ 漢方・生薬学実習 特別演習・実習	1前 1後 2前 2後 2後 3前 2後 4～6前	0.2 0.2 0.2 0.2 0.2 0.2 4 4.7	2 2 2 2 2 2 4 1	大阪薬科大学薬学部助教（平成26年4月）	5日
72	専	助教	コンドウ　ナオヤ 近藤　直哉 ＜令和3年4月＞		博士（薬科学）		分析化学実習 特別演習・実習	2前 4～6前	4 4.7	4 1	大阪薬科大学薬学部助教（平成29年8月）	5日
73	専	助教	マエハラ　ト　ウ　コ 前原　都有子 ＜令和3年4月＞		博士（獣医学）		生物科学実習 特別演習・実習	3前 4～6前	4 4.7	4 1	大阪薬科大学薬学部助教（平成30年4月）	5日
74	専	助教	ハヤシジュンスケ 林　淳祐 ＜令和3年4月＞		博士（薬科学）		基礎有機化学 有機化学１ 有機化学２ 有機化学３ 有機スペクトル学演習 有機化学４ 基礎有機化学実習 特別演習・実習	1前 1後 2前 2後 2後 3前 1後 4～6前	0.2 0.2 0.2 0.2 0.4 0.2 4 4.7	2 2 2 2 2 2 4 1	大阪薬科大学薬学部助教（平成26年4月）	5日
75	専	助教	カトウ　タクマ 加藤　巧馬 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		物理化学実習 特別演習・実習	2後 4～6前	4 4.7	4 1	大阪薬科大学薬学部助教（平成29年4月）	5日
76	専	助教	クニサワ　ナオフミ 國澤　直史 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		アドバンスト薬理学※ 薬理学実習 特別・演習実習	6前 3後 4～6前	0.5 4 4.7	1 4 1	大阪薬科大学薬学部助教（令和元年6月）	5日
77	兼担	教授	イノウエ　セイジ 井上　晴嗣 ＜令和3年4月＞		理学博士		アカデミックスキル 生化学２ 生物科学実習 特別演習・実習	1前 2前 3前 4～6前	1 4 4 4.7	1 2 4 1	大阪薬科大学薬学部教授（昭和60年4月）	
78	兼担	教授	ドイ　ミツノブ 土井　光暢 ＜令和3年4月＞		薬学博士		物理化学１ 物理化学２ 統合薬学演習 物理化学実習 特別演習・実習	1後 2前 6前 2後 4～6前	2 2 16 4 4.7	2 2 8 4 1	大阪薬科大学薬学部教授（昭和58年4月）	
79	兼担	教授	フクナガ　リ　キ　ロウ 福永　理己郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		キャリアデザイン概論 分子生物学 分子細胞生物学 先端分子医科学※ 生物科学実習 特別演習・実習	4前 2後 3前 4前 3前 4～6前	1 4 4 0.3 4 4.7	1 2 2 1 4 1	大阪薬科大学薬学部教授（平成22年11月）	
80	兼担	教授	ウサミ　ヨシヒデ 宇佐美　吉英 ＜令和3年4月＞		薬学博士		基礎有機化学 有機化学１ 有機化学２ 有機化学３ 有機スペクトル学演習 有機化学４ 精密有機合成化学 薬学総合演習※ 基礎有機化学実習 有機化学実習 特別演習・実習	1前 1後 2前 2後 2後 3前 3後 6通 1後 3後 4～6前	0.2 0.2 4 0.2 0.2 0.2 1 0.3 4 4 4.7	2 2 2 2 2 2 1 1 4 4 1	大阪薬科大学薬学部教授（平成元年4月）	
81	兼担	教授	ウキムラ　サトシ 浮村　聡 ＜令和3年4月＞		医学博士		臨床感染症学※	4前	0.6	2	大阪医科大学医学部教授（昭和63年4月）	
82	兼担	教授	テラサキ　フミオ 寺崎　文生 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		医工薬連環科学※	2前	0.3	1	大阪医科大学医学部教授（平成3年6月）	
83	兼担	准教授	トモオ　コウジ 友尾　幸司 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		物理化学３※ 生物物理化学 薬学総合演習※ 物理化学実習 特別演習・実習	2後 4前 6通 2後 4～6前	1.4 1 0.3 4 4.7	2 1 1 4 1	大阪薬科大学薬学部准教授（平成4年4月）	
84	兼担	講師	フジイ　シノブ 藤井　忍 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		生化学１ 生物科学実習 特別演習・実習	1後 3前 4～6前	4 4 4.7	2 4 1	大阪薬科大学薬学部講師（平成4年4月）	
85	兼担	講師	アサノ　アキコ 浅野　晶子 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		化学 早期体験学習 物理化学実習 特別演習・実習	1前 1通 2後 4～6前	2 1 4 4.7	1 1 4 1	大阪薬科大学薬学部講師（平成8年4月）	
86	兼任	講師	クスノセ　タケアキ 楠瀬　健昭 ＜令和3年4月＞		文学士		英語リーディング１ 英語リーディング２ 異文化言語演習１ 異文化言語演習２	1前 1後 3前 3後	2 2 2 2	2 2 2 2	大阪薬科大学教授（平成3年4月）	
87	兼任	講師	コウザキ　ヨウコ 神前　陽子 ＜令和3年4月＞		教育学博士		英語リスニング１ 英語リスニング２ 薬学英語	1前 1後 4前	2 2 2	2 2 2	大阪薬科大学非常勤講師（平成27年4月）	
88	兼任	講師	Richard Owen Guard ＜令和3年4月＞		M. A.		英語スピーキング１ 英語スピーキング２ 英語ライティング１ 英語ライティング２	2前 2後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 2 2	京都大学非常勤講師（平成31年4月）	
89	兼任	講師	ナカムラ　メグミ 中村　恵 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		異文化言語演習１ 異文化言語演習２	3前 3後	2 2	2 2	大阪薬科大学非常勤講師（平成11年4月）	
90	兼任	講師	クラタ　ジュンイチ 倉田　純一 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		医工薬連環科学※	2前	0.4	1	関西大学准教授（平成19年4月）	
91	兼任	講師	ハヤシタケフミ 林　武文 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		情報科学	1･2後	1	1	関西大学総合情報学部教授（平成13年4月）	
92	兼任	講師	チン　ホウ　カミヨシ　マホ 陳　鳳（神吉　真鳳） ＜令和3年4月＞		博士（現代社会学）		中国語１ 中国語２	1前 1後	2 2	2 2	関西学院大学非常勤講師（平成30年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（大阪医科大学　薬学部薬学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
93	兼任	講師	サトウ　マナミ 佐藤　真奈美 ＜令和3年4月＞		M．S．		英語スピーキング１ 英語スピーキング２	2前 2後	2 2	2 2	ECC外語学院英会話講師 （平成元年3月）	
94	兼任	講師	ハシグチ　マサミ 橋口　雅美 ＜令和3年4月＞		文学士 教育学 (体育)		スポーツ・運動１	1前	4	4	大阪薬科大学非常勤講師 （平成17年4月）	
95	兼任	講師	シ キ　タカヒト 氏木　孝仁 ＜令和3年4月＞		B．A．		英語ライティング１ 英語ライティング２	2前 2後	2 2	2 2	神戸市外国語大学非常勤講師 （平成16年4月）	
96	兼任	講師	ムラキ　ミキコ 村木　美紀子 ＜令和3年4月＞		M．S．		薬学英語	4前	2	2	多文化共生センターきょうと医療通訳者 （平成27年5月）	
97	兼任	講師	イトウ　シンヤ 伊藤　信也 ＜令和3年4月＞		博士 (文学)		異文化言語演習１ 異文化言語演習２	3前 3後	2 2	2 2	大阪薬科大学非常勤講師 （平成17年4月）	
98	兼任	講師	フジモト　コウジ 藤本　幸治 ＜令和3年4月＞		文学 修士		英語リーディング１ 英語リーディング２ 異文化言語演習１ 異文化言語演習２	1前 1後 3前 3後	2 2 2 2	2 2 2 2	京都外国語大学教授 （平成16年4月）	
99	兼任	講師	タケイ　ノリコ 武井　紀子 ＜令和3年4月＞		修士 (言語文化学)		英語リスニング１ 英語リスニング２	1前 1後	2 2	2 2	桃山学院大学非常勤講師 （平成23年4月）	
100	兼任	講師	イ　ウンスク 李　銀淑 ＜令和3年4月＞		修士 (言語文化学)		ハングル１ ハングル２	1前 1後	2 2	2 2	大阪韓国語教育院院長 （平成20年1月）	
101	兼任	講師	マスヤ　ケイイチ 桝矢　桂一 ＜令和3年4月＞		博士 (人間・環境学)		異文化言語演習１ 異文化言語演習２	3前 3後	2 2	2 2	大阪薬科大学非常勤講師 （平成11年4月）	
102	兼任	講師	イノウエ　ミチコ 井上　径子 ＜令和3年4月＞		修士 (文学)		英語リーディング１ 英語リーディング２	1前 1後	2 2	2 2	滋賀短期大学非常勤講師 （平成22年4月）	
103	兼任	講師	ナカモト　ゴウジ 中本　剛二 ＜令和3年4月＞		博士 (文学)		文化人類学 異文化言語演習１	1・2後 3前	1 2	1 2	大阪大学大学院特任研究員 （平成31年2月）	
104	兼任	講師	ツル　シンイチ 鶴　真一 ＜令和3年4月＞		博士 (文学)		人間と宗教 異文化言語演習２	1・2後 3後	1 2	1 2	京都大学非常勤講師 （平成22年4月）	
105	兼任	講師	シャ　セイトク 謝　政徳 ＜令和3年4月＞		博士 (法学)		法と社会	1・2前	1	1	京都精華大学非常勤講師 （平成26年4月）	
106	兼任	講師	カワノ　コウジ 河野　康治 ＜令和3年4月＞		修士 (人間・環境学)		地球環境論	1・2前	1	1	大阪商業大学非常勤講師 （平成27年10月）	
107	兼任	講師	カワバタ　ヤスオ 川端　康雄 ＜令和3年4月＞		修士 (学術)		医療心理学	2後	2	2	大阪医科大学神経精神医学教室臨床心理士（平成20年4月）	
108	兼任	講師	ドイ　マリコ 土井　麻里子 ＜令和3年4月＞		博士 (医学)		情報科学	1・2後	1	1	国立保健医療科学院政策技術評価研究部主任研究官（平成30年4月）	
109	兼任	講師	アマ　ガセ　タケイ　ヨウコ 天ヶ瀬（武井）　葉子 ＜令和3年4月＞		Ｐｈ．Ｄ．		薬学英語	4前	2	2	同志社女子大学薬学部特別任用助教 （平成25年4月）	
110	兼任	講師	シモカワ　トシオ 下川　敏雄 ＜令和3年4月＞		博士 (工学)		情報科学	1・2後	1	1	和歌山県立医科大学臨床研究センター教授（平成28年7月）	
111	兼任	講師	ホリ　トモコ 堀　明子 ＜令和3年4月＞		修士 (言語文化学)		英語ライティング１ 英語ライティング２ 薬学英語	2前 2後 4前	2 2 2	2 2 2	大阪大学非常勤講師 （平成20年4月）	
112	兼任	講師	ミヤタ　マキ 宮田　真希 ＜令和3年4月＞		学士 (体育学)		スポーツ・運動１	1前	4	4	ピラティス&フィットネススタジオPersonalspace「m's den」代表 （平成30年10月）	
113	兼任	講師	モンカワ　ヒロミ 門川　裕美 ＜令和3年4月＞		学士 (体育学)		スポーツ・運動１	1前	4	4	大阪薬科大学非常勤講師 （平成18年4月）	
114	兼任	講師	マツモト　ショウコ 松本　承子 ＜令和3年4月＞		博士 (言語社会学)		文学の世界	1・2前	1	1	神戸市外国語大学非常勤講師 （平成29年4月）	
115	兼任	講師	キムラ　ジュン 木村　純 ＜令和3年4月＞		修士 (人間・環境学)		異文化言語演習１ 異文化言語演習２	3前 3後	2 2	2 2	立命館大学産業社会学部授業担当講師 （平成30年9月）	
116	兼任	講師	キタムラ　サトシ 北村　知史 ＜令和3年4月＞		修士 (アメリカ研究)		政治と社会	1・2前	1	1	関西外国語大学非常勤講師 （平成28年4月）	
117	兼任	講師	Duncan　Brotherton ＜令和3年4月＞		B．A．		英語スピーキング１ 英語スピーキング２	2前 2後	2 2	2 2	奈良芸術短期大学講師 （平成28年4月）	
118	兼任	講師	オオガミ　ユウイチロウ 大神　雄一郎 ＜令和3年4月＞		博士 (言語文化学)		英語リーディング１ 英語リーディング２	1前 1後	2 2	2 2	大阪大学大学院言語文化研究科助教（平成30年4月）	
119	兼任	講師	ゼニヒロ　ショウヘイ 銭廣　承平 ＜令和3年4月＞		修士 (人間・環境学)		社会分析の基礎	1・2後	1	1	椙山女学園大学非常勤講師 （平成25年9月）	
120	兼任	講師	マスギ　ユリ 眞杉　侑里 ＜令和3年4月＞		博士 (人文学)		歴史と社会	1・2前	1	1	立命館大学授業担当講師 （平成30年4月）	
121	兼任	講師	タニオカ　ケンスケ 谷岡　健資 ＜令和3年4月＞		博士 (文化情報学)		情報科学	1・2後	1	1	和歌山県立医科大学附属病院臨床研究センター助教（平成28年4月）	
122	兼任	講師	ベ　ジュンソブ ＜令和3年4月＞		修士 (政治学)		経済の世界	1・2前	1	1	大阪薬科大学非常勤講師 （平成31年4月）	
123	兼任	講師	ナカタ　ユウキ 中田　友貴 ＜令和3年4月＞		修士 (文学)		基礎心理学	1・2前	1	1	立命館大学OIC総合研究機構専門研究員 （令和2年4月）	

別記様式第３号（その２の１）

教　員　の　氏　名　等

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	イノウエ　セイジ 井上　晴嗣 ＜令和3年4月＞		理学博士		生化学２ バイオインフォマティクス 生物科学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	2前 4前 3前 4前 4後	3 1.5 4 5 6	2 1 4 1 1	大阪薬科大学薬学部教授 （昭和60年4月）	5日
2	専	教授	ドイ　ミツノブ 土井　光暢 ＜令和3年4月＞		薬学博士		物理化学１ 物理化学２ 基礎薬学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1後 2前 1前 4前 4後	3 3 2 5 6	2 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部教授 （昭和58年4月）	5日
3	専	教授	フクナガ　リキロウ 福永　理己郎 ＜令和3年4月＞		理学博士		生化学３ 分子細胞生物学 生物科学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	2後 3前 3前 4前 4後	3 3 4 5 6	2 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部教授 （平成22年11月）	5日
4	専	教授	ウサミ　ヨシヒデ 宇佐美　吉英 ＜令和3年4月＞		薬学博士		基礎有機化学 有機化学１ 有機化学２ 有機化学３ 有機スペクトル解析学 有機化学４ 合成化学 薬品合成化学 基礎有機化学実習 有機化学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1前 1後 2前 2後 2後 3前 3後 4前 1後 3前 4前 4後	0.2 0.2 3 0.2 1 0.2 3 1.5 4 4 5 6	2 2 2 2 2 2 2 1 4 4 1 1	大阪薬科大学薬学部教授 （平成元年4月）	5日
5	専	准教授	トモオ　コウジ 友尾　幸司 ＜令和3年4月＞		博士(薬学)		物理化学３※ 生物物理化学 分子設計学 物理・放射化学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	2後 4前 4前 2後 4前 4後	2 1.5 1.5 4 5 6	2 1 1 4 1 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成4年4月）	5日
6	専	講師	フジイ　シノブ 藤井　忍 ＜令和3年4月＞		博士(薬学)		生化学１ 生物科学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1後 3前 4前 4後	3 4 5 6	2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部講師 （平成4年4月）	5日
7	専	講師	アサノ　アキコ 浅野　晶子 ＜令和3年4月＞		博士(薬学)		化学 化学演習 早期体験学習１ 基礎薬学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1前 1前 1通 1前 4前 4後	1 1 1 2 5 6	1 1 1 4 1 1	大阪薬科大学薬学部講師 （平成8年4月）	5日
8	兼担	教授	マツムラ　ヒトシ 松村　人志 ＜令和3年4月＞		医学博士		早期体験学習２ 人体の構造と病態１※ 薬物治療学１※ 薬物治療学３※ 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1後 1前 2前 3前 4前 4後	2 2.4 0.8 1.6 5 6	4 2 2 2 1 1	大阪薬科大学薬学部教授 （平成22年4月）	
9	兼担	教授	オオモモ　ヨシロウ 大桃　善朗 ＜令和3年4月＞		薬学博士		化学 応用放射化学 基礎薬学実習 分析化学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1前 3後 1前 2前 4前 4後	1 1 2 4 5 6	1 1 4 4 1 1	大阪薬科大学薬学部教授 （昭和59年4月）	
10	兼担	教授	イノウエ　カオル 井上　薫 ＜令和3年4月＞		薬学学士		早期体験学習１	1通	1	1	大阪薬科大学薬学部教授（特任） （平成29年4月）	
11	兼担	教授	オオノ　ユキヒロ 大野　行弘 ＜令和3年4月＞		医学博士		機能形態学１※ 機能形態学２ 薬理学１ 薬理学３ 薬理学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1後 2前 2後 3後 3後 4前 4後	1.2 3 3 3 4 5 6	2 2 2 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部教授 （平成19年4月）	
12	兼担	教授	ウラタ　ヒデト 浦田　秀仁 ＜令和3年4月＞		薬学博士		基礎有機化学 有機化学１ 有機化学２ 有機化学３ 有機スペクトル解析学 有機化学４ 有機化学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1前 1後 2前 2後 2後 3前 3前 4前 4後	0.2 0.2 0.2 3 1 3 4 5 6	2 2 2 2 2 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部教授 （昭和62年4月）	
13	兼担	教授	ナカムラ　トシアキ 中村　敏明 ＜令和3年4月＞		博士(医学)		薬学入門※ 早期体験学習１ 早期体験学習２ 医薬品情報学	1前 1通 1後 3後	0.6 1 2 1	2 1 4 2	大阪薬科大学薬学部教授 （平成28年4月）	
14	兼担	教授	タニグチ　マサヒコ 谷口　雅彦 ＜令和3年4月＞		博士(薬学)		薬用天然物化学１ 薬用天然物化学２ 漢方・生薬学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	2後 3前 2後 4前 4後	3 3 2 5 6	2 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部教授 （平成元年4月）	
15	兼担	教授	トモコ スミス　朋子 ＜令和3年4月＞		博士(言語学)		英語リスニング１ 英語リスニング２ 英語スピーキング１ 英語スピーキング２	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 2 2	大阪薬科大学薬学部教授 （平成23年4月）	
16	兼担	教授	イワナガ　カズノリ 岩永　一範 ＜令和3年4月＞		博士(薬学)		コミュニケーション	3前	3	2	大阪薬科大学薬学部教授 （平成4年11月）	

教　員　の　氏　名　等

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
17	兼担	教授	ミヤザキ　マコト 宮崎　誠 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		薬剤学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	3後 4前 4後	4 5 6	4 1 1	大阪薬科大学薬学部教授（平成11年1月）	
18	兼担	教授	フジモリ　コウ 藤森　功 ＜令和3年4月＞		博士（農学）		生物学 薬学入門※ 機能形態学１※ 病態生化学 生物科学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1前 1前 1後 3後 3前 4前 4後	2 0.2 1.8 3 4 5 6	2 2 2 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部教授（平成19年4月）	
19	兼担	教授	サカモト　キョウコ 阪本　恭子 ＜令和3年4月＞		博士（文学）		倫理と社会（教養） 薬学入門※ ドイツ語１ ドイツ語２	1･2後 1前 1前 1後	1 0.2 2 2	1 2 2 2	大阪薬科大学薬学部教授（平成24年4月）	
20	兼担	教授	ナガイ　ジュンヤ 永井　純也 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		情報科学演習 薬学入門※ 医工薬連環科学※ 生物薬剤学１ 薬物動態解析学 薬剤学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1前 1前 2前 2後 3後 3後 4前 4後	4 0.2 0.5 3 3 4 5 6	4 2 1 2 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部教授（平成26年4月）	
21	兼担	教授	コマノ　アツシ 駒野　淳 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		微生物学※ 病原微生物学 早期体験学習２ 人体の構造と病態２※ 生物学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	2前 2後 1後 1後 2前 4前 4後	2.2 3 2 0.9 4 5 6	2 2 4 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部教授（平成31年4月）	
22	兼担	教授	オオキタ　マモル 大喜多　守 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		薬理学２ 薬理学４ 薬理学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	3前 4前 3後 4前 4後	3 1.5 4 5 6	2 1 4 1 1	大阪薬科大学薬学部教授（平成19年4月）	
23	兼担	教授	トヅカ　ユウイチ 戸塚　裕一 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		物理薬剤学※ 製剤学※ 薬剤学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	3前 3後 3後 4前 4後	1 2 4 5 6	2 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部教授（平成24年4月）	
24	兼担	教授	フクモリ　アキオ 福森　亮雄 ＜令和3年4月＞		博士（医学）		早期体験学習２ 薬物治療学２※ 薬物治療学３※ 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1後 2後 3前 4前 4後	2 2.2 1 5 6	4 2 2 1 1	大阪薬科大学薬学部教授（令和2年4月）	
25	兼担	教授	ヒラノ　トモヤ 平野　智也 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		基礎有機化学 有機化学１ 有機化学２ 有機化学３ 有機スペクトル解析学 有機化学４ 医薬品化学 基礎有機化学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1前 1後 2前 2後 2後 3前 4前 1後 4前 4後	0.2 0.2 0.2 0.2 1 0.2 1.5 4 5 6	2 2 2 2 2 2 1 4 1 1	大阪薬科大学薬学部教授（平成31年4月）	
26	兼担	教授	オクヒラ　ケイイチロウ 奥平　桂一郎 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		衛生薬学１※ 衛生薬学３ 衛生薬学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	2後 3前 3後 4前 4後	1.2 3 4 5 6	2 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部教授（令和2年4月）	
27	兼担	教授	テンマ　タカシ 天滿　敬 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		薬学入門※ 分析化学１ 生物無機化学 分析化学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1前 1後 2前 2前 4前 4後	0.6 3 3 4 5 6	2 2 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部教授（平成29年4月）	
28	兼担	准教授	イジリ　ヨシオ 井尻　好雄 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		早期体験学習２ 人体の構造と病態２※ 薬物治療学４※ 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1後 1後 3後 4前 4後	2 1.2 1.8 5 6	4 2 2 1 1	大阪薬科大学薬学部准教授（平成18年4月）	
29	兼担	准教授	イン　ヤスコ 尹　康子 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		化学 化学演習 物理化学３※ 物理・放射化学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1前 1前 2後 2後 4前 4後	1 1 1 4 5 6	1 1 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部准教授（昭和59年4月）	
30	兼担	准教授	タイマ　ナリヒト 当麻　成人 ＜令和3年4月＞		体育修士		身体運動科学 コーチング論（教養） スポーツ・運動実習１ スポーツ・運動実習２(教養)	1前 1･2後 1前 1･2後	2 1 4 1	2 1 4 1	大阪薬科大学薬学部准教授（平成5年4月）	
31	兼担	准教授	サカグチ　ミノル 坂口　実 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		基礎細胞生物学 生物学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1後 2前 4前 4後	3 4 5 6	2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部准教授（平成元年6月）	
32	兼担	准教授	サクマ　サトル 佐久間　覚 ＜令和3年4月＞		博士（薬学）		衛生薬学１※ 衛生薬学２※ 衛生薬学４ 衛生薬学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	2後 3前 3後 3後 4前 4後	1.4 2.6 3 4 5 6	2 2 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部准教授（昭和62年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
33	兼担	准教授	ミヤモト　カツシロ 宮本　勝城 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		微生物学※ ゲノム医科学 生物科学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	2前 3前 3前 4前 4後	0.8 3 4 5 6	2 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成2年4月）	
34	兼担	准教授	サトウ　タカジ 佐藤　卓史 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		分析化学２ 応用分析学 分析化学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	2前 3前 2前 4前 4後	3 3 4 5 6	2 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成4年8月）	
35	兼担	准教授	ナガタ　マコト 永田　誠 ＜令和3年4月＞		博士 (理学)		数理論理学（教養） 数学１ 数学２ 数理統計学	1･2後 1前 1後 2前	1 2 2 3	1 2 2 2	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成18年10月）	
36	兼担	准教授	ワダ　シュンイチ 和田　俊一 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		基礎有機化学 有機化学１ 有機化学２ 有機化学３ 有機スペクトル解析学 有機化学４ 有機化学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1前 1後 2前 2後 2後 3前 3前 4前 4後	2 3 0.2 0.2 1 0.2 4 5 6	2 2 2 2 2 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成7年4月）	
37	兼担	准教授	シバノ　マキオ 芝野　真喜雄 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		早期体験学習１ 生薬学 基礎漢方薬学 漢方・生薬学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1通 1後 2前 2後 4前 4後	1 3 3 2 5 6	1 2 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成5年4月）	
38	兼担	准教授	ヤマダ　タケシ 山田　剛司 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		化学 化学演習 基礎有機化学 有機化学１ 有機化学２ 有機化学３ 有機スペクトル解析学 有機化学４ 基礎有機化学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1前 1前 1前 1後 2前 2後 2後 3前 1後 4前 4後	1 1 0.2 0.2 0.2 0.2 3 0.2 4 5 6	1 1 2 2 2 2 2 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成6年4月）	
39	兼担	准教授	ミノウラ　カツヒコ 箕浦　克彦 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		化学 化学演習 分析化学実習	1前 1前 2前	1 1 4	1 1 4	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成4年4月）	
40	兼担	准教授	タケモト　ヒロキ 竹本　宏輝 ＜令和3年4月＞		博士 (理学)		物理学１ 物理学２ 数学１ 数学２	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	2 2 2 2	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成29年10月）	
41	兼担	准教授	モトハシ　ヒデユキ 本橋　秀之 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		生物薬剤学２ 薬剤学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	3前 3後 4前 4後	3 4 5 6	2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成31年4月）	
42	兼担	准教授	カドヤマ　カオリ 角山　香織 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		薬学入門※ 早期体験学習１ 早期体験学習２ 医薬品情報学	1前 1通 1後 3後	0.2 1 2 1	2 1 4 2	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成28年4月）	
43	兼担	准教授	ホソハタ　ケイコ 細畑　圭子 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		医療統計学	3後	2	2	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成28年4月）	
44	兼担	准教授	コウダ　ユカ 幸田　祐佳 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		早期体験学習１ 早期体験学習２ 人体の構造と病態１※ 薬物治療学２※ 薬物治療学３※ 薬物治療学４※ 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1通 1後 1前 2後 3前 3後 4前 4後	1 2 0.4 0.6 0.4 0.8 5 6	1 4 2 2 2 2 1 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成10年4月）	
45	兼担	准教授	カトウ　リュウジ 加藤　隆児 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		早期体験学習１ 早期体験学習２ 人体の構造と病態２※ 薬物治療学１※ 薬物治療学２※ 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1通 1後 1前 2前 2後 4前 4後	1 2 0.9 1.6 1 5 6	1 4 2 2 2 1 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成17年4月）	
46	兼担	准教授	ジョウシタ ケンイチ 城下　賢一 ＜令和3年4月＞		修士 (法学)		異文化言語演習１ 異文化言語演習２ 医療と法	3前 3後 3後	2 2 2	2 2 2	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成29年4月）	
47	兼担	准教授	カドタ　カズノリ 門田　和紀 ＜令和3年4月＞		博士 (工学)		物理薬剤学※ 製剤学※ 薬剤学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	3前 3後 3後 4前 4後	2 1 4 5 6	2 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成25年4月）	
48	兼担	准教授	ハセイ　トモヒロ 長谷井　友尋 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		衛生薬学１※ 衛生薬学２※ 衛生薬学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	2後 3前 3後 4前 4後	0.4 0.4 4 5 6	2 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成30年4月）	
49	兼担	講師	フジタケ　ミホヨ 藤嶽　美穂代 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		化学 化学演習 早期体験学習１	1前 1前 1通	1 1 1	1 1 1	大阪薬科大学薬学部講師 （昭和61年4月）	
50	兼担	講師	ヤマグチ　タカコ 山口　敬子 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		早期体験学習２ 人体の構造と病態１※ 薬物治療学１※ 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1後 1前 2前 4前 4後	2 0.2 0.6 5 6	4 2 2 1 1	大阪薬科大学薬学部講師 （平成元年10月）	

教　員　の　氏　名　等

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
51	兼担	講師	カワイ　ヨシコ 河合　悦子 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		薬理学実習	3後	4	4	大阪薬科大学薬学部講師 （昭和63年4月）	
52	兼担	講師	ヒラタ　マサヒコ 平田　雅彦 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		化学 化学演習 放射化学 物理・放射化学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1前 1前 3前 2後 4前 4後	1 1 3 4 5 6	1 1 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部講師 （平成6年4月）	
53	兼担	講師	ヤマオキ　ルミ 山沖　留美 ＜令和3年4月＞		博士 (工学)		化学 化学演習 物理・放射化学実習	1前 1前 2後	1 1 4	1 1 4	大阪薬科大学薬学部講師 （平成3年4月）	
54	兼担	講師	タナベ　クミコ 田邊　久美子 ＜令和3年4月＞		博士 (文学)		英語リスニング１ 英語リスニング２ 英語ライティング１ 英語ライティング２ 異文化言語演習１ 異文化言語演習２	1前 1後 2前 2後 3前 3後	2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2	大阪薬科大学薬学部准教授 （平成29年4月）	
55	兼担	講師	ツチヤ　タカヒロ 土屋　孝弘 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		免疫学 生物学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	3後 2前 4前 4後	3 4 5 6	2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部講師 （平成17年4月）	
56	兼担	講師	ウチダ　マヤコ 内田　まやこ ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		薬物治療学４※	3後	0.4	2	大阪薬科大学薬学部講師 （平成28年4月）	
57	兼担	助教	タケバヤシ　ユミコ 竹林　裕美子 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		薬剤学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	3後 4前 4後	4 5 6	4 1 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成28年4月）	
58	兼担	助教	ハダ　リエ 羽田　理恵 ＜令和3年4月＞		学士 (薬学)		早期体験学習１	1通	1	1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成10年4月）	
59	兼担	助教	タナカ　サトシ 田中　智 ＜令和3年4月＞		博士 (薬科学)		生物学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	2前 4前 4後	4 5 6	4 1 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成23年4月）	
60	兼担	助教	フジイ　トシヒロ 藤井　俊裕 ＜令和3年4月＞		博士 (理学)		生物科学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	3前 4前 4後	4 5 6	4 1 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成28年10月）	
61	兼担	助教	コイケ　アツシ 小池　敦資 ＜令和3年4月＞		博士 (医学)		衛生薬学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	3後 4前 4後	4 5 6	4 1 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成23年8月）	
62	兼担	助教	ヨネヤマ　ヒロキ 米山　弘樹 ＜令和3年4月＞		博士 (薬科学)		基礎有機化学 有機化学１ 有機化学２ 有機化学３ 有機スペクトル解析学 有機化学４ 有機化学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1前 1後 2前 2後 2後 3前 3前 4前 4後	0.2 0.2 0.2 0.2 1 0.6 4 5 6	2 2 2 2 2 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成23年4月）	
63	兼担	助教	キクチ　タカシ 菊地　崇 ＜令和3年4月＞		博士 (工学)		基礎有機化学 有機化学１ 有機化学２ 有機化学３ 有機スペクトル解析学 有機化学４ 基礎有機化学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1前 1後 2前 2後 2後 3前 1後 4前 4後	0.2 0.2 0.2 0.2 1 0.6 4 5 6	2 2 2 2 2 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成23年4月）	
64	兼担	助教	タナカ　マルノ　サオリ 田中（丸野）　早織 ＜令和3年4月＞		博士 (薬科学)		早期体験学習１ 早期体験学習２ 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1通 1後 4前 4後	1 2 5 6	1 4 1 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成23年4月）	
65	兼担	助教	クラタ　リホ 倉田　里穂 ＜令和3年4月＞		博士 (医学)		生物学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	2前 4前 4後	4 5 6	4 1 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成30年4月）	
66	兼担	助教	アズマ　タカシ 東　剛志 ＜令和3年4月＞		博士 (工学)		衛生薬学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	3後 4前 4後	4 5 6	4 1 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成24年4月）	
67	兼担	助教	ウチヤマ　ヒロマサ 内山　博雅 ＜令和3年4月＞		博士 (薬学)		薬剤学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	3後 4前 4後	4 5 6	4 1 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成28年8月）	
68	兼担	助教	ハヤマ　ノボル 葉山　登 ＜令和3年4月＞		博士 (薬科学)		基礎有機化学 有機化学１ 有機化学２ 有機化学３ 有機スペクトル解析学 有機化学４ 有機化学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1前 1後 2前 2後 2後 3前 3前 4前 4後	0.2 0.2 0.2 0.2 1 0.2 4 5 6	2 2 2 2 2 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部助教 （令和2年4月）	
69	兼担	助教	シミズ　フジイ　サキ 清水（藤井）　佐紀 ＜令和3年4月＞		博士 (薬科学)		薬理学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	3後 4前 4後	4 5 6	4 1 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成23年10月）	

教　員　の　氏　名　等

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
70	兼担	助教	ヒラタ　ヨシユキ 平田　佳之 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		基礎有機化学 有機化学１ 有機化学２ 有機化学３ 有機スペクトル解析学 有機化学４ 漢方・生薬学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1前 1後 2前 2後 2後 3前 2後 4前 4後	0.2 0.2 0.2 0.2 1 0.2 2 5 6	2 2 2 2 2 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成26年4月）	
71	兼担	助教	コンドウ　ナオヤ 近藤　直哉 ＜令和3年4月＞		博士 （薬科学）		分析化学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	2前 4前 4後	4 5 6	4 1 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成29年8月）	
72	兼担	助教	マエハラ　ト　ウ　コ 前原　都有子 ＜令和3年4月＞		博士 （獣医学）		生物科学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	3前 4前 4後	4 5 6	4 1 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成30年4月）	
73	兼担	助教	ハヤシジュンスケ 林　淳祐 ＜令和3年4月＞		博士 （薬科学）		基礎有機化学 有機化学１ 有機化学２ 有機化学３ 有機スペクトル解析学 有機化学４ 基礎有機化学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1前 1後 2前 2後 2後 3前 1後 4前 4後	0.2 0.2 0.2 0.2 1 0.2 4 5 6	2 2 2 2 2 2 4 1 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成26年4月）	
74	兼担	助教	カトウ　タクマ 加藤　巧馬 ＜令和3年4月＞		博士 （薬学）		基礎薬学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	1前 4前 4後	2 5 6	4 1 1	大阪薬科大学薬学部助教 （平成29年4月）	
75	兼担	助教	クニサワ　ナオフミ 國澤　直史 ＜令和3年4月＞		博士 （薬学）		薬理学実習 特別演習・実習（前期） 特別演習・実習（後期）	3後 4前 4後	4 5 6	4 1 1	大阪薬科大学薬学部助教 （令和元年6月）	
76	兼担	教授	テラサキ　フミオ 寺﨑　文生 ＜令和3年4月＞		博士 （医学）		医工薬連環科学※	2前	0.4	1	大阪医科大学医学部教授 （平成3年6月）	
77	兼任	講師	クスノセ　タケアキ 楠瀬　健昭 ＜令和3年4月＞		文学士		英語リーディング１ 英語リーディング２ 異文化言語演習１ 異文化言語演習２	1前 1後 3前 3後	2 2 2 2	2 2 2 2	大阪薬科大学教授 （平成3年4月）	
78	兼任	講師	コウザキ　ヨウコ 神前　陽子 ＜令和3年4月＞		教育学 博士		英語リスニング１ 英語リスニング２	1前 1後	2 2	2 2	大阪薬科大学非常勤講師 （平成27年4月）	
79	兼任	講師	Richard Owen Guard ＜令和3年4月＞		M.A.		英語スピーキング１ 英語スピーキング２ 英語ライティング１ 英語ライティング２	2前 2後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 2 2	京都大学非常勤講師 （平成31年4月）	
80	兼任	講師	ナカムラ　メグミ 中村　恵 ＜令和3年4月＞		修士 （文学）		異文化言語演習１ 異文化言語演習２	3前 3後	2 2	2 2	大阪薬科大学非常勤講師 （平成11年4月）	
81	兼任	講師	クラタ　ジュンイチ 倉田　純一 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		医工薬連環科学※	2前	0.6	1	関西大学准教授 （平成19年4月）	
82	兼任	講師	ハヤシタケフミ 林　武文 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		情報科学	1後	1	1	関西大学総合情報学部教授 （平成13年4月）	
83	兼任	講師	チン　ホウ　カミヨシ　マホ 陳　鳳（神吉　真鳳） ＜令和3年4月＞		博士 （現代社会学）		中国語１ 中国語２	1前 1後	2 2	2 2	関西学院大学非常勤講師 （平成30年4月）	
84	兼任	講師	ヌマタ　チエ 沼田　千恵 ＜令和3年4月＞		修士 （哲学）		フランス語１ フランス語２	1前 1後	2 2	2 2	同志社大学嘱託講師 （平成25年4月）	
85	兼任	講師	サトウ　マナミ 佐藤　真奈美 ＜令和3年4月＞		M.S.		英語スピーキング１ 英語スピーキング２	2前 2後	2 2	2 2	ECC外語学院英会話講師 （平成元年3月）	
86	兼任	講師	ハシグチ　マサミ 橋口　雅美 ＜令和3年4月＞		文学士 教育学 （体育）		スポーツ・運動実習１	1前	4	4	大阪薬科大学非常勤講師 （平成17年4月）	
87	兼任	講師	シ　キ　タカヒト 氏木　孝仁 ＜令和3年4月＞		B.A.		英語ライティング１ 英語ライティング２	2前 2後	2 2	2 2	神戸市外国語大学非常勤講師 （平成16年4月）	
88	兼任	講師	イトウ　シンヤ 伊藤　信也 ＜令和3年4月＞		博士 （文学）		異文化言語演習１ 異文化言語演習２	3前 3後	2 2	2 2	大阪薬科大学非常勤講師 （平成17年4月）	
89	兼任	講師	フジモト　コウジ 藤本　幸治 ＜令和3年4月＞		文学 修士		英語リーディング１ 英語リーディング２ 異文化言語演習１ 異文化言語演習２	1前 1後 3前 3後	2 2 2 2	2 2 2 2	京都外国語大学教授 （平成16年4月）	
90	兼任	講師	タケイ　ノリコ 武井　紀子 ＜令和3年4月＞		修士 （言語文化学）		英語リスニング１ 英語リスニング２	1前 1後	2 2	2 2	桃山学院大学非常勤講師 （平成23年4月）	
91	兼任	講師	イ　ウンスク 李　銀淑 ＜令和3年4月＞		修士 （言語文化学）		ハングル１ ハングル２	1前 1後	2 2	2 2	大阪韓国語教育院院長 （平成20年1月）	
92	兼任	講師	マスヤ　ケイイチ 桝矢　桂一 ＜令和3年4月＞		博士 （人間・環境学）		異文化言語演習１ 異文化言語演習２	3前 3後	2 2	2 2	大阪薬科大学非常勤講師 （平成11年4月）	
93	兼任	講師	イノウエ　ミチコ 井上　径子 ＜令和3年4月＞		修士 （文学）		英語リーディング１ 英語リーディング２	1前 1後	2 2	2 2	滋賀短期大学非常勤講師 （平成22年4月）	
94	兼任	講師	ナカモト　ゴウジ 中本　剛二 ＜令和3年4月＞		博士 （文学）		文化人類学（教養） 異文化言語演習１	1・2後 3前	1 2	1 2	大阪樟蔭女子大学非常勤講師 （平成19年4月）	
95	兼任	講師	ツル　シンイチ 鶴　真一 ＜令和3年4月＞		博士 （文学）		人間と宗教（教養） 異文化言語演習２	1・2後 3後	1 2	1 2	京都大学非常勤講師 （平成22年4月）	
96	兼任	講師	シャ　セイトク 謝　政徳 ＜令和3年4月＞		博士 （法学）		法と社会（教養）	1・2前	1	1	京都精華大学非常勤講師 （平成26年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（大阪医科大学　薬学部薬科学科（学生募集停止中））

調書番号	専任等区　分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月　額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
97	兼任	講師	カワノ　コウジ 河野　康治 ＜令和3年4月＞		修士(人間・環境学)		地球環境論（教養）	1・2前	1	1	大阪商業大学非常勤講師（平成27年10月）	
98	兼任	講師	カワバタ　ヤスオ 川端　康雄 ＜令和3年4月＞		修士(学術)		心理社会	2後	3	2	大阪医科大学神経精神医学教室臨床心理士（平成20年4月）	
99	兼任	講師	ドイ　マリコ 土井　麻里子 ＜令和3年4月＞		博士(医学)		情報科学	1後	1	1	国立保健医療科学院政策技術評価研究部主任研究官（平成30年4月）	
100	兼任	講師	シモカワ　トシオ 下川　敏雄 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		情報科学	1後	1	1	和歌山県立医科大学臨床研究センター教授（平成28年7月）	
101	兼任	講師	ホリ　トモコ 堀　明子 ＜令和3年4月＞		修士(言語文化学)		英語ライティング１ 英語ライティング２	2前 2後	2 2	2 2	大阪大学非常勤講師（平成20年4月）	
102	兼任	講師	ミヤタ　マキ 宮田　真希 ＜令和3年4月＞		学士(体育学)		スポーツ・運動実習１	1前	4	4	ピラティス＆フィットネススタジオPersonalspace「m's den」代表（平成30年10月）	
103	兼任	講師	モンカワ　ヒロミ 門川　裕美 ＜令和3年4月＞		学士(体育学)		スポーツ・運動実習１	1前	4	4	大阪薬科大学非常勤講師（平成18年4月）	
104	兼任	講師	マツモト　ショウコ 松本　承子 ＜令和3年4月＞		博士(言語社会学)		文学の世界（教養）	1・2前	1	1	神戸市外国語大学非常勤講師（平成29年4月）	
105	兼任	講師	キムラ　ジュン 木村　純 ＜令和3年4月＞		修士(人間・環境学)		異文化言語演習１ 異文化言語演習２	3前 3後	2 2	2 2	立命館大学産業社会学部授業担当講師（平成30年9月）	
106	兼任	講師	キタムラ　サトシ 北村　知史 ＜令和3年4月＞		修士(アメリカ研究)		政治と社会（教養）	1・2前	1	1	関西外国語大学非常勤講師（平成28年4月）	
107	兼任	講師	Duncan　Brotherton ＜令和3年4月＞		B．A．		英語スピーキング１ 英語スピーキング２	2前 2後	2 2	2 2	奈良芸術短期大学講師（平成28年4月）	
108	兼任	講師	オオガミ　ユウイチロウ 大神　雄一郎 ＜令和3年4月＞		博士(言語文化学)		英語リーディング１ 英語リーディング２	1前 1後	2 2	2 2	大阪大学大学院言語文化研究科助教（平成30年4月）	
109	兼任	講師	ゼニヒロ　ショウヘイ 銭廣　承平 ＜令和3年4月＞		修士(人間・環境学)		社会分析の基礎（教養）	1・2前	1	1	椙山女学園大学非常勤講師（平成25年9月）	
110	兼任	講師	マスギ　ユリ 眞杉　侑里 ＜令和3年4月＞		博士(人文学)		歴史と社会（教養）	1・2前	1	1	立命館大学授業担当講師（平成30年4月）	
111	兼任	講師	タニオカ　ケンスケ 谷岡　健資 ＜令和3年4月＞		博士(文化情報学)		情報科学	1後	1	1	和歌山県立医科大学附属病院臨床研究センター助教（平成28年4月）	
112	兼任	講師	ベ　ジュンソブ ＜令和3年4月＞		修士(政治学)		経済の世界（教養）	1・2前	1	1	大阪薬科大学非常勤講師（平成31年4月）	
113	兼任	講師	ナカタ　ユウキ 中田　友貴 ＜令和3年4月＞		修士(文学)		基礎心理学（教養）	1・2前	1	1	京都女子大学非常勤講師（平成29年9月）	

（注）
1　教員の数に応じ，適宜枠を増やして記入すること。
2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は，この書類を作成する必要はない。
3　「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は，専任教員のみ記載すること。

別記様式第３号（その３）

専任教員の年齢構成・学位保有状況（薬学部薬学科）

職　位	学　位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合　計	備　考
教　授	博　士	0人	0人	1人	10人	5人	5人	2人	23人	
	修　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学　士	0人	0人	0人	0人	0人	1人	2人	3人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
准教授	博　士	0人	0人	2人	10人	4人	3人	0人	19人	
	修　士	0人	0人	0人	1人	0人	1人	0人	2人	
	学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
講　師	博　士	0人	0人	0人	4人	4人	0人	0人	8人	
	修　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
助　教	博　士	0人	5人	14人	1人	0人	0人	0人	20人	
	修　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学　士	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
合　計	博　士	0人	5人	16人	25人	13人	8人	2人	70人	
	修　士	0人	0人	0人	1人	0人	1人	0人	2人	
	学　士	0人	0人	0人	1人	0人	1人	2人	4人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
4　専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。

別記様式第３号（その３）

専任教員の年齢構成・学位保有状況（薬学部薬科学科）

職　位	学　位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合　計	備　考
教　授	博　士	0人	0人	0人	0人	0人	3人	1人	4人	
	修　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
准教授	博　士	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	1人	
	修　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
講　師	博　士	0人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	2人	
	修　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
助　教	博　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	修　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
合　計	博　士	0人	0人	0人	1人	2人	3人	1人	7人	
	修　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
4　専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。